授業科目名	**教職論（初等）【2019入学生】**				
担当教員名	**加藤博之・阿部直美**				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	加藤：大阪市立小学校教諭（17年）、校長（８年）、大阪市教育委員会事務局（13年）の勤務経験（全12回） 阿部：幼稚園にて幼稚園教諭(20年)の勤務経験（全3回）				

授業概要

「教育は人なり」と言われるように、学校教育における教育効果は、教師の力量、いわゆる資質能力に負うところが大きい。本講義では、教職の意義や役割、現在の学校が抱える様々な課題を考察することを通して、教師の職責や職務内容、求められる資質能力について考え、自らの教師像を確立することで、進路選択に向けての情熱と使命感をもって臨めるようにする。また、本科目が保育士資格取得のための必修科目であることも考慮し、子どもに関わる「保育者」の職務やあり方等についても、小学校教師と比較しつつ、考察を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	教職･保育専門職とは何かについて学び、教師･保育者の使命や職責について考えていく。	自己の理想とする教師･保育者像を確立する。

汎用的な力

1 ．DP9.役割理解・連携行動	教職のあり方や、教職に求められる資質能力について確かなものにする。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
シャトルシート、授業の確認シート 50%	：	講義内容の理解やまとめの確認であるとともに、「現代における教職･保育専門職に対する具体的なイメージを持てているか」「講義内容を理解して、自分の意見をしっかり持てているか」という観点から評価します。
振り返りテスト（授業内試験） 50%	：	講義内容を踏まえて、教職･保育専門職に関する基礎的理解があり、キャリアデザインができているかという視点でテスト（論述、短答など）を行います。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『教職論第2版』教職問題研究会編　ミネルヴァ書房　2010年
『新しい時代の教職入門』（改訂版）秋田喜代美・佐藤学編著　有斐閣アルマ　2016年
『今に生きる保育者論』　秋田喜代美　西山薫　　みらい　2016年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に周知します。
場所：　初回授業時に周知します。
備考・注意事項：　授業外での質問方法：初回授業時に周知します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション一本授業の目標、内容、授業の進め方、評価、及び教職の意義　（担当：加藤博之）** 教職、いわゆる職業としての教師について考察します。 キーワード：教職	自分の考えている教職に対する考え方をまとめておく。	4時間
第2回	**教師に求められる資質能力①―教師像の変遷からの考察　（担当：加藤博之）** 求められる教師の資質能力について考え、自分が良い教師になるために身に着けておくべき資質能力を考察します。 キーワード：教員の資質能力（いつの時代にも求められるもの）	自己の教師としての資質能力について、求められるものは何かについて整理する。	4時間
第3回	**教師に求められる資質能力②―中教審答申等からの考察　（担当：加藤博之）** 前回の講義から引き続き、求められる教師の資質能力について考え、自分が良い教師になるために身に着けておくべき資質能力を考察します。 キーワード：教員の資質能力（今後特に求められるもの）	自己の教師としての資質能力について、求められるものは何かについて考える。	4時間
第4回	**教師の専門性と仕事の内容　（担当：加藤博之）**	教科指導は勿論のこと、校務分掌なども含めた教師の具体的な仕事内容についてまとめる。	4時間

	専門職としての教師の職務について、具体的な仕事の内容から考察します。 キーワード：教師の専門性		
第5回	**学校組織と教員の社会　（担当：加藤博之）** 学校経営の実際について、どのような仕組で行われているか。そして教師の社会について考察します。 キーワード：学校組織、学校文化	前回の講義で取り上げた具体的な仕事内容と関連付けて、組織としての取り組みと教員の関わり方を学校文化の視点でまとめる。	4時間
第6回	**学校や教師に関する法律―懲戒と体罰を中心にして　（担当：加藤博之）** 懲戒と体罰の違いについて法律の面から理解し、具体例を挙げて考察します。 キーワード：事例研究	具体的な体罰の事例を収集し、まとめる。	4時間
第7回	**教科指導と教師①―教科指導の基本について　（担当：加藤博之）** 「教師は授業で勝負」と言われるように、教科指導は「児童の教育をつかさどる」ことの中心であることを踏まえて、教科指導のポイントについて考察します。 キーワード：教科指導	教科指導は「児童の教育をつかさどる」ことの中心であることの意味を講義を基にまとめる。	4時間
第8回	**教科指導と教師②―「特別な教科 道徳」を中心に　（担当：加藤博之）** 前回の講義内容を基に、特に「特別な教科 道徳」について教科指導のポイントを考察します。 キーワード：特別な教科 道徳	新たに教科化された「特別な教科 道徳」の指導がどうあるべきか考える。	4時間
第9回	**学級経営と生活指導―いじめ問題への取り組み　（担当：加藤博之）** 大きな問題となっている学校教育におけるいじめの現状について考え、いじめを許さない教師を目指します。 キーワード：いじめ	いじめの現状を把握するとともに、教師の取り組みとしていじめを生まないための方策を考える。	4時間
第10回	**現代の教育問題について　（担当：加藤博之）** 学校教育における様々な教育課題について理解し、教師としてどう向き合うべきかについて考察します。 キーワード：教育課題	現代社会において、どのような教育問題が存在し、どう対処すべきかを考える。。	4時間
第11回	**変わりゆく社会の中で、今後求められる教師の役割について（担当：加藤博之）** 過去から現在までの教師の役割の移り変わりを振り返るとともに、教育改革が進む中、１０年後や２０年後の社会を見据えた時、教師の役割がどのように移り変わるのかについて考察します。 キーワード：教育改革	大きな改革の波にさらされている教育界の現状を考えておく。	4時間
第12回	**保育者の役割と倫理（担当：阿部直美）** 求められる保育者の役割について学び、身につけたい資質能力を考えます。また、全国保育士会倫理綱領等を通して、保育者の倫理について理解します。 キーワード：保育者の資質能力、保育者の倫理	全国保育士会倫理綱領を通読する。	4時間
第13回	**保育者の専門性（担当：阿部直美）** 具体的な事例を通して、保育者の仕事とは、保育とは何かを学び、保育者の専門性について考えます。 キーワード：保育者の専門性	保育者の仕事内容を振り返り、保育者の専門性についてまとめる。	4時間
第14回	**保育者の資質向上とキャリア形成（担当：阿部直美）** 保育の質の向上、保育者の専門性の向上に関し、その目指すものと意義について学び、専門職としての保育者に求められるキャリア形成について考えます。 キーワード：保育者の資質向上、キャリア形成	3回の授業内容の学びを確認し、保育者にとって大切なものについて、意見や自らの課題をまとめる。	4時間
第15回	**評価（振り返りテスト）と総括　（担当：加藤博之）** 自己の目指すべき教師･保育者像をまとめるとともに、今後、教師･保育者としてどうあるべきか確かなものにします。 キーワード：教師像、保育者像	これまでの講義内容を振り返り、まとめておくこと。また、教師･保育者を目指す意志を明確に保てるように、自己の教師･保育者像を考える。	4時間

授業科目名	**教職論（初等）／教職論【～2018年入学生】**				
担当教員名	**加藤博之・阿部直美**				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	加藤：大阪市立小学校教諭（17年）、校長（８年）、大阪市教育委員会事務局（13年）の勤務経験（全15回） 阿部：幼稚園にて幼稚園教諭(20年)の勤務経験（全3回）				

授業概要

「教育は人なり」と言われるように、学校教育における教育効果は、教師の力量、いわゆる資質能力に負うところが大きい。本講義では、教職の意義や役割、現在の学校が抱える様々な課題を考察することを通して、教師の職責や職務内容、求められる資質能力について考え、自らの教師像を確立することで、進路選択に向けての情熱と使命感をもって臨めるようにする。また、本科目が保育士資格取得のための必修科目であることも考慮し、子どもに関わる「保育者」の職務やあり方等についても、小学校教師と比較しつつ、考察を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	教職･保育専門職とは何かについて学び、教師･保育者の使命や職責について考えていく。	自己の理想とする教師･保育者像を確立する。

汎用的な力

1 ．DP9.役割理解・連携行動	教職のあり方や、教職に求められる資質能力について確かなものにする。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
シャトルシート、授業の確認シート 50%	：	講義内容の理解やまとめの確認であるとともに、「現代における教職･保育専門職に対する具体的なイメージを持てているか」「講義内容を理解して、自分の意見をしっかり持てているか」という観点から評価します。
振り返りテスト（授業内試験） 50%	：	講義内容を踏まえて、教職･保育専門職に関する基礎的理解があり、キャリアデザインができているかという視点でテスト（論述、短答など）を行います。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『教職論第2版』教職問題研究会編　ミネルヴァ書房　2010年
『新しい時代の教職入門』（改訂版）秋田喜代美・佐藤学編著　有斐閣アルマ　2016年
『今に生きる保育者論』　秋田喜代美　西山薫　　みらい　2016年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に周知します。
場所：　初回授業時に周知します。
備考・注意事項：　授業外での質問方法：初回授業時に周知します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション一本授業の目標、内容、授業の進め方、評価、及び教職の意義　（担当：加藤博之）** 教職、いわゆる職業としての教師について考察します。 キーワード：教職	自分の考えている教職に対する考え方をまとめておく。	4時間
第2回	**教師に求められる資質能力①―教師像の変遷からの考察　（担当：加藤博之）** 求められる教師の資質能力について考え、自分が良い教師になるために身に着けておくべき資質能力を考察します。 キーワード：教員の資質能力（いつの時代にも求められるもの）	自己の教師としての資質能力について、求められるものは何かについて整理する。	4時間
第3回	**教師に求められる資質能力②―中教審答申等からの考察　（担当：加藤博之）** 前回の講義から引き続き、求められる教師の資質能力について考え、自分が良い教師になるために身に着けておくべき資質能力を考察します。 キーワード：教員の資質能力（今後特に求められるもの）	自己の教師としての資質能力について、求められるものは何かについて考える。	4時間
第4回	**教師の専門性と仕事の内容　（担当：加藤博之）**	教科指導は勿論のこと、校務分掌なども含めた教師の具体的な仕事内容についてまとめる。	4時間

	専門職としての教師の職務について、具体的な仕事の内容から考察します。 キーワード：教師の専門性		
第5回	**学校組織と教員の社会　（担当：加藤博之）** 学校経営の実際について、どのような仕組で行われているか。そして教師の社会について考察します。 キーワード：学校組織、学校文化	前回の講義で取り上げた具体的な仕事内容と関連付けて、組織としての取り組みと教員の関わり方を学校文化の視点でまとめる。	4時間
第6回	**学校や教師に関する法律―懲戒と体罰を中心にして　（担当：加藤博之）** 懲戒と体罰の違いについて法律の面から理解し、具体例を挙げて考察します。 キーワード：事例研究	具体的な体罰の事例を収集し、まとめる。	4時間
第7回	**教科指導と教師①―教科指導の基本について　（担当：加藤博之）** 「教師は授業で勝負」と言われるように、教科指導は「児童の教育をつかさどる」ことの中心であることを踏まえて、教科指導のポイントについて考察します。 キーワード：教科指導	教科指導は「児童の教育をつかさどる」ことの中心であることの意味を講義を基にまとめる。	4時間
第8回	**教科指導と教師②―「特別な教科 道徳」を中心に　（担当：加藤博之）** 前回の講義内容を基に、特に「特別な教科 道徳」について教科指導のポイントを考察します。 キーワード：特別な教科 道徳	新たに教科化された「特別な教科 道徳」の指導がどうあるべきか考える。	4時間
第9回	**学級経営と生活指導―いじめ問題への取り組み　（担当：加藤博之）** 大きな問題となっている学校教育におけるいじめの現状について考え、いじめを許さない教師を目指します。 キーワード：いじめ	いじめの現状を把握するとともに、教師の取り組みとしていじめを生まないための方策を考える。	4時間
第10回	**現代の教育問題について　（担当：加藤博之）** 学校教育における様々な教育課題について理解し、教師としてどう向き合うべきかについて考察します。 キーワード：教育課題	現代社会において、どのような教育問題が存在し、どう対処すべきかを考える。。	4時間
第11回	**変わりゆく社会の中で、今後求められる教師の役割について（担当：加藤博之）** 過去から現在までの教師の役割の移り変わりを振り返るとともに、教育改革が進む中、１０年後や２０年後の社会を見据えた時、教師の役割がどのように移り変わるのかについて考察します。 キーワード：教育改革	大きな改革の波にさらされている教育界の現状を考えておく。	4時間
第12回	**保育者の役割と倫理（担当：阿部直美）** 求められる保育者の役割について学び、身につけたい資質能力を考えます。また、全国保育士会倫理綱領等を通して、保育者の倫理について理解します。 キーワード：保育者の資質能力、保育者の倫理	全国保育士会倫理綱領を通読する。	4時間
第13回	**保育者の専門性（担当：阿部直美）** 具体的な事例を通して、保育者の仕事とは、保育とは何かを学び、保育者の専門性について考えます。 キーワード：保育者の専門性	保育者の仕事内容を振り返り、保育者の専門性についてまとめる。	4時間
第14回	**保育者の資質向上とキャリア形成（担当：阿部直美）** 保育の質の向上、保育者の専門性の向上に関し、その目指すものと意義について学び、専門職としての保育者に求められるキャリア形成について考えます。 キーワード：保育者の資質向上、キャリア形成	3回の授業内容の学びを確認し、保育者にとって大切なものについて、意見や自らの課題をまとめる。	4時間
第15回	**評価（振り返りテスト）と総括　（担当：加藤博之）** 自己の目指すべき教師･保育者像をまとめるとともに、今後、教師･保育者としてどうあるべきか確かなものにします。 キーワード：教師像、保育者像	これまでの講義内容を振り返り、まとめておくこと。また、教師･保育者を目指す意志を明確に保てるように、自己の教師･保育者像を考える。	4時間

1

授業科目名	教育学（初等）／教育学【～2018年入学生】				
担当教員名	徳永正直				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

無力な赤ん坊が「大人」としての人間になるためには「教育」が不可欠だとされるが、それでは「教育とは何か？」この問いに答えるために、さまざまな教育思想（ルソーやヘルバルトなど）の理解を通じて「教育の理念」を検討する。また、乳幼児期の「しつけ」のあり方について、教育手段としての賞罰問題や児童虐待の問題と関連づけて検討する。子どもの権利が確立されるまでの歴史を踏まえながら、子どもの発達を保障するための教育のあり方や教育の根本問題（二律背反）に関する理解を深めたい。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	生涯にわたる人間形成に関わる原理的基礎を理解する。	人間形成の営みに携わる者としての基本的素養を身につけることができる。
2 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	教育の思想と歴史的変遷について理解するとともに、教育をめぐる状況、教育制度等に関する基礎的な教養を身につける。	教育に関する基礎的な理論について具体的にとらえた上で教育をめぐる現代的状況を的確にとらえることができる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		人間形成に関わる今日的課題を見出すことができる。
2 ．DP8.意思疎通		他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価は次の３つの観点からの総合評価が６０％以上を合格とする。
①教育の原理的基礎の理解
②教育の歴史をふまえた教育の意義・目的の理解
③子どもの現状の理解と教育的諸問題への適切な対応

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中の課題達成度	45%	： 指定された授業回での予習レポート及び毎回の授業終了時に行う小レポートの内容（理解度など）をもとに評価する。
レポート	50%	： 教育の基礎的理解にかかわる教育思想・教育の理念に関し、各自が興味を持ったテーマについてレポートを作成し、理解度などをもとに評価する。
授業への参加度	5%	： 教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

徳永正直・竹中暉雄・宮野安治・中山征一『時代と向き合う教育学（改訂版）』（ナカニシヤ出版、2003年）
徳永正直『教育的タクト論ー実践的教育学の鍵概念』（ナカニシヤ出版、2004年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 後日連絡します。

場所： 徳永研究室

備考・注意事項： 授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス
tokunaga-m@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「教育学：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション―具体的な教育問題を手がかりに考える。** 教育に関する具体的な問題を学問的に考えることの大切さを認識する。 大阪府立S高校で起きた体罰事件に含まれる教育学的問題について考える。 ①この事件を惹き起した教員の問題点（不適格教員と指導力不足教員の違いを明確にする。） ②教員に対する懲戒処分と関連する法律 ③教員の懲戒権を考える。学校教育法第11条の趣旨	授業内容の要約（キーワード：教員の懲戒権）と次回授業の資料を読む。	4時間

第2回	**教育手段としての「賞罰」を考える。ー体罰と児童虐待** ①賞罰の定義と賞罰を多用する教育の危険性 ②体罰問題を歴史的に考える。 ③家庭での「しつけ」としての体罰と身体的虐待 ④体罰肯定論と体罰否定論でディスカッション ⑤教育は調教ではない。 ⑥望ましい罰のあり方を検討する。	授業内容の要約と授業で取り上げなかった体罰事件を調べ、それに対する意見をまとめる。	4時間
第3回	**「教育」の重要性と危険性（１）ー人の育ち** 人間にとっての教育の必要性と重要性の根拠を明らかにする。 ①野生児研究「狼に育てられた子」の嘘 ②ポルトマンの人間学「人間は一年早産の動物である。」 ③赤ん坊の不思議な能力と母子関係の特質ー「赤ちゃん学」の成果に学ぶ。 ④適切な呼応関係の大切さ	赤ちゃん学に関連する著書を読むこと。	4時間
第4回	**「教育」の重要性と危険性（２）ー教育と思想** 教育は人間形成にとって不可欠な営みであるが、しかし同時に教育には思想統制・思考方法の統制・感性の統制につながる側面があることを確認する。 太平洋戦争以前の「教育勅語」体制の教育の問題点を明らかにしつつ、戦後の「教育基本法」体制の教育の意義について解説する。	授業内容を要約（キーワード：教育勅語と教育基本法）する。	4時間
第5回	**近代教育制度の成立と展開ー学校の役割と学校教育をめぐる諸問題** 学校の役割を歴史的に検証しながら、とりわけ明治期以後の学校教育の変遷について解説する。 また、近年、学校ではさまざまな問題（不登校・学級崩壊・いじめ自殺・教員の過労死など）が発生しているが、問題解決に向けた家庭・地域・行政の協力関係について紹介する。	子どもの問題行動解決に向けた学校での取り組みについて調べてレポートにまとめる。	4時間
第6回	**子どもの問題行動の変遷（1980年代以後）と学校教育ー管理主義教育の弊害** 「いじめ・自殺」問題への社会的注目とその背景にあった管理主義教育の問題点を、子どもの権利条約を踏まえて明らかにする。あわせて、不合理な校則について考える。 子どもの権利条約の背景にコルチャックの思想があることを確認する。また、学校での事故等などへの対応にも触れる。	子どもの権利条約の画期的な意義についてまとめる。	4時間
第7回	**アリス・ミラーの反教育学ー闇教育と光の教育** 「教育」や「しつけ」の美名の下に子どもを虐待してはならないというアリス・ミラーの子ども解放思想について解説し、彼女の思想の意義と問題点を考えながら、本来の教育のあり方を検討する。 幼少期に虐待されて心にトラウマを刻印された子どもの発達上の問題についても解説する。	アリス・ミラーの著作の指定箇所を読み、それに対する各自のコメントを作成する。	4時間
第8回	**ルソーの教育思想ー「子どもの発見者」** 教育の歴史上「子どもの発見者」として高く評価されるルソーの教育思想を解説する。 ①西欧における子ども観の変遷ー親子関係の歴史的変遷をたどる。 ②ルソーの生涯 ③『エミール』（1762年）における消極教育、現在主義、子どもの発達に忠実な教育の立場をとるルソー ④ルソーの教育思想の問題点	授業内容（キーワード：消極教育、現在主義など）を要約する。	4時間
第9回	**ヘルバルトの教育思想ー学問としての教育学の確立者** ルソーの子ども観を徹底的に批判したヘルバルトの教育思想を解説する。「堅固な道徳的性格」を意図的計画的に作り上げるヘルバルトの教育思想を理解する。 ①ヘルバルトの生涯 ②家庭教師時代の体験と教育思想への影響 ③「堅固な道徳的性格」とは何か ④「管理」「教育的教授」「訓育」の体系性	授業内容を要約する。	4時間
第10回	**教育の根本問題ー教育に関する二律背反** ルソーとヘルバルトの教育思想が何故決定的に対立するのかを理解すれば、教育の難しさを理解する手がかりになる。どのように対立するのかを話し合う。そして、教育をめぐる解決困難な対立について解説する。 ①指導か放任か ②子ども中心主義か教師中心の教育か ③子どもの自然な発達に忠実な教育か発達を意図的に早める教育か ④理想的な教育か現実的な教育か デューイとブルナーの思想とも関連づける。	授業内容を要約しておく。	4時間
第11回	**ボルノーの教育思想ー教育の非連続的形式** 陶冶可能性を前提とする伝統的な教育とは次元の異なる「教育の非連続的形式」として「覚醒」や「出会い」や「危機」の人間形成にとっての意義を解明したボルノーの思想を解説する。 自分自身にとっての「覚醒」や「出会い」や「危機」の体験について話し合う。 人間学的教育学の立場を確立したボルノーの思考方法に学ぶ。	人間学的教育学について調べてレポートする。	4時間
第12回	**環境問題と環境教育ー現代社会における焦眉の教育課題** 地球温暖化に象徴される地球環境問題の解決は人類に課せられた焦眉の課題であるが、日本における「公害」問題から始まる環境教育の取り組みを歴史的に考察する。 経済発展と環境保護との両立を図る「持続可能な開発」を担保するための取り組みについて、環境倫理学に関連づけながら解説する。	環境教育の取り組みについて各自調べてレポートする。	4時間
第13回	**ライフサイクル（人生周期）と発達課題ー通過儀礼の意義** 誕生から死に至る人間の生涯をいくつかの段階に区分して捉えるライフサイクルの考え方との関連で、各段階における発達課題について解説する。その際に乳幼児期から就学期への移行と青年期から成人期への移行の際に行われる通過儀礼の意義を考える。 また、大人と子どもの違いを確認し、主権者教育について話し合う。	さまざまな世界の成人式について調べて報告する。	4時間
第14回	**「良い教師」（保育者）の条件（１）ー教師の使命と責任** 教師に対する社会的批判が強くなっているが、そもそも教師の使命と責任はどうあるべきか。 ①各自が出会った優れた教師や指導者について話し合う。 ②良い教師（保育者）の条件 子どもの適切な理解、子どもを愛するということ、適切な指導の本質について考える。	教育愛と子ども理解に関する参考文献を読む。	4時間
第15回	**「良い教師」（保育者）の条件（２）ー教師の専門性と教育的タクト** 教師という仕事の困難さを理解するとともに、教育者に求められる専門的能力のひとつとされるタクトのさまざまな働きについて紹介する。	教育的タクトのさまざまな働きについてレポートにまとめる。	4時間

1

授業科目名	教育学（初等）／教育学【～2018年入学生】				
担当教員名	川島裕子				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、さまざまな教育思想、教育に関する基本的概念や歴史について概観するとともに、それらを具体的な教育実践や個人的な体験と関連づけながら教育学の基礎を学ぶ授業です。授業内容は、例えば、古代から近代、ポストモダンの教育思想、近代学校の成立や学習論、子どもや教師の捉え方、教育改革に付随する教育言説、体罰やいじめなどの教育問題、さらに教育での多様性や共生という課題などについて扱います。これらを通し、個人または協働で、未来の教育実践に向けて具体的なアクションを起こしていくためのビジョンを構築します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	教育学についての知識	講義や書籍、インターネットの情報をもとに、教育学の基礎的な思想や概念、歴史および現代社会における教育課題について理解できる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育学の専門的知識の実践への応用力	教育学の専門的知識を自分の中で咀嚼し、教育課題に対する対応を想像するとともに、具体的な教育実践を立ち上げることができる。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	教育学の専門的知識や批判的思考、分析力を応用し、教育的課題を発見・検討することができる。
2 ．DP5.計画・立案力	教育学の専門的知識や発想力を駆使しながら、課題に向けた取組みを計画・立案することができる。
3 ．DP7.完遂	計画・立案した課題への取組みを、その表現方法を考えたうえで遂行することができる。
4 ．DP8.意思疎通	ペアワークやグループワークに取組むにあたり、他者と対話しながら相互に意思疎通をはかり進めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席してしてください。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価は「不可」となります。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
グループ発表	30%	： グループ発表を、教育学の専門的知識の理解、具体的教育実践の想像、教育的課題の発見・検討、表現方法、参加態度、ふりかえりレポートでの考察について評価する。
個人発表	30%	： 個人発表を、教育学の専門的知識の理解、教育的課題の発見・検討、教育学的課題と自分の教育体験との関連づけ、表現方法、参加態度、ふりかえりレポートでの考察について評価する。
ふりかえり	20%	： ユニットごとに提出するふりかえりシートを、課題発表及び授業での学びの内容について深く考察できているかという点から評価する。
最終レポート	20%	： 最終レポートを、教育学の思想や概念を統合し、具体的な教育実践と接続させながら自分で実施してみたい教育実践のあり方を描写し説明できているかという点について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教育学入門（藤田英典、田中孝彦、寺崎弘昭、岩波書店、1997）
教育言説の歴史社会学（広田照幸、名古屋大学出版会、2001）
シティズンシップの教育思想（小玉重夫、白澤社、2003）
学びの快楽（佐藤学、世織書房、1999）
よくわかる教育学原論（安彦忠彦、児島邦宏、藤井千春、田中博之、ミネルヴァ書房、2012）
また、授業中に適宜参考資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は２単位の科目であるため、全体で６０時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」では、ユニットごとに最終課題に向けた準備を行います。十分に準備をしたうえで授業へ参加して下さい。本授業では、新しい考えや挑戦的な取組みを歓迎します。授業での議論や活動においては、さまざまな価値観を持つ他者を尊重しその多様性を認めたうえで、積極的かつ思慮深く参加して下さい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜　4限
場所： 研究室

備考・注意事項： 具体的な質問方法については、初回授業時に周知します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、教育思想①—領域のマッピング** オリエンテーションを通して、授業の目的、進め方、課題、参加の仕方等について理解する。他の受講生や講師と出会う。教育思想の観点や人物について、領域の全体像を把握する。ユニット１「教育思想」に関する課題を理解する。	特に気になり、喚起される教育思想あるいは思想家を選ぶ。情報検索を行い、その人物や教育思想について調べる。	4時間
第2回	**教育思想②—講義** 講義を通し、古代から近代、ポストモダンの教育思想（ソクラテス、コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルト、デューイ、シュタイナー、フレイレなど）の基本的考えを知る。課題で選択した人物やテーマ、アイディアをもとに、発表に向けたグループ分けを行う。	グループ発表に向けた情報収集を行う。選択した教育思想および人物の学問的背景や個人的背景などについて文献を読み込み掘り下げる。シナリオとアイディアを考える。	4時間
第3回	**教育思想③—発表準備（企画・考察）** グループ活動を通して、特定の教育思想にもとづいた具体的な教育実践のあり方をパフォーマンスによって描く準備を行う。グループで扱うアイディアとその描き方を選択し、表現方法を考えながらシナリオを作る。また、教育思想がどのように具体的実践として体現されるのか、どのように現代を生きる自分たちに示唆を与えるのかについて考察するための手立てを学ぶ。	グループでパフォーマンスの練習をする。シナリオ、言及する教育思想、教育思想と実践との関連、グループ活動の様子などについてふりかえりレポートを作成する。	6時間
第4回	**教育思想④—発表とリフレクション** パフォーマンス発表を行う。パフォーマンスの内容、言及した教育思想、教育思想と実践との関係性および表現方法についてふりかえりを行う。ふりかえりレポートを提出する。	自分の発表や他のグループ発表について、ふりかえりシートを作成する。ユニット２「教育体験の語り」の課題として、自分の教育体験の中で特に印象に残っている出来事について語るための準備をする。	4時間
第5回	**教育体験の語り①ー教育体験を語る** 自分の教育体験のなかで印象に残っている出来事を物語として語り、他者と共有する。ペアワーク、グループワークを通して語りを練り上げていく。語りとは何か、またその意味について学ぶ。	授業での活動をふまえて、自分の語りを深める。	2時間
第6回	**教育体験の語り②ー語りのふりかえり** 前回語った自分の語りについて、自分の考えや気持ち、その場面にいる他者や出来事の背景、また教育学の概念や現代の教育課題との関連などを探りながら、語りを掘り下げる。教育学における語りの意味について学ぶ。語り直しに向けた課題の内容を理解する。	関連のある教育学の概念や現代の教育課題について調べ、授業での活動をふまえて自分の語りを深める。	2時間
第7回	**教育体験の語り③ー講義１（学校教育、学校外教育）** 教育の基本的概念や歴史的文脈について、学校教育（近代学校の成立や脱学校論など）と学校外教育をテーマに講義を通して学ぶ。教育学の専門的知見と自分の体験との関連を考察する。	教育の基本的概念や歴史的文脈との関係の中で自分の教育体験を相対化し、多角的に理解する。講義で学んだ教育学的視座のもと自身の教育体験を語り直すための準備を行う。	2時間
第8回	**教育体験の語り④ー講義２（学び、子ども、教師）** 教育の基本的概念や歴史的文脈について、特に学び（「学習」と「学び」の違いおよび乳幼児期の教育の特性など）、子ども（「子どもの発見」から子ども観の変容および子ども家庭福祉など）、教師（教師の捉え方や「生徒—教師の関係性」など）をテーマに講義を通して学ぶ。講義で学んだ教育学の専門的知見と自分の体験との関連を考察する。	教育の基本的概念や歴史的文脈との関係の中で自分の教育体験を相対化し、多角的に理解する。教育学的視座のもと自分の教育体験を語り直すため、構想や語り口について考察し、発表の準備を行う。	2時間
第9回	**教育体験の語り⑤ー教育体験の語り直しとリフレクション** 自分の体験について、これまでのワークおよび考察を踏まえて語り直す。教育学的視座がどのように個人的経験の理解を促すのかを探求する。	自分の語りの変容や他者の語りについて、ふりかえりシートに記入する。	2時間
第10回	**教育言説と教育問題①—講義** 現代日本における教育制度について理解する。 講義を通して、教育言説とは何か、また教育言説という視点から「教育問題」を捉える意味や手立てについて学ぶ。日本における教育言説と「教育問題」について学ぶ。ユニット３「教育言説と教育問題」の課題を理解する。	自分の経験や問題意識と重なる教育言説あるいは「教育問題」について、テーマを一つ選ぶ。関連する文献等の情報（書籍、論文、教育雑誌、新聞記事、インターネット記事など）を収集する。	2時間
第11回	**教育言説と教育問題②—考察** 選択した教育言説や「教育問題」に関わる情報（書籍、論文、教育雑誌、新聞記事、インターネット記事など）について、ペアワークやグループワークを通して内容を掘り下げ、考察を深める。各課題に対する対応について考察する。	選択した教育言説や「教育問題」についての考察をまとめ、ふりかえりシートを作成する。	6時間
第12回	**教育言説と教育問題③—発表とリフレクション** 発表を行う。言及した教育言説あるいは「教育問題」について、また教育言説と「教育問題」のかかわりについて、さらにそれらに対する対応についてふりかえりを行う。ふりかえりレポートを提出する。	自分の発表や他者の発表について、ふりかえりシートを作成する。	2時間
第13回	**教育の未来を拓く①ー講義** 新しい教育の地平を切りひらくために重要となる教育学の概念や考え方について学ぶ。特に、21世紀の生涯学習社会における教育実践のあり方について考察するため、多様性や共生という切り口について学ぶ。ユニット４「未来の教育を拓く」の課題および最終レポートについて理解する。	講義の内容をもとに、関心のある現代の教育課題を選ぶ。その課題に対して、情報収集を行うとともに状況を変化させるためのアクションプランを考える。	4時間
第14回	**教育の未来を拓く②ー発表準備（企画・考察）** 課題で選択したテーマやアイディアをもとに、発表に向けたグループ分けを行う。授業で学んだ教育課題や概念枠組みにもとづいた教育実践を構想するため、グループで課題発表に向けた準備を行う。グループ内で最終的に言及する教育問題や概念ならびに発表形態を決定する。	グループで発表準備を行う。言及した教育課題や概念、それらと教育実践との関連および発表方法について、ふりかえりレポートを作成する。	6時間

第15回	**教育の未来を拓く③ー発表とリフレクション** グループ発表を行う。発表の内容、言及した教育学的視点、それらの教育実践との関係性および表現方法についてふりかえりを行う。現代的教育課題および講義全体のまとめを行う。ふりかえりレポートを提出する。	自分の発表や他のグループ発表について、ふりかえりシートを作成する。最終レポートを執筆する。	10時間

授業科目名	**教育学（初等）【2019年入学生】**				
担当教員名	**徳永正直**				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

無力な赤ん坊が「大人」としての人間になるためには「教育」が不可欠だとされるが、それでは「教育とは何か？」この問いに答えるために、さまざまな教育思想（ルソー、ヘルバルト、デューイ、ボルノー等）の理解を通じて「教育の理念」を検討する。また、学校教育に関連した諸問題を歴史的に考察し、今日の具体的な教育問題（いじめ・自殺、児童虐待、体罰など）の原因と背景を考える。
子どもを正しく理解するための注意点や教育の根本問題（二律背反）に関する理解を深めたい。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	生涯にわたる人間形成に関わる原理的基礎を理解する。	人間形成の営みに携わる者としての基本的素養を身につけることができる。
2 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	教育思想の歴史的変遷について理解するとともに、教育をめぐる状況、教育制度等に関する基礎的な教養を身につける。	教育に関する基礎的な理論について具体的にとらえた上で教育をめぐる現代的状況を的確にとらえることができる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		人間形成に関わる今日的課題を見出すことができる。
2 ．DP8.意思疎通		他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価は次の３つの観点からの総合評価が６０％以上を合格とする。
①教育の原理的基礎の理解
②教育の歴史をふまえた教育の意義・目的の理解
③子どもの現状の理解と教育的諸問題への適切な対応

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中の課題達成度	40%	： 指定された授業回での予習レポート及び毎回の授業終了時に行う小レポートの内容（理解度など）をもとに評価する。
レポート	50%	： 教育の基礎的理解にかかわる教育思想・教育の理念に関し、各自が興味を持ったテーマについてレポートを作成し、理解度などをもとに評価する。
授業への参加度	10%	： 教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

徳永正直・竹中暉雄・宮野安治・中山征一『時代と向き合う教育学（改訂版）』（ナカニシヤ出版、2003年）
徳永正直『教育的タクト論ー実践的教育学の鍵概念』（ナカニシヤ出版、2004年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 後日連絡します。

場所： 徳永研究室

備考・注意事項： 授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス
tokunaga-m@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「教育学：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション―具体的な教育問題を手がかりに「教育学」の意義を解説する。** 教育に関する具体的な問題を学問的に考えることの大切さを認識する。 大阪府立S高校で起きた体罰事件に含まれる教育学的問題について考える。 ①この事件を惹き起した教員の問題点（不適格教員と指導力不足教員の違いを明確にする。） ②教員に対する懲戒処分と関連する法律 ③教員の懲戒権を考える。学校教育法第11条の趣旨	授業内容の要約（キーワード：教員の懲戒権）と次回授業の資料を読む。	4時間

第2回	**教育手段としての「賞罰」を考える。ー体罰と児童虐待** ①賞罰の定義と賞罰を多用する教育の危険性 ②体罰問題を歴史的に考える。 ③家庭での「しつけ」としての体罰と身体的虐待 ④体罰肯定論と体罰否定論でディスカッション ⑤教育は調教ではない。 ⑥望ましい罰のあり方を検討する。	授業内容の要約と授業で取り上げなかった体罰事件を調べ、それに対する意見をまとめる。	4時間
第3回	**「教育」の重要性と危険性（１）ー「赤ちゃん学」の成果に学ぶ。** 人間にとっての教育の必要性と重要性の根拠を明らかにする。 ①野生児研究「狼に育てられた子」の嘘 ②ポルトマンの人間学「人間は一年早産の動物である。」 ③赤ん坊の不思議な能力と母子関係の特質ー「赤ちゃん学」の成果に学ぶ。 ④適切な呼応関係の大切さ	赤ちゃん学に関連する著書を読むこと。	4時間
第4回	**「教育」の重要性と危険性（２）ー教育勅語と教育基本法** 教育は人間形成にとって不可欠な営みであるが、しかし同時に教育には思想統制・思考方法の統制・感性の統制につながる側面があることを確認する。 太平洋戦争以前の「教育勅語」体制の教育の問題点を明らかにしつつ、戦後の「教育基本法」体制の教育の意義について解説する。 ドイツにおける「過去の克服」と日本の取り組みについて考える。	授業内容を要約（キーワード：教育勅語と教育基本法）する。	4時間
第5回	**近代教育制度の成立と展開ー学校の役割と学校教育をめぐる諸問題** 学校の役割を歴史的に検証しながら、とりわけ明治期以後の学校教育の変遷について解説する。 また、近年、学校ではさまざまな問題（不登校・学級崩壊・いじめ自殺・教員の過労死など）が発生しているが、問題解決に向けた家庭・地域・行政の協力関係について紹介する。	子どもの問題行動解決に向けた学校での取り組みについて調べてレポートにまとめる。	4時間
第6回	**子どもの問題行動の変遷（1980年代以後）と学校教育ー管理主義教育の弊害** 「いじめ・自殺」問題への社会的注目とその背景にあった管理主義教育の問題点を、子どもの権利条約を踏まえて明らかにする。あわせて、不合理な校則について考える。 子どもの権利条約の背景にコルチャックの思想があることを確認する。また、学校での事故等などへの対応にも触れる。	子どもの権利条約の画期的な意義についてまとめる。	4時間
第7回	**アリス・ミラーの反教育学ー闇教育と光の教育、その意義と問題点** 「教育」や「しつけ」の美名の下に子どもを虐待してはならないというアリス・ミラーの子ども解放思想について解説し、彼女の思想の意義と問題点を考えながら、本来の教育のあり方を検討する。 幼少期に虐待されて心にトラウマを刻印された子どもの発達上の問題についても解説する。体罰なき「しつけ糸の教育」について考える。	アリス・ミラーの著作の指定箇所を読み、それに対する各自のコメントを作成する。	4時間
第8回	**ルソーの教育思想ー「子どもの発見者」として高く評価される理由** 教育の歴史上「子どもの発見者」として高く評価されるルソーの教育思想を解説する。 ①西欧における子ども観の変遷ー親子関係の歴史的変遷をたどる。 ②ルソーの生涯 ③『エミール』（1762年）における消極教育、現在主義、子どもの発達に忠実な教育の立場の主張が「子どもの発見」につながっていることを理解する。 ④ルソーの教育思想の問題点	授業内容（キーワード：消極教育、現在主義など）を要約する。	4時間
第9回	**ヘルバルトの教育思想ー学問としての教育学の確立者** ルソーの子ども観を徹底的に批判したヘルバルトの教育思想を解説する。「堅固な道徳的性格」を意図的計画的に作り上げるヘルバルトの教育思想を理解する。 ①ヘルバルトの生涯 ②家庭教師時代の体験と教育思想への影響 ③「堅固な道徳的性格」とは何か ④「管理」「教育的教授」「訓育」の体系性	ヘルバルトとルソーの教育思想の違いをまとめる。	4時間
第10回	**教育の根本問題ー教育学的二律背反（デューイとブルナーの教育思想にも関連づける。）** ルソーとヘルバルトの教育思想が何故決定的に対立するのかを理解すれば、教育の難しさを理解する手がかりになる。どのように対立するのかを話し合い、教育をめぐる解決困難な対立について解説する。 ①指導か放任か ②子ども中心主義か教師中心の教育か ③子どもの自然な発達に忠実な教育か発達を意図的に早める教育か ④理想的な教育か現実的な教育か	授業内容との関連で教育学的二律背反とは何かを要約する。	4時間
第11回	**ボルノーの教育思想ー教育の非連続的形式（「覚醒」「出会い」「危機」「訓戒」などの意義）** 陶冶可能性を前提とする伝統的な教育とは次元の異なる「教育の非連続的形式」として「覚醒」や「出会い」や「危機」の人間形成にとっての意義を解明したボルノーの思想を解説する。 自分自身にとっての「覚醒」や「出会い」や「危機」の体験について話し合う。 また、「教育的雰囲気」において「信頼」や「希望」の人間形成における意義についても解説する。	人間学的教育学について調べてレポートする。	4時間
第12回	**環境問題と環境教育ー現代社会における焦眉の教育課題** 地球温暖化に象徴される地球環境問題の解決は人類に課せられた焦眉の課題であるが、日本における「公害」問題から始まる環境教育の取り組みを歴史的に考察する。 経済発展と環境保護との両立を図る「持続可能な開発」を担保するための取り組みについて、環境倫理学に関連づけながら解説する。	環境教育の取り組みについて各自調べてレポートする。	4時間
第13回	**ライフサイクル（人生周期）と発達課題ー通過儀礼の意義** 誕生から死に至る人間の生涯をいくつかの段階に区分して捉えるライフサイクルの考え方との関連で、各段階における発達課題について解説する。その際に乳幼児期から就学期への移行と青年期から成人期への移行の際に行われる通過儀礼の意義を考える。 また、大人と子どもの違いを確認する。	さまざまな世界の成人式について調べて報告する。	4時間
第14回	**「良い教師」（保育者）の条件（１）ー教育者の使命と責任** 教師に対する社会的批判が強くなっているが、そもそも教師の使命と責任はどうあるべきか。 ①各自が出会った優れた教師や指導者について話し合う。 ②良い教師（保育者）の条件とは何か。 子どもの適切な理解、子どもを愛するということ、適切な指導の本質について考える。	教育愛と子ども理解に関する参考文献を読む。	4時間
第15回	**「良い教師」（保育者）の条件（２）ー教師の専門性と教育的タクト**	教育的タクトのさまざまな働きについてレポートにまとめる。	4時間

教師という仕事の困難さを理解するとともに、教育者に求められる専門的能力のひとつとされるタクトのさまざまな働きについて紹介する。 15回の授業内容に関する質問があれば、それについて再度解説する。		

授業科目名	教育学（初等）【2019年入学生】				
担当教員名	川島裕子				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、さまざまな教育思想、教育に関する基本的概念や歴史について概観するとともに、それらを具体的な教育実践や個人的な体験と関連づけながら教育学の基礎を学ぶ授業です。授業内容は、例えば、古代から近代、ポストモダンの教育思想、近代学校の成立や学習論、子どもや教師の捉え方、教育改革に付随する教育言説、体罰やいじめなどの教育問題、さらに教育での多様性や共生という課題などについて扱います。これらを通し、個人または協働で、未来の教育実践に向けて具体的なアクションを起こしていくためのビジョンを構築します。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	教育学についての知識	講義や書籍、インターネットの情報をもとに、教育学の基礎的な思想や概念、歴史および現代社会における教育課題について理解できる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育学の専門的知識の実践への応用力	教育学の専門的知識を自分の中で咀嚼し、教育課題に対する対応を想像するとともに、具体的な教育実践を立ち上げることができる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		教育学の専門的知識や批判的思考、分析力を応用し、教育的課題を発見・検討することができる。
2 ．DP5.計画・立案力		教育学の専門的知識や発想力を駆使しながら、課題に向けた取組みを計画・立案することができる。
3 ．DP7.完遂		計画・立案した課題への取組みを、その表現方法を考えたうえで遂行することができる。
4 ．DP8.意思疎通		ペアワークやグループワークに取組むにあたり、他者と対話しながら相互に意思疎通をはかり進めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席してしてください。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価は「不可」となります。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
グループ発表 30%	：	グループ発表を、教育学の専門的知識の理解、具体的教育実践の想像、教育的課題の発見・検討、表現方法、参加態度、ふりかえりレポートでの考察について評価する。
個人発表 30%	：	個人発表を、教育学の専門的知識の理解、教育的課題の発見・検討、教育学的課題と自分の教育体験との関連づけ、表現方法、参加態度、ふりかえりレポートでの考察について評価する。
ふりかえり 20%	：	ユニットごとに提出するふりかえりシートを、課題発表及び授業での学びの内容について深く考察できているかという点から評価する。
最終レポート 20%	：	最終レポートを、教育学の思想や概念を統合し、具体的な教育実践と接続させながら自分で実施してみたい教育実践のあり方を描写し説明できているかという点について評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教育学入門（藤田英典、田中孝彦、寺崎弘昭、岩波書店、1997）
教育言説の歴史社会学（広田照幸、名古屋大学出版会、2001）
シティズンシップの教育思想（小玉重夫、白澤社、2003）
学びの快楽（佐藤学、世織書房、1999）
よくわかる教育学原論（安彦忠彦、児島邦宏、藤井千春、田中博之、ミネルヴァ書房、2012）
また、授業中に適宜参考資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は２単位の科目であるため、全体で６０時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」では、ユニットごとに最終課題に向けた準備を行います。十分に準備をしたうえで授業へ参加して下さい。本授業では、新しい考えや挑戦的な取組みを歓迎します。授業での議論や活動においては、さまざまな価値観を持つ他者を尊重しその多様性を認めたうえで、積極的かつ思慮深く参加して下さい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜　4限
場所：　研究室

備考・注意事項： 具体的な質問方法については、初回授業時に周知します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、教育思想①—領域のマッピング** オリエンテーションを通して、授業の目的、進め方、課題、参加の仕方等について理解する。他の受講生や講師と出会う。教育思想の観点や人物について、領域の全体像を把握する。ユニット１「教育思想」に関する課題を理解する。	特に気になり、喚起される教育思想あるいは思想家を選ぶ。情報検索を行い、その人物や教育思想について調べる。	4時間
第2回	**教育思想②—講義** 講義を通し、古代から近代、ポストモダンの教育思想（ソクラテス、コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルト、デューイ、シュタイナー、フレイレなど）の基本的考えを知る。課題で選択した人物やテーマ、アイディアをもとに、発表に向けたグループ分けを行う。	グループ発表に向けた情報収集を行う。選択した教育思想および人物の学問的背景や個人的背景などについて文献を読み込み掘り下げる。シナリオとアイディアを考える。	4時間
第3回	**教育思想③—発表準備（企画・考察）** グループ活動を通して、特定の教育思想にもとづいた具体的な教育実践のあり方をパフォーマンスによって描く準備を行う。グループで扱うアイディアとその描き方を選択し、表現方法を考えながらシナリオを作る。また、教育思想がどのように具体的実践として体現されるのか、どのように現代を生きる自分たちに示唆を与えるのかについて考察するための手立てを学ぶ。	グループでパフォーマンスの練習をする。シナリオ、言及する教育思想、教育思想と実践との関連、グループ活動の様子などについてふりかえりレポートを作成する。	6時間
第4回	**教育思想④—発表とリフレクション** パフォーマンス発表を行う。パフォーマンスの内容、言及した教育思想、教育思想と実践との関係性および表現方法についてふりかえりを行う。ふりかえりレポートを提出する。	自分の発表や他のグループ発表について、ふりかえりシートを作成する。ユニット２「教育体験の語り」の課題として、自分の教育体験の中で特に印象に残っている出来事について語るための準備をする。	4時間
第5回	**教育体験の語り①ー教育体験を語る** 自分の教育体験のなかで印象に残っている出来事を物語として語り、他者と共有する。ペアワーク、グループワークを通して語りを練り上げていく。語りとは何か、またその意味について学ぶ。	授業での活動をふまえて、自分の語りを深める。	2時間
第6回	**教育体験の語り②ー語りのふりかえり** 前回語った自分の語りについて、自分の考えや気持ち、その場面にいる他者や出来事の背景、また教育学の概念や現代の教育課題との関連などを探りながら、語りを掘り下げる。教育学における語りの意味について学ぶ。語り直しに向けた課題の内容を理解する。	関連のある教育学の概念や現代の教育課題について調べ、授業での活動をふまえて自分の語りを深める。	2時間
第7回	**教育体験の語り③ー講義１（学校教育、学校外教育）** 教育の基本的概念や歴史的文脈について、学校教育（近代学校の成立や脱学校論など）と学校外教育をテーマに講義を通して学ぶ。教育学の専門的知見と自分の体験との関連を考察する。	教育の基本的概念や歴史的文脈との関係の中で自分の教育体験を相対化し、多角的に理解する。講義で学んだ教育学的視座のもと自身の教育体験を語り直すための準備を行う。	2時間
第8回	**教育体験の語り④ー講義２（学び、子ども、教師）** 教育の基本的概念や歴史的文脈について、特に学び（「学習」と「学び」の違いおよび乳幼児期の教育の特性など）、子ども（「子どもの発見」から子ども観の変容および子ども家庭福祉など）、教師（教師の捉え方や「生徒—教師の関係性」など）をテーマに講義を通して学ぶ。講義で学んだ教育学の専門的知見と自分の体験との関連を考察する。	教育の基本的概念や歴史的文脈との関係の中で自分の教育体験を相対化し、多角的に理解する。教育学的視座のもと自分の教育体験を語り直すため、構想や語り口について考察し、発表の準備を行う。	2時間
第9回	**教育体験の語り⑤ー教育体験の語り直しとリフレクション** 自分の体験について、これまでのワークおよび考察を踏まえて語り直す。教育学的視座がどのように個人的経験の理解を促すのかを探求する。	自分の語りの変容や他者の語りについて、ふりかえりシートに記入する。	2時間
第10回	**教育言説と教育問題①—講義** 現代日本における教育制度について理解する。 講義を通して、教育言説とは何か、また教育言説という視点から「教育問題」を捉える意味や手立てについて学ぶ。日本における教育言説と「教育問題」について学ぶ。ユニット３「教育言説と教育問題」の課題を理解する。	自分の経験や問題意識と重なる教育言説あるいは「教育問題」について、テーマを一つ選ぶ。関連する文献等の情報（書籍、論文、教育雑誌、新聞記事、インターネット記事など）を収集する。	2時間
第11回	**教育言説と教育問題②—考察** 選択した教育言説や「教育問題」に関わる情報（書籍、論文、教育雑誌、新聞記事、インターネット記事など）について、ペアワークやグループワークを通して内容を掘り下げ、考察を深める。各課題に対する対応について考察する。	選択した教育言説や「教育問題」についての考察をまとめ、ふりかえりシートを作成する。	6時間
第12回	**教育言説と教育問題③—発表とリフレクション** 発表を行う。言及した教育言説あるいは「教育問題」について、また教育言説と「教育問題」のかかわりについて、さらにそれらに対する対応についてふりかえりを行う。ふりかえりレポートを提出する。	自分の発表や他者の発表について、ふりかえりシートを作成する。	2時間
第13回	**教育の未来を拓く①ー講義** 新しい教育の地平を切りひらくために重要となる教育学の概念や考え方について学ぶ。特に、21世紀の生涯学習社会における教育実践のあり方について考察するため、多様性や共生という切り口について学ぶ。ユニット４「未来の教育を拓く」の課題および最終レポートについて理解する。	講義の内容をもとに、関心のある現代の教育課題を選ぶ。その課題に対して、情報収集を行うとともに状況を変化させるためのアクションプランを考える。	4時間
第14回	**教育の未来を拓く②ー発表準備（企画・考察）** 課題で選択したテーマやアイディアをもとに、発表に向けたグループ分けを行う。授業で学んだ教育課題や概念枠組みにもとづいた教育実践を構想するため、グループで課題発表に向けた準備を行う。グループ内で最終的に言及する教育問題や概念ならびに発表形態を決定する。	グループで発表準備を行う。言及した教育課題や概念、それらと教育実践との関連および発表方法について、ふりかえりレポートを作成する。	6時間

第15回	**教育の未来を拓く③ー発表とリフレクション** グループ発表を行う。発表の内容、言及した教育学的視点、それらの教育実践との関係性および表現方法についてふりかえりを行う。現代的教育課題および講義全体のまとめを行う。ふりかえりレポートを提出する。	自分の発表や他のグループ発表について、ふりかえりシートを作成する。最終レポートを執筆する。	10時間

1

授業科目名	**教育心理学（初等）／教育心理学**				
担当教員名	羽野ゆつ子				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

大量生産による豊かな社会の形成から高度知識社会へという変動に対応して、学校において目標とされる学力の中軸が変化している。それに伴い、教師・保育士にも、知識・技能を伝達するという性格から、子ども（障がいのある子どもを含む。）の実態と授業内容に即して個別的な判断をするプロフェッショナルな能力への転回が強調されている。本科目では、子ども（障がいのある子どもを含む。）の学習に責任をもつ教師・保育士の判断力の基礎となる、発達と学習に関する心理学の理論的知識を紹介する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：発達と学習の心理学の専門知識の修得

目標：子ども（障がいのある子どもを含む。）の発達と学習の心理メカニズムについての知識を身につけている。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見

発達と学習の心理学の知識を教育場面とを架橋しながら、子ども（障がいのある子どもを含む。）に「何を」「何のために」教え育てるのかということと、「どのように」教え育てるのかを考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合　　**評価の基準**

小レポート　30%　：発達に関する講義の範囲内での知識の理解にもとづく考察
→テーマについて、講義内容をふまえて、適切なキーワード（専門用語）を用いて、具体的な事例に即して論じることができる。

最終レポート　50%　：発達と学習に関する講義内容の理解にもとづく考察
→講義内容をふまえて、発達と学習それぞれの心理学研究を概観し、広 い意味での教育実践と結びつけて考察できる。

各回の授業内小レポート　20%　：各回0～2点で評価する。授業のポイントを充分に理解し、専門知識を用いていれば１点、独自の見解や具体例とともに論述できていれば２点、誤りや不足があれば１点、重大な誤りや白紙に近い状態であれば0点とする。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
羽野ゆつ子・倉盛美穂子・梶井芳明	あなたと創る教育心理学ー新しい教育課題にどう応えるか	ナカニシヤ出版	2017年

参考文献等

特に指定しない。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

初等教育コースのクラスで、特別授業を開催する予定です。詳細は、授業開始時に報告します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月・水・木の昼休み（12:20～12:50）

場所：　研究室（中央館２階　研究室８０）

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　―発達と学習の心理学を学ぶ意味 ―** 授業概要及び成績評価方法を知ります。現代の教育課題について、子どもの発達と学習と関連づけて考え、課題意識をもちます。	講義内容をふりかえり、受講の課題を明確にする。	4時間
第2回	**発達（１）　――社会的認知の発達と進化** 社会的認知の発達と進化の視点から道徳性の発達について考える。	講義内容を復習し、「道徳性の発達と教育」について考察をする。	4時間
第3回	**発達（２）　――思考の発達** 人間の認知発達に関する諸理論を学ぶことで、「主体的、対話的で深い学び」について考える。	講義内容を復習し、認知発達理論から「主体的、対話的で深い学び」について考察する。	4時間

第4回	**発達（３）　――身体と認知発達** 私たちの認知発達や思考に及ぼす身体の役割を再考する。	講義内容を復習し、認知における身体性を考察する。	4時間
第5回	**発達（４）　――自己理解の発達** 生涯発達を視野に、自己理解の発達を考える。	講義内容を復習し、生涯発達を視野に、自己理解の発達について考察する。	4時間
第6回	**学習（１）――行動主義・認知主義の学習** 行動主義と認知主義の学習研究を紹介し、「教える」教育について考える。	講義内容を復習し、行動主義・認知主義の学習を今日的視点から考察する。	4時間
第7回	**学習（２）――構成主義の学習** ピアジェの認知発達理論をベースにした構成主義の学習研究を紹介し、教育について考える。	講義内容を復習し、認知主義の学習を今日的視点から考察する。	4時間
第8回	**学習（３）――社会的構成主義の学習** ヴィゴツキーの理論をベースにした社会構成主義の学習研究を紹介し、教育について考える。	講義内容を復習し、社会的構成主義の学習を今日的視点から考察する。	4時間
第9回	**学習（４）状況論的学習** 正統的周辺参加、状況論的学習などの学習研究を紹介し、教育について考える。	講義内容を復習し、状況主義の学習を今日的視点から考察する。	4時間
第10回	**学習（５）――学習意欲をめぐる問題** 「主体的に学ぶ意欲」の形成という教育課題の背景となる、動機づけ理論から考える。	講義内容を復習し、動機づけ理論の理解を深める。	4時間
第11回	**学習（６）――「主体的に学ぶ意欲」を育てるには** 「主体的に学ぶ意欲」の形成という教育課題について考える。	講義内容を復習し、「主体的に学ぶ意欲」を形成する方法と課題を考察する。	4時間
第12回	**発達と学習研究の展開（１）　知能をめぐる問い** 多重知能理論から、知能観について考察する。	講義内容を復習し、知能観が教育にもたらす影響を考察する。	4時間
第13回	**発達と学習研究の展開（２）　インクルーシブ教育** インクルーシブ教育という視点から、幼児から児童、生徒までの個人の発達を支える学習のあり方について考察する。	講義内容を復習し、障害をもつ子どもの発達と学習を支えるための課題を考察する。	4時間
第14回	**発達と学習研究の展開（３）　ケアリング** ケアリングの視点から、発達と学習研究をみつめ、未来の教育を展望する。	講義内容を復習し、子どもの発達と学習に関わる教育課題を考察する。	4時間
第15回	**課題とまとめ** これまで学んだ発達と学習の心理学研究が、教育実践にどうつながるのか、考察を深める。	発達と学習研究についてふりかえる。	4時間

1

授業科目名	**教育行政学**				
担当教員名	**渡部昭男**				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	鳥取大学附属特別支援学校校長（2002～05年度）、神戸大学附属特別支援学校校長（2016～18年度）の校長経験を有するとともに、鳥取県・兵庫県で教科用図書選定審議会の会長、鳥取市で校区審議会の会長、三木市で学力向上推進委員会の会長などを歴任した経験を有する。				

授業概要

「国―都道府県―市町村―学校」の関係は、以前の中央集権的な垂直的関係から、2000年に実施された地方分権改革によって、建前上は水平的関係となっている。基礎自治体である市町村や広域自治体である都道府県に着目し、地域における住民福祉の増進／発達支援の可能性を探りつつ、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む）に位置づけて、学校教育に係る行政の仕組みと実際を学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	幼児教育から大学教育までの学校の制度と行政について、基礎的な知識を身に着ける。	テキストの各章の内容について事前学習を行い、対面授業によって理解を深め、既習の事項と連関させながら知識を再構成できる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	受講生の個人的な体験を教材として共有することを通じて、体験を相対化しつつ、教育の制度と行政について生きた理解を育む。	感想カードの記載やそれに基づく応答を通じて、受講生の個人的体験を共有し、自らの体験と重ねたり比較して相対化することを通じて、生きた理解が構築できる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		講義や討論を通じて、自らが探究したい課題を見つけ、設定できる。
2 ．DP6.行動・実践		自ら設定した課題について、文献やインターネットを通じて、情報を収集し、適切に解釈することができる。
3 ．DP9.役割理解・連携行動		マスコミ報道等における争点・論点を理解し自らの見解を持つことができる。
4 ．DP6.行動・実践		上記の作業を通じて得た知識や見解を、まとめ、発表することができる。
5 ．DP6.行動・実践		他者の発表に耳を傾け、その趣旨や内容を理解し、自らの見解を再構成することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

毎回の講義終了時に「感想カード」を提出します。「感想カード」は、「A：導入時の「意見・感想」紹介について」、「B：本時の講義について　①本時の講義で得た新たな知見を一つ以上、②本時の講義への意見や疑問を一つ以上、③本時の講義を既習得事項や他科目と関連づけてみよう」、C：なんでも感想・なんでも質問」で構成されており、受講生の疑問や理解度を渡部が把握するツールです。その「カード」に基づいて、次時に「意見・感想紹介＝応答コーナー」を設けます。ご期待ください。
また、班討論やレポート作成、レポート合評会などにも取り組みます。
こうした遣り取りや取り組みを通じて、「主体的で対話的な深い学び」の実現を志向しています。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
教科書を予習復習するとともに、レポート作成によって学修の発展と深化を図る。講義終了時に提出する「感想カード」を活用して、個々の受講生の理解状況も継続的に把握する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート（２０点×２回）	：	秀：特に優れた成果を収めている。 優：優れた成果を収めている。 良：良好な成果を収めている。 可：学修の目標を達成している。 不可：学修の目標を達成していない。
40%		
定期試験（６０点）	：	秀：特に優れた成果を収めている。 優：優れた成果を収めている。 良：良好な成果を収めている。 可：学修の目標を達成している。 不可：学修の目標を達成していない。
60%		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
渡部昭男・金山康博・小川正人	市民と創る教育改革：検証・志木の教育政策（２刷）	日本標準	2013年
糸賀一雄	糸賀一雄の最後の講義：愛と共感の教育（改訂版）	中川書店	2009年

参考文献等

文部科学省『教育白書』各年度　http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/kyouiku.htm

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回「２単位時間」の対面講義に対して４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、テキスト等を参考にその回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 講義終了時に対面、またはメールで遣り取り

場所： 対面は講義室または講師控室、メールは不問。

備考・注意事項： メールアドレスは、akiowtnb@port.kobe-u.ac.jp です。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**テキスト第１章～教育委員会――教育行政の制度と実際** シラバスを配布した上で１５回にわたる講義の全体像を示しつつ、成績評価や使用テキスト、レポート課題などについてガイダンスを行う。 導入にあたる第１回目は、渡部の自己紹介を行うとともに、テキストの「はじめに」「目次」を読んで、これから始まる「教育行政学」の学びにいざなう。 第１章「本書の課題と全体像－なぜ志木市なのかー」では、「教育委員会」についての理解を深め、教育行政の制度と実際を知る。	テキストの復習と予習、「レポート１＝地方分権の意義と可能性」の構想着手	4時間
第2回	**同第２章～教員採用――教師教育の制度と行政** 第２回と第３回は一体的な関係にある。視聴覚教材として、志木市の少人数学級実現と市独自の教員採用に関するビデオを視聴する。 その上で、第２章「少人数学級化に伴う独自の教員採用」を手掛かりに、教師教育の制度と行政を理解する。教員免許制度、教員採用制度、教師の多忙化、働き方改革についても講ずる。	テキストの復習と予習、「レポート１」の構想着手	4時間
第3回	**同第３章～学級編制――学級編制・教員配置の制度と行政** 第２回目とセットになった回である。 第３章「少人数学級編制の取り組みと課題」を手掛かりに、学級編制や教員配置の制度と行政を理解する。	テキストの復習と予習、「レポート１」の執筆着手	4時間
第4回	**同第４章～不登校対応――発達支援／教育支援の制度と行政** 第４回目は第３回目と対をなす。 「少人数学級編制」は通学して学ぶ子どもには意味を持つが、学校に行かない／行けない不登校の子どもには意味をなさない。志木市のユニークな点は、不登校の子どもに先生が出かけていく方策を打ち出したことである。 第４章「不登校を含む「ホームスタディ―制度」」を手掛かりに、不登校対応や発達支援／教育支援の制度と行政を理解する。	テキストの復習と予習、「レポート１」の執筆完成	4時間
第5回	**DVD視聴と討論（その１）、レポート１「地方分権の意義と可能性」の発表会** 「地方分権」に係るビデオ映像を視聴したうえで、数名のグループを構成して書き上げたレポートの交流・合評を行う。 こうした活動を通じて、「主体的で対話的な深い学び」の実現を探る。	テキストの復習と予習、「レポート２＝地域立学校の意義と可能性」の構想着手	4時間
第6回	**同第５章～学校選択――就学の制度と行政** 第６回～第９回目は「地域立学校」がキーワードとなっている。 第５章「通学区域制度の弾力的運用」を手掛かりに、就学の制度と行政を理解する。加えて、志木市の志向する「地域立学校」を多角的に捉え、その意義と可能性を探る旅に出発する。	テキストの復習と予習、「レポート２」の構想着手	4時間
第7回	**同第６章～学社融合――社会教育の制度と行政** 第６回に引き続き、「地域立学校」がキーワードとなっている。 第６章「学社融合の推進と「地域立学校」の構想」を手掛かりに、社会教育の制度と行政を理解する。加えて、志木市の志向する「地域立学校」をさらに多角的に捉え、その意義と可能性を探る。	テキストの復習と予習、「レポート２」の執筆着手	4時間
第8回	**同第９章～教育予算――学校財政の制度と行政** 第６＆７回に引き続き、「地域立学校」がキーワードとなっている。 第９章「教育予算の編成と学校配当」を手掛かりに、教育財政の制度と行政を理解する。加えて、志木市の志向する「地域立学校」をさらにさらに多角的に捉え、その意義と可能性を探る。	テキストの復習と予習、「レポート２」の執筆	4時間
第9回	**同第10章～学校経営――保護者・住民参画の制度と行政** 第６＆７＆８回に引き続き、「地域立学校」がキーワードとなっている。 第１０章「「地域立学校経営協議会」の展開」を手掛かりに、学校経営、保護者・住民参画の制度と行政を理解する。加えて、志木市の志向する「地域立学校」をさらにさらにさらに多角的に捉え、その意義と可能性を探る。	テキストの復習と予習、「レポート２」の執筆完成	4時間
第10回	**DVD視聴と討論（その２）、レポート２「地域立学校の意義と可能性」の発表会** 「地域立学校」に係るビデオ映像を視聴したうえで、数名のグループを構成して書き上げたレポートの交流・合評を行う。 こうした活動を通じて、「主体的で対話的な深い学び」の実現を探る。	テキストの復習と予習、期末試験にむけた準備開始	4時間
第11回	**同第８章～幼小連携――幼児教育の制度と行政** これまでは義務教育段階が中心であったが、第１１回は就学前教育段階を取り上げる。 第８章「５・６歳児の発達と幼小連携教育の充実」を手掛かりに、幼児教育の制度と行政について理解する。	テキストの復習と予習、期末試験にむけた準備継続	4時間
第12回	**同第７章～特別ニーズ――特別支援教育の制度と行政** 第１２回では特別支援教育を取り上げる。 第７章「特別なニーズをもつ子どもと特別支援教育」を手掛かりに、特別支援教育の制度と行政について理解する。	テキストの復習と予習、期末試験にむけた準備継続	4時間
第13回	**同補章～海外動向――世界の教育制度と行政** 第１３回では海外動向を取り上げる。 補章「海外から見た志木市の取り組みの意義と可能性」を手掛かりに、世界の教育制度と行政について理解する。	テキストの復習と予習、期末試験にむけた準備継続	4時間
第14回	**補足１～高校魅力化プロジェクト――高校教育の制度と行政** 第１４回では、後期中等教育（高校教育）段階を取り上げる。 渡部が準備した独自資料を手掛かりに、高校教育の制度と行政について理解する。	テキストの復習と予習、期末試験にむけた準備継続	4時間
第15回	**補足２～無償教育の漸進的導入――子ども貧困対策の制度と行政** 第１５回では、いま話題となっている教育無償化を取り上げる。 渡部が準備した独自資料を手掛かりに、無償教育の漸進的導入、子どもの貧困対策の制度と行政について理解する。	テキストの復習と予習、期末試験にむけた準備継続	4時間

授業科目名	**特別支援教育概論（初等）**				
担当教員名	**村田観弥**				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中学校勤務時の交流学級担当教員の経験、及び特別支援学校にて勤務した経験を踏まえ、具体的事例をもとに講義する（全15回）。				

授業概要

2014年の「障害者権利条約」批准により、「障害者差別解消法」「改正障害者雇用促進法」の施行など、国内における「障害」にかかわる法整備が進み、教育においても特別支援教育からインクルーシブ教育推進への動きが加速している。本科目では、「障害」を取り巻く最新の教育的動向を考えることを通して、「障害」のあるとされる子どもへの教育的支援の基礎、及び実践における支援のあり方を学ぶとともに、「障害」「支援」「共生」「教育」といった概念について深く考え、自らのかかわりを常に問い直す教育的姿勢の涵養を目指す。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	特別支援教育に関する知識	教員免許取得を目指す者として、「障害」についての基礎的な知識を習得するとともに、教育的支援に必要な制度及び組織のあり方について理解する。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	模擬的な事例検討を通して、「障害」への教育的支援のあり方や「合理的配慮」を考える。	事例にもとづいたグループでの議論（事象分析や状況判断の検証）から、知識と実践を接合する困難さや対話的関係の重要性に気付く。
汎用的な力		
1 ．DP5.計画・立案力		専門的知識を活用し、個々の児童の状況把握と問題解決への方策を立案できる。
2 ．DP9.役割理解・連携行動		教育的支援を実践する専門家としての役割と限界を知ることで、組織内の一員としての連携の重要性を理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回のリアクションペーパー（2点×15回） 30%	：	毎回、講義への感想・意見と質問への回答を求める。どちらも記述できている場合は2点、どちらかのみの場合は1点と採点する。
講義への参加度（20点） 20%	：	グループ・ディスカッションへの参加度、プレゼンテーションの質、グループへの貢献度などを総合的に判断する。特に、割り当てられたプレゼンテーションの質を重視する。
小論文（30点） 30%	：	講義内で学んだ知識が正確に述べられているか、自らの問題として捉えられているか、主張が論理的かを重視する。
小テスト（10点×2回） 20%	：	受講者の理解度を測るための小テストを行う。講義内で示された重要語句の説明を求め、10点満点で採点する。2回実施する（進度に応じて実施回数を変える場合がある）。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特別支援学校―幼稚部教育要領/小学部・中学部学習指導要領/高等部　文部科学省　2015
特別支援学校学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)　文部科学省 2015
【新訂版】特別支援教育の基礎基本　独立行政法人国立特別支援教育総合研究所　　2015　ジアース教育新社
【改訂版】特別支援教育基本用語100　明治図書出版　2014
物語としての発達/文化を介した教育―発達障がいの社会モデルのための教育学序説　津田英二　生活書院　2012
アメリカの教室に入ってみた: 貧困地区の公立学校から超インクルーシブ教育まで 赤木和重　ひとなる書房　2017

その他　講義中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワーの時間帯（初回伝達）

場所：　研究室

備考・注意事項：　メールでも対応する。メールには、必ず氏名と所属を記すこと。
オフィス・アワーについては、講義初回に提示する。
murata-k@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**「障害」とは何か** 障害概念についての基礎的内容。ICFモデルの説明。近年の社会的問題（臓器移植や出生前診断）の話題から自己の問題として捉える。	講義内容について復習する。提示された話題について、今後のグループ討議のため調べておく。	4時間
第2回	**「支援」と「合理的配慮」を考える** 「支え合い、援ける」という関わりについての根源性を問う。障害者権利条約、障害者差別解消法の説明から「合理的配慮」概念について考える。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは講義中に提示する（キーワードの一例：ICFモデル　障害者差別　合理的配慮　当事者主権など）。	4時間
第3回	**障害児教育の歴史・変遷：特殊教育から特別支援教育へ** 国内外の動向を概観し、世界的潮流の中で日本の障害児教育がどのような変遷をたどったかを知るとともに、特別支援教育の理念と基本的な考え方を理解する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：就学義務　養護学校制度　中央教育審議会　ウォーノック報告など）。	4時間
第4回	**特別支援教育の制度（１）：個別の教育支援（指導）計画/特別支援教育コーディネーター** 計画書の内容/書き方、コーディネーターの役割について、具体例を提示し解説する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：個別の教育支援計画　個別の指導計画　特別支援教育コーディネーター　医療的ケア　など）。	4時間
第5回	**特別支援教育の制度（２）：校内支援体制/センター的機能/地域連携** 教員間及び専門職間連携について、就労移行支援や障害者福祉の現状なども踏まえ、解説する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：特別なニーズ　発達検査　校内支援会議　センター的機能　など）。	4時間
第6回	**特別支援教育の制度（３）：インクルーシブ教育と共生社会** 近年の各国の教育環境との比較を通して、インクルージョンの理念と日本の現状を提示する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：インクルージョン　インテグレーション　通級による指導　交流及び共同教育　など）。	4時間
第7回	**特別支援教育の理論と方法（１）：視覚障害** 視覚障害教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：弱視　点字　触覚教材　拡大教科書　晴眼者　など）。	4時間
第8回	**特別支援教育の理論と方法（２）：聴覚障害** 聴覚障害教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：難聴　人工内耳　指文字　手話　キュード・スピーチ　など）。	4時間
第9回	**特別支援教育の理論と方法（３）：知的障害** 知的障害教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：知能検査　知能指数　発達指数　各教科等を合わせた指導　自立活動　など）。	4時間
第10回	**特別支援教育の理論と方法（４）：肢体不自由** 肢体不自由教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：痙直型まひ　アテトーゼ型まひ　筋ジストロフィー　コミュニケーションエイド　てんかん発作　など）。	4時間
第11回	**特別支援教育の理論と方法（５）：重複障害/病弱** 重複障害教育及び病弱教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：重度・重複障害　AAC　VOCA　院内学級　ターミナル期　など）。	4時間
第12回	**特別支援教育の理論と方法（６）：自閉症スペクトラムとその近接障害** 障害概念及び支援方法について解説。LD及びADHD、発達障害概念についても取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：自閉症　アスペルガー障害　LD　ADHD　二次的障害　アセスメント　など）。	4時間
第13回	**特別支援教育の理論と方法（７）：性同一性障害、うつ病、言語障害、パーソナリティ障害など、「障害」に近接する問題** 近年注目される障害概念や発達障害との関連が指摘されるものなどを中心に、事例を交え説明する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：ジェンダー　LGBT（性的マイノリティ）　言葉の教室　吃音　かん黙　など）。	4時間

第14回	**障害と教育を巡る諸問題：障害者差別/就労/福祉政策/貧困/外国にルーツがある家庭** 障害を巡る教育や社会の諸問題を考えることで教育的支援の意味について掘り下げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：家族支援　就労支援　法定雇用率　障害者総合支援法　貧困問題　外国にルーツがある家庭　など）。	4時間
第15回	**特別支援教育の今後と課題（総括）** これまでの講義について総括し、特別支援教育における今後の方向性と課題について提示する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：インクルーシブ教育システム　スクールクラスター　共生社会　など）。	4時間

授業科目名	**特別支援教育**				
担当教員名	**村田観弥**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中学校勤務時の交流学級担当教員の経験、及び特別支援学校にて勤務した経験を踏まえ、具体的事例をもとに講義する（全15回）。				

授業概要

2014年の「障害者権利条約」批准により、「障害者差別解消法」「改正障害者雇用促進法」の施行など、国内における「障害」にかかわる法整備が進み、教育においても特別支援教育からインクルーシブ教育推進への動きが加速している。本科目では、「障害」を取り巻く最新の教育的動向を考えることを通して、「障害」のあるとされる子どもへの教育的支援の基礎、及び実践における支援のあり方を学ぶとともに、「障害」「支援」「共生」「教育」といった概念について深く考え、自らのかかわりを常に問い直す教育的姿勢の涵養を目指す。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	特別支援教育に関する知識	教員免許取得を目指す者として、「障害」についての基礎的な知識を習得するとともに、教育的支援に必要な制度及び組織のあり方について理解する。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	模擬的な事例検討を通して、「障害」への教育的支援のあり方や「合理的配慮」を考える。	事例にもとづいたグループでの議論（事象分析や状況判断の検証）から、知識と実践を接合する困難さや対話的関係の重要性に気付く。
汎用的な力		
1 ．DP5.計画・立案力		専門的知識を活用し、個々の児童の状況把握と問題解決への方策を立案できる。
2 ．DP9.役割理解・連携行動		教育的支援を実践する専門家としての役割と限界を知ることで、組織内の一員としての連携の重要性を理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回のリアクションペーパー（2点×15回） 30%	：	毎回、講義への感想・意見と質問への回答を求める。どちらも記述できている場合は2点、どちらかのみの場合は1点と採点する。
講義への参加度（20点） 20%	：	グループ・ディスカッションへの参加度、プレゼンテーションの質、グループへの貢献度などを総合的に判断する。特に、割り当てられたプレゼンテーションの質を重視する。
小論文（30点） 30%	：	講義内で学んだ知識が正確に述べられているか、自らの問題として捉えられているか、主張が論理的かを重視する。
小テスト（10点×2回） 20%	：	受講者の理解度を測るための小テストを行う。講義内で示された重要語句の説明を求め、10点満点で採点する。2回実施する（進度に応じて実施回数を変える場合がある）。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特別支援学校―幼稚部教育要領/小学部・中学部学習指導要領/高等部　文部科学省　2015
特別支援学校学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)　文部科学省 2015
【新訂版】特別支援教育の基礎基本　独立行政法人国立特別支援教育総合研究所　　2015　ジアース教育新社
【改訂版】特別支援教育基本用語100　明治図書出版　2014
物語としての発達/文化を介した教育―発達障がいの社会モデルのための教育学序説　津田英二　生活書院　2012
アメリカの教室に入ってみた: 貧困地区の公立学校から超インクルーシブ教育まで 赤木和重　ひとなる書房　2017

その他　講義中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワーの時間帯（初回伝達）

場所：　研究室

備考・注意事項：　メールでも対応する。メールには、必ず氏名と所属を記すこと。
メール・アドレス、オフィス・アワーについては、講義初回に提示する。
murata-k@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**「障害」とは何か** 障害概念についての基礎的内容。ICFモデルの説明。近年の社会的問題（臓器移植や出生前診断）の話題から自己の問題として捉える。	講義内容について復習する。提示された話題について、今後のグループ討議のため調べておく。	4時間
第2回	**「支援」と「合理的配慮」を考える** 「支え合い、援ける」という関わりについての根源性を問う。障害者権利条約、障害者差別解消法の説明から「合理的配慮」概念について考える。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは講義中に提示する（キーワードの一例：ICFモデル　障害者差別　合理的配慮　当事者主権など）。	4時間
第3回	**障害児教育の歴史・変遷：特殊教育から特別支援教育へ** 国内外の動向を概観し、世界的潮流の中で日本の障害児教育がどのような変遷をたどったかを知るとともに、特別支援教育の理念と基本的な考え方を理解する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：就学義務　養護学校制度　中央教育審議会　ウォーノック報告など）。	4時間
第4回	**特別支援教育の制度（１）：個別の教育支援（指導）計画/特別支援教育コーディネーター** 計画書の内容/書き方、コーディネーターの役割について、具体例を提示し解説する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：個別の教育支援計画　個別の指導計画　特別支援教育コーディネーター　医療的ケア　など）。	4時間
第5回	**特別支援教育の制度（２）：校内支援体制/センター的機能/地域連携** 教員間及び専門職間連携について、就労移行支援や障害者福祉の現状なども踏まえ、解説する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：特別なニーズ　発達検査　校内支援会議　センター的機能　など）。	4時間
第6回	**特別支援教育の制度（３）：インクルーシブ教育と共生社会** 近年の各国の教育環境との比較を通して、インクルージョンの理念と日本の現状を提示する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：インクルージョン　インテグレーション　通級による指導　交流及び共同教育　など）。	4時間
第7回	**特別支援教育の理論と方法（１）：視覚障害** 視覚障害教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：弱視　点字　触覚教材　拡大教科書　晴眼者　など）。	4時間
第8回	**特別支援教育の理論と方法（２）：聴覚障害** 聴覚障害教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：難聴　人工内耳　指文字　手話　キュード・スピーチ　など）。	4時間
第9回	**特別支援教育の理論と方法（３）：知的障害** 知的障害教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：知能検査　知能指数　発達指数　各教科等を合わせた指導　自立活動　など）。	4時間
第10回	**特別支援教育の理論と方法（４）：肢体不自由** 肢体不自由教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：痙直型まひ　アテトーゼ型まひ　筋ジストロフィー　コミュニケーションエイド　てんかん発作　など）。	4時間
第11回	**特別支援教育の理論と方法（５）：重複障害/病弱** 重複障害教育及び病弱教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：重度・重複障害　AAC　VOCA　院内学級　ターミナル期　など）。	4時間
第12回	**特別支援教育の理論と方法（６）：自閉症スペクトラムとその近接障害** 障害概念及び支援方法について解説。LD及びADHD、発達障害概念についても取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：自閉症　アスペルガー障害　LD　ADHD　二次的障害　アセスメント　など）。	4時間
第13回	**特別支援教育の理論と方法（７）：性同一性障害、うつ病、言語障害、パーソナリティ障害など、「障害」に近接する問題** 近年注目される障害概念や発達障害との関連が指摘されるものなどを中心に、事例を交え説明する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：ジェンダー　LGBT（性的マイノリティ）　言葉の教室　吃音　かん黙　など）。	4時間

第14回	**障害と教育を巡る諸問題：障害者差別/就労/福祉政策/貧困/外国にルーツがある家庭** 障害を巡る教育や社会の諸問題を考えることで教育的支援の意味について掘り下げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：家族支援　就労支援　法定雇用率　障害者総合支援法　貧困問題　外国にルーツがある家庭　など）。	4時間
第15回	**特別支援教育の今後と課題（総括）** これまでの講義について総括し、特別支援教育における今後の方向性と課題について提示する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：インクルーシブ教育システム　スクールクラスター　共生社会　など）。	4時間

1

授業科目名	**教育課程論(初等)／教育課程論(小学校)**				
担当教員名	**赤沢真世**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	私立中学校・高等学校での非常勤講師（英語科）の経験（1ヶ月×3年）（全15回）				

授業概要

教育課程やカリキュラムは、教育内容としての教材や生徒の学習経験を、組織的に編成するために用意された教育計画である。本講義では、小学校における学習指導要領の歴史的展開や社会状況の変化を踏まえ、学習指導要領の基本構造や特色について、その背景にある教育思想や学力観を踏まえながらさまざまな具体的な事例をもとに考察する。また、今後ますます求められる特色ある学校づくりと教育課程開発について、国際理解教育やキャリア教育・いのちの教育等の事例を取り上げ、教育課程編成の現状と課題について考察する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	戦後日本の教育課程の変遷、および求められるこれからの教育課程の枠組み	戦後日本の教育課程の変遷についての基礎的知識を持つとともに、求められるこれからの教育課程について現在の議論を踏まえて説明できる。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	これまでの教育課程の変遷を踏まえて、教育課程をめぐる議論の要点や課題を発見し、自らの意見を述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	50%	： 基礎的な知識を問う問題（8割）、論述問題（2割）。論述問題では、授業であつかった議論やその論点を踏まえて、自身の意見を論理的に表せているものを評価する。
課題レポート	40%	： シャトルシートへの記述（分析的・総合的に論じているもの）への＋評価（10点）、ミニレポート（30点：授業内課題２回（15点×2回＝30点））
授業への参加度	10%	： 授業中での積極的な発言や姿勢

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
田中耕治	よくわかる教育課程（改訂版）	ミネルヴァ書房	2018年
文部科学省	小学校学習指導要領（総則）		2017年

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： オフィスアワーの時間、場所は初回授業時に周知する。
オフィスアワー以外でも応相談。その場合は事前にメールでアポイントメントを取ること。
メール：akazawa@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、教育課程（カリキュラム）論の範囲・定義** 教育課程の定義を知り、現代の教育課程をめぐる課題について意識を持ちます。	理想の時間割を考え、仕上げてくる。	4時間
第2回	**戦後教育課程の変遷（学習指導要領を中心に）**	戦後教育課程の変遷についてのテキストを読み、まとめる。	4時間

	カリキュラムの類型や変遷を概観し、教育課程（カリキュラム）のイメージを持ちます。 さらに、戦後の教育課程の流れをおもに学習指導要領の変遷を見ていくことによって捉えます。		
第3回	**現代日本における教育課程をめぐる主な立場（１）経験主義** とくに、経験主義カリキュラムによって立つ取組や実践（生活単元学習）について理解をはかります。	経験主義によって立つ実践レポートを読み、感想をまとめる。	4時間
第4回	**現代日本における教育課程をめぐる主な立場（２）系統主義** １９８０年ごろまでの経験主義カリキュラムと学問中心カリキュラムの両軸を理解し、とりわけ系統主義によってたつ学問中心カリキュラムの仕組みを教科書分析することで確認します。	系統学習、学問中心主義についての資料を読み、まとめる。【ミニレポート】教科書比較	4時間
第5回	**現代日本における教育課程をめぐる主な立場（３）現代に求められる学力観** １９８０年ごろからの学力観を概観し、現代求められる学力であるPISA型学力や21世紀型能力についても知ることで、求められる教育課程について考えます。	全国学力調査の問題例を分析する。	4時間
第6回	**カリキュラム構成（１）総合カリキュラム** とくに現代求められる力に照らして、総合学習や生活単元学習のカリキュラムが持つ意義や位置づけについて理解します。	道徳の教科化についての資料を読み、論点をまとめる。総合学習の意義について資料を読み、まとめる。	4時間
第7回	**カリキュラム構成（２）領域ー道徳教育の教科化、特別活動論** 特別活動や道徳の時間などの「領域」について、カリキュラム上の意義と意図について考えます。道徳が教科化する流れを教育課程の視点から検討します。	該当のテキスト部分を読み、まとめる。	4時間
第8回	**小学校課程におけるカリキュラム開発—授業論（１）　授業の要素、カリキュラムマネジメント** 教育課程にもとづく授業論の要素を知り、教育課程のデザインのあり方との関係を考えます。 カリキュラムマネジメントの大きな視点と授業論の具体的な視点をつなげて考えます。	印象に残っている授業を授業の要素で整理する。次時にむけて教材教具の条件について考える。	4時間
第9回	**小学校課程におけるカリキュラム開発—授業論（２）教材・教具と発問の意義** 目標に照らした教材教具のあり方や発問を考えます。有田和正の実践や斎藤喜博の実践を紹介します。	一つの単元を選び、教材・教具のあり方を考える。	4時間
第10回	**教育課程の評価・カリキュラム評価（１）　子どもの学びのメカニズム** 教育課程を作り上げる際の出発点となる子どもの学びのメカニズムについて、生活における子どもなりの考えや理論（素朴概念）をもとに考えます。また、隠れたカリキュラムについても子どもの学びの一つとして捉えます。	素朴概念を活かした授業についてポイントを整理する	4時間
第11回	**教育課程の評価・カリキュラム評価（２）　教育評価の変遷と３つの機能** 教育評価のこれまでの歴史を概観するとともに、単元を通した評価の意味・位置づけを理解します。	評価論の変遷についてまとめる	4時間
第12回	**教育課程の評価・カリキュラム評価（３）　新しい評価法** 目標に準拠した評価としてさらに求められるこれからの新しい評価法について、パフォーマンス評価やルーブリック、ポートフォリオなどの思想・方法論について、海外の動向も合わせながら深めていきます。	【ミニレポート】現代に求められる教育課程を踏まえて、パフォーマンス評価について、パフォーマンス課題を設定する。小学校外国語活動をめぐる議論を整理する。	4時間
第13回	**新しい教育課程の課題（１）　小学校英語** 小学校外国語活動の導入を軸として、新しい教育課程の創造という視点で現代に必要な教育課程について考えます。	指定された動画を見て、感想をまとめる。	4時間
第14回	**新しい教育課程の課題（２）ESD,　プログラミング教育** あたらしい時代に求められる知識や技能という観点から新学習指導要領にて注目されているESD（持続可能な社会のための教育、開発教育）、プログラミング教育等を取り上げ、検討します。教育課程の有機的なつながりのなかで如何に実践が組み入れられるかについて議論します。	指定された動画や資料を読み、まとめる。	4時間
第15回	**教育課程を改めて問い直す（カリキュラムマネジメント）・まとめ** 教育課程の枠組みを問いなおすために「カリキュラム・マネジメント」の考え方をあらためて押さえるとともに、「夜間中学校」の取り組みを紹介し、現代日本の教育課程ではとりこぼしてしまっている（きた）側面について考えます。さらに総括と質疑応答、基礎的事項の確認を行います。	定期試験に備えて、重要事項をまとめ、疑問事項を明らかにする。	4時間

授業科目名	**教育方法論**				
担当教員名	山本はるか				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、学校現場において、教育目標を実現するために何をどのように教えるかという教育方法の課題を取り扱い、児童を指導するための方法・技術を学ぶことを目的とする。具体的には、教育目標・教育内容・教材・教授行為・教育評価の各側面から、授業実践を行う上で基礎となる知識を修得することをめざす。そして、教育現場での実践に生かせるような教育方法の理論的知識や概念、および情報機器の活用などを含めた今日的課題について理解を深め、多様な側面から授業づくりにおける実践的な力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	**目標**：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	教育方法に関する基礎的な考え方・知識	教育方法に関する基礎的な考え方や知識を修得することができる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	学習指導案の作成と授業実践	教育方法の基本的な考え方や知識を学習指導案の作成と授業実践に活用することができる。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	授業づくりに際して、教員が直面する課題を見出すことができる。
2 ．DP5.計画・立案力	発見した課題の解決に向けて、学習指導案を作成することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		**評価の基準**
定期試験 50%	：	教育方法に関する基礎的な知識を修得できているかどうかを判断する。
授業内課題を含むレポート 50%	：	教育方法に関する基礎的な知識を用いて、学習指導案を作成できているかどうかを判断する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・文部科学省『小学校学習指導要領解説』東洋館、2018年
・田中耕治編『時代を拓いた教師たち』日本標準、2005年
・田中耕治編『時代を拓いた教師たちⅡ』日本標準、2009年
・奈須正裕『教師という仕事と授業技術』ぎょうせい、2006年
・田中耕治編著『教職教養講座　第5巻　教育方法と授業の計画』協同出版、2017年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜日　3限
場所：　研究室（本館5F）

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：「教育方法」の範囲、授業を構成する要素** 本講義の目標、内容、評価を知る。授業を成立させる要素を知る。	予習シートの作成：行動主義、構成主義	4時間
第2回	**教育目標論：教授法・学習観の変遷** 教授法・学習観の変遷を知り、教育目標について考える。	予習シートの作成：指導言	4時間
第3回	**学習者の学びと教育内容をつなぐ教授行為（１）教師の指導言** 教師の指導言の重要性、種類を知る。	予習シートの作成：発問	4時間
第4回	**学習者の学びと教育内容をつなぐ教授行為（２）発問の工夫** 教師の教授行為のうち、特に「発問」の意義を知り、発問づくりを行う。	予習シートの作成：教育内容、教材	4時間
第5回	**学習者の学びを高める教材・教具論（１）教育内容・教材・教具の区別** 教育内容・教材・教具について、それぞれの定義を押さえ、区別することの意義を知る。	予習シートの作成：教材解釈、教材開発	4時間
第6回	**学習者の学びを高める教材・教具論（２）教材解釈・教材開発**	予習シートの作成：学習形態	4時間

	教材解釈と教材開発の違いを知る。学習指導案で使用する教材を開発する。		
第7回	**学びの様式と指導形態（１）学習集団論、学習形態** 能力別編成、学び合いの授業などを知る。	予習シートの作成：板書	4時間
第8回	**学びの様式と指導形態（２）板書、情報機器の活用** 板書の方法、情報機器の活用方法を知る。	予習シートの作成：教育評価	4時間
第9回	**教育評価論：目標と評価の一体化、目標に準拠した評価、パフォーマンス評価** 教育評価論の歴史と、今求められる評価の考え方と方法を知る。	これまでの学修内容を整理し、テストに備える。	4時間
第10回	**中間まとめ、マイクロ・ティーチング・オリエンテーション** 授業の導入の意義や目的を知り、導入5分間の授業づくりを行う。	テストの復習をする。マイクロ・ティーチングの構想と練習を行う。	4時間
第11回	**マイクロ・ティーチング（１）　５分間の授業導入** 5分間の授業導入を行う。	振り返りシートを作成する。	4時間
第12回	**マイクロ・ティーチング（２）　分析** 前回の振り返りを踏まえて、分析を行う。	振り返りシートを完成させる。	4時間
第13回	**学習指導案の作成（１）　教育目標・教育内容の検討** 学習指導案を作成するために、教育目標と教育内容を整理する。	学習指導案を作成する。	4時間
第14回	**学習指導案の作成（２）　発問・教材の検討、授業展開の練り直し** 学習指導案を完成させるために、発問や教材を検討し、授業全体の展開を練り直す。	学習指導案を完成させる。	4時間
第15回	**まとめ** グループで学習指導案を検討し、これからの教育実践の在り方について考察する。	学習指導案レポートの吟味、修正を行う。	4時間

1

授業科目名	**道徳教育の指導法**				
担当教員名	**徳永正直**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

「道徳とは何か」また「道徳を教えることは可能か」という理論的な問題を踏まえながら、道徳教育のあり方を検討する。小学校ではとりわけ子どもの発達段階の特徴を踏まえた「道徳」授業のあり方を検討する必要がある。そのために道徳性の発達理論を踏まえたモラルジレンマ授業などの意義と問題点を解説し、「特別の教科」として道徳が位置づけられるまでの経緯を歴史的に考察する。学習指導要領の解説に関連して、模擬授業を行い、「考え議論する道徳」授業のあり方を考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：
道徳性の発達理論を踏まえて「道徳」の授業を展開するための基礎的な力量を養う。

目標：
「道徳」の授業のための資料を精選する力に基づいて、「道徳」授業を展開することができる。

汎用的な力

1 ．DP8.意思疎通
他者とコミュニケーションを深め、相互理解・相互啓発を図ることができる

2 ．DP4.課題発見
道徳教育のあり方について自分なりの「問い」や問題意識を持つことができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内の小レポート	45%	：授業内容をキーワードを含んで要約し、自分自身の意見を論理的に述べることができる。毎回3点満点で評価する。
授業における課題の達成	20%	：提示した課題、学習指導案作成、模擬授業の展開などの理解度と達成度について評価する。
レポート	35%	：授業全体を通じて関心を持ったテーマを選択して1600字以上のレポートを作成し、論理的整合性や主張に一貫性があること、レポートの形式を踏まえていることなどを基準に評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
井ノ口淳三編	道徳教育（改訂版）	学文社	2016年

参考文献等

宇佐美寛『「道徳」授業をどうするか』（明治図書、1989年）
宇佐美寛『「道徳」授業における言葉と思考ー「ジレンマ」授業批判』（明治図書、1999年）
徳永正直『教育的タクト論ー実践的教育学の基礎概念』（ナカニシヤ出版、2004年）
文部科学省「小学校学習指導要領」2017年
文部科学省「小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳」2017年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、道徳教育にかかわる内容について自主的な学習をおこなうこと。
各授業の最後にキーワードを含む小レポートを提出するが、丁寧に記述すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　後日連絡します。

場所：　徳永研究室

備考・注意事項：　授業外での質問などの方法
質問などは授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス
徳永：tokunaga-m@osaka-seikei.ac.jp
必ず「道徳教育の指導法：受講生」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　道徳教育と自己の教育体験** 小中学校で体験した「道徳」授業あるいは道徳教育を振り返り、そもそも「道徳」の問題として何が求められていたのかを考える。 また、家庭教育を含めた被罰体験を通じて何が求められていたのか、そこから「道徳」とは何かを検討する。	次回のレジメにある野生児研究について調べる。	4時間

第2回	**「教育」の重要性と危険性（１）ーボルトマンの人間学と赤ん坊の優れた能力** 人間にとっての「教育」の重要性と必要性をボルトマンの人間学によって基礎づけ、赤ん坊の優れた学習可能性について確認する。同時に、「教育」が思想・思考方法・感性を統制する危険性を解説し、道徳教育に求められる慎重な態度について検討する。	赤ちゃん学を手がかりにして、赤ん坊の優れた能力についてまとめる。	4時間
第3回	**「教育」の重要性と危険性（２）ー守・破・離と型の教育の重要性と問題点** 社会的組み込み過程としての「教育」について考える。太平洋戦争以前の「教育勅語体制」の道徳教育と戦後の「教育基本法体制」下の道徳教育を比較する。	教育勅語体制下の道徳教育の問題についてレポートする。	4時間
第4回	**日本における道徳教育の歴史（１）太平洋戦争以前「修身」科と国定教科書** 道徳教育の歴史を問うことの意義と明治・大正・昭和への時代変化の中での道徳教育について解説する。	次回のレジメにある参考資料を読んでおくこと。	4時間
第5回	**日本における道徳教育の歴史（２）戦後の特設「道徳の時間」の導入から「特別の教科　道徳」へ** 特設「道徳の時間」導入の背景といわゆる「道徳」授業に対する批判を紹介し、「考え議論する道徳」のあり方について検討する。	「道徳」授業に対するいくつかの批判の論点を整理すること。	4時間
第6回	**子どもの問題行動とその背景ー「いじめ・自殺」問題への社会的注目とその背景を歴史的に解説する。** 1980年代の「いじめ・自殺」問題への社会的注目以後今日に至るまで「いじめ」問題が解決されないのはなぜか？学校教育における管理主義の弊害と子どもの人権保障について考える。	「子どもの権利条約」についてレポートし次回授業で発表する。	4時間
第7回	**道徳の本質を考える。（１）カントの根本悪と道徳的自律** 哲学者カントの道徳律と根本悪について解説し、現代社会における科学技術の急激な発展がカントの道徳律に対して疑問を投げかけていることを理解する。とりわけ生命倫理の問題について理解する。	生命倫理をめぐるいくつかの問題についてレポートし、次回授業で報告する。	4時間
第8回	**道徳の本質を考える。（２）功利主義的道徳とその限界** 「最大多数の最大幸福」原理と倫理学における自由主義の原理の限界を明らかにする。個人の自己決定権の尊重がもたらす弊害を環境問題の解決との関係で明らかにする。	授業内容を1000字程度に要約する。	4時間
第9回	**学習指導要領の解説と小学校「特別の教科　道徳」の教科書** 学習指導要領で示された指導項目と「道徳」授業の教材の対応関係を、「特別の教科　道徳」の教科書をもとにして検討する。 具体的な単元の中からいくつか資料を選んで検討する。	「特別の教科　道徳」の教科書を調べる。	4時間
第10回	**道徳性発達の理論とモラルジレンマ授業（１）コールバーグの3水準6段階の発達理論** インカルケーション（教え込み）としての「道徳」授業に対する批判を克服する手がかりとしてのモラルジレンマ授業の基礎にある道徳性発達の理論をピアジェやブルの理論に関連づけて解説する。そしてモラルジレンマ授業とは何かを理解する。	モラルジレンマ授業で使用されるジレンマ教材と指導案のモデルを調べる。	4時間
第11回	**道徳性発達の理論とモラルジレンマ授業（２）モラルジレンマ授業の実践（模擬授業）** 小学校高学年の道徳授業の教材のうちジレンマ資料を用いて道徳授業の指導案を作成し、模擬授業を行う。	模擬授業に対する感想と改善点を次回授業で報告する。	4時間
第12回	**モラルジレンマ授業の実践（模擬授業）ー「特別の教科　道徳」における学習評価のあり方を考える。** モラルジレンマ授業の意義と問題点を解説し、精選されたジレンマ資料によって議論することを通じて「道徳」授業の可能性を考える。また、道徳科における学習評価のあり方について検討する。	「道徳」授業における学習評価のあり方について各自でさらに調べること。	4時間
第13回	**教育的タクト（１）ーモラルジレンマ授業以外の「道徳」授業のあり方** 「道徳」授業に限らず優れた授業実践者には必ず備わっている教育的タクトについて解説する。たとえばヘルバルトは「堅固な道徳性格」を教育目的として掲げ、意図的計画的な教育を大切にしたが、それでも教育の理論と実践を結びつけるタクトの重要性に気づいていた。 モラルジレンマ授業以外のロールプレイング授業などでもタクトが重要であることを解説する。	授業内容を1000字程度に要約しておくこと。	4時間
第14回	**教育的タクト（２）ー教育関係におけるタクトの働き** 道徳教育は何も授業に限られるのではなく、学校教育のあらゆる場面において行われている。特に教師と子どもの具体的な関係の中では、教師の側からの直接的間接的な道徳的働きかけがなされている。そこでも教育的タクトが重要であることを解説する。	教育的タクトの働きについてレポートにまとめる。	4時間
第15回	**まとめー道徳教育の理想的なあり方について議論する。** これまでの授業内容のまとめとして、各自が道徳教育について作り上げた見解を発表し、議論する。	レポートのテーマを決めること。必ず、何故このテーマにしたのかを明確に示すこと。	4時間

1

授業科目名	**道徳教育の指導法**				
担当教員名	**服部敬一**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教諭（２３年），小学校教頭（５年），教育委員会指導主事（２年），小学校長（７年）（全１５回）				

授業概要

道徳教育の基盤である道徳の意味や善悪，正しさについての理解をもとに，児童に道徳教育を行うことの意義を理解させるとともに，「特別の教科　道徳（道徳科）」の特質や指導方法について論じる。その際，学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育との違いや関連について論じながら，学級づくり，児童理解，生活指導のあり方についても取り上げる。その中で，道徳教育の理論や方法，道徳性の発達について，実際の児童の姿を具体的に示しながら，教師として求められる姿勢や態度，指導力について論じる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	道徳教育に関する専門的な知識の習得	道徳的に生きることにどのような意味があるのか，道徳を教えるとはどういうことかについて理解することができる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	「特別の教科　道徳」の指導に関する専門的な基礎知識と実践的な技能の獲得	「特別の教科　道徳」の授業理論，教材理解，指導方法，評価について理解し，実践的な授業力や評価する力の基礎を身につけることができる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		物事を根本から考え直すことで，課題に気づくことができる。
2 ．DP5.計画・立案力		目標を明確にし，それを達成するための計画を立案することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)
　模擬授業

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
シャトルシート	30%	： 授業内容を正しく理解できているかという観点から評価する。
指導案作成	10%	： それまでの授業内容の理解に基づいた効果的な指導案が作成できているかどうかを評価する。
受講態度	10%	： 授業に積極的に参加し，進んで課題に取り組む態度を評価する。
期末試験「筆記」	50%	： 授業内容の理解度を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編	・ 廣済堂あかつき	・ 2017年

参考文献等

・授業の中で配布する。
・授業の中で適時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限・昼休み
場所：　研究室
備考・注意事項：　具体的な質問方法については、初回授業時に周知します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**道徳的に生きることの意味**	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，道徳的に生きることについて理解を深める。	4時間

	道徳的に生きることは世知と一致しないように見えるかも知れない。果たしてそうなのか？道徳的に生きることの意味について理解を深める。		
第2回	**価値観の多様化の中の道徳教育　～道徳の問題に正解はあるか～** 現在は価値観の多様化と言われる社会である。したがって，道徳の問題には答えがないように思われがちである。果たしてそうなのか？価値観が多様化する社会における道徳教育はどのように行われるべきかについて考えを深める。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，価値観が多様化する社会における道徳教育について考えを深める。	4時間
第3回	**児童（子ども）と社会と道徳上の課題** 今の日本社会における子どもの道徳に関わる問題について話し合うとともに，資料をもとに理解を深める。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，子どもの道徳上の問題について考えを深める。	4時間
第4回	**学習指導要領がめざす道徳教育** 『小学校学習指導要領』における道徳教育が「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」と「特別の教科　道徳（道徳科）」によって構成されていること，それぞれの特質や機能について理解する。	『小学校学習指導要領』やノートを用いて復習し，「学校の教育活動全体を通いて行う道徳教育」と「特別の教科　道徳」の特質について整理し，記憶する。	4時間
第5回	**道徳教育において分かることの意味** 道徳教育では「分かること」よりも「感じること」「意欲を高めること」が重要であると思われがちである。ここで，今一度，道徳教育において分かることの意味について考え，理解を深める。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，子どもの道徳上の問題について考えを深める。	4時間
第6回	**「特別の教科　道徳（道徳科）」の教材理解** 「特別の教科　道徳（道徳科）」の教科書に載っている教材を用いて，それで何を指導するか，どんなことに気付かせるかについての理解を深める	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「特別の教科　道徳（道徳科）」の教材理解について考えを深める。	4時間
第7回	**「特別の教科　道徳（道徳科）」の授業構想** 前時の教材を用いてどのような授業をすればよいかを構想し，それを交流し合う中で，「特別の教科　道徳（道徳科）」の授業理論について理解を深める。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「特別の教科　道徳(道徳科）」の授業づくりについて考えを深めるとともに，授業構想を立てる。	4時間
第8回	**「特別の教科　道徳（道徳科）」の指導案発表会** 前時の授業及びその後で作成した学習指導案の発表会を行い，指導案についての意見を述べ合い，指導者の指導を通して「特別の教科　道徳(道徳科）」の授業についての理解を深める。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「特別の教科　道徳（道徳科）」の授業について考えを深めるとともに，学習指導案を改善する。	4時間
第9回	**「特別の教科　道徳（道徳科）」の師範授業** 前時と同じ教材を用いて指導者が模範授業（模擬授業）を行い，その授業について意見を述べ合い，指導者の指導を通して「特別の教科　道徳（道徳科）」の授業についての理解を深める。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「特別の教科　道徳（道徳科）」の授業について考えを深めるとともに，学習指導案を改善する。	4時間
第10回	**「特別の教科　道徳（道徳科）」の授業づくり** これまでの模擬授業，師範授業を通して深まった考えに立ち，新たな教材を用いて指導案を作成する。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「特別の教科　道徳（道徳科）」の授業について考えを深める。	4時間
第11回	**「特別の教科　道徳（道徳科）」の模擬授業の検討会** 前時に作成した指導案について，検討し，課題や改善点を明確にすることで，「特別の教科　道徳（道徳科）」の授業についての理解を深める。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「特別の教科　道徳（道徳科）」の授業について考えを深める。	4時間
第12回	**「特別の教科　道徳（道徳科）」の評価** 『学習指導要領』が示す「特別の教科　道徳（道徳科）」の評価について理解するとともに，授業評価，子どもの評価の意味についても理解する。	講義の内容を『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』や配付資料，ノートを用いて復習し，「特別の教科　道徳（道徳科）」の評価について考えを深める。	4時間
第13回	**「特別の教科　道徳（道徳科）」の指導計画の作成** 「特別の教科　道徳（道徳科）」の指導計画の作成について，『小学校学習指導要領』の基本的な考え方，その意味について理解する。	講義の内容を『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』や配付資料，ノートを用いて復習し，「特別の教科　道徳（道徳科）」の指導計画について考えを深める。	4時間
第14回	**学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育** 学校における道徳教育は，学校の教育活動全体を通じて行うものであることを理解した上で，道徳教育の全体計画をもとに，その特質，教育の場，教育の方法，手だてについて具体的に理解する。	講義の内容を『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』や配付資料，ノート等を用いて復習し，学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について理解を深める。	4時間
第15回	**学級づくりと道徳教育** 小学校教育における学級は，道徳性を育む上で重要な場である。そこで，どのような目標をもって，どのように児童（子ども）を育てていくのか，その基本的な考え方について理解を深める。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，学級づくりと道徳教育について理解を深める。	4時間

1

授業科目名	**特別活動の指導法**				
担当教員名	**松田修**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教諭、教育委員会、校長として勤務。 特別活動に関わる研究部にて、学級活動・児童・生徒会活動の実践指導を行う（全15回）				

授業概要

特別活動の教育的な位置づけや役割などについて、学習指導要領の「特別活動の目標・内容」を通して理解できるようにするとともに、特別活動を推進していく上で必要な知識・技能を習得していくことを目的とする。また、特別活動の内容のである「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」についての目標や内容などについても理解できるようにする。とりわけ「学級活動」は、「いじめ・不登校などの予防的役割」を果たすことが期待されており、具体的な指導法や実習等も取り上げながら講義を進めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	特別活動の内容である学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事についての理解を深める。	特別活動の重要な視点である「社会参画」「人間関係形成」「自己実現」など、自分なりに自覚し、行動しようとすることができる。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	子どもたちを取り巻く急激な社会の変化中で、今日的な教育課題について探究することができる。
2 ．DP6.行動・実践	特別活動の重要な視点である「社会参画」「人間関係形成」「自己実現」など、自分なりに自覚し、行動しようとすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行いません。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	20%	： 授業内での役割遂行や自主的発表、諸活動への参加状況などを評価します。
授業振り返りシート	30%	： 授業内容が的確にまとめられ理解できているか、自分の考えや思いが述べられているかを評価する。
期末テスト	50%	： 授業で行った範囲の中から、授業内容を的確に把握できているかを確認する筆記テストを実施する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
中園大三郎　他	・ 21世紀社会に必要な「生き抜く力」を育む　特別活動の理論と実践　－新学習指導指導要領に対応－	・ 学術研究出版社	・ 2018年

参考文献等

・小学校学習指導要領解説　特別活動編　　文部科学省　　東洋館出版　　平成29年6月

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
テキストをもとに次回学修する内容について予習を行うこと。また、授業後は配布プリントをもとに授業の内容を復習し、次回の授業に向けて備えること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜4限
場所：　研究室
備考・注意事項：　具体的な質問方法については、初回授業時に周知します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　教育課程における特別活動の位置づけと教育的意義** 本授業の目標・内容、進め方や評価方法について確認する。また、特別活動の教育課程の位置付けや教育的意義について学ぶ。	これまでの特別活動の経験や体験について、具体的な活動について振り返り整理しておく。	4時間

第2回	**特別活動の歴史的変遷** アメリカの教科外活動に源流をみる特別活動についての流れや日本の特別活動の歴史的変遷を学ぶ。	テキストをもとに、歴史的な変遷について概観し、授業内容を確認する。また、配布プリントにより復習し、歴史的変遷について理解を深める。	4時間
第3回	**特別活動の特質と指導原理** 特別活動の目標や内容、特質などから特別活動で大切にしたい基本や指導原理について学ぶ。	テキストを基に、特別活動の目標や特質、指導の基本などについて概観し、授業内容を確認する。また、配布プリントをもとに復習し、特別活動の特質や指導原理について理解を深める。	4時間
第4回	**学級活動①　学級活動の目標・内容と指導法** 学級活動の目標・内容と指導法について学ぶ。	テキストを基に、学級活動の目標・内容・指導法などについて概観し、授業内容を確認する。また、配布プリントをもとに復習し、学級活動の目標・内容、指導法について理解を深める。	4時間
第5回	**学級活動②　学級活動(1)の学習指導案の作成** 学級活動(1)の学習指導案の作成の仕方について学ぶ。	テキストをもとに、学級活動(1)の指導案について概観し、授業内容を確認する。また、配布プリントにより復習し、学級活動(1)の指導案作成についての理解を深める。	4時間
第6回	**学級活動③　学級活動(2)の学習指導案の作成** 学級活動(2)の学習指導案の作成の仕方について学ぶ。	授業内容を配布プリントを基に復習し、学級活動(2)の指導案作成の仕方について理解を深める。	4時間
第7回	**学級活動④　学級活動の年間指導計画の作成** 学級活動の年間指導計画の作成について学ぶ。	テキストを基に、学級活動の年間指導計画について概観し、授業内容を確認する。また、配布プリントで復習し、年間指導計画についての理解を深める。	4時間
第8回	**学級活動⑤　学級活動「話合い活動」の実習** 学級活動(1)(2)について役割分担を行い、事前に決められた題材について模擬授業（話合い活動）を行う。	授業時配付のプリント（学級活動ノート）に、本日の題材について、自分の考えを整理しておく。	4時間
第9回	**児童会活動の目標・内容と指導法** 児童会活動の目標や内容及び指導法について学ぶ。	テキストを基に、児童会活動の目標・内容・指導法について概観し、授業内容を確認する。また、配布プリントをで復習し、児童会活動の目標・内容、指導法等について理解を深める。	4時間
第10回	**委員会活動の活動内容や年間指導計画について** 各委員会の活動内容について考えるとともに年間指導計画の立案について学ぶ。	テキストを基に、委員会活動の年間指導計画を概観し、授業内容を確認する。また、配布プリントで復習し、委員会活動の年間指導計画についての理解を深める。	4時間
第11回	**クラブ活動の目標・内容と指導法** クラブ活動の目標や内容及び指導法について学ぶ。	テキストを基に、クラブ活動の目標・内容・指導法について概観し、授業内容を確認する。また、配布プリントで府k収支、クラブ活動の目標・内容、指導法について理解を深める。	4時間
第12回	**学級活動⑥　学級活動「学級集会活動」の実習** 事前に役割分担を行い、「ねらい」にあった学級集会活動を行う。	テキストをもとに「学級集会活動」のねらいや目標について概観しておく。また、振り返り表を基に、学級会集会の在り方について理解を深める。	4時間
第13回	**学校行事の目標・内容と指導法** 学校行事の目標や内容及び指導法について学ぶ。	テキストを基に、学校行事の目標・内容、指導法について概観し、授業内容を確認しておく。また、配布プリントで復習し、学校行事の目標・内容、指導法について理解を深める。	4時間
第14回	**特別活動と他の教育活動との関連** 特別活動の視点から見る「特別の教科　道徳」や生徒指導、各教科との関連や役割について学ぶ。	テキストを基に、他の教科、生徒指導との関連について概観し授業内容を確認する。また、配布プリントで復習し、他の教育活動との関連について理解を深める。	4時間
第15回	**特別活動と学級経営** 学級経営における特別活動の果たす役割について学ぶ。	テキストを基に、学級経営における特別活動の果たす役割について概観しておく。配布プリントを基に復習し、学級経営と特別活動の関連について理解を深める。	4時間

1

授業科目名	**国語科指導法Ⅰ**				
担当教員名	**辻村敬三**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都府立聾学校教諭（6年）、京都府小学校教諭(14年）、京都府教育委員会指導主事（7年）の勤務経験（全15回）				

授業概要

はじめに、子どもの認識・思考、国語能力を視野に入れた国語科の授業設計について、様々な学習指導理論と関連させつつ概説する。次に、領域ごとに単元の学習指導案を作成し、模擬授業を通して省察、改善を行う。また、国語科に必要な指導技術について、具体的な指導場面に即して実技指導・演習により身に付ける。指導案検討・模擬授業・授業研究をグループで行うことで、授業改善のための指導内容や方法について省察的に検討する力を身に付ける。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	教科に関する教養	国語科の指導方法について、個別の学習内容に即した指導理論と留意点を理解している
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	指導技能	学習指導案の構成を理解し具体的な授業を想定した学習指導案を作成することができる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		模擬授業及びその省察を通して、自らの課題を把握することができる。
2 ．DP5.計画・立案力		学習の流れを見通して、学習指導計画を立案できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
模擬授業の指導案	50%	： 講義の内容を踏まえ、必要な条件を備えた指導案が書けていることを基準として評価する。
期末レポート	30%	： 国語科の指導法に関する理論について、実戦に即した理解、考察がされていることを基準として評価する。
模擬授業への参加	20%	： 模擬授業の事前準備、他者の模擬授業への協力、授業研究会での発言等を総合的にとらえて評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
辻村敬三	・ 国語科内容論×国語科指導法	・ 東洋館出版	・ 2019年
光村図書	・ 国語四下　はばたき	・ 光村図書	・ 2017年

参考文献等

文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年3月告示）』東洋館出版　2017年
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編』東洋館出版　2017年
その他の参考文献については開講時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。国語科内容論を履修済みであることが望ましい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜２限（10:40－12:10）
場所：　辻村研究室(中央館2階)
備考・注意事項：　授業後にも相談に応じる。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**子どもの認識・思考、国語の能力の発達と主体的・対話的で深い学びを実現する授業設計** 国語科学習指導理論の基礎的な内容として、子どもの認識・思考、国語の能力の発達について学び、学習指導要領に授業改善の指針として示された「主体的・対話的で深い学び」との関連を考察する。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の〔知識及び技能〕に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間

第2回	**学習指導案の構成と〔知識及び技能〕「言葉の使い方」の授業設計・学習指導案の作成** 「言葉の使い方」の学習として「慣用句」を取り上げた授業を設計し、1時間の学習指導略案（1時間分）を作成します。また、学習体験（ワークショップ）を通して発声・発音、発言・発話、聞き方についての指導技術を学び、それを生かしてグループ内でのショート模擬授業の具体的な計画を立てます。	指導略案を完成させ、ショート模擬授業のシミレーションや練習を行う。	4時間
第3回	**模擬授業（「言葉の使い方」）の実施と学習指導案の改善** 作成した指導案に基づいてグループ内でショート模擬授業を行います。模擬授業後、授業の構成や指導者の指導技術についてグループで授業研究を行い、学習指導案を再検討し、改善を図ります。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「読むこと」（文学的な文章）に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第4回	**「読むこと」（文学的な文章）の学習指導理論と授業設計・学習指導案の作成** 「読むこと」（文学的な文章）の授業を設計し、1時間の学習指導略案（1時間分）を作成します。また、板書の方法を学習体験（ワークショップ）を通してを学び、それを生かしてグループ内でのショート模擬授業の具体的な計画を立てます。	模擬授業を省察し､指導技術上の今後の課題をまとめる。	4時間
第5回	**模擬授業（「読むこと」（文学的な文章））の実施と学習評価を観点とした検討** 作成した指導案に基づいてグループ内でショート模擬授業を行います。模擬授業後、授業の構成や指導者の指導技術についてグループで授業研究を行い、学習指導案を再検討し、改善を図ります。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「学習指導案の作成」に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第6回	**授業の省察・研究の方法と学習指導案の改善** 国語科における授業分析、授業評価の手法を学び、これまでに行ってきた学習指導案を自己分析、自己評価します。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「指導技術」に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第7回	**国語科授業に必要な指導技術及び情報機器の活用方法** 国語科授業に必要な指導技術や情報機器の活用方法を学び、グループでのワークショップを通して、指導方法の意味や留意点を学びます。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「読むこと」（説明的文章）に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第8回	**「読むこと」（説明的な文章）の学習指導理論と授業設計・学習指導案の作成** 「読むこと」（説明的文章）の授業を設計し、単元の学習指導計画と1時間の学習指導略案（1時間分）を作成します。また、教師の指導言について学習体験（ワークショップ）を通してを学び、それを生かしてグループ内でのショート模擬授業の具体的な計画を立てます。	指導略案を完成させ、ショート模擬授業のシミレーションや練習を行う。	4時間
第9回	**模擬授業（「読むこと」（説明的な文章））の実施と省察・学習指導案の改善** 作成した指導案に基づいてグループ内でショート模擬授業を行います。模擬授業後、授業の構成や指導者の指導技術についてグループで授業研究を行い、学習指導案を再検討し、改善を図ります。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「話すこと・聞くこと」に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第10回	**「話すこと・聞くこと」の学習指導理論と授業設計・学習指導案の作成** 「話すこと・聞くこと」の授業を設計し、1時間の学習指導略案（1時間分）を作成します。また、話し合い活動の指導法について学習体験（ワークショップ）を通してを学び、それを生かしてグループ内でのショート模擬授業の具体的な計画を立てます。	指導略案を完成させ、ショート模擬授業のシミレーションや練習を行う。	4時間
第11回	**模擬授業（「話すこと・聞くこと」）の実施と省察・学習指導案の改善** 作成した指導案に基づいてグループ内でショート模擬授業を行います。模擬授業後、授業の構成や指導者の指導技術についてグループで授業研究を行い、学習指導案を再検討し、改善を図ります。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「書くこと」に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第12回	**「書くこと」の学習指導理論と授業設計・学習指導案の作成** 「書くこと」の授業を設計し、単元の指導計画と1時間の学習指導略案（1時間分）を作成します。また、ノート指導の方法について学習体験（ワークショップ）を通してを学び、それを生かしてグループ内でのショート模擬授業の具体的な計画を立てます。	指導略案を完成させ、ショート模擬授業のシミレーションや練習を行う。	4時間
第13回	**模擬授業（「書くこと」）の実施と省察・学習指導案の改善** 作成した指導案に基づいてグループ内でショート模擬授業を行います。模擬授業後、授業の構成や指導者の指導技術についてグループで授業研究を行い、学習指導案を再検討し、改善を図ります。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「知識・技能」に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第14回	**〔知識・技能〕（書写毛筆を使った）学習指導案の作成** 毛筆を使った書写の授業を設計し、1時間の学習指導略案（1時間分）を作成します。また、毛筆書写の指導方法について学習体験（ワークショップ）を通してを学び、それを生かしてグループ内でのショート模擬授業の具体的な計画を立てます。	これまでの資料やノート、作成した指導案を整理し、ポートフォリオ作成の準備をする。	4時間
第15回	**総括及び質疑応答** これまでに行ってきた模擬授業の指導案を中心に、資料やノートを整理してポートフォリオを作成し、国語科の指導法や指導技術について課題を探り、今後の学修計画を考えます。	模擬授業を振り返り､自己の指導技術の今後の課題をまとめる。	4時間

1

授業科目名	**社会科指導法Ⅰ**				
担当教員名	**丸野亨・西裏慎司**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	丸野亨：1997年4月～2018年3月まで、公立小学校教員2年、国立大学附属小学校教員19年（うち主幹教諭1年、副校長4年）の実務経験がある。（全15回担当） 西裏慎司:1982年4月～2013年3月まで、公立小学校教員31年（うち教頭5年）の実務経験がある。（全15回担				

授業概要

小学校の社会科の基本は、身のまわりで起っている様々な問題を自ら発見し解決していく学習であることを理解する。そのために、現場で指導するときに役立つ、地域教材の発掘・開発、教材の提示方法、指導方法（フィールドワークや地名調べ等）、指導計画、指導案の作成、模擬授業などを構成することにより、より身近に小学校の社会科の楽しさやおもしろさを感じるようにする。また、模擬授業後には、より良い授業をめざし授業検討会を行い、実践力を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	社会科の授業を構成するための必要な知識	模擬授業を行うに当たって、必要事項を指導案に掲載する。
汎用的な力		
1 ．DP5.計画・立案力		教材研究を行い指導案を作成する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業後の課題	：	楽しい授業を構築するために必要な授業内容の把握について、独自のルーブリックにより３段階で評価します。
30%		
授業への参加度	：	教員とのやり取りや授業中に記入するシャトルシートを、独自のルーブリックにより評価します。
20%		
確認テスト	：	楽しい授業にするための授業内容についての理解度を評価します。
50%		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 小学校学習指導要領解説「社会編」	・ 東洋館出版社	・ 2018年

参考文献等

文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示）東洋館出版　2017年
文部科学省『小学校学習指導要領』（平成20年3月告示）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業教室
備考・注意事項： オフィスアワー等についての詳細は、初回の授業時に周知します。
具体的な質問方法については、初回授業時に周知します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（評価法と講義目的について）** 民主的な社会の一員としての自覚と能力を養うために、身近な生活におけるいろいろな問題を解決する学習を進める教科が社会科であることを知る。さらに、１５回分の講義の流れと評価方法を知る。	具体的なフィールドワークについて調べる。	4時間
第2回	**地域教材と調査活動（相川のまちのフィールドワーク等）** 生活科の町たんけんとの違いを意識し、フィールドワークに実施する。	生活と社会科のフィールドワークの違いについて整理する	4時間
第3回	**相川のまちの校区地図づくり** 調べたことを的確に表す方法として、３年生では校区地図に表すことが適切であり、表現方法を研究する。	校区地図を作成するための必要な共通要素を事前に調べておく。	4時間
第4回	**地名調べ（各出身地の地名調べに置き換えることも可）** 地名を調べることにより、地名の成り立ちや地域の歴史を知る。	居住地にある地名について、その成立経過などを調べる。	4時間
第5回	**各出身地のまちの紹介（地名調べを基にして）＊大阪のまち紹介に置き換えることも可**	どのようにしてリーフレットを構成すれば、居住地を地域を紹介できるか考える。	4時間

	まちの紹介をするためのリーフレットの内容を検討する。		
第6回	**先人のはたらき（４年生の地域開発単元）** 開発を中心に進めるが、文化の発展に尽くした人物についても研究する。	地域の発展に尽くした人物を調べる。	4時間
第7回	**日本の国土と世界（地形、気候、都道府県名、国名等）** 世界の中の日本について知り、国土に対する愛情を育てる授業を研究する。	４７都道府県名と位置を白地図に書き込むことができるようにする。	4時間
第8回	**人物を中心した歴史学習（小学校の授業を通して）** ４２人の人物について、歴史の中でどのようなことを行ったかを時代背景などを踏まえて検討する。	歴史学習で取り上げる４２人の人物についての主なプロフィールを調べる。	4時間
第9回	**日本の政治と経済（ディベート等による討議形式で）** 日本の政治や経済の仕組みについて知る。さらに、民主主義において議論の大切さをディベートにより確信する。	事前に日本の政治や経済についてまとめる。	4時間
第10回	**指導案作成について** 導入時の工夫について研究する。	子どもの興味を引く導入について研究する。	4時間
第11回	**指導案作成　（１）　教材開発、教材研究、指導計画等** 子どもが動き出す導入に必要な教材を検討する。	子どもが興味を引く教材を考える。	4時間
第12回	**指導案作成　（２）　本時の展開、準備物等** 導入・展開・まとめと授業が流れるための発問について研究を進める。	主発問の言葉を考える。	4時間
第13回	**模擬授業　（１）（検討会）** 授業のよさを中心に板書をもとに検討会を実施する。	板書計画をしっかりたてる。	4時間
第14回	**模擬授業　（２）（検討会）** 授業のよさを中心に体験的な活動を取り上げ検討会を実施する。	社会科での体験的な学習について調べる。	4時間
第15回	**総括と質疑応答** 子どもが楽しく活動できるかどうか検討する。	楽しい社会科の授業とは何かということをまとめる。	4時間

1

授業科目名	**算数科指導法Ⅰ**				
担当教員名	**橋本隆公**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教員としての実務経験を通した算数科の指導に関する体験知（全15回）				

授業概要

指導者は算数の意義とその重要性を理解した上で指導を実施する必要がある。そこで本授業では、各学年の発達や各領域の系統性を理解した上で、基礎的・基本的な知識及び技能と、思考・表現・判断を駆使する問題解決能力を高められる「算数科における問題解決学習」の実践を遂行するための指導法の教材研究・理解、指導案作成、模擬授業による実践を中心に授業実践力を身につけることを目的とする。具体的には、教員による模擬授業と指導案作成の指導後、協同的に指導案・板書計画作成、および、模擬授業に取り組む。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	算数科教育における教材研究・理解、指導案作成、模擬授業による実践	算数科の授業実践力を身につける

汎用的な力

1 ．DP5.計画・立案力	指導案を作成することができる
2 ．DP6.行動・実践	模擬授業で実践することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業中に行う期末試験 40%	： 算数科学習指導案の書き方
授業中に行う模擬授業 30%	： 自ら作成した指導案と、その指導案に基づく模擬授業の技能面
授業への参加度 30%	： 教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言など

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『算数科教科書　わくわく算数』　新興出版社啓林館　2011年　橋本隆公　他
『算数科教科書　わくわく算数　指導書』　新興出版社啓林館　2011年　橋本隆公　他
『小学校学習指導要領（平成20年3月告示）』東京書籍 2008年　文部科学省
他　授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月・火・金の昼休み
場所：　橋本研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　ー算数の授業づくりを考えるー** 授業の目的・概要・スケジュール、および、教員による模範授業と学生のグループ編成	各自分担の単元について調べる	4時間
第2回	**算数科における問題解決学習における授業モデルの模範授業と指導案作成の説明** 教員の模擬授業を通した指導案の書き方の説明、および、グループ毎の授業づくりのポイントの解説	本時の指導案を作成する	4時間
第3回	**第１学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法** 第１学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第1回プレ模擬授業、および、本時指導案検討会	プレ授業のふり返りと各自の本時案の修正	4時間
第4回	**第１学年「量と測定」「図形」「数量関係」の指導案立案、教材研究と指導法** 第１学年「量と測定」「図形」「数量関係」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第2回プレ模擬授業、および、本時指導案検討会	プレ授業のふり返りと各自の本時案の修正	4時間
第5回	**第２学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法**	プレ授業のふり返りと各自の本時案の修正	4時間

	第２学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第3回プレ模擬授業、および、本時指導案検討会		
第6回	**第２学年「量と測定」「図形」「数量関係」の指導案立案、教材研究と指導法** 第２学年「量と測定」「図形」「数量関係」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第4回プレ模擬授業、および、本時指導案検討会	プレ授業のふり返りと各自の本時案の修正	4時間
第7回	**第３学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法** 第３学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第1回模擬授業、および、研究討議	第３学年「数と計算」の模擬授業のふり返りと算数科の内容の理解に関するワークシート	4時間
第8回	**第３学年「量と測定」「図形」「数量関係」の指導案立案、教材研究と指導法** 第３学年「量と測定」「図形」「数量関係」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第2回模擬授業、および、研究討議	第３学年「量と測定」「図形」「数量関係」の模擬授業のふり返りと算数科の内容の理解に関するワークシート	4時間
第9回	**第４学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法** 第４学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第3回模擬授業、および、研究討議	模擬授業のふり返りと算数科の内容の理解に関するワークシート	4時間
第10回	**第４学年「量と測定」「図形」「数量関係」の指導案立案、教材研究と指導法** 第４学年「量と測定」「図形」「数量関係」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第4回模擬授業、および、研究討議	第４学年「量と測定」「図形」「数量関係」の模擬授業のふり返りと算数科の内容の理解に関するワークシート	4時間
第11回	**第５学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法** 第５学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第5回模擬授業、および、研究討議	模第５学年「数と計算」の擬授業のふり返りと算数科の内容の理解に関するワークシート	4時間
第12回	**第５学年「量と測定」「図形」「数量関係」の指導案立案、教材研究と指導法** 第５学年「量と測定」「図形」「数量関係」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第6回模擬授業、および、研究討議	第５学年「量と測定」「図形」「数量関係」の模擬授業のふり返りと算数科の内容の理解に関するワークシート	4時間
第13回	**第６学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法** 第６学年「数と計算」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第7回模擬授業、および、研究討議	模擬授業のふり返りと算数科の内容の理解に関するワークシート	4時間
第14回	**第６学年「量と測定」「図形」「数量関係」の指導案立案、教材研究と指導法** 第６学年「量と測定」「図形」「数量関係」の指導案立案、教材研究と指導法の解説　第8回模擬授業、および、研究討議	第６学年「量と測定」「図形」「数量関係」の模擬授業のふり返りと算数科の内容の理解に関するワークシート	4時間
第15回	**総括と質疑応答** 教員からの指導案の加筆修正のポイント、および、模範授業の見直しを通した授業づくりのポイントの振り返り	各自の指導案の修正	4時間

1

授業科目名	**理科指導法Ⅰ**				
担当教員名	**福岡亮治**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都市立小学校教諭として授業を実施（６年間：１年平均授業数：２００日以上×５時間以上の１０００時間以上） 京都市教育委員会で小学校理科教員研修講師（６年間：年間１５回以上）				

授業概要

本授業は、小学校の理科における理科教育的および自然科学的な理論的要素と教育現場における実践的要素のつながりを図りながら、理科授業の在り方全体を把握し、理科指導法の知識や技能を身に付け教育実践力の育成を目指すことを目的とする。特に今日的に必要とされる探究的内容に重点を置き、多くの実験を体験することで，教材や実験の開発と授業の組み立ての技能を獲得する。さらに、小学校教科書と学習指導要領に記載されている内容から逸脱しないように注意しながら安全で理解が深まる理科実験の展開を考えるとともに教材開発を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
１．DP1.幅広い教養やスキル	理科実験に関する教養	学習指導要領・教科書の分析・考察を通して初等理科実験の内容について理解を深めることができる。
２．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	理科実験に関する知識・技能	安全に配慮しながら結果が明瞭になる理科実験を実践するために学習指導要領・教科書の分析・考察を行う。
汎用的な力		
１．DP4.課題発見		学習指導要領・教科書の分析・考察を通して初等理科実験の内容について理解を深めることができる。
２．DP7.完遂		理科実験の学習指導要領・教科書の分析・考察の結果について指定の形式にそってまとめることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	：	授業中の小テスト等、その他授業中の論理的、積極的な発言などを評価
40%		
課題研究発表	：	①授業での学びの視点を生かした教材開発を行い、その成果物と研究プロセスを評価 ②授業での学びを反映した指導案を作成し、その評価を行う
40%		
グループ課題達成度	：	毎時与えられる理科実験の課題を解決するために教材研究を行い、その結果の分析・考察したレポートの内容と研究プロセスを評価
20%		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 小学校学習指導要領解説　理科編	・ 東洋舘出版	・ 2018年

参考文献等

参考書・参考資料等
授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日３限

場所： 福岡：研究室（中央館３階）

備考・注意事項： 授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。

メールアドレス
福岡亮治：fukuoka@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「理科指導法Ⅰ：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**評価法と講義目的についてオリエンテーション**	グループ課題に向けての研究計画の立案	4時間

	理科内容論を振り返った上で今後の授業の進め方、評価の方法、授業中のルール等の伝達を行い、１５回の授業を通して獲得すべき力（実践力）の見通しを持つ		
第2回	**教材研究１　小学校第3学年「磁石の性質」** ①該当範囲の教科書分析 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の実験の実施 ④①～③で得た知識をもとに授業および教材の分析を行う	教材研究１　小学校第3学年「磁石の性質」について実践した理科実験の考察を踏まえた上で学習指導要領を読み込む	4時間
第3回	**教材研究２　（１）　小学校第４学年「もののあたたまり方を調べよう」前半** ①該当範囲の教科書分析 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の実験の実施 ④①～③で得た知識をもとに授業および教材の分析を行う	教材研究２　（１）　小学校第４学年「もののあたたまり方を調べよう」前半について実践した理科実験の考察を踏まえた上で学習指導要領を読み込む	4時間
第4回	**教材研究２　（２）　小学校第４学年「もののあたたまり方を調べよう」後半** ①該当範囲の教科書分析 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の実験の実施 ④①～③で得た知識をもとに授業および教材の分析を行う	教材研究２　（２）　小学校第４学年「もののあたたまり方を調べよう」後半について実践した理科実験の考察を踏まえた上で学習指導要領を読み込む	4時間
第5回	**教材研究３　（１）　小学校第５学年「もののとけ方」前半** ①該当範囲の教科書分析 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の実験の実施 ④①～③で得た知識をもとに授業および教材の分析を行う	教材研究３　（１）　小学校第５学年「もののとけ方」前半について実践した理科実験の考察を踏まえた上で学習指導要領を読み込む	4時間
第6回	**教材研究３　（２）　小学校第５学年「もののとけ方」後半** ①該当範囲の教科書分析 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の実験の実施 ④①～③で得た知識をもとに授業および教材の分析を行う	教材研究３　（２）　小学校第５学年「もののとけ方」後半について実践した理科実験の考察を踏まえた上で学習指導要領を読み込む	4時間
第7回	**教材研究４　（１）　小学校第６学年「水よう液の性質」前半** ①該当範囲の教科書分析 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の実験の実施 ④①～③で得た知識をもとに授業および教材の分析を行う	教材研究４　（１）　小学校第６学年「水よう液の性質」前半について実践した理科実験の考察を踏まえた上で学習指導要領を読み込む	4時間
第8回	**教材研究４　（２）　小学校第６学年「水よう液の性質」後半** ①該当範囲の教科書分析 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の実験の実施 ④①～③で得た知識をもとに授業および教材の分析を行う	実教材研究４　（２）　小学校第６学年「水よう液の性質」後半について践した理科実験の考察を踏まえた上で学習指導要領を読み込む	4時間
第9回	**教材研究及び発問の検討　小学校第６学年「水よう液の性質」** ①該当範囲の教科書分析 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の実験の実施 ④①～③で得た知識をもとに授業および教材の分析を行う ※特に発問に照準を当て分析を行う	教材研究及び発問の検討　小学校第６学年「水よう液の性質」　について実践した理科実験の考察を踏まえた上で学習指導要領を読み込む	4時間
第10回	**小学校第６学年「水よう液の性質」の模擬授業の受講** ①該当範囲の模擬授業を児童の立場で受ける ②該当範囲の模擬授業を教員の立場で分析する ③①②で得た情報・知識をもとに授業および教材の分析を行う ④該当範囲の模擬授業の指導案を編集する	小学校第６学年「水よう液の性質」の模擬授業の受講について模擬授業の考察を踏まえた上で学習指導要領を読み込む	4時間
第11回	**小学校第６学年「水よう液の性質」の模擬授業の授業研究・事後討議** 〇前回の模擬授業についての事後討議を行う ・指導案をもとにした交流 ・授業の支援・留意点を中心に交流 ・模擬授業の授業者によるまとめ	模擬授業の考察を踏まえた上で学習指導要領を読み込む	4時間
第12回	**グループ課題　（１）「教科書の流れに沿った教材の開発」前半** ①教科書の調査・分析 ②学習指導要領 ③①②を繰り返し、テーマを探求 ④見つけたテーマをもとに教材、授業、カリキュラムなどを探究	グループ課題達成のための情報収集と材料研究・調達	4時間
第13回	**グループ課題　（２）「教科書の流れに沿った教材の開発」中盤** ①教科書の調査・分析 ②学習指導要領 ③①②を繰り返し、テーマを探求 ④見つけたテーマをもとに教材、授業、カリキュラムなどを探究	グループ課題達成のための情報収集と材料研究・調達	4時間
第14回	**グループ課題　（３）「教科書の流れに沿った教材の開発」後半** ①教科書の調査・分析 ②学習指導要領 ③①②を繰り返し、テーマを探求 ④見つけたテーマをもとに教材、授業、カリキュラムなどを探究	グループ課題達成のための情報収集と材料研究・調達	4時間
第15回	**課題発表会と総括** ①開発した教材の紹介 ②開発した教材を使ってのマイクロティーチングの実施 ③それぞれの教材についての交流 ④まとめ	グループ課題の振り返りと考察レポート	4時間

1

授業科目名	**生活科指導法Ⅰ**				
担当教員名	**丸野亨・中井精一**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	1997年4月～2018年3月まで、公立小学校教員2年、国立大学附属小学校教員19年（うち主幹教諭1年、副校長4年）の実務経験がある。（全15回担当） 1982年4月～2017年3月まで、公立中学校教員（理科）9年、大阪府教育委員会社会教育主事5年、大阪府教育セ				

授業概要

本科目は、生活科の目標・内容を理解し、楽しく授業が展開できるようにすることを目的とする。そのために、体験的な活動、指導方法の研究、学習指導案作成、模擬授業をとおして、授業実践力をつける。フィールドワーク、ものづくりなどの具体的な活動をとおして、作品の見方、支援のあり方、教師の役割等について理解する。また、生活科の理論とその特質を踏まえた学習指導及び評価をとりあげる。授業の組み立て方や学習指導案の作り方は、学習指導案づくりを通して身につくようにする。また、模擬授業も実施する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	楽しい生活科の授業を行うための教養やスキル	授業を楽しくする教養やスキルを身につける。
汎用的な力		
1 ．DP6.行動・実践		学習指導案を作成し、模擬授業を行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業後の課題	30%	： 楽しい授業を構築するために必要な授業内容の把握について、「振り返りシート」により、独自のルーブリックにより３段階で評価します。
授業への参加度	20%	： 教員とのやり取りや授業中に記入する「振り返りシート」を、独自のルーブリックにより評価します。
確認テスト	50%	： 楽しい授業にするための授業内容について論述形式のテストを実施して、理解度を評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「生活編」	・ 東洋館出版社	・ 2018年

参考文献等

文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）』東洋館出版　2018年
その他、授業中に適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後
場所： 授業教室
備考・注意事項： オフィスアワー等についての詳細は、初回の授業時に周知します。
具体的な質問方法については、初回授業時に周知します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（評価法と講義目的について）** 15回の流れを知り、フィールドワークなど体験的な活動などを実際に経験することにより、生活科の授業が充実するための指導法を検討する。	自分が小学校のときの生活科の授業を振り返る。	4時間
第2回	**フィールドワークの基礎（大学周辺地域を探索、地域を知る）ー学外授業ー** 大学周辺地域を探索して、地域の特徴を知る。さらに、フィールドワークのノウハウや留意点などを実地体験をする。	大学への行き帰りで少し足を伸ばして大学周辺地域の探検する。	4時間
第3回	**「生活科マップ」の作成（ミニ発表会）** 生活科マップは、直接子どもとは関係のないものであるが、勤務校で地域を知らなくては生活科の授業ができないので、教員（指導者）が作成すべきものであることを知らせ、マップを作成する。	自分の家の周りの生活科マップを作成する。	4時間
第4回	**公共物や公共施設を利用した教材開発** 公共施設として公立図書館を想定して、その授業について検討し、具体的な発問の必要性を研究する。	実際に公共物や公共施設を自分で利用する。	4時間

第5回	**フィールドワークの応用（大学周辺で「秋さがし」をしながら探索する）ー学外授業ー** 実際に「秋さがし」に出かけたとき、季節を知り、身近な自然に目を向けさせるための諸感覚を使う大切さを検討する。	「秋さがし」のポイントを見つける。	4時間
第6回	**「秋さがし」発表会（交流会）** 「秋さがし」で見つけたことを交流することにより、今まで気付かなかった秋がたくさんあることに気付き、「秋さがし」だけでなく、安全への配慮も怠らないようにすることが大切であることを知る。効果的な交流会にするために、伝え合う活動の充実や言語活動を取り入れるようにする。	子どもが遊びに使うものを考えて、自分で体験する。	4時間
第7回	**自然や物を使った「遊び」（ものづくり）** 「秋さがし」で見つけたものや自分の家の周りで見つけたものを利用して、遊びに使うものをつくることを体験し、研究する。	子どもが遊びに使ういろいろなものを作り、作品の良さのほめ方について考える。	4時間
第8回	**作品の見方を交流（作品紹介、プレゼンテーション）** 出来上がった作品をみんなに紹介するに当たって、友達のよさなどを発表したり、さらによくするためのアドバイスの仕方などについて研究する。	飼育・栽培に必要なことをまとめる。	4時間
第9回	**動植物の飼育・栽培の実際（事例研究）** 飼育・栽培などにおいて、生きものに親しみがわき、伝えたい意欲をわかせるための観察記録の方法を研究する。	授業づくりのための教師の役割についてまとめる。	4時間
第10回	**授業づくりと教師の役割** 教材観や指導観の書き方を知り、指導計画・単元目標・本時の学習など学習指導案の立て方、形式、教師の支援などを研究する。	興味・関心を呼び起こす教材の開発を考える。	4時間
第11回	**教材研究と学習指導案作成** 教科書より模擬授業を行う単元を決め、グループで模擬授業を行うために学習指導案の作成を検討する。	実際に、自分で学習指導案を作成する。	4時間
第12回	**模擬授業と授業検討会（１）ーグループ学習指導案の完成ー** 各自の学習指導案を見直し、模擬授業と授業後の検討会での重要ポイントをまとめる。	グループ模擬授業を実施するための準備をする。	4時間
第13回	**模擬授業と授業検討会（２）ーグループ模擬授業の実施ー** 模擬授業を行い、よかった点、もう少し改良した方がいい点などを話し合い、今後の学習指導案の作成を充実させる。	新学習指導要領「生活」の改訂の趣旨をまとめる。	4時間
第14回	**生活科教育の課題と展望ースタートカリキュラムー** 低学年教育としての生活科、生活科を中心としたスタートカリキュラムなど、生活科の実際の指導の際に起こりうる課題などを検討する。	授業のまとめとこれからの生活科のあり方を考える。	4時間
第15回	**総括とまとめ** 15回授業の振り返りと、これからの教育、ESDの考え方に基づいた生活科について論述するテストを実施する。	授業で使用した資料やワークシートを整理保管して、活用する。	4時間

1

授業科目名	**音楽科指導法Ⅰ**				
担当教員名	矢倉瞳				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校音楽専科を2年経験。（全15回）				

授業概要

学習指導要領改訂をうけた新たな音楽科授業の在り方を概観する。そして主体的な学習を可能とする「生成の原理」について理解し、その上で指導内容の設定、指導内容と評価との関連から音楽科で培う学力及び学校教育における音楽科の位置づけを理解する。講義の前半では、教員が行うモデル授業体験や授業映像聴取を通して学習指導案の各項目について理解し、学習指導案を作成する。後半では、グループごとに各領域の模擬授業と討議会を行い、最終的には討議会の内容を踏まえて再度学習指導案を修正し、学習指導案を作成する能力を習得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：音楽科学習指導案の作成

目標：学習指導要領に基づく音楽科の基礎理論を理解し、指導案を作成することができる。

汎用的な力

1 ．DP5.計画・立案力

目標：児童の発達に沿った指導内容と教材を設定した指導案を作成することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
欠席は3回までとし、欠席4回で最終定期試験を受ける資格が無くなる。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
アセスメントシート 15%	：	各回1点×15回（合計15点） 的確に問いに答えることができている：1点
1～10回の授業内容を問う小テスト 20%	：	20点満点
修正学習指導案及びレポート 15%	：	学習指導要領の理解をふまえて独自の視点で指導案を作成できる：15点 学習指導要領の理解をふまえて指導案を作成できる：5～14点
定期試験 50%	：	50点満点

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
小島律子監修	三訂版 小学校音楽科の学習指導－生成の原理による授業デザイン－	廣済堂あかつき	2018年

参考文献等

『小学校学習指導要領解説－音楽編』文部科学省、教育芸術社。2018年
『生成を原理とする21世紀音楽カリキュラム』日本学校音楽教育実践学会編、東京書籍。2006年
『音楽科　授業の理論と実践』小島律子編、あいり出版。2015年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
原則として、音楽科内容論を修得または履修中のこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：後日連絡

場所：西館6階研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション及び音楽科の目標と内容** ・授業の進め方と評価、欠席の扱い等を知る。 ・班決めを行う。 ・音楽科の目標及び内容について、モデル授業体験及び授業映像聴取によって理解する。	自身が今まで経験してきた音楽の授業像について文章でまとめる。	4時間
第2回	**音楽科の授業像①（鑑賞領域）** ・鑑賞のモデル授業体験及び授業映像聴取を通して、鑑賞の授業像をつかむ。	1年の歌唱共通教材を譜読みする。	4時間
第3回	**音楽科の授業像②（表現領域）** ・表現のモデル授業体験及び授業映像聴取を通して、表現の授業像をつかむ。 ・1年の歌唱共通教材を歌う。	2年の歌唱共通教材を譜読みする。	4時間

第4回	**音楽科の授業観** ・「生成の原理」について、モデル授業体験を通して理解する。 ・2年の歌唱共通教材を歌う。	「生成の原理」がどのような考え方なのか、自身の模擬授業で扱う教材を例に具体的に説明する文章を作成する。	4時間
第5回	**音楽科の基礎的な能力（音楽的な見方・考え方）** ・音楽科の基礎的な能力について、楽曲を知覚・感受する活動を通して理解する。 ・模擬授業で扱う教材を各グループで決める。 ・学習指導案を作成する。（指導案に教材名を記入する。）	模擬授業で扱う教材の教材研究を行う。	4時間
第6回	**指導内容（共通事項）** ・共通事項について、楽曲を知覚・感受する活動を通して理解する。 ・共通事項について理解した上で、自身の模擬授業で扱う教材では共通事項が何になるのかをグループで話し合い、理解を深める。 ・学習指導案を作成する。（グループで話し合った共通事項を指導案に記入する。）	3年の歌唱共通教材を譜読みする。	4時間
第7回	**指導内容（指導事項）** ・指導事項について、授業映像聴取の活動を通して理解する。 ・指導事項について理解した上で、自身の模擬授業で扱う教材では指導事項が何になるのかをグループで話し合い、理解を深める。 ・学習指導案を作成する。（グループで話し合った指導事項を指導案に記入する。） ・3年生の歌唱共通教材を歌う。	4年の歌唱共通教材を譜読みする。	4時間
第8回	**単元目標と評価** ・単元目標及び評価基準について授業映像聴取の活動を通して理解する。 ・単元目標及び評価基準について理解した上で、自身の模擬授業で扱う教材では単元目標及び評価基準がどのようになるのかをグループで話し合い、理解を深める。 ・学習指導案を作成する。（グループで話し合った単元目標及び評価基準を指導案に記入する。） ・4年の歌唱共通教材を歌う。	5年の歌唱共通教材を譜読みする。	4時間
第9回	**単元構成の枠組み①** ・「生成の原理」に基づく単元構成の枠組みについてモデル授業体験を通して理解する。 ・5年の歌唱共通教材を歌う。	6年の歌唱共通教材を譜読みする。	4時間
第10回	**単元構成の枠組み②** ・単元構成の枠組みについて理解した上で、自身の模擬授業で扱う教材ではどのような単元構成単になるのかをグループで話し合う。 ・学習指導案を作成する。（グループで話し合った単元構成を指導案に記入する。） ・6年の歌唱共通教材を歌う。	1～10回の授業内容を復習し、小テストに備える。	4時間
第11回	**小テスト及び学習指導案作成** ・1～10回の授業内容について小テストを行う。 ・模擬授業のための指導案をグループで作成する。	模擬授業に向けて指導案及び教具等の準備、リハーサルを行う。	4時間
第12回	**グループによる模擬授業①（鑑賞）** ・鑑賞の模擬授業及び討議会を行う。	修正指導案及びレポート作成を行う。	4時間
第13回	**グループによる模擬授業②（音楽づくり）** ・音楽づくりの模擬授業及び討議会を行う。	修正指導案及びレポート作成を行う。	4時間
第14回	**グループによる模擬授業③（器楽）** ・器楽の模擬授業及び討議会を行う。	修正指導案及びレポート作成を行う。	4時間
第15回	**グループによる模擬授業④（歌唱）** ・歌唱の模擬授業及び討議会を行う。	修正指導案及びレポート作成を行う。	4時間
第16回	**定期試験**		4時間

1

授業科目名	**図画工作科指導法Ⅰ**				
担当教員名	**藤丸一郎・福岡知子**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	国公立小学校勤務25年（教諭8、教頭2、副校長4、校長11）　公立中学校勤務10年（美術科教諭10）その間、図画工作科及び美術科の教科内容と指導法の実践研究を行った。				

授業概要

図画工作科は、自発的･自主的な表現及び鑑賞の活動を通してつくり出す喜びや価値を手にし、共有することのできる教科である。しかし、技法習得や作品制作に終始し、本来の目標を見落とした指導が行われている場合も少なくない。ここでは、学習指導要領に示された本来の目標や領域の内容を反映した資質・能力をの育成を目指す指導の方法や評価のあり方を互いの模擬授業をもとに交流・検討しながら学修する。併せて、児童の実態に応じた指導と支援を行うための学習指導案の作成･検討を通して、授業実践力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	**目標**：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	図画工作科の授業作成と指導に関する知識・技能	学年や領域に応じて、資質・能力の育成を意識した授業を計画し、指導を行うことができる。

汎用的な力

1 ．DP5.計画・立案力	条件に応じた学習のための授業計画作成と準備や場の設定ができる
2 ．DP8.意思疎通	グループワークや模擬授業において、他人の意見をよく聞き、自分の意図を的確に伝えることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		**評価の基準**
学習指導案	40%	： 内容の妥当性と構成について独自のルーブリックに基づき４段階で評価します。
模擬授業	40%	： 設定、準備、対応について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
討議と振り返りシート	20%	： 討議への参加、意見の内容、振り返りシートの妥当性について、独自のルーブリック及び全学ルーブリックに基づき評価します。

使用教科書

指定する

著者	**タイトル**	**出版社**	**出版年**
文部科学省	・ 小学校学習指導要領解説　図画工作編	・ 日本文教出版	・ 2018年

参考文献等

小学校教科書「図画工作科」　日本文教出版、開隆堂、東京書籍

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
模擬授業に向けた検討や準備は、授業の内外を問わずグループワークとして行うが、各グループで時間調整の上、分担・協力して準備を進めるように心がけること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　藤丸：金曜３限

場所：　藤丸：研究室（中央館２階）

備考・注意事項：　藤丸：授業・会議・研究日等の時間を除いて、できるだけ対応をします。授業前後や昼休みに相談時間の調整に来てください。
福岡：授業以外での連絡先は、後日お伝えします。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**図画工作科の目標と指導の現状（講義目的・学習プランを含めて）** 自らの経験を振り返りながら、図画工作科の現状と教科目標との比較から課題を明らかにし、今後必要とされる指導の方向について考えます。　模擬授業の実施に向けたグループワークの進め方について説明します。	自らの経験を振り返り、領域・項目や材料用具についてまとめる。	4時間
第2回	**造形表現の発達と図画工作科の「指導と評価」** 指導と評価の内容や関係についてとともに、子どもの発達に合わせた指導の必要性を学びます。	学習指導要領解説等を参考に各学年の子どもの特徴を整理する。	4時間

第3回	**「絵や立体、工作に表す活動」の指導と評価** 「絵や立体、工作に表す」活動における学年ごとの材料・用具、題材、作品の特徴について、教科書の題材や実践例をもとに学び、指導のポイントを整理します。	表現活動で用いられる材料・用具とその特性についてまとめる。	4時間
第4回	**「造形遊びをする活動」の指導と評価** 「造形遊びをする」活動における学年ごとの材料・用具、場の設定、題材等の特徴について、教科書や実践例をもとに学び、指導のポイントを整理します。	造形遊びをする活動で用いられる材料や用具とその特性についてまとめる。	4時間
第5回	**学習指導案について** 学習指導案作成のポイントと基本的な約束について理解し、作成の準備をする。	様々な学習指導案を比較し、多様性を確認する。	4時間
第6回	**材料・用具の取り扱いについて** 材料・用具(紙・絵の具・カッター・接着剤・のこぎり等)の種類や安全に配慮した使い方について体験を通して指導のあり方を確認します。	課題を仕上げることを通して材料・用具の取り扱いに慣れる。	4時間
第7回	**「鑑賞する活動」の指導と評価** 「鑑賞活動」の現状をふまえて、多様な活動方法とその評価の観点･方法について具体例をとおして学びます。	小学校における鑑賞活動の例を収集し、交流の準備をする。	4時間
第8回	**楽しい授業創造のポイントと導入の工夫** 題材設定や授業において、楽しみを生み出すポイントや方法、導入の工夫について考え、育てたい資質・能力つなげる必要性を学びます。	楽しいと思われる授業例と導入案を作成し、交流の準備をする。	4時間
第9回	**学習指導案の作成について（１）目標と題材設定の理由** グループ毎に設定した題材について、目標や設定の理由について交流検討を行い、全体交流を通してあり方を確認します。	学習指導案作成に向けて、取り扱う題材を教科書等から検討し、指導の流れを考える。	4時間
第10回	**学習指導案の作成について（２）指導計画と展開** 指導計画のたて方と「展開」を作成する上での基本事項や留意点を学び、グループワークで作成します。	模擬授業で取り扱う題材について、題材観・指導観を作成する。	4時間
第11回	**学習指導案作成と検討** 作成した案について、無理なく目標に向かっているか、文言や形式は適切か等を検討し、グループ毎に模擬授業の準備や練習を行います。	題材観・指導観に沿った指導計画（原案）を作成する。	4時間
第12回	**模擬授業（１）導入** 課題の部分についてグループごとに模擬授業を行い、導入の工夫を中心に、相互の評価と意見交流を通して学びます。	グループ毎に学習指導案にそった授業の準備や練習を行う。	4時間
第13回	**模擬授業（２）発問・板書** 前回の指摘を修正したうえで、グループごとに模擬授業を行い、発問や板書を中心に意見交流を通して指導について学びます。	討議内容を反映して学習指導案の改善をおこなう。	4時間
第14回	**模擬授業（３）個別指導・評価** 前回の指摘を修正したうえで、グループごとの模擬授業を行い、評価や個別指導について意見交流を通して学びます。	討議内容を活用して、留意点や解消法をまとめる。	4時間
第15回	**総括と質疑応答** 模擬授業をふまえて、達成できた部分と課題について総括します。模擬授業後の疑問点について質疑応答により解決を図ります。	講義と模擬授業を振り返り、不安な点や疑問点と自分なりの答えを準備する。	4時間

1

授業科目名	**家庭科指導法**				
担当教員名	**古田豊子**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪市の小学校で校長を経験し、家庭科の研究に取り組んだ。全国小学校家庭科教育研究会全国大会大阪市大会を開催し、大会実行委員長および会場校校長として全学級公開を行う。近畿小学校家庭科教育研究会会長・大阪市家庭部部長を務める。				

授業概要

本講義では、実践的、体験的な活動を通して学習することを重視している小学校家庭科において、子ども達が自分のよさや可能性を発揮しながら自己表現を目指す授業実践をいかに進めればよいかについて考察することを目的とする。特に、家庭生活と家族、衣服への関心、食事への関心および簡単な調理、住まい方への関心、物や金銭の使い方と買い物などを重点に置き学習および指導案の立案と指導法を学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	授業を構築し、魅力ある授業を工夫できる。	家庭科の学習指導案を作成することができる。
2 ．DP1.幅広い教養やスキル	家庭科の内容は、現実の生活と結びついているので、実社会の現象を把握して授業に生かす力をつける。	社会の変化や人々のニーズについての感性を磨く。
汎用的な力		
1 ．DP5.計画・立案力		授業の企画立案をする力を育成する。
2 ．DP9.役割理解・連携行動		グループでの活動を指導する立場を理解し、習得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	50%	： 授業終了後の定期試験において習熟度・理解度を確認し、評価する。
レポート・製作物等の提出物	40%	： 製作作品、レポート、学習指導案の作成、模擬授業を評価する。
授業への積極的参加度	10%	： 建設的、意欲的な発表や討議への積極的な発言参加度を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
古田豊子	・ 小学校の教師を目指す人のための「小学校家庭科」指導法テキスト	・ 開隆堂出版	・ 2015年

参考文献等

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年3月告示）』 東洋館出版　2017年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室
備考・注意事項： 連絡先：ftyk2015@gmail.com

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　　授業の方針及び学習の方法を知る。** 教科の目的に即した授業を進める上での基本的な理念を理解し、自分なりが目指す家庭科の授業について考えます。	生活の中から課題を見つける。	4時間

第2回	**学習指導要領 家庭の目標と意義・育てたい力について学ぶ。** 家庭科で育てるべき能力を理解した上で、それを具体的に授業につなげる方法等について考えます。	生活の中から見つけた課題を整理する。	4時間
第3回	**学習指導要領　家庭　内容Ａ「家族・家庭生活」について理解する。** 家庭生活と家族に関する内容を整理し、学習活動へ展開していく方法を考えます。	見つけた課題を分類し、発表原稿を作成する。	4時間
第4回	**内容Ｂ「衣食住の生活」について学ぶ。** 衣食住に関する内容を整理し、学習活動へ展開していく方法を考えます。	衣生活・住生活について、現代の課題を見つける。	4時間
第5回	**小学校における「食育」の重要性について学ぶ。** 食育に関する実践例をもとに、その重要性と、学習活動への展開方法を考えます。	現代の子どもの食について、討議する内容を整理しておく。	4時間
第6回	**内容Ｃ「消費生活・環境」の指導について学ぶ。** 持続可能な社会について学び、家庭科で指導する内容を整理して学習活動へ展開していく方法を考えます。	持続可能な社会における、家庭科学習の意義について考える。	4時間
第7回	**小物作りの実習指導について学ぶ。** 実習指導に係る方法や留意点を整理し、指導計画を作成、検討します。	裁縫に関する、簡単な実習計画を考える。	4時間
第8回	**安全な実習指導について学ぶ。** 小学生が、初めて針と糸を使って裁縫をするのに必要な指導事項を整理し、指導力向上に役立てます。	自分自身で針と糸使って製作し、楽しさと安全についての配慮事項をまとめておく。	4時間
第9回	**調理実習室での指導事項について学ぶ。** 調理の基礎的事項として、衛生・安全についての指導が重要である。実際に調理室で、具体的な指導内容を実習する。	調理実習について衛生・安全面で気をつけることを整理し、指導者としての課題意識をもつ。	4時間
第10回	**「ご飯とみそ汁」の調理実習を行う。** 実際に調理実習をして、衛生・安全に気をつけて指導するには、どうすればよいか具体的に学ぶびます。	指導者として、実習の重点をまとめる。	4時間
第11回	**家庭科における言語活動の充実について学ぶ。** 家庭科の特性に即した言語活動について、具体例を通して学び、効果的な指導方法を考えます。	家庭科における言語活動について整理しておく。	4時間
第12回	**学習指導案の作成（１）教材研究** 家庭科の学習指導案の構成や記述方法を理解し、試行的に指導案を作成してみます。	模擬授業をする題材を選択しておく。	4時間
第13回	**学習指導案の作成（２）板書計画** 学習指導案に即して板書計画を作成して検討します。	題材にそって授業内容を考える。	4時間
第14回	**模擬授業と評価、意見交換をする。** 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行い、グループで検討会を行い、相互批評、省察を通して学びを深めます。	指導案にそって、発問や板書計画や掲示物を工夫する。	4時間
第15回	**模擬授業と評価、意見交換をする** 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行い、グループで検討会を行い、相互批評、省察を通して学びを深めます。	模擬授業の準備をする。	4時間

1

授業科目名	**体育科指導法Ⅰ**				
担当教員名	**安部恵子**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

小学校体育実技種目は、陸上運動、器械運動、球技、表現ダンス、体つくり運動、水泳などがあげられる。中でも、器械運動は児童自身の運動体験の有無が技の習得に影響を与える傾向にある。本授業では、科学的根拠を基に各種目の指導案を作成し、技能習得のための「こつ」の理解と実践を行う。また、グランドで実践される種目では、効率のよい導線および安全効果的な指導内容が求められる。そこで、体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ、体育科内容論で修得した知識と技術を基に教材研究および指導案作成と指導実践を行い検証する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	小学校体育実技指導に関する幅広い知識の修得	学年や種目の特性を踏まえ教材研究や指導案の立案ができる
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	小学校体育授業の指導法の修得	学年の特性を踏まえ各種目の「こつ」を理解した模擬指導ができる
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		各種目・学年の特性に応じた模擬授業の課題を抽出しその改善案を作成できる
2 ．DP6.行動・実践		各種目・学年の特性に応じた実践可能な模擬授業ができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・その他(以下に概要を記述)

各人が作成した指導案をもとに模擬授業を行う。また、授業者以外の学生からの意見をコメントシートを基に収集し各人の模擬授業に関する課題を抽出し改善案を提出する。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
担当種目の学習指導案の作成と提出 40%	：	①指示された型式にそって時系列に展開されているか②各種目の「こつ」と「めあて」が明確であるか③実践可能な指導内容であり導線も考慮されているか④動作分析などわかりやすく丁寧に図示されているか
指導案立案と模擬授業の技能面 40%	：	①作成された指導案を具現化できたか②声かけ、立ち位置、効果的に移動させているか③スキル修得のための「しかけ」が基本動作にかなって実践されているか
時間外学修レポート 20%	：	①指定された形式で提出期限を守れているか②文献図書を利用し丁寧になされているか②文献図書を利用し丁寧に記述されているか

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	『小学校学秀指導要領解説　体育編』	東洋舘出版	2018年
大友智也	『ビジュアル新しい体育実技』	東京書籍	2017年

参考文献等

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年3月告示）』東洋館出版 2017年。
その他の参考文献に関しては、授業中に随時指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　毎週月曜日の2限目

場所：　安部研究室（中央館２階）

備考・注意事項：　上記以外の時間帯を希望する場合は、時間調整をしますので声をかけて下さい。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**本授業の目的と評価基準および学習プランについてオリエンテーション** ①座学と体育実技の違いと注意点 ②体育の領域改訂の意義と理解 ③児童の体力を把握する方法とその活用法	「運動の意義」について本時の内容を基にまとめる	4時間
第2回	**各種目の特性と「こつ」についての解説と教材研究　（1）陸上運動・球技** 陸上競技（ハードル走・短距離走・リレー競争・幅跳び）およびバスケットボール・バレーボール種目の学年の特性を踏まえた「こつ」を理解した上でそれらの動作を子どもが実践可能にする教具の提案を行う。	小学校体育種目の内、球技種目に関する特性についてまとめる	4時間

第3回	**各種目の特性と「こつ」についての解説と教材研究　（２）器械運動・マット・跳び箱運動** 器械運動・マット・跳び箱運動種目の学年の特性を踏まえた「こつ」を理解した上でそれらの動作を子どもが実践可能にする教具の提案を行う。	小学校体育の器械運動・マット運動・跳び箱運動の種目特性について予習する。特に、体を支える・引き付ける動作に着目しまとめる。	4時間
第4回	**各種目の特性と「こつ」についての解説と教材研究　（３）水泳運動** 水泳運動種目の学年の特性を踏まえた「こつ」を理解した上でそれらの動作を子どもが実践可能にする教具の提案を行う。	小学校体育実技の水泳運動の種目特性について予習する。特に陸上運動と水中運動における生理学的応答の違いに着目する。	4時間
第5回	**導線と指導案作成について学び模擬授業の対象学年と指導種目、指導日程の決定する** グランド・体育館での体育科指導における導線の重要性とその課題を明確にした上で各担当の学年および種目の指導案の作成を行う。また、体育科指導法の指導案作成の際のポイントと注意点を解説する。	小学校指導要領（体育）を読み解き、指導案作成の意義についてまとめる	4時間
第6回	**学年別に見た「跳び箱」の模擬授業** 体育館にて立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し、作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第7回	**学年別に見た「マット運動」の模擬授業** 体育館にて立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し、作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第8回	**学年別に見た「鉄棒運動」の模擬授業** 体育館にて立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し、作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第9回	**学年別に見た「バレーボール」の模擬授業** 体育館にて立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し、作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第10回	**学年別に見た「バスケットボール」の模擬授業** 体育館にて立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し、作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第11回	**学年別に見た「ハードル走」の模擬授業** 立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し、作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第12回	**学年別に見た「幅跳び」の模擬授業** 立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第13回	**学年別に見た「短距離・リレー」の模擬授業** 立案した指導案を基に教科指導を実践する。実際に行った場合でしか見えてこない課題を体験学習し作成した指導案を修正補足を行い必要な専門技術と知識を明確にする。また、受講者同士とも意見交換を行い情報や専門スキルの共有を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第14回	**各種目模擬授業の検証と各自の指導案修正** 各自の体験学習を総括し指導案の最終作成を行う。	実践した模擬授業について体験をもとに振り返り、課題の抽出と改善策を提案する。	4時間
第15回	**総括と質疑応答** 小学校体育科指導の10のポイントについて解説する。キーワード：怪我予防	本時の授業内容を総括し、体育授業遂行時に怪我予防のために注意すべき事項についてまとめる。	4時間

1

授業科目名	**国語科指導法Ⅱ**				
担当教員名	**辻村敬三**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都府立聾学校教諭（6年）、京都府小学校教諭(14年）、京都府教育委員会指導主事（7年）の勤務経験（全15回）				

授業概要

はじめに、子どもの認識・思考、国語能力を視野に入れた国語科の授業設計について、様々な学習指導理論と関連させつつ概説する。次に、領域ごとに単元の学習指導案を作成し、模擬授業を通して省察、改善を行う。また、国語科に必要な指導技術について、具体的な指導場面に即して実技指導・演習により身に付ける。指導案検討・模擬授業・授業研究をグループで行うことで、授業改善のための指導内容や方法について省察的に検討する力を身に付ける。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	教科に関する教養	文化的素養として、言語活動の在り方、日本の言語文化に対する知識・理解を深めることができる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	指導技能	国語科の指導方法について、個別の学習内容に即した指導理論と留意点を理解することができる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		模擬授業及びその省察を通して、自らの課題を把握することができる。
2 ．DP5.計画・立案力		授業研究を通して課題を発見、解決する活動の流れを見通して、学習計画を立案できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
模擬授業の指導案	50%	： 講義、グループディスカッションの内容を踏まえ、授業改善の視点を盛り込んだ授業案が作成できていることを基準に評価する
期末レポート	30%	： グループで行う模擬授業について、関連する国語教育の理論を踏まえて考察されていることを基準に評価する。
模擬授業への参加	20%	： 模擬授業の事前準備、グループディスカッションへの参加、授業研究会での発言を総合的にとらえて評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
辻村敬三	・ 国語科内容論・国語科指導法	・ 東洋館出版	・ 2019年

参考文献等

文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年3月告示）解説　国語編』　東洋館出版　2017年
参考書・参考資料等
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年3月告示）』東洋館出版 2017年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「国語科内容論」「国語科指導法Ⅰ」で身につけた知識や技能をさらに発展、深化させることをめざした授業である。自ら課題を設定し、主体的に授業研究に取り組もうとする態度が求められる。原則として国語科内容論・国語科指導法Ⅰを修得または履修中のこと

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜２限（10:40－12:10）
場所：　辻村研究室(中央館2階)
備考・注意事項：　授業の前後にも質問に応じる。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**子どもの認識・思考、国語の能力の発達と主体的・対話的で深い学びを実現する授業設計**	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「授業改善の方向」に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間

	国語の能力の発達と国語教育に関する先行研究を概観し、国語科の授業の基本的な在り方（構造）について考察し、主体的・対話的で深い学びを実現する国語科授業の在り方を考察します。		
第2回	**「学習指導案の構成と〔知識及び技能〕「言葉の使い方」の授業設計・学習指導案の作成** 新しい学習指導要領で示された国語科の学習指導の在り方について学びます。その上で、学年、教科書をグループで選択し、授業を設計し、学習指導案（「言葉の使い方」）を作成します。	担当グループは、模擬授業の準備と練習を行う。その他のグループは、自グループの学習指導案の解説、提案を準備する。	4時間
第3回	**模擬授業（「言葉の使い方」）の実施と学習指導案の改善** 担当グループによる45分の模擬授業を実施し、事後に授業研究会をもち授業分析を行います。模擬授業、授業研究会を通して得た気付きや考察を国語教育理論と関連付けてレポートにまとめます。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「単元の学習過程」に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第4回	**「読むこと」（文学的な文章）の学習指導理論と授業設計・学習指導案の作成** 新しい学習指導要領で示された「読むこと」(文学的な文章）の学習指導過程について学びます。その上で、学年、教科書をグループで選択し、授業を設計し、学習指導案（「文学的な文章を読むこと」）を作成します。	担当グループは、模擬授業の準備と練習を行う。その他のグループは、自グループの学習指導案の解説、提案を準備する。	4時間
第5回	**模擬授業（「読むこと」（文学的な文章））の実施と学習評価を観点とした検討** 担当グループによる45分の模擬授業を実施し、事後に学習評価を観点とした授業研究会をもち授業分析を行います。模擬授業、授業研究会を通して得た気付きや考察を国語教育理論と関連付けてレポートにまとめます。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「学習評価の方法」に関する章を読み、自グループの学習指導案について分析しレポートにまとめる。	4時間
第6回	**授業の省察・研究の方法と学習指導案の改善** 授業分析の方法を学び、その手法を使って自グループが作成した指導案を分析、検討します。グループ相互の交流を通して考察を深め、指導案に改善を加えます。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「国語科の指導技術」に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第7回	**国語科授業に必要な指導技術及び情報機器の活用方法** 情報機器を活用した指導方法について学びます。また、国語科の指導技術について、自らの実践力を振り返り、強みと課題を明らかにし、今後の学修計画を立てます。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「説明的な文章を読むこと」に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第8回	**「読むこと」（説明的な文章）の学習指導理論と授業設計・学習指導案の作成** 新しい学習指導要領で示された「読むこと」(説明的な文章）の学習指導過程について学びます。その上で、学年、教科書をグループで選択し、授業を設計し、学習指導案（「説明的な文章を読むこと」）を作成します。	担当グループは、模擬授業の準備と練習を行う。その他のグループは、自グループの学習指導案の解説、提案を準備する。	4時間
第9回	**模擬授業（「読むこと」（説明的な文章））の実施と省察・学習指導案の改善** 担当グループによる45分の模擬授業を実施し、事後に「主体的な学び」を観点とした授業研究会をもち授業分析を行います。模擬授業、授業研究会を通して得た気付きや考察を国語教育理論と関連付けてレポートにまとめます。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「スピーチをする」に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第10回	**「話すこと・聞くこと」の学習指導理論と授業設計・学習指導案の作成** 新しい学習指導要領で示された「話すこと・聞くこと」の学習指導過程について学びます。その上で、学年、教科書をグループで選択し、授業を設計し、学習指導案（「スピーチをする」）を作成します。	担当グループは、模擬授業の準備と練習を行う。その他のグループは、自グループの学習指導案の解説、提案を準備する。	4時間
第11回	**模擬授業（「話すこと・聞くこと」）の実施と省察・学習指導案の改善** 担当グループによる45分の模擬授業を実施し、事後に「対話的な学び」を観点とした授業研究会をもち授業分析を行います。模擬授業、授業研究会を通して得た気付きや考察を国語教育理論と関連付けてレポートにまとめます。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「論理的な文章を書く」に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第12回	**「書くこと」の学習指導理論と授業設計・学習指導案の作成** 新しい学習指導要領で示された「書くこと」の学習指導過程について学びます。その上で、学年、教科書をグループで選択し、授業を設計し、学習指導案（「論理的な文章を書く」）を作成します。	担当グループは、模擬授業の準備と練習を行う。その他のグループは、自グループの学習指導案の解説、提案を準備する。	4時間
第13回	**模擬授業（「書くこと」）の実施と省察・学習指導案の改善** 担当グループによる45分の模擬授業を実施し、事後に「深い学び」を観点とした授業研究会をもち授業分析を行います。模擬授業、授業研究会を通して得た気付きや考察を国語教育理論と関連付けてレポートにまとめます。	毛筆書写の実践事例を読み、指導の方法や特徴をレポートにまとめる。	4時間
第14回	**〔知識及び技能〕（書写）毛筆を使った学習指導案の作成** 毛筆書写の指導法を実践事例を通して具体的に学びます。その上で、学年、教科書をグループで選択し、授業を設計し、学習指導案（「毛筆を使用した書写」）を作成し、グループ相互で交流し、検討します。	これまでの授業案作成、模擬授業で作成したワークプリント等を見直し、成果と課題を整理する。	4時間
第15回	**総括と質疑応答** これまでに作成した学習指導案と授業内レポート、事後研究会の資料などをポートフォリオに整理し、自らの学びを省察します。自身の国語科授業指導技術についても省察し、強みと今後の課題を明らかにします。	事前課題として、カード等に書き出しておく。キーワード:国語科授業の特性	4時間

1

授業科目名	**社会科指導法Ⅱ**				
担当教員名	**丸野亨**				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	1997年4月～2018年3月まで、公立小学校教員2年、国立大学附属小学校教員19年（うち主幹教諭1年、副校長4年）の実務経験がある。				

授業概要

暗記教科のイメージが強い社会科から脱却し、子供が考える社会科の授業が展開できるように、実践的な指導力の育成を図る。教材開発・研究、発問、ワークシート、学習形態、評価といった視点から具体的な指導法を理解し、指導案作成、教材準備、模擬授業の実施によってそれらを身に付ける。模擬授業においては授業担当班以外の学生は子供役として参加することで、子供の立場で授業づくりを捉えられるようにする。また、模擬授業後のリフレクションを重ねることを通して「授業の見方」も身に付けられるようにする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	導入の工夫と体験的な学習	体験的な学習を取り入れた導入の工夫を考え、模擬授業を行う。
汎用的な力		
1 ．DP6.行動・実践		体験的な学習を取り入れた導入の工夫を考える。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業後の課題	30%	： 楽しい授業を構築するために必要な授業内容の把握について、独自のルーブリックにより評価します。
授業への参加度	20%	： 教員とのやり取りや授業中に記入するシャトルシートを、独自のルーブリックにより評価します。
確認テスト	50%	： 楽しい授業にするための授業内容についての理解度を評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 小学校学習指導要領解説「社会編」	・ 東洋館出版社	・ 2018年

参考文献等

文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示）東洋館出版　2017年
文部科学省『小学校学習指導要領』（平成20年3月告示）
その他授業中に適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月・火　お昼休み
場所：　研究室
備考・注意事項：　オフィスアワー等についての詳細は、初回の授業時に周知します。
具体的な質問方法については、初回授業時に周知します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションと授業目標立案** 授業の流れ・内容・評価に関するガイダンス。また、この授業で学びたいことを考え、各自の授業の目標を設定するとともに模擬授業単元を決める。	『小学校学習指導要領解説・社会編』を読んでおく	4時間
第2回	**教材研究と授業準備** 模擬授業に向けそれぞれの単元の目標・内容について確認し、模擬授業で扱う教材について考える。	模擬授業で取り上げるべき教材について考えをまとめる。	4時間
第3回	**学習形態と授業準備** 子供が学習の主体となって進む問題解決学習における様々な学習形態について理解するとともに、模擬授業計画と結び付けながら考える。	模擬授業の流れについて考えをまとめる。	4時間
第4回	**ワークシートの工夫・資料読解指導と授業準備**	模擬授業に向けてワークシートを作成する。	4時間

	子供が考えを広げたり深めたりすることのできるワークシートの工夫や資料読解指導の在り方について理解するとともに、模擬授業計画と結び付けながら考える。		
第5回	**子供の思考を促す板書と授業準備** 社会科における板書の役割や特徴、バリエーションについて生活科における板書の重要性について理解するとともに、模擬授業計画と結び付けながら考える。	模擬授業に向けた板書計画を立てる。	4時間
第6回	**評価計画と授業準備** 暗記科目のイメージの大きな原因となっている知識・理解を中心とした評価観を転換し、育成したい資質・能力に合った評価の在り方について理解するとともに、模擬授業計画と結び付けながら考える。	構想している模擬授業計画に評価計画を位置付ける	4時間
第7回	**身近な地域や市区町村の様子に関する単元の模擬授業とリフレクション** 第3学年の内容(1)に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する	4時間
第8回	**地域にみられる生産や販売の仕事に関する単元の模擬授業とリフレクション** 第3学年の内容(2)に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する	4時間
第9回	**人々の健康や生活環境を支える事業に関する単元の模擬授業とリフレクション** 第4学年の内容(2)に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する	4時間
第10回	**自然災害から人々を守る活動に関する単元の模擬授業とリフレクション** 第4学年の内容(3)に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する	4時間
第11回	**我が国の農業や水産業における食料生産に関する単元の模擬授業とリフレクション** 第5学年の内容(2)に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する	4時間
第12回	**我が国の産業と情報の関わりに関する単元の模擬授業とリフレクション** 第5学年の内容(4)に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する	4時間
第13回	**我が国の政治の働きに関する単元の模擬授業とリフレクション** 第6学年の内容(1)に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する	4時間
第14回	**我が国の歴史上の主な事象に関する単元の模擬授業とリフレクション** 第6学年の内容(2)に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する	4時間
第15回	**総括と質疑応答** 子供が考える社会科の授業づくりについて、全模擬授業を通して見えてきた自分たちの授業づくりの「よさ」と「課題」について考える。	子供が考える社会科の授業を構成できたかどうか検討する。	4時間

1

授業科目名	**算数科指導法Ⅱ**				
担当教員名	**橋本隆公**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教員としての実務経験を通した算数科の指導に関する体験知（全15回）				

授業概要

教育現場に就くことで児童の学習状況を評価する立場となる。そこで、本授業では、教科書研究の方法や児童の実態の捉え方、教材開発や学習評価の視点を理解した上で、指導法Ⅰの課題にスポットをあてた「算数科における問題解決学習」を中心とした算数科指導法の実践を遂行する。特にそのための指導のあり方や実践に即した指導案作成などの授業実践力を十分に身につけるとともに、教材開発や学習評価ができることを目的とする。具体的には、教員による模擬授業と指導案作成の指導後、協同的に指導案作成、および、模擬授業に取り組む。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	算数科指導法Ⅰの課題に即した算数科における問題解決学習に関する実践力	指導のあり方や実践に即した指導案作成などの授業実践力を十分に身につけるとともに、教材開発や学習評価ができる。

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践	教材開発や学習評価が伴う指導案作成、および、模擬授業実践ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中に行う期末試験	40%	： 算数科指導法Ⅰの課題に即した算数科における問題解決学習に関する実践に関する知識
授業中に行う模擬授業	30%	： 課題に即し、自ら作成した指導案と、その指導案に基づく模擬授業の技能面
授業への参加度	30%	： 教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などをワークシートの記述や討議会を通して評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	小学校学習指導要領解説　算数編	日本文教出版	2018年
橋本隆公	算数科内容論×算数科指導法	東洋館出版社	2017年

参考文献等

『算数科教科書　わくわく算数』　新興出版社啓林館　2011年　橋本隆公　他
『算数科教科書　わくわく算数　指導書』　新興出版社啓林館　2011年　橋本隆公　他
『小学校学習指導要領（平成20年3月告示）』東京書籍 2008年　文部科学省
他　授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月・火・金の昼休み

場所：　個人研究室７６

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　ー算数科指導法Ⅰの振り返りと算数科指導法Ⅱの課題設定ー** 授業の目的・概要・スケジュール、および、教員による模範授業と課題の抽出	抽出した課題に関する教材研究	4時間
第2回	**算数科における教材開発と学習評価の視点についての説明** 課題抽出ワークシートを活用して、教材開発構想を交流し、模擬授業担当者を決定する。	教材開発と学習評価の文献研究	4時間
第3回	**指導法Ⅰの課題の解決に向けた指導法（１）板書や発問に着目して**	指導案作成・修正、および、板書や発問に関するふり返り	4時間

	板書や発問に着目した模擬授業と研究討議を通して、課題を解決する。		
第4回	**指導法Ⅰの課題の解決に向けた指導法（２）学習のめあてやまとめに着目して** 学習のめあてやまとめに着目した模擬授業と研究討議を通して、課題を解決する。	指導案作成・修正、および、学習のめあてやまとめに関するふり返り	4時間
第5回	**指導法Ⅰの課題の解決に向けた指導法（３）個別指導や机間指導に着目して** 個別指導や机間指導に着目した模擬授業と研究討議を通して、課題を解決する。	指導案作成・修正、および、個別指導や机間巡視に関するふり返り	4時間
第6回	**指導法Ⅰの課題の解決に向けた指導法（４）学び合いやグループ活動に着目して** 学び合いやグループ活動に着目した模擬授業と研究討議を通して、課題を解決する。	指導案作成・修正、および、学び合いやグループ活動に関するふり返り	4時間
第7回	**指導法Ⅰの課題の解決に向けた指導法（５）ノート指導やワークシートに着目して** ノート指導やワークシートに着目した模擬授業と研究討議を通して、課題を解決する。	指導案作成・修正、および、ノート指導やワークシートに関するふり返り	4時間
第8回	**指導法Ⅰの課題の解決に向けた指導法（６）言語活動や発表方法に着目して** 言語活動や発表方法に着目した模擬授業と研究討議を通して、課題を解決する。	指導案作成・修正、および、言語活動や発表方法に関するふり返り	4時間
第9回	**指導法Ⅰの課題の解決に向けた指導法（７）活用力や発展教材に着目して** 活用力や発展教材に着目した模擬授業と研究討議を通して、課題を解決する。	指導案作成・修正、および、活用力や発展教材に関するふり返り	4時間
第10回	**指導法Ⅰの課題の解決に向けた指導法（８）メタ認知や学習感想に着目して** メタ認知や学習感想に着目した模擬授業と研究討議を通して、課題を解決する。	指導案作成・修正、および、メタ認知や学習感想に関するふり返り	4時間
第11回	**指導法Ⅰの課題の解決に向けた指導法（９）学習評価に着目して** 学習評価に着目した模擬授業と研究討議を通して、課題を解決する。	指導案作成・修正、および、学習評価に関するふり返り	4時間
第12回	**指導法Ⅰの課題の解決に向けた指導法（１０）評価計画に着目して** 評価計画に着目した模擬授業と研究討議を通して、課題を解決する。	指導案作成・修正、および、評価計画に関するふり返り	4時間
第13回	**教材開発構想ポスターセッション** 各自の教材開発（模擬授業担当者は、模擬授業と研究討議の内容も含めて）をポスターセッション形式を想定してまとめ、プレポスターセッションに取り組む。	教材開発構想ポスターセッションの準備	4時間
第14回	**教材開発構想ポスターセッション** 各自のポスターセッションによる相互評価を通して、教材開発構想を自己評価する。	教材開発構想ポスターセッションの省察	4時間
第15回	**総括（授業中に行う期末試験）と質疑応答** 各自の教材開発構想を振り返り、算数科指導法Ⅱで抽出された全ての課題の解決を図る。（期末試験）	全体のふり返り	4時間

1

授業科目名	**理科指導法Ⅱ**				
担当教員名	**福岡亮治**				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都市立小学校教諭として授業を実施（６年間：１年平均授業数：２００日以上×５時間以上の１０００時間以上） 京都市教育委員会で小学校理科教員研修講師（６年間：年間１５回以上）				

授業概要

本授業は、小学校の理科における理科教育および自然科学的な理論的要素と教育現場における実践的要素のつながりを図りながら、小学校の理科授業の在り方全体を把握し、理科指導法の知識や技能の育成を目指すことを目的とする。特に児童の実態に即した授業づくりや教材作成、板書作成および授業実践に重点を置き、工夫された指導案の立案と授業の実践力を獲得する。さらに、小学校教科書と学習指導要領に記載されている内容から逸脱しないように注意しながら安全で理解が深まる発展的な理科実験の展開を考えるとともに教材開発を行う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
１．DP1.幅広い教養やスキル	理科実験に関する教養	学習指導要領・教科書の分析・考察を通して初等理科実験の発展的な内容について理解を深めることができる。
２．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	理科実験に関する知識・技能	安全に配慮しながら結果が明瞭になる理科実験を実践するために学習指導要領・教科書の分析・考察を行う。
汎用的な力		
１．DP4.課題発見		学習指導要領・教科書の分析・考察を通して初等理科実験の発展的な内容について理解を深めることができる。
２．DP7.完遂		理科実験の学習指導要領・教科書の分析・考察の結果について指定の形式にそってまとめることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度 40%	：	授業中のミニ課題レポート等、その他授業中の論理的、積極的な発言などを評価する。
グループ課題達成度 10%	：	毎時与えられる理科実験の課題を解決するために理科実験の教材研究を行い、その結果の分析・考察したレポートの内容と研究プロセスを評価する.
授業発表（指導案作成・模擬授業） 50%	：	研究開発した実験を含む授業の指導案作成とその授業の発表を行う。「わかりやすく安全であること」「現場での実践が可能であること」の２観点で評価を行う。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 小学校学習指導要領解説　理科編	・ 大日本図書	・ 2018年

参考文献等

参考書・参考資料等
授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日３限

場所： 福岡：研究室（中央館３階）

備考・注意事項： 授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。

メールアドレス
福岡亮治：fukuoka@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「理科指導法Ⅱ：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

	授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**評価法と講義目的についてオリエンテーション** 理科内容論・理科指導法Ⅰを振り返った上で今後の授業の進め方、評価の方法、授業中のルール等の伝達を行い、１５回の授業を通して獲得すべき力（実践力）の見通しを持つ	グループ課題に向けての研究計画の立案	4時間
第2回	**理科における問題解決学習における授業モデルの模範授業と指導案作成の説明** ①模擬授業を児童の立場で受ける ②模擬授業を教員の立場で分析する ③①②で得た情報・知識をもとに授業および教材の分析を行う ④①～③をもとに模擬授業の指導案を作成する	模擬授業の指導案の作成	4時間
第3回	**教科書内容把握と各社教科書の比較・分析** ①教科書の調査・分析 ②学習指導要領分析	各社教科書の比較・分析レポート	4時間
第4回	**指導案立案と指導法および教材研究** ①教科書の調査・分析（第3回からの続き） ②学習指導要領分析（第3回からの続き） ③①②をもとに指導案を作成	指導案立案と授業準備	4時間
第5回	**授業づくり　（１）「協働で行う授業づくり・教材開発」前半** ①第3・4回目の授業を振り返りテーマを探求 ②見つけたテーマをもとに教材、授業、カリキュラムなどを探究	授業づくりに必要な材料研究と収集活動	4時間
第6回	**　授業づくり（２）「協働で行う授業づくり・教材開発」後半** ①第3・4回目の授業を振り返りテーマを探求 ②見つけたテーマをもとに教材、授業、カリキュラムなどを探究	授業づくりに必要な材料研究と収集活動	4時間
第7回	**小学校の単元での授業実践** ①開発した教材の紹介 ②開発した教材を使ってのマイクロティーチングの実施	作成する授業についての全体発表交流会	4時間
第8回	**小学校の単元の授業事後研究「授業を振り返ってのディスカッション」** ①開発した教材の発表 ②それぞれの教材についての交流 ③まとめ	授業事後研究議事録作成	4時間
第9回	**教科書内容把握と各社教科書の再調査** 第8回の交流会での学びを生かして ①教科書の再調査・分析 ②学習指導要領分析	各社教科書の比較・分析レポート	4時間
第10回	**指導案の再検討と指導法および教材研究** ①教科書の再調査・分析（第9回からの続き） ②学習指導要領分析（第9回からの続き） ③①②をもとに指導案を再検討	指導案再構築と授業準備	4時間
第11回	**授業づくり　（１）「協働で行う授業づくり・教材開発」前半** ①第9・10回目の授業を振り返りテーマを探求 ②見つけたテーマをもとに教材、授業、カリキュラムなどを探究	授業づくりに必要な材料研究と収集活動	4時間
第12回	**授業づくり　（２）「協働で行う授業づくり・教材開発」後半** ①第9・10回目の授業を振り返りテーマを探求 ②見つけたテーマをもとに教材、授業、カリキュラムなどを探究	授業づくりに必要な材料研究と収集活動	4時間
第13回	**小学校の単元での授業実践** ①開発した教材の紹介 ②開発した教材を使ってのマイクロティーチングの実施	マイクロティーチング振り返りレポート	4時間
第14回	**小学校の単元の授業事後研究「授業を振り返ってのディスカッション」** ①開発した教材の発表 ②それぞれの教材についての交流 ③まとめ	授業事後研究議事録作成	4時間
第15回	**課題発表会と総括** 本授業に参加して理科教育に対して自分の教育観がどのように変化したかしなかったかについての自己考察を行う。また、大学での学びが教育現場でどのように生かすことができるかについても考える。	省察レポート	4時間

1

授業科目名	**生活科指導法Ⅱ**				
担当教員名	**丸野亨**				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	1997年4月～2018年3月まで、公立小学校教員2年、国立大学附属小学校教員19年（うち主幹教諭1年、副校長4年）の実務経験がある。				

授業概要

生活科の授業を楽しく展開するために、体験的な活動の重要性について深く理解する。フィルドワーク、動くおもちゃ作りなどの具体的な活動を通して支援のポイントを学び、教材研究、指導案の作成、模擬授業を実施する。また、授業検討会を通して授業課題を明確にし、授業実践力をつけることを目的とする。指導者の役割、評価活動、学習環境づくり等の学習指導にかかわる基礎事項を取り上げ、基本的な指導技術や指導条留意することを理解する。模擬授業後は相互批正を通して、学習指導のあり方を実践的に理解できるよう

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

生活科の授業を構成するための必要な知識

目標：

模擬授業を行うに当たって、必要事項を指導案に掲載する。

汎用的な力

1 ．DP5.計画・立案力

教材研究を行い指導案を作成する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業後の課題	30%	：楽しい授業を構築するために必要な授業内容の把握について、独自のルーブリックにより評価します。
授業への参加度	20%	：教員とのやり取りや授業中に記入するシャトルシートを、独自のルーブリックにより評価します。
確認テスト	50%	：楽しい授業にするための授業内容についての理解度を評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・小学校学習指導要領解説「生活編」	・東洋館出版	・2018年

参考文献等

文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示）東洋館出版　2017年
文部科学省『小学校学習指導要領』（平成20年3月告示）

その他、随時授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月・火　お昼休み

場所：　研究室

備考・注意事項：　オフィスアワー等についての詳細は、初回の授業時に周知します。
具体的な質問方法については、初回授業時に周知します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションと授業目標立案** 授業の流れ・内容・評価に関するガイダンス。また、この授業で学びたいことを考え、各自の授業の目標を設定するとともに模擬授業単元を決める。	学習指導要領解説『生活編』を読んでおく。	4時間
第2回	**教材研究と授業準備** 模擬授業に向けそれぞれの内容が持っている価値について確認し、模擬授業で扱う教材について考える。	模擬授業で取り上げるべき教材について考えをまとめる。	4時間
第3回	**学習形態と授業準備** 子供が自分のめあてをもち、試行錯誤しながら思考を深め気付きの質を高めていくための、学習形態の在り方について、模擬授業と結び付けながら考える。	模擬授業の流れについて考えをまとめる。	4時間
第4回	**ワークシートの在り方と授業準備**	ワークシートの果たす役割について整理する。	4時間

	子供の学びを促すためのワークシートの在り方について、模擬授業と結び付けながら考える。		
第5回	**生活科における板書と授業準備** 生活科における板書の重要性を理解するとともに、模擬授業での板書計画を立てる。	模擬授業の板書計画を複数案考える。	4時間
第6回	**評価計画と授業準備** 客観的評価の難しい生活科における評価の要点を理解し、模擬授業での評価計画を考える。	生活科における評価の役割を考える。	4時間
第7回	**学校と生活に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。** 内容項目(1)学校と生活に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する。	4時間
第8回	**家庭と生活に関する単元の模擬授業実施とリフレクション** 内容項目(2)家庭と生活に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する。	4時間
第9回	**地域と生活に関する単元の模擬授業実施とリフレクション** 内容項目(3)地域と生活に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する。	4時間
第10回	**公共物や公共施設の利用に関する単元の模擬授業実施とリフレクション** 内容項目(4)公共物や公共施設の利用に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する。	4時間
第11回	**季節の変化と生活に関する単元の模擬授業実施とリフレクション** 内容項目(5)季節の変化と生活に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する。	4時間
第12回	**自然や物を使った遊びに関する単元の模擬授業実施とリフレクション** 内容項目(6)自然や物を使った遊びに関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する。	4時間
第13回	**動植物の飼育・栽培に関する単元の模擬授業実施とリフレクション** 内容項目(7)動植物の飼育・栽培に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する。	4時間
第14回	**自分の成長に関する単元の模擬授業実施とリフレクション** 内容項目(9)自分の成長に関する単元の模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。	それぞれの立場から模擬授業をふりかえり、詳述する。	4時間
第15回	**総括とまとめ** 子供が主体性を発揮して協働的に学ぶ生活科の授業づくりについて、全模擬授業を通して見えてきた自分たちの授業づくりの「よさ」と「課題」について考える。	子供が主体性を発揮して協働的に学ぶ生活科の授業を構成できたかどうか検討する。	4時間

1

授業科目名	**音楽科指導法Ⅱ**				
担当教員名	**矢倉瞳**				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校音楽専科2年生経験。（全15回）				

授業概要

学習指導要領に基づく音楽科の基礎理論を根拠に、より実践的、効果的な授業デザインを理解する。講義の前半で、指導者のねらいと子どもの活動、指導者の評価・支援の相互作用によって新たな授業デザインが具現化されることを理解する。また学習指導要領改訂を受け、日本伝統音楽を扱う際の指導法をそれ以外の教材と比較しながら理解する。この新たな授業デザインをふまえ、講義の後半でグループごとに各領域の模擬授業と授業改善についてディスカッションを行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

日本伝統音楽の授業デザインについて理解し、指導案の書き方を理解する。

目標：

音楽科の基礎理論をふまえ、扱う教材に応じた指導法を理解できる。

汎用的な力

1 ．DP5.計画・立案力

日本伝統音楽の授業デザインに関する基礎理論をふまえ、扱う教材に応じた指導法を理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
欠席は3回まで、欠席4回で成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合　　**評価の基準**

アセスメントシート　15%　：　各1点×15回（合計20点）
・問いに対して授業内容を踏まえて的確に書かれている。：1点

小テスト　20%　：　20点満点

修正学習指導案　15%　：　模擬授業での討議内容をふまえ、反対意見も取り入れながら独自で改善した指導案が作成されている。：30点
独自で改善した指導案が作成されている。：30点

定期試験　50%　：　50点満点

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
小島律子監修	三訂版 小学校音楽科の学習指導－生成の原理による授業デザイン－	廣済堂あかつき	2018年

参考文献等

『小学校学習指導要領解説－音楽編』文部科学省、教育芸術社。2018年
『学校における「わらべうた」教育の再創造―理論と実践』小島律子・関西音楽教育実践学研究会、黎明書房。2010年
『音楽科授業の理論と実践－生成の原理による授業の展開－』小島律子編著、あいり出版。2015年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
「音楽科内容論」「音楽科指導法Ⅰ」を修得または履修中のこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　後日連絡
場所：　西館6階研究質
備考・注意事項：　授業外での質問方法など、後日連絡します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** ・オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明、グループ編成等） ・音楽科指導法Ⅰのふり返り：指示された条件で学習指導案を作成する。	日本伝統音楽、鑑賞についてテキストや文献から調べてくる。	4時間
第2回	**日本伝統音楽を教材とした鑑賞について** 鑑賞における活動のねらいと評価・支援	日本伝統音楽、音楽づくりについてテキストや文献から調べてくる。	4時間

第3回	**日本伝統音楽を教材とした音楽づくりについて** 音楽づくりにおける活動のねらいと評価・支援	日本伝統音楽、器楽についての指導案を調べてくる。	4時間
第4回	**日本伝統音楽を教材とした器楽について** 器楽における活動のねらいと評価・支援	日本伝統音楽、歌唱についての指導案を調べてくる。	4時間
第5回	**日本伝統音楽を教材とした歌唱について** 歌唱における活動のねらいと評価・支援	日本伝統音楽、模擬授業で扱う教材を調べてくる。	4時間
第6回	**模擬授業のための指導案作成** グループで担当模擬授業での各自の役割分担をする。 活動のねらいと評価・支援を意識してグループで学習指導案を検討、作成する。	鑑賞、指導案で扱う教材を調べてくる。	4時間
第7回	**模擬授業（１）～日本伝統音楽の鑑賞** 日本伝統音楽を教材とした鑑賞の模擬授業、討議会	鑑賞、指導案と模擬授業の違いについてまとめてくる。	4時間
第8回	**模擬授業（１）のふりかえり** 授業担当者からの反省 授業映像を通しての授業改善案作成	音楽づくり、指導案で扱う教材を調べてくる。	4時間
第9回	**模擬授業（２）～日本伝統音楽の音楽づくり** 日本伝統音楽を教材とした音楽づくりの模擬授業、討議会	音楽づくり、指導案と模擬授業の違いについてまとめてくる。	4時間
第10回	**模擬授業（２）のふりかえり** 授業担当者からの反省 授業映像を通しての授業改善案作成	器楽、指導案で扱う教材を調べてくる。	4時間
第11回	**模擬授業（３）～日本伝統音楽の器楽** 日本伝統音楽を教材とした器楽の模擬授業、討議会	器楽、指導案と模擬授業の違いについてまとめてくる。	4時間
第12回	**模擬授業（３）のふりかえり** 授業担当者からの反省 授業映像を通しての授業改善案作成	歌唱、指導案で扱う教材を調べてくる。	4時間
第13回	**模擬授業（４）～歌唱** 日本伝統音楽を教材とした歌唱の模擬授業、討議会	歌唱、指導案と模擬授業の違いについてまとめてくる。	4時間
第14回	**模擬授業（４）のふりかえり** 授業担当者からの反省 授業映像を通しての授業改善案作成	授業改善についてまとめてくる。	4時間
第15回	**日本伝統音楽の指導案改善版作成** 予習模擬授業をふまえた授業改善案の完成	授業改善案を作成する。	4時間
第16回	**定期試験**		4時間

1

授業科目名	**図画工作科指導法Ⅱ**				
担当教員名	**藤丸一郎**				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	国公立小学校勤務25年（教諭8、教頭2、副校長4、校長11）　公立中学校勤務10年（美術科教諭10）その間、図画工作科及び美術科の教科内容と指導法の実践研究を行った。				

授業概要

「図画工作科指導法Ⅰ」で理解した、図画工作科の目標に準拠した指導法についてを更に具体的な場面を想定した模擬授業を通して学び､授業計画作成と指導スキルの向上を目指す。授業で用いられることが多い「パス・絵の具・粘土」などの材料や「はさみ・彫刻刀・のこぎり」などの用具に加え、デジタルカメラなどのＩＣＴ機器の活用を授業に則して体験し、それぞれの特性と活用の必要性への理解を深める。また、体験を通して指導時に配慮すべき点や授業づくりのポイントを学び､実践的な指導力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	図画工作科の授業作成と材料・用具の取り扱いに関する知識・技能	学年や領域に応じて、資質・能力の育成を意識した指導計画作成と適切な支援ができる。

汎用的な力

1 ．DP5.計画・立案力	授業計画の作成と評価を生かした計画の刷新ができる
2 ．DP8.意思疎通	授業検討や模擬授業において、他人の意見をよく聞き、自分の意図を的確に伝えることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題	40%	： 発想・構想、創造的な技能、内容の理解について独自のルーブリック及び全学ルーブリックに基づき評価します。
学習指導案と模擬授業	30%	： 内容の妥当性、設定、準備、対応について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
討議と振り返りシート	30%	： 討議への積極性、意見の論理性、振り返りシートの綿密さについて、独自のルーブリックに基づき評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

小学校教科書「図画工作科」　日本文教出版、開隆堂、東京書籍
『小学校学習指導要領解説　図画工作編（平成29年7月）』　文部科学省　日本文教出版 平成30年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
グループワークは、授業時間の内外を問わず、それぞれの時間に合わせて調整し、分担・協力して準備を進めること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜３限
場所：　研究室（中央館２階）
備考・注意事項：　授業・会議・研究日等の時間を除いて、できるだけ対応をします。昼休みなどを利用して相談時間の調整に来てください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（ 図画工作科の指導の現状と課題・学習プラン）** 教科指導に必要な基本的な材料・用具の扱いについて、知識不足や誤解の現状を知り、向上のための学習計画について確認します。　現行と次期学習指導要領の違いについて確認します。	現行及び次期学習指導要領について、違いを中心に確認整理する。	4時間
第2回	**絵に表す活動の指導（１）パス･サインペン** パス・サインペンの特性とそれらを用いて学年に応じた活動を意識した指導のあり方と方法を考えます。	パス・サインペンの種類や特性と活用した指導例を調べまとめる。	4時間
第3回	**絵に表す活動の指導（２）絵の具** 絵の具の技法・使い始めの指導を意識した指導のあり方とその方法について、パスやペンとの違いや学年にあわせた指導を考えながら検討します。	絵具の技法や活用法を整理し、学年に応じた指導事例をまとめる。	4時間
第4回	**版に表す活動の指導　（１）版づくり**	凹凸平孔の版について指導事例を収集し整理する。	4時間

	紙・スチレンボード･板などの多様な版材による版づくりと彫刻刀の基本的な扱いを演習を通して学び、版に表す活動の指導法を検討します。		
第5回	**版に表す活動の指導　（２）印刷** インクづくりやローラーの基本的な扱い方を学び、刷りの基本と版に表すことの特性を生かした学年ごとの授業の展開を検討します。	版画の特性を踏まえた授業展開を考え、指導の流れや環境設定をまとめる。	4時間
第6回	**立体に表す活動の指導（１）粘土** 粘土の基本的な扱いと多様化する粘土を、学年にあわせて授業に活用する方法を検討します。	粘土を使った授業と指導のポイントを収集・整理し、交流の準備をする。	4時間
第7回	**立体に表す活動の指導（２）紙･針金･ペットボトル** 模擬授業と材料とそれに関わる道具の扱いについて整理し、授業への有効な活用法を考えます。	グループ毎にテーマに沿った模擬授業の検討と準備を行う。	4時間
第8回	**工作に表す活動の指導（１）ダンボール・板** 模擬授業に加えて工作材料の特性とその用具の扱いを整理し、それを生かした授業の検討を行います。	グループ毎にテーマに沿った模擬授業の検討と準備を行う。	4時間
第9回	**工作に表す活動の指導（２）木材** 木材の種類や特性、関係する用具について演習を通して学び、授業への活用と安全管理について考えます。	身近な材料の収集方法について具体的に考え、まとめる。	4時間
第10回	**造形遊びの指導** 模擬授業に加え、学年に応じた題材と指導プランを収集・整理し、その必要性と指導への活用を検討します。	造形遊びの課題と解決案について検討し、交流の準備をする。	4時間
第11回	**鑑賞する活動の指導** 模擬授業に加えて、様々な場面における鑑賞のあり方と方法を考え、授業プランを作成します。	独自のアートゲームを考案し、目的と方法をまとめる。	4時間
第12回	**映像メディアと指導** 模擬授業または演習に加えて、映像メディアの積極的な活用法についての情報収集と授業への活用について考えます。	ICT機器の授業活用例を収集し、図画工作科における活用法を提案する。	4時間
第13回	**評価と支援の工夫** 現実的な評価の方法や場面・規準のあり方とそれを生かす支援を検討し、授業への導入について考えます。	模擬授業を例にした評価の方法や場面をまとめる。	4時間
第14回	**指導計画作成と評価・評定について** 系統的な指導計画のあり方とその指導に生かす評価と評定の現状について学びます。	図画工作科における社会との連携案を考える。	4時間
第15回	**総括・質疑応答** 本授業と現場の現状を踏まえて、目標達成に向けた課題解決の方法について交流・検討します。	図画工作科のおけるアクティブラーニングのあり方について具体例を考え、交流の準備をする。	4時間

1

授業科目名	**体育科指導法Ⅱ**				
担当教員名	**安部恵子**				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

小学校体育授業を安全かつ効果的に遂行するには、使用する器具備品・環境の整備と児童自身の形態特性、運動暦、体力・運動能力など科学的根拠を基に把握することや、児童の「動き」に対して指導者の観察力が求められる。体育科指導法Ⅰでは、各学年および種目の特性と「こつ」を理解した指導案の立案と指導実践を行った。本授業では、その際の気づきを基に、種目の系統性を理解し、「動き」の見極めと怪我防止および児童の能力に見合った補助法の習得を目指す。また、体力要素別に見た体つくり運動の指導案作成と指導実践を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

小学校体育授業における「つまづき」の要因を理解できる。

目標：

課題解決を目的とした指導法・補助法・教材提案ができる。

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践

各自次種目の到達目標を明確にたて、系統だてて指導案の立案ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

各人が作成した指導案をもとに模擬授業を行う。また、模擬授業担当者以外の学生からの意見をコメントシートを基に収集し、各人の模擬授業に関する課題を抽出し改善案を提出する。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合　　**評価の基準**

担当科目の学秀指導案の作成と提出　：　①実践可能な指導案が作成できているか②教材や補助具に工夫がされているか③予測される躓きに対しての解決策が提示されているか
40%

模擬授業遂行状況　：　①最も有効かつ効率的な導線が意図的になされているか②教具の配置が適切であるか③リズムとうねりを起こせるような声賭けやアドバイスがなされているか④指導者の立ち位置が適切で受講生の習熟度を把握しているか
40%

課題レポート　：　①指定された型式で提出期限を守っているか②文献図書を利用し考察を十分に行っているか
20%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	『小学校学習指導要領解説　体育編』	東洋館出版	2018年

参考文献等

『小学校学習指導要領（平成20年3月告示）』　文部科学省　東京書籍 2008年
上記以外の参考文献は、随時提示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　毎週月曜日の2限

場所：　安部研究室

備考・注意事項：　上記以外の時間帯を希望する場合は、要相談。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**本授業の目的と評価基準および学習プランについてオリエンテーション** 各種目の到達目標を系統立てて理解する。	体育科指導法Ⅰの復習を行う	4時間
第2回	**「つまづき」の事例を挙げ、その原因と解決のための補助具、補助法を考察する** （1）陸上運動・器械運動の各種目の「こつ」を明確にした上で、「できない」を「できた」にするために実現可能な補助具や指導内容を考察する。	陸上競技・器械体操に関する特性・「こつ」を基に予測される「つまづき」を挙げ対応策の提案をまとめる	4時間
第3回	**「つまづき」の事例を挙げ、その原因と解決のための補助具、補助法を考察する** （2）マット・跳び箱・鉄棒の各種目の「こつ」を明確にした上で、「できない」を「できた」にするために実現可能な補助具や指導内容を考察する。	マット・跳び箱・鉄棒の各種目に関する特性・「こつ」を基に予測される「つまづき」を挙げ対応策の提案をまとめる	4時間

第4回	**「つまづき」の事例を挙げ、その原因と解決のための補助具、補助法を考察する** （３）球技の各種目の「こつ」を明確にした上で、「できない」を「できた」にするために実現可能な補助具や指導内容を考察する。	球技の各種目に関する特性・「こつ」を基に予測される「つまづき」を挙げ対応策の提案をまとめる	4時間
第5回	**「体つくり運動」の意義と目標について解説し、模擬授業の対象学年と指導種目、指導日程を決定する** 「体つくり運動」の目的を明確にした上で実現可能な補助具や指導内容を考察する。	「体つくり運動」に関する特性・「こつ」を基に予測される「つまづき」を挙げ対応策の提案をまとめる	4時間
第6回	**低学年・中学年・高学年別にみた、「ハードル」の模擬授業** 1回～5回間での講義内容を踏まえた上でのハードルの指導案を作成し実践する。	低学年・中学年・高学年別にみた、「ハードル」に関する特性・「こつ」を基に予測される「つまづき」を挙げ対応策の提案をまとめる	4時間
第7回	**低学年・中学年・高学年別にみた、「跳び箱」の模擬授業** 1回～5回間での講義内容を踏まえた上での跳び箱の指導案を作成し実践する。	低学年・中学年・高学年別にみた、「跳び箱」に関する特性・「こつ」を基に予測される「つまづき」を挙げ対応策の提案をまとめる	4時間
第8回	**低学年・中学年・高学年別にみた、「マット」の模擬授業** 1回～5回間での講義内容を踏まえた上でのマットの指導案を作成し実践する。	低学年・中学年・高学年別にみた、「マット」に関する特性・「こつ」を基に予測される「つまづき」を挙げ対応策の提案をまとめる	4時間
第9回	**低学年・中学年・高学年別にみた、「鉄棒」の模擬授業** 1回～5回間での講義内容を踏まえた上での鉄棒の指導案を作成し実践する。	低学年・中学年・高学年別にみた、「鉄棒」に関する特性・「こつ」を基に予測される「つまづき」を挙げ対応策の提案をまとめる	4時間
第10回	**学年・体力要素別に見た「体つくり運動」の模擬授業（１）身体活動量確保** 1回～5回間での講義内容を踏まえた上での体つくり運動の指導案を作成し実践する。	低学年・中学年・高学年別にみた、「体つくり運動」に関する特性・「こつ」を基に予測される「つまづき」を挙げ対応策の提案をまとめる	4時間
第11回	**学年・体力要素別に見た「体つくり運動」の模擬授業（２）巧緻性** 1回～5回間での講義内容を踏まえた上での体つくり運動の指導案を作成し実践する。	低学年・中学年・高学年別にみた、「体つくり運動」に関する特性・「こつ」を基に予測される「つまづき」を挙げ対応策の提案をまとめる	4時間
第12回	**学年・体力要素別に見た「体つくり運動」の模擬授業（３）瞬発力** 1回～5回間での講義内容を踏まえた上での体つくり運動の指導案を作成し実践する。	低学年・中学年・高学年別にみた、「体つくり運動」に関する特性・「こつ」を基に予測される「つまづき」を挙げ対応策の提案をまとめる	4時間
第13回	**学年・体力要素別に見た「体つくり運動」の模擬授業（４）手具を使用した運動** 1回～5回間での講義内容を踏まえた上での体つくり運動の指導案を作成し実践する。	低学年・中学年・高学年別にみた、「体つくり」に関する特性・「こつ」を基に予測される「つまづき」を挙げ対応策の提案をまとめる	4時間
第14回	**怪我・落雷・熱中症予防のためのポイントについて解説** 運動中の怪我・落雷・熱中症を想定し、その要因と予防のためのポイントについて解説する。	運動中の怪我・落雷・熱中症予防に関する予習を行う	4時間
第15回	**総括と質疑応答** 15回の授業を総括し質疑応答を行い課題解決策を模索し、マニュアル作成を行う。	種目ごとにまとめた「つまづき」についてその要因と解決策を提案しまとめる	4時間

授業科目名	**生徒・進路指導論（初等）/生徒・進路指導論**				
担当教員名	**松田修**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	・小学校の教諭、教育委員会、校長を務める。 ・生徒指導の中心となる特別活動についての研究会に所属し、計画・運営を務める。				

授業概要

生徒・進路指導の意義、内容、児童・生徒理解、指導原理等についての知識や技能についての理解を深め指導力を身に付けるとともに、学校における教育相談の役割とその基本的な考え方について概説する。また、「いじめ」「不登校」などの今日的な課題についての事例などを取り上げ、問題の理解を深めるとともに解決の方策を探る。そのためグループ討議、プレゼンテーションやロールプレーによる事例発表・実技等も行い、理論と実践の融合を図りながら指導力を身に付ける。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	生徒指導・進路指導の幅広い知識を身に付ける	生徒指導・進路指導の基本的な問題を把握し、その理論や方法について理解を深めることができる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		講義を通して、生徒指導・進路指導の今日的な課題を見出すことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
1.授業への参加度 30%	： 授業中の発言、質疑応答、毎回の授業振り返りカード
2.授業内課題 20%	： 授業において提示する役割分担や課題提出で評価する
3.定期試験 50%	： 基礎的な知識を問う問題ならびにテーマに沿った論述問題で、後者は記述内容の論理性や質的な深まりを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 生徒指導提要	・ 教育図書	・ 年

参考文献等

・『よくわかる生徒指導・キャリア教育』小泉令三　2012年　ミネルヴァ書房

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。テキストの『生徒指導提要』をもとに、予習を行ったり「授業外学修課題」に取り組んだりして、次回の授業に備えること。また、授業内で配布されるプリントを基に復習に取り組むことが望まれる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜日4限
場所：　研究室
備考・注意事項：　詳細については、初回の講義時に連絡します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**生徒指導の意義と教育課程における位置づけ** 本授業の目標・内容・評価の在り方や生徒指導意義・方法原理、教育課程における位置づけなどについて学ぶ。	テキストをもとに、生徒指導の意義や教育課程における位置づけについて概観しておく。また、配布資料を基に復習を行う。	4時間
第2回	**学校現場における生徒指導** 生徒指導における目標・内容及び校内組織や生徒指導を支える人間観や指導観について学ぶ。	テキストをもとに生徒指導の目標・内容や生徒指導を支える人間観や指導観について概観しておく。また、配布プリントをもとに復習を行う。	4時間
第3回	**生徒指導と他の教育活動との関連** 事例を基にしながら、生徒指導と各教科・道徳教育・特別活動等の指導とのかかわりについて学ぶ。	テキストをもとに、生徒指導と他の教育活動との関連について概観しておく。また、配布プリントをもとに本時の復習を行う。	4時間

第4回	**生徒指導と児童理解** 生徒指導の基本となる児童理解についての考え方・対象・方法・発達等について学ぶ。	テキストをもとに、児童理解について概観しておく。また、配布プリントをもとに本時の復習を行う。	4時間
第5回	**生徒指導と教育相談** 教育相談の意義・特質、基本的な対応、校内体制の在り方などについて学ぶ。	テキストや自分の経験を基に、教育相談の在り方やその意義について整理しておく。また、配布プリントをもとに本時の復習を行う。	4時間
第6回	**「少年非行・問題行動」と生徒指導** 少年非行・問題行動についての理解を深め、早期発見やその対応の基本について学ぶ。	テキストをもとに、少年非行や問題行動について早期発見や予防策などについて自分なりの考えを整理しておく。また、配布プリントをもとに本時の復習を行う。	4時間
第7回	**「いじめ」問題と生徒指導** 「いじめ」問題についての定義や構造、現状等を理解し、その対応や取り組みについて学ぶ。	テキストや自己の体験を踏まえて「いじめ」について整理しておく。また、配布プリントをもとに本時の復習を行う。	4時間
第8回	**「いじめ」問題の対応・指導の実際（ロールプレイを通して）** 「いじめ」事例のロールプレイを通して、「いじめ」への具体的な対応の仕方について学ぶ。	テキストをもとに、ロールプレイについて概観しておく。また、配布プリントをもとに本時の復習を行う。	4時間
第9回	**「不登校」問題と生徒指導** 「不登校」問題の現状や定義について理解をするとともに、その対応や専門機関との連携について学ぶ	テキストをもとに「不登校」の定義や現状の課題について概観しておく。また、配布プリントをもとに本時の復習を行う。	4時間
第10回	**「いやがらせ」問題の対応と指導の実際（アサーションを通して）** 「アサーション」についての理解を深め、実習を通して、問題行動の対応・予防について学ぶ。	テキストをもとに「アサーション」についての理解を深めておく。また、配布プリントをもとに本時の復習を行う。	4時間
第11回	**「体罰・懲戒」の定義・指導の在り方、家庭・地域・関係機関との連携** 「懲戒」や「体罰」について理解を深めるとともに、児童・生徒への指導の在り方や関連機関との連携について学ぶ。	テキストをもとに「体罰・懲戒」について整理しておく。また、配布プリントをもとに復習を行う。	4時間
第12回	**進路指導・キャリア教育の基本的概念、学校の組織** 職業観・勤労観が求められる背景とキャリア教育の基本的概念について学ぶ。	に職業観・勤労観が求められる背景やりキャリア教育の歴史について概観しておく。また、配布プリントをもとに本時の復習を行う。	4時間
第13回	**進路指導・キャリア教育の必要性と育てたい力** キャリア教育で育てたい態度や力について学ぶ。	テキストをもとにキャリア教育で育てる態度や力について整理しておく。また、配布プリントをもとに本時の復習を行う。	4時間
第14回	**進路指導・キャリア教育の指導** 小学校教育の中でキャリア教育を指導するにあたっての視点や各教科等との関連について学ぶ。	小学校でキャリア教育を実施するにあたっての視点や各教科等との関連について整理しておく。また、また、配布プリントをもとに本時の復習を行う。	4時間
第15回	**これからの学校における進路指導・キャリア教育** 今後の学校教育における進路指導・キャリア教育の在り方について、答申などを基に学ぶ。	配付資料をもとに復習し、進路指導・キャリア教育の今後の在り方について理解を深める。	4時間

1

授業科目名	**学校教育相談**				
担当教員名	**米田薫**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中学校教諭として14年間勤務の後、教育委員会にて教育相談・適応指導教室担当として7年間従事。その後、公立中学校スクールカウンセラーを続けている。【全15回】				

授業概要

教育相談は、教育上の心理的な諸問題に対する援助活動で、学校で行われるものと教育相談機関で行われるものがある。本科目は、前者における子どもや保護者の指導・援助に資する理論とスキルの習得を目指す。その意義や担うべき役割を問題解決的・予防的・開発的機能を踏まえ、個と集団の両面から授業を展開する。予防的・開発的教育相談の集団体験や個別面接のロールプレイを通じて教育相談の基礎を体得する。あわせて、いじめや不登校、学級経営、発達に課題のある子どもへの支援、家庭や他機関との連携についても理解を深める。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	教育相談に関する基本的な事項の理解	教育相談に対する関心を深め、基本的な事項を説明することができる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育相談に関する基本的なスキルの習得	教育相談に関する習得したスキルをロールプレー等を通じて示すことができる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		学校教育相談に関して、今日的な課題を見出すことができる。
2 ．DP8.意思疎通		授業内の演習で内省した事柄を適切に自己開示することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内テスト	30%	： 授業内に実施する基礎的事項に関するテストにより評価する。
課題レポート	50%	： 授業内に課した課題に関するレポートにより評価する。
ロールプレイ、課題プレゼンテーション等	20%	： 授業内に実施するロールプレイやプレゼンテーションにより評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
米田薫	・『改訂版　厳選　教員が使える５つのカウンセリング』	・ほんの森出版	・2019年

参考文献等

・日本教育カウンセラー協会編「新版 教育カウンセラー標準テキスト 初級編・中級編」　図書文化　2013年

他は授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　木曜日2時間目

場所：　中央館５階127

備考・注意事項：　質問はＥメール（yoneda@osaka-seikei.ac.jp)でも対応する。件名に「学校教育相談：質問：○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、名前を明記すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**教育相談とは** 教育相談の定義、領域と内容　歴史と展開、学校教育相談の特質と学校内の体制について学びます。	シラバスを読む。教育相談の定義、領域と内容を説明できるようにする。	4時間
第2回	**教育相談の基礎** 学校教育相談に用いられる諸理論とアセスメントについて学びます。	前時の復習と本時の予習。基本となる接し方のレポート作成	4時間

第3回	**集団対象の教育相談（１）ー自他理解をテーマとする構成的グループエンカウンター** 構成的グループエンカウンターの自己理解を深めるエクササイズを体験します。	前時の復習と本時の予習。授業体験レポートの作成	4時間
第4回	**集団対象の教育相談（2）ー自己受容を深める構成的グループエンカウンター** 構成的グループエンカウンターの自己受容をテーマとするエクササイズを体験します。	前時の復習と本時の予習。自己分析レポートの作成	4時間
第5回	**集団対象の教育相談（3）ーソーシャルスキル教育** 人間関係形成・問題解決・感情コントロールをテーマとするソーシャルスキル教育について学びます。	前時の復習と本時の予習。習得したスキルの活用レポート作成	4時間
第6回	**集団対象の教育相談（4）ーＳＥＬ** 社会性と感情を育てる教育であるSELについて学びます。	前時の復習と本時の予習。グループで担当した課題の学修	4時間
第7回	**個別面接の基本（１）ー非言語的側面** 個別面接の際のポイントとなる非言語的側面について学びます。	前時の復習と本時の予習。グループで担当した課題の学修	4時間
第8回	**個別面接の基本（２）ー言語的側面** 個別面接の際のポイントとなる言語的側面について学びます。	前時の復習と本時の予習。グループで担当した課題の学修	4時間
第9回	**個別面接の基本（3）ー模擬面接** 個別面接の基本として学んだ事項を模擬面接を通じてスキルを磨きます。	前時の復習と本時の予習。摸擬面接レポート作成	4時間
第10回	**発達と学習についての理解と対応** テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第11回	**不登校についての理解と対応** テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第12回	**いじめ・反社会的行動についての理解と対応** テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第13回	**特別支援教育について** テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第14回	**キャリア教育とキャリアカウンセリング** テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第15回	**教育相談の現状と展望** チーム援助、外部機関との連携、保護者支援、危機対応について学びます。	前時の復習と本時の予習。最終レポートの作成	4時間

1

授業科目名	**保育教育課程論（幼稚園）**				
担当教員名	**大橋喜美子**				
学年・コース等	2年（幼児教育コース	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	乳幼児教育（保育所・幼稚園）通算23年、大学勤務26年				

授業概要

本授業は、保育における計画と評価の理論と実際について学び、保育の質の向上という観点から、保育の過程（計画、実践、省察・評価、改善）についてその全体構造を動態的に理解することをねらいとする。保育の計画と評価の意義、種類、留意事項などに関し、保育の特性を踏まえて基本的な考え方を学びながら、幼稚園や保育所等での実際例の分析と指導計画案の作成を行い、具体的な理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	保育の計画と評価の基礎知識	保育の計画と評価の意義、保育・教育課程の編成と指導計画の作成、計画－実践－省察・評価－改善の過程について理解し、説明することができる。

汎用的な力

1 ．DP5.計画・立案力	保育指導計画案を作成することができる。
2 ．DP6.行動・実践	保育者を目指す自覚を持ち、主体的、継続的に課題に取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	30%	： 各回１～２点で評価し、合計30点満点とする。必要事項が全て書き込まれていれば2点、記入に部分的不足があれば1点とする。
保育指導計画案の作成	15%	： 留意点を全て網羅していれば15点満点とする。
授業への積極的参加・貢献	15%	： 事前ワークの提出回数、交流への積極的参加と発表、質問に対する積極的・適切な答えを総合して評価する。
定期試験	40%	： 保育の計画と評価の意義、保育・教育課程の編成と指導計画の作成、計画－実践－省察・評価－改善の過程に関する択一・記述式問題30点、論述問題10点。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省 厚生労働省内閣府	・ 幼稚園教育要領　保育所保育指針幼保連携型認定こども園教育・保育要領　＜原本＞※最新版がでた場合は、最新版に追加・変更の可能性があります	・ チャイルド本社	・ 2017年
大橋喜美子編著	・ 保育のこれからを考える保育･教育課程論（第3刷）	・ 教育情報出版	・ 2017年

参考文献等

「０・１・２歳児にみる保育の中の教育」2017年 ㈱北大路書房

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後・火曜日の昼休み
場所：　授業の教室および大橋個人研究室
備考・注意事項：　丁寧な指導が必要な場合は、アポを取って下さい。その場合は個人研究室での実施となります。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 本科目の性格や授業の目標、内容、評価、課題等について理解する。また、DVD「保育士の仕事と役割」を視聴し、保育実践の背後にある計画について考える。	シラバスを読み、授業概略を理解する。 キーワード：保育の計画	4時間

第2回	**カリキュラムの基礎理論** カリキュラムの基礎的な理論について諸外国のカリキュラムを含めて広い視野で学ぶ。	事前ワークに取り組む（テキスト『子どもの心によりそう保育・教育課程論』第1章を予習する）　キーワード：カリキュラム・教育課程・保育課程・指導計画	4時間
第3回	**保育の計画と評価の意義** 幼稚園・保育所及び他の児童福祉施設における計画と評価の意義について学ぶ。	事前ワークに取り組む（テキスト第2章を予習する）　キーワード：指導計画の種類・計画の意義・評価	4時間
第4回	**ＰＤＣＡサイクルによる保育の質の向上** 保育の計画、実践、評価、改善の過程について学ぶ。	事前ワークに取り組む（テキスト第3章を予習する）　キーワード：PDCAサイクル・質の向上	4時間
第5回	**幼稚園教育要領と保育所保育指針にみる保育の計画** 幼稚園教育要領と保育所保育指針において、保育の計画がどう扱われているかを理解する。	事前ワークに取り組む（テキスト第4章を予習する）　キーワード：幼稚園教育要領・幼稚園教育の基本・教師の役割・保育所保育指針・保育所保育の特性	4時間
第6回	**保育・教育課程と指導計画** 保育・教育課程と指導計画について学ぶ。	事前ワークに取り組む（テキスト第５・６章を予習する）　キーワード：発達過程区分・園生活への適応過程	4時間
第7回	**保育・教育課程の編成** 保育・教育課程の編成について学ぶ。	事前ワークに取り組む（テキスト第7章を予習する）　キーワード：保育･教育課程の編成の原則・ねらいと内容	4時間
第8回	**指導計画の作成と作成上の留意事項** 指導計画の作成法と作成上の留意事項について学ぶ。	事前ワークに取り組む（テキスト第8章を予習する）　キーワード：長期の指導計画・短期の指導計画・日案の書き方	4時間
第9回	**保育・教育課程の展開** 保育・教育課程の具体的な展開について学ぶ。	事前ワークに取り組む（テキスト第9章を予習する）　キーワード：計画のつながり	4時間
第10回	**指導計画の展開** 指導計画の具体的な展開について学ぶ。	事前ワークに取り組む（テキスト第10章を予習する）　キーワード：計画と実践	4時間
第11回	**保育の省察及び記録** 保育の省察と記録の意義や方法について学ぶ。	事前ワークに取り組む（テキスト第11章を予習する）　キーワード：省察・記録	4時間
第12回	**保育における評価の種類と方法** 保育における評価の種類と方法について学ぶ。	事前ワークに取り組む（テキスト第12章を予習する）　キーワード：自己評価・第三者評価・相対評価・絶対評価・到達度評価・個人内評価	4時間
第13回	**保育の計画の再編成** 保育の計画の再編成について学ぶ。	事前ワークに取り組む（テキスト第13章を予習する）　キーワード：計画の再編成	4時間
第14回	**幼稚園幼児指導要録と保育所児童保育要録** 指導要録・保育要録の意義や記入法について学ぶ。	事前ワークに取り組む（テキスト第14章を予習する）　キーワード：幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録・保幼小連携	4時間
第15回	**まとめと質疑応答** これまでの学習のまとめと質疑応答を行う。	事前ワークに取り組む（テキスト終章を予習する）キーワード：保育の計画	4時間

1

授業科目名	**保育内容総論**				
担当教員名	**吉次豊見・和田薫**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	吉次：公立幼稚園にて教諭として勤務（全15回） 和田：私立大学附属幼稚園教諭として2年間勤務、公立保育所巡回相談講師（年間およそ１６箇所、８年間）（全15回）				

授業概要

本授業は、幼稚園及び保育所における保育を構造的・総合的にとらえ、具体的な保育実践とのつながりにおいて保育内容を理解することをねらいとする。幼稚園教育要領及び保育所保育指針それぞれの各章の関連性を読み取り、歴史的変遷を踏まえて今日の保育内容を理解する。その上で、保育に必要な観察・記録の視点を習得し、発達に即した子ども理解と保育内容の展開について、実践と結びつけて学習する。事例研究や模擬保育などを適宜実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	**目標**：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	保育内容の総合的理解	保育を構造的・総合的にとらえ、具体的な保育実践とのつながりにおいて保育内容を理解することができる。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	グループワーク等の中で互いの学びを深め合い、自らの課題を発見する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		**評価の基準**
授業内課題 30%	：	各回1～2点で評価し、合計30点とする。授業外学修をもとに必要事項がすべて書き込まれていれば2点、記入に部分的不足があれば1点とする。
模擬保育・実践発表 20%	：	協力して独創的な観点が認められ、なおかつ研究発表もすぐれていたら20点、研究したが協調性に欠けていたら15点、協調性と研究の質においては不十分だが期限は守っていた場合は10点で評価する。
定期試験(学期末) 50%	：	幼稚園教育要領及び保育所保育指針の内容と相互の関連性を理解し、保育の営みを構造的・総合的にとらえることができているかどうかを問う。

使用教科書

指定する

著者	**タイトル**	**出版社**	**出版年**
文部科学省 厚生労働省　内閣府	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　＜原本＞	チャイルド本社	2017年
佐藤哲也	子どもの心によりそう保育内容総論	福村出版	2018年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　吉次・和田：初回の授業時に周知
場所：　吉次：中央館５F112　和田：初回授業時に周知
備考・注意事項：　質問の方法等についても、初回の授業時に周知します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　本授業の目標・内容・評価等について** 保育の全体を鳥瞰的にみる	テキスト1章を予習・復習する。	4時間
第2回	**幼稚園教育要領における保育の全体構造と保育内容** 幼稚園教育の保育内容を理解する手がかりを学ぶ	テキスト2章を予習・復習する。	4時間
第3回	**保育所保育指針における保育の全体構造と保育内容** 保育所保育の保育内容を理解する手がかりを学ぶ	テキスト3章を予習・復習する。	4時間
第4回	**保育内容の歴史的変遷**	テキスト4章を予習・復習する。	4時間

	３章までの内容を踏まえて、現代の保育内容に対する理解を深める		
第5回	**子どもの発達と保育内容（１）　子どもの発達の特性** 子どもの発達過程について学ぶ	テキスト5章を予習・復習する。	4時間
第6回	**子どもの発達と保育内容（２）　個と集団の発達過程** 社会性を育てる場としての保育施設について学ぶ	テキスト6章を予習・復習する。	4時間
第7回	**保育における観察** 子どもをみることの大切さを学ぶ	テキスト7章を予習・復習する。	4時間
第8回	**保育における記録** 記録の意義について学ぶ	テキスト8章を予習・復習する。	4時間
第9回	**保育内容の具体的な展開と保育実践（１）　養護と教育の一体化** 子どもの健全な成長発達のために望ましいかかわり方を学ぶ。	テキスト9章を予習・復習する。	4時間
第10回	**保育内容の具体的な展開と保育実践（２）　環境を通して行う保育** 子どもの望ましい成長を促す人的・物的な環境設定について学ぶ	テキスト10章を予習・復習する。	4時間
第11回	**保育内容の具体的な展開と保育実践（３）　遊びによる総合的な保育** 子どもにとって遊びがいかに重要であるかを学ぶ	テキスト11章を予習・復習する。	4時間
第12回	**保育内容の具体的な展開と保育実践（４）　生活や発達の連続性と、家庭・地域・小学校との連携** 育ちゆく子どもの姿を見据えながら、他機関との望ましい連携のあり方を学ぶ	テキスト12章を予習・復習する。	4時間
第13回	**保育の多様な展開（１）　未就園児保育・乳児保育、預かり保育・長時間保育** 子どもの最善の利益を踏まえながら、保育課題の現状分析をおこなう	テキスト13章を予習・復習する。	4時間
第14回	**保育の多様な展開（２）　特別支援を必要とする子どもの保育、多文化保育** 多様な価値観を理解すると同時に、地球市民教育の意義を学ぶ	テキスト14章を予習・復習する。	4時間
第15回	**終章　　まとめと質疑応答** これまでのまとめと質疑応答を行う	テキストの最終章を予習・復習する。	4時間

1

授業科目名	**領域（言葉）**				
担当教員名	**大橋喜美子**				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	保育所・幼稚園勤務23年、大学勤務26年				

授業概要

誕生から幼児期に至るまでの子どもの言語発達は、コミュニケーションの手段であり、人格形成に重要な役割をもっている。そして、その発達を促す教育的意図を達成するために文化的財産である紙芝居や絵本などの教材が、子どもの発達にどのように影響されるかについて検討を重ねることが大切である。そこに関わる保育者の保育観も重要になる。
本授業では、幼稚園における領域「言葉」の意義や内容を理解するとともに、保育の場において使用されている教材や具体的な実践事例を通して、子どもの言葉を育むための保育内容を考える。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	乳幼児期の子どもの言語発達と、領域「言葉」の意義や内容について学ぶ。	教職および新しい教育課題に関する知識を得、それらを理解することができる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	模擬保育	模擬保育を通して得た気づきを基に、豊かな言葉を育む保育を理解し実践することができる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		言葉の原点としての驚きや発見から課題を模索する。
2 ．DP5.計画・立案力		PDCAサイクルを繰り返しながら、子どもの姿に相応しい計画と立案する力を修得する。
3 ．DP6.行動・実践		実践を省察しながら実践する力を修得する。
4 ．DP9.役割理解・連携行動		保育の中の言葉領域について連携しながら自分の役を利を意識し、遂行する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

・授業への参加度は、教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	：	30点：教職および新しい教育課題に関する知識が十分に獲得・理解され、それらを踏まえた独自の視点による解答。 10点：講義内容に準拠した解答。
40%		
授業内課題の達成度	：	授業の終わりに書く「学びの振り返り」を基に、授業・保育を自ら設計、実践する力が育ち、養われたかを問う。その際、授業内容を踏まえ、実践を省察しながら論じられていることが求められる。
40%		
授業への参加度	：	教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを評価する。また、演習等における誠実な役割遂行なども評価の対象とする。
20%		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
赤羽根有里子/鈴木穂波共編著	新時代の保育双書「保育内容 ことば〔第３版〕」	㈱みらい	2018年
内閣府・文部科学省・厚生労働省	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 〈原本〉』	チャイルド本社	2017年

参考文献等

特になし（必要な場合は適宜指定する。）

履修上の注意・備考・メッセージ

・授業態度は、各自が自覚を持って臨むことが大切であり、そこを期待している。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日昼休み、その他随時
場所： 大橋研究室
備考・注意事項： 表記時間以外の場合は、アポイントを取れば、いつでも応じる。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**授業の進め方と評価法についてのオリエンテーション** ５領域について振り返りながら、保育内容(言葉)の意義について考える	5領域とは何かについて学習内容の復習と次回の予習（キーワード：子ども、言葉、保育内容）	4時間
第２回	**幼稚園教育要領における領域「言葉」の位置づけ** 人間存在にとっての言葉の意味を深く考えながら、保育内容(言葉)を捉えてみる	言葉でつなぐ人間関係を中心に復習と次回の予習（キーワード：乳児期、発達）	4時間
第３回	**言葉の発達と保育　(1)0歳児前半** 養育者がかける言葉がけの大切さに気付き、かかわりのなかで育つ言葉の力に気付く	0歳児前半の子どもの育ちと関わる言葉についての復習と次回の予習（キーワード：乳児期、発達）	4時間
第４回	**言葉の発達と保育　(2)0歳児後半** 保育者がかける言葉がけの大切さに気付き、かかわりのなかで育つ言葉の力に気付く。	0歳児後半の子どもの育ちと保育者の言葉かけの関係を調べる	4時間
第５回	**言葉の発達と保育　(3)1歳児から2歳児** 子どもの身体的な発達とともに広がる、子どもの心が創る世界と言葉について考えてみる。	子どもの心と身体の発達が子どもの世界を広げる意味について学習内容の復習と次回の予習（キーワード：幼児期、発達）	4時間
第６回	**言葉の発達と保育　(4)3歳児から5歳児** 社会性の育ちと言葉についての関係を捉える。	言葉を通して社会性が育つ意味についての復習と次回の教材研究の予習（キーワード：子ども、言葉	4時間
第７回	**言葉にかかわる教材研究　(1)乳児期の絵本** 乳児の好む絵本と教育的意図について学びながら、絵本の読み方、扱い方、選び方を学ぶ。	乳児の絵本リストの制作	4時間
第８回	**言葉にかかわる教材研究　(2)幼児期の絵本** これまでの絵本の歴史の中で子どもが好む絵本と、語り継がれてきた絵本について学習しながら、絵本の読み方、扱い方、選び方を学ぶ	幼児の絵本リストの制作	4時間
第９回	**言葉に関わる児童文化とその意義** 児童文化財に親しみ、その意義について調べ学習をした結果を議論する。	児童文化とは何かその種類についての予習（キーワード：保育、表現）	4時間
第10回	**言葉を育てる保育教材　(1)ペープサートなど** 物語の進行に合わせて棒を繰る日本で生まれた人形劇の一種であり、江戸時代の「立絵」（写し絵）がもとになっていることなど、その歴史から児童文化の一つであることを理解して、制作して演じる、	ペープサートの制作	4時間
第11回	**言葉を育てる保育教材　(2)ブラックシアターなど** 光りが奏でる幻想的な感動を生かせる教材について学び、演技をする。	ブラックシアターの制作	4時間
第12回	**言葉を育てる保育教材　(3)パネルシアターなど** パネルシアターに向いた布の存在などを調べ学習して発表しながら実際に使用して威嚇検討する。	パネルシアターの制作	4時間
第13回	**言葉を育てる保育教材　(4)紙芝居・ストーリーテーリングなど** 子どもに語り書けることは、子どもにとってそのような意味を持つのかなどについて議論した上で、語る技術を修得する。	紙芝居・ストーリーテーリングの選定と語りの練習	4時間
第14回	**言葉を育てる保育教材と表現（発表）** 保育実践のなかで子どもの話す力を育てるために、大切なことがらをまとめる	言葉における実践力とは何かの振り返り（キーワード：表現としての言葉）	4時間
第15回	**総括と質疑応答** 保育内容（言葉）の授業を振り返り、言葉に関する領域における自身の課題をみつける	学習内容の復習とまとめ	4時間

1

授業科目名	**領域（音楽表現）**				
担当教員名	**矢倉瞳**				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

乳幼児の音楽表現に関する事例を通して、乳幼児の音楽表現について理解する。乳幼児の音楽表現を実際に体験し、そこにどのような音楽の構成要素および仕組みがあるのか、どのように音と音以外の表現媒体とがかかわっているのを理解する。そして、再度音楽の構成要素および仕組み、音と音以外の表現媒体とのかかわりを意識して実際に音楽表現をする。最後に、その音楽表現を振り返ることで、乳幼児の音楽表現の指導・援助に必要な音楽の基礎的知識を習得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解

具体的内容： 音楽表現活動

目標： 乳幼児の音楽表現に関わる音楽の構成要素等を表現活動を通して理解する。

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践

乳幼児の音楽表現に関わる音楽の構成要素等を意識して表現活動を行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
アセスメントシート	30%	： 各回2点×15回（合計30点） 各回の授業内容に関する問いに的確に答えることができている。
小テスト	20%	： 授業で学んだことを問うテストに的確に答えることができている。
期末レポート	50%	： 楽曲または表現活動における音楽の構成要素及び音以外の表現媒体を導き出し、それを踏まえた保育について独自の視点で考察することができている。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『生成を原理とする21世紀音楽カリキュラム 幼稚園から高等学校まで』日本学校音楽教育実践学会（編）（東京書籍）2006

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 後日連絡する

場所： 西館6階研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション及び表現** ・授業の進め方、成績評価等について知る。 ・「表現」とは何か理解する。	「表現」について課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第2回	**乳幼児の表現について** ・乳幼児の「表現」がどのようなものか映像聴取によって理解する。	乳幼児の「表現」について課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第3回	**音楽の構成要素および仕組み①：音色（いろいろな音素材の音色）** ・身近な素材を使った音遊びの体験を通して、音色について理解する。 ・音色を意識して、表現活動を行う。	「いろいろな素材の音色について課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第4回	**音楽の構成要素および仕組み②：音色（音具・楽器の音色）** ・音具・楽器を使った音遊びの体験を通して、音色について理解する。 ・音色を意識して、表現活動を行う。	「音具・楽器の音色」について課題プリントを読んでまとめる。	4時間

第5回	**音楽の構成要素および仕組み③：拍** ・わらべうた活動を通して、拍について理解する。 ・拍を意識して、表現活動を行う。	「拍」について課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第6回	**音楽の構成要素および仕組み④：拍子** ・鑑賞活動を通して、拍子について理解する。 ・拍子を意識して、鑑賞活動及び表現活動を行う。	「拍子」について課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第7回	**音楽の構成要素および仕組み⑤：音の高低** ・わらべうた活動を通して、音の高低について理解する。 ・音の高低を意識して、表現活動を行う。	「音の高低」について課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第8回	**音楽の構成要素および仕組み⑥：強弱** ・歌唱活動を通して、強弱について理解する。 ・強弱を意識して、表現活動を行う。	「強弱」について課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第9回	**音楽の構成要素および仕組み⑦：速度** ・鑑賞活動を通して、速度について理解する。 ・速度を意識して、鑑賞活動及び表現活動を行う。	「速度」について課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第10回	**音楽の構成要素および仕組み⑧：反復** ・わらべうた活動を通して、反復について理解する。 ・反復を意識して、表現活動を行う。	「反復」について課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第11回	**音楽の構成要素および仕組み⑨：呼びかけと答え** ・わらべうた活動を通して、呼びかけと答えについて理解する。 ・呼びかけと答えを意識して、表現活動を行う。 ・小テストを行う。	「呼びかけと答え」について課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第12回	**音と音以外の表現媒体とのかかわり①：音・言葉のかかわり** ・わらべうた活動を通して、音・言葉のかかわりについて理解する。	「音・言葉のかかわり」について課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第13回	**音と音以外の表現媒体とのかかわり②：音・動きのかかわり** ・わらべうた活動を通して、音・動きのかかわりについて理解する。	「音・動きのかかわり」について課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第14回	**音と音以外の表現媒体とのかかわり③：音・言葉・動きのかかわり** ・わらべうた活動を通して、音・言葉・動きのかかわりについて理解する。	「音・言葉・動きのかかわり」について課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第15回	**音と音以外の表現媒体とのかかわり④：音・言葉・色彩・形・動きのかかわり** ・歌、絵による総合的な表現活動を通して、音・言葉・色彩・形・動きのかかわりについて理解する。	「音・言葉・色彩・形・動きのかかわり」について課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第16回	**期末レポート**		4時間

1

授業科目名	**領域（造形表現）**				
担当教員名	**白波瀬達也**				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験を大切にすることを学ぶ。造形表現活動に用いる素材や材料、道具に関する基礎知識や技能の習得した上で、子どもの感性や創造性を豊かにするため表現活動を扶ける専門的知識、技能、表現力を身につけることを目指す。また、乳幼児の造形表現活動の環境や過程を大切にして理解を深め、造形表現について学び、色や形、感触やイメージ等に親しむ自らの体験が感性や創造性を豊かにすることを理解し表現力を身につける。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	子どもの造形に関する知識や技能の理解	子どもの感性や創造性を豊かにするため表現活動を扶ける専門的知識、技能、表現力を身につけることができる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		乳幼児の造形表現活動の環境や過程を大切にして理解を深め、造形表現について学び、色や形、感触やイメージ等に親しむ自らの課題を発見する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。既定の回数以上の出席がなければ成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	30%	： 造形表現活動の環境や過程を大切にして理解を深め、自らの課題を発見し積極的に取り組むことを評価する。各回1～2点で評価し、合計30点とする。
ワークシート	30%	： 授業内容を踏まえて子どもの感性や創造性を豊かにするため必要な知識や技術について書かれている：30点。授業内容を形式に沿って書かれている：18点。
小レポート	5%	： 造形表現に必要な知識や技術を習得し、造形素材の特性について理解したことついてのふりかえりが書かれている：5点。授業内容のふりかえりが書かれている：3点。
提出物(ファイル)	35%	： 造形表現活動に用いる素材や材料、道具に関する基礎知識や技能の習得した上で、造形素材の特性を生かした表現ができたものがまとめられてている：35点。指定の形式に沿って書かれている：21点。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省 厚生労働省 内閣府	・ 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ＜原本＞	・ チャイルド本社	・ 2017年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

授業内容をまとめることで復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：
場所： 授業教室
備考・注意事項： 質問は授業の前後に答える。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーショ／子どもの表現について** 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験を大切にすることについて理解を深める。	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」に関わる個所を領域（造形表現）を受講するために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第2回	**造形素材研究（1）パス** 子どもの造形表現活動に用いる描画材（パス）に関する基礎知識や技能の習得する。	造形素材研究（パス）をおこなうために子どもが使う描画材について興味関心を持っておく。学習内容のまとめ・整理	4時間

第3回	**造形素材研究（2）道具（はさみ）** 子どもの造形表現活動に用いる道具（はさみ）に関する基礎知識や技能の習得する。	造形素材研究（はさみ）をおこなうために子どもが使う道具について興味関心を持っておく。学習内容のまとめ・整理	4時間
第4回	**造形素材研究（3）絵の具** 子どもの造形表現活動に用いる描画材（絵の具）に関する基礎知識や技能の習得する。	造形素材研究（絵の具）をおこなうために子どもが使う描画材について興味関心を持っておく。学習内容のまとめ・整理	4時間
第5回	**造形素材研究（4）紙の造形（基本）** 子どもの造形表現活動に用いる紙材に関する基礎知識や技能の習得する。	造形素材研究（紙の造形）をおこなうために子どもが使う紙材について興味関心を持っておく。学習内容のまとめ・整理	4時間
第6回	**造形素材研究（5）紙の造形（応用）** 子どもの造形表現活動に用いる紙材に関する基礎知識や技能の習得した上で応用する。	造形素材研究（紙の造形）をおこなうために子どもが使う紙材について興味関心を持っておく。学習内容のまとめ・整理	4時間
第7回	**子どもの感性と表現活動（１）水性マーカー** 子どもの造形表現活動の環境や過程を大切にして理解を深め、水性マーカーを用いて色や形、感触やイメージ等に親しむことを体験する。	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」に関わる個所を表現活動（水性マーカー）をするために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第8回	**子どもの感性と表現活動（２）マーカーと絵の具** 子どもの造形表現活動の環境や過程を大切にして理解を深め、マーカーと絵の具を用いて色や形、感触やイメージ等に親しむことを体験する。	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」に関わる個所を表現活動（マーカーと絵の具）をするために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第9回	**子どもの感性と表現活動（３）油粘土の協働活動** 子どもの造形表現活動の環境や過程を大切にして理解を深め、油粘土の協働活動をとおして形、感触やイメージ等に親しむことを体験する。	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」に関わる個所を表現活動（粘土の活動）をするために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第10回	**子どもの感性と表現活動（４）粘土の協働活動** 子どもの造形表現活動の環境や過程を大切にして理解を深め、粘土の協働活動をとおして形、感触やイメージ等に親しむことを体験する。	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」に関わる個所を表現活動（粘土の活動）をするために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第11回	**身近な素材を用いた表現活動（１）色水あそび** 子どもの感性や創造性を豊かにするため表現活動について理解を深めるために「色水あそび」をおこなう。	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」に関わる個所を表現活動（色水あそび）をするために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第12回	**身近な素材を用いた表現活動（２）感触あそび** 子どもの感性や創造性を豊かにするため表現活動について理解を深めるために「感触あそび」をおこなう。	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」に関わる個所を表現活動（感触あそび）をするために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第13回	**身近な素材を用いた表現活動（３）素材あそび** 子どもの感性や創造性を豊かにするため表現活動について理解を深めるために「素材あそび」をおこなう。	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」に関わる個所を表現活動（素材あそび）をするために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第14回	**子どもの造形表現のふりかえり** 子どもの造形表現活動に関する専門的知識、技能、表現力について理解を深めることができたかをふりかえる。	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」に関わる個所をふりかえりをするために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第15回	**まとめ** 「領域（造形表現）」でおこなってきた内容についてまとめる。	学習内容のまとめ・整理	4時間

1

授業科目名	**保育内容（環境）**				
担当教員名	**松阪崇久**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期／後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」という観点から子どもの育ちを支える領域です。この授業の目的は、領域「環境」のねらいと内容についての理解を深め、子どもの発達や学びの過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることです。そのために、子どもの好奇心・探究心や科学的思考の芽生えを育む様々な方法を学び、子どもが自然環境・物的環境・社会環境と主体的に関わる際の保育者の役割を考える力を習得します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

領域「環境」の視点からの保育指導法

目標：

領域「環境」の観点を含む様々な保育実践について学び、具体的な指導計画を立案できる。

汎用的な力

1 ．DP5.計画・立案力

学んだことを基に具体的な計画を立案できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内や授業後の課題	60%	： 授業内容を踏まえた上で作成できているか。さらに、独自の視点・気付き・アイデアを加えることができているか。
最終まとめレポート	40%	： 授業内容および模擬保育の省察を踏まえた上で、自分の考えを論理的にまとめることができているか。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
田宮縁	体験する・調べる・考える　領域「環境」（第2版）	萌文書林	2018年
文部科学省･厚生労働省･内閣府	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育･保育要領	チャイルド本社	2017年

参考文献等

『幼稚園教育要領解説』※最新版
『保育所保育指針解説』※最新版
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』※最新版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に周知します。
場所：　研究室
備考・注意事項：　具体的な質問方法についても、初回授業時に周知します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション／領域「環境」の位置づけ** 「環境を通した教育」をはじめとする保育の基本理念と領域「環境」の関係を学ぶ。5領域の領域ごとのつながりと領域「環境」の位置づけを理解する。	「環境を通した教育」、「環境教育」、「領域「環境」」といった用語の意味と位置付けを整理する。	4時間
第２回	**領域「環境」のねらいと内容** 領域「環境」のねらいと内容についての学びを深め、乳幼児が経験し、身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。	領域「環境」の各内容について、幼児の具体的な経験の場面を考える。	4時間
第３回	**自然現象や季節の変化に触れる保育実践**	身近な季節の変化を意識し、記録する。	4時間

	雨、雪、風、光、太陽、月、星といった自然現象や、季節の変化に触れる保育実践について学ぶ。		
第４回	**自然を取り入れた遊びの指導** 身近な自然を取り入れた様々な遊びについて知り、その指導法を学ぶ。	自然を取り入れた遊びを考える。自然マップを作成する。	4時間
第５回	**動物飼育と植物栽培における学びとその指導** 虫や小動物の飼育、花や野菜の栽培をおこなう意義を理解し、適切な方法を学ぶ。	生き物の特徴を調べ、その飼育や栽培を子どもたちにとって価値のある経験とするための留意点をまとめる。	4時間
第６回	**持続可能性のための幼児教育とは？** 持続可能性のための幼児教育（ESDまたはEfS）がなぜ大切かを理解し、そのための保育実践について学ぶ。	生き物同士のつながりを意識した活動を考える。	4時間
第７回	**物をつかった遊びの指導①：物の性質や法則性の学び** 物をつかった遊びを通して物の性質や法則性についてどのような学びがあるかを理解し、適切な指導法を学ぶ。	物の性質や法則性の学びにつながる遊びを考える。	4時間
第８回	**物をつかった遊びの指導②：好奇心・探究心を育む** 物をつかった遊びを通して子どもたちの好奇心や探究心を育むための指導法を学ぶ。	物への子どもの好奇心・探究心を育むための保育者の関わりについて考える。	4時間
第９回	**物をつかった遊びの指導③：科学的思考の芽生え** 物をつかった遊びを通して、科学的思考の芽生えを育む指導法を学ぶ。	遊びの中での子どもなりの思考の過程について整理する。	4時間
第１０回	**数量や図形に親しむ保育実践** 日常生活の中で数量や図形に親しむ経験を取り入れた保育実践について学ぶ。	保育の中で、数量や図形に親しむ経験についてまとめる。	4時間
第１１回	**領域「環境」の保育計画と評価～指導案の作成** 保育における計画と評価の考え方を理解し、領域「環境」の視点から具体的な保育を想定した指導案を作成する方法を学ぶ。	領域・環境の視点から指導案を作成する。	4時間
第１２回	**地域社会の資源を活かした保育** 公園や図書館、動物園など、地域社会の資源を活かした保育実践について学ぶ。	自分の住む地域社会の資源についてまとめる。	4時間
第１３回	**領域「環境」と小学校以降の教育のつながり** 乳幼児期の領域「環境」の観点からの学びが、小学校以降の教育とどのようにつながっているかを学ぶ。	領域「環境」と小学校の教科との関係をまとめる。	4時間
第１４回	**模擬保育と振り返り** 模擬保育と振り返りによって、保育を改善する視点を身に付ける。	模擬保育の省察をおこない、改善点をまとめる。	4時間
第１５回	**模擬保育と振り返り** 模擬保育と振り返りによって、保育を改善する視点を身に付ける。	模擬保育の省察をおこない、改善点をまとめる。	4時間

1

授業科目名	**保育内容（健康）**				
担当教員名	三村寛一				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

健康の概念を明らかにし、乳幼児期の健康について「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の領域「健康」に基づき、意義とねらい、内容を理解する。乳幼児期に、生きる力の基本となる睡眠・食育・運動について正しい習慣を身に付けることの大切さを理解し、養護と関連付けながら必要な援助法を学ぶ。特に、運動遊びが心身の健全な発達に大きな影響を及ぼすことを生理学的に理解し、年齢に応じた運動遊びを「幼児の運動指針」に基づき理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	乳幼児期の健康について理解する。	乳幼児の運動遊びを深く理解する。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	安全効果的に運動遊びを遂行するのに必要な専門知識を修得する。	幼児の運動指針を深く理解する。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	現在の子どもを取り巻く生活環境と健康課題について深く理解する

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	50%	： 子どもの健康について生理学的に理解できているか
課題提出	10%	： 指導者の提示したテーマに対して参考文献を活用し丁寧に作成されているか
授業の取り組み状況	40%	： 授業中に行われる授業者の質問に対して深く考察し積極的に回答しているか

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
三村寛一・安部惠子編	・ 新・保育と健康	・ 嵯峨野書院	・ 2018年

参考文献等

『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領　幼稚園教育要領　保育所保育指針＜原本＞』チャイルド社　2014年
『保育所保育指針解説書』厚生労働省　フレーベル館2008
『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル2008

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　毎週水曜日の２限

場所：　中央館２階　三村研究室

備考・注意事項：　時間を調整しますので講義開始前、終了後に声をかけて下さい。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**保育内容（健康）の目的と内容の理解** シラバスを基に授業の概要と15回の授業の計画を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針を 基に保育の基本や内容について学習する。	保育の内容について予習する	4時間
第2回	**発育発達特性と現在の健康課題について** 乳幼児期の身体発達、形態及び体格指数、骨、歯、脳、運動機能の特性について学習する。	乳幼児期の発育発達について予習する	4時間
第3回	**乳幼児の心の発達** 精神的発達、知的能力の発達、社会性の発達について学習する。	心の発達について予習する	4時間
第4回	**幼児の体力・運動能力と身体活動量** 幼児の体力・運動能力、体力測定の意義と方法、身体活動量について学習する。	幼児の身体活動について予習する	4時間
第5回	**事例を用いたグループ討議（１）運動能力･身体活動量** 運動能力･身体活動量について、4－5人のグループで実際に測定し、その結果（正確な測定方法や評価）を代表が発表する。	幼児の体力測定方法について予習する	4時間
第6回	**幼児の生活習慣の形成と指導** 基本的生活習慣、食事、排泄、睡眠、衣服の着脱の自立について学習する。	乳幼児の生活習慣について予習する	4時間

第7回	**幼児の運動あそび** 運動あそびの意義、多様な動きを身につける、遊具や用具との関り、保育者の配慮と援助等について学習する。	乳幼児の運動遊びについて予習する	4時間
第8回	**事例を用いたグループ討議（2）運動あそび** 運動あそびについて、4－5人のグループで検討し、その結果を代表が発表する。	年齢別の運動遊びの現状について予習する	4時間
第9回	**幼児期の運動指針について** 文部科学省から示された幼児期の運動指針の内容について学習する。	幼児の運動指針について予習する	4時間
第10回	**事例を用いたグループ討議（３）幼児期の運動指針** 幼児期の運動指針の内容について、4－5人のグループで検討し、その結果を代表が発表する。	幼児の身体活動における課題について予習する	4時間
第11回	**乳幼児の土踏まずの形成と骨密度の発達** パワーポイントを基に乳幼児の土踏まずの形成と骨密度の発達について学習する。	乳幼児の骨の発達について予習する	4時間
第12回	**安全教育と事故予防** 園内における事故と傷害,救急処置、安全教育について学習する。	乳幼児の怪我について予習する	4時間
第13回	**幼稚園における公開行事** 運動会、水遊び、遠足、園内での健康教育等について学習する。	乳幼児の健康について予習する	4時間
第14回	**保育内容（健康）の指導案** 指導案の書き方について実践例を基に学習する。	乳幼児の健康課題について予習する	4時間
第15回	**総括と質疑応答** １４回を通しての振り返りと質疑事項をレポートにまとめる。	現在の子どもの健康課題解決策をまとめる	4時間

1

授業科目名	**保育内容（人間関係）**				
担当教員名	**吉次豊見**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立幼稚園にて教諭として勤務。（全15回）				

授業概要

幼児教育・保育における領域「人間関係」の意義や内容を理解し、子どもを取り巻く人間関係について基本的な考え方を知るとともに、人とかかわる力を育む教材作成や領域「人間関係」の指導計画案作成の方法についても学ぶ。授業では、できるだけ多くの保育実践事例を紹介する。保育実践事例を通して学ぶことで、理論と実践とのつながりを意識した保育実践の大切さを理解し、保育の専門性の理解を深めるとともに、習得した専門性を応用する力を養う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	保育者の専門性の理解	専門性知識の修得と修得した知識を応用することができる。
汎用的な力		
1 ．DP5.計画・立案力		習得した専門知識により人と関わる力を育む保育計画の作成ができる。
2 ．DP6.行動・実践		習得した専門知識を保育実践の場で応用することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規程回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への取り組み状況 20%	：	問答、紙面課題により質問、課題に応じて専門的にかつ的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言、回答を評価する。
期末テスト 60%	：	専門性の修得ができているか、修得した専門性を実践に応用する力が備わっているか等の観点より評価する。
授業内課題 20%	：	授業内での課題により授業内の理解等について評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
咲間まり子編著	保育実践を学ぶ　保育内容「人間関係」第2版	みらい	2018年
文部科学省　厚生労働省　内閣府	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領	チャイルド本社	2017年

参考文献等

文部科学省　幼稚園教育要領解説 フレーベル館　2018年
厚生労働省　保育所保育指針解説　フレーベル館　2018年
内閣府/文部科学省/厚生労働省　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館　2018年

履修上の注意・備考・メッセージ

期末試験については授業内で学修したことを理解したうえで回答している者を評価する。
復習をしっかりとしてくることを期待する。前回の授業内容の復習を開始前に行い。論理的、積極的な態度に対して加点する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　吉次：初回授業時に指示する

場所：　吉次：中央館５F112

備考・注意事項：　授業終了後に質問を受け付ける。ただし、内容によっては他日にメール等での対応となることもある。
【吉次】yoshitsugu@osaka-seikei.ac.jp　※メールには必ず件名・学籍番号・氏名を記入すること

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の進め方と評価法についてオリエンテーション** 保育内容「人間関係」に求められることについて考える	保育所保育指針と幼稚園教育要領の人間関係の項目について読んでおくこと。キーワード：人間関係	4時間
第2回	**領域「人間関係」について** 保育内容における領域「人間関係」の位置づけを学ぶ	保育所保育指針と幼稚園教育要領の人間関係の項目について読んでおくこと。キーワード：五領域のひとつとしての人間関係	4時間
第3回	**乳幼児期の人間関係の発達（１）　０～２歳**	指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。キーワード：おおむね2歳まで	4時間

	関わりのなかで育つ乳幼児の姿を思い浮かべながら、望ましい人間関係のあり方を考える		
第4回	**乳幼児期の人間関係の発達（２）　３～５歳** 人間関係が子ども同士の遊びのなかで育つことを知り、幼児の社会性について学ぶ	指定教科書の該当箇所を読んでおくこと。キーワード：3歳から就学前まで	4時間
第5回	**領域「人間関係」からみた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」** H30年から施行される幼稚園教育要領で示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、人間関係の領域から考える。	学習した内容を復習しておくこと。キーワード：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	4時間
第6回	**人間関係を育む遊びの実際** 実際の遊びを映像教材等で視聴し、多くの遊びの事例から人間関係を育む保育のあり方を知る。	学習した内容を復習しておくこと。キーワード：遊びと人間関係	4時間
第7回	**人とかかわる力を育む教材作成とICTの活用について** 人間関係を育てるために必要な保育教材を考える。またICTの活用について学ぶ。	学習した内容を復習しておくこと。キーワード：教材研究・ICT	4時間
第8回	**領域「人間関係」指導計画案作成演習（１）長期指導案** 長期指導計画案作成の基礎ならびに留意点を習得する	学習した内容を復習しておくこと。キーワード：長期指導計画案作成のための留意点	4時間
第9回	**領域「人間関係」指導計画案作成演習（２）短期指導案** 短期指導計画案作成の基礎ならびに留意点を習得する	学習した内容を復習しておくこと。キーワード：短期指導計画のための留意点	4時間
第10回	**指導計画案に基づく模擬保育（1）人と関わる育ちの視点から** 人間関係を育てるための指導計画案をたて、実際に模擬保育をおこなう。	学習した内容を復習しておくこと。キーワード：模擬保育の実践	4時間
第11回	**指導計画案に基づく模擬保育（2）評価と指導案の改善** 人間関係を育てる保育を実践するための指導計画案について、評価のあり方を学び、どのように改善していくかを理解する。	学習した内容を復習しておくこと。キーワード：模擬保育・評価と改善	4時間
第12回	**人とかかわる力を育む保育（１）　異年齢交流・地域との交流** 保育施設で実際におこなわれている異年齢の子どものかかわり、地域との交流の利点について学ぶ	異年齢活動とはどのようなものかを調べておくこと。キーワード：年長児＝役に立つ喜び	4時間
第13回	**人とかかわる力を育む保育（２）　保幼小交流・接続を考える** 子どもの育ちを支援するために幼・保・小の連携・接続のあり方を学ぶ	幼保小連携について調べておくこと。キーワード：子どもの育ちを支える連携のあり方	4時間
第14回	**人とかかわる力を育む保育（３）　多様な人、多様な子どもとのかかわり** 子どもたちが自分と異なる他者を受け入れ、かかわりを通して育つ環境について考える	インテグレーション、インクルージョンについて調べておくこと。キーワード：すべての子どもの幸せのために	4時間
第15回	**保育実践事例紹介と総括** 人間関係の広がりと深まりを期待した園行事を紹介し、継続的な園行事による子どもの育ちについて説明する。また本授業の総括を行う。	どのような園行事があるのか調べておくこと。キーワード：子どもを育てる園行事	4時間

1

授業科目名	**保育内容（言葉）**				
担当教員名	**大橋喜美子・岡本雅子**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	保育所・幼稚園勤務23年、大学勤務21年				

授業概要

誕生から幼児期に至るまでの子どもの言語発達、およびその過程に関わる保育者の重要性について、基本的な事項を理解する。この知識を基に、幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」の意義や内容を理解するとともに、言葉に関わる保育実践において、実際に保育現場において使用されている教材や具体的な実践事例を通し、豊かな言葉を育む実際的な指導方法を学ぶ。また、教材作成や指導計画案作成演習及び模擬保育を実際に体験し、保育実践力を培う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	乳幼児期の子どもの言語発達と、領域「言葉」の意義や内容について学ぶ。	教職および新しい教育課題に関する知識を得、それらを理解することができる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	模擬保育	模擬保育を通して得た気づきを基に、豊かな言葉を育む保育を理解し実践することができる。
汎用的な力		
1 ．DP6.行動・実践		実践を省察しながら、授業・保育を設計、実践する力を修得することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)
　振り返り等に記された質問については、翌週の授業で全体に向けてコメントします。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	50%	： 50点：教職および新しい教育課題に関する知識が十分に獲得・理解され、それらを踏まえた独自の視点による解答。 40点：講義内容に準拠した解答。
授業内課題の達成度	30%	： 授業の終わりに書く「学びの振り返り」を基に、授業・保育を自ら設計、実践する力が育ち、養われたかを問う。その際、授業内容を踏まえ、実践を省察しながら論じられていることが求められる。
授業への参加度	20%	： 教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを評価する。また、演習等における誠実な役割遂行なども評価の対象とする。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省 厚生労働省内閣府	・ 幼稚園教育要領　保育所保育指針幼保連携型認定こども園教育・保育要領　＜原本＞※最新版がでた場合は、最新版に追加・変更の可能性があります。	・ チャイルド本社	・ 2017年
赤羽根有里子/鈴木穂波共編著	・ 新時代の保育双書「保育内容 ことば〔第3版〕」	・ ㈱みらい	・ 2018年

参考文献等

『保育発達学』　服部照子・岡本雅子[編著]　（ミネルヴァ書房：2009）　　その他については適宜、授業の中で紹介する。
*下記は、最新版がでた場合は、追加・変更の可能性があります。
『保育所保育指針解説書』厚生労働省　フレーベル館2008
『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル2008

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後・火曜日の昼休み

場所：　授業の教室・大橋個人研究室

備考・注意事項：　質問には、授業開始時間の前、および授業終了後の時間で答える。その際には必ず、氏名と所属を伝えること。
時間外質問の連絡方法は、初回授業時に指示する。

授業計画

		授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**授業の進め方と評価法についてのオリエンテーション 子どもと言葉について** ５領域について振り返りながら、保育内容(言葉)の意義について考える	保育内容5領域の復習と次回の予習（キーワード：子ども、言葉、保育内容）	4時間
第2回	**領域「言葉」の位置づけ** 人間存在にとっての言葉の意味を深く考えながら、保育内容(言葉)を捉えてみる	学習内容の復習と次回の予習（キーワード：乳児期、発達）	4時間
第3回	**言葉の発達（１）　０～８・９ケ月** 養育者がかける言葉がけの大切さに気付き、かかわりのなかで育つ言葉の力に気付く	養育者の言葉がけが子どもに与える影響についての復習と次回の予習（キーワード：乳児期、発達）	4時間
第4回	**言葉の発達（２）　８・９ケ月～２歳** 子どもの身体的な発達とともに広がる、子どもの世界と言葉について考えてみる	子どもの身体的発達と言葉の関係についての復習と次回の予習（キーワード：幼児期、発達）	4時間
第5回	**言葉の発達（３）　３歳～６歳** 社会性の育ちと言葉についての関係を捉える	人と触れ合い話す中での社会性についての復習と次回の予習（キーワード：子ども、言葉）	4時間
第6回	**言葉の発達まとめ** 乳幼児期の言葉の発達を振り返り、子どもの全面的な発達との関係のなかで保育内容(言葉)を考える	乳幼児のの全面的な発達と言葉の関係について復習と次回の予習（キーワード：全面発達と言葉）	4時間
第7回	**言葉にかかわる教材作成** 子どもと関わる際に使用する、言葉に関する教材研究をおこなう	幼児期に必要な児童文化と教材の関係について復習し、予習する（キーワード：保育、教材）	4時間
第8回	**言葉にかかわる教材作成・発表** 言葉を育てる教材のいろいろを知り、それを作成し、発表する	子どもに理解できる教材について復習して次回の授業の予習をする（キーワード：言葉、指導計画）	4時間
第9回	**領域「言葉」と指導計画** 保育内容(言葉)を全体的な指導計画のなかにいかに組み入れたらよいのかについて学ぶ	全体的な指導計画と保育内容言葉との関連を復習しさらに調べて予習をする（キーワード：指導計画案の作成、シュミレーション）	4時間
第10回	**指導計画案作成演習・模擬保育（１）** 作成した指導計画案をもとに模擬保育を順番におこなう（１）	子どもの気持ちに寄り添いながらじっすする模擬保育について復習して予習する（キーワード：指導計画案の作成、シュミレーション）	4時間
第11回	**指導計画案作成演習・模擬保育（２）** 作成した指導計画案をもとに模擬保育を順番におこなう（２）	模擬保育における専門性について復習し次回の学習内容の予習をする（キーワード：指導計画案の作成、シュミレーション）	4時間
第12回	**指導計画案作成演習・模擬保育（３）** クラスメートの模擬保育から学んだことがらをまとめる	指導計画・演習・模擬保育を通して子どもの心に何が残せるかについて復習し予習する（キーワード：保育、絵本）	4時間
第13回	**言葉を豊かに育む保育（１）　絵本** 児童文化財に親しみ、その代表としての絵本の読み方、扱い方、選び方を学ぶ	児童文化とは何かについて振り返って復習し予習を行う（キーワード：保育、表現）	4時間
第14回	**言葉を豊かに育む保育（２）　表現（言葉）** 保育実践のなかで子どもの話す力を育てるために、大切なことがらをまとめる	子どもの話す力を育てる保育実践の影響について復習し振り返る（キーワード：表現としての言葉）	4時間
第15回	**総括と質疑応答** 保育内容（言葉）の授業を振り返り、言葉に関する領域における自身の課題をみつける	保育内容言葉と子どもの発達にとの関連について振り返りながら自分の課題を見つける。	4時間

1

授業科目名	**保育内容（表現1）**				
担当教員名	**矢倉瞳**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

音楽表現に関する事例を通して乳幼児の発達に即した音楽教育に関する理論を理解する。そして、幼稚園、保育園で行われている音楽活動を実際に体験し、乳幼児の音楽表現（リズム）に関わる活動を体得する。音楽表現を楽しむ乳幼児の姿や生活の理解をふまえて年齢に応じた教材、保育の流れを想定し、グループで模擬保育を計画・実践し、現場における保育者の関わり方や援助の改善方法を知る。最後に模擬保育をふまえた指導計画案を作成する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

音楽に関わる領域「表現」のねらい及び内容を理解できる。
模擬保育によって保育者の役割を理解できる。

目標：

領域「表現」のねらいに基づいて、音楽に関わる保育実践の指導計画を作成することができる。

汎用的な力

1 ．DP5.計画・立案力

幼稚園教育要領、保育内容表現に関する基礎理論にもとづいた保育の指導計画案を作成できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
欠席は3回まで。欠席4回で最終定期試験を受験する資格がなくなる。

成績評価の方法・評価の割合　　**評価の基準**

アセスメントシート　15%　：　各回1点×15回（合計15点）
問いに対して的確に答えることができている。：1点

授業内容を問う小テスト　20%　：　・授業内容を全て理解している：20点
・授業内容をほぼ理解している：10～19点

修正保育指導案　15%　：　・討議会の内容を踏まえ、独自の視点で指導案を作成している。：15点
・討議会の内容を踏まえ指導案を作成している。：5～14点

定期試験　50%　：　・45点：全講義内容をふまえ、独自の視点で書かれた解答
・35点：講義内容に準拠した解答

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
内閣府文部科学省厚生労働省編	幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針	チャイルド本社	2018年

参考文献等

授業の中で随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　後日連絡する

場所：　西館6階研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** ・オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等） ・「表現」とは何か理解する。	「表現」について課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第2回	**保育内容　表現のねらい** ・保育内容表現における保育のねらいについて、表現活動を通して理解する。	保育のねらいついて課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第3回	**保育内容　表現の内容** ・保育内容について、表現活動を通して理解する。	保育の内容ついて課題プリントを読んでまとめる。	4時間

第4回	**乳幼児の発達と表現の関わり** ・乳幼児の発達に伴う、表現の仕方の変容について理解する。	乳幼児の発達と表現の関わりついて課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第5回	**乳幼児の音楽表現と保育①（わらべうた）** ・わらべうたのモデル保育の体験を通して、わらべうたにおける乳幼児の表現及び保育に必要な知識・技能を習得する。 ・グループでわらべうたの保育指導案を作成する。	わらべうたについて課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第6回	**乳幼児の音楽表現と保育②（手遊び、身体遊び）** ・手遊び、身体遊びのモデル保育の体験を通して、手遊び、身体遊びにおける乳幼児の表現及び保育に必要な知識・技能を習得する。 ・グループで手遊び、身体遊びの保育指導案を作成する。	手遊び、身体遊びについて課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第7回	**乳幼児の音楽表現と保育③（音楽づくり）** ・音楽づくりのモデル保育の体験を通して、音楽づくりにおける乳幼児の表現及び保育に必要な知識・技能を習得する。 ・グループで音楽づくりの保育指導案を作成する。	音楽づくりについて課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第8回	**乳幼児の音楽表現と保育④（季節の歌、行事の歌）** ・季節の歌、行事の歌のモデル保育の体験を通して、季節の歌、行事の歌における乳幼児の表現及び保育に必要な知識・技能を習得する。 ・グループで季節の歌、行事の歌の保育指導案を作成する。	季節の歌、行事の歌について課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第9回	**乳幼児の音楽表現と保育⑤（器楽遊び）** ・器楽遊びのモデル保育の体験を通して、器楽遊びにおける乳幼児の表現及び保育に必要な知識・技能を習得する。 ・グループで器楽遊びの保育指導案を作成する。	器楽遊びについて課題プリントを読んでまとめる。	4時間
第10回	**小テスト及び模擬保育最終準備** ・小テストを行う。 ・模擬授業に向けて保育指導案を作成及び準備を行う。	模擬保育の準備を行う。	4時間
第11回	**グループによる模擬保育①（わらべうた）** ・わらべうたの模擬保育と討議会を行う。	修正保育指導案を作成する。	4時間
第12回	**グループによる模擬保育②（手遊び、身体遊び）** ・手遊び、身体遊びの模擬保育と討議会を行う。	修正保育指導案を作成する。	4時間
第13回	**グループによる模擬保育③（音楽づくり）** ・音楽づくりの模擬保育と討議会を行う。	修正保育指導案を作成する。	4時間
第14回	**グループによる模擬保育④（季節の歌、行事の歌）** ・季節の歌、行事の歌の模擬保育と討議会を行う。	修正保育指導案を作成する。	4時間
第15回	**グループによる模擬保育⑤（器楽遊び）** ・器楽遊びの模擬保育と討議会を行う。	修正保育指導案を作成する。	4時間
第16回	**定期試験**		4時間

1

授業科目名	**保育内容（表現2）**				
担当教員名	**白波瀬達也**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

保育者が子どもの造形活動に関わる意義について考え、造形活動が子どもの発達におよぼす影響について学ぶ。５領域の「表現」に関するねらいや内容を学び、豊かな感性や表現する力、創造力を豊かにする観点から、成長の連続性、保育の連続性を考えた実践力を身につけることを目指す。また、乳幼児の造形活動で用いる素材や材料、道具に関する基礎知識や技能を習得し、視野の広い幼児理解と表現の過程を大切にする保育への理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	乳幼児の造形の発達過程を理解して実践につなげる力を身につける。	乳幼児の造形の理解をもとにして、実践の方法について具体的に考えることがきる。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	自ら学んできたことを振り返り、自分なりの問題意識を持つことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
ワークシート	30%	：授業内容を踏まえて子どもの造形表現活動の内容とその指導法、援助法が書かれている：30点。授業内容を踏まえて書かれている：18点。
最終提出物(ファイル)	35%	：指定の形式に沿って独自の視点で書かれている：35点。指定の形式に沿って書かれている：21点。
授業への参加度	30%	：教員とのやりとり対して的確に回答することを評価する。模擬保育などの取り組みは子どもの発達を５領域の「表現」観点から捉え、造形表現に関する知識や技術、活動の内容を理解しようとしているかを評価する。
小レポート	5%	：授業内容を踏まえて造形表現に関する知識や子どもの造形表現活動の内容が書かれている：5点。授業内容を踏まえて書かれている：3点。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
花篤實・岡田吾編著	新造形表現 理論・実践編	三晃書房	2009年
文部科学省･厚生労働省･内閣府	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育･保育要領〈原本〉	チャイルド本社	2017年

参考文献等

・『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館 最新版
・『保育所保育指針　解説書』厚生労働省　フレーベル館 最新版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日４限、５限
場所：　授業教室
備考・注意事項：　質問は授業の前後に答える。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　造形表現について** 乳幼児の造形表現を学ぶために、「表現」について考える機会にする	予習　：テキスト pp.23-25 を読んで「表現」について考えてくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第2回	**造形活動の発達（１） かく活動の発達過程** かく活動の発達過程を理解するために、テキストを用いて、0歳児からの活動内容を説明する	予習： テキスト pp.32-33　造形活動の発達のかく活動を読んでくる。内容のまとめ・整理・復習	4時間
第3回	**造形活動の発達（２） つくる活動の発達過程**	予習： テキスト pp.34-42　造形活動の発達のつくる活動を読んでくる。内容のまとめ・整理・復習	4時間

	つくる活動の発達過程を理解するために、テキストを用いて、0歳児からのモノの関わりについて説明する		
第4回	**子どもの感性と表現活動（1）かく（パス）** 乳幼児が使う描画材について理解するために、パスの特性を知り使用方法について学ぶ	予習 ：テキスト pp.134-137 乳幼児が使う描画材について理解するためにを読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第5回	**子どもの感性と表現活動（2）かく（絵の具）** 乳幼児が使う描画材について理解するために、絵の具の特性を知り使用方法について学ぶ	予習 ：テキスト pp.134-137 乳幼児が使う描画材について理解するためにを読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第6回	**子どもの感性と表現活動（3）つくる** 乳幼児が使う道具について理解するために、はさみの使い方の基本について学ぶ	予習 ：テキスト pp.110-126 乳幼児が使う道具について理解するために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第7回	**子どもの感性と表現活動（4）感触** 素材についての理解を深めるために、新聞紙を用いて素材の変化について体験する	予習 ：テキスト pp.110-126 乳幼児が使う素材について理解するために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第8回	**表現活動と環境（1） 子どもの表現** 素材についての理解を深めるために、粘土を用いて素材の特性を活かした活動を体験する。	予習： テキスト pp.158-161 表現活動と環境について理解するために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第9回	**表現活動と環境（2） 感性と表現を育む環境** 表現したくなる意欲や素材との出会いを踏まえた乳幼児の活動について考える	予習： テキスト pp.158-161 表現活動と環境について理解するために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第10回	**表現活動と援助（1）保育案の作成（内容と援助）** 造形に関する模擬保育をするために、活動内容や援助について学ぶ	予習： テキスト pp.73-86 造形に関する模擬保育をするために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第11回	**表現活動と援助（2）保育案の作成（準備）** 造形に関する模擬保育を実践するために、活動内容に応じた準備をする	予習： テキスト pp.73-86 造形に関する模擬保育をするために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第12回	**素材研究と実践（1）模擬保育** 各グループにわかれて造形に関する模擬保育を実践する	予習： テキスト pp.73-86 造形に関する模擬保育をするために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第13回	**素材研究と実践（2）模擬保育** 各グループにわかれて造形に関する模擬保育を実践する	予習： テキスト pp.73-86 造形に関する模擬保育をするために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第14回	**素材研究と実践のふりかえり** 造形に関する模擬保育実践後のふりかえり、ファイルを完成させる	予習： テキスト pp.73-86 造形に関する実践事例を理解するために読んでくる。学習内容のまとめ・整理	4時間
第15回	**まとめと発表** 「保育内容（表現2）」で行ってきた内容をふりかえり、まとめの活動をする	学習内容のまとめ・整理	4時間

1

授業科目名	**保育方法論**				
担当教員名	**石田貴子**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、幼稚園及び保育所における保育の方法について理論的な学習を行い、具体的な保育実践と結びつけて理解することをねらいとする。既習の内容と関連づけながら保育方法の基礎理論を学び、小学校教育との違いを踏まえて保育への理解を深めるとともに、保育実践を分析し、理論と具体的な指導方法とのつながりについて学ぶ。また、現場での様々な状況に対応できるよう、特定の思想に基づく保育や特別な配慮が必要となる保育、教育機器の保育への活用方法などについても学習する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	保育方法に関する知識･理解	保育方法に関する基礎理論や保育方法の変遷、遊びや生活等の指導方法、発達に即した保育、特定の保育思想に基づく保育、教育機器の活用等について理解し、説明できる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	保育実践を分析し、構想する力	知識･理論を元に保育実践を分析し、自らも構想することができる。
汎用的な力		
1 ．DP5.計画・立案力		スケジュール管理をしながら、グループで模擬保育の計画案を作成することができる
2 ．DP6.行動・実践		作成した保育案に基づき、必要な準備を行って適切に実践することができる
3 ．DP8.意思疎通		グループ内でのコミュニケーションを図り、課題に取り組むことができる
4 ．DP9.役割理解・連携行動		お互いの役割を理解し、協力して模擬保育を行うことができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内での課題達成 30%	：	各回、必要事項がプリントに全て書き込まれていれば２点、部分的不備があれば1点とする（2点×15回＝30点）。
授業への積極的参加･貢献(1) 10%	：	事前ワークの提出回数と内容、交流への積極的参加と発表、質問に対する積極的･適切な答えを総合して評価する。
授業への積極的参加･貢献(2) 10%	：	指導計画案を課題に即して適切に作成し、模擬保育に積極的に参加していれば、各回3点満点×3回とし、模擬保育実践者にはさらに1点を加えて10点満点とする。
定期試験 50%	：	知識･理解の適切性（40点）、基礎的知識を踏まえた実践分析及び文章表現の適切性（10点）で評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省・厚生労働省･内閣府	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育･保育要領　＜原本＞	チャイルド本社	2017年
文部科学省	幼稚園教育要領解説	フレーベル館	2018年
厚生労働省	保育所保育指針解説	フレーベル館	2018年

参考文献等

・『保育方法の実践的理解』久富陽子・梅田裕子　萌文書林　2008年
・『環境構成の理論と実践』高山静子　エイデル研究所　2014年
※ほか、授業中に適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 後日伝達

場所： 中央館2階研究室

備考・注意事項： 質問先：ishida-ta@osaka-seikei.ac.jp
※Ｅメールには、学部(教育学部以外)・学年・クラス・学籍番号・氏名を必ず入れること

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 本科目の性格や授業の目標、内容、評価、課題等について理解する。また、幼稚園等における保育のDVDを視聴し、保育の方法について考える。	予習：シラバスを読み、授業概略を理解する。また、これまでの学習内容を思い出しながら、幼稚園教育要領を通読する	2時間
第2回	**保育方法の基礎理論と、幼稚園及び保育所における保育の基本** 方法と技術の違い、保育者の役割と保育方法について学び、幼稚園及び保育所における保育の基本を確認する。	予習：幼稚園教育要領、保育所保育指針に関する事前ワークプリントに取り組む。	4時間
第3回	**子どもの活動と保育形態** 子どもの活動の種類と指導方法との関連、さまざまな保育形態について学ぶ。	予習：子どもの活動の種類、保育形態に関する用語についての事前ワークプリントに取り組む。	4時間
第4回	**保育方法の変遷** 日本の幼稚園及び保育所における保育方法の変遷を、教育・保育課程や保育内容の変遷と関連付けて学ぶ。	予習：保育の歴史、教育課程の類型に関する事前ワークプリントに取り組む。	4時間
第5回	**遊びの指導方法** 発達と遊びの関係、環境構成の留意点など、遊びの指導に関する事柄について具体的に学ぶ。	予習：インターンシップや実習等での遊びに関わる体験を振り返り、事前ワークプリントに取り組む。	2時間
第6回	**生活の営みに関わる活動の指導方法** 生活の営みに関わる活動の種類と指導方法について、具体的に学ぶ。	予習：インターンシップや実習等での生活の営みに関わる体験を振り返り、事前ワークプリントに取り組む	2時間
第7回	**保育における行事の指導方法** 保育における行事の種類と指導方法、留意事項について、具体的に学ぶ。	予習:幼児期の行事体験、インターンシップや実習等での行事体験を振り返り、事前ワークプリントに取り組む。	2時間
第8回	**発達に即した保育（１）　３歳児クラスの１年間** 3歳児（年少児）クラスの1年間の生活を追いながら、具体的な指導方法を考える。	予習：グループで、3歳児対象の模擬保育指導案（朝の会）を作成し、模擬保育の練習をおこなう。	6時間
第9回	**発達に即した保育（２）　４歳児クラスの１年間** 4歳児（年中児）クラスの1年間の生活を追いながら、具体的な指導方法を考える。	予習：グループで、4歳児対象の模擬保育指導案（昼食時）を作成し、模擬保育の練習をおこなう。	6時間
第10回	**発達に即した保育（３）　５歳児クラスの１年間** 5歳児（年長児）クラスの1年間の生活を追いながら、具体的な指導方法を考える。	予習：グループで、5歳児対象の模擬保育指導案（帰りの会）を作成し、模擬保育の練習をおこなう。	6時間
第11回	**特別な配慮を必要とする保育　（縦割り保育、統合保育、多文化保育）** 特別な配慮を必要とする、縦割り保育、統合保育、多文化保育について学ぶ。	予習:縦割り保育、統合保育、多文化保育に関する事前ワークプリントに取り組む。	4時間
第12回	**特定の保育思想に基づく保育　（モンテッソーリ保育、シュタイナー保育）** モンテッソーリ保育、シュタイナー保育など、特定の保育思想に基づく保育について学ぶ。	予習：モンテッソーリ保育、シュタイナー保育に関する事前ワークプリントに取り組む。	4時間
第13回	**教育機器（視聴覚機器、情報機器等）の保育への活用** さまざまな教育機器の特徴と保育での活用法について学ぶ。	予習：視聴覚機器、情報機器に関する事前ワークプリントに取り組む。	4時間
第14回	**家庭・小学校との連携方法** 幼稚園・保育所と、家庭や小学校との連携方法について学ぶ。	予習：連絡帳、園便り、保幼小連携に関する事前ワークプリントに取り組む。	4時間
第15回	**まとめと質疑応答** これまでの学習のまとめと質疑応答を行う。	予習・復習：これまでの学習の総まとめを行い、疑問点を確認する。	4時間

1

授業科目名	**幼児理解**				
担当教員名	清水真由子				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	発達支援相談に関する心理士として従事				

授業概要

人間の発達に関わる心理学的知識の修得を前提として、生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解することを目的とする。また、乳児および幼児の個々の発達の姿を把握する観察力と、適切な発達援助を行う実践力の基礎を培う。このため、幼児理解に関わる理論および方法について、様々な方法を通して学ぶ。また、保幼小接続、保育者間の協働、保護者との連携など、現代の保育課題と発達援助および保育実践の関係についても理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	発達心理学的知識の修得と保育実践	保育の専門家として、心理学の知識をもとに子どもの心身の発達を理解することができる。さらに個々の子どもの個性を理解し保育することの大切さを知る。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	保育実践を構想する力	生活と遊びを通した子どもの学びの過程を理解した上で、発達支援や保育実践の方法について具体的に考えることができる。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	自ら学んできたことを振り返り、自己の課題を省察することができる。
2 ．DP5.計画・立案力	一人ひとりの子どもに寄り添い、理解しつつ関わる保育とはどのようなものかを実践的に考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的参加（1点×15回）	15%	： 演習への積極的参加と発表、質問に対する積極的・適切な答えを総合して評価する。
シャトルシート等授業内課題（5点×15回）	75%	： 授業外学修課題（予習シート各2点）をもとに、授業での学びを的確に示しているかを評価する（各3点）。
学期末レポート	10%	： 課題の条件を満たし、十分に情報を収集し心理学的観点からまとめた上で、独自の見解を述べているかどうかを10点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する。
・文部科学省 厚生労働省 内閣府　2017『平成29年告示　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　幼稚園教育要領　保育所保育指針＜原本＞』チャイルド本社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜３限
場所：　研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：子どもの理解と援助とは** 保育・教育実践における幼児理解の重要性を理解する。 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開について理解する。	シラバスを読み、授業の概略を理解する。	1時間
第2回	**幼児の自己表現と受容する他者との関係** 子どもの発達を支援する保育者の役割について理解する。 家庭とは異なる保育者ならではの支援について考える。 キーワード：安全基地、アタッチメント、基本的信頼感	予習シートの作成：キーワード　安全基地、アタッチメント、基本的信頼感	1時間
第3回	**子どもの生活や遊びを通した学び**	予習シートの作成：キーワード　生活と遊び、基本的生活習慣	1時間

	幼児期における生活や遊びの重要性を理解する。 基本的生活習慣の獲得および自己の主体性の形成と発達援助について理解する。 キーワード：生活と遊び、基本的生活習慣、自我の発達		
第4回	**「自分」の世界と「友達」の世界の広がり** 他者の心の理解に関する発達過程を理解し、協同性の育ちを捉える視点について学ぶ。 キーワード：心の理論、協同性	予習シートの作成：キーワード　心の理論、協同性	1時間
第5回	**幼児理解と個人差や発達過程に応じた保育** 発達に応じたあそびや支援、発達の課題に応じた援助と関わりについて理解する。 キーワード：知能の発達、ことばの発達、社会性の発達	予習シートの作成：キーワード　知能の発達、ことばの発達、社会性の発達	1時間
第6回	**観察・記録の方法と分析・考察の視点** 観察記録のつけ方や記述方法について学び、記録と理解の深まりについて考える。 キーワード：観察、事例研究、実習記録、省察	予習シートの作成：キーワード　記録の意味、省察	1時間
第7回	**個と集団との関係と仲間関係の発達** 子どもの相互の関わりと関係づくりについて理解する。 集団における経験と育ちの重要性を理解する。 キーワード：自己主張と自己抑制、仲間関係、自我の発達	予習シートの作成：キーワード　自己主張、自己抑制、仲間関係	1時間
第8回	**乳児および幼児理解と発達の課題に応じた援助やかかわり** 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり 子どもの葛藤やつまづきを理解し支援することを学ぶ キーワード：発達課題、共感的関わり、気になる子	予習シートの作成：キーワード　共感的関わり、気になる子	1時間
第9回	**気になる行動への教師の対応（姿）と周囲の幼児の受け止め** 教師の対応（姿）から周囲の幼児は何を学んでいるかを考える。 キーワード：スモールステップ、発達の最近接領域	予習シートの作成：キーワード　スモールステップ、発達の最近接領域	1時間
第10回	**特別な配慮を要する子どもの理解と支援** 定型発達とは異なる発達の過程を理解し、その具体的援助について理解する。 保育の中での特別な配慮とは何かを理解する。 キーワード：発達障害、特別支援、インクルーシブ保育	予習シートの作成：キーワード　発達障害、インクルーシブ保育	1時間
第11回	**発達の連続性と就学への支援** 発達の連続性を理解するとともに保幼小連携の実例について知る。 キーワード：保幼小接続、小一プロブレム、人事交流教員、スタートカリキュラム	予習シートの作成：キーワード　保幼小接続、小一プロブレム、スタートカリキュラム	1時間
第12回	**カウンセリングの技法** 子育て支援の重要性を理解した上で、カウンセリングの基礎的な姿勢と技法を学ぶ。 キーワード：受容、傾聴、共感的理解	予習シートの作成：キーワード　受容、傾聴、共感的理解	1時間
第13回	**保護者への対応** 保護者の心情の理解と家庭への支援の方法を学び、実際の事例を読み解く。 キーワード：保護者支援、子育て支援	予習シートの作成：キーワード　保護者支援、子育て支援	1時間
第14回	**乳児および幼児理解に基づく発達援助と協働** 保育者の子ども観と、その多様性について知り、保育者間の意見の交換の必要性や協働の大切さを理解する。 キーワード：保育者の協働、ＰＤＣＡサイクル	予習シートの作成：キーワード　保育者の協働、ＰＤＣＡサイクル	1時間
第15回	**現代社会における子どもの発達と保育の課題** 現代における保育の課題について、子どもの発達、社会問題の側面から理解する。 時代によって異なる子ども観について理解する。 キーワード：子どもの貧困、待機児童、少子高齢化、子ども観	予習シートの作成：キーワード　保育の現代的課題、レポート作成	2時間

1

授業科目名	**保育原理**				
担当教員名	**石田貴子**				
学年・コース等	2年／1年	開講時期	前期／後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、保育の意義や制度、思想、歴史、現状と課題等、保育に関する基本的な事柄を学び、保育の本質と目的を理解することをねらいとする。まず、「保育」の意味と意義･目的について学び、保育に関する法令及び制度を理解する。その上で、代表的な保育施設である保育所の保育について学び、保育所保育指針の基本を理解する。さらに、保育の思想と歴史的変遷を理解した上で、現状を俯瞰し、現代社会における保育の様々な課題について理解を深め、保育者の立場に立って今後の保育のあり方を考えていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	保育についての基礎的知識及び保育の現状と課題についての理解	保育の意義と基本原則、制度、思想、歴史的変遷を理解し、保育の現状と課題について考察することができる。

汎用的な力

1 ．DP8.意思疎通	グループワークに積極的に参加し、意見を交換することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内での課題達成 45%	：	各回3点満点×15回で評価する。必要事項が全て書き込まれていれば2点、さらに自分なりの視点での学びが記されていれば3点、部分的不足があれば1点とする。
授業への積極的参加･貢献 5%	：	事前ワークの提出回数と内容、交流への積極的参加と発表、質問に対する適切な答えを総合して評価する。
定期試験 50%	：	保育の意義と制度、基本原則、思想、歴史的変遷を適切に理解しているか(40点)、保育の現状と課題を適切に理解し、論理的に対応策を述べることができているか(10点)で評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省･厚生労働省･内閣府	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育･保育要領　＜原本＞	チャイルド本社	2017年
厚生労働省	保育所保育指針解説	フレーベル館	2018年
伊藤潔志　編著	哲学する保育原理	教育情報出版	2018年

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 後日伝達

場所： 中央館2階研究室

備考・注意事項： 質問先：ishida-ta@osaka-seikei.ac.jp
※Ｅメールには、学部(教育学部以外)・学年・クラス・学籍番号・氏名を必ず入れること

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 本科目の性格や授業の目標、内容、評価、課題等について理解する。また、DVD「保育士の仕事と役割」を視聴し、保育所保育についてイメージを持つ。	予習：シラバスを読み、授業概略を理解する。また、保育所保育指針を通読しておく。	4時間
第2回	**保育の意義と目的(1)（保育の理念と概念）** 「保育」という言葉の意味を手がかりに、保育とは何かについて考察し、保育の理念と概念を理解する。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：保育、教育、養護、福祉	4時間

第3回	**保育の意義と目的(2)（保育の社会的役割と責任）** 現代社会の状況と保育が行われる場について学び、保育の社会的役割と責任を理解する。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：家庭、保育施設、子どもの最善の利益	4時間
第4回	**保育に関する法令･制度** 保育に関する法令と保育所保育指針の位置づけ、保育の実施体系について学び、保育の制度への理解を深める。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：児童福祉法、保育所保育指針、子ども・子育て支援新制度	4時間
第5回	**保育所保育指針における保育の基本(1)（基本原則）** 保育所保育指針及び保育所保育の映像（DVD)にもとづき、保育所保育の特性と基本原則を理解する。	予習：保育所保育指針第1章1を精読し、事前ワークプリントに取り組む。	4時間
第6回	**保育所保育指針における保育の基本(2)（養護）** 保育所保育指針及び保育所保育の映像（DVD)にもとづき、「養護」及び「養護と教育の一体性」について理解する。	予習：保育所保育指針第1章2を精読し、事前ワークプリントに取り組む。	4時間
第7回	**保育所保育指針における保育の基本(3)（保育の目標）** 保育所保育指針及び保育所保育の映像（DVD)にもとづき、保育の目標について理解する。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：保育の目標、育みたい資質･能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、ねらい	4時間
第8回	**保育所保育指針における保育の基本(4)（保育の内容）** 保育所保育指針及び保育所保育の映像（DVD)にもとづき、保育の内容について理解する。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：保育の内容、領域	4時間
第9回	**保育所保育指針における保育の基本(5)（保育の環境と方法）** 保育所保育指針及び保育所保育の映像（DVD)にもとづき、保育の環境と方法について理解する。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：環境、遊び、発達	4時間
第10回	**保育士の専門性** 幼稚園教諭との比較などを通し、保育士に求められる専門性と資質･能力の向上について理解する。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：保育士、専門性、研修	4時間
第11回	**保育の計画と展開** 保育所保育指針にもとづき、保育の計画･実践･記録･省察･評価･改善の過程について理解する。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：保育の計画、評価、改善	4時間
第12回	**保育の思想と歴史的変遷(1)（諸外国の保育の思想と歴史）** 諸外国の保育の思想と歴史について理解する。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：ルソー、ペスタロッチ、オーベルラン、オーエン、フレーベル、デューイ	4時間
第13回	**保育の思想と歴史的変遷(2)（日本の保育の思想と歴史）** 日本の保育の思想と歴史について理解する。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：東基吉、和田実、倉橋惣三、城戸幡太郎、赤沢鍾美、野口幽香	4時間
第14回	**保育の現状と課題(1)（子ども･子育て支援新制度）** 少子化対策の変遷を踏まえ、子ども･子育て支援新制度の現状と課題について理解する。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：少子化、子ども・子育て支援新制度、保育の質の向上	4時間
第15回	**保育の現状と課題(2)（保育をめぐる問題）** 諸外国及び日本における保育の現状を学び、課題について考察する。	予習：テキストにもとづく事前ワークプリントに取り組む。キーワード：就学準備、ホリスティックアプローチ	4時間

1

授業科目名	**保育の心理学**				
担当教員名	清水真由子				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	発達支援相談に関する心理士として従事				

授業概要

乳幼児期に子どもは何を経験し、何がはぐくまれることが大切なのか、そのためには保育に何が求められているのか、といった問いに対して人の発達という視点から考えることを目的とする。このため、人の発達に関する理論や人の発達を明らかにするための研究方法について学ぶ。また発達心理学の研究成果と実際の保育現場、学校現場での子どもの生活・教育、保護者との連携や子育て支援とをできるだけ具体的に結び付けて理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

発達心理学の専門知識の修得

目標：

保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。

汎用的な力

1 ．DP4. 課題発見

乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的参加（1点×15回） 15%	：	授業への積極的参加と質問に対する積極的な答えを総合して評価する。
シャトルシート等授業内課題（3点×15回） 45%	：	各回0～3点で評価する。独自の見解や具体例とともに論述されていれば3点、授業のポイントを十分に理解していれば2点、誤りや不足があれば1点、重大な誤り等があれば0点とする。
学期末試験 40%	：	授業内容を十分に理解できているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 初回の授業時に時間・場所を伝えます。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**子どもの発達を理解する意義** それぞれの時期の子どもの発達や個人差を理解し、保育のはたらきかけをどう行えばよいかを考える。	シラバスを読み、授業の概略を理解する。	4時間
第2回	**発達理論と子ども観・保育観** 発達は何によって展開すると考えているのか、それぞれの子ども観をピアジェやエリクソンの発達理論と関連させて考える。	講義内容を復習し、自らの子ども観・保育観について考える。	4時間
第3回	**胎児期・新生児期の発達** 人生の始まりである胎児期の発達や新生児がもつ様々な能力を理解する。	講義内容を復習し、なぜ新生児が様々な能力を持って生まれてくるのかを考察する。	4時間
第4回	**乳幼児期の身体的機能と運動機能** 乳幼児期の身体発達や運動発達を理解し、発達変化に合わせた保育内容について考える。	講義内容を復習し、乳幼児期の身体的機能と運動機能について考察する。	4時間
第5回	**乳幼児期の言葉の発達**	講義内容を復習し、ことばの獲得における養育者とのやり取りの重要性について考察する。	4時間

	話しことばが発せられるまでの道筋やことばを獲得する道筋を理解する。		
第6回	**乳幼児期の認知の発達** 生活や遊びを通して学ぶ数量感覚や読み書きのリテラシーについて理解する。	講義内容を復習し、生活や様々な遊びのなかで身につく力について考察する。	4時間
第7回	**自己主張・自己抑制の発達** 仲間との関わりを通した自己主張と自己抑制の発達的変化について理解する。	講義内容を復習し、自己主張と自己抑制のバランスの重要性について考察する。	4時間
第8回	**他者の心の理解** 他者の心に気づき、理解していく発達過程について理解し、その発達によっていかに遊びの展開が変化するのかを考える。	講義内容を復習し、他者の心を理解することによって、仲間との関わりがどのように変化するのかを考察する。	4時間
第9回	**道徳性と思いやり** 道徳性や思いやり、規範意識がどのように芽生え、発達してくるのかを理解する。	講義内容を復習し、仲間との関わりを通した道徳性や思いやりの発達について考察する。	4時間
第10回	**子どもの発達と保育の環境** 身体感覚を伴う多様な経験と環境の相互作用について理解する。	講義内容を復習し、環境としての保育者や仲間の重要性について考察する。	4時間
第11回	**乳幼児期の遊びの発達** 乳幼児期の遊びの発達について理解し、遊びをはぐくむ援助と環境設定について考える。	講義内容を復習し、遊びをはぐくむ保育者の役割について考察する。	4時間
第12回	**乳幼児期の学びを支える保育** 子どもが自発的に環境にかかわりをもち、豊かな学びを得るために、保育にはどのような役割があるのかを理解する。	講義内容を復習し、乳幼児期の学びを支える保育について考察する。	4時間
第13回	**発達の理論と保育** ピアジェやヴィゴツキー、モンテッソーリの理論と保育について理解する。	講義内容を復習し、日本の保育・教育の特徴について考察する。	4時間
第14回	**発達支援の実際** 発達上の問題の発見と把握の重要性を理解し、日々の支援の実践について学ぶ。	講義内容を復習し、保育現場での発達と支援について考察する。	4時間
第15回	**保育の心理学をめぐる現代的諸問題とまとめ** これまで学んだ発達心理学や保育の心理学が、保育・教育実践にどうつながるのかを考える。	これまでの学修内容について振り返る。	4時間

1

授業科目名	**児童家庭福祉**				
担当教員名	西川友理				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

現代社会における児童家庭福祉の意義・歴史的変遷を学び、子どもの人権とその考え方について理解する。さらに、児童家庭福祉の制度・法体系、財政と実施機関、児童福祉施設および児童家庭福祉の専門職・実施者等を理解した上で、ひとり親支援、障害児支援、児童健全育成等の児童家庭福祉に関わる様々な分野の現状・課題、今後の動向・展望等について学習する。これらを学ぶことにより、これから子どもに関わる専門職に必要な知識・視点・考え方を身につけていくことを目的とする。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	児童家庭福祉全体の知識	現在のわが国の児童家庭福祉の状況を理解し、説明することが出来る。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	子どもの権利についての知識と理解	子どもの権利について理解し、それを具現化する専門職はどのようなものか、自分なりの考えを持つことが出来る。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		現代社会の児童家庭福祉に関わる諸問題について、自分なりの課題を検討できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・その他(以下に概要を記述)
皆さんから提出されたミニッツペーパーを、プリントにまとめます。まとめプリントをもとに、さらに考えを深めます。他者の意見に触れることは、自分の価値観を広げることに大いに役立ちます。
その後、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中の振り返りレポート 20%	：	全授業中、5回実施。①内容の妥当性②自分なりの考察が出来ているか　以上2点について科目独自のルーブリックに基づいて評価します。
授業中の小レポート 20%	：	全授業中、2回実施。自分なりの考察が出来ているか　科目独自のルーブリックに基づいて評価します。
学期末試験 60%	：	児童家庭福祉の基礎知識を問う問題（50点） 児童家庭福祉に関わる論述問題（50点） 以上合計100点のテストを実施したのち、6割掛けします。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
波田埜英治　辰己隆　編集	三訂　保育士をめざす人の子ども家庭福祉	みらい	2019年

参考文献等

・『福祉小六法2019』　社会福祉法人大阪ボランティア協会編集（中央法規　2018年）
その他、どこの会社のものでもよいので、福祉小六法を手に入れておくとよい。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後
場所：　授業の教室
備考・注意事項：　質問は毎回渡すミニッツペーパーを適宜利用すること。
これによらない質問がしたいという人は、個別に相談をすること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション～”児童””家庭”福祉論で何を学ぶか** “児童”や“家庭”の意味を考える	授業前にテキストの目次を概観し、どのような勉強をするか把握しておく。	4時間
第2回	**子どもを取り巻く現状** 子どもをとりまく現代社会を概観する	通読。要点をまとめる。	4時間
第3回	**海外・戦前の児童家庭福祉の歴史**	テキストの子ども家庭福祉の戦前の歴史の部分を通読、要点をまとめる。	4時間

	イギリス・アメリカの児童家庭福祉についての歴史と、太平洋戦争前までの子どもの福祉の歴史を概観する		
第4回	**戦後の児童家庭福祉の歴史** 太平洋戦争以後の児童家庭福祉の歴史を概観する	テキストの太平洋瀬印相以後の歴史の部分を通読、要点をまとめる。	4時間
第5回	**児童の権利について** 世界の子どもの権利の状況を見る	ジュネーブ宣言、児童権利宣言、日本の児童憲章、1947年の児童福祉法第1条を調べ、通読する。	4時間
第6回	**児童の権利に関する条約** 「児童の権利に関する条約」を詳しく見る	「児童の権利に関する条約」について、要点をまとめる。	4時間
第7回	**母子保健について** 母子保健に関する現状と法制度について学ぶ	テキストの母子保健に関する部分を通読、要点をまとめる。	4時間
第8回	**障がい児支援について** 障がい児支援の現状と法制度について学ぶ	テキストの障がい児支援に関する部分を通読、要点をまとめる。	4時間
第9回	**ひとり親支援について** ひとり親支援の現状と法制度について学ぶ	テキストのひとり親支援に関する部分を通読、要点をまとめる	4時間
第10回	**子どもの非行・少年犯罪について** 子どもの非行や少年犯罪の現状と法制度について学ぶ	テキストの子どもの非行や少年犯罪に関する部分を通読、要点をまとめる。	4時間
第11回	**社会的養護と児童虐待について～親権と社会的養育～** 児童虐待の現状と法制度、チーム対応について学ぶ	テキストの児童虐待に関する部分を通読、要点をまとめる	4時間
第12回	**社会的養護と児童虐待について～支援の在り方～** 社会的養護や社会的養育についての制度や考え方を学ぶ。	テキストの社会的養護に関する部分を通読、要点をまとめる。	4時間
第13回	**子育て支援と健全育成について** 子育て支援・健全育成の法制度について学ぶ	テキストの子育て支援・健全育成に関する部分を通読、要点をまとめる。	4時間
第14回	**最近の制度改正について** 近年の児童福祉分野の動向を学ぶ	授業中に配布したプリントを参照し、要点をまとめる。また、ここ半年の子どもの福祉に関する新聞記事・ネットニュースなどを検索して、目を通しておく。	4時間
第15回	**まとめ** 1回目からの授業内容を振り返る事で、児童福祉に関わる専門職の視点を改めて考察し、自分なりの考えをまとめる。	1回目から14回目までに作成したノートを通読、自分なりの考えをまとめる。	4時間

1

授業科目名	**社会福祉**				
担当教員名	**塩田祥子**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	2003年秋から2004年夏にかけて、大阪府社会福祉協議会第三者評価事業の立ち上げに嘱託研究員として従事。また、2001年～現場での研修活動を続けている。				

授業概要

日本は本格的に少子高齢社会を迎え、さらに、個々、家族のあり方も多様化している。その中で、既存の制度の枠で、個人、家族、地域を支えることは限界があり、新たな仕組みづくりが求められている。また、経済成長に重きを置いた世の流れは、それに乗れるもの、乗れないものを作り出している。そこで本科目では、社会の中で生きづらさを抱えている人、その問題に焦点をあて、その支援のあり方、具体的な方法、社会資源の実際、仕組みづくり等について学んでいく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	社会状況の知識	メディア、新聞、ネットなどにより社会状況（政治、経済、歴史）について知識を得る
2 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	社会資源の知識	地域社会における社会資源について、ネット等から情報を得る。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	世の中の当たり前、常識のみに捉われるのではなく、常に疑問を持つ力を養う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・その他(以下に概要を記述)
　毎回授業時、提出物あり。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
受講態度、授業への参加度 40%	：	毎回、授業内容まとめを提出してもらう。授業内容に関することがわかりやすく、丁寧に記載されているのか、まとめられているのかを確認する。記載時間は、授業内に指示。その時間内に書くことで評価対象とする。
レポート提出 10%	：	１５回中、１回か２回、授業内レポートを課す。
定期試験 50%	：	授業総括にあたる50点満点のテストを行い、成績に反映する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
相澤譲治・杉山博昭	保育士をめざす人の社会福祉（8訂）	みらい	2018年

参考文献等

授業ごとに、その都度指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 教員アドレス：shiota-shoko@y6.dion.ne.jp
メールでは、タイトルに、大学名学籍番号指名を記してください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**社会福祉授業の概要** 授業の進め方、ミニレポート等の説明。社会福祉という学問についての説明。教科書の確認	新聞記事やネットニュースを確認のうえ、社会について興味をもつ。その上で、ノートの作成、確認　【キーワード】社会福祉における社会	4時間
第2回	**社会福祉の道すじ** 戦後の社会福祉制度の変遷、支援のあり方の移り変わりについて説明、学習。	教科書24～32頁の内容を確認、ノートの作成　【キーワード】社会福祉の歴史	4時間
第3回	**社会福祉の意味と考え方** なぜ、福祉ではなく、社会福祉とされるのか、考える。	教科書42～46頁の確認、ノートの作成 【キーワード】社会における福祉	4時間

第4回	**社会福祉の実施体制と財源** 社会福祉の公的機関、民間団体、サービスの種類等を学ぶ。	自身の住んでいる地域の社会資源情報について確認、ノートの作成　【キーワード】社会資源	4時間
第5回	**暮らしを支える社会保障制度** 公的年金、医療保険等の社会保障制度について学ぶ。	教科書76～90頁の確認、ノートの作成 【キーワード】社会福祉の法と制度	4時間
第6回	**子どもと家族の福祉** 子ども家庭福祉についての学び。	教科書91～102頁の確認、ノートの作成 【キーワード】子ども家庭福祉	4時間
第7回	**障害のある人の福祉** 障害のある人の福祉における法制度、支援の実際について学ぶ。	教科書103～123頁の確認、ノートの作成 【キーワード】障害福祉	4時間
第8回	**高齢者の福祉** 高齢社会の実際、高齢者介護における実際とその問題、課題について学ぶ。	自分が暮らす地域の地域包括支援センターについて調べ、ノートの作成　【キーワード】高齢者福祉	4時間
第9回	**高齢者虐待、障害者虐待、児童虐待の実際** それぞれの虐待の実際や背景を知り、防止法の比較検討を行う。	新聞記事、ネットニュース等で虐待の実際を調べ、ノートの作成　【キーワード】虐待	4時間
第10回	**地域福祉** 地域で暮らすということについて考える。また、社会福祉協議会について学ぶ。	自らの地域の特徴をノートにまとめる 【キーワード】地域福祉	4時間
第11回	**地域診断** 自らの地域の特徴をつかみ、まとめ、どのようなニーズがあるのか考える。	授業時配布の地域診断表をまとめる　【キーワード】地域診断	4時間
第12回	**社会福祉の専門職と倫理** 福祉専門職における価値、倫理について学ぶ。	保育士倫理綱領を確認、ノートの作成 【キーワード】専門性	4時間
第13回	**ソーシャルワーク** 社会福祉実践に求められる専門性について考える。さらに、ソーシャルワークとはについて講義をしていく。	教科書169～183頁の確認、ノートの作成 【キーワード】ソーシャルワーク	4時間
第14回	**利用者の権利擁護とサービスの質** 憲法25条、人権について考える。	憲法25条を確認、教科書184～189頁の確認のうえノートの作成　【キーワード】人権	4時間
第15回	**社会福祉の視点の確認と授業総括** 授業全体に求められる視点、社会福祉とはについての確認、保育士に求められる資質の確認	教科書の確認、ノートの作成　【キーワード】社会福祉と保育職	4時間

433

授業科目名	**相談援助**				
担当教員名	**丸目　満弓**				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

相談援助（ソーシャルワーク）活動は、知識はもちろんのこと、援助者にとって必要となる態度や姿勢を身につけることが大切である。　授業では講義形式にて必要な知識を得たうえで、アクティブラーニング型の学び(事例検討をはじめとする個人ワークやグループワーク、ディスカッション)により知識の定着をはかるとともに、保育者として実際の役割をイメージしながら技術が修得できることをめざす。さらに相談援助を行ううえで前提となる自己理解・他者理解についても深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1　. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	(1) 保護者や家庭が抱える課題やそのために必要とされるソーシャルワークに関する知識	ソーシャルワークの意義と援助技術の方法を理解することができ、相談援助に関する基本的知識を習得することができる。

汎用的な力

1　. DP4. 課題発見	保護者や家庭が抱える課題が何かを理解し、支援の必要性を感じることができる
2　. DP6. 行動・実践	ソーシャルワークの考え方や実践方法を用いて支援のあり方をイメージすることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

学ぶテーマに応じて、適宜ワークやロールプレイを行います。ワークやロールプレイを実際に体験した後、ディスカッションなどにより学びの共有を行ったあと、ふりかえりシートへの記入を通して、個人の学びを客観的に検証します。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

ワークのまとめを行います。ふりかえりシートはコメント評価のうえ、返却し、優れた記述内容については全体で共有しつつ、全体的な傾向についてもコメントを行います。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
試験期間中に期末試験を実施　80%	:
ふりかえりシート・事前学習や事後学習の記述内容　10%	:
ワークに対する参加姿勢や態度　10%	:

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
事前学習：新聞やニュースを読む際、現代社会における子どもや家庭に何が起こっているのかを把握するよう努めてください。毎回キーワードをお伝えしますので、キーワードについての調べ学習をしてきてください。
事後学習：毎回授業内容に関するテーマをお伝えしますので、まとめてきてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：　初回授業で伝達する。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　ー保育士が保育相談支援を行う意義・目的・必要性ー** 授業の受ける姿勢やルール等を伝えたあと、ディスカッションを通して現代社会における子どもや保護者をとりまく環境を概観する。　その上で保育者をめざす学生にとってなぜ相談援助を学ぶ必要性があるのか、相談援助とは具体的に何をするのかについて学ぶ。	配布資料を読んでくる	2時間
第2回	**ソーシャルワークとは何か** 相談援助はソーシャルワークの理論に基づいてすすめられる。ソーシャルワークとは何かについて学ぶ。	ソーシャルワークについて自分の言葉で説明できるように、次回の授業までにまとめてくる	2時間
第3回	**ソーシャルワークの体系(1)直接援助技術とは**	次週に小テストを行うため、テスト準備と復習を行う	2時間

	ソーシャルワークを体系的に理解する。ソーシャルワークの直接援助技術について学ぶ。		
第4回	**ソーシャルワークの体系(2)間接援助技術とは** ソーシャルワークを体系的に理解する。ソーシャルワークの間接援助技術について学ぶ。	次週に小テストを行うため、テスト準備と復習を行う	2時間
第5回	**ソーシャルワークの体系(3)関連援助技術とは** ソーシャルワークを体系的に理解する。ソーシャルワークの関連援助技術について学ぶ。	次週に小テストを行うため、テスト準備と復習を行う	2時間
第6回	**ソーシャルワークの価値・倫理** 事例等を通じて、相談援助を行ううえで前提となる専門職としてもつべき価値や倫理について考える。	事例検討を行い、専門的価値や倫理についてまとめる	2時間
第7回	**ソーシャルワークの原則** バイスティックの7原則について学ぶ。説明を行ったあと、事例等を通じ、相談援助を行ううえで具体的にはどのように実践を行うべきかについて考える。	次回までにバイスティックの7原則を理解したうえで覚える	2時間
第8回	**ソーシャルワークの過程** ソーシャルワークの過程について、また過程ごとのポイントも合わせて学ぶ。	次回までにソーシャルワークの過程について理解したうえで覚える	2時間
第9回	**相談援助における関係機関・専門職との連携** 相談援助はクライエントに対する援助のほか、関係機関や職種との連携が必要となる。どのような機関や、どのような職種が存在しているか、その機関や職種がどのような業務・役割を行っているのかについて学ぶ。	次回までに授業で学んだ関係機関や関係職種を理解したうえで覚える	2時間
第10回	**相談援助における社会資源** 相談援助は社会資源を活用することで問題解決をはかる。調べ学習等を通じて、保育者をとりまく様々な社会資源について学ぶ	次回までに授業で学んだ社会資源を理解したうえで覚える	2時間
第11回	**相談援助における記録** 相談援助を行ううえで記録は重要である。記録の意義、記録の方法、活用の仕方について学ぶ	架空の事例について、保育者の立場になって記録を行う	2時間
第12回	**相談援助における自己理解・他者理解** 相談援助を行ううえで、自分自身をよりよく理解すること、また他者が自分をどう捉えているかについて意識することは重要である。様々なワークを通して、自己覚知をはかる	自己覚知に関するワークを家で行う。そのうえで自分自身に対する気づきを文章で表現する	2時間
第13回	**相談援助における記録** 相談援助を行ううえで記録は重要である。記録の意義、記録の方法、活用の仕方について学ぶ	架空の事例について、保育者の立場になって記録を行う	2時間
第14回	**コミュニケーションについて** 私たちが日常生活をおくるうえで行うコミュニケーションを客観的に捉える。様々なワークを通してコミュニケーションの仕組みや保育領域で起きている現状について学ぶ	授業終了時に配布する「コミュニケーションに関する課題」について解答する	2時間
第15回	**面談技法について** 相談援助は面談を通じて行われる。さまざまな面談技法について、ロールプレイを行いながら実際に体験する。	授業以外の場面において、面談技法を実際に用いてみる。同時に振り返りも行う。	2時間

1

授業科目名	**社会的養護**				
担当教員名	西川友理				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

社会的養護の観点に立ち、社会的養護の理論と家庭養護、施設養護の実際を学びます。また、社会的養護における児童の権利擁護と援助者である保育士等の倫理を学ぶとともに、多様なニーズを抱える社会的養護の現状と課題について考え、子どもの最善の利益を実現するために、必要なソーシャルワークの方法と技術について具体的に学び、保育士としての専門的資質の習得を目指します。
さらに現代社会における社会的養護問題の背景や、社会的養護の内容の理解を図りたいと考えています。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	社会的養護全体の知識	現在のわが国の社会的養護の状況を理解し、説明することが出来る
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	要養護児童についての知識と実践的理解	要養護児童に対応する専門職はどうあるべきか、自分なりの考えを持つことが出来る
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		現代における社会的養護に関わる課題を自ら見出すことが出来る
2 ．DP6.行動・実践		知識を活用させて、行動に移すにはどうすればいいのか、知恵を絞り、実践に移そうとすることが出来る

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・その他(以下に概要を記述)

皆さんから提出されたミニッツペーパーを、プリントにまとめます。まとめプリントをもとに、さらに考えを深めます。他者の意見に触れることは、自分の価値観を広げることに大いに役立ちます。
その後、全体的な傾向についてコメントします。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中の小レポート 20%	：	全授業中、2回実施。自分なりの考察が出来ているかどうかについて、科目独自のルーブリックに基づいて評価します。
授業の内容を踏まえたレポート 20%	：	全授業中、３回実施。授業中ケース検討を行いますので、翌週そのレポートとして自立支援計画案をまとめます。科目独自のルーブリックに基づいて評価します。
学期末試験 60%	：	社会的養護の基礎知識を問う問題（50点） 社会的養護に関わるいくつかのトピックについての論述問題（50点） 合計100点で計算した上で6割掛けします。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
中 典子 潮谷 光人 著, 小宅 理沙 監修	社会的養護・社会的養護内容	翔雲社	2017年

参考文献等

・『福祉小六法2019』　社会福祉法人大阪ボランティア協会編集（中央法規　2018）
その他、どこの会社のものでもよいので、福祉小六法を手に入れておくこと

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業前後

場所：　授業の教室

備考・注意事項：　質問は毎回渡すミニッツペーパーを適宜利用すること。
これによらない質問がしたいという人は、個別に相談をすること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション～社会的養護とはなにか** 社会的養護という言葉の基本的な意味を学ぶ	テキストの目次を通読し、どのようなことを学ぶのか把握しておく。授業後、授業中に資料を配布するので、通読し、自分なりにまとめること。	4時間
第2回	**社会的養護が求められる背景と、社会的養護の基本用語①**	テキストの社会的養護が必要とされる背景に当たる部分を通読し、要点をまとめる。	4時間

	社会的養護が求められる背景と、主に家庭養護に関わる基本的な言葉を学ぶ		
第3回	**社会的養護の基本用語②** 主に施設養護に関わる基本的な言葉を学ぶ	テキスト65ページから74ページまでを通読し、要点をまとめる。	4時間
第4回	**社会的養護の理念と原理** 社会的養護の理念と原理について学ぶ	テキスト31ページから38ページまでを通読し、要点をまとめる。	4時間
第5回	**社会的養護の歴史（１）外国の歴史とわが国の戦前の歴史** イギリスやアメリカ等の海外の社会的養護の歴史を知った上で、わが国の太平洋戦争以前の社会的養護の歴史について学ぶ	テキスト9ページから14ページと、当日配布する資料を通読し、要点をまとめること。	4時間
第6回	**社会的養護の歴史（２）わが国の戦後の歴史** 太平洋戦争以後の社会的養護の歴史を学ぶ	テキスト14ページから16ページと、当日配布する資料を通読し、要点をまとめる。	4時間
第7回	**権利擁護と自立支援** 社会的養護で行われる権利擁護のあり方や、自立支援のための働きかけについて考えを深める	テキスト17ページから29ページを通読、要点をまとめる。	4時間
第8回	**社会的養護の体系** 社会的養護に関わる法制度と機関について学ぶ	テキスト47ページから52ページまでを通読、要点をまとめる。	4時間
第9回	**社会的養護の保育者に求められるもの** 社会的養護分野で働く保育者に求められる資質や専門性について学ぶ	授業中に資料を配布するので、通読し、要点をまとめる。	4時間
第10回	**社会的養護における援助の流れ** 自立支援計画及び具体的な援助の展開過程について学ぶ	テキスト85ページから94ページまでを通読、要点をまとめる。	4時間
第11回	**家庭養護の実際（事例紹介）** 家庭養護に関する事例について考察することで、実践的な理解を深める	授業中に扱った事例について、テキスト108ページから109ページ、および114ページから115ページにある自立支援計画を参考に、今後の支援の方向性を考える。	4時間
第12回	**入所系児童福祉施設の実際（事例紹介）** 入所系児童福祉施設における事例について考察することで、実践的な理解を深める。	授業中に出した事例について自立支援計画案を策定してみる	4時間
第13回	**障がい児施設の実際（事例紹介）** 障がい児施設における事例について考察することで、実践的な理解を深める	授業中に出した事例について自立支援計画案を策定してみる	4時間
第14回	**成人障がい者施設の実際（事例検討）** 成人の障がい者施設における事例について考察することで、実践的な理解を深める	授業中に出した事例について個別支援計画案を策定してみる。	4時間
第15回	**まとめ～社会的養護に関わる専門職として** 半年分のまとめと、社会的養護に関わる専門職としての在り方を考察する	1回目から14回目までに作成したノートを通読、自分なりの考えをまとめる。	4時間

432

授業科目名	**子どもの保健Ⅰ-1**				
担当教員名	**石原 真穂**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	看護師として、循環器科（内科・外科・ICU）小児科（診療所）で勤務経験あり。保健師として、市町村保健センターで母子保健事業に従事経験あり。（全30回）				

授業概要

健康の概念と各種健康指標について学び、子どもの特徴である発育・発達の原則を踏まえつつ、子ども（特に乳幼児期）が心身ともに健康に過ごせるための保健活動について考える。具体的には、子どもに多い疾病・事故の理解とその予防、近年の社会情勢を踏まえた子どもの心の問題、子どもを取り巻く事物の環境衛生と対策、多職種間と連携・協働・子どもの健康を維持・増進するための健康状態の把握の方法などについて知識の習得と理解を進めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	心身の生理機能の発達と保健の理解	発育・発達の視点を踏まえ、大人の小型版ではない「子ども」の特性を解剖学、生理学的知見をもとに、医学的・保健的に理解し、保育現場で活用する準備をする。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	現在の子どもを取り巻く環境や社会について問題意識を持ち、自分の意見を論理的に周囲に伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
予習課題の提出 20%	：	課題の理解力及び課題意識について5段階で評価する。
講義内容に対する事後のまとめやレポート 30%	：	講義内容を踏まえて論述ができていれば2点とし、重大な誤りや不足があれば減点とする。
定期試験 50%	：	試験期間中にテストを実施し、50点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に必要に応じて指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
講義を受け「授業外学修課題」に取り組むことに加え、日頃より子どもの健康や安全に関する話題に関心を持ち、積極的に情報を収集すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 講義終了後

場所： 講義室

備考・注意事項： 時間外はEメールで質問を受ける。Eメールには、学籍番号と氏名を必ず記入すること。
u315660i@ecs.osaka-u.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション健康の概念について** 子どもの保健Ⅰの履修にあたり、シラバスをもとに授業の概要や授業計画について説明する。 健康の概念について考える。	健康とはどのような状態か、自らの考えをまとめる。健康感と健康観の違いを調べる。	4時間
第2回	**子どもの健康問題と社会情勢** 子どもの健康問題の変遷や、子どもを取り巻く社会情勢について、各種統計をもとに学ぶ。 保育所保育指針や幼稚園教育要領に触れながら、大人が子どもに何を提供すべきかを考える。	保育所保育指針・幼稚園教育要領の健康および安全に関する箇所をまとめる。	4時間

第3回	**子どもの発育・発達（受胎から出生まで＜前半＞）** 生命が誕生することの神秘について体感し、胎内での発育・発達について学ぶ。	最新統計データより、人工妊娠中絶の総数、年齢別件数について調べ、人工妊娠中絶について賛成の立場か反対の立場か、理由を併せて自分の意見を論理的に記述する。	4時間
第4回	**子どもの発育・発達（受胎から出生まで＜後半＞、発育・発達の原則）** 周産期を中心に、発育・発達を学ぶ。催奇形因子や出生時体重に影響を与える因子について触れ、胎児にとって望ましい環境について考える。 発育・発達の原則について知り、ライフステージにおける違いを考える。	スキャモンの発育発達曲線について調べ、からだのどの臓器がどの型に該当するかまとめる。次週母子手帳を使用するため各自準備する。	4時間
第5回	**子どもの発育・発達（形態的変化）** 身長や体重、頭囲、胸囲がどのように発育するか、また発達との関係について学ぶ。	乳幼児身体発育調査の結果をみて、0歳から6歳までの平均身長と平均体重をまとめてくる。	4時間
第6回	**子どもの発育・発達（運動機能と精神機能）** 中枢・末梢神経の構造と働きを学び、成長の課程でみられる原始反射、粗大運動、微細運動の発達について理解する。	粗大運動の例と微細運動の例をあげ、それぞれおおよそどのような時期にどのような発達をするのかまとめてくる。	4時間
第7回	**子どもの発育・発達（言語・社会性）** 新生児・乳幼児における言語の始まりや獲得、社会性の特徴、情緒の始まりについて学び、養育者や保育者の関わりを考える。	言語発達、社会性の発達で問題とされる疾患を一つとりあげ説明する。	4時間
第8回	**子どもの発育・発達（評価）** 発育を評価するための方法（発育曲線、肥満度、カウプ指数、BMI）について学び、評価をすることの重要性について理解できる。発達を評価するための方法（新版K式）について学び、地域保健の領域でどのように実施されているのかを理解する。	練習問題を使って、発育曲線へのかき込み、カウプ指数の計算を行い発育を評価する。	4時間
第9回	**子どもの発育・発達（まとめ）** 第1回から第8回までの内容について、振り返りを行う。 質疑応答に応じる他、これまでの発育・発達の学びに対して各自で発育・発達のまとめノートを作成する。	次週から始まるからだの構造と病気の理解のために、心臓とその働きについて調べノートにまとめてくる。	4時間
第10回	**からだの構造と病気（循環器・解剖学編）** 心臓・血管・リンパの構造と働きを学ぶ。子どもと大人の構造上の違いとして、卵円孔、動脈管など、解剖学的な違いを学ぶ。	胎児の心臓と私たちの心臓について、血液の流れの違いがわかるようにイラストをノートに描き、どうして胎児はこの循環システムで生きていくことが可能なのかを説明する。	4時間
第11回	**からだの構造と病気（循環器・疾病編）** 循環器に関する疾病（高血圧、高脂血症、狭心症、心筋梗塞）の他、先天性心疾患について学ぶ。	高血圧、高脂血症、狭心症、心筋梗塞について各自で調べてノートにまとめる。	4時間
第12回	**からだの構造と病気（呼吸器・解剖学編）** 鼻・咽頭・喉頭・気管・気管支・肺の構造について学ぶ。構造理解のために、身近な材料を使って胸腔内の模型を作り理解を深める。	模型作りをレポートにしてノートにまとめる。その際どのパーツがどの気管のどのような働きを真似ているのか体の構造と絡めて書くこと。	4時間
第13回	**からだの構造と病気（呼吸器・疾病編）** 感染症を中心に、子どもが罹患しやすい呼吸器疾患について学ぶ。	結核について調べノートにまとめてくる	4時間
第14回	**からだの構造と病気（消化器・解剖学編）** 口腔から肛門までの消化器系の構造と機能を学ぶ。特に胃は成長に伴い形態が変化するため、子どもの特性と絡めて理解を深める。	口腔から肛門までの消化器系をノートに書き写し、それぞれの臓器名とその働きをノートにまとめてくる。	4時間
第15回	**からだの構造と病気（消化器・疾病編）** 腹痛や嘔吐、下痢、便秘など、消化器症状を有する疾病について学ぶ。保育者として必要な対応とその根拠を理解する。	ノロウイルス胃腸炎、ロタウイルス胃腸炎について、どのような疾病か各自調べてノートにまとめる。	4時間

432

授業科目名	**子どもの保健Ⅰ-2**				
担当教員名	**石原 真穂**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	看護師として、循環器科（内科・外科・ICU）小児科（診療所）で勤務経験あり。保健師として、市町村保健センターで母子保健事業に従事経験あり。（全30回）				

授業概要

健康の概念と各種健康指標について学び、子どもの特徴である発育・発達の原則を踏まえつつ、子ども（特に乳幼児期）が心身ともに健康に過ごせるための保健活動について考える。具体的には、子どもに多い疾病・事故の理解とその予防、近年の社会情勢を踏まえた子どもの心の問題、子どもを取り巻く事物の環境衛生と対策、多職種間と連携・協働・子どもの健康を維持・増進するための健康状態の把握の方法などについて知識の習得と理解を進めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	心身の生理機能の発達と保健の理解	発育・発達の視点を踏まえ、大人の小型版ではない「子ども」の特性を解剖学、生理学的知見をもとに、医学的・保健的に理解し、保育現場で活用する準備をする。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	現在の子どもを取り巻く環境や社会について問題意識を持ち、自分の意見を論理的に周囲に伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
予習課題の提出 20%	：	課題の理解力及び課題意識について5段階で評価する。
講義内容に対する事後のまとめやレポート 30%	：	講義内容を踏まえて論述ができていれば2点とし、重大な誤りや不足があれば減点とする。
定期試験 50%	：	試験期間中にテストを実施し、50点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に必要に応じて指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
講義を受け「授業外学修課題」に取り組むことに加え、日頃より子どもの健康や安全に関する話題に関心を持ち、積極的に情報を収集すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 講義終了後

場所： 講義室

備考・注意事項： 時間外はEメールで質問を受ける。Eメールには、学籍番号と氏名を必ず記入すること。
u315660i@ecs.osaka-u.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**からだの構造と病気（栄養・代謝）** 三大栄養素の消化と吸収について学ぶ。小児期から始まる生活習慣病として「肥満」をとりあげ、保育者としてどのような関わりができるか考える。	三大栄養素がバランスよく摂取できるよう、お弁当案を作成する。	4時間
第2回	**からだの構造と疾病（泌尿器、解剖学編・疾病編）** 腎臓、尿管、膀胱などの尿の生成に関連する器官の構造と機能を学ぶ。また、泌尿器疾患について理解し、対応を学ぶ。排尿の自立と発育・発達の関係を理解し、保育者としての関わりを考える。	尿意が伝わるメカニズムについてノートにイラストを描き各自説明する。	4時間
第3回	**からだの構造と疾病（血液）**	赤血球、白血球、血小板の働きをノートにまとめる。白血球の種類とそれぞれの働きについて調べる。	4時間

	血液の成分とその働き、血液に関する疾病について学ぶ。		
第4回	**からだの構造と疾病（免疫）** 前週に履修した血液の成分である白血球の働き を掘り下げ、体の防衛機能について学ぶ。過剰な免疫反応により体に有害な症状として現れる有れる「アレルギー」をとりあげ、保育者としての関わりを考える。	アトピー性皮膚炎、気管支喘息、食物アレルギーについて（三大要因も記載こと）ノートに各自まとめる。	4時間
第5回	**感染症とその予防** 感染症の三大要因を学び、それぞれに対して の対策について考える。	日本で受けられる予防接種について、定期接種と任意接種に分けてノートにまとめてくる。	4時間
第6回	**感染症と予防接種** 感染症法、学校保健安全法、予防接種法等をもとに、子どもがかかりうる感染症とその症状・合併症、予防対策としての予防接種について考える。 次週の発表に向け、グループ決めやグループワークを行う。	次週の発表準備	4時間
第7回	**感染症についての発表** 子どもがかかりやすい感染症について、調べてきた内容をグループで発表する。	学校保健安全法、学校保健安全法施工規則に定められている健康診断について、各自でノートに時期や内容を調べる。	4時間
第8回	**子どもの健康状態の把握とその対応** 子どもの健康状態を把握するための手技や方法について学ぶ。保育者として異常を発見した際に、養育者をはじめ地域の医療や保健とどのように連携を図っていくかについて考える。	現在の子どもを取り巻く現代的課題を一つ取り上げ、地域で行われている取り組みや対策を各自でまとめてくる。	4時間
第9回	**子どもの健康に関する課題とその対応** 少子化や貧困等の子どもをとりまく現代的課題と背景が、子どもの健康に影響を及ぼす要因を理解する。保育者としてどのように対応すれば良いかを考える。	保育所における職員の配置基準、一人あたりの面積を調べてくる。	4時間
第10回	**保育現場における環境整備と衛生・安全管理** 児童福祉法に基づく児童福祉施設最低基準について学ぶ。特に保育施設において子どもが衛生的で安全に過ごすために必要な消毒や衛生・安全管理について学ぶ。	乳幼児突然死症候群とは何か各自で調べてノートにまとめてくる。	4時間
第11回	**子どもにおける事故と安全対策** 死因統計をはじめとした各種統計資料を参考に、子どもの事故の特徴を理解する。特に保育施設における安全対策について考える。乳幼児突然死症候群についても触れ、保育者が気をつかなければならないことについて意見を出し合う。	児童福祉法に定められる児童福祉施設について、自分の住む市町村にある一施設をとりあげ、設置の目的やサービスの提供内容についてまとめる。	4時間
第12回	**子どもを取り巻く環境（社会制度・児童福祉施設）** 児童福祉法に定められた児童福祉施設についてその目的と地域における実際の様子を知る。施設の利用に際して、どのような背景や施策が関わっているのかを学ぶ。	発達障害について各自で調べてノートにまとめてくる。	4時間
第13回	**子どもを取り巻く環境（生活環境・心の健康と課題）** 現代の子どもを取り巻く環境と、子どもが抱えるこころの健康問題について学ぶ。 子どもの生活習慣病、やせ、心身症、発達障害について を例に挙げ、保育者として、子どもや家族へどのような関わりが求められるか考える。	オレンジリボン活動について各自で調べてまとめてくる。	4時間
第14回	**子どもを取り巻く環境（児童虐待とその対策）** 児童虐待の種類や現状を踏まえ、地域保健で虐待を防止するために行われている対策や仕組みについて知る。また、保育者のみならず国民として子どもが安心して暮らせる環境を作っていくことは義務として定められており、虐待を防止するために一人ひとりができること、発見した際の対応や連携について考える。	最終回にむけて、これまでの子どもの保健Ⅰでわからなかったところをノートにピックアップし、次回の講義時に質問できるようにする。	4時間
第15回	**全体のまとめ** 子どもの保健Ⅰの最後として、体の構造や疾病、感染症と免疫のシステム、事故、子どもを取り巻く環境等についての質問を受け付け、全体のまとめを行う。	テストに向け、これまで学習した内容のふり返りを行い知識を定着させる。	4時間

1

授業科目名	**子どもの保健Ⅱ**				
担当教員名	**辻本裕子**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	看護士や助産師としての経歴があり、その実務経験に基づいて授業を展開していく。（15回）				

授業概要

子どもの健康及び安全にかかわる保健活動について、その保健活動の作成と活用について学ぶとともに、保健活動の記録と自己評価についても学ぶ。保健における養護と教育との一体化など、子どもの健康の増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境について考えることを目的としている。さらに、子どもの疾病や緊急時の対応等について事例を基に、具体的に考える。また、健康および安全の実地体制について、家庭・専門期間・地域保健活動等も含めて学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	子どもの保健活動への理解	子どもの健康・安全に関わる保健活動の在り方について理解し、対応する能力を身に付ける。

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践	子ども理解を通して、保健活動を実践する能力を養う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
毎回の講義内小レポート 30%	： 講義内容を踏まえて論述ができていれば2点とし、重大な誤りや不足があれば1点とする。
協同学習 30%	： 協同学習は3回実施する。課題の理解、考えの見解・意見の内容、発言内容等の点から10点/1回で評価する。
定期テスト 40%	： 定期テストを行い講義内容を理解しているかについて10段階で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に必要に応じて指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

講義に、積極的に参加すること。本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。講義を受け課題に取り組むだけでなく、子どもの健康・安全に関する話題に積極的に触れ考えること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 講義終了後
場所： 講義室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**子どもの保健　II　についての授業概要と授業計画** 子どもの保健　II　についての授業概要と授業計画の説明と健康と保育について考える。	保育所保育指針および幼稚園教育要領の健康・安全に関するところを読む。	2時間
第2回	**子どもの保健における養護と教育の一体化** 養護と教育の一体化の意義について理解し、職員間の連携や組織的取り組みについて理解する。	養護とは、教育とは何かを調べノートにまとめる。	2時間
第3回	**子どもの生活習慣と行動上の問題** 子どもの生活習慣について、発育段階との関係で理解し、行動上の問題について考える。	心身相関について調べる。	3時間
第4回	**子どもの心身の健康とその対応** 子どもの心身の健康について理解する。心身相関や子どものストレスを学び、その対応について考える。	発達障害について調べノートにまとめる。	3時間
第5回	**子どもの発達援助** 発達障害のある子ども、少し気になる子どもの理解と、その対応について考える。	母子保健に係る法規と社会の取り組みについて調べノートにまとめる。	4時間
第6回	**母子保健に係る法規と社会の取り組み**	保健活動について調べノートにまとめる。	3時間

	母子保健の意義、施策の仕組みや社会の取り組みについて理解する。		
第7回	**保健活動計画の作成** 保健活動について理解するとともに、協同学習により、保健活動計画を作成する。	保健活動計画の発表の為の準備をする。	3時間
第8回	**保健活動計画の活用と評価** 作成した保健渇仰計画を発表し、その評価と活用の仕方について議論する。PDCAサイクルを用いてk評価することを学び再度作成する。	PDCAサイクルを用いてk評価することを学び再度作成する。	4時間
第9回	**感染症とその対応** 子どもの感染症について取り上げ、その対応策について具体的取り組みを考える。	歯・口健康づくりの取り組みについて保健活動として準備する。	4時間
第10回	**歯・口健康づくり** 子どもの歯・口健康づくりの活動を具体的な取り組みとしてを考える。協同学習により、保健活動計画を作成する。	子どもの事故について調べてノートのまとめる。	4時間
第11回	**子どもの事故** 保育施設（室内・室外）の子どもの事故事例から、自らの危機予測能力を高めると同時に、子どもへの危機予測能力を培う方法を考える。	保育施設での危機管理について調べノートのまとめる。	2時間
第12回	**自然災害への備えと危機管理** 地震や火災が生じたときのために、保育施設の例を提示し、危機対応能力について考える。	子どもの日常起こりそうなけがについて調べノートにまとめる。	2時間
第13回	**救急処置の実際** 応急手当を実践できるようになる。心肺蘇生や日常の命にかかわりのないけが等の応急手当について学ぶ。	保育士を取り巻く問題について調べる。	2時間
第14回	**子どもと保育士を取り巻く環境と保健** 価値観や生活環境が多様化している中、子どもの基本的生活習慣の獲得のための実践を考える。また、保育士を取り巻く課題について考える。	生涯保健とは何か調べノートにまとめる。	2時間
第15回	**保育を生涯保健に結びつけるために** 保育を生涯保健に結びつけるための戦略を考え、討論する。	子どもの保健I-1,I-2とともに、子どもの保健IIを振り返り、重要な点を整理する。	2時間

1

授業科目名	**子どもの食と栄養**				
担当教員名	**須田あゆみ**				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義・演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	管理栄養士として保育園に勤務。その後保育者養成校に勤務				

授業概要

子どもの栄養と食生活は、心身の発育・発達を促し、健康な生活を営む基礎となる。本授業では、子どもの発育段階に応じた栄養と食生活の知識および、食物アレルギーや疾病等の配慮を要する子どもの食を学び、保育者として対象者に応じた適切な助言および支援ができる知識と技術を身に付けることを目的とする。また、保育における食育の意義・目的を理解し、家庭や地域、社会や環境とかかわりながら、保育計画に沿った食育を実践できる力を習得する。保育者自身の望ましい食生活の構築にも取り組み、食育の環境構成にも役立ててもらいたい。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	保育者としての正しい子どもの食生活と栄養の知識	子どもの発育・発達段階における食生活の特徴や課題が把握できる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	食育の知識および技能	食育の環境作りを理解し、計画をたてることができる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		収集した資料から、子どもの食生活における課題を検討できる。
2 ．DP7.完遂		課題に対して、指定の形式にそった資料を完成させることができる。
3 ．DP6.行動・実践		人の前に立ち、自分の伝えたいことを分かりやすく伝える発信力の大切さ・難しさを経験し、より意識をもって取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内レポートおよび課題	45%	： 3点×12回分と3点×3課題　3点：講義内容を踏まえ、独自の視点を加えて課題・問題点を論じている。2点：講義内容を踏まえ、課題・問題点を論じている。1点：一般論による課題・問題点を論じている。
小テスト	25%	： 栄養の基礎知識及び、発育・発達段階に応じた栄養と食生活の知識について評価する。（小テストは２回実施）
食育プレゼンテーション	10%	： 5点×2課題：食育指導案の発表および、弁当作りの発表。　5点：目的に応じて独自の視点でよく考えられている、３点：目的に沿って考えられている、１点：もう少し内容を詰めた方が良い。
期末テスト	20%	： 食育の基礎知識及び、配慮がいる子どもの栄養と食生活の知識について評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
上原誉志夫・根岸由紀子	・ 改訂　セミナー　子どもの食と栄養	・ 建帛社	・ 2017年

参考文献等

「気になる子の偏食」　西村実穂/水野智美編著　チャイルド本社
「お母さんの疑問にこたえる乳幼児期の食べる機能の気付きと支援」　向井美穂著　医歯薬出版株式会社
「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（厚生労働省）
「たべられないよ　アレルギー」　井島敦子　脚本/鈴木幸枝　絵　　童心社

その他授業内で紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　担当授業終了後
場所：　授業実施教室
備考・注意事項：　質問は授業の前後にも答えるが、メールでも対応する。
アドレス：Ayuotodokebin@aol.com
メールの件名には必ず氏名と所属を書くこと。

授業計画

	授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**子どもの健康と食生活の意義** 第１章：先進国および発展途上国の食の現状および課題、第２章：子どもにとって食がなぜ大切かの内容に触れ、この授業の目的および、幼少期の食生活の意義を理解する。授業の評価方法についても説明する。	第１章(p1－6) ２章(p7－9) を読んでおく。	4時間
第2回	**栄養の基礎知識と消化吸収に関わる器官とその発達** 第３章、４章：栄養の基礎知識、消化吸収の仕組みと器官の発達について、乳幼児期の特徴を理解する。最終的に、なぜ色々な食べ物を食べた方がいいのかを子どもに分かりやすく説明できるようになりましょう。	ｐ19 - 30、p32 - 35を読んでおく。	4時間
第3回	**乳児期の栄養・食生活の特徴(1)－乳汁栄養** 第６章：母乳栄養・人工栄養・混合栄養について講義し、それぞれのメリット、注意点を理解する。乳汁栄養の意義を理解するとともに、自分ならどのようにしたいと思うかを考えてみてください。調乳については実習は出来ませんが、調整粉乳の選択および扱い方を理解し、自分の中で流れと注意すべきポイントが分かるようになりましょう。	p70 - 82を読み、母乳の良さと留意点を把握しておく	4時間
第4回	**乳児期の栄養・食生活の特徴(2)－離乳食①（離乳食の意義および進め方）　小テスト1回目（第1回、2回の内容）** 第６章：離乳食の意義および進め方について、咀嚼機能の発達を中心に理解を深めます。子どもが食べる様子の動画を見ながら、適切な介助のポイントをおさえましょう。	p82 - 91を読み、離乳食の進め方の目安を理解しておく	4時間
第5回	**乳児期の栄養・食生活の特徴(3)－離乳食②（離乳食の進め方と注意点）** 第６章：離乳食の食材の進め方および注意点について理解を深めます。また手指の発達について学ぶとともに、事例を読み、離乳の各時期における配慮のポイントをおさえましょう。離乳食の進め方と注意点についてまとめ、理解を深めます。	離乳食に関する事例を読んでおく。事例は事前に伝えます。	4時間
第6回	**特別な配慮を要する子どもの食事について（食物アレルギー）** 第１１章：食物アレルギーの仕組み、原因食品および対処法について講義します。その後、食物アレルギー児の対処について意見交換を行います。授業後、食物アレルギーの知識を深める課題及び、食物アレルギーの子どもが食べられる市販の食品探しのレポート課題を出します。	p177 - 182を読んでおく。	4時間
第7回	**幼児期の栄養と食生活の特徴(1)－幼児期の特徴と間食の意義** 第７章：幼児期の特徴および、間食の意義（弁当）について講義します。実習に行き、子ども達の食べる姿をみて、どのようなことを感じたかについて意見を共有します。	p97－109を読んでおく。	4時間
第8回	**幼児期の栄養と食生活の特徴(2)－食生活上の問題点と対処法** 第７章：食生活上の問題点および対処法について。年齢毎にどのような対応をしていくのがよいか、グループで意見交換をして、自分の考えを広げましょう。	好き嫌いの事例を事前に配布しますのでそれを読み、自分なりの考え（対処法）を考えておいてください。	4時間
第9回	**学童期・思春期の栄養と食生活の特徴** 第９章：朝食の役割、心身の健康（コ食）について考えていきます。朝食はなぜ大切なのか、自分なりの言葉で説明できるようになりましょう。	p114 - 125を読み、学童期の問題点を把握しておく	4時間
第10回	**生涯発達と食生活、小テスト2回目（乳児期～幼児期）** 第５章：妊娠期の栄養と食生活について、また、自分の食生活を見直すため食事バランスガイドを作成し、自身の食生活を振り返ります。	講義前日に食べたものをメモしておく	4時間
第11回	**食育の基本と内容(1)－食育の目標および内容** 第9章：食育基本法制定の背景を理解し、食育の目標および内容を理解する。具体的にどのような食育があるのか説明しながら、各自で食育指導案をたてる課題（14回目に発表）につなげます。	p129 - 137を読み、どのような食育が求められているか把握しておく。	4時間
第12回	**家庭や児童福祉施設における食事と栄養** 第10章：家庭や児童福祉施設における食事について、給食の役割、食事の意義を講義します。行事食としてどのようなものがあるのか発表しあい、知識を深めます。	行事食について調べておく	4時間
第13回	**特別な配慮を要する子どもの食事　（体調不良、障害がある子どもの支援）** 第11章：体調不良時、嘔吐、下痢、発熱時の対処法、障害のある子どもの食事について講義します。体調不良時に自分が食べる物、また災害に供えてどのような準備をしているか意見交換します。	p184 - 191を読んでおく。	4時間
第14回	**食育の基本と内容(2)－食育指導案の発表** 食育指導案をグループ内で発表し、評価しあいます。他の人の意見を聞く事で自分の食育に対する視野を深めます。	食育指導案を考え、発表できるように準備しておく。	4時間
第15回	**食育の基本と内容(3)－弁当作りの発表、授業のまとめ** 各自が作成した弁当についてグループ内で意見交換を行います。そして、食育の環境とは何か、食育をする上での保育者の役割について考え、授業をまとめます。	弁当作りのレポートを仕上げて発表できるように準備しておく。	4時間

1

授業科目名	**家庭支援論**				
担当教員名	山本智也				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	家庭裁判所調査官として心理学、社会福祉学、教育学などの専門的な知識や技法を活用し、家庭内の問題の解決や非行少年の立ち直りに向けた「調査」や「調整」を担当。（全15回）				

授業概要

家庭支援論は、子どもが生活する基本的な場である家庭を理解し、家族の福祉を保障することで、その子どもの保育をより充実したものにすることを目的としている。家族を支援していくことの意義・役割、家庭支援の必要性等の基本的・理論的枠組みを理解し、保育士等が行う家庭支援の原理について学ぶ。また、家庭生活を取り巻く社会的状況および子育て家庭の支援体制について理解した上で、家庭支援の多様な施策や支援活動を、事例に基づきながら学習する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	家族の意義とその機能について理解する。	現代社会において家族を取り巻く諸課題を的確にとらえることができる。
2 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	子育て家庭及びその取り巻く社会的状況等を理解する。	子育て家庭への支援体制及び関係機関との連携について、日々の保育実践を関連づけてとらえることができる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		社会の今日的課題を的確にとらえることができる。
2 ．DP9.役割理解・連携行動		専門職として求められる役割を理解し、適切に行動できる姿勢を体得することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度 30%	：	各回授業において、授業内容のポイントを押さえた予習シートが作成されているか、授業での学びを的確に示しているかについて評定します。
レポート 30%	：	授業内で指示する２つの課題について、次の点を評定する。 ・家族の今日的課題を的確にとらえ、専門的な知見から、課題・問題点を論じているか。 ・個々の家族の事例を専門的な知見からとらえているか。
試験 40%	：	以下の点を中心とした論述課題への取組を評価する。 ・家庭支援をめぐる法体系、制度への理解 ・家族の意義と機能への理解 ・子育て家庭への支援について、関係機関との連携を踏まえた保育士としての専門性

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
才村純・芝野松次郎・新川泰弘・宮野安治編著	子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門	ミネルヴァ書房	2019年

参考文献等

『家族福祉論―全体としての家族へのサポート』　相沢譲治・栗山直子（編著）　勁草書房　2002年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
予習シート作成を中心とした「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
具体的には、受講生全員に各回の講義に先立ち、あらかじめ提示したキーワードをもとに予習内容をまとめた予習シートの作成を義務づける。授業においては各自の予習シートの内容を確認しながら、当該授業内容について加筆するなどして基礎的理解を図った上で講義に臨むことができるようにする。
その上で授業終了時点で、授業で学んだことなどをまとめる時間を設け、学習内容の定着を図る。

＜開講日程についての注意事項＞
本科目の主たる履修対象者である幼児教育コース３年次生が平成31年11月18日（月）から12月14日(土)まで児童福祉施設における保育実習期間となる関係上、当該実習期間には開講せず、以下の日程を通常授業に加えて実施する。
12月18日(水)、12月25日(水)、1月8日(水)、1月15日(水)のいずれも４講時(予定)
このため、後期水曜４講時に他の授業を履修できないので注意すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　後期月曜日３講時

場所：　中央館２階個人研究室79

備考・注意事項：　授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス：yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「家庭支援論：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**家庭支援論を学ぶ意義と必要性** 保育専門職として家族を支援していく必要性を考えていきます。	授業に先立ち、テキストを通読しておくこと。	4時間
第2回	**家庭の意義と機能** 家族とは何かをその機能からとらえていきます。 キーワード：家　家族　家庭	予習シートの作成（家族の定義、家族の機能について）	4時間
第3回	**保育士が行う家庭支援の原理** 全体としての家族をとらえる視点から家庭支援を考えていきます。 キーワード：子ども家庭福祉の理念、子どもの最善の利益、第一義的責任	予習シートの作成（保育士が行う保護者支援について）	4時間
第4回	**変化する社会の中での子育て** 現代の子育てをめぐる社会的状況を中心に家族の置かれた全般的状況を考えていきます。 キーワード：少子高齢社会　合計特殊出生率	予習シートの作成（少子高齢、人口減少社会について）	4時間
第5回	**地域社会の変容と子育て家庭** 地域社会の変容という視点から家族の置かれた今日的状況を考えていきます。 キーワード：子育て家庭の孤立　地域の子育て力	予習シートの作成（核家族の孤立化について）	4時間
第6回	**男女共同参画社会とワーク・ライフ・バランス** 共生社会という視点から家族の置かれた今日的状況を考えていきます。 キーワード：ジェンダー　ワーク･ライフ･バランス	予習シートの作成（ワンオペ育児、ワークライフバランスについて）	4時間
第7回	**子育て支援の法と制度** テキスト該当部分である56～69ページをもとに家庭を支援する基本的枠組みをとらえていきます。 キーワード：児童福祉法　児童福祉六法　児童相談所　児童福祉施設	予習シートの作成（子育て支援のための法制度について）	4時間
第8回	**子育て支援サービスの体系とその内容** 子育て支援サービスを体系的に理解していきます。 キーワード：子育て支援サービス　子ども・子育て支援新制度	予習シートの作成（子育て支援事業と実施体制について）	4時間
第9回	**保育所入所児童の家庭への支援** 保育所における家庭支援を考えていきます。 キーワード：保育所の役割　子どもの最善の利益	予習シートの作成（保育所保育指針における子育て支援について）	4時間
第10回	**地域子育て家庭に対する支援の実際** 地域子育て支援について実践事例をもとに理解を深めます。 キーワード：地域子ども・子育て支援　ドロップインセンター	予習シートの作成（地域子ども・子育て支援事業について）	4時間
第11回	**要保護児童及びその家族に対する支援１（児童虐待への対応）** 児童虐待の現状と世代間伝達を断ち切るための保育者の役割を考えていきます。 キーワード：要保護児童とその家族　児童虐待　世代間伝達	予習シートの作成（児童虐待の定義　現状について）	4時間
第12回	**要保護児童及びその家族に対する支援２（障害のある子どもと家族への対応）** 保育士としての障害のある子どもと家族への対応を考えていきます。 キーワード：障がい　共感的理解　自己決定	予習シートの作成（障害のある子どもと家庭への支援）	4時間
第13回	**子育て支援におけるソーシャルワーク** 子育て支援におけるソーシャルワーク過程について、特にアセスメントについて考えていきます。 キーワード：アセスメント　ネットワーク	予習シートの作成（家族アセスメントについて）	4時間
第14回	**子育て支援サービスの課題と今後の方向性** 保育等の子育て支援サービスに関する課題・背景と解決の方向性について考えていきます。 キーワード：子育て支援サービス　アウトリーチ	予習シートの作成（子育て支援におけるアウトリーチについて）	4時間
第15回	**保育士が行う家庭支援の専門性** 家庭支援の意義を再確認していきます。 キーワード：家庭支援の意義と課題の再確認	テキスト、プリント、作成したシートの再確認と到達度の自己評価	4時間

1

授業科目名	**乳児保育**				
担当教員名	池内昌美				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

乳児保育の理念と歴史的変遷および役割について学んだ後、保育所、乳児院、家庭的保育等における乳児保育および乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場などについて、現状と課題を理解する。また、乳児保育の実施に関する基本理念と現状を理解した上で、実践内容に直結する３歳未満児の援助の実際や、発達と発育を理解し、さらに、３歳未満児の生活と保育士の関わりの重要性などの基本的知識や配慮事項についても理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：
保育者として求められる専門的知識と技術を習得し、実践できる力を身につけること

目標：
乳児の発達段階を理解するとともに、発達に応じたあそびや指導計画を立てることを目標とする

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合　　**評価の基準**

授業内評価　45%　：赤ちゃんとのふれあい遊び・絵本の演習15%　授業内容理解度レポート30%(10%×３回)

授業への参加度数　15%　：授業への参加度は，教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし，論理的・積極的な発言などを評価する。

乳児のおもちゃ作成　15%　：乳児の発達と遊びを踏まえて、乳児自ら遊びたくなるおもちゃを作成している（15点）乳児の発達と遊びを踏まえておもちゃを作成している（10点）

定期試験　25%　：レポート試験
授業内容を踏まえて，独自の視点から書かれている（25点）
授業内容を踏まえて，書かれている（20点）

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
高橋弥生他編	コンパクト版　保育者養成シリーズ「乳児保育」	一藝社	2018年

参考文献等

「知れば楽しいおもしろい　赤ちゃん学的保育入門」　小西行郎著　フレーベル社
基本保育シリーズ「乳児保育」児童育成協会監修　寺田清美　大方美香　塩谷　香　編集　中央法規

履修上の注意・備考・メッセージ

乳児保育は，保育士資格必修科目です。
頑張って単位取得を目指してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業時間の前後

場所：　授業教室

備考・注意事項：　授業中のコメントカードに質問を記入してください。
授業外での連絡方法は、第1回目の授業時に伝えます。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**乳児保育の意義と目的** 乳幼保育について現時点での各自の理解程度を認識する。	乳児保育の制度について各自の居住地の制度を調べる	4時間
第2回	**乳児保育における養護及び教育** 乳児保育について、保育所保育指針から学ぶ。	保育所保育指針を予習する	4時間
第3回	**乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題** 乳児保育はなぜ必要かを社会的背景から学ぶ。	子どもの家庭福祉を復習する	4時間
第4回	**保育所における乳児保育** 保育所における保育とは何かを具体的に学ぶ。	保育所保育指針を復習する	4時間

第5回	**保育所以外の児童福祉施設（乳児院）における乳児保育** 乳児院における保育とは何かを具体的に学ぶ。	子どもの家庭福祉を復習する	4時間
第6回	**３歳未満児の生活と環境** ３歳未満児の生活と環境について理解する	発達過程について復習する	4時間
第7回	**援助の実際（着替え・午睡・排泄・授乳・安全など）** 保育所や乳児院などの施設で実践できるように乳児の援助の実際について学ぶ	保育所や乳児院などにおける乳児の１日の生活を復習する	4時間
第8回	**１歳未満児の遊びと環境** １歳未満児の遊びと環境について理解する	乳児の発達について理解を深める	4時間
第9回	**３歳未満児の遊びと環境** ３歳未満児の遊びと環境について理解する	３歳未満児の発達について理解を深める	4時間
第10回	**援助の実際（遊び・体験など）** 乳児の遊びについて、赤ちゃんとのふれあい遊び、絵本などを実際に演習する	乳児の遊びについて理解する	4時間
第11回	**３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり** 子どもの発達を理解しつつ，関わりを学ぶ。	乳児の発達を復習する	4時間
第12回	**乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際** 子どもの１日の生活や発育・発達を踏まえた遊びと援助のあり方を学ぶ	人的環境の大切さについて参考書などを読んで予習をする	4時間
第13回	**３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮** 乳児の安全と情緒の安定を図るための配慮について学ぶ。	テキストを読んで理解を深める	4時間
第14回	**乳児保育における計画・記録・評価とその意義** 乳児保育における計画・記録・評価の必要性とその意義について学ぶ。	テキストを読んで予習をしておく	4時間
第15回	**まとめ** 乳児保育の学びを振り返る。	これまでの学習内容を復習する	4時間

1

授業科目名	**障害児保育**				
担当教員名	池内昌美				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

発達の道筋は障害のある子どももそうでない子どももみな同じです。障害はさまざまであり，子ども一人ひとり個性があります。そのため，障害児保育は家庭や関係諸機関の連携のもとに子ども一人ひとりを理解することを大切に展開していきたいものです。本講では，障害児保育の理念や障害の特性を捉えつつ，療育のあり方や育ちあいの保育について学ぶことによって，障害児保育の基礎を培っていきます。また，保育所や幼稚園などで障害のある子どもの保育の現状と課題についても理解することを目的としています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：子どもの障害について理解をすることを目標とする

目標：子どもの障害について理解をして援助のあり方を学ぶとともに，障害のない子ども達と育ち合う大切さについても学ぶ。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見

討議を実施することにより，課題の重要性を認識することができ，解決に向けた自分の意見を伝え，その育成が期待できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度数	10%	：授業への参加度は，教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし，論理的・積極的な発言などを評価する。
定期試験	30%	：レポート試験 授業内容を踏まえて，独自の視点から描かれている（30点） 授業内容を踏まえて，書かれている（20点）
レポート課題	30%	：授業内容が整理されており，独自の視点から描かれている（30点） 授業内容が整理されており，書かれている（20点）
授業理解レポート	30%	：課題レポート　６点×５回（30点） 授業内容を踏まえて，独自の視点から描かれている（６点） 授業内容を踏まえて，書かれている（４点）

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
小川圭子・矢野正　編著	保育実践にいかす　障がい児の理解と支援	嵯峨野書院	2014年

参考文献等

「シリーズ知のゆりかご　ライフステージを見通した障害児の保育・教育」小林徹・栗山宣夫　編　みらい

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修がもとめられる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：授業時間の前後
場所：授業教室
備考・注意事項：授業中のコメントカードに質問を記入してください。
授業外での連絡方法は、第1回目の授業時に伝えます。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　障害児保育とは** 障害の概念，障害のある子どもへの保育とは	障害の考え方を人的環境，物的環境から考える	4時間
第2回	**障害児保育の理念** 障害のある子どもの地域社会への参加・包容及び合理的配慮について学ぶ	障害のある子どもへの配慮について考える	4時間
第3回	**障害児保育の歴史** 障害児保育の歴史的変遷及び現在の障害児保育について学ぶ	障害児保育の歴史的な流れについて理解する	4時間
第4回	**肢体不自由児の理解と援助**	肢体不自由について本を読んで理解を深める	4時間

	肢体不自由がある子どもへの理解，および，援助について理解する		
第5回	**知的な障害がある子どもへの理解と援助** 知的な障害がある子どもへの理解，および，援助について学ぶ	実際に知的な障害がある子どもとかかわり，理解を深める	4時間
第6回	**発達障害がある子どもの理解と援助：注意欠陥多動性障害，学習障害など** ADHD，学習障害がある子どもへの理解，および，援助について理解する	ADHD，学習障害の特性について予習をする	4時間
第7回	**発達障害がある子どもの理解と援助：広汎性発達障害など** 広汎性発達障害がある子どもの理解，および，援助について理解する	広汎性発達障害について予習をする	4時間
第8回	**重症心身障害がある子どもの理解と援助** 重症心身障害がある子どもの理解，および援助について理解する	重症心身障害がある子どもについて本を読み，理解する	4時間
第9回	**特別な配慮を要する子どもの理解と援助** 特別な配慮を要する子どもの理解，および援助について理解する	特別な配慮を要する子どもについて観察をしておく	4時間
第10回	**個々の障害のある子どもが通う保育と教育の場について** 障害のある子どもが通う施設について学ぶ	障害のある子どもの保育の場について復習をする	4時間
第11回	**個々の発達を促す生活や遊びの環境** 発達を促す環境について学ぶ	障害のある子どもが生活しやすい環境を考える	4時間
第12回	**子ども同士の関わりと育ち合い** 障害のある子どもと障害のない子どもとが関わることにより，育ち合っていく姿について理解する	統合保育について保育が行われている場から学ぶ	4時間
第13回	**障害受容について** 障害のある子どもの保護者の気持ちについて理解をする。	テキスト・プリントを読んで予習をする	4時間
第14回	**保護者や家庭に対する理解と支援** 保護者や家庭に対する支援の必要性と実際について学ぶ	保護者や家庭への支援の大切さについて考える	4時間
第15回	**まとめ** 障害児保育における現状と課題について考え，障害児保育の学びを振り返る。	障害のある子どもを保育するうえでの困難さについて考える	4時間

1

授業科目名	**社会的養護内容**				
担当教員名	**小口将典**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	知的障害者更生施設（現、障害者支援施設）および障害児通園施設（現、児童発達支援センター）に支援員として勤務。（全15回）				

授業概要

家庭機能の低下、子育ての孤立化、経済的貧困、子どもとその家庭が抱える問題の多様化・複雑化などの理由によって、保護者から適切な養育を受けられない子どもたちが増えてきている。そのような社会的養護を必要とする子どもたちが生活する児童福祉施設での権利擁護や、保育士に求められる倫理について具体的な事例を通して学ぶことを目的とする。さらに、学生自身が子どもの自立支援に関する計画を策定し、子どもの支援に関する理解を深めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	家庭や保護者に代わって子どもの養護を実践する保育士に求められる専門知識	社会的養護を必要とする今日的な社会状況の問題構造を理解し、各児童福祉施設での養護のあり方を考えることができる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	社会的養護を必要とする子どもへの保育を実践するために必要な基礎的な技術	社会的養護の原理を踏まえた支援を事例を通して検討し、子どもの自立支援計画の位置づけを理解し作成することができる。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	支援に必要な保育技術や社会資源を理解する方法を修得し、事例検討をすることができる。
2 ．DP6.行動・実践	他人の意見を踏まえて、保育に関する自分の考えや主張を伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

＜下記　課題レポートの評価基準＞
授業内で取り上げたテーマについて、自身の考えを考察する課題を出します。①設定したテーマについて要旨がまとめられているか、②教科書の写しではなく、自身の考えが述べられているか、③文章の構成がレポートらしく整えられているか、を基準に10点満点で評価します。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内のワーク	20%	： 設定された課題に対して主体的な取り組みがあったのかを提出するワークシートをもとに評価します。
小テスト	20%	： 授業内容の理解度について評価します。
課題レポート	10%	： 上記注意事項欄に記載。
期末テスト	50%	： 授業で取り上げた、社会的養護を実践する保育士に必要な知識について問います。さらに、授業のなかで議論したテーマについて取り上げ、自身の意見を踏まえて論述する形式もとります。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
辰巳隆・岡本眞幸編集	三訂　保育士を目指す人の社会的養護内容	みらい	2018年

参考文献等

「図鑑で学ぶ保育　社会的養護」（萌文書林、2018）
「演習・保育と障害のある子ども」（みらい、2017）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
提示される課題や発表の準備などは講義時間外においても各自あるいはグループで行い授業までに準備してくること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後
場所：　授業の教室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション／社会的養護における保育士の役割** 社会的養護における保育の特徴は、子どもの生活に深くかかわり、長期的な視点に立ちながら家庭への復帰や自立を支えることにあります。社会的養護内容を学ぶにあたり、あらためて施設保育士に求められるものは何かを考えます。	今日における社会的養護を必要とする子どもが抱えている問題を整理し、保育士の役割を調べる。	1時間

第2回	**社会的養護の機能と枠組み** わが国における社会的養護は、児童福祉施設において生活する形態（施設養護）と里親等の家庭において生活する形態（家庭養護）の大きく2つに分けることができます。それぞれの施設の役割や目的、対象としている子どもについて社会的養護に関わる法律をもとに学びます。	児童福祉法に児童福祉施設がどのように位置づけられているのかを調べる。	1時間
第3回	**社会的養護における子ども理解と支援の基本** 社会的養護を必要とする子どもを理解するための基本的視点を考えます。	社会的養護を必要とする子どもが抱える問題にはどのようなものがあるのかを考える。	1時間
第4回	**施設養護のプロセスの理解①（アドミッションケア、インケア）** 児童福祉施設では、衣食住や学習など日常生活を送る上で基本となる養護の他に、入所前、入所中、退所前、退所後など、施設生活の各局面において必要な養護が実施されています。ここでは、アドミッションケア（入所前）、インケア（入所中）について取り上げ、「子どもの権利ノート」の位置づけや、日常的な支援における保育士の役割を考えます。	「子どもの権利ノート」の役割について調べる 子どもが施設に入所する際にどのような不安を抱えるのかを考えまとめる。	1時間
第5回	**施設養護のプロセスの理解②（リービングケア、アフターケア、家族・家庭への支援）** 児童福祉施設におけるリービングケア（退所前）、アフターケア（退所後）について取り上げ、子どもの自立と長期的な支援の必要性について考えます。	施設を退所した後、どのような支援が必要となるのかを考える。	1時間
第6回	**社会的養護の実際①（児童養護施設におけるこころのケア、日常生活支援）** 児童養護施設には、虐待、両親の離婚や疾患など、さまざまな理由で保護者と暮らすことができない子どもたちが生活しています。近年では、より家庭的な環境で、職員との個別的な関係を基盤にし、きめ細かなケアをすることが求められています。保育士が児童養護施設でどのような子どもとの関りを深めながら、一方でケアをするのかを事例を通して考えていきます。	児童養護施設は、より家庭的な環境での養育が目指されているが、なぜ家庭的な環境での養育が必要なのかをまとめる。	1時間
第7回	**社会的養護の実際②（児童養護施設における学習支援、進路・進学支援）** 児童養護施設における子どもの学習支援は、施設内での学習指導にとどまらず、学校との連携（授業参観・個人懇談・進路相談）も重要です。子どもをサポートするさまざまな機関との連携について事例を通して考えます。	関係する専門機関について調べ、連携することがなぜ必要なのかをまとめる。	1時間
第8回	**社会的養護の実際③（乳児院における療育担当制の意義）** 多くの乳児院では療育担当制を用いています。子どもの愛着形成において保育士にはどのような関りが求められるのかを事例を通して考えます。	乳児院では、どのような子どもたちが生活しているのかを調べ、療育担当制の意義についてまとめる。	1時間
第9回	**社会的養護の実際④（児童心理治療施設における治療的支援）** 児童心理治療施設には心理的な要因により、社会や他者との関りに困難さを抱える子どもたちが入所しているが、その原因にはどのようなものがあるのかを考えながら、治療的支援について理解を深めます。	心理的な要因によってなぜ社会や他者との関わりに困難さを抱えてしまうのかをまとめる。	1時間
第10回	**社会的養護の実際⑤（障害児への支援と保護者支援）** ストレングス視点に立った、障害のある子どもへの支援について考えます。	国際生活機能分類（ＩＣＦ）について調べ、今日における障害の考え方をまとめる。	1時間
第11回	**個別支援計画の作成に求められる知識・技術** 社会的養護における個別支援計画の位置づけを理解し、アセスメントについて学びます。	個別支援計画作成に用いられるアセスメントシートについて調べる。	1時間
第12回	**個別支援計画の作成と記録①（ニーズと課題の整理）** 事例をもとに、5ピクチャーズを用いて子どものストレングス視点に立った個別支援計画の立て方を学びます。	5ピクチャーズを用いて事例の分析を行う。	1時間
第13回	**個別支援計画の作成と記録②（支援目標と支援方法の検討）** 子どもが必要としているニーズとは何かを考え、目標・方法・期間をセットで考えることの重要性を踏まえた個別支援計画の立て方を学びます。	事例を用いて、個別支援計画の作成を行う。	1時間
第14回	**社会的養護とソーシャルワーク** ソーシャルワークは、「支援の対象者」と「その人が置かれている環境」の相互作用に着目します。社会的養護を必要とする子どもを支えていくためには、その背景にある複雑かつ多重的な課題を理解する必要があります。ソーシャルワークの視点・援助技術を社会的養護にどのように援用するのかを考えていきます。	子ども虐待の背景にある、①人的な課題、②生活環境面の課題には、どのようなものがあるか考えまとめる。	1時間
第15回	**社会的養護の課題と展望** 社会的養護においては、家庭的養護を推進し、里親委託を増やしたり、施設養護では小規模化する取り組みが進められている。このことについてのメリット・デメリットを考え、こらからの保育士に求められるものを授業での内容をふり返りながら考えます。	子どもの最善の利益とは何かを考え、施設保育士に求められる役割をまとめる。	1時間

1

授業科目名	**保育相談支援**				
担当教員名	**山本智也**				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	家庭裁判所調査官として心理学、社会福祉学、教育学などの専門的な知識や技法を活用し、家庭内の問題の解決や非行少年の立ち直りに向けた「調査」や「調整」を担当。（全15回）				

授業概要

保育士の行う保護者支援の独自性について体系的に理解することを目的に、保育士の専門性を基盤に据えた保護者支援に必要な知識と技術を涵養する。すなわち、最初に保護者に対する保育相談支援の意義と原則、および保育の特性と保育士の専門性を生かした支援について学び、子どもの最善の利益と福祉を重視した保護者支援の基本を理解する。そして、保護者支援の内容、方法と技術、計画・記録・評価・カンファレンス等、保護者支援の実際について内容や方法を理解する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	今日の保育現場での多様な場面における保護者に対する支援に関する知識と技術を修得する。	他者を援助するための知識・技術を理解することができる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	保育士の行う保護者支援の意義と原則を踏まえた保護者支援の展開過程を理解する。	保護者に対する支援について個々のケースを踏まえた支援の計画、実施、評価をすることができる。
汎用的な力		
1 ．DP5.計画・立案力		保護者支援の計画を考えることを通して、課題解決のための計画を立案していくことができる。
2 ．DP6.行動・実践		保護者支援の具体的実践を理解することを通して、課題解決のための実践に取り組むことができる。
3 ．DP7.完遂		保護者支援の具体的実践を理解することを通して、課題を解決していく実践力を体得できる。
4 ．DP9.役割理解・連携行動		保育士としての専門性を理解することを通して、期待された役割に応じて、的確に行動することができる。
5 ．DP10.忠恕の心		保育士としての専門性を理解することを通して、他者を思いやることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ、放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度・小レポート	：	授業での諸活動への参加状況及び各回授業への小レポートを通して、授業への理解度を評定します。
30%		
小テスト	：	各回授業において、前回授業内容に関する小テストを実施し、理解の定着度を評定します。
35%		
試験	：	以下の観点を評価項目として評定します。 ・保育士の行う保護者支援の意義と原則を理解しているか。 ・保護者支援の展開過程を理解しているか。 ・個々のケースを踏まえた支援を立案できるか。
35%		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

才村純・芝野松次郎・新川泰弘・宮野安治編『子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門』ミネルヴァ書房，2019年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 前期水曜日４講時

場所： 中央館２階個人研究室79

備考・注意事項： 授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス：yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「保育相談支援：質問：〇〇〇〇（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**保育相談支援の意義** 保護者支援の今日的意義を考えていきます。	「全国保育士会倫理綱領」に関する小レポートの作成	1時間
第2回	**保育の特性と保育士の専門性を生かした支援** 保育相談支援の原理について、保育士の専門性と保育相談支援にかかわる技術を中心に考えていきます。	小レポートの作成（事例をもとにした保育士として保護者に関わる上でのポイントについて。具体的内容は授業において指示する）	1時間
第3回	**保育相談支援の基本１　子どもの最善の利益と保護者の養育力向上に資する支援** 子どもの最善の利益の意味とそれを考慮する視点についてとらえた上で、家族の置かれた社会的状況を踏まえた保育相談支援について考えています。	小レポートの作成（現代の子育て家庭が抱えるストレスに対処するための支援・手立てについて）	1時間
第4回	**保育相談支援の基本２　信頼関係を基本とした支援** 対人援助者の基本的姿勢・態度を踏まえた上で、事例を通して、ソーシャルワークの過程について考えていきます。	小レポートの作成（事例をもとにした援助計画の検討。具体的内容は授業において指示する）	1時間
第5回	**保育相談支援の基本３　地域の資源の活用と関係機関との連携** 事例を基にして、子育てを支援する地域のさまざまな資源とその活用について考えていきます。	小レポートの作成（事例をもとにした地域の子育て支援の資源の活用について。具体的内容は授業において指示する）	1時間
第6回	**保育相談支援の実際１　保育に関する保護者に対する指導及び支援の内容** 具体的な事例を通して、保育の特性に基づく保育相談支援について考えた上で、子ども・家庭への支援のあり方を考えていきます。	小レポートの作成（促進サービス、予防サービスについて）	1時間
第7回	**保育相談支援の実際２　保育相談支援の基本技術** 保育支援の基本技術として、傾聴・受容的・共感的理解について考えていきます。	小レポートの作成（共感的理解について）	1時間
第8回	**保育相談支援の実際３　保育相談支援の方法と技術** 保育支援の方法と技術について、受信型・発信型のそれぞれの技術を考えていきます。その中で、自らの援助技術について理解を深めていきます。	小レポートの作成（コミュニケーションに関する自己覚知）	1時間
第9回	**保育相談支援の実際４　ケースアセスメント** 具体的なアセスメント技法について学ぶと共に助言のあり方を中心とした援助技術について理解を深めます。	小レポートの作成（効果的な助言のあり方について）	1時間
第10回	**保育相談支援の実際５　保育相談支援の展開場面と評価** ソーシャルワークの展開過程を踏また保育相談支援の展開について考えていきます。	小レポートの作成（保育場面におけるＤＥＳＣ法について）	1時間
第11回	**保育所における保育相談支援** 保育における様々な場面における子育て支援を中心に保育所における保育相談支援を考えていきます。	小レポートの作成（保育所における保護者への対応において大切にすべきことについて）	1時間
第12回	**特別な対応を要する家庭への支援** 特別な対応を要する家庭への支援の意義を踏まえた上で、虐待など特別な対応を要する家庭への支援を考えていきます。	小レポートの作成（特別な対応を要する家庭への支援について）	1時間
第13回	**保育相談支援過程の具体的な展開** 保育士が行う子育て支援における肯定的な視点を中心に具体的な支援のあり方について考えていきます。	小レポートの作成（保育場面におけるリフレーミングについて）	1時間
第14回	**児童養護施設・障害児施設・母子生活支援施設等で行う家庭に対する支援の実際** 児童養護施設・障害児施設・母子生活支援施設等で行う家庭に対する支援について、様々な事例を通して家庭支援を考えていきます。	小レポートの作成（保育所以外の児童福祉施設における家庭に対する支援について）	1時間
第15回	**授業の総括：保育士が行う保育相談支援の専門性** 保育士として保護者支援の在り方を再確認していきます。	これまでの学習内容の復習及び到達度の自己評価	1時間

授業科目名	**国語科内容論**				
担当教員名	**辻村敬三**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都府立聾学校教諭（6年）、京都府小学校教諭(14年）、京都府教育委員会指導主事（7年）の勤務経験（全15回）				

授業概要

小学校国語科の目標と内容について、学習指導要領解説国語編及び実際に使用されている小学校国語教科書に即して概要を理解する。次に国語に関連する学問分野（国語学・文学理論・コミュニケーション論等）の知見を活用して教科書教材の分析を行い、教材の特性に即した指導上の留意点を理解する。また、小学校現場では実際にどのように指導するのか、児童用教科書を使いながら、話す・聞く、書く、読むなどの具体的な言語活動及び書写に関する事項を指導するために必要な知識・技能をワークショップ等を通じて身に付ける。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	教科に関する教養	文化的素養として文章教材や伝統的な言語文化、国語の特質に関する知識を深めることができる。
2 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	専門知識	国語に関連する学問分野（国語学・文学理論・コミュニケーション論等）の知見を活用して教材分析を行うことができる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		国語科の内容について、自らの視点から、課題と問題解決の方向を考察できる。
2 ．DP5.計画・立案力		国語科の年間の学習の流れを想定し、指導計画を立案することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末テスト	50%	： 国語科教育の体系、内容、指導理論について基本的な内容を理解しているか、60点以上を最低合格点として評価する。
授業内レポート	40%	： 国語科教育の実践事例に対して､批判的にとらえて考察しているかを基準に評価する。
ワークショップ等への参加	10%	： ワークショップ、グループ討議などに主体的に参加し､省察を深めているか、感想シートなどで評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
辻村敬三	国語科内容論・国語科指導法	東洋館出版	2019年
文部科学省	小学校学習指導要領（平成29年3月告示）解説　国語編	東洋館出版	2018年
光村図書	国語四上　かがやき	光村図書	2017年

参考文献等

『小学校　新学習指導要領の展開　国語科編　平成20年版』 新しい国語教育を創造する会　 明治図書出版　2008年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。自学自修のために、小学校、中学校の国語の教科書が役に立ちます。その他、関連する学習参考書など、手元に残っているものがあれば活用できるようにしておくように。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜２限（10:40－12:10）
場所：　辻村研究室(中央館2階)
備考・注意事項：　授業の前後にも質問に応じる。

授業計画

	授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**国語教育の意義と目的及び学習指導要領国語科の全体構造** 言葉の教育である国語教育の全体像をとらえた上で、小学校国語科教育の目的や意義について自分自身の経験を振り返りながら考えます。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の〔知識・技能〕「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第2回	**〔知識及び技能〕の内容　(1)言葉の特徴や使い方に関する事項** 学習指導要領から〔知識・技能〕「言葉の特徴や使い方に関する事項」で指導すべき「指導事項」を抽出して整理します。また、小学校の教科書を使った学習体験を通して、具体的なイメージをつかみます。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の〔知識・技能〕「(2)　情報の扱い方に関する事項」に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第3回	**〔知識及び技能〕の内容　(2)情報の扱い方に関する事項** 学習指導要領から〔知識・技能〕「情報の扱い方に関する事項」で指導すべき「指導事項」を抽出して整理します。また、小学校の教科書を使った学習体験を通して、具体的なイメージをつかみます。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の〔知識・技能〕「(3)我が国の言語文化に関する事項」に関する章を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第4回	**〔知識及び技能〕の内容　(3)我が国の言語文化（書写）に関する事項** 学習指導要領から〔知識・技能〕「伝統的な言語文化に関する事項」で指導すべき「指導事項」を抽出して整理します。また、小学校の教科書を使った学習体験を通して、具体的なイメージをつかみます。	小学校教科書（第4学年）の〔知識・技能〕に関する部分を読み、教材の特色や疑問点などをレポートにまとめる。	4時間
第5回	**〔知識及び技能〕の内容に関する教科書教材の分析と指導上の留意点** 小学校教科書の〔知識・技能〕に関する部分を取り出し、教材内容について分析、検討します。その上で、指導上の留意点や教材の課題を明らかにして改善案を作成します。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「話すこと・聞くこと」の内容に関する章から該当部分を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第6回	**〔思考力，判断力，表現力等〕の内容「話すこと・聞くこと」の事項** 学習指導要領から〔思考力，判断力，表現力等〕の内容「話すこと・聞くこと」に関する事項で指導すべき「指導事項」を抽出して整理します。また、小学校の教科書を使った学習体験を通して、具体的なイメージをつかみます。	小学校教科書（第4学年）の「話すこと・聞くこと」に関する部分を読み、教材の特色や疑問点などをレポートにまとめる。	4時間
第7回	**「話すこと・聞くこと」の教科書教材の分析と指導上の留意点　(1)スピーチ** 小学校教科書の「話すこと・聞くこと」（スピーチ）に関する部分を取り出し、教材内容について分析、検討します。その上で、指導上の留意点や教材の課題を明らかにして改善案を作成します。	小学校教科書（第4学年）の「話し合い」に関する部分を読み、教材の特色や疑問点などをレポートにまとめる。	4時間
第8回	**「話すこと・聞くこと」の教科書教材の分析と指導上の留意点　(2)話し合い** 小学校教科書の「話すこと・聞くこと」（話し合い）に関する部分を取り出し、教材内容について分析、検討します。その上で、指導上の留意点や教材の課題を明らかにして改善案を作成します。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「書くこと・聞くこと」の内容に関する章から該当部分を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第9回	**〔思考力，判断力，表現力等〕の内容「書くこと」の事項** 学習指導要領から〔思考力，判断力，表現力等〕の内容「書くこと」に関する事項で指導すべき「指導事項」を抽出して整理します。また、基礎的な「書くこと」について教科書を使った学習体験を通して、具体的なイメージをつかみます。	小学校教科書（第4学年）の「書くこと」（研究レポート）に関する部分を読み、教材の特色や疑問点などをレポートにまとめる。	4時間
第10回	**「書くこと」の教科書教材の分析と指導上の留意点　(1)　研究レポート** 小学校教科書の「書くこと」（研究レポート）に関する部分を取り出し、教材内容について分析、検討します。その上で、指導上の留意点や教材の課題を明らかにして改善案を作成します。	小学校教科書（第4学年）の「物語創作」に関する部分を読み、教材の特色や疑問点などをレポートにまとめる。	4時間
第11回	**「書くこと」の教科書教材の分析と指導上の留意点　(2)　物語創作** 小学校教科書の「書くこと」（物語創作）に関する部分を取り出し、教材内容について分析、検討します。その上で、指導上の留意点や教材の課題を明らかにして改善案を作成します。	テキスト「国語科内容論・国語科指導法」の「読むこと」の内容に関する章から該当部分を読み、要点をレポートにまとめる。	4時間
第12回	**〔思考力，判断力，表現力等〕の内容「読むこと」の事項** 学習指導要領から〔思考力，判断力，表現力等〕の内容「読むこと」に関する事項で指導すべき「指導事項」を抽出して整理します。また、基礎的な「読むこと」について教科書を使った学習体験を通して、具体的なイメージをつかみます。	小学校教科書（第4学年）の説明的な文章教材に関する部分を読み、教材の特色や疑問点などをレポートにまとめる。	4時間
第13回	**「読むこと」の教科書教材の分析と指導上の留意点　(1)　説明的な文章** 小学校教科書の「読むこと」（説明的な文章）に関する部分を取り出し、教材内容について分析、検討します。その上で、指導上の留意点や教材の課題を明らかにして改善案を作成します。	小学校教科書（第4学年）の文学的な文章教材に関する部分を読み、教材の特色や疑問点などをレポートにまとめる。	4時間
第14回	**「読むこと」の教科書教材の分析と指導上の留意点　(2)　文学的な文章** 小学校教科書の「読むこと」（文学的な文章）に関する部分を取り出し、教材内容について分析、検討します。その上で、指導上の留意点や教材の課題を明らかにして改善案を作成します。	これまでのレポートや資料を整理しポートフォリオを作成する準備をする	4時間
第15回	**総括と質疑応答** これまでのレポートや資料を整理してポートフォリオを作成し、14回の授業で学んだ小学校国語科の内容を整理し、自分なりの視点から課題を探り、ディスカッションを通して思考を深めてレポートの構想をまとめます。	レポートを完成させる	4時間

授業科目名	**社会科内容論**				
担当教員名	**丸野亨**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	1997年4月～2018年3月まで、公立小学校教員2年、国立大学附属小学校教員19年（うち主幹教諭1年、副校長4年）の実務経験がある。				

授業概要

小学校社会科の内容とその構成を理解する。特に、学習指導要領の目標や内容について理解し、小学校社会科の目標である公民的資質を養うために押さえなければならないことや身につけさせなければならないことを知る。さらに、子供が考える社会科の授業をつくるために必要な要件を考えたり、身近な事柄を社会的事象として教材化するための視点に気付いたりすることを通して、を社会科の授業のイメージ化とよりよい社会科の授業を成立するために必要な基礎知識を体験学習する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	学習指導要領に掲載されている内容についての知識	学習指導要領・教科書に掲載されている内容について理解する。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		学習指導要領の内容をもとに、社会生活での課題について把握する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業後の課題	30%	： 子供が考える授業を構築するために必要な授業内容の把握について、独自のルーブリックにより評価します。
授業への参加度	20%	： 学生同士や教員とのやり取りや授業中に記入するシャトルシートを、独自のルーブリックにより評価します。
確認テスト	50%	： 子供が考える社会科にするための、本授業内容に関する理解度を評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 小学校学習指導要領解説「社会編」	・ 東洋館出版社	・ 2018年

参考文献等

文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示）東洋館出版　2017年
文部科学省『小学校学習指導要領』（平成20年3月告示）
授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月・火　お昼休み

場所： 研究室

備考・注意事項： オフィスアワー等についての詳細は、初回の授業時に周知します。
具体的な質問方法については、初回授業時に周知します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業に関するオリエンテーションならびに小学校社会科学習の概観** 子供が考える社会科授業に向けた本授業の内容や流れ、評価など。また、小学校3年から始まる社会科について、自身の経験を思い起こしながら概観する。	学習指導要領解説「社会編」を一読しておく。	4時間
第2回	**学習指導要領の改訂の趣旨について** 学習指導要領改訂の背景理解とともに、全教科・領域で共通して育成を目指す「資質・能力の3つの柱」について社会科で育成する資質・能力とは何かを理解する。	学習指導要領改訂の趣旨を整理する。	4時間
第3回	**社会的な見方・考え方**	知識・技能と思考力・判断力・表現力を促す「見方・考え方」の働きを整理する。	4時間

	改訂学習指導要領で強調されている各教科の見方・考え方について、空間、時間、関係でとらえる社会科の見方・考え方について、具体例を挙げながら理解する。		
第4回	**3年生の学年目標と内容** 地域学習のスタートである3年生の内容について、地域にあるもの・地域に住んでいる人々などとのコミュニケーションの大切さを学ぶ。	３年生の学習内容を整理し理解する。	4時間
第5回	**4年生の学年目標と内容** 防災学習が取り入れられた趣旨を知ると同時に、住民のために公共の諸機関が意図的・計画的に活動に取り組んでいることに重点を置く4年生社会科授業の在り方を理解する。	４年生の学習内容を整理し理解する	4時間
第6回	**5年生の学年目標と内容** 国土の地形・気候・産業・環境について、5年生社会科で取り扱う重点を理解し、つながりと因果関係を見付けられる社会科の在り方を考える。	５年生の学習内容を整理し理解する。	4時間
第7回	**6年生の学年目標と内容** 学習指導要領の改訂に伴う、政治単元・歴史単元・国際単元の配列変更の意図やそれぞれの単元の内容を理解する。	６年生の学習内容を整理し理解する。	4時間
第8回	**社会科授業における諸資料とその活用** 「社会科資料は資料が命」と言われる所以について、体験的に理解する。また、資料の特徴に合わせた資料読解の要点を理解する。	社会科で扱われる諸資料を分類する。	4時間
第9回	**社会科授業におけるICT活用** 先進的な具体的事例とともにICT機器の特徴を理解する。	自身のスマホ利用と照らし合わせながらタブレットを中心としたICT活用のメリット・デメリットを整理する。	4時間
第10回	**アクティブラーニングとしての財政教育** 財務省HPの教材（シミュレーションゲーム）を活用しながら、子供が考える余地のある課題の重要性と、グループで考えることの有効性を考えると同時に、求められる主権者教育の視点に気付く。	歳入・歳出について費目の内容と目的を整理する。	4時間
第11回	**社会科の教科書と副読本の理解** 各自治体で使われている３年生・４年生の副読本について、地域性を考慮した教科書代わりであることを知る。「教科書を教えるのか、教科書で教えるのか」など、教科書・副読本との「付き合い方」を理解する。	副読本の役割を考える。	4時間
第12回	**教材開発と教材研究** 子供の日常生活の中にある事柄を、社会科の学習内容につなげ、教材化する実例にふれたり、そのための視点を獲得したりする。	日常生活の中の教材の「タネ」を見付ける	4時間
第13回	**小学校社会科の評価と指導** 社会科授業に関わる評価について概説するとともに、指導と一体化するための評価の在り方を知る。 評価計画の立案から授業づくりを考える逆向き授業設計について理解する。	評価観点と育成をめざす資質・能力の3つの柱の関係性を考える。	4時間
第14回	**社会科と生活科、総合的な学習の時間との関係について** 生活科をベースにして、社会科と総合的な学習の時間に発展することを知るとともに、共通していること違っていることを理解し、それぞれの教科の特性を知る。	社会科と生活科、総合的な学習の共通点と相違点と整理する。	4時間
第15回	**総括と質疑応答** 子供が考える社会科の在り方について、これまでの授業内容を総括する。	考える余地のある課題について整理する。	4時間

授業科目名	**算数科内容論**				
担当教員名	**橋本隆公**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教員としての実務経験を通した算数科の内容に関する体験知（全15回）				

授業概要

算数科では「算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる」ことをねらいとし、学年および領域別の知識・技能・考え方の習得を通して、算数のよさを感じる子どもの育成をめざしている。本講義では、学習指導要領「算数科」を深く理解し、学年や領域の特性や能力に見合った授業に必要な知識を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：
算数科の授業に必要な知識・技能・考え方を習得する。

目標：
算数科の授業に必要な知識・技能・考え方を習得し、授業で実践できる力を身につける。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見

各学年や領域別の知識・技能・考え方の習得とそれを利用出来る力を育てる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合　　**評価の基準**

課題ワークシート　60%　：学修内容に対するワークシートへの記入が適切になされているか、またワークシートをもとにして授業中に教員からの質問に対して的確に回答できているかを評価する。

授業中に行う期末テスト　40%　：学修内容に対する理解が出来ているかを記述式、選択式などの期末テストによる振り返りで確認する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	小学校学習指導要領解説　算数編	日本文教出版	2018年
橋本隆公	算数科内容論×算数科指導法	東洋館出版	2017年

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月・火・金の昼休み

場所：　橋本研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**小学校算数科教育の現状と算数科学習指導要領の概要** 算数科学習指導要領の概要の解説と小学校算数科教育の現状を照らし合わせた解説を聞き理解する。	小学校算数科教育の現状について調査する。	4時間
第2回	**算数科学習指導要領の各学年と領域の概要** 算数科学習指導要領を各学年ごとの解説と、各領域ごとの解説を通して、算数科内容論の目的・概要・スケジュールを理解する。	算数科学習指導要領の各学年と領域の概要について調べる。	4時間
第3回	**「数と計算」領域の特性と系統** 「数と計算」領域の特性と系統について、具体的な授業実践の場面を通して考える。	「数と計算」領域の特性と系統についてまとめる。	4時間
第4回	**「図形」領域の特性と系統** 「図形」領域の特性と系統について、具体的な授業実践の場面を通して考える。	「図形」領域の特性と系統についてまとめる。	4時間
第5回	**「量と測定」領域の特性と系統**	「量と測定」領域の特性と系統についてまとめる。	4時間

	「量と測定」領域の特性と系統について、具体的な授業実践の場面を通して考える。		
第6回	**「数量関係」領域の特性と系統** 「数量関係」領域の特性と系統について、具体的な授業実践の場面を通して考える。	「数量関係」領域の特性と系統についてまとめる。	4時間
第7回	**算数科学習指導要領の各領域の特性と系統のまとめ** 算数科学習指導要領の各領域の特性と系統について振り返り、算数科の授業づくりに向けての理解を深める。	4領域の内容の相互関連や特徴などについてまとめる。	4時間
第8回	**低学年の児童の発達と学習内容の構成** 低学年の児童の発達と学習内容の構成について、具体的な授業実践の場面を通して考える。	低学年の児童の発達と学習内容についてまとめる。	4時間
第9回	**中学年の児童の発達と学習内容の構成** 中学年の児童の発達と学習内容の構成について、具体的な授業実践の場面を通して考える。	中学年の児童の発達と学習内容についてまとめる。	4時間
第10回	**高学年の児童の発達と学習内容の構成** 高学年の児童の発達と学習内容の構成について、具体的な授業実践の場面を通して考える。	高学年の児童の発達と学習内容についてまとめる。	4時間
第11回	**算数科学習指導要領の各学年の児童の発達と学習内容の構成のまとめ** 算数科学習指導要領の各学年の児童の発達と学習内容の構成について振り返り、算数科の授業づくりに向けての理解を深める。	各学年の児童の発達と学習内容についてまとめる。	4時間
第12回	**「算数的活動の楽しさ」について** 「算数的活動の楽しさ」について、具体的な授業実践の場面を通して考える。	「算数的活動の楽しさ」についてまとめる。	4時間
第13回	**「表現する能力」について** 「表現する能力」について、具体的な授業実践の場面を通して考える。	「表現する能力」についてまとめる。	4時間
第14回	**「数理的な処理のよさに気づく」について** 「数理的な処理のよさに気づく」について、具体的な授業実践の場面を通して考える。	「数理的な処理のよさに気づく」についてまとめる。	4時間
第15回	**総括と質疑応答** 算数科内容論全体を振り返り、算数科の授業づくりに向けての理解をより深める。（期末試験）	算数科内容の全体を振り返り相互関連や目標との関連などについてまとめる。	4時間

授業科目名	**理科内容論**				
担当教員名	**福岡亮治**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都市立小学校教諭として授業を実施（６年間：１年平均授業数：２００日以上×５時間以上の１０００時間以上） 京都市教育委員会で小学校理科教員研修講師（６年間：年間１５回以上）				

授業概要

はじめに、小学校現場で使用されている教科書から小学校理科に関する全単元の内容と学習指導要領に記載されている理科の目標と各学年の目標を把握する。その後，受講生各自が教科・学年・単元を選択し、その単元について各社の教科書を比較分析する。合わせて学習指導要領、同解説、指導書の検討を行い、その単元についてのイメージを明確にする。さらに，小学校の理科実験で事故やけがの多い実験についての演習を行い、事故等を未然に防ぐ実験の方法を把握する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	教科に関する教養	学習指導要領・教科書の分析・考察を通して初等理科の内容について理解を深めることができる。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	学習指導要領・教科書の分析・考察から理科教育の課題を検討できる
2 ．DP7.完遂	学習指導要領・教科書の分析・考察の結果について指定の形式にそってまとめることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	40%	： 授業の内容に関する知識理解を問う記述式の試験で評価
授業への参加度	40%	： 授業中の小テスト等、その他授業中の論理的、積極的な発言などを評価
研究レポート	20%	： 授業内レポート及び時間外レポート、欠席した日の分も評価に入れるので自学自習を行い提出が必要

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 小学校学習指導要領解説　理科編	・ 東洋館出版	・ 2018年

参考文献等

参考書・参考資料等
授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜日３限

場所： 福岡：研究室（中央館３階）

備考・注意事項： 授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。

メールアドレス
福岡亮治：fukuoka@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「理科内容論：質問：〇〇〇〇（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　評価法と講義目的について** 学習指導要領の理科の目標を分析した上で今後の授業の進め方、評価の方法、授業中のルール等の伝達を行い、１５回の授業を通して獲得すべき力の見通しを持つ	学習指導要領理科目標の読み込み	4時間
第2回	**第３学年の目標について・磁石の性質・電気の通り道**	学習指導要領理科目標の分析	4時間

	①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の教科書分析		
第3回	**物と重さ・風やゴムの働き・光の性質** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の教科書分析	学習指導要領理科目標の考察	4時間
第4回	**昆虫と植物・身近な自然の観察・太陽と地面の様子** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の教科書分析	学習指導要領３年目標の読み込み	4時間
第5回	**第４学年の目標について・空気と水の性質** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の教科書分析	学習指導要領３年目標の分析・考察	4時間
第6回	**金属，水，空気と温度・電気の働き　　安全理科実験基礎・基本（１）火気器具の取扱い方法** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の教科書分析	学習指導要領４年目標の読み込み	4時間
第7回	**人の体のつくりと運動・季節と生物・天気の様子・月と星** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の教科書分析	学習指導要領４年目標の分析・考察	4時間
第8回	**第５学年の目標について・振り子の運動・電流の働き** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の教科書分析	学習指導要領５年目標の読み込み	4時間
第9回	**物の溶け方　　安全理科実験基礎・基本（２）　薬品の取扱い方法** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の教科書分析	学習指導要領５年目標の分析・考察	4時間
第10回	**植物の発芽，成長，結実・動物の誕生，流水の働き・天気の変化** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の教科書分析	学習指導要領６年目標の読み込み	4時間
第11回	**第６学年の目標について・燃焼の仕組み** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の教科書分析	学習指導要領６年目標の分析・考察	4時間
第12回	**水溶液の性質・てこの法則性・電気の利用** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の教科書分析	教科書単元の分析・考察（中学年）	4時間
第13回	**植物の養分と水の通り道・生物と環境　　安全理科実験基礎・基本（３）　顕微鏡の使用方法** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の教科書分析	教科書単元の分析・考察（高学年）	4時間
第14回	**人の体のつくりと働き・土地のつくりと変化・月と太陽** ①該当範囲の基礎知識の獲得 ②該当範囲の学習指導要領及び学習指導要領解説の内容の把握 ③該当範囲の教科書分析	学習指導要領及び教科書の全体分析・考察	4時間
第15回	**学習指導要領分析、総括と質疑応答** 学習指導要領の文言を覚えるだけに留まらないように目標・内容区分等を分析し、レポートを作成する	目標・内容区分分析レポートの作成	4時間

授業科目名	**生活科内容論**				
担当教員名	**丸野亨**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	1997年4月～2018年3月まで、公立小学校教員2年、国立大学附属小学校教員19年（うち主幹教諭1年、副校長4年）の実務経験がある。				

授業概要

教科誕生・改訂の経緯とその社会背景について理解する。また、楽しい生活科の授業を行えるように基礎的・基本的な知識と技術を身につけるために、生活科の目標や内容についてしっかり理解するようにする。また、生活科の授業を行える基礎的・基本的な知識と技術を身につけるために、具体的な事例を通して授業づくりのあり方を学ぶ。また、生活科における「遊び」の意味を理解し、楽しい授業が成立するために、気付きの質の高め方や支援のあり方についても事例をもとに考えていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP1.幅広い教養やスキル

具体的内容：楽しい生活科の授業を行うための教養やスキル

目標：授業を楽しくする教養やスキルを身につける。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見

学習指導要領の内容を理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業後の課題	30%	：楽しい授業を構築するために必要な授業内容の把握について、独自のルーブリックにより評価します。
授業への参加度	20%	：教員とのやり取りや授業中に記入するシャトルシートを、独自のルーブリックにより評価します。
確認テスト	50%	：楽しい授業にするための授業内容についての理解度を評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・小学校学習指導要領解説「生活編」	・東洋館出版	・2018年

参考文献等

文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示）東洋館出版　2017年
文部科学省『小学校学習指導要領』（平成20年3月告示）
その他、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：月・火　お昼休み

場所：研究室

備考・注意事項：オフィスアワー等についての詳細は、初回の授業時に周知します。
具体的な質問方法については、初回授業時に周知します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**本授業に関するオリエンテーションと生活科の概観** 15回分の授業の目的・流れ・評価方法等を説明する。また、小学校1・2年で行う生活科について、学生自身の経験を思い起こしながら教科の特徴を概観する。	学習指導要領解説【生活編】を一読する。	4時間
第2回	**学習指導要領の概要（創設の経緯、改訂の趣旨など）** 生活科のできた背景について、教育界の流れ、子どもの発達の段階などを踏まえ説明する。	生活科ができた背景を整理する。	4時間
第3回	**学校と生活** 幼稚園・保育園から大きく変わる小学校生活について調べ、自分たちの学校生活を支えるためにいろいろな施設があることや多くの人に支えられていることを学ぶ。	スタートカリキュラムについて理解する。	4時間
第4回	**家庭と生活**	家庭との協力を得るためにはどうすればいいか考える。	4時間

	家庭における自分の変化に気付き、家族の役割や自分の役割などを理解する。		
第5回	**地域と生活** 校区には自分が気付いていないところで、いろいろな人に支えられていることに気付く。	地域にはどんな行事があるか整理する。	4時間
第6回	**公共物や公共施設の利用** 自分の身の回りにはいろいろな公共物や公共施設があることや、多くの人たちが利用していることを知り、自分たちが利用するときに気をつけることなどに気付く。	実際に公共物をあるいは公共施設を利用する。	4時間
第7回	**季節と生活** 日本には四季があることを知り、人々はその季節に応じた生活をしていることや、その季節を感じるためには諸感覚を働かせたフィールドワークが有効であること知る。	季節の行事などをまとめる。	4時間
第8回	**自然や物を使った遊び** 季節のものや生活で不用になったものを利用して、遊び道具をつくったりすること。さらに、友だちといっしょに遊ぶことの大切さなどを知る。	見本となる遊び道具を作る。	4時間
第9回	**飼育と栽培** 実がなり後で食することができるものを栽培したり、昆虫などの小さな生き物からうさぎや鶏などの小動物の飼育を通して、世話をすることによって成長することや命の大切さを学ぶ。	具体的に何を飼育・栽培すればいいか検討する。	4時間
第10回	**人とのかかわり（生活や出来事の交流）** 子どもたちも地域の一員として、いろいろな行事に参加したりしながら地域の人たちとのコミュニケーションをとることの大切さを学び、その方法として自分たちの生活やいろいろな出来事を伝え合うことが最もいいことを知る。	より効率的な発表方法を考える。	4時間
第11回	**自分の成長** 生まれてから今までの成長のあとを振り返り、多くの人たちに支えられて大きくなったことを知る。	自分の成長を記録する。	4時間
第12回	**生活科の評価と支援** 生活科の評価は、それぞれの子どもたちの成長をしっかり見ることからスタートしていることを知り、その方法としてポートフォリオ評価がよく使われることを学ぶ。授業中などの支援で大切なことは子どもに寄り添うことがいちばんであることを学ぶ。	評価規準や評価方法などを整理する。	4時間
第13回	**生活科における気付きと遊びについて** 気付きは生活科特有の評価項目であり、他教科の理解に当たるものであるが、具体的な活動を通して行う部分が違うことを学ぶ。生活の誕生で今まで学ぶことと正反対であった遊びが学習の一貫として認められたことを知る。	気付きを高める方法を考える	4時間
第14回	**事例研究　生活科の授業（時期が合えば、研究発表会で授業参観、参観後の討議会）** 実際の生活科の授業を見ることにより、先生の支援のあり方や授業の進め方などを学ぶ。	支援のあり方を整理する。	4時間
第15回	**総括と質疑応答** 指導法Ⅰにつなげるために、教科書を見ながら自分で授業をしてみたい単元などについて	実際に指導してみたい選び、指導内容を考える。	4時間

授業科目名	**音楽科内容論**				
担当教員名	**大澤弘之**				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、音楽の基礎的な理論である楽典およびその応用である和音、コードネーム、和声進行などを学び、歌唱による読譜練習、教育楽器（リコーダー、鍵盤ハーモニカ、木琴や電子楽器）や箏の独奏練習やアンサンブル実習などを通して、音楽の構成要素や仕組みを理解する。また小学校音楽科共通歌唱教材（全24曲）や教科書等に掲載されている歌唱作品をピアノを用いて弾き歌いすることを通して、小学校音楽教科内容を理解しその指導能力を身につけることを目標にしています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	音楽基礎理論と和音の理解	音名、音程、和音を理解する。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	小学校歌唱教材の理解	音楽理論の知識に結びつけて、小学校歌唱教材を理解する。

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践	理解した専門知識や技能を、音楽科指導に活用する力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
楽典テスト	20%	： 楽典と和音の内容理解
リコーダー実技テスト	20%	： リコーダーの正しい奏法の理解と実演
読譜テスト	20%	： 音程・リズムの理解を評価します。
小学校歌唱共通教材の弾き歌い	20%	： 歌詞と音楽の要素を理解した表現
音楽科の内容に関する筆記試験	20%	： 音楽科の内容に関する理解を評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
笹野恵理子	はじめて学ぶ教科教育　初等音楽科教育	ミネルヴァ書房	2018年

参考文献等

『小学校学習指導要領解説-音楽編』（文部科学省2018年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜、水曜の午後

場所：　大澤研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、音楽の構成要素の理解①～音部記号、階名と音名** 授業のスケジュールと進め方、成績評価の説明など 楽典①　音部記号、階名と音名を理解する。 小学校１年生歌唱教材の歌詞理解と歌唱練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。	授業についてプリントにまとめる（キーワード：階名、音名、歌唱教材）	4時間
第2回	**音楽の構成要素の理解②～全音と半音、長２度と短２度音程** 楽典②　全音と半音、長２度と短２度音程を理解する。 読譜練習　長・短２度音程 小学校１年生歌唱教材の歌詞理解と歌唱練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。	授業についてプリントにまとめる（キーワード：全音と半音,長・短２度音程）	4時間
第3回	**音楽の構成要素の理解③～長３度と短３度音程**	授業についてプリントにまとめる（キーワード：長・短3度音程）	4時間

	楽典③　長３度と短３度音程 読譜練習　長・短３度音程 小学校２年生歌唱教材の歌詞理解と歌唱練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。		
第4回	**音楽の構成要素の理解④～長２度と短２度音程、長３度と短３度音程** 楽典④　長２度と短２度音程、長３度と短３度音程 読譜練習　長・短３度音程 小学校２年生歌唱教材の歌詞理解と歌唱練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。 文部省唱歌について知る。	授業についてプリントにまとめる（キーワード：長・短２度音程と長・短３度音程）	4時間
第5回	**音楽の構成要素の理解⑤～階名、音名、長短２・３度音程のまとめ** 楽典⑤　楽典小テスト①（階名、音名、長短２・３度音程） 読譜練習　長・短３度音程 小学校３年生歌唱教材の歌詞理解と歌唱練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。 文部省唱歌の歴史について知る。	授業についてプリントにまとめる（キーワード：文部省唱歌）	4時間
第6回	**音楽の構成要素の理解⑥～三和音の基本形と展開形と長・短２・３度音程読譜のまとめ** 楽典⑥三和音の基本形と展開形 読譜実技小テスト　長・短２・３度音程 小学校３年生歌唱教材の歌詞理解と歌唱練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。 リコーダー①　タンギングを理解し実演する。	授業についてプリントにまとめる（キーワード：和音、リコーダー、タンギング）	4時間
第7回	**音楽の構成要素の理解⑦～長・短・増・減三和音** 楽典⑦長・短・増・減三和音 読譜練習　完全・増４度音程 小学校４年生歌唱教材の歌詞理解と歌唱練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。 リコーダー②　左手の運指を理解し実演する。	授業についてプリントにまとめる（キーワード：完全・増４度音程、三和音）	4時間
第8回	**音楽の構成要素の理解⑧～三和音のまとめ** 楽典⑧　楽典小テスト②（三和音） 読譜練習　完全・増４度音程 小学校４年生歌唱教材の歌詞理解と歌唱・弾き歌い練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。 リコーダー③　右手の運指を理解し実演する。	授業についてプリントにまとめる（キーワード：リコーダーの運指）	4時間
第9回	**音楽の構成要素の理解⑨～三和音のコードネーム** 楽典⑨　三和音のコードネーム① 読譜練習　完全・減５度音程 小学校５年生歌唱教材の歌詞理解と歌唱・弾き歌い練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。 リコーダー④　倍音を理解しその運指を実演する。	授業についてプリントにまとめる（キーワード：倍音）	4時間
第10回	**音楽の構成要素の理解⑩～三和音のコードネームと完全・増４度、完全・減５度音程読譜のまとめ** 楽典⑩　三和音のコードネーム② 読譜実技小テスト　完全・増４度、完全・減５度音程 小学校５年生歌唱教材の歌詞理解と歌唱・弾き歌い練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。 リコーダー⑤　派生音を理解しその運指を実演する。	授業についてプリントにまとめる（キーワード：派生音）	4時間
第11回	**音楽の構成要素の理解⑪～三和音のコードネームのまとめ** 楽典⑪　楽典小テスト③三和音のコードネーム 読譜練習　６度音程 小学校６年生歌唱教材の歌詞理解と歌唱・弾き歌い練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。 リコーダー⑥　小学校音楽科教科書などに掲載されている作品を理解し実演する。	授業についてプリントにまとめる（キーワード：６度音程）	4時間
第12回	**音楽の構成要素の理解⑫～長調と短調、旋律短音階の理解** 楽典⑫　長調と短調、旋律短音階の理解 読譜練習　旋律短音階 小学校６年生歌唱教材の歌詞理解と歌唱練習を行うとともに音楽の仕組みを理解する。 リコーダー⑦　リコーダーによる合奏教材を理解し実演する。	授業についてプリントにまとめる（キーワード：旋律短音階、合奏）	4時間
第13回	**音楽の構成要素の理解⑬～移動ドの理解とト長調移動ド唱法** 楽典⑬　移動ドの理解 読譜練習　ト長調移動ド唱法 小学校歌唱教材弾き歌い実習 リコーダー⑧　リコーダーによる合奏教材を理解し実演する。	授業についてプリントにまとめる（キーワード：移動ド、合奏）	4時間
第14回	**音楽の構成要素の理解⑭～移動ドの理解とヘ長調移動ド唱法** 楽典⑭　移動ドの理解 読譜練習　ヘ長調移動ド唱法 小学校歌唱教材・弾き歌い実習 リコーダー⑨　リコーダーによる合奏実習および小テスト	授業についてプリントにまとめる（キーワード：移動ド、合奏）	4時間
第15回	**まとめと質疑応答** 楽典⑮　小テスト移動ド 読譜実習小テスト　ト・ヘ長調移動ド唱法 小学校歌唱教材の弾き歌い実習および小テスト ト	授業についてプリントにまとめる（キーワード：弾き歌い）	4時間

授業科目名	**図画工作科内容論**				
担当教員名	**藤丸一郎**				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	国公立小学校勤務25年（教諭8、教頭2、副校長4、校長11）　公立中学校勤務10年（美術科教諭10）その間、図画工作科及び美術科の教科内容と指導法の実践研究を行った。　15回全てを担当する。				

授業概要

本授業は、小学校学習指導要領に示された図画工作科の「目標と学年別の内容」「指導計画の作成と内容の取扱い」について具体例をあげながら解説し、その背景となる幼児の「造形表現の発達」や「図画工作教育の変遷」を知ることを通して指導の前提となる教科内容の深い理解を目指す。加えて後半には、今日求められる「社会との連携・協働」や「幼小中の連携」について、授業につながる「指導と評価」「アクティブラーニングの視点からの学習過程」などについて、を知ることで、教科指導に資する図画工作科の本質理解を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	図画工作科の教科内容と取扱いに関する知識	新学習指導要領における図画工作科の目標や内容と今日求められる課題について理解できる。

汎用的な力

1 ．DP8.意思疎通	他人の意見によく耳を傾け、自分の意図や意見を伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	60%	： 学習内容の理解について正答率で評価します。
課題とレポート	30%	： 内容の妥当性と構成について独自のルーブリックに基づいて評価します。
討議・質問への参加	10%	： 論理的で積極的な発言・姿勢などを独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 小学校学習指導要領解説　図画工作編	・ 日本文教出版	・ 2018年

参考文献等

『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』等、授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜３限
場所：　研究室（中央館２階）
備考・注意事項：　授業・会議・研究日等の時間を除いて、できるだけ対応をします。昼休みなどを利用して相談時間の調整に来てください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講義目的と評価基準及び学修プランについてオリエンテーション** 学習指導要領(図画工作科)の内容理解と授業の関係から、その必要性を知り、学修プランについて理解します。授業の約束、姿勢、評価基準等について確認します。	学習指導要領を通読し、疑問点を見つだす。	4時間
第2回	**図画工作科の目標と内容構成** 学習指導要領における図画工作科の目標について、その意味を理解し、目標達成に向けた内容理解に向けて構成について学びます。	目標を設定した背景を整理する。	4時間
第3回	**各学年別「絵や立体、工作に表す活動」の内容** 「絵や立体」と「工作」に表す活動の違い、学年による内容の変化について、具体例とともに考えます。また、方式の絵等の絵の指導法について交流し、是非を整理することから目指す指導について考えます。	「A表現」のイの事項について低中高の内容を比較して整理する。	4時間
第4回	**各学年別「造形遊びをする活動」の内容**	表現のアの事項について、低中高学年の内容比較して整理する。	4時間

	「造形遊び」の誤解や現状をふまえ、内容･方法を具体例とともに確認整理します。 本学の「造形遊び」の授業における演習と関連させ、具体的に整理します。		
第5回	**各学年別「鑑賞する活動」の内容** 「鑑賞する活動」の現状・目的・指導方法を学び、表現と一体化した鑑賞のあり方を考えます。 また、ＩＣＴ機器の積極的な活用の可能性について交流・整理します。	表現と鑑賞の関係や鑑賞する活動の低中高の違いを整理する。	4時間
第6回	**子どもの造形表現の特徴（幼児期～小学校）** 子どもの成長・発達と造形表現の変化や特徴を作品や活動の実例を通して学び、連続的な学びの必要性と課題について考えます。	子どもの成長と絵の変化について調べ、まとめる。	4時間
第7回	**図画工作教育の変遷（１）　黎明期～戦後** 図画工作(美術)教育の黎明期と現在を比較しながら、目標・方法の変化とその理由について学びます。	黎明期と現行の図画工作の違いについて調べる。	4時間
第8回	**図画工作教育の変遷（２）　戦後～現代** 民間美術教育運動や視覚テクノロジーの発達を踏まえ、学習指導要領の変遷を通して美術教育の流れを学び、現行を生かす授業のイメージを交流します。	図画工作科で扱う材料や用具について経験を振返りながら整理する。	4時間
第9回	**内容の取扱いについて** 内容の取扱いに示された配慮事項について、材料・用具の具体的な取扱いや安全について、具体例を挙げて整理し含めて確認し、理解を深めます。	図画工作科におけるICT活用法を考える。	4時間
第10回	**図画工作科と言語活動** 形・色・イメージが中心になる教科における有効な言語活動のあり方（価値や方法）について考えます。	授業における活用法を検討する	4時間
第11回	**幼小中のつながりから見た図画工作教育** 子どもの発達、校園種の違いを知り、幼小連携の必要性及び現状と課題について考えます。	造形美術教育における幼小の連携について意見をまとめる。	4時間
第12回	**図画工作科授業における指導と評価のあり方** 指導と評価の関係と意義について知り、今日的な評価や支援の具体的な方法について学びます。	評価の為のツールについて調べ、考える。	4時間
第13回	**指導計画と学習指導案の作成について** 領域や内容、育みたい資質や能力を意識した学習指導のあり方と基本的な指導案の作成について学びます。	様々な学習指導案を集め、比較する。	4時間
第14回	**図画工作教育の現状と課題** 自らの経験を振り返りながら、現状と課題を明らかにし、課題解決に向けてすべきことについて考えます。とりわけ高学年から中学校にかけての苦手意識の急増への対応について交流検討します。	学習指導要領における図画工作科の変遷をまとめる。	4時間
第15回	**総括と質疑応答** 本授業に参加して学んだ図画工作科の内容と学校現場の現状をふまえて、自らができる課題解決の方法や大切にしたい事項について交流する。 図画工作の授業を行うにあたっての不安等について応答します。	図画工作科の指導で大切にしたいことをまとめる。	4時間

授業科目名	**家庭科内容論**				
担当教員名	**古田豊子**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪市の小学校で校長を経験し、家庭科の研究に取り組んだ。全国小学校家庭科教育研究会全国大会大阪市大会を開催し、大会実行委員長および会場校校長として全学級公開を行う。近畿小学校家庭科教育研究会会長・大阪市家庭部部長を務める。				

授業概要

家庭科領域における、家庭経営・家庭経済、家族関係、衣食住生活、地域・社会とのかかわり、消費者・生活者としての主体形成などのテーマ別に、事例の紹介、または実習機会を設けながら、理論的・実証的に把握・検討する。また、衣食住、環境等に関する実践的、体験的な活動を通して日常生活に必要な知識技能を理解する。そして、調理実習、小物づくり（手縫い、ミシン縫い）、模擬授業等を通して基礎的、基本的な知識技能を身につける。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	家庭科の内容を科学的に理解し、知識や技能を身に付ける。	家庭科の内容を理解し、自分の興味ある課題を設定できる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	基礎的な技能を習得し、具体的な場面で活用できる力を養う。	習得した知識を実践につなぐことができるようになる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		日常生活に目を向け、四季折々の衣食住に関する人々の暮らしを観察し、課題をつかむ。
2 ．DP6.行動・実践		課題を自分自身のものとして捉え、よりよい者へと改善しようとする実践的態度。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加態度	10%	： 建設的、意欲的な発表や討議への積極的な発言参加度を評価する。
定期試験	50%	： 家庭科の内容を科学的に理解し、習得した知識を生活に生かす力を定期試験として評価する。
提出物（レポート・製作）	20%	： 製作作品、レポートを評価する。
小テスト	20%	： 15回の授業期間中に行う小テストにて習熟度を確認し評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
古田豊子	・ 暮らしの中から始める　持続可能な社会の実現	・ 開隆堂	・ 2016年
文科省	・ 小学校家庭科教科書	・ 開隆堂	・ 2017年
文科省	・ 小学校学習指導要領解説　家庭	・ 東洋館出版	・ 2018年

参考文献等

適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室
備考・注意事項： 連絡先：ftyk2015@gmail.com

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 家庭科領域において理解すべき内容について概括します。	日常生活の中に、家庭科の課題があることを発見する。	4時間

第2回	**学習指導要領について理解する。** 学習指導要領改訂の基本的な考え方を理解し、小学校家庭科の教育的役割や学習内容について学びます。	学習指導要領解説「家庭」の内容を読む。	4時間
第3回	**家庭生活について考える。** 家庭生活と仕事といったことから、現代の家庭生活について学びます。	普段は気にかけていないような家庭の仕事を見つける。	4時間
第4回	**家族について考える。** 家族や近隣の人々とのかかわりといったことから、現代の家族について学びます。	家族・近隣社会について調べる。	4時間
第5回	**食について考察する。** 食事の役割 栄養を考えた食事といったことから、現代の食生活について学びます。	食事の役割について、自分の考えをまとめる。	4時間
第6回	**快適な衣服と住まいについて考える。** 衣服の着用と手入れや快適な住まい方といったことから、衣生活、住生活について学びます。	季節による衣生活を振り返る。	4時間
第7回	**消費者教育について考える。** 消費者教育の意義について学ぶます。	消費者としての生活について考える。	4時間
第8回	**第2回から第7回までの講義内容について確認テスト** これまでの学びを踏まえ、家庭生活の課題について考えを深めます。	家庭生活を科学的にとらえ、課題を整理する。	4時間
第9回	**持続可能な社会と家庭科について考える** 持続可能な社会の実現のために家庭科の果たす役割について学びます。	持続可能な社会について調べる。	4時間
第10回	**環境に優しい生活を考える。** 家庭生活における具体的な工夫・配慮から環境に優しい生活について学びます。	エコについて、まとめる。	4時間
第11回	**伝統食について考える。** 郷土食、行事食といったことから、日本の伝統的な食について学びます。	郷土食について調べる。	4時間
第12回	**昔からの知恵** 衣生活、食生活、住生活においての昔からの知恵について学びます。	昔から伝わる知恵について調べる。	4時間
第13回	**家庭科と他教科との関連について理解する。** 総合学習、社会科との関連を中心に、家庭科との関連について学びます。	他教科との関連について関心を持って調べる。	4時間
第14回	**学んだことを整理する。** これまでに学んだことを踏まえ、家庭科の内容を整理して学びます。	家庭科内容論のまとめをする。	4時間
第15回	**担当教員から出されたテーマについて、グループ討議を行い発表する** グループ討議を通して、これまでの学びを明確にします。	自分のまとめの発表原稿を作成する。	4時間

授業科目名	**体育科内容論**				
担当教員名	**安部恵子**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

小学校体育科教育は、「自らが運動する意欲を培い、生涯にわたって積極的に運動に親しむ姿勢や能力を育成するとともに基礎的な体力を高めること」を柱に運動体験を通して達成感、粘り強さ、社会性を身につけることが目的とされている。本授業では、「小学校学習指導要領解説　体育編」の内容理解と、①学年別にみた運動発達特性と種目特性および各種目の「こつ」について②運動が幼児、児童期の身体に及ぼす影響について、③体力向上の目的と測定方法、評価法および得られたデータの活用法について、科学的根拠の基遂行できる。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	小学校学習指導要領を理解できる	指導要領の改訂について深く理解する
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	各種目ごとに指導内容とその評価について理解する	指導要領の改訂について深く理解する
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		小学校体育授業おいて、現代の課題を抽出し解決策を提案できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験 50%	：	設問について学んだ専門知識を基に記述がなされているか。
課題レポート 40%	：	①出されたテーマに沿って丁寧に記述されている　②参考文献を活用しているか　以上の観点から学園共通ルーブリックをもとに評価する。
授業の取り組み状況 10%	：	①質疑応答に積極的に参与しているか　②グループ発表の準備等積極的に取り組んでいるか。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	小学校学習指導要領　体育編	東洋館出版	2018年

参考文献等

『スポーツ指導者のためのスポーツと法』　三村寛一・安部恵子他　　嵯峨野書院　2011

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　毎週月曜日の２限

場所：　中央館２階安部研究室

備考・注意事項：　それ以外の時間帯を希望の場合は、要相談。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の進め方と評価についてオリエンテーション　　発育発達（１）　幼児、児童の形態と体組成および測定方法** 幼児児童の発育発達特性・形態・体組成およびその測定方法（直説法・間接法）について解説する。また、保育教育現場での実践的な測定方法・活用法と注意点について解説する	体組成について予習する	4時間
第2回	**発育発達（２）　幼児、児童の体力・運動能力と測定方法** 幼児児童の体力・運動能力およびその測定方法について解説する。また、保育教育現場での実践的な測定方法・活用法と注意点について解説する	幼児児童の発育発達について予習する	4時間
第3回	**発育発達（３）　幼児、児童の神経・循環器系・骨の特性** 幼児児童の神経・循環器系・骨の特性について解説する。また、保育教育現場での運動遊びの意義について解説する	幼児児童の骨について予習する	4時間
第4回	**幼児、児童の身体活動量とエネルギー供給機構** 幼児児童の身体活動量とエネルギー供給機構について解説する。また、保育教育現場での身体活動量確の意義と課題について解説する	身体活動量について予習する	4時間

第5回	**体育科教育の理解（１）　運動領域の改定とその背景について科学的根拠を基にして解説する** 体育科指導要領改訂の読み解きと課題を科学的根拠を基に理解しその要因についてデイスカッションする	運動領域について予習する	4時間
第6回	**体育科教育の理解（２）　教科体育の役割と目標と指導計画の立て方と注意点について** 本講義までの講義内容を総括し系統立てた種目別指導案について議論し提案する	体育授業の意義について予習する	4時間
第7回	**学年別にみた種目の特性と動きの分析および目標と評価の理解（１）跳び箱・マット運動・鉄棒** 本講義までの講義内容を総括し系統立てた跳び箱・マット運動・鉄棒の指導案について議論し提案する	器械運動の内容と評価について予習する	4時間
第8回	**学年別にみた種目の特性と動きの分析および目標と評価の理解（２）走り幅跳び・短距離走** 本講義までの講義内容を総括し系統立てた走り幅跳び・短距離走の指導案について議論し提案する	跳躍種目の内容と評価について予習する	4時間
第9回	**学年別にみた種目の特性と動きの分析および目標と評価の理解（３）ハードル走** 本講義までの講義内容を総括し系統立てたハードル走の指導案について議論し提案する	ハードル走の内容と評価について予習する	4時間
第10回	**学年別にみた種目の特性と動きの分析および目標と評価の理解（４）球技** 本講義までの講義内容を総括し系統立てた球技の指導案について議論し提案する	球技種目の内容と評価について予習する	4時間
第11回	**学年別にみた種目の特性と動きの分析および目標と評価の理解（５）体つくり運動・表現ダンス** 本講義までの講義内容を総括し系統立てた体つくり運動・表現ダンスの指導案について議論し提案する	体つくり運動・ダンスについて予習する	4時間
第12回	**学年別にみた種目の特性と動きの分析および目標と評価の理解（６）水泳** 本講義までの講義内容を総括し系統立てた水泳の指導案について議論し提案する	水泳の名用途評価について予習する	4時間
第13回	**施設用具の活用法と体育授業におけるリスク管理** 体育科指導中の怪我の種類と要因および対応について解説する	怪我の要因について予習する	4時間
第14回	**指導案作成の目的と方法** 具体的な事例をあげ、要因と予防策の提案を行いまとめる	怪我の予防について予習する	4時間
第15回	**総括と質疑応答** 体育科教育および子どもの健康課題について質疑尾応答を行う	質疑応答内容をまとめレポートを提出する	4時間

授業科目名	**体育実技Ⅰ**				
担当教員名	**熊野陽人**				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

自身の能力に応じた身体運動の実践方法を理解し、幼稚園・小学校の体育実技における各種目を学習するとともに、仲間との協力や体を動かすことの楽しさと達成感を体験することを目的とする。また本授業では、短距離・リレー・ハードル・幅跳び・屋外で実践可能な球技の技能習得を目指し、各種目の「こつ」を自らが体験して理解することや、関連器具・備品の安全な取り扱いと配置および効率的な導線について学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	自分の体を意識してコントロールできる	体を動かすことの楽しさを体験学習する
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	幼稚園・小学校の体育実技における屋外種目の技能を習得できる	各種目の「こつ」を理解し実践できる

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践	他者と協力して授業を遂行できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
技の習得状況 40%	：①各種目の技能習得状況、②自身のつまづきを理解して練習を行っているか
期末レポート 20%	：①指示した型式と提出期限を守っているか、②参考文献等を活用して丁寧に作成されているか
授業の取り組み状況 40%	：①自分の体調を管理し万全の状態で受講しているか、②当初に連絡しているルールを遵守しているか、③授業中に指導内容を理解し技の習得に積極的に取り組んでいるか

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜資料を配付する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日　昼休み

場所： 研究室

備考・注意事項： オフィスアワー等についての詳細は、初回の授業時に周知します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の進め方と評価および授業遂行にあたってのルールについてオリエンテーション** 授業の進め方と評価および授業遂行にあたってのルールを正しく理解する。	体育実技における安全管理について理解する	1時間
第2回	**体力・運動能力測定** 体力・運動能力測定の正しい測定方法を理解し、実践する。	体力・運動能力測定方法について理解する	1時間
第3回	**短距離走の特性およびタイム測定法** 短距離走の特性、実施環境の整備法、タイム測定法（スターター・記録員の役割、ストップウォッチの使用方法）を理解し、実践する。	短距離走の特性について理解する	1時間
第4回	**短距離走のスタート方法** クラウチングスタートとスタンディングスタートの特性を理解し、実践する。	短距離走のスタート方法について理解する	1時間
第5回	**50m走のタイム測定** 第2回目授業時の50m走タイム測定結果と比較し、変化した点や練習方法を考察する。	タイム測定方法を理解する	1時間
第6回	**リレー（バトンパスとバトンゾーンの活用）** 個々の疾走能力を考慮した走順配置、バトンゾーンの活用方法を理解し、実践する。	リレーのルールについて理解する	1時間
第7回	**ハードル走（１）ハードル1台目のアプローチ** ハードル走における1台目のアプローチ、踏切を理解し、実践する。	ハードル走の特性について理解する	1時間

第8回	**ハードル走（２）ディップおよび抜き脚** ハードル走における踏切、ディップおよび抜き脚を理解し、実践する。	踏切、ディップおよび抜き脚について理解する	1時間
第9回	**ハードル走（３）50mハードル走のタイム測定** ハードル走（50m・5台）の特性、測定方法を理解し、実践する。	ハードル走のタイム測定方法について理解する	1時間
第10回	**走り幅跳び（１）助走と踏切** 走り幅跳びの特性、助走と踏切動作について正しく理解し、実践する。	走り幅跳びの特性について理解する	1時間
第11回	**走り幅跳び（２）空中と着地** 走り幅跳びの空中動作、着地動作について正しく理解し、実践する。	空中動作と着地動作について理解する	1時間
第12回	**走り幅跳び（３）記録測定** 走り幅跳びの記録測定方法について正しく理解し、実践する。	記録測定方法について理解する	1時間
第13回	**サッカー（１）パス・ドリブル・シュート** サッカーのパス、ドリブル、シュートを理解し、実践する。	サッカーの特性について理解する	1時間
第14回	**サッカー（２）ミニゲーム** パス、ドリブル、シュートを理解し、ミニゲームにおいて実践する。	サッカーの戦術について理解する	1時間
第15回	**これまで実践した内容の総括** 陸上競技（短距離、リレー、跳躍、ハードル走）、ゴール型（サッカー）を振り返り、実践的な指導法を理解する。	技の修得のつまづきを明確にしたい策案を提案する	1時間

授業科目名	**体育実技Ⅱ**				
担当教員名	**熊野陽人**				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

自身の能力に応じた身体運動の実践方法を理解し、幼稚園・小学校の体育実技における各種目を学習するとともに、仲間との協力や体を動かすことの楽しさと達成感を体験することを目的とする。また本授業では、マット運動・跳び箱運動・鉄棒運動・屋内で実践可能な球技の技能習得を目指し、体力要素別にみた体つくり運動・表現ダンスを実践する。また、各種目の「こつ」を自らが体験して理解することや、関連器具・備品の安全な取り扱いと配置および効率的な導線について学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	自分の体を意識してコントロールできる	体を動かすことの楽しさを体験学習する
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	幼稚園・小学校の体育実技における屋内種目の技能を習得できる	各種目の「こつ」を理解し実践できる
汎用的な力		
1 ．DP6.行動・実践		他者と協力して授業を遂行できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
技の修得状況	40%	：①各種目の技能習得状況、②自分のつまづきを理解して練習を行っているか
期末レポート	20%	：①指示した型式と期限を守っているか、②参考文献等を活用して丁寧に作成されているか
授業の取り組み状況	40%	：①自分の体調を管理し万全の状態で受講しているか、②当初に連絡しているルールを遵守しているか、③授業中に指導内容を理解し技の習得に積極的に取り組んでいるか

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜資料を配付する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日　昼休み

場所： 研究室

備考・注意事項： オフィスアワー等についての詳細は、初回の授業時に周知します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の進め方と評価および授業遂行にあたってのルールについてオリエンテーション** 授業の進め方と評価および授業遂行にあたってのルールと、怪我予防のための注意事項を理解する。	体育授業中におこりやすい怪我について理解する	1時間
第2回	**マット運動（１）回転系と側転系** マット運動における回転系の技（前転、後転、開脚前転、開脚後転、伸膝前転、伸膝後転）、側転系（側方倒立回転）について（補助法含む）理解し、実践する。	マット運動の特性について理解する	1時間
第3回	**マット運動（２）倒立と倒立前転** 倒立、倒立前転について（補助法含む）理解し、実践する。	マット運動時の補助法について理解する	1時間
第4回	**跳び箱運動** 跳び箱運動（開脚跳びと台上前転）における踏切、着手、空中動作、着地動作、補助法を理解し、実践する。	跳び箱運動の特性について理解する	1時間
第5回	**鉄棒運動** 鉄棒運動（前回り、後ろ回り、片足回り、逆上がり）における動作、補助法を理解し、実践する。	鉄棒運動の特性について理解する	1時間
第6回	**バスケットボール（１）パス・ドリブル・シュート** バスケットボールのパス、ドリブル、シュートを理解し、実践する。	バスケットボールの特性について理解する	1時間
第7回	**バスケットボール（２）ミニゲーム**	バスケットボールの戦術について理解する	1時間

	パス、ドリブル、シュートを理解し、ミニゲームにおいて実践する。		
第8回	**バレーボール（１）パス・サーブ** バレーボールのパス・サーブ（オーバーハンド・アンダーハンド）を理解し、実践する。	バレーボールの特性について理解する	1時間
第9回	**バレーボール（２）６人制ゲーム** パス・サーブ（オーバーハンド・アンダーハンド）を理解し、ミニゲームにおいて実践する。	バレーボールの戦術について理解する	1時間
第10回	**体つくり運動（１）巧緻性** 体つくり運動領域における巧緻性を高める様々な運動を理解し、実践する。	体つくり運動の特性について理解する	1時間
第11回	**体つくり運動（２）操作系** 体つくり運動領域における様々な運動を理解し、プログラムを作成して実践する。	体つくり運動のプログラムを作成する	1時間
第12回	**ラジオ体操と集団行動** ラジオ体操や集団行動の特性を正しく理解し、実践する。	ラジオ体操について理解する	1時間
第13回	**表現ダンス（１）グループ編成とテーマ** 軽快なリズムの音楽に乗って全身で表現する。	ダンスの特性について理解する	1時間
第14回	**表現ダンス（２）グループ練習** グループでダンスの創作、練習を行う。	グループで創作ダンスの作成を行う	1時間
第15回	**表現ダンス発表会と総括** グループの持ち味を生かした題材の選択とその表現を行う。	創作ダンスの発表の準備を行う	1時間

授業科目名	**スポーツ基礎科学**				
担当教員名	臼井達矢				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

近年、大きな社会問題となっている子どもの生活習慣病に関する基礎知識とその改善方法（運動、食事、休養）について理解を深める。特に小児肥満やメタボリックシンドローム、運動不足によるロコモティブシンドローム、ストレスが及ぼす発育発達への影響などに関する最近の論文や知見、社会状況を踏まえて学習する。さらにスポーツ医科学（熱中症、過換気症候群、スポーツ貧血、オーバートレーニング、減量）に関する知識の理解と習得から、自己の健康管理や生活習慣改善に関する基礎知識を修得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	スポーツ医科学に関する基礎知識	健康とスポーツ、運動と生活習慣病に対する理解とその予防方法を学び、実践することができる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		自己のライフスタイルを見つめ直し、生活習慣病予防のための方法を理解し、説明できる。
2 ．DP6.行動・実践		生活習慣病の予防方法を理解し、正しい健康管理を実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	45%	： 授業内容を踏まえてワークシートを完成できていれば2点とし、さらに自己の考えや具体的事例などを示していれば3点、誤りや内容不足の場合は0点または1点とする。これを全15回実施する。
振り返りシート	15%	： 振り返りシートを記入し、自己の考えや具体的事例などを示していれば1点とする。内容不足または未提出の場合は0点とする。これを全15回実施する。
受講態度	10%	： 各回授業への積極的参加（発言や質問）や授業態度（受講マナー、私語や携帯電話の使用など、授業の妨げになる場合は減点）を独自のルーブリックを基に総合評価する。
期末試験	30%	： 健康管理の重要性および疾病予防の理解とその具体的予防法、実践的具体策について理解を求める問題から評価する。１５回授業終了後（定期試験期間）に実施（提出）する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業日以外の対応に関しては、授業開始時に説明する。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業概要と目的のガイダンス** 「健康」という観点から自己のライフスタイルを見つめ直し、生活習慣の課題や問題を発見し、なぜ生活習慣が乱れているのかをグループで話し合い、健康のための生活習慣について考える。さらに運動やスポーツの必要性についても理解を深める。	振り返りシートの作成（自己の生活習慣を見つめ直す）	4時間
第2回	**体力とは何か？健康とは何か？** 生きていくために必要な「体力」や「健康」とは何か、その概念や定義について理解を深め、どのようにすれば体力を高めたり、健康を増進することができるのかを考える。	振り返りシートの作成（体力や健康の増進方法を考える）	4時間
第3回	**スポーツ指導に必要なこととは？**	振り返りシートの作成（現代のスポーツが抱える諸問題を考える）	4時間

	スポーツを子どもに指導する場合、何をどのように教えるのか、指導者は哲学を持つことが必要である。近年のスポーツ問題として挙げられる勝利至上主義、バーンアウト、体罰、保護者の過干渉など、さまざまな問題が子どもに与える影響を考える。		
第4回	**スポーツ中に起こりうる外傷・障害** 誤ったトレーニングや過度な運動に伴い、スポーツ障害で悩む場合も多いとされてる。特に発育発達の途上である幼児期や児童期において、スポーツ中に起こりやすい外傷や障害を理解することは重要である。さらにスポーツ外傷に対する応急処置などについても考える。	振り返りシートの作成（スポーツ中に起こりうる外傷や障害を考える）	4時間
第5回	**心肺蘇生法とAEDの活用** スポーツ指導をするうえで、安全管理や安全教育が重要とされている。特にスポーツ中の突然死は問題とされており、その対処方法の理解が求められている。そこで心臓の構造や機能を理解し、正しい心肺蘇生法の方法やAEDの正しい活用について考える。	振り返りシートの作成（心肺蘇生法の実際）	4時間
第6回	**ストレスと社会環境** 現代社会において健康を阻害している社会環境を具体的に考える。特に運動不足、食習慣の乱れ、栄養バランスの乱れ、睡眠不足、ストレス過多に関して考える。	振り返りシートの作成（身の回りのストレッサーを挙げる）	4時間
第7回	**骨の健康と筋肉について** 生活習慣病の1つとされる骨粗鬆症について学ぶ。具体的に骨の構造や働きを理解し、骨を丈夫にするための運動方法や食事、栄養バランスを学び、具体的な骨密度を高める方法を考える。また、筋肉の構造についても学ぶ。	振り返りシートの作成（骨と筋肉の名称・機能について）	4時間
第8回	**高血圧と虚血性心疾患について** 死亡原因の上位である心疾患について学ぶ。具体的には心臓の構造と機能、血管の仕組み、血液の働き、血圧のメカニズムなどを学び、心疾患や高血圧の予防方法を考える。	振り返りシートの作成（心臓、血管、血液の構造）	4時間
第9回	**脳血管疾患について** 死亡原因の上位である脳血管疾患について学ぶ。具体的には脳の構造と機能について理解を深め、さらに脳機能を高めるための運動や栄養、脳の病気を予防する方法を考える。	振り返りシートの作成（脳の構造）	4時間
第10回	**肥満について** 肥満は血管系の病気を招く危険因子でもある。肥満になるメカニズムを理解し、その予防方法を学ぶ。具体的には、肥満になる生活習慣や内臓脂肪が病気を引き起こす理由を学ぶ。	振り返りシートの作成（脂肪細胞の働きと作用）	4時間
第11回	**正しい睡眠習慣とは** 現代社会は睡眠不足に陥りやすい環境と言われており、睡眠不足が身体に及ぼす影響について学ぶ。具体的には、睡眠不足と肥満の関係、睡眠不足と生活習慣病との関係、効果的な睡眠を知るための睡眠メカニズムについて学ぶ。	振り返りシートの作成（睡眠の質を高めるための方法）	4時間
第12回	**ロコモ、サルコペニアとは** 超高齢社会の日本では、運動器の障害のために移動機能の低下をきたした状態であるロコモ（ロコモティブシンドローム：運動器症候群）や、サルコペニアが大きな問題となっている。そのメカニズムや具体的な予防法について考える。	振り返りシートの作成（日常生活において下肢筋力を高める工夫を考える）	4時間
第13回	**効果的な運動やトレーニング** 健康の維持増進のためにスポーツクラブやフィットネスクラブに通い運動する者が増加してきている。さらにメディアを通じて様々な健康情報が取り上げられているが、その中には誤った方法や健康を害する内容も含まれている。そこで、効果的かつ安全に筋力、筋量を高めるトレーニングや脂肪燃焼や持久力を高めるトレーニングについて学ぶ。	振り返りシートの作成（実践できるトレーニング計画を考える）	4時間
第14回	**生活習慣病を予防する運動方法とは** これまでの授業を通して生活習慣病の成り立ちや病理学的理解が身に付いているが、それを基に生活習慣病予防に必要な運動方法や健康管理について学ぶ。さらに過度な運動やトレーニングに関する弊害に関しても最近の知見を基に理解を深める。	振り返りシートの作成（ダイエットの弊害）	4時間
第15回	**生活習慣病と運動、食事、休養** これまでの授業の総括を行い、生活習慣病や疾病予防のための生活習慣確立に向けて、具体的手法を学ぶ。最終的に自己の生活習慣を良くするための具体的な実践方法を作成する。	振り返りシートの作成（生活習慣病を予防するための生活習慣を考える）	4時間

授業科目名	**ジュニアスポーツ障害**				
担当教員名	**藤高紘平**				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	理学療法士として病院に勤務し、ジュニア世代のスポーツ外傷・障害に対してのリハビリテーション・コンディショニング等を実施				

授業概要

近年、ジュニア世代のスポーツを取り巻く環境は大きく変わりつつある。本講義では教育者やスポーツ指導者が身につけておくべきジュニア世代の身体的特徴に関して、スポーツ医学的観点から概説する。また、ジュニア世代におけるスポーツ参加の意義・目的などについて解説するとともに、子どもの発育発達的特性とスポーツ動作のバイオメカニクスについて最新のデータを提示しながらスポーツ外傷・障害の予防について解説する。以上を理解した上で、各スポーツにおけるジュニア世代の外傷・障害の予防対策を立案出来るようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	ジュニア世代におけるスポーツ外傷・障害の専門的知識の獲得	ジュニア世代における身体的特徴を理解し、スポーツとの関わりを考察する

汎用的な力

1 ．DP5.計画・立案力	ジュニア世代におけるスポーツ外傷・障害予防プログラムの立案・実行ができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験（筆記） 50%	：	ジュニア期におけるスポーツ外傷・障害の基礎知識を理解しているか否かで評価する。15回授業終了後（定期試験期間）に実施する。
授業内レポート 20%	：	各外傷・障害について、適切な参考資料を適切かつ簡素にまとめるとともに、各自の意見を考察しているか否かで評価する。
プレゼンテーション 30%	：	グループワークにて、指定された内容を適切にまとめ、他者が理解できるような内容でプレゼンテーションなされているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室
備考・注意事項： 必要に応じて声を掛けて下さい。時間調整をします。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（評価法と講義目的について）** 本講義の目的および評価基準などについて説明する	ジュニアスポーツの問題点についてまとめておく	4時間
第2回	**ジュニア世代のスポーツ参加の現状と問題点** ジュニアスポーツの現状と問題点、その解決策について考える	ジュニアスポーツが抱える本質的問題について考察しておく	4時間
第3回	**子どもの発育発達特性（形態発育、機能発達、運動発達）** 子どもの身体的特徴とスポーツ障害の関係性について説明する	子どもの身体的特徴について予習しておく	4時間
第4回	**ジュニア世代のスポーツ外傷・障害（１） 肩甲上腕関節** 野球肩や反復性肩関節脱臼を中心に学習する	肩甲上腕関節の解剖について予習しておく	4時間
第5回	**ジュニア世代のスポーツ外傷・障害（２） 肘関節・手関節** 野球肘やテニス肘、橈骨遠位端骨折、つき指などについて学習する	肘関節・手関節の解剖について予習しておく	4時間
第6回	**ジュニア世代のスポーツ外傷・障害（３） 股関節および大腿部・下腿部** 先天性股関節脱臼、弾発股、肉離れなどについて学習する	股関節および大腿・下腿部周囲の解剖について予習しておく	4時間
第7回	**ジュニア世代のスポーツ外傷・障害（４） 膝関節**	膝関節の解剖および成長期疾患について予習しておく	4時間

	オスグット病など、膝関節周囲の成長期特有の病態について学習する		
第8回	**ジュニア世代のスポーツ外傷・障害（５）　足関節および足部** シーバー病などの成長期特有の病態および足関節捻挫などについて学習する	足関節および足部の解剖について予習しておく	4時間
第9回	**ジュニア世代のスポーツ外傷・障害（６）　頭頸部・胸部・腰部** 脳振盪や側弯症、腰椎分離症や非特異的腰痛など	ジュニア期に発生する頭頸部・体幹の傷害について予習しておく	4時間
第10回	**ジュニア世代のスポーツ外傷・障害（７）　熱中症および突然死** 熱中症および突然死とその予防について	ジュニア期に発生する重篤な疾患についてまとめておく	4時間
第11回	**ジュニア世代のスポーツ外傷・障害予防　緊急対応** 各種外傷・障害予防対策と緊急時フローチャートについて	CPRの手順について予習・復習しておく	4時間
第12回	**ジュニア世代のスポーツ外傷・障害予防策の立案　外傷・障害予防策** 頭頸部・体幹・上肢の外傷・障害予防について	頭頸部・体幹・上肢の傷害について復習し、理解を深めておく	4時間
第13回	**ジュニア世代のスポーツ外傷・障害予防策の立案　下肢外傷・障害予防策** 下肢の外傷・障害予防について	下肢の傷害について復習し、理解を深めておく	4時間
第14回	**　ジュニア世代のスポーツ外傷・障害予防対策に対するプレゼンテーション** 各外傷・障害予防対策のプレゼンテーション	資料をまとめておく	4時間
第15回	**総括：質疑応答および発表** スポーツ外傷・障害を減らすための教員の関わりについて	資料をまとめておく	4時間

授業科目名	**幼児体育指導論**				
担当教員名	臼井達矢				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

近年、子どもの体力低下が問題視されており、幼児期をはじめとした早期の対応が特に重要であると言われている。そのため幼児教育において、子どもの体力を向上させるためのアプローチができるかどうかが求められており、本授業では、保育者として必要な指導力を習得すると共に、運動あそび指導に必要な用具の特性を理解し、安全で効果的な指導方法について学習する。それらに加え、幼児が興味・関心を示すような遊びの展開や方法を身につけることを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	保育現場における幼児体育指導者としての専門的な力と専門技能を身に付ける	・身体表表現活動を適切に実践するための技能を修得できる ・運動遊びを安全かつ効果的に実践するための技能を習得できる ・幼児の運動能力および身体表現、運動あそびについて理解できる
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	事前に子供の遊びを中心とした運動指導案を班で計画・立案する。授業時間では班ごとの模擬授業形式にて実践を行う。また、終了後、問題点などの改善を話し合う時間を設け問題解決にあたる。	①模擬授業形式で行うことにより実践力を養う。 ②運動遊びの実践を通して保育における具体的な援助の方法を学ぶ。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		子ども理解及び、これから保育現場に必要な事故の課題をみつける
2 ．DP8.意思疎通		指導案作成および模擬授業を通してコミュニケーション能力を育てる。
3 ．DP9.役割理解・連携行動		実技を通し考える力を体得する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業の取り組み状況	10%	： 各回授業への積極的参加（授業参加の積極性や協調性）や授業態度（受講マナー、携帯電話の使用や集合時に集まらないなど授業の妨げになる行為は減点）などをもとに総合評価する
模擬授業	30%	： 指導案通りに進んでいるか、声掛けの仕方、進行のスムーズさなども評価の対象とします。
指導案作成	30%	： 指導案の内容によって評価を行う、指導内容だけではなく、準備物や子供への配慮、時間配分なども詳しく記載されているかも評価の対象とする。
レポート	30%	： 「幼児期における運動あそびの必要性」に関するレポートを作成する。１５回授業終了後（定期試験期間）に実施（提出）する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の後
場所： 授業教室
備考・注意事項： 授業終了時に、声をかけてください。時間調整を致します。
連絡方法は初回授業時に伝えます。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（評価方法と講義目的について）** 本講義の目的と意義につて解説し講義内容と評価について説明する。 また幼児に対する運動遊び内容を紹介する	子どもの発育発達について調べる	4時間
第2回	**ボールを使った運動遊び①**	ボール運動の効用について調べる	4時間

	各グループで指導案を作成し、幼児向けのボール運度遊びを展開する。 担当グループ以外の学生は、授業を受けての評価を行い、その評価を基にグループでの反省会を行う。		
第3回	**ボールを使った運動遊び②** 各グループで指導案を作成し、幼児向けのボール運度遊びを展開する。 担当グループ以外の学生は、授業を受けての評価を行い、その評価を基にグループでの反省会を行う。	ボール運動の具体的方法や内容について調べる	4時間
第4回	**縄跳びあそび①** 各グループで指導案を作成し、幼児向けのボール運度遊びを展開する。 担当グループ以外の学生は、授業を受けての評価を行い、その評価を基にグループでの反省会を行う。	縄跳び運動の効用について調べる	4時間
第5回	**縄跳びあそび②** 各グループで指導案を作成し、幼児向けのボール運度遊びを展開する。 担当グループ以外の学生は、授業を受けての評価を行い、その評価を基にグループでの反省会を行う。	縄跳び運動の具体的方法や内容について調べる	4時間
第6回	**サーキットあそび①** 各グループで指導案を作成し、幼児向けのボール運度遊びを展開する。 担当グループ以外の学生は、授業を受けての評価を行い、その評価を基にグループでの反省会を行う。	サーキット運動の効用について調べる	4時間
第7回	**サーキットあそび②** 各グループで指導案を作成し、幼児向けのボール運度遊びを展開する。 担当グループ以外の学生は、授業を受けての評価を行い、その評価を基にグループでの反省会を行う。	サーキット運動の具体的方法や内容について調べる	4時間
第8回	**表現運動①** 各グループで指導案を作成し、幼児向けのボール運度遊びを展開する。 担当グループ以外の学生は、授業を受けての評価を行い、その評価を基にグループでの反省会を行う。	表現運動の効用について調べる	4時間
第9回	**表現運動②** 各グループで指導案を作成し、幼児向けのボール運度遊びを展開する。 担当グループ以外の学生は、授業を受けての評価を行い、その評価を基にグループでの反省会を行う。	表現運動の具体的方法や内容について調べる	4時間
第10回	**幼児スポーツ①サッカー** 各グループで指導案を作成し、幼児向けのボール運度遊びを展開する。 担当グループ以外の学生は、授業を受けての評価を行い、その評価を基にグループでの反省会を行う。	幼児スポーツの効用について調べる	4時間
第11回	**幼児スポーツ②ティーボール** 各グループで指導案を作成し、幼児向けのボール運度遊びを展開する。 担当グループ以外の学生は、授業を受けての評価を行い、その評価を基にグループでの反省会を行う。	幼児スポーツの具体的方法や内容について調べる	4時間
第12回	**運動会種目（１）　競技種目の模擬授業** 3歳から5歳を対象とした運動会種目について、目当てを明確にしたプログラムの提案と実践指導を行う。	運動会のプログラムについて調べる	4時間
第13回	**運動会種目（２）　表現・リズム種目の模擬授業** 3歳から5歳を対象とした表現・リズムについて、目当てを明確にしたプログラムの提案と実践指導を行う。	運動会のプログラムについて調べる	4時間
第14回	**運動会種目（３）　レクレーション種目の模擬授業** 3歳から5歳を対象としたレクレーション種目について、目当てを明確にしたプログラムの提案と実践指導を行う。	運動会のプログラムについて調べる	4時間
第15回	**運動と安全管理** 幼児の運動遊びを安全効果的に実践するために事例をあげて解説する。	幼児の遊びと安全について調べる	4時間

433

授業科目名	テーピングとコンディショニング				
担当教員名	藤高紘平				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	理学療法士として病院に勤務し、来院するスポーツ選手に対してテーピングやコンディショニングを実施 大学サッカー部の専属トレーナーとして、スポーツ現場で所属選手に対してテーピングやコンディショニングを実施				

授業概要

スポーツ外傷・障害の予防や応急処置、再発予防としてのテーピングの基礎知識について解説する。また、目的に応じた身体各部のテーピング方法について各自実習をおこなう。さらにスポーツ外傷・障害の予防、運動パフォーマンスの向上、日常生活を健康で健全に過ごすためのコンディショニングの基礎知識について解説し、各手法について実践する。本講義により目的に応じたテーピングやコンディショニングの各手法が実行できるようになる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	テーピングおよびコンディショニングに関する専門的知識の獲得	日常生活およびスポーツ活動におけるテーピングおよびコンデショニングの重要性を理解し、実行できる

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践	身体各部のテーピングおよび各種状況に応じたコンディショニング手法を実践できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

学ぶテーマに応じて、適宜ワークやロールプレイを行います。ワークやロールプレイを実際に体験した後、ディスカッションなどにより学びの共有を行ったあと、ふりかえりシートへの記入を通して、個人の学びを客観的に検証します。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験（筆記）	50%	： テーピングとコンディショニングについての基礎知識を理解しているかで評価する。15回授業終了後（定期試験期間）に実施する。
授業内レポート	20%	： 出題内容に対して論理的な考察をし、適切にまとめられているかを評価する。
実技試験	30%	： 指定されたテーピングおよびコンデショニング手法が、実践可能なレベルに達しているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の教室

場所： 授業の前後

備考・注意事項： 質問については授業前後で対応する。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（評価法と講義目的について）** 本講義の目的と注意点および評価基準などについて説明する	テーピングとはどのようなものかについて調べておく	2時間
第2回	**テーピングの基礎知識とテープの持ち方・切り方及びアンダーラップの扱い方など** 各種テープの役割と適応、テーピング実戦での基本技術について学習する	テーピングテープの種類について調べておく	2時間
第3回	**踵・アーチ・手関節・手指のテーピング** 突き指や足底の痛みに対応したテーピングについて	土踏まずの構成および突き指について調べておく	2時間
第4回	**足関節のテーピング１　足関節捻挫** 足関節捻挫とテーピングについて	足関節の機能解剖について調べておく	2時間
第5回	**足関節のテーピング２　予防・再発予防・応急処置** 足関節捻挫の予防・再発予防・応急処置用のテーピング	足関節捻挫の病態生理について調べておく	2時間
第6回	**膝関節のテーピング** 内側側副靭帯損傷の評価とテーピング	膝関節内側側副靭帯損傷の病態生理について予習しておく	2時間

第7回	**各部位の肉離れ、アキレス腱のテーピングとラッピング** アキレス腱断裂、大腿部の肉離れに対するテーピングおよびラッピングなど	アキレス腱断裂および肉離れの病態生理について調べておく	2時間
第8回	**足趾・シンスプリント・その他下肢のテーピング** 成長期の痛みに対応したテーピングとは	成長期痛について予習しておく	2時間
第9回	**肩関節・肘関節・股関節のテーピングとラッピング** 肩・肘関節脱臼のテーピングと股関節のラッピング	肩・肘・股関節の機能解剖学について調べておく	2時間
第10回	**コンディショニングとは** コンディショニングの定義と各手法について	コンディショニングについてまとめておく	2時間
第11回	**コンディショニングにおけるストレッチングの役割** ストレッチングの科学的基礎と各種方法	ストレッチングの効果と限界について調べておく	2時間
第12回	**スポーツマッサージ** スポーツマッサージの手法および実践	マッサージの効果と限界について調べておく	2時間
第13回	**ウォーミングアップとクーリングダウン** コンディショニングにおけるウォーミングアップとクーリングダウンの身体的効果とは	自身がこれまで実践してきたウォーミングアップの身体的効果について考察しておく	2時間
第14回	**安全な運動実施のためのコンディショニングとは** 運動・スポーツ分野でのコンディショニングの重要性	コンディショニングについて復習し、理解を深めておく	2時間
第15回	**総括：質疑応答** 教育現場におけるコンディショニングの重要性について考える	コンディショニングについて復習し、理解を深めておく	2時間

授業科目名	**体育学研究**				
担当教員名	三村寛一				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

はじめに、身体活動を日常生活のなかに積極的に取り入れることの意義を子どもの健全な発育発達および予防医学的視点から概説する。次に、子どもの発育発達特性、体のつくりと機能、生理学的基礎、体力、至適運動強度について最新のデータを提示し、小児メタボリックシンドロームのメカニズムと予防策を解説する。これらを理解した上で、教育現場における身体活動実践の意義を明確にし、予防医学を考慮した体育科教育指導と教材および運動習慣の定着を考慮した運動あそびについて解説する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	健康教育プログラムの提案ができる	子どもの体力や身体活動について知識を修得する
汎用的な力		
1 ．DP6.行動・実践		健康教育プログラムを実践できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験 50%	：	設問に理論的に回答がなされているか
レポート課題 40%	：	①テーマに対して参考文献を活用し丁寧に作成されているか　②指示された型式を守り提出期限が守れているか
授業の取り組み状況 10%	：	授業中の指導者の質問に積極的に回答をしているか

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
三村寛一・安部惠子他	スポーツ指導者のためのスポーツと法	嵯峨野書院	2011年

参考文献等

必要に応じて指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　毎週月曜日の２限

場所：　中央館２階三村研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講義目的と評価についてオリエンテーション** 体育学研究の目的と授業の概要、評価について学習する。	体育学について予習する	4時間
第2回	**子どもの健康・体力について** 子どもの健康とは？、体力とは？文献資料を基にグループで学習する。	健康と体力について予習する	4時間
第3回	**子どもの運動能力テストの意義と活用法** 幼児の運動能力テスト、児童の運動能力テストの意義・内容・測定方法・評価・活用方法等について学習する。	運動能力について予習する	4時間
第4回	**子どもの身体活動量と現状** 幼児児童の身体活動量の測定方法･評価・適正活動量について学習する。	身体活動量の測定方法について予習する	4時間
第5回	**小児メタボリックシンドロームの定義と判定方法** 小児肥満の定義と判定方法、日本の子どもの現状とその改善策等について学習する。	小児メタボリックシンドロームについて予習する	4時間
第6回	**幼児期運動指針の作成背景及び普及策** 幼児期運動指針の作成背景及び普及策について資料･パワーポイントを基に学習する。	幼児期の運動指針について予習する	4時間
第7回	**小学校体育授業内容**	６領域の特性について予習する	4時間

	小学校体育科学習指導要領の内容（体つくり運動を始め6領域について）を学習する。		
第8回	**体つくり運動の目的と内容** 体つくり運動の目的と内容の理解と体力要素別に見た体つくり運動について学習する。	体つくり運動の意義について予習する	4時間
第9回	**事例を用いたグループ討議；体つくり運動** 各自で作成した体つくり運動の指導案を持ち寄り、4－5人のグループで検討し、その結果を代表が発表する。	体つくり運動の指導案を立案する	4時間
第10回	**小学校保健について** 小学校保健の教科書（3・4年生、5・6年生）を基に学習する。	保健授業の意義について予習する	4時間
第11回	**事例を用いたグループ討議；小学校保健** 各自で作成したの小学校保健の指導案を持ち寄り、4－5人のグループで検討し、その結果を代表が発表する。	保健授業の指導案を立案する	4時間
第12回	**子どもの土踏まずの形成** 土踏まずの測定方法や判定法、0歳から12歳の子どものテータを基に土踏まずの形成について学習する。	土踏まずの形成について予習する	4時間
第13回	**骨密度の** 骨密度の測定法、評価、幼児児童の測定データ、等の研究成果をパワーポイントで学習する。	骨密度について予習する	4時間
第14回	**子どもを対象とした研究成果** 子どもの対象とした健康・運動・発育発達等の研究動向と将来展望について学習する。	発育発達特性について予習する	4時間
第15回	**総括と質疑応答** 14回の授業内容をノートを基に振り返り、2－3分程度で順番に発表する。	授業の振り返りレポートを作成する	4時間

授業科目名	**水泳**				
担当教員名	**三村寛一・西林厚**				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

水泳は、全身を使った運動であり、生涯スポーツとしても適切なスポーツであり健康の維持増進という観点からも多くの人々によって親しまれている。しかし、水中運動体験のある児童と全く体験していない児童と二極化傾向にあり、指導は一工夫必要である。そこで、本授業では、初級は平泳ぎ・クロール・背泳ぎを正しい泳法で２５m完泳。中級では、平泳ぎ・クロール・背泳ぎ・バタフライを正しい泳法で５０m完泳。上級は、４泳法を正しく５０m以上の泳力を習得することを目標とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
１．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	水中活動の楽しさを体験学習する	水中活動に関するスキルとリスク管理を学ぶ

汎用的な力

１．DP6.行動・実践		水の特性を理解し、４泳法を身につける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
４泳法実技試験 60%	：	４泳法の習得状況に応じて評価する
授業の取り組み状況 30%	：	４泳法の修得に対して理論を理解し、反復練習を積極的に実践している
実技指導レポート 10%	：	毎回の指導内容の振り返りと課題を明確に記載し提出期限を守っているか

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考書・参考資料等
必要に応じて指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 毎週月曜日の２限目

場所： 中央館２階　三村研究室

備考・注意事項： 毎週火曜日の13：00～16：30は研究室にいます。もしくは授業前、終了時に声を掛けて下さい。時間を調整します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**評価方法と講義目的と注意点および実技スケジュールについてオリエンテーション** シラバスを基に講義の目的、１５回の授業の内容、評価の内容について学習する。 特に、安全管理について：プール（水温、塩素残量）、着衣、貴重品の管理、各自の体調管理、バディィシステム、点呼等についても学習する。	水泳に環境について予習する	1時間
第2回	**聞き取り調査を基にしたクラス分けの確定とリスク管理について** 健康調査と泳力調査を基に４グループにクラス分けをする。 プールの水温、塩素残量、更衣室、準備・整理体操、体調チエック等の安全管理を確認する。	安全管理について予習する	1時間
第3回	**プールで楽しく泳ぐ** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 実際の泳力確認を行いクラス分けの再調整と各人お得意な泳法で泳ぎ、指導法についても学習する。 ３０分の授業の後、点呼の後１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	楽しく水中運動を行うために必要なポイントを予習する	1時間
第4回	**クロール（１）　水慣れと浮しうき・泳法確認**	自由形の特性について予習する	1時間

	出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 ※初級は水慣れと浮しうき　※中級及び上級は泳法確認、後半は指導法について学習する。 ３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。		
第5回	**クロール（２）　プル練習とローリングの習得・上級は泳ぎこみ** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 ※初級はプル練習とローリングの習得　※中級および上級は泳ぎこみ、後半は指導法について学習する。 、３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	自由形の「こつ」について予習する	1時間
第6回	**クロール（３）　ブレス習得と２５m完泳・クロール** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 ※初級はブレス習得と２５ｍ完泳※中級および上級はクロール、後半は指導法について学習する。 ３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	自由形の指導法について予習する	1時間
第7回	**背泳ぎ（１）　浮しうきとキック・泳ぎこみ** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 ※初級は浮しうきとキック　※中級および上級は泳ぎこみ、後半は指導法について学習する。 ３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	背泳の特性について予習する	1時間
第8回	**背泳ぎ（２）　プルと２５m完泳・背泳ぎ確認** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 初級はプルと２５ｍ完泳、中級および上級はクロールと背泳ぎ確認、後半は指導法について学習する。 ３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	背泳の「こつ」について予習する	1時間
第9回	**バタフライ（１）　ドルフィンキック・バタフライ泳法確認** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 初級はドルフィンキック、中級および上級はバタフライ泳法確認、後半は指導法について学習する。 ３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	背泳の指導法について予習する	1時間
第10回	**バタフライ（２）　ドプル・４泳法確認** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 ※初級はドプル※初級および中級は４泳法確認、後半は指導法について学習する。 ３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	バタフライの特性について予習する	1時間
第11回	**水中運動（アクアビクス）** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 音楽に合わせて水中で楽しく踊る。後半は指導法についても学習する。 ３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	アクアビクスについて予習する	1時間
第12回	**着衣泳法** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 各班毎に着衣泳法を練習し、後半は指導法について学習する。 ３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	着衣泳法について予習する	1時間
第13回	**水の安全と救助法を学ぶ** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 水の安全と救助法を学び、後半は指導法についても学習する。 ３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする	水の事故について予習する	1時間
第14回	**泳力別、４泳法の確認** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 各班毎に４泳法で練習し、後半は新しい班編成で４泳法のレースを行なう。 ３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	水の事故予防について予習する	1時間
第15回	**総括　振り返り・各班毎に発表** 教室で、ビデオで４泳法（平泳ぎ、背泳、バタフライ、クロール）の学習をする。 １５回の授業を振り返り、各班毎に発表し合う。 水泳の授業の感想文を作成する。	実技内容を振り返る	1時間

授業科目名	**ピアノ実技Ⅰ**				
担当教員名	**楠田陽子・村上優・堀田久美・瀬崎紀子・永井理子・中井由貴子・三好一花・高田正子・平石葉子・河野佑美**				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実技が中心となりますが、その日に学ぶ内容に焦点をあてた講義や説明も随時取り入れます。授業は個人練習時間を取りながら進めます。中間交流発表会では一人ずつ演奏発表することで、発表する場に慣れるこ				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

学校教育や保育の場で豊かな音楽表現活動を実践するにあたり、指導者として必要なピアノ演奏力と弾き歌いの技能を習得する。そのために「弾く、聴く、弾き歌う」という活動を行い、聴取力、演奏の技能、楽典の知識も平行して身に付けていく。授業の一環として人前で一人で演奏発表する場を設定する。試験は履修者一人ずつの演奏発表形式で行う。
大阪成蹊学園ピアノグレードに照らし合わせて進度も意識してピアノ演奏力の習得を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：
初心者は読譜の基本を学び、両手でのピアノ演奏と簡単な弾き歌いができることを目標とする。経験者は更なる技術の習得をもって教育・保育現場で実践できる力をつける。

目標：
毎回の授業内容の習得と、継続的な自主練習で実力を積み上げる。

汎用的な力

1 ．DP7.完遂

設定目標に半期終了後に到達できるよう、積極的に自主練習を実施すること。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則3分の2以上出席した場合にのみ評価対象となる。
初心者、経験者ともに、スムーズなピアノ技術修得のためには毎回出席することが望ましい。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題曲の練習等 30%	：	・読譜、前回の授業、レッスンをふまえた練習ができている：2点 ・読譜、前回の授業、レッスンをふまえた練習がほぼできている：1点
定期試験（弾き歌い） 30%	：	・テンポの選び方、リズム、音価の正確さ、弾き直し、歌詞の明瞭さ、曲の良さ（雰囲気）の捉え方の全てが完璧である：30点 ・上記2点以上ができる：15～30点
定期試験（技術課題） 30%	：	・指、腕、手首の動作、テンポの選び方、リズム、音価の正確さ、打鍵の正確さ、音色、旋律と伴奏のバランスコントロール、フレージングの全てが完璧である：30点 ・上記2点以上ができる：15～30点
基礎点（演奏課題曲レベル） 10%	：	・試験での演奏曲のレベルを大阪成蹊学園ピアノグレードに参照し、　得点を配分：3点～10点

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
音楽教育センター監修・編曲	こどもが大好きなうたの本　130　Children’s　Songs	大阪成蹊学園	2019年
音楽教育センター教育学部　監修・編集	ピアノ実技Ⅰ	大阪成蹊学園	2019年
バイエル	新訂　バイエル教則本	音楽之友社	1954年

参考文献等

ブルクミュラー25の練習曲　音楽之友社
ソナチネアルバム1巻　　音楽之友社
ソナタアルバム1巻　　音楽之友社

履修上の注意・備考・メッセージ

その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習が必要。
楽譜を読み、ピアノを実際に両手で弾く、演奏を上達させることを常に目標とする。
毎日30分程度の練習が必要である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜2限
場所：　西館6階音楽教育センター

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・楽譜の基本・音符の基本・学生個人のレベルに応じた曲選定** 半期ピアノ授業の流れを説明し、目標設定する。 鍵盤図、大譜表、指番号、小節、拍、音符と休符と音価、拍子記号を知る。 1～5指までを使った片手奏と両手奏、左右異なる動き。	宿題課題曲の毎日の練習	1時間

第2回	**３拍子・和音** 左右異なる動きで3拍子の曲を弾く。 1～5度までの和音、3度和音の連続を弾く。	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第3回	**和音・コード** 1～5度までの和音、3度和音の連続を弾く。 英語音名とコードネーム、左手コード奏で弾き歌い	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第4回	**分散和音** 左手分散和音の練習、両手奏、両手で弾き歌い	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第5回	**8分音符・休符** リズム打ち、シンコペーション、4分音符と8分音符を知る、8分音符を意識して弾く。	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第6回	**個人アドバイス・音読みテスト** これまでの授業内容の習熟度をチェックし、技術の徹底を図る 音読みテストを実施	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第7回	**付点4分音符・タイ** リズム打ち、右手付点4分音符と左手4分音符伴奏形を両手奏する	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第8回	**いろいろな指の動き・臨時記号** 臨時記号について学び、鍵盤位置を確認する 指の拡張、ポジション移動と音域の広がり、指くぐりを学ぶ	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第9回	**音階（ハ長調）** ハ長調の指越え、指くぐりのテクニックを練習	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第10回	**音階（ト・ヘ長調）** ト長調・ヘ長調の指越え、指くぐりのテクニックを練習	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第11回	**加線・オクターブ記号** 加線のついた音の読譜、オクターブ記号の読譜と鍵盤位置を知る	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第12回	**いろいろなリズム** 8分の３拍子、8分の６拍子、装飾音符の演奏法について学び、演奏する 16分音符、3連符のリズム打ち	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第13回	**音楽用語・記号とその奏法・試験曲アドバイス** 簡単なメロディーに、強弱、テンポの変化、スタッカート、アクセントなどをつけて弾く	宿題課題曲の毎日の練習	1時間
第14回	**プレ試験体験（授業内演奏会）** 前期実技試験の課題曲を一人ずつ発表形式で演奏する	実技試験課題曲の毎日の練習	1時間
第15回	**個人アドバイス・音読みテスト** 前期実技試験に向けて最終個人アドバイス 第2回目の音読みテストを実施	実技試験課題曲の毎日の練習	1時間

授業科目名	**ピアノ実技Ⅱ**				
担当教員名	**楠田陽子・村上優・堀田久美・瀬崎紀子・永井理子・平石葉子・中井由貴子・河野佑美・三好一花**				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実技が中心となりますが、その日に学ぶ内容に焦点をあてた講義や説明も随時取り入れます。授業は個人練習時間を取りながら進めます。中間交流発表会では一人ずつ演奏発表することで、発表する場に慣れるこ				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

学校教育や保育の場で豊かな音楽表現活動を実践するにあたり、指導者として必要なピアノ演奏力と弾き歌いの技能を習得する。そのために「弾く、聴く、弾き歌う」という活動を行い、聴取力、演奏の技能、楽典の知識も平行して身に付けていく。授業の一環として人前で一人で演奏発表する場を設定する。試験は履修者一人ずつの演奏発表形式で行う。
大阪成蹊学園ピアノグレードに照らし合わせて進度も意識してピアノ演奏力の習得を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	ピアノ教則本の学修に加えて、小学校の教科書に載っている程度の曲も含めた弾き歌いも取り入れる。	小学校、幼稚園、保育園の現場で必要な演奏技能を身に付ける。

汎用的な力

1 ．DP7.完遂	設定された目標のグレードレベルの課題曲が弾けるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則3分の2以上出席した場合にのみ評価対象となる。
個人のレベルに応じたスムーズなピアノ技術修得のためには毎回出席することが望ましい。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題曲の練習 30%	：	・読譜、前回レッスンをふまえた練習ができている：2点 ・読譜、前回レッスンをふまえた練習がほぼできている：1点
定期試験（弾き歌い） 30%	：	・テンポの選び方、リズム、音価の正確さ、弾き直し、歌詞の明瞭さ、曲の良さ（雰囲気）の捉え方の全てが完璧である：30点 ・上記2点以上ができる：14～29点
定期試験（技術課題） 30%	：	・指、腕、手首の動作、テンポの選び方、リズム、音価の正確さ、打鍵の正確さ、音色、旋律と伴奏のバランスコントロール、フレージングの全てが完璧である：30点 ・上記2点以上ができる：14～29点
基礎点 10%	：	試験での演奏曲の難易度を大阪成蹊学園ピアノグレードに参照し、基礎点として配分する：3～10点

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
楽教育センター監修・編曲	こどもが大好きなうたの本 130 Children’s Songs	大阪成蹊学園	2019年
バイエル	新訂 バイエル教則本	音楽之友社	1954年
ブルクミュラー	ブルクミュラー25の練習曲	音楽之友社	2005年

参考文献等

ソナチネアルバム1巻　音楽之友社
ソナタアルバム1巻　　音楽之友社　他

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
「ピアノ実技Ⅰ」の単位修得済みと同等のピアノ技術、楽典知識必要となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜2限
場所：　西館6階音楽教育センター

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・ピアノ実技Ⅰの復習** オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明、補講システム等） 前期ピアノ実技の振り返りと後期目標設定	宿題曲の毎日の練習	1時間
第2回	**左手で和音伴奏をつけて両手奏（ハ長調）**	宿題曲の毎日の練習	1時間

	前期で学んだ既習曲に左手で和音伴奏をつける ハ長調曲の和音と旋律の重なりを理解し両手奏する		
第3回	**左手で和音伴奏をつけて両手奏で弾き歌う（ハ長調）** ハ長調曲の和音と旋律の重なりを理解し両手奏で弾き歌う	宿題曲の毎日の練習	1時間
第4回	**個人アドバイス** 第3回目までの授業内容の習得状況を確認し、ハ長調弾き歌いの演奏技術の定着を図る	宿題曲の毎日の練習	1時間
第5回	**左手で和音伴奏をつけて両手奏で弾く（ニ長調）** ニ長調の主要三和音と属七の和音を理解し、左手で和音伴奏をつけて両手奏	宿題曲の毎日の練習	1時間
第6回	**左手で和音伴奏をつけて両手奏で弾く（ヘ長調）** ヘ長調の主要三和音と属七の和音を理解し、左手で和音伴奏をつけて両手奏	宿題曲の毎日の練習	1時間
第7回	**個人アドバイス** 第4～6回目までの授業内容の習得状況を確認し、ニ長調とヘ長調の両手奏の演奏技術の定着を図る	宿題曲の毎日の練習	1時間
第8回	**分散和音（ハ長調）** ハ長調の分散和音を理解し、弾き歌う	宿題曲の毎日の練習	1時間
第9回	**分散和音（ヘ長調）** ヘ長調の分散和音を理解し、弾き歌う	宿題曲の毎日の練習	1時間
第10回	**個人アドバイス** 次回11回目授業での中間交流発表会での演奏曲に個人アドバイスをする	中間交流発表会での演奏曲の練習	1時間
第11回	**中間交流発表会** 学生一人ずつ演奏発表を実施	宿題曲の毎日の練習	1時間
第12回	**ハ長調・ニ長調を弾き歌う　Part①** 教育、保育現場でよく使われる「うた」の曲を、ハ長調とニ長調で弾き歌う	宿題曲の毎日の練習	1時間
第13回	**ハ長調・ニ長調を弾き歌う　Part②、イ長調の主要三和音を知る** 教育、保育現場でよく使われる「うた」の曲を、ハ長調とニ長調で弾き歌う	宿題曲の毎日の練習	1時間
第14回	**短調の曲を弾く** 長調の曲を短調にした場合のイメージの変化を感じる ハ短調、イ短調の基本三和音を左手で弾く	後期実技試験曲の毎日の練習	1時間
第15回	**個人アドバイス** 後期実技試験曲の学生個別アドバイス実施	試験課題曲の練習	1時間

授業科目名	**ピアノ実技Ⅲ**				
担当教員名	**楠田陽子・村上優・高田正子・瀬崎紀子・高木洋子・永井理子・深井千聡・平石葉子・三好一花・河野佑美・安達萌**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	個人・集団指導による演習。実技が中心となりますが、その日の学ぶ内容に焦点を当てた講義や説明も随時取り入れていきます。個々人の練習時間を十分に取りつつ、中間交流発表会などで他者の演奏の良さや自				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

学校教育や保育の場で豊かな音楽表現活動を実践するにあたり、指導者として必要な演奏技能、弾き歌いの技能を習得する。そのために各自のレベルに合った教則曲や弾き歌い曲の演習を行い、さらに中間交流発表会など互いの演奏や発表を聴き合う場を通して、より良い演奏を聴き分ける力を養い、自分の演奏の技能を高める方法を考えながら技能を習得する。個々人の課題に沿って練習を重ねることでより豊かな音楽性、感受性、表現力を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

ピアノ演奏に必要な音楽の基礎的知識を身に付け、演奏表現に生かすことができる。客観的に演奏を聴いて相互批評を行い、演奏を改善することができる。

目標：

小学校、幼稚園、保育園の現場で必要な演奏技能を身に付ける。

汎用的な力

1 ．DP7.完遂

各年次ごとに設定された目標のグレードレベルの課題曲が弾けるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則3分の2以上出席した場合にのみ評価対象となる。
個人のレベルに応じたスムーズなピアノ技術修得のためには毎回出席することが望ましい。

成績評価の方法・評価の割合　　**評価の基準**

課題の練習　30%　：・読譜、前回レッスンをふまえた練習ができている：２点
・読譜、前回レッスンをふまえた練習がほぼできている：１点

定期試験（弾き歌い）　30%　：・テンポの選び方、リズム、音価の正確さ、弾き直し、声、歌詞の明瞭さ、表情、曲の良さ（雰囲気）の捉え方の全てが完璧である：30点
・上記２点以上ができる：14～29点

定期試験（技術課題）　30%　：・指の動作、腕・手首の動作、テンポの選び方、リズム、音価の正確さ、打鍵の正確さ、音色、旋律と伴奏のバランスコントロール、フレージングの全てが完璧である：30点
・上記２点以上ができる：14～29点

基礎点　10%　：試験での演奏曲の難易度を大阪成蹊学園ピアノグレードに参照し、基礎点として配分する：３～10点

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
音楽教育センター監修・編曲	こどもが大好きなうたの本　130　Children’s　Songs	大阪成蹊学園	2019年
バイエル	新訂　バイエルピアノ教則本	音楽之友社	1954年
ブルクミュラー	ブルクミュラー25の練習曲	音楽之友社	2005年

参考文献等

ソナチネアルバム１巻　音楽之友社　他
ソナタアルバム１巻　音楽之友社　他

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
「ピアノ実技Ⅱ」単位を修得済みと同等のピアノ技術、楽典知識が必要となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限
場所：　西館6階音楽教育センター

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（授業概要の説明）** ・オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明、ピアノの扱い方等） ・半期で学習する自由曲の設定 ・カデンツの実技演習 ・初見演奏導入	ピアノ技術課題、弾き歌い課題の練習	1時間
第2回	**付点８分音符を含むリズム**	ピアノ技術課題、弾き歌い課題の練習	1時間

	・共通教材曲「かたつむり」弾き歌い実技演習 ・ハ長調の音階とコード ・付点８分音符を含む初見課題		
第3回	**付点４分音符と複付点４分音符を含むリズム** ・共通教材曲「とんび」弾き歌い実技演習 ・付点４分音符と複付点４分音符を含む初見課題	ピアノ技術課題、弾き歌い課題の練習	1時間
第4回	**付点４分音符と付点８分音符が混在する楽曲の演奏方法** ・共通教材曲「こいのぼり」弾き歌い実技演習 ・ヘ長調の音階とコード ・これまでに学習したリズムを含む初見課題	ピアノ技術課題、弾き歌い課題の練習	1時間
第5回	**個人アドバイス** ・個人のレベルに合った教則曲、弾き歌い曲の個人指導を行う	ピアノ技術課題、弾き歌い課題の練習	1時間
第6回	**３拍子の楽曲** ・共通教材曲「うみ」弾き歌い実技演習 ・ト長調の音階とコード ・３拍子の初見課題	ピアノ技術課題、弾き歌い課題の練習	1時間
第7回	**アウフタクトを含む楽曲** ・共通教材曲「おぼろ月夜」弾き歌い実技演習 ・アウフタクトを含む初見課題	ピアノ技術課題、弾き歌い課題の練習	1時間
第8回	**個人アドバイス** ・個人のレベルに合った教則曲、弾き歌い曲の個人指導を行う	ピアノ技術課題、弾き歌い課題の練習	1時間
第9回	**二長調の楽曲** ・共通教材曲「われは海の子」弾き歌い実技演習 ・二長調の音階とコード ・これまでに学習した要素を含む初見課題	ピアノ技術課題、弾き歌い課題の練習	1時間
第10回	**陰音階の楽曲** ・共通教材曲「さくらさくら」弾き歌い実技演習 ・陰音階の説明 ・これまでに学習した要素を含む初見課題	ピアノ技術課題、弾き歌い課題の練習	1時間
第11回	**個人アドバイス** ・個人のレベルに合った教則曲、弾き歌い曲の個人指導を行う	ピアノ技術課題、弾き歌い課題の練習	1時間
第12回	**中間交流会** ・一人ずつ教則曲や弾き歌い曲の演奏を発表し、互いの演奏を聴き合い、意見を交流する。	ピアノ技術課題、弾き歌い課題の練習	1時間
第13回	**共通教材曲を用いた模擬授業** ・先生役と生徒役に分かれ、これまでに学習した共通教材曲を用いて模擬授業を行う。 ・応用初見課題	ピアノ技術課題、弾き歌い課題の練習	1時間
第14回	**自由曲を用いた模擬授業** ・先生役と生徒役に分かれ、第１回目授業で各自選んだ自由曲を用いて模擬授業を行う。 ・応用初見課題	ピアノ技術課題、弾き歌い課題の練習	1時間
第15回	**個人アドバイス** ・試験曲の演習、個人指導を行う。	定期試験課題曲の練習	1時間

授業科目名	**ピアノ演習Ⅰ**				
担当教員名	**楠田陽子・村上優・堀田久美・高田正子・竹山陽子・深井千聡・河野佑美・中井由貴子・永井理子・平石葉子**				
学年・コース等	3	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	個人レッスン形式でピアノ実技を指導します。１コマ90分の授業のうち15分程度が個人レッスン、75分程度は個人練習室での自習練習になり、ティーチングアシスタントがサポートにあたります。『模擬授業』『中				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

保育現場や幼児教育の場で必要なピアノのテクニックを身に着けます。弾き歌い演奏や音楽表現の場で必要な移調奏、即興演奏をマスターするためには、まず自由にピアノが弾きこなせることと多くのレパートリー曲を持つことが最重要課題です。そのために、個々のレベルに応じた課題曲を毎回課し、テクニックと共に楽典の知識、読譜力も習得します。
また、教員による個人指導だけではなく、中間交流発表会で演奏し互いに聴き合うことで演奏する力と聴く力を高め、豊かな感受性を養います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	ピアノ個人レッスンで演奏力、弾き歌いの力をつける。	幼稚園、保育園、学校の現場で必要な演奏技能を身につける。

汎用的な力

1 ．DP7.完遂	各年次ごとに設定された目標のグレードレベルの課題曲が弾ける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則3分の2以上出席した場合にのみ評価対象となる。
個人のレベルに応じたスムーズなピアノ技術修得のためには毎回出席することが望ましい。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	30%	： 毎回の宿題への取り組み度、完成度、受講態度を3段階で点数化する。
基礎点	10%	： 目標グレードの到達度を点数化する。
実技試験（教則本）	30%	： 実技試験での教則本の演奏を点数化する。
実技試験（弾き歌い）	30%	： 実技試験での弾き歌いの演奏を点数化する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪成蹊学園　音楽教育センター監修・編曲	こどもが大好きなうたの本　130　Children’s　Songs	大阪成蹊学園	2019年
バイエル	新訂　バイエル教則本	音楽之友社	1954年
ブルクミュラー	ブルクミュラー25の練習曲	音楽之友社	2005年

参考文献等

ソナチネアルバム1巻　　音楽之友社
ソナタアルバム1巻　　音楽之友社　他

履修上の注意・備考・メッセージ

毎日30分のピアノ練習を継続し、目標グレードを取得すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜2限

場所：　図書館棟6階音楽教育センター　ピアノレッスン室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** ・オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明、日々の個人練習の在り方など） ・任意の1曲を演奏し、担当教員と到達目標グレードを設定する。	宿題曲への取り組み	4時間
第2回	**レガート奏法（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて）** ・音読み課題（ト音記号） ・今週の課題曲、到達度チェック ・弾き歌い『むすんでひらいて』の到達度チェック	宿題曲への取り組み	4時間
第3回	**16分音符の粒を揃える（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて）**	宿題曲への取り組み	4時間

	・音読み課題（ト音記号） ・今週の課題曲、到達度チェック ・弾き歌い『むすんでひらいて』『手をたたきましょう』の到達度チェック		
第4回	**メロディーをなめらかに歌う（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて）、弾き歌い模擬授業曲設定** ・音読み課題（ヘ音記号） ・今週の課題曲、到達度チェック ・弾き歌い『手をたたきましょう』『ちょうちょう』の到達度チェック	宿題曲への取り組み	4時間
第5回	**3度と6度の重音（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて）** ・音読み課題（ヘ音記号） ・今週の課題曲、到達度チェック ・弾き歌い『ちょうちょう』の到達度チェックと弾き歌い模擬授業発表曲の到達度チェック	宿題曲への取り組み	4時間
第6回	**レガート奏法（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて）** ・音楽室もしくは保育実習室、プレイルームにて弾き歌い曲によるワークショップ	宿題曲への取り組み	4時間
第7回	**10度のユニゾン（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて）** ・音読み課題（ト音ヘ音記号混合） ・今週の課題曲、到達度チェック ・弾き歌い『大きな栗の木の下で』	宿題曲への取り組み	4時間
第8回	**内声のメロディー（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて）、中間発表会課題曲設定** ・音読み課題（ト音ヘ音記号混合） ・今週の課題曲、到達度チェック ・弾き歌い『大きな栗の木の下で』『とんぼのうた』	宿題曲への取り組み	4時間
第9回	**32分音符のターン（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて）** ・音読み課題（ト音ヘ音混合） ・今週の課題曲、到達度チェック ・弾き歌い『とんぼのうた』『あさのうた』	宿題曲への取り組み	4時間
第10回	**ロンド形式（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて）、中間発表会に向けて** ・音読み課題（ト音ヘ音混合） ・今週の課題曲、到達度チェック ・弾き歌い『あさのうた』『おべんとうのうた』	宿題曲への取り組み	4時間
第11回	**中間発表会** ・弾き歌い曲を保育実習室で発表する。	宿題曲への取り組み	4時間
第12回	**短いスラーと長いスラーの弾きわけ（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて）、実技試験曲設定** ・今週の課題曲の到達度チェックと実技試験曲の決定 ・弾き歌い『おべんとうのうた』 ・課題曲より実技試験弾き歌い曲の決定	試験曲への取り組み	4時間
第13回	**分散奏（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて）** ・実技試験曲の練習 ・実技試験弾き歌い曲の練習	試験曲への取り組み	4時間
第14回	**3連符に表情をつける（ブルクミュラー1～16番より各自に応じて）** ・実技試験曲の練習 ・実技試験弾き歌い曲の練習 ・夏休みの課題曲の設定	試験曲への取り組み	4時間
第15回	**弾き合い会（実技試験にむけて）** ・実技試験曲の練習 ・実技試験弾き歌い曲の練習	試験曲仕上げ	4時間

授業科目名	**ピアノ演習Ⅱ**				
担当教員名	**楠田陽子・村上優・高田正子・瀬崎紀子・平石葉子・中井由貴子・河野佑美**				
学年・コース等	3	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	個人レッスン形式でピアノ実技を指導します。１コマ90分の授業のうち15分程度が個人レッスン、75分程度は個人練習室での自習練習になり、ティーチングアシスタントがサポートにあたります。『模擬授業』『中				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

ピアノ演習Ⅰで習得した読譜力とピアノテクニックを発展させるための課題に取り組みます。保育や幼児教育の場で実践するためには、歌唱活動で子どもの声域に合わせた調に移調したり、その場で子どもの動きに合わせて伴奏をアレンジする力も必要です。そのために、本科目では教則本でテクニックを身に付けると同時に調号3つまでの長音階とカデンツを習得し、教則本、弾き歌いの曲を使って様々な伴奏型（アルベルティ・バス、マーチ、ワルツ）を学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

ピアノ個人レッスンで演奏力、弾き歌いの力をつける。

目標：

幼稚園、保育園、学校の現場で必要な演奏技能を身につける。

汎用的な力

1 ．DP7.完遂

各年次ごとに設定された目標のグレードレベルの課題曲が弾ける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則3分の2以上出席した場合にのみ評価対象となる。
個人のレベルに応じたスムーズなピアノ技術修得のためには毎回出席することが望ましい。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	30%	： 毎回の宿題への取り組み度、完成度、受講態度を３段階で点数化する。
基礎点	10%	： 目標グレードへの到達度を点数化する。
実技試験（教則本）	30%	： 実技試験での教則本の演奏を点数化する。
実技試験（弾き歌い）	30%	： 実技試験での弾き歌いの演奏を点数化する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪成蹊学園　音楽教育センター監修・編曲	こどもが大好きなうたの本 130 Children's Songs	大阪成蹊学園	2019年
バイエル	新訂　バイエル教則本	音楽之友社	1954年
ブルクミュラー	ブルクミュラー25の練習曲	音楽之友社	2005年

参考文献等

ソナチネアルバム１巻　音楽之友社　他
ソナタアルバム１巻　音楽之友社　他

履修上の注意・備考・メッセージ

毎日30分のピアノ練習を継続し、目標グレードを取得すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限

場所：　図書館棟6階音楽教育センター　ピアノレッスン室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** ・オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明、日々の個人練習の在り方など） ・任意の1曲を演奏し、担当教員と到達目標グレードを設定する。	宿題曲への取り組み	4時間
第2回	**声部を弾きわける（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）** ・初見課題（大譜表、ハ長調、４小節）、ハ調長音階とカデンツ ・今週の課題曲、到達度チェック ・弾き歌い『こいのぼり』	宿題曲への取り組み	4時間
第3回	**ワルツのリズム（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）** ・初見課題（大譜表、ハ長調、４小節）、ハ調長音階とカデンツ ・今週の課題曲、到達度チェック ・弾き歌い『こいのぼり』『あめふり』	宿題曲への取り組み	4時間

第4回	**物語の場面を弾きわける（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）、弾き歌い模擬授業曲設定** ・初見課題（大譜表、ト長調、４小節）、ト調長音階とカデンツ ・今週の課題曲、到達度チェック ・弾き歌い『あめふり』『かたつむり』	宿題曲への取り組み	4時間
第5回	**メロディーを歌う（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）、模擬授業に向けて** ・初見課題（大譜表、ト長調、４小節）、ト調長音階とカデンツ ・今週の課題曲、到達度チェック ・弾き歌い『かたつむり』『うみ』	宿題曲への取り組み	4時間
第6回	**弾き歌い模擬授業** 音楽室もしくは保育実習室、プレイルームにて弾き歌い曲によるワークショップ	宿題曲への取り組み	4時間
第7回	**同音連打（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）** ・初見課題（簡易伴奏） ・今週の課題曲、到達度チェック ・弾き歌い『うみ』『たなばたさま』	宿題曲への取り組み	4時間
第8回	**16分休符（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）、中間発表会曲設定** ・初見課題（簡易伴奏） ・今週の課題曲、到達度チェック ・弾き歌い『たなばたさま』『とけいのうた』	宿題曲への取り組み	4時間
第9回	**4声を弾き分ける（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）** ・初見課題（簡易伴奏） ・今週の課題曲、到達度チェック ・弾き歌い『とけいのうた』『まつぼっくり』	宿題曲への取り組み	4時間
第10回	**舞曲のリズム（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）、中間発表会に向けて** ・初見課題（簡易伴奏） ・今週の課題曲、到達度チェック ・弾き歌い『まつぼっくり』『やきいもグーチーパー』	宿題曲への取り組み	4時間
第11回	**中間発表会** ・任意の教則本と弾き歌いの課題曲を音楽室で発表する。	宿題曲への取り組み	4時間
第12回	**レガートの奏法（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）、試験曲設定** ・初見課題（簡易伴奏） ・今週の課題曲、到達度チェックと実技試験曲の決定 ・弾き歌い『やきいもグーチーパー』 ・実技試験、弾き歌い曲の決定	試験曲への取り組み	4時間
第13回	**舟歌のリズム（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）** ・初見課題（簡易伴奏） ・教則本の試験曲の練習 ・実技試験弾き歌い曲の練習	試験曲への取り組み	4時間
第14回	**和音のスタッカート（ブルクミュラー10～21番より各自に応じて）** ・初見課題（簡易伴奏） ・教則本の試験曲の練習 ・実技試験弾き歌い曲の練習	試験曲への取り組み	4時間
第15回	**弾き合い会、実技試験に向けて** ・実技試験曲の練習 ・実技試験弾き歌い曲の練習 ・組ごとでの弾き合い会	試験曲への取り組み	4時間

授業科目名	**ピアノ演習Ⅲ**				
担当教員名	**村上優・堀田久美・高田正子・瀬崎紀子・竹山陽子・永井理子・平石葉子・中井由貴子・三好一花・河野佑美**				
学年・コース等	4	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	個人レッスン形式でピアノ実技を指導します。１コマ90分の授業のうち15分程度が個人レッスン、75分程度は個人練習室での自習練習になり、ティーチングアシスタントがサポートにあたります。『模擬授業』『中				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本科目では①ピアノ演奏技術の習得と②弾き歌いの力のレベルアップ（レパートリーを増やすことを含む）の2点を通して、保育の現場で自信をもってピアノを使った音楽表現活動の指導と弾き歌いを実践する力をつけることをねらいます。
学生個人の習熟度に合わせて、きめ細やかな授業（個人レッスン）を行います。1年次生から継続して身につけてきたピアノ技術の習得度を更に高め、実習、採用試験に備えます。中間発表会では互いの演奏を聴きあい、弾き合うことによって、聴く力を高め、豊かな感受性も養います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

ピアノ個人レッスンで演奏力、弾き歌いの力をつける。

目標：

幼稚園、保育園、学校現場で必要な演奏技術を身につける。

汎用的な力

1 ．DP7.完遂

各年次毎に設定された目標のグレードレベルの課題曲が弾ける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則3分の2以上出席した場合にのみ評価対象となる。
個人のレベルに応じたスムーズなピアノ技術修得のためには毎回出席することが望ましい。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	30%	： 毎回の宿題への取り組み度、完成度、受講態度を3段階で点数化する。
基礎点	10%	： 目標グレードの到達度を点数化する。
実技試験（教則本）	30%	： 実技試験での教則本の演奏を点数化する。
実技試験（弾き歌い）	30%	： 実技試験での弾き歌いの演奏を点数化する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪成蹊学園音楽教育センター	こどもが大好きなうたの本 130 Children's Songs	大阪成蹊学園	2019年
バイエル	新訂　バイエル教則本	音楽之友社	1954年
ブルクミュラー	ブルクミュラー25の練習曲	音楽之友社	2005年

参考文献等

ソナチネアルバム１巻　音楽之友社　他
ソナタアルバム１巻　音楽之友社　他

履修上の注意・備考・メッセージ

毎日30分のピアノ練習を継続し、目標グレードを取得すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限
場所：　図書館棟6階音楽教育センター　ピアノレッスン室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** ・授業（レッスン）の進め方、成績評価の説明など ・春休みの宿題曲チェックとピアノ演習Ⅲでの到達目標設定 ・次週の課題曲設定（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）	宿題曲への取り組み	4時間
第2回	**手の交差（ブルクミュラー15～25番より各自に応じて）** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック ・ピアノ演奏曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）	宿題曲への取り組み	4時間
第3回	**スタッカート、付点のリズムをつかった軽快な演奏（ブルクミュラー15～25番より各自に応じて）**	宿題曲への取り組み	4時間

	・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック ・ピアノ演奏曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）		
第4回	**レガート奏法（ブルクミュラー1～25番より各自に応じて）、模擬授業曲設定** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック ・ピアノ演奏曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・第6回目『模擬授業』の場で発表する弾き歌い課題曲の設定	宿題曲への取り組み	4時間
第5回	**16分音符の粒を揃える（ブルクミュラー1～25番より各自に応じて）** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック ・弾き歌い課題曲レッスン ・第７回目レッスンの課題設定（確認）	宿題曲への取り組み	4時間
第6回	**弾き歌い模擬授業** ・音楽室、または保育実習室を使った保育現場さながらの環境の中で、学生が１人ずつ弾き歌い曲を２曲発表する。 ・学生間で『相互評価シート』を記入し合い、終了後は該当の学生個々に配布し、振り返りの資料として活用するよう促す。 ・グループ毎に分かれて感想を述べ合い、上達するために必要なことを考察するし発表する。 ・講師講評	宿題曲への取り組み	4時間
第7回	**メロディーをなめらかに歌う（ブルクミュラー1～25番より各自に応じて）** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック ・ピアノ演奏曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）	宿題曲への取り組み	4時間
第8回	**3度と6度の重音（ブルクミュラー1～25番より各自に応じて）** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック ・ピアノ演奏曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）	宿題曲への取り組み	4時間
第9回	**レガート奏法（ブルクミュラー1～25番より各自に応じて）** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック ・ピアノ演奏曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）	宿題曲への取り組み	4時間
第10回	**10度のユニゾン（ブルクミュラー1～25番より各自に応じて）、中間発表会に向けて** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック ・ピアノ演奏曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・第12回レッスンの課題設定（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）	宿題曲への取り組み	4時間
第11回	**中間発表会** ・音楽室教室などを使って、学生が一人ずつピアノ演奏曲と弾き歌い曲を発表する ・学生間で『相互評価シート』を記入し合い、終了後は該当の学生個々に配布し、振り返りの資料として活用するよう促す。 ・グループ毎に分かれて感想を述べ合い、上達するために必要なことを考察するし発表する。 ・講師講評	宿題曲への取り組み	4時間
第12回	**内声のメロディー（ブルクミュラー1～25番より各自に応じて）、試験曲設定** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック ・ピアノ演奏曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・実技試験曲設定（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲） ※指定する課題曲の中から設定するようにする	試験曲への取り組み	4時間
第13回	**32分音符のパターン（ブルクミュラー1～25番より各自に応じて）** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック ・ピアノ演奏曲（試験曲）レッスン ・弾き歌い課題曲（試験曲）レッスン	試験曲への取り組み	4時間
第14回	**ロンド形式（ブルクミュラー1～25番より各自に応じて）** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック ・ピアノ演奏曲（試験曲）レッスン ・弾き歌い課題曲（試験曲）レッスン	試験曲への取り組み	4時間
第15回	**短いスラーと長いスラーを弾き分ける（ブルクミュラー1～25番より各自に応じて）、試験に向けて** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック ・ピアノ演奏曲（試験曲）レッスン ・弾き歌い課題曲（試験曲）レッスン ・各クラス毎（講師毎）に弾き合い会 ・夏休みの課題設定（習熟度に応じてピアノ演奏曲と弾き歌い曲）	試験曲への取り組み	4時間

授業科目名	**ピアノ演習Ⅳ**				
担当教員名	**楠田陽子・堀田久美・高田正子・竹山陽子・深井千聡・中井由貴子・三好一花**				
学年・コース等	4	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	個人レッスン形式でピアノ実技を指導します。１コマ90分の授業のうち15分程度が個人レッスン、75分程度は個人練習室での自習練習になり、ティーチングアシスタントがサポートにあたります。『模擬授業』『中				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本科目では①ピアノ演奏技術の習得と②弾き歌いの力のレベルアップ（レパートリーを増やすことを含む）の2点を通して、保育の現場で自信をもってピアノを使った音楽表現活動の指導と弾き歌いを実践する力をつけることをねらいます。
学生個人の習熟度に合わせて、きめ細やかな授業（個人レッスン）を行います。
1年次生から継続して身につけてきたピアノ技術の習得度をに更に高め、実習、採用試験に備えます。
中間発表会では互いの演奏を聴きあい、弾き合うことによって、聴く力を高め、豊かな感受性も養います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	ピアノ個人レッスンで演奏力、弾き歌いの力をつける。	幼稚園、保育園、学校現場で必要な演奏技術を身につける。
汎用的な力		
1 ．DP7.完遂		各年次ごとに設定された目標のグレードレベルの課題曲が弾ける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則3分の2以上出席した場合にのみ評価対象となる。
個人のレベルに応じたスムーズなピアノ技術修得のためには毎回出席することが望ましい。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	30%	： 毎回の宿題への取り組み度、完成度、受講態度を3段階で評価する。
基礎点	10%	： 目標グレードの到達度を点数化する。
実技試験（教則本）	30%	： 実技試験での教則本の演奏を点数化する。
実技試験（弾き歌い）	30%	： 実技試験での弾き歌いの演奏を点数化する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪成蹊学園音楽教育センター	こどもが大好きなうたの本 130 Children's Songs	大阪成蹊学園	2019年
バイエル	新訂　バイエル教則本	音楽之友社	1954年
ブルクミュラー	ブルクミュラー25の練習曲	音楽之友社	2005年

参考文献等

ソナチネアルバム１巻　音楽之友社　他
ソナタアルバム１巻　音楽之友社　他

履修上の注意・備考・メッセージ

毎日30分のピアノ練習を継続し、目標グレードを取得すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限
場所：　図書館棟6階音楽教育センター　ピアノレッスン室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** ・授業（レッスン）の進め方、成績評価の説明など ・春休みの宿題曲チェック ・次週の課題曲設定（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）	宿題曲への取り組み	4時間
第2回	**分散奏、３連符、声部の弾き分け、ワルツのリズム（ブルクミュラー1～25番より各自に応じて）** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック）チェック ・ピアノ演奏曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）	宿題曲への取り組み	4時間
第3回	**物語場面を弾き分ける、メロディーを歌う、同音連打、16分休符（ブルクミュラー1～25番より各自に応じて）**	宿題曲への取り組み	4時間

	・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック）チェック ・ピアノ演奏曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）		
第4回	**4声の弾き分け、舞曲のリズム、レガート奏法、和音のスタッカート（ブルクミュラー1～25番より各自に応じて）模擬授業曲設定** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック）チェック ・ピアノ演奏曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）	宿題曲への取り組み	4時間
第5回	**手の交差、付点リズムとスタッカート（ブルクミュラー1～25番より各自に応じて）、弾き歌い模擬授業にむけて** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック）チェック ・ピアノ演奏曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）	宿題曲への取り組み	4時間
第6回	**弾き歌い模擬授業** ・音楽室、または保育実習室を使った保育現場さながらの環境の中で、学生が１人ずつ弾き歌い曲を２曲発表する。 ・学生間で『相互評価シート』を記入し合い、終了後は該当の学生個々に配布し、振り返りの資料として活用するよう促す。 ・グループ毎に分かれて感想を述べ合い、上達するために必要なことを考察するし発表する。 ・講師講評	宿題曲への取り組み	4時間
第7回	**ソナチネの形式について（ソナチネアルバム1巻NO.4、7、8、他から各自に応じて）** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック）チェック ・ピアノ演奏曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）	宿題曲への取り組み	4時間
第8回	**2音間のレガート（ソナチネアルバム1巻NO.4、7、8、他から各自に応じて）** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック）チェック ・ピアノ演奏曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）	宿題曲への取り組み	4時間
第9回	**強弱をつけて（ソナチネアルバム1巻NO.4、7、8、他から各自に応じて）、中間発表会曲設定** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック）チェック ・ピアノ演奏曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）	宿題曲への取り組み	4時間
第10回	**レガートとノンレガート（ソナチネアルバム1巻NO.4、7、8、他から各自に応じて）** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック）チェック ・ピアノ演奏曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・次週の課題設定（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）	宿題曲への取り組み	4時間
第11回	**中間発表会** ・音楽室教室などを使って、学生が一人ずつピアノ演奏曲と弾き歌い曲を発表する ・学生間で『相互評価シート』を記入し合い、終了後は該当の学生個々に配布し、振り返りの資料として活用するよう促す。 ・グループ毎に分かれて感想を述べ合い、上達するために必要なことを考察するし発表する。 ・講師講評	宿題曲への取り組み	4時間
第12回	**トリルの弾き方、テンポの変化（ソナチネアルバム1巻NO.4、7、8、他から各自に応じて）、試験曲設定** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック）チェック ・ピアノ演奏曲レッスン ・弾き歌い課題曲レッスン ・実技試験曲設定（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲） ※指定する課題曲の中から設定するようにする	試験曲への取り組み	4時間
第13回	**16分音符をなめらかに（ソナチネアルバム1巻NO.4、7、8、他から各自に応じて）、試験に向けて** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック）チェック ・ピアノ演奏曲（試験曲）レッスン ・弾き歌い課題曲（試験曲）レッスン	試験曲への取り組み	4時間
第14回	**付点のリズム、左手の動き（ソナチネアルバム1巻NO.4、7、8、他から各自に応じて）、試験に向けて** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック）チェック ・ピアノ演奏曲（試験曲）レッスン ・弾き歌い課題曲（試験曲）レッスン	試験曲への取り組み	4時間
第15回	**後期実技試験にむけて（曲仕上げ）** ・今週の課題曲（ピアノ演奏曲と弾き歌い曲各1曲）の到達度チェック）チェック ・ピアノ演奏曲（試験曲）レッスン ・弾き歌い課題曲（試験曲）レッスン ・各クラス毎（講師毎）に弾き合い会	試験曲への取り組み	4時間

授業科目名	**伴奏法**				
担当教員名	**楠田陽子・村上優・高田正子・高木洋子・竹山陽子・安達萌**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	全体への学習内容の解説の後、指導者が模範演奏を示し、初回授業でグループ分けを行ったのちグループ指導と個別指導、個人練習による演習を行う。コードネームを用いた弾き歌いを学ぶと同時に、ピアノ演奏技				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

学校教育や保育の場において豊かな音楽表現活動を実践するにあたり、指導者として必要なピアノ伴奏法（コード弾き、アレンジ）を習得するとともに、豊かな音楽性、感受性、表現力を身につける。
毎回学習内容を解説した後、課題を指示し、個人指導・グループ指導の形で授業を行う。
教材には幼稚園、保育園、小学校低学年で実践されている程度の曲を扱い、ハ・ニ・ヘ・ト長調によるコードネームを用いた両手の弾き歌い、さらに伴奏形や前奏・後奏など、曲想に応じたアレンジを学び、応用的な実践力を習得する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育現場で弾き歌いをする際に必要となる音楽の基礎的知識を身に付け、演奏表現に生かすことができる。また、客観的に得たアイディアも自身の演奏に取り入れることができる。	小学校、幼稚園、保育園の現場で必要な演奏技能を身に付ける。
汎用的な力		
1 ．DP7.完遂		各授業で指示される課題曲が弾き歌いできるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則3分の2以上出席した場合にのみ評価対象となる。
個人のレベルに応じたスムーズなピアノ技術修得のためには毎回出席することが望ましい。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題の練習・受講態度 30%	：	課題の練習・取組み度、受講態度を点数化して毎回の授業毎に評価する：２点満点×15回
実技試験（課題曲2曲・コードネーム実技） 70%	：	テンポの選び方、リズム・音価の正確さ、弾き直し、声・歌詞の明瞭さ、曲想の捉え方（各４点）、コードに基づく伴奏付けやアレンジ（各10点）、以上が２曲とも完璧：60点 ・コードネームの基本理解：10点

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
音楽教育センター監修・編曲	こどもが大好きなうたの本　130　Children’s　Songs	大阪成蹊学園	2019年

参考文献等

必要に応じて適宜説明する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
授業課題を達成されるためには、毎回の授業に出席することが基本であり、それに加え、授業外での毎日の自主的な練習、丁寧な予習・復習が必要不可欠である。　十分な練習を踏まえて授業に臨むこと。
「ピアノ実技Ⅲ」単位を修得済みと同等のピアノ技術、楽典知識が必要となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜２限
場所：　西館６階音楽教育センター

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（授業概要の説明）、コードネーム導入** 授業の進め方・授業形態・成績評価の説明、クラス分け、指導者による到達目標レベルの模範演奏を行う。 コードネームの成り立ちを理解し、各調の主要三和音の転回形を学習する。	次回授業の予習	4時間
第2回	**ハ長調のコードネーム、伴奏付け** ハ長調のコードネームを学習し、課題曲を用いて演習を行う。	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第3回	**伴奏形のアレンジ　基本編①** ハ長調の課題曲を用いて、コードのアレンジ（リズム刻み）を学習する。	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第4回	**主要三和音以外のコード** マイナーコードの成り立ちを理解し、ハ長調の課題曲を用いて演奏方法を学習する。	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間

第5回	**伴奏形のアレンジ　基本編②** ハ長調の課題曲を用いて、コードのアレンジ（ベース+上二声、アルペジオ）を学習する。	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第6回	**ヘ長調のコードネーム、伴奏付け** ヘ長調のコードネームを学習し、課題曲を用いて演習を行う。	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第7回	**伴奏形のアレンジ　応用編** ヘ長調の課題曲を用いて、右手部分のアレンジ（複旋律、第二声部、合いの手）を学習する。	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第8回	**ト長調のコードネーム、伴奏付け** ト長調のコードネームを学習し、課題曲を用いて演習を行う。	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第9回	**移調** コードネームに基づく伴奏付けの移調課題に取り組む。	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第10回	**ニ長調のコードネーム、伴奏付け** ニ長調のコードネームを学習し、課題曲を用いて演習を行う。	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第11回	**主要三和音以外のコード（dim、aug）** 減三和音、増三和音の成り立ちを理解し、課題曲を用いて演習を行う。	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第12回	**弾き歌い発表会** 実践的な現場を想定して、実技試験と同じく一人ずつ演奏する形態での弾き歌い発表会を行う。 他学生のアレンジを聴いて、自身の演奏に取り入れる。	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第13回	**実践的な応用課題** 各々のレベルに応じて、より難易度の高いアレンジを学習する。	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第14回	**試験曲準備** 各々のレベルに応じて、試験曲の準備を行う。	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間
第15回	**個人アドバイス、まとめ** 試験曲の個人指導、伴奏法のまとめを行う。	授業の予習・復習、課題の弾き歌い練習	4時間

授業科目名	**器楽指導法**				
担当教員名	**奥田有紀**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、器楽合奏において必要な楽器の基礎知識、基本奏法、特性を理解することを目的とする。小太鼓を用いた基礎練習でリズム感覚、読譜力を向上させ、小学校で使用する楽器を中心に用いたアンサンブルから合奏へと発展させる。その過程で器楽のもつ音色の多様性、表現技巧の可能性を理解し、探究する。
各種楽器にふれて演奏技術を学び、指揮の体験、自ら合奏を楽しみ、達成感を味わうことを通じて、子どもへの指導方法を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	器楽に関する知識、演奏技術を学び、指導実践につなげる力を身につけることができる。	各種楽器の特性を理解したうえで、指導実践の方法を工夫し、考えることができる。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	音楽に関する自己の課題を省察することができる。
2 ．DP8.意思疎通	他者の意見（演奏）を踏まえて、自分の意志や主張を伝えることができる。
3 ．DP9.役割理解・連携行動	合奏を通じて自分の役割を理解し、他者と協力、連携し行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
棄権とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的参加	50%	： 授業への関心を持ち、意欲的に取り組んでいるか、楽器の準備など他者と協力ができているか、鑑賞において他者の課題を的確に伝えられるか、など総合的に評価する。
創作、演奏など授業内での発表	30%	： 授業内容を踏まえて独自の視点で創作できているかを評価する。 楽曲を理解し、音楽表現の工夫をして演奏できているか、合奏を主体的に取り組んでいるかを評価する。
試験	20%	： 合奏の中での演奏技術（実技）を中心とした評価をする。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する。
リズム基礎練習用のドラムスティックの購入を推奨する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜3限

場所： 教室

備考・注意事項： メールにて対応します。
yuki.percussion@gmail.com

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　「器楽を楽しもう」** 講師紹介を含めた各種楽器のデモストレーションを鑑賞する。器楽についての質疑応答を行い、授業の進め方、評価方法について説明を行う。最終授業で行う器楽合奏の発表について紹介する。	各種楽器について復習する。	4時間
第2回	**楽器の基礎知識、基本奏法、基礎技能について** リズム遊びを中心とした教材から、実際に各種楽器にふれ、基本奏法や楽器の仕組みについて学ぶ。小太鼓（スネアドラム）の基本知識、正しい奏法を学び、リズムアンサンブルを演習する。	リズム練習の復習、テキストの予習	4時間
第3回	**小太鼓を用いての基礎練習①　４分音符・８分音符を用いて** 小太鼓（練習台）を用いて、4分音符、8分音符から基本的奏法を確立できるよう演習する。グループごとにリズムアンサンブルを発表し考察する。	メトロノームに合わせて安定したリズムを打てるように復習する。	4時間

第4回	**小太鼓を用いての基礎練習②　３連符・１６分音符を用いて** 小太鼓（練習台）を用いて、4分音符、8分音符、３連符、１６分音符を中心としたアンサンブル曲の演習をし、グループ発表をする。また、小太鼓の特性と仕組み、メンテナンス方法を学ぶ。	メトロノームに合わせて安定したリズムを打ち、また指揮ができるように復習する。	4時間
第5回	**ボディパーカッション　からだを使って音楽を奏でよう！** からだから生まれる音を探す。ボディパーカッションの作品を用いて、これらの音色が奏法の工夫によって変化することを学ぶ。また楽曲を通じてアンサンブルの楽しみを体験する。	楽曲の復習、リズム創作の課題（課題1）	4時間
第6回	**鍵盤打楽器の基礎練習　メロディーを弾こう！** 鍵盤打楽器の実演を鑑賞し、基本奏法、鍵盤打楽器の特性と仕組みを学ぶ。 課題1の発表会をする。	鍵盤打楽器の復習	4時間
第7回	**打楽器アンサンブルの演習①　楽曲の解説と指揮の方法について** 打楽器全般を用いた楽曲を演習する。使用する楽器の紹介と奏法を詳しく解説し、指揮の方法について学ぶ。	楽曲の復習（譜読み、音名の記入、楽譜の製本など）	4時間
第8回	**打楽器アンサンブルの演習②　指揮の体験と個人、グループ練習** 打楽器全般を用いた楽曲を指揮者を選出して演習する。特に速度記号、強弱記号などに注意しながら個人練習、グループ別練習を行い、合奏の質を向上させ、アンサンブル力を高める。	楽曲の復習	4時間
第9回	**打楽器アンサンブルの演習③　楽器を用いて表現するとは。　発表と評価会** 各種楽器を曲想を感じ取りながら工夫をして演奏できるよう楽曲への理解を深める。個人練習の時間も取り、技術の向上を目指す。 発表と評価会を行う。	楽曲の復習	4時間
第10回	**器楽合奏①　楽曲の解説と指揮の方法について　楽曲【1】** 楽曲の紹介、解説をする。アンサンブルや合奏を指導する際に必要な知識や準備、楽器のセッティングの仕方について学ぶ。	楽曲の復習（譜読み、音名の記入、楽譜の製本など）	4時間
第11回	**器楽合奏②　表現力を身につけよう** 音楽性豊かな表現をするための奏法の習得を目標に演習する。また、指揮についても、より良い合奏にするには？、奏者の表現力を引き出すには？などを問い、振り方の工夫、合奏における指揮者の役割について学ぶ。	楽曲の復習、指揮の復習	4時間
第12回	**器楽合奏③　テンポと強弱に注意して、合奏を楽しもう** 指揮者を中心に、強弱に注意しながらゆっくりなテンポから曲を仕上げていく。問題のある部分の集中練習をして、合奏の質を上げる。	楽曲の復習、指揮の復習	4時間
第13回	**器楽合奏④　合奏を楽しもう** 各種楽器の正しい演奏法と特性をさらに理解し、楽曲の表現と結びつく奏法を工夫しながら合奏の楽しむ。指揮者を中心とした合奏をする。客観的に課題、問題点を見つけるために、ビデオ撮影をし、鑑賞する。合奏の進度によっては、楽曲【2】の取り組みをする。	楽曲の復習、自己課題のレポート	4時間
第14回	**器楽合奏⑤　合奏を味わおう** 試験に向けての個人技術の復習、合奏の質を向上させるための演習をする。	楽曲の復習、自己課題のレポート	4時間
第15回	**器楽合奏⑥　合奏のまとめと発表** 楽曲【1】、【2】の発表及び録画を行い、ビデオ鑑賞による評価会を行う。	楽譜を見直し、振り返りをする	4時間

授業科目名	**合唱指導法**				
担当教員名	**大澤弘之・安川裕子**				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

基本的な発声指導や指揮等の合唱指導に必要な技術と、児童の発達を踏まえた学校教育における合唱指導のあり方を理解させる。実際にアンサンブルや指揮の体験を通じて個々人の声の特性を活かした合唱を経験すると共にその指導方法を理解させる。教材曲としては小学校音楽科教科書に掲載されている作品や合唱曲、日本の伝統音楽としてのわらべ歌など、合唱指導に適した作品を取り上げる。さらに合唱指導について理解した内容を踏まえてグループでの合唱の指導実習を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

基本的な発声を理解し、アンサンブルの指導体験を行う。

目標：

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践

小学校での合唱指導の実践力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
数回の小レポート	30%	： 授業内容の理解を評価します。
発声実技	20%	： 発声を実践し評価します。
合唱アンサンブル演奏	30%	： 合唱アンサンブルを実践しその演奏内容を評価します。
歌唱実技試験	20%	： 歌唱実技能力を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月、水の午後

場所： 大澤研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、発声の基礎、合唱の魅力について** 発声の基礎や小・中学校での合唱についての資料を読み考察する。	発声に関する資料を読む。	4時間
第2回	**児童合唱、混声合唱各パートの声域、固定ドと移動ド** 固定ドと移動ドの基礎知識を知る、合唱を行うための読譜力を養う。 声域とパート分けについての説明	読譜練習を行う。	4時間
第3回	**「発声」の理解** 発声の際の姿勢・呼吸法について資料を読み理解する。正しい姿勢・呼吸法による色々な発声法を実践する	発声の資料を読みまとめる。	4時間
第4回	**小学校低学年における合唱指導** 小学校低学年における合唱曲を知り、その指導ポイントをまとめる。 わらべうた・輪唱・手遊びうたを実践するとともにその資料を読み理解を深める。	小学校低学年合唱曲の読譜練習を行う。	4時間
第5回	**小学校中学年における合唱指導** 小学校中学年における合唱を知り、その指導ポイントをまとめる。 ２部による合唱のハーモニーを感じながら実践するとともに、その資料を読み理解を深める。	小学校中学年合唱曲の読譜練習を行う。	4時間

第6回	**小学校高学年における合唱指導** 小学校高学年における合唱を知り、その指導ポイントをまとめる。 ２・３部による合唱のハーモニーを感じながら実践するとともに、その資料を読み理解を深める。	小学校高学年合唱曲の読譜練習を行う。	4時間
第7回	**グループ・アンサンブルによるわらべうた、輪唱、２部・３部合唱の実践** わらべうた・輪唱・２部・３部合唱の実践を通して小学校での合唱を理解する。	わらべうた、輪唱による合唱曲の読譜練習を行う。	4時間
第8回	**中学校における合唱指導と指揮法** 中学校における合唱を知り、その指導ポイントをまとめる。 合唱における指揮法を知り、実践する。	中学校合唱曲の読譜練習を行う。合唱指揮法に関する資料を読みまとめる。	4時間
第9回	**変声期** 変声期について知り、そのポイントをまとめる。 変声期における発声指導を考察する。	変声期についての資料を読みまとめる。	4時間
第10回	**色々な種類の合唱形態を知る** 児童合唱・女声合唱・混声合唱・男声合唱の演奏を鑑賞し、それらの特徴を知る。	授業で示された合唱曲を聴き感想をまとめる。	4時間
第11回	**学校における音楽会、合唱コンクール** 幼稚園、小・中学校における音楽会、合唱コンクールについて資料を読み、意見交換し考察する。	校内音楽会についての資料を読みまとめる。	4時間
第12回	**グループ・アンサンブル①** グループに分かれての合唱実践① 練習計画の立て方、練習方法について考察する。	読譜練習を行う。	4時間
第13回	**グループアンサンブル②** グループに分かれての合唱実践② 選曲と役割分担について考察する。	読譜練習を行う。	4時間
第14回	**グループアンサンブル③** グループに分かれての合唱実践③ 他のグループの練習を参考にしながら合唱指揮・伴奏の実践を行う。	読譜練習を行う。	4時間
第15回	**グループアンサンブル発表会** これまでの成果をグループ毎に発表し、互いに評価する。	録音を聴き意見をまとめる。	4時間

授業科目名	**歌唱指導法**				
担当教員名	**大澤弘之・安川裕子**				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

基本的な発声指導や合唱指導に必要な技術と、児童の発達を踏まえた学校教育における歌唱・合唱指導のあり方を理解させる。実際にアンサンブルや指揮の体験を通じて個々人の声の特性を活かした合唱を経験すると共にその指導方法を理解させる。教材曲としては小学校音楽科教科書に掲載されている作品や合唱曲、日本の伝統音楽としてのわらべ歌など、適した作品を取り上げる。さらに歌唱指導について理解した内容を踏まえてグループでの合唱の指導実習を行う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	基本的な発声を理解し、アンサンブルの指導体験を行う。	
汎用的な力		
1．DP6.行動・実践		小学校での歌唱・合唱指導の実践力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
数回の小レポート	30%	： 授業内容の理解を評価します。
発声実技	20%	： 発声を実践し評価します。
合唱アンサンブル演奏	30%	： 合唱アンサンブルを実践しその演奏内容を評価します。
歌唱実技試験	20%	： 歌唱実技能力を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月、水の午後
場所： 大澤研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、発声の基礎、歌唱・唱の魅力について** 発声の基礎や幼稚園、小・中学校での歌唱・合唱についての資料を読み考察する。	発声に関する資料を読む。	4時間
第2回	**各パートの声域、子どもの声域の考察** 歌唱を行うための読譜力を養う。 声域とパート分けについての説明する。	読譜練習を行う。	4時間
第3回	**「発声」の理解** 発声の際の姿勢・呼吸法について資料を読み理解する。正しい姿勢・呼吸法による色々な発声法を実践する。歌唱を行う為の読譜力を養う。	発声の資料を読みまとめる。読譜練習を行う。	4時間
第4回	**幼稚園・保育園などでの歌唱指導１** 幼稚園・保育園における合唱曲を知り、その指導ポイントをまとめる。 わらべうた・輪唱・手遊びうたを実践するとともにその資料を読み理解を深める。 歌唱を行う為の読譜力を養う。	幼稚園・保育園での歌唱曲の読譜練習を行う。	4時間
第5回	**幼稚園・保育園などでの歌唱指導２**	幼稚園・保育園での歌唱曲の読譜練習を行う。	4時間

	幼稚園・保育園における合唱曲を知り、その指導ポイントをまとめる。 わらべうた・輪唱・手遊びうたを実践するとともにその資料を読み理解を深める。 歌唱を行う為の読譜力を養う。		
第6回	**小学校低学年における合唱指導** 小学校低学年における合唱を知り、その指導ポイントをまとめる。 ２部による合唱のハーモニーを感じながら実践するとともに、その資料を読み理解を深める。 歌唱を行う為の読譜力を養う。	小学校低学年合唱曲の読譜練習を行う。	4時間
第7回	**小学校高学年における合唱指導** 小学校高学年における合唱を知り、その指導ポイントをまとめる。 ２・３部による合唱のハーモニーを感じながら実践するとともに、その資料を読み理解を深める。 歌唱を行う為の読譜力を養う。	小学校高学年合唱曲の読譜練習を行う。	4時間
第8回	**中学校における歌唱合唱指導１** 中学校における合唱を知り、その指導ポイントをまとめる。 歌唱を行う為の読譜力を養う。	中学校合唱曲の読譜練習を行う。	4時間
第9回	**変声期** 変声期について知り、そのポイントをまとめる。 変声期における発声指導を考察する。	変声期についての資料を読みまとめる。	4時間
第10回	**色々な種類の歌唱・合唱形態を知る。** 独唱曲、児童合唱・女声合唱・混声合唱・男声合唱の演奏を鑑賞し、それらの特徴を知る。	授業で示された独唱・合唱曲を聴き感想をまとめる。	4時間
第11回	**グループアンサンブル１** グループに分かれての合唱実践１ 選曲と練習計画の立て方、練習方法について考察する。	読譜練習を行う。	4時間
第12回	**グループ・アンサンブル２** グループに分かれての合唱実践２ 練習計画の立て方、練習方法について考察する。	読譜練習を行う。	4時間
第13回	**グループアンサンブル３** グループに分かれての合唱実践３ 合唱での役割分担について考察する。	読譜練習を行う。	4時間
第14回	**グループアンサンブル４** グループに分かれての合唱実践４ 他のグループの練習を参考にしながら合唱指揮・伴奏の実践を行う。	読譜練習を行う。	4時間
第15回	**グループアンサンブル発表会** これまでの成果をグループ毎に発表し、互いに評価する。	録音を聴き意見をまとめる。	4時間

授業科目名	**音楽療法**				
担当教員名	**加戸敬子**				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	音楽療法士として、障害や疾病をもつ乳幼児から高齢者までを対象に音楽療法を実施。（第１回～15回）				

授業概要

音楽には生理的・心理的・社会的なはたらきがあるといわれている。音楽療法とはそれら音楽の作用を用いて、こころやからだの障害の回復、病気や怪我のリハビリ、生活の質の向上（quality of life、QOL）などを目的に、音楽を意図的、計画的に使うことをいう。本授業では、音楽の起源と共に医療や呪術、儀式として扱われていた音楽療法の歴史を知り、現代の様々な領域のセッションを理論と映像を通して学ぶ。また、実際に楽器などを使用して音楽療法を体験し、音楽教育との違いを知った上で保育・教育現場で活用する手法を身に付ける。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	音楽療法についての基礎知識	音楽療法の目標、対象、手法を説明することができる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	障害や疾病をもつ人に対して、その時の心身状況に応じた音楽を提供する。	音楽が心身に与える効果を理解した上で発達支援としての音楽を保育・教育実践で発揮する力をつける。
汎用的な力		
1 ．DP5.計画・立案力		対象者に沿った音楽療法セッションプログラムを立てることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。
20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
振り返りシート14回	30%	： 各回の授業内でのまとめと考察を評価する。授業内容を踏まえ独自の考えが述べられていれば２点、授業内容に沿っていれば１点とする。
授業内でのワーク	30%	： ロールプレイにおける積極的参加を5段階で評価する。目的に沿って独自の発想が取り入れられていれば5点、積極的に取り組んでいれば4点、目的に沿っていれば3点、一部が目的に沿っていれば2点とする。
最終レポート	40%	： 音楽療法の目的と効果について自身の意見を述べる。次の観点から評価する。１．音楽療法の正しい理解　２．音楽療法と音楽教育の違いについて　３．教育・保育現場での音楽の使い方について

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『音楽療法の設計図』二俣泉、春秋社、1999年
『静かな森の大きな木』生野里花、春秋社　2001年
『統合保育・教育現場に応用する　音楽療法・音遊び』下川英子　音楽之友社、2009年
資料を適宜配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後
場所：　授業の教室、教育第９研究室（西館6階）
備考・注意事項：　授業の前後以外を希望する場合はメールにて問い合わせること　kato-hi@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（音楽療法のイメージをつかむ）** 授業の概要と評価方法について説明を行い、受講生の音楽歴や音楽療法に対するイメージの確認を行う。	振り返りシートの作成、自身の音楽との関わりについてまとめる	4時間
第2回	**音楽療法とは何か** 音楽の起源と音楽療法の歴史について知り、現代の日本における音楽療法の意義と位置づけを知る。	振り返りシートの作成、自身の考えるところの音楽の起源についてまとめる。	4時間
第3回	**音・音楽の作用**	振り返りシートの作成、自身にとって重要な意味をもつと思われる曲についてまとめる。	4時間

	音と聴覚について知り、音楽のもつ機能について学ぶ。音階における一つずつの音が持つ性格や調が人に与える影響について学ぶ。		
第4回	**高齢者と音楽療法** 認知症や高齢者うつに対する音楽療法の手法と効果について学び、実践されている歌唱や歌体操を体験する。ドキュメンタリー『パーソナル・ソング』から音楽と記憶について考える。	振り返りシートの作成、音楽と記憶について自身の考えと体験をまとめる。	4時間
第5回	**障害児と音楽療法** 様々な障害種と特性を知り、発達支援としての音楽療法を学ぶ。子どものセッションで使われる歌を目的別に紹介し、歌う。	振り返りシートの作成、授業内で紹介された歌を歌えるようにしておく。	4時間
第6回	**発達障害と音楽療法** 発達障害とその特性を知り、目標に応じた音楽の使い方を学ぶ。トーンチャイム、打楽器、小物楽器を使い定型発達児（者）と共に行う音楽活動の実践を行う。	振り返りシートの作成、授業内で実践した音楽を記録する。	4時間
第7回	**精神科病院での音楽療法** 精神病の種類と病態を知り、音楽での治療法について学ぶ。精神科デイケアで実践されているソングライティングを体験する。	振り返りシートの作成、授業内で作った音楽を楽譜にする。	4時間
第8回	**緩和ケアとしての音楽療法** ターミナルケアとこどもホスピスについて知り、院内での音楽療法について知る。記録映像からグリーフケア、スピリチュアルケアの意味と音楽の役割を学ぶ。	振り返りシートの作成、スピリチュアルケアについてまとめる。	4時間
第9回	**神経難病の音楽療法** 神経難病の病理と病態を知り、音楽による患者と家族への心理ケアについて学ぶ。また入院患者と在宅患者への音楽療法を映像を交えて知り、実態を考察する。	振り返りシートの作成、患者のリクエストした曲から、その意図を考えまとめる。	4時間
第10回	**創造的音楽療法** ノードフ・ロビンズの創造的音楽療法を記録映像を紹介しながら紹介する。即興演奏の基礎をピアノと打楽器による実践から学ぶ。	振り返りシートの作成、障害児と即興演奏についてまとめる。	4時間
第11回	**手作り楽器の制作** 身近にある材料を使って手作り楽器の作成とグループ演奏を行う。	振り返りシートの作成、事前に紹介した楽器作成に必要な材料を準備しておく。	4時間
第12回	**模擬セッションの計画** 小グループ毎に模擬セッションの計画を練る。想定する対象から主訴を設定しセッション形態と目的、全体の流れを考える。	振り返りシートの作成、セッション計画表を仕上げる。	4時間
第13回	**模擬セッションのプログラミング** 前回の小グループに分かれてセッション計画の具体的なプログラムを考え、使用曲と活動の内容を決定する。	振り返りシートの作成、セッション表を作成し使用曲の練習をしておく。	4時間
第14回	**模擬セッションのロールプレイ** 小グループ毎にセラピスト役、クライエント役に分かれ、ロールプレイを行う。	振り返りシートの作成、セッション後に気付き、反省をまとめる。	4時間
第15回	**まとめとロールプレイの評価** ロールプレイの振り返りを行うとともに全授業のまとめを行う。	振り返りシートの作成、最終レポートを作成する。	4時間

授業科目名	**造形遊び**				
担当教員名	**藤丸一郎**				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	国公立小学校勤務25年（教諭8、教頭2、副校長4、校長11）　公立中学校勤務10年（美術科教諭10）その間、図画工作科及び美術科の教科内容と指導法の実践研究を行った。　全15回を担当する。				

授業概要

造形遊びは、小学校学習指導要領において現在では全学年に位置づけられているものの、いまだ学校現場においては時間数においても内容面においても十分に行われているとは言い難い状況がある。原因のひとつは、教師の理解不足である。ここでは自ら体験することを通して「つくり出す喜び」と「造形遊びの魅力」を味わいながら、幼児期から6年生へとつながる造形遊びの段階的な内容を理解し、適切な環境設定や授業づくりが必要感をもって進められるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	**目標**：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	造形及び造形遊びに関する知識	様々な材料等による造形遊びを通して、その内容と魅力を理解し、授業を計画することができる。

汎用的な力

1 ．DP5.計画・立案力	発想力を発揮し、課題に創造的に取り組むことができる。
2 ．DP7.完遂	様々な課題に積極的に関わり、最後までやり遂げることができる。
3 ．DP8.意思疎通	他者の考えや取り組みに目や耳を傾け、自分の意図を言葉や物（作品）で伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		**評価の基準**
演習課題	40%	： 内容の独創性、造形性、妥当性について独自のルーブリックに基づいて評価します。
レポート・振り返りシート	30%	： 内容の妥当性、意見の論理性、振り返りシートの綿密さについて、独自のルーブリックに基づき評価します。
交流・活動への参加	15%	： 論理的で積極的な発言・姿勢などを独自のルーブリックに基づいて評価します。
期末レポート	15%	： 内容の妥当性、論理性を独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『小学校学習指導要領』『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』及びその解説 等、授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて準備や予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜３限
場所：　研究室（中央館２階）
備考・注意事項：　授業・会議等の時間を除いて、できるだけ対応をします。昼休みなどを利用して相談時間の調整に来てください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（講義目的と評価基準及び学習プランについて）** 自らの造形体験と「造形遊び」体験を交流して振り返り、学校現場における現状について整理します。 授業や演習時の約束･準備・姿勢について確認します。	自らの造形体験を振り返り、自分の考える「造形遊び」とはどのようなものかを考えておく。	4時間
第2回	**「造形遊び」と「造形表現」** ミニ演習による体験を通して、造形表現活動における「造形遊び」の位置・意義や学校園における誤解と課題について学び、改善の必要性を理解します。	幼稚園教育要領を確認し、表現領域の具体的な姿を考えてみる。	4時間

第3回	**小学校低学年の「造形遊び」内容と支援** 低学年の「造形遊び」について、図画工作科の他の内容領域と比較しながら体験し、目的やその実現方法の違いについて学びます。	領域「A表現」におけるア・イの活動の違いを確認する。	4時間
第4回	**造形遊びの材料研究（１）土・水・石** 土・水・石などの自然素材について、材料としての魅力と可能性や活用方法を体験とともに検討します。	材料（自然素材）の特性と可能性を整理する。	4時間
第5回	**自然素材を使った活動と授業づくり** 前時に検討したことを生かした活動について、体験を交えてグループワークで検討、授業化を図ります。	授業準備と授業の展開についての基本事項を考え、整理する。	4時間
第6回	**幼児期の造形活動と小学校低学年の造形遊び** 幼児の成長発達と「表現」領域に関わる遊びと「造形遊び」のつながりや違いを演習を体験しながら考え、整理します。	幼児の造形表現について確認する。	4時間
第7回	**小学校中学年の「造形遊び」の内容と支援** 中学年の「造形遊び」について、低学年の指導内容と比較しながら体験し、場所や材料の組み合わせ・変形のあり方について学びます。	具体例を調べ、学年による内容の変化を理解する	4時間
第8回	**造形遊びの材料研究（２）新聞紙・木・テープ** 比較的身近な材料について、その特徴や活用の可能性を交流するとともに、収集方法や場の設定について考えます。	身近な材料について、特性と可能性を整理する。	4時間
第9回	**小学校高学年の「造形遊び」の内容と支援** 材料の特徴とそれならではの場所や環境を生かした造形活動について体験を通して学び、準備や環境設定について課題や方法を検討交流します。	具体例から環境との関係を確認し整理してまとめる。	4時間
第10回	**造形遊びの材料研究（３）光･風・環境** 光・風や特徴ある環境を生かした活動を体験し、同様の具体例について交流。特性や活用法を学びます。	材料（光や風）の特性と活用法を考える。	4時間
第11回	**授業プランの作成と検討（１）低・中学年** 低中学年の違いを意識しながら授業プランを作成とその体験をおこない、学年に応じた設定のあり方を検討します。	同一材料による低・中・高学年の違いを意識したプランを考える。	4時間
第12回	**授業プランの作成と検討（２）高学年** 場所・環境や話し合い活動を意識した授業プランの作成し、体験を通して改善策を交流して学びます。	場所・環境を意識したプランを作成する。	4時間
第13回	**絵や立体に表す活動と造形遊び** 絵や立体に表す活動と造形遊びにおける指導目標や支援の違いを演習を通して体感し、理解を深める。	設定上、指導上の課題を整理し、解決法を考える。	4時間
第14回	**「造形遊び」の可能性（現状と課題をふまえて）** 既修の知識を生かして、始めに取り上げた課題の解決策と新しい材料や機器の活用による可能性について考えます。	自分にとって魅力的な指導事例を探し、その理由について説明する。	4時間
第15回	**総括・質疑応答** 講義を振り返り、指導や題材作成上の不安や疑問点について交流し、解決します。	全体を振り返り、造形遊びの指導のあり方についてまとめる。	4時間

授業科目名	**子どもとワークショップ**				
担当教員名	**藤丸一郎**				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	国公立小学校勤務25年（教諭8、教頭2、副校長4、校長11）　公立中学校勤務10年（美術科教諭10）その間、図画工作科及び美術科の教科内容と指導法の実践研究を行った。　全15回を担当する。				

授業概要

土・紙・絵の具・身近な材料・映像などの様々な材料・場所・環境に関わって、実際に感じたり、考えたり、つくったりするワークショップ形式の演習を行い、つくり出す楽しみを体全体の感覚を通して体験することを目指す。その体験を通して発見したことや感じたことについて常に「子どもの視点」と「指導者の視点」から整理することで、子ども理解を深めるとともに、より子どもがつくり出す喜びを味わうことのできる授業やワークショップにつながる可能性を考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	**目標**：
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	造形活動の楽しさと指導についての理解	多様な造形活動の経験を踏まえて、子どもと指導者の視点から指導について考えることができる。

汎用的な力

1 ．DP5.計画・立案力	豊かに発想し、構想しながら創造的に取り組むことができる。
2 ．DP6.行動・実践	目標に向かって主体的に、積極的に行動することができる。
3 ．DP9.役割理解・連携行動	状況に応じて役割を理解し、相互に調整して取り組みを進めることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		**評価の基準**
演習課題	50%	： 内容の独創性、造形性、計画性について独自のルーブリックに基づいて評価します。
小レポート	30%	： 内容の妥当性、意見の論理性や独創性について、独自のルーブリックに基づき評価します。
討議・活動への参加	10%	： 論理的で積極的な発言・姿勢などを独自のルーブリックに基づいて評価します。
期末レポート	10%	： 内容の妥当性、論理性を独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて準備や予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜３限
場所：　研究室（中央館２階）
備考・注意事項：　授業・会議・研究日等の時間を除いて、できるだけ対応をします。昼休みなどを利用して相談時間の調整に来てください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（目的の理解と評価基準及び学習プランについて）** 簡単な造形体験とともに、講義の目的・学習プランと演習の進め方・準備等について説明・確認する。併せて、目的達成のための受講姿勢について確認する。	ワークショップとはどのようなものかを調べ、自分なりのイメージを持っておく	4時間
第2回	**演習①：ワークショップ（高さ・バランス）** 「高さと安定」を意識して、アイデアを形にする造形ワークショップをとおして、既習の経験や知識を活用してつくる姿勢について考え、学びます。	自らの自然に関わる体験を振り返り、設定・感想・理由などを整理する	4時間
第3回	**ワークショップ検討（１）自然物から**	材料として扱えるものを考え、それぞれの特性を踏まえて整理する。	4時間

	身近な自然材料によるワークショップの検討を通して材料の可能性を検討するとともに、場の設定や指導の留意点について学びます。		
第4回	**演習②：ワークショップ（紙）** もっとも身近な素材である紙を使ったワークショップをとおして、その基本的な扱いや可能性、特性を生かす大切さを学びます。	紙に関わる自他の方法やアイデアを整理し、題材化を考える。	4時間
第5回	**ワークショップ検討（２）身近な材料から** 身の回りに目をむけ、手に入れやすい素材の収集法、活用の可能性について考え、情報の交流と整理をします。	身近な材料を具体的にあげ種類や特徴、収集法等で整理する。	4時間
第6回	**演習③：ワークショップ（絵の具）** 水彩絵の具の基本的な扱いに加えて、多様な活用法・表現技法等の魅力について体験を通して学びます。	絵の具のさまざまな技法について整理し、具体的な活用法を考える。	4時間
第7回	**ワークショップ検討（３）組み合わせて** 「組み合わせ」をキーワードに、材料・アイデア・作品など様々な組み合わせの可能性についてワークショップを通して検討する。	身の回りの作品や状況から魅力的な組合せを収集する。	4時間
第8回	**演習④：ワークショップ（写真・映像）** デジタルカメラ・スマートフォン等を用いて「みる・みつける」ワークショップを行い、写真・映像メディアを含むＩＣＴ機器の活用と可能性を作品の鑑賞交流を通して学びます。	新しい材料・機器が造形に関わる可能性について考えをまとめる。	4時間
第9回	**ワークショップ検討（４）みる・みせる** 「みる・みせる」をキーワードに、楽しくできる鑑賞ワークショップをミニ体験し、可能性と工夫について学びます。	生活に「鑑賞の能力」が活用される場面を具体例をあげてまとめる。	4時間
第10回	**演習⑤：共同ワークショップ（力を合わせて）** 共同で制作や作品を組み合わせるワークショップを通して、共同して考えたり、つくったりすることのよさや楽しさについて学びます。	個人制作と共同制作を比較し長所や短所を整理する。	4時間
第11回	**ワークショップ検討（５）みんなでつくろう** 共同制作のワークショップを考案・検討することを通して、留意点や課題について学びます。	課題をもとに共同制作のあり方について自分の考えをまとめる。	4時間
第12回	**演習⑥：ワークショップ（線とペン）** 線に関わるワークショップを経験し、線による表現と表現技法について考える。同時に、多様なペンの特性について学びます。	身近描画材料について特性を整理する。	4時間
第13回	**子どもの成長と表現** 子どもの成長とそれにもなう表現の方法の違いや変化を映像と体験を通して学びます。	幼児の絵の表現について調べ、整理する。	4時間
第14回	**演習⑦モダンテクニックの活用** モダンテクニックと総称される技法とそれを活用した造形表現の可能性について体験・交流し、授業での活用を考えます。	モダンテクニックについて調べ、活用法を含め整理しておく。	4時間
第15回	**総括・質疑応答** 経験したワークショップを受け手と指導者の両面から振り返り、指導者として大切にしたいことを共有します。	経験をふまえて、つくり出す楽しさにつながる指導のポイントをまとめる。	4時間

授業科目名	**材料研究**				
担当教員名	**福岡知子**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

この授業では、造形活動に必要な材料の研究を中心にして、教育者として知っておきたい各材料の特質や扱い方のポイントについて学んでいく。具体的には、表現や鑑賞の活動の楽しさを味わいながら、様々な材料についての造形に関する知識や技能を、実技を通して自分なりに考えていく授業である。また、児童の造形的な創造活動の意義について考察を深めるために、グループワークやディスカッションを組み入れて課題解決型の授業を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：
造形活動で使用する材料の研究を通して各素材を扱う力を身につける。

目標：
造形活動で使用する様々な材料を用いた制作方法を理解できる。

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践

共同制作を通し、協力して作品づくりを行い、作品理解を深めることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。※原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象となる。
制作に参加し、素材の体験や課題の展開方法を体得することが重要であるので、作品提出、授業態度を中心に評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的参加	30%	： 共同制作を通し、協力して作品づくりを行い、作品理解を深めることができているかで評価します。
作品提出	40%	： 課題はすべて提出することことが前提です。課題作品を自分なりに工夫して提出してください。
レポート提出	30%	： 学習を振り返ってレポートを書きます。材料体験を通して得た知識と材料についての自分の考えをまとめてレポートを提出してください。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

なし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
毎回準備物などの指示をするので忘れないようにすること。また材料等の購入が必要です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室
備考・注意事項： 詳細は、初回授業時に連絡する。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業ガイダンス** ・授業の目標と内容、進め方や評価の説明。 ・線で描く楽しさを味わい、グループで交流する。	シラバスの理解と授業内容の確認をする。線表現の課題を仕上げる。	4時間
第2回	**パスによる様々な表し方①** ・面塗り、混色、ステンシル、ぼかしなどの表し方の良さを味わう。	パスによる技法について調べる	4時間
第3回	**パスによる様々な表し方②** ・スクラッチ、フロッタージュ、バティック、カーボン、などの表し方の良さを味わう。	パスの表現方法について整理する	4時間
第4回	**パスによる表現** ・パスによる表し方の良さを生かして、表したいことに合わせて、表し方を工夫して制作に取り組む	パスの表し方の良さについてレポートを書く。	4時間
第5回	**水彩絵の具による様々な表し方①** ・濃淡、混色、明暗、透明、不透明、重職、にじみ、ぼかしなどの表し方の良さを味わう。	水彩絵の具の技法について調べる。	4時間
第6回	**水彩絵の具による様々な表し方②** ・モダンテクニックなどの表し方の良さを味わう。	水彩絵の具の表現方法について整理する。	4時間

第7回	**水彩絵の具による表現** ・水彩絵の具による表し方の良さを生かして、表したいことに合わせて、表し方を工夫して制作に取　り組む。	水彩絵の具の表し方の良さについてレポートを書く。	4時間
第8回	**紙による表現①** ・ハサミやのりの使い方を理解し、色紙を使った飾り切りの楽しさを味わう。	ハサミやのりの使い方のポイントをまとめる。	4時間
第9回	**紙による表現②** ・様々な紙の特質を知り、それぞれの紙の良さを生かした表現の在り方を考える。	様々な紙の種類と特質について調べる。	4時間
第10回	**紙による表現③** ・カッターナイフの使い方を理解し、紙による表現の楽しさを味わう。	紙による表し方の良さについてレポートを書く。	4時間
第11回	**版による表現①** ・版表現の内容を理解し、紙版画やコラージュ版画など版表現の楽しさを味わう。	版表現についての資料を熟読する。	4時間
第12回	**版による表現②** ・スチレン版画や木版画の効果的な表し方を味わう。	版表現の表し方の良さについて考察する。	4時間
第13回	**版による表現③** ・スチレン版画や木版画の刷りのポイントを体得する。	版表現の表し方の良さについてレポートを書く。	4時間
第14回	**粘土による表現①** ・様々な粘土の特性を理解し、粘土による表し方の良さを味わう。（その１）	粘土表現についての資料を熟読する。	4時間
第15回	**粘土による表現②と授業のまとめ** ・様々な粘土の特性を理解し、粘土による表し方の良さを味わう。（その２） ・制作した作品をファイリングし、各自振り返る	学習を振り返り、ポートフォリオを完成する。	4時間

授業科目名	**鑑賞教育**				
担当教員名	**藤丸一郎**				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	国公立小学校勤務25年（教諭8、教頭2、副校長4、校長11）　公立中学校勤務10年（美術科教諭10）その間、図画工作科及び美術科の教科内容と指導法の実践研究を行った。全15回を担当する。				

授業概要

鑑賞は従来、美術作品の鑑賞に重点が置かれ、様式や技術・技法に注目する傾向がみられた。しかし、子どもが自分の感覚や体験などを基に、自分たちの作品や様々な美術作品を見てよさや美しさを感じ取ったり、それについて話し合ったりする鑑賞活動を通して「鑑賞の能力」は高められる。また、鑑賞は表現活動と関連づけ、一体的にあつかうことで造形活動が充実し、豊かな生活へとつながっていく。それを授業に位置づけ展開するために必要な知識と方法を紹介し、ワークショップや実際の体験、発表を通して理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	鑑賞及び鑑賞教育に関する知識	鑑賞の能力育成を踏まえて子どもの鑑賞活動のあり方を理解し、計画できる。

汎用的な力

1 ．DP8.意思疎通	他者の意見に耳を傾け、自分の考えを丁寧に伝えることができる。
2 ．DP10.忠恕の心	それぞれの感じ方や考えを尊重し、取り組みを進めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
演習課題	40%	： 内容の独創性、妥当性について独自のルーブリックに基づいて評価します。
レポート	30%	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
活動・交流への参加	15%	： 積極的な発言・意思疎通を図る姿勢、他者の理解など、独自のルーブリックに基づいて評価します。
期末レポート	15%	： 内容の妥当性、論理性を独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜３限
場所：　研究室（中央館２階）
備考・注意事項：　授業・会議・研究日等の時間を除いて、できるだけ対応をします。昼休みなどを利用して相談時間の調整に来てください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（講義目的と評価基準及び学習プランについて）** 「鑑賞」の目標と学校現場における鑑賞活動や授業の現状から鑑賞教育の課題を知り、講義の目的と以降の学習プラン、定期課題、授業形態等について確認します。第14回の発表テーマを説明する。	自らの「鑑賞」経験を振り返り、授業時と日常生活の場面に分けてまとめておく。課題発表に向けての資料準備を行う。	4時間
第2回	**「鑑賞活動」と「表現活動」** 表現活動と鑑賞活動について、学習指導要領や生活場面から検討し、相互の関係やあり方について具体例と共に考えます。	学習指導要領における「鑑賞」を復習する。発表資料を収集整理する。	4時間
第3回	**人が「みる」ことについて** 「みる」ということについて、作品・表現の変化や進化する機器の影響などから整理し、学びます。	「写真やビデオ」の基本的な表現技法や歴史等について調べ、基礎知識をもっておく。	4時間

第4回	**授業における鑑賞活動の実際　(1)　形･色･イメージ** 模擬授業体験を通して、鑑賞の場面や内容、方法について、形・色・モチーフに注目しながら学びます	色の持つ意味と効果的に使っている例についてまとめる。	4時間
第5回	**授業における鑑賞活動の実際　(2)　イメージ** ワークショップを通して、作品のテーマ・内容・技法などに注目した鑑賞活動を体験し、鑑賞のあり方について考えます。	鑑賞の授業について指導事例を集め、準備物や方法、場の設定などについてまとめる。	4時間
第6回	**鑑賞とイコノロジー** 絵画作品の内容やテーマと宗教や文化による影響について学ぶ中で、小学校における鑑賞のあり方を考えます。	親しみのある絵画作品について既習の多様な視点から調べてみる。	4時間
第7回	**授業における鑑賞活動の実際(3)　アートゲーム** アートゲームによる鑑賞を体験し、その方法や価値の理解と活用した指導法を検討をすすめます。	興味のあるアートゲームを取り上げ、指導案を作成する。	4時間
第8回	**授業における鑑賞活動の実際(4)　みる･考える･話す** コミュニケーションを中心に対話型の鑑賞やグループワークなどの授業においての活用法を学びます。	対話型鑑賞について調べる。	4時間
第9回	**美術館を利用した鑑賞** 美術館を利用した鑑賞の計画・準備や方法について学び、具体的な方法を検討します。	身近な作品展に出向き、実体験を基に鑑賞の授業化について気づきをまとめる。	4時間
第10回	**鑑賞体験の交流** 鑑賞活動を体験し、それぞれの捉えや感じ方の違いの交流を通して鑑賞の多様な在り方の可能性を学びます。	鑑賞体験と活用方法をグループでまとめる。	4時間
第11回	**鑑賞と表現の一体化(1)　つくる～みる** 子どもが表現したものを鑑賞する場面における姿勢や留意点を意識した演習から、一体的な活動のあり方について考えます。	教科書の鑑賞題材を抜き出し、独自の基準で整理をしてみる。	4時間
第12回	**鑑賞と評価** 授業における様々な鑑賞活動における評価の考え方、方法や留意点について学びます。	指導略案とその具体的な評価について考える。	4時間
第13回	**鑑賞と表現の一体化(2)　みる～つくる** 写真撮影やアニメ作成の演習を通して、見る･見つける･感じ取る活動を生かして表現する授業のあり方を交流し、学びます。	必要な準備物を考え作成･収集しておく。	4時間
第14回	**鑑賞と生活** 第1回の予告にしたがって収集した写真や物を使って自分の視点をプレゼンテーションし、暮らしの中で身の回りのもののよさや美しさを感じ取って生きることについて、考える。携帯電話やインスタグラムなど現代の状況を含めて、自らの生活に生きる鑑賞を考えます。	街角のデザインに注目し、集めて発表の準備をする。	4時間
第15回	**総括と質疑応答** 授業の中や暮らしの中で、よさや美しさを感じ取り、生活に生かす力や態度を育むために必要なこと、できること、今後の展望について交流します。	これまでの学びを整理し、具体例とともにまとめておく。	4時間

授業科目名	**芸術療法論**				
担当教員名	**藤原雪絵**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	臨床心理士として精神科・心療内科のクリニックや学校、カウンセリングルーム等で芸術療法を実施				

授業概要

芸術療法は、芸術表現からパーソナリティの理解を深めたり、創造的活動がもつ治癒効果や生命力を強める効果を心理治療や教育場面に応用したりしようとする技法です。本科目では、まず、芸術療法の前提として必要になる、人間の心理 - 社会的発達や表現の発達、障害や病理についての心理学を学びます。それらの知識をふまえて、事例をとおして芸術療法の方法や対人援助のあり方を学ぶとともに、その心理的・教育的な効果や課題についても考察します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	芸術表現をとおした人間理解、対人援助のあり方を理解する	障がいのある人、社会的不利な環境におかれている人について、知識をもち、共感的に理解することができる。
2 ．DP1.幅広い教養やスキル	人間の心理-社会的発達や表現の発達について事例や自分の体験をもとに学ぶ	学んだ発達の知識をもとに、人間の心理や表現を理解する客観的指標を身につける
汎用的な力		
1 ．DP6.行動・実践		毎回の小レポート作成とフィードバックにより、主体的に課題を発見し、それについての省察を深めて実践につなげる
2 ．DP10.忠恕の心		心理学の知識獲得に加え、実際に心理検査などを体験することを通して、常に人の立場に立って考えることができるようになる
3 ．DP4.課題発見		発達や表現について得た知識をもとに、自分や身近な人への理解を深め、その心理、表現、対人関係について課題を見出せるようになる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内の小レポート	60%	： 各回2～4点×15回とする。 講義内容を踏まえて疑問点や問題点を論じることができていれば4点、自分なりの意見や感想を述べていれば3点、一般的な考えや感想は2点とする。
期末レポート	40%	： 重要概念の説明(20点)、講義内容を通して得た対人援助についての考え(10点)・自分自身についての考え(10点)が述べられているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『あなたと創る教育心理学―新しい教育課題にどう応えるか』羽野ゆつ子・倉盛美穂子・梶井芳明［編］ナカニシヤ出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。
毎回人の発達や心理的特徴とその表現について学ぶので、その回の授業の内容を丁寧に復習し、自分や自分の周りの人のあり方をもとに考えを深めること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間の前後
場所： 授業教室
備考・注意事項： 質問には授業前後に応じます。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 授業概要の説明、芸術療法の印象について話し合う。	芸術療法について自分が持つ印象を明確にする	4時間
第2回	**芸術療法とは(1)** 芸術療法という概念についての理解	なぜ心理療法に芸術を使うのか理解を深める	4時間
第3回	**芸術療法とは(2)―治療(cure)とケア(care)** 治療とケアの異同の理解	治療・ケアの違いについて復習する	4時間
第4回	**人間の発達と表現(1)　認知の発達と心理** 人間の発達(認知の発達と心理 - 社会的発達)	自分や身近な人をもとに発達について考える	4時間

第5回	**人間の発達と表現(2)　乳幼児期** 乳幼児期の発達と表現	講義を復習し、乳幼児への理解を深める	4時間
第6回	**人間の発達と表現(3)　児童期** 児童期の発達と表現	講義を復習し、自分の子ども時代を振り返る	4時間
第7回	**人間の発達と表現(4)　思春期・青年期** 思春期・青年期の発達と表現	現在の自分についての考えを深める	4時間
第8回	**人間の発達と表現(5)　成人期・老年期** 成人期・老年期の発達と表現	身近な大人を観察し、理解を深める	4時間
第9回	**芸術表現による人間理解(1)　心理検査** 心理検査における表現とその理解	心理検査の特徴を復習する	4時間
第10回	**芸術表現による人間理解(2)　事例・体験** 事例を通して理解を深める	表現から自分や身近な人への理解を深める	4時間
第11回	**心理療法としての芸術療法(1)　治療的側面** 治療的側面；心理臨床における表現とその理解	治療としての芸術療法について復習する	4時間
第12回	**心理療法としての芸術療法(2)　事例研究** 事例を通して理解を深める	事例を振り返り、人間の表現や心理について考えを深める	4時間
第13回	**ケアとしての芸術療法** 自己理解を深めるための表現	表現から自分について考える	4時間
第14回	**エデュケアとしての芸術療法** 教育における芸術療法	教育における表現の効用について考える	4時間
第15回	**芸術療法についてのまとめ** 講義全体のふりかえり・レポートの作成と提出	講義内容、自分についての理解や気付きについてまとめる	4時間

授業科目名	**外国語活動(小学校英語Ⅰ)**				
担当教員名	**赤沢真世**				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	私立中学校・高等学校英語科非常勤講師（1ヶ月×3年）の勤務経験（全15回）				

授業概要

急速なグローバル社会の進展に伴い日本も平成23年度より高学年で「外国語活動」が導入され、平成30年度からは教科「外国語」（高学年）、「外国語活動」（中学年）が導入される。本講義では、日本の小学校教育課程における外国語教育の位置づけや目標、また外国語を学ぶ際の発達段階、言語習得理論をふまえ、英語に関する基本的なことがら（音声、語彙、文構造、正書法など）について学修する。また、その際には、学習内容（指導内容）の学びなおしだけではなく、小学生に外国語を指導する視点を持った学びを進めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	小学校外国語活動をめぐる議論や必要となる外国語に関する内容を理解する。	小学校外国語活動をめぐる議論を踏まえ、外国語活動および外国語で扱う内容についての理解を深めるとともに、指導者目線で指導のあり方を考えることができる。

汎用的な力

1 ．DP5.計画・立案力	小学校外国語活動の理念を理解し、授業内容を理解した上で指導者目線で一定の時間をかけた活動を計画することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験レポート	40%	： 重要な語句、基礎的な知識を用いながら一定の時間における活動の指導案を作成する「活動案レポート」を作成する（40点）。
授業内課題	40%	： 毎回の小さな課題（計20点）やマイクロティーチング（1回、20点）でのにおいて、小学校外国語活動の理念や内容を踏まえているもの、児童観が適しているもの、オリジナリティーがあるものを評価する。
授業への参加度	20%	： それぞれの回におけるシャトルシートでの記述（15点）、授業での発言、姿勢を見る（5点）。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	小学校学習指導要領（外国語活動編・外国語編）	開隆堂出版	2018年
文部科学省	We Can! 1・2		2017年
文部科学省	Let's Try 1・2		2017年

参考文献等

・金森強・本田敏幸・泉恵美子編著『主体的な学びをめざす小学校英語教育』教育出版、2017年。
・酒井 英樹・滝沢 雄一・亘理 陽一『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ 小学校外国語科内容論』三省堂、2017年
・吉田研作『小学校英語教科化への対応と実践プラン』教育開発研究所、2017年。

その他、授業中、適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： オフィスアワー

場所：

備考・注意事項： オフィスアワー等については、初回の授業時に周知します。
その他は応相談。（メールアドレス：akazawa@osaka-seikei.ac.jp）

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：小学校外国語、外国語活動の意義と目標**	中国や韓国での英語教育について情報を探す。	4時間

	グローバル化の進展、英語話者・英語学習者の人口推移、ＣＥＦＲ、多言語主義について触れ、これから求められる英語教育、小学校での英語教育の必要性について考えます。また、外国語活動や外国語の授業のイメージを体験します。		
第2回	**学習指導要領に示された外国語、外国語活動の内容・指導方法、世界の小学校英語教育** 学習指導要領の外国語、外国語活動の目標・内容や指導方法について整理します。また、背景として、中国における英語学習、韓国における英語学習、ＥＳＬとＥＦＬ、早期英語教育の是非について学びを深めます。	外国語・外国語活動の理念について整理する。	4時間
第3回	**小学校外国語に関わる理論：言語習得理論、第二言語習得理論** 発達段階や第二言語習得理論からみる、外国語活動の利点やカリキュラムの構成についての注意点について考えます。TPRの理念や実践を学びます。	TPRを活用した活動を考えてくる。	4時間
第4回	**音声から文字へ（１）「外国語活動」における音声中心の学び** 外国語活動（３，４年）の副読本を用いて、とくに音声を重視した活動の内容を体験しながら、英語音声の特徴をとらえ、指導のポイントを考えます。	副読本から一つのチャンツ・歌をとりあげ、音声的特徴について分析する。	4時間
第5回	**音声から文字へ（２）「外国語」：発音と綴りの関係** 外国語活動、外国語を橋渡しする、発音と綴りの関係について学びます。また、副読本、教科書をその視点から分析し、指導のポイント（教材の体験、教材づくりなど）を考えます。	外国語の教科書のフォニックス指導場面をとりあげ、分析する。	4時間
第6回	**英語の音声から文字へ（３）書き方、ローマ字法** 外国語（高学年）における読み書きの指導内容を理解します。とくに書き方について指導のポイントとなる部分を分析します。	文科省配布のワークシートの分析を行う。	4時間
第7回	**指導内容の紹介（１）中学年：チャンツと歌、スモールトークの流れ、模範授業** 中学年の「外国語活動」の典型的な指導例を見たり体験して授業のイメージを持つとともに、具体的な指導内容や指導のポイントを理解します。	授業分析レポートをまとめる。	4時間
第8回	**指導内容の検討（１）中学年のテーマ単元の学修** 低学年や中学年の授業における絵本（児童文学）の活用や、テーマに応じたアクティビティー活動の設定について考えます。	副読本における単元分析レポートをまとめる。	4時間
第9回	**指導内容の紹介（２）高学年：語彙と表現、スモール・トークの流れ** 高学年の「外国語」の典型的な指導例を見たり体験して授業のイメージを持つとともに、具体的な指導内容や指導のポイントを理解します。	授業分析レポートをまとめる。	4時間
第10回	**指導内容の検討（２）高学年のテーマ単元の学修** 高学年の授業における教科内容との結びつきや、４技能統合型の活動（パフォーマンス課題）について考えます。	教科書における単元分析レポートをまとめる。	4時間
第11回	**指導内容の検討（３）パフォーマンス課題の取り組みと評価** 小学校英語におけるパフォーマンス課題とその評価の位置づけおよび在り方を学びます。また、単元構造と逆向き設計について学びます。	単元を定め、単元の構造を分析するレポートをまとめる。	4時間
第12回	**異文化理解を深めるための学習内容、マイクロ・ティーチング準備** 副読本、教科書、デジタル教科書にある異文化理解の側面について理解します。また、授業におけるポイントについて理解します。	マイクロ・ティーチングの準備	4時間
第13回	**マイクロティーチング・検討会（１）中学年（３，４年生）** コミュニケーション場面を設定し、とくに中学年での学習内容に重きをおいた指導のポイントを意識した模擬授業を行います。またその授業について協議します。 【マイクロ・ティーチングの実施】	マイクロ・ティーチングのふりかえりを行い、指導案の改良を行う。	4時間
第14回	**マイクロティーチング・検討会（２）高学年（5年生）** コミュニケーション場面において、とくに高学年での学習内容に重きを置いた指導のポイントを意識した模擬授業を行います。また、その授業について協議します。 【マイクロティーチングの実施】	マイクロ・ティーチングのふりかえりを行い、指導案の改良を行う。	4時間
第15回	**模擬授業・検討会（３）、総括** マイクロティーチングの実施、ふりかえりを行います。外国語・外国語活動の目標・内容、指導内容の整理をします。	レポート、課題に向けた準備	4時間

授業科目名	**外国語活動（小学校英語Ⅱ）**				
担当教員名	**赤沢真世**				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	私立中学校・高等学校英語科非常勤講師（1ヶ月×3年）の勤務経験（全15回）				

授業概要

小学校外国語活動、外国語の目標および内容についての理解を踏まえて、小学校中学年、高学年の発達段階を考慮した外国語活動、外国語の指導法を学ぶ。（とくにⅡでは、高学年の「外国語」により重きを置く）次に指導案作成の基本を学び、各指導過程のねらいを理解し、ねらいに応じた活動例をワークショップ形式で学ぶ。最後にマイクロティーチングを通して外国語の授業の実際を疑似体験し、授業をすすめる技能を高める。なお、全ての受講生は与えられた教材で指導案を作成する課題を提出しなければならない。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	小学校外国語活動の議論を踏まえた実践的計画力・実践力の向上	日本の小学校英語教育の流れ・展開を踏まえて、効果的な小学校「外国語活動」「外国語」のすすめ方を考えることができる。

汎用的な力

1 ．DP5.計画・立案力	学年や発達段階、また国際理解教育（ＥＳＤ）なども視野に、目的に合わせた指導計画を立てることができる。
2 ．DP6.行動・実践	具体的に一課を取り上げて、小学校高学年を対象にした「外国語」の指導案づくりのなかで、実践的な展開を構想することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期レポート（指導案の作成） 40%	：	指導案の作成：A+：目標ー評価の一貫性、教材教具の工夫、学習形態や展開に優れているもの（40点）、A　：目標ー評価の一貫性、教材教具が適切であるもの（30点）
授業中課題 40%	：	マイクロ・ティーチングでの評価を行う。細かい評価基準は授業中に示す。
授業への参加度 20%	：	毎回のシャトルシート（15点）、質疑応答に対する積極的な姿勢（5点）

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	小学校学習指導要領解説（外国語活動編・外国語編）	開隆堂出版社	2018年
文部科学省	We Can!　１・２		2017年
文部科学省	Let's Try！　１・２		2017年

参考文献等

・金森強・本田敏幸・泉惠美子編著『主体的な学びをめざす小学校英語教育』教育出版、2017年。
・酒井 英樹・滝沢 雄一・亘理 陽一『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ 小学校外国語科内容論』三省堂、2017年
・吉田研作『小学校英語教科化への対応と実践プラン』教育開発研究所、2017年。

その他、授業中、適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：　オフィスアワーは初回授業時に周知する。
オフィスアワー以外でも応相談。その場合は事前にメールでアポイントメントを取ること。
メール：akazawa@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

	授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**オリエンテーション　外国語活動・外国語における課題と教材の意義** 外国語活動・外国語の授業における教材の意義についてあらためて考えます。 コミュニカティブ・ティーチングの理論と概要について理解します。例えば「福笑い」の教材例をもとにした活動で、インフォメーションギャップを利用したコミュニケーション場 面を作り出す教材の意義を考えます。	「ふくわらい」の実践をもとに、外国語におけるすぐれた教材の要素を検討する。	4時間
第2回	**活動・指導方法（１）チャンツや歌の指導法** 英語独特の音声・リズムを体得するための教材例（チャンツ、ライムを中心に）を紹介します。実際にどのような指導方法とともに用いられるのかを体験し、指導技法を学びます。 有名なマザーグースや副読本に採用されているチャンツを実践的に学びます。	一つのチャンツを取り上げて、その指導のポイントを考える。	4時間
第3回	**活動・指導方法（２）絵本の意義と活用** 小学校英語でよく用いられる英語の絵本の特徴を理解し、英語における絵本の読み聞かせの技法を中心に学びます。	一つの絵本を取り上げて、読み聞かせのポイントを整理する。	4時間
第4回	**活動・指導方法（３）ゲーム・アクティビティーの指導** 小学校現場で用いられるゲームを紹介し、体験すること、また指導の留意点について理解します。小学校英語で求められる能力を高められるゲームの要素についても言及します	一つの課を取り上げて、指導形態や活動の系統性からアクティビティーの配置を分析する。	4時間
第5回	**活動・指導方法（４）コミュニケーション活動の指導、デモンストレーション** 自己表現の重要性について理解し、コミュニケーション活動を生みだす教材・課題について探究します。	一つのチャンツを取り上げて指導方法を検討する。	4時間
第6回	**教材（１）音声と文字の関係、フォニックス、読み書き指導** 言語環境としての文字指導・読み書き指導について小学校外国語活動で求められる目標・内容について検討するとととともに、身近な環境における文字への気付きをたかめる実践を検討します。	文字への気づきを促すゲームを考える。	4時間
第7回	**教材（２）デジタル教材・ＩＣＴ教材を活用した授業、異文化理解** デジタル・ICT教材の活用事例について学びます。また、英語を通した異文化理解の教材・事例の紹介を行い、近年注目されているＥＳＤの概念も取り入れた活動事例を検討します。	異文化理解をテーマにした実践を探してくる。	4時間
第8回	**教材（３）タスク・パフォーマンス課題** 単元最終に位置づく、パフォーマンス課題を体験、そこでの指導のポイントを学びます。 単元構想を逆向き設計の理論について、一つのレッスンを取り上げて、活動がどのように組まれるのかを学びます。	自己表現ができるパフォーマンス課題を提案する。	4時間
第9回	**評価論と具体的な方法** 具体的な指導の流れにおいて、評価の場面および中間評価、ふりかえりでの評価について学びます。振り返りシートやCan-do評価など、基本的な考え方を整理します。	課題において中間評価のあり方を考える。	4時間
第10回	**指導案作成・模擬授業・検討会（１）課題設定・教材** 発表および振り返りを行います。 授業者と子ども役にわかれ、子ども役は授業を受ける側からの分析・コメントを行います。	授業分析レポートの作成を行なう。	4時間
第11回	**指導案作成・模擬授業・検討会（２）授業の展開** 発表および振り返りを行います。 授業者と子ども役にわかれ、子ども役は授業を受ける側からの分析・コメントを行います。	授業分析レポートを作成する。	4時間
第12回	**中間まとめ・ふりかえり** 模擬授業（１）（２）を踏まえて、学校現場での実践ビデオと比較して、達成している点およびまだ到達していない点（指導力量）を検討します。	授業ビデオについての感想をまとめる。	4時間
第13回	**指導案作成・模擬授業・検討会（３）　多様な学力差を乗り越える** 発表および振り返りを行います。とくに、英語を通した焦点化児童への配慮について考えます。指導案における「留意点」の重要性、書き方を学びます。	授業分析レポートの作成。	4時間
第14回	**指導案作成・模擬授業・検討会（４）指導と評価の一体化** 発表および振り返りを行います。とくに、指導案における評価の観点の設定、書き方を学びます。	指導案レポートの作成準備。	4時間
第15回	**子どもを活かすクラスマネージメント、まとめ** 小学校英語の究極的な目的でもある、英語を通したクラスづくり、学級集団づくりという視点を最後に提示し、求められる小学校英語の授業、教材づくりを改めて考察します。	指導案レポートの作成、分析。	4時間

授業科目名	**子どもの安全と学校**				
担当教員名	三村寛一				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

学校安全の取り組みは、学校に関わる教職員のみならず地域と連携した取り組みが必要とされる。学校安全に関する学校安全管理計画や学校安全管理マニュアルの理解とその取り組み、点検個所のポイントと日常学校生活の中での安全確保の観点から概説する。また学校安全に関する知識をもとに実際に起った事故例をもとに討論を行いながら進めていき、学校安全に対する理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP1.幅広い教養やスキル

具体的内容：学校安全の意義を理解する

目標：学校安全について現状を深く理解する

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見

目標：学校安全について現状を把握し課題解決法を考察する

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
定期試験 50%	： 設問に理論的に解答できているか
課題レポート作成 20%	： ①課題に対して参考文献を活用し丁寧に作成されているか②型式と提出期限を守っているか
授業の取り組み状況 30%	： 教員からの質問に応じて的確に回答されているか

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて指示する。
小学校における　安全教育ハンドブック　大阪教育大学編著　ぎょうせい
ながお先生と考える　学校安全　３６のナラティブ　長尾彰夫編　教育出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　毎週月曜日の２限

場所：　中央館２階研究室

備考・注意事項：　特に無し

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　ー子どもとは、安全とは、学校とは** 子どもとは、安全とは、学校とはについて学習する。また、シラバスを基にこの授業の意義･必要性・14回の授業の概略について学習し、学生がこの授業の内容に興味・関心を持って参加出来るように説明をする。	子どもの安全について予習する	4時間
第2回	**安全の意義** 子どもの心身の発達と安全教育上の問題点について学習し、安全教育の必要性について学習する。	安全の定義について予習する	4時間
第3回	**特別講義「大阪教育大学附属池田小学校事件とその後」について** 大阪教育大学附属池田小学校校長から、附属池田小学校事件の内容とその後の対策について特別講義を受ける。	事例に基づいて課題を挙げる	4時間
第4回	**学校安全管理** 学校安全管理計画、学校安全管理マニュアルの理解とその取り組みについて理解し、学校安全管理の大切さを学習する。	学校安全管理について予習する	4時間
第5回	**学校施設の安全** 小学校施設の安全チエック点検箇所を点検し、日常学校生活の中での安全確保や、組織的な取り組みについて学習する。	学校施設の安全について予習する	4時間
第6回	**教科学習時の安全指導** 体育、理科、図画工作、家庭科等の教科学習時の安全指導とその事故例について学習する。	授業時の安全指導について予習する	4時間
第7回	**事例を用いたグループ討議（１）　教科学習時の事故**	授業中の事故事例について予習する	4時間

	体育、理科、図画工作、家庭科等の教科学習時の事故例について、5－6人のグループに分かれて討議し、その結果（事故例、原因、予防）について、グループの代表が発表する。		
第8回	**学校行事の安全** 遠足、課外活動、集団活動、体育的行事等の学校行事の安全について学習する。	学外活動における事故について予習する	4時間
第9回	**事例を用いたグループ討議（２）　学校行事での事故** 遠足、課外活動、集団活動、体育的行事中の事故について、5－6人のグループに分かれて討議し、その結果（事故例、原因、予防）について、グループの代表が発表する	学校行事における事故について予習する	4時間
第10回	**登下校の安全** 登下校における安全確保について安全マップを作成し、交通安全指導について学習する。	登下校時の安全について予習する	4時間
第11回	**事例を用いたグループ討議（３）　登下校時の事故** 登下校時の事故をテーマについて、5－6人のグループに分かれて討議し、その結果（事故例、原因、予防）について、グループの代表が発表する	登下校時の事故事例について予習する	4時間
第12回	**災害安全** 地震、津波、火事、風水害等の災害時に於ける身の守り方とその指導法について学習する。	災害安全ににについて予習する	4時間
第13回	**地域社会・家庭との連携** 学校、地域社会、家庭が連携を図った学校安全の推進について学習する。	地域社会との連携について予習する	4時間
第14回	**学校災害補償法　日本スポーツ振興センター** 学校での怪我や事故に対する保障（学校災害保障法）、日本スポーツ振興センター災害給付申請演習、裁判例について学習する。	学校災害補償について予習する	4時間
第15回	**総括と質疑応答** 14回の授業を振り返り、レポートにまとめる。	授業の振り返りを行う	4時間

授業科目名	**学校・施設ボランティア**				
担当教員名	**芝野淳一・鈴木勇**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本科目は、「学校インターンシップ」を履修した学生が、実習を通して身につけた知見をさらに展開・深化させるために設定した科目である。事前指導として、学校および教育・保育施設でのボランティア活動に必要な知識やマナーを確認した上で、実際に現場に出向きボランティア活動に取り組む。活動期間中は、毎回活動日誌を記し、気づいた課題を整理する等の振り返りを行い、次回の活動の目標を明確にしていく。活動終了後は事後リポートの作成及び報告会を実施し、ボランティア活動の総括を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	教育・保育現場でのフィールドワークを通じ、他者としての子どもの尊厳を尊重し共感的に接する。	自身の活動を省察し、教育観または保育観を深めることができる。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	観察力を身につけ、現状を的確に把握することができる。また、観察をもとにして課題を発見できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数（3分の2）以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
取り組みの状況	40%	：毎回の授業の受講態度（１０点）、課題に対する成果内容（１０点）、活動日誌の記入内容（２０点）を目安に評価する。
成果発表内容	30%	：体験活動が真摯に総括され今後の課題が明確になっている（３０点）、総括されてはいるが今後の課題が不明確である（２０点）、総括が不十分で今後の課題も不明確である（１０点）を目安に評価する。
期末レポート	30%	：自身の課題の明確化、課題の克服のための方法の把握、今後の学修に対する展望、の３つの基準を全て満たしている（３０点）、２つ満たしている（２０点）、１つ満たしてる（１０点）を目安に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業で随時、紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 下記参照

場所： 下記参照

備考・注意事項：
・オフィスアワー
【芝野】火曜５限（16：30～18:00）中央館5F個人研究室
【鈴木勇】金曜昼休み（12：10～13：00）中央館5F個人研究室
・授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメール（アドレス：suzuki-i@osaka-seikei.ac.jp　または　shibano@osaka-seikei.ac.jp）でも対応する。
その場合、件名に「学校・施設ボランティア：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス―本授業の目標・内容・評価等について** 本授業の目標・内容・評価等を確認するとともに、自らの学習課題を整理する	授業で指示された課題に取り組む。	4時間
第2回	**事前学習（１）学校・施設の概要を理解する** これから参入するフィールドの特性をよく理解する	これまでの学びを基に、教育コミュニティの趣旨を詳しく調べる。	4時間
第3回	**事前学習（２）活動に必要な事柄を理解する** 活動に当たって求められる知識や態度等をよく理解する	これまでの学びを基に、特別支援教育及び子育て支援について現状と課題を詳しく調べる。	4時間
第4回	**事前学習（３）学校・保育園などへの事前訪問**	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を丁寧に行い、次回の課題を明確にする。	4時間

	実習施設を訪問し、実習のルールを確認し、準備を行う		
第5回	**ボランティア活動（１）学校・施設の組織を理解する** 学校・施設の組織的機能についてよく理解する	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を丁寧に行い、次回の課題を明確にする。	4時間
第6回	**ボランティア活動（２）子どもへの全般的なかかわり方を理解する** 主に、子どもへの全般的なかかわり方を理解する	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を丁寧に行い、次回の課題を明確にする。	4時間
第7回	**ボランティア活動（３）子どもへの適切なかかわり方を理解する** 主に、子どもへの適切なかかわり方を理解する	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を丁寧に行い、次回の課題を明確にする。	4時間
第8回	**ボランティア活動（４）子どもへの主体的なかかわり方を理解する** 主に、子どもへの主体的なかかわり方を理解する	活動日誌の記述内容を基に、今後の課題を見出す。	4時間
第9回	**ボランティア活動（５）中間指導** これまでの活動を振り返り、今後の課題を明確にする	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を丁寧に行い、次回の課題を明確にする。	4時間
第10回	**ボランティア活動（６）子どもにより適切にかかわる** 主に、自分の役割を理解し子どもにより適切にかかわることを目標に置いて活動する	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を丁寧に行い、次回の課題を明確にする。	4時間
第11回	**ボランティア活動（７）学校・施設のスタッフと協働して活動する** 主に、学校・施設のスタッフと協働して取り組むことを目標に置いて活動する	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を丁寧に行い、次回の課題を明確にする。	4時間
第12回	**ボランティア活動（８）子ども理解の様々な視点を得る** 主に、より主体的にかかわり子ども理解の様々な視点を得ることを目標に置いて活動する	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を丁寧に行い、次回の課題を明確にする。	4時間
第13回	**ボランティア活動（９）今後の課題や展望を見出す** 主に、今後の課題や展望を見出すことを目標に置いて活動する	活動日誌の項目に沿って実地活動の省察を丁寧に行い、今後の課題を明確にする。	4時間
第14回	**事後学習（１）活動全体の振り返り** 本授業での全活動で得られた成果をレポートにまとめる	これまでの活動内容を真摯に振り返り、今後の課題を中心に総括する。	4時間
第15回	**事後学習（２）成果発表会** 成果発表を通じて学生間の交流を図ることによって、相乗的に各自の課題意識を高める	他の受講生の発表内容を参考にして、今後の課題をまとめる。	4時間

授業科目名	**教育の事例研究**				
担当教員名	羽野ゆつ子				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

主としてビデオを利用して実践映像をお互いに見あい、映像の事実にもとづいて参加者それぞれの判断や見解を交換していく授業である。実践の当事者として、相互に授業・実践を見る視点を学ぶことを目的とする。教育実践を多面的な視点から検討することで、協同で省察すること、実践と理論をつないで考えること、それらをとおして自分の子ども観察や教育観を見つめ問い直す。ここで省察した子ども観や教育観といった知が、インターンシップや教育実習などの実践場面で考えながら実践する思考スタイルを育むことにつながることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：省察の作法と実践の構想力

目標：実践を協同で省察することができる。省察にもとづき、授業観・保育観をみつめ、構想することができる。

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践

教育実践の主体として、考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合　　**評価の基準**

シャトルシート　45%　：各回３点。演習に参加し、事例のポイント理解した小レポートが書けていれば２点、独自の見解や具体的な事例に即して論述できていれば３点、不足があれば１点、重大な誤りや白紙に近い状態であれば0点とする。

演習課題　55%　：授業内ワークシートおよび演習課題を評価する。教育実践事例の特徴を考察しているか、 被教育経験にそくした考察、自分自身の授業観の省察がなされているかといった観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

稲垣忠彦・佐藤学 「授業研究入門」岩波書店 1996年
井藤元（編）『ワークで学ぶ　道徳教育』　ナカニシヤ出版　2016年
子どもと保育総合研究所（編）『子どもを「人間としてみる」ということ』　ミネルヴァ書房　2013年
副島賢和　『あかはなそえじ先生の ひとりじゃないよ: ぼくが院内学級の教師として学んだこと』　学研教育みらい　2015年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水・木・金の昼休み（12:20～12:50）

場所：　研究室（中央館２階研究室80）

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：事例研究の歴史と意義** 授業研究の方法としての事例研究の歴史と意義を学びます。	事例研究について理解を深める。	4時間
第2回	**事例研究のためのコミュニケーション（１）　聴くということ** カンファレンスとしての事例研究のためのコミュニケーションを学びます。	カンファレンスをとおして授業を見るということについて考える。	4時間
第3回	**事例研究のためのコミュニケーション（２）　授業を語り合う** 各自の被教育経験にもとづく授業観を交流します。	授業観をみつめる。	4時間
第4回	**教師と子どものコミュニケーション（１）** 保育・教育のなかでの教師と子どものコミュニケーションについて、見方を交流し、子どもの発達を関係論的にとらえます。	関係論的発達観について理解する。	4時間
第5回	**教師と子どものコミュニケーション（２）** 保育・教育のなかでの教師と子どものコミュニケーションについて、見方を交流し、教師と子どもの発達を関係論的にとらえます。	関係論的発達観についての理解を深める。	4時間
第6回	**子どもをみる（１）ー子どもをどのような存在としてみるか** 授業の一場面での子どもの様子についての見方を交流し、自分が子どもをどのような存在として見ているかをみつめる。	事例の内容をふりかえり、多様な子ども観を考察する。	4時間

第7回	**子どもをみる（２）ー題材に向かう子どもの姿をどうみるか** 授業で題材に向かう子どもの様子についての見方を交流し、自分が子どもをどのような存在として見ているかをみつめる。	事例の内容をふりかえり、子ども理解と授業実践の関連を考察する。	4時間
第8回	**子どもをみる（３）ー実践に顕れる教師の子ども観** 授業の一場面での教師の子どもに対する言動から、教師の子ども観と授業実践の関連を考察する。	事例の内容をふりかえり、子ども観と授業実践の関連を考察する。	4時間
第9回	**院内学級で学ぶ** 院内学級での学びの事例を考察する。	院内学級での学びの事例から、多様な子どもの教育ニーズについて考える。	4時間
第10回	**世界の教育（１）　ーアートの教育から** アートにまつわる世界の教育から、日本の教育を考える。	事例の内容をふりかえり、日本の教育課題を考える。	4時間
第11回	**世界の教育（２）　ーイタリア・レッジョエミリア** イタリア・レッジョエミリア市の幼児教育から、日本の教育を考える。	事例の内容をふりかえり、日本の教育課題を考える。	4時間
第12回	**世界の教育（３）ーフィンランド** フィンランドの教育から、日本の教育を考える。	事例の内容をふりかえり、日本の教育課題を考える。	4時間
第13回	**海外と日本の教育の比較（１）　前半** 海外と日本の教育の比較をとおして、日本の教育を考える。	事例の内容をふりかえり、日本の教育課題を考える。	4時間
第14回	**海外と日本の教育の比較（２）　後半** 海外と日本の教育の比較をとおして、日本の教育を考える。	事例の内容をふりかえり、日本の教育課題を考える。	4時間
第15回	**未来の授業を語り合う** 未来の授業を構想し、交流します。	授業全体をふりかえる。	4時間

授業科目名	**学校教育論**				
担当教員名	**服部敬一・芝野淳一**				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	服部敬一　　小学校教諭（２３年），小学校教頭（５年）、教育委員会指導主事（２年），小学校校長（７年）（全１５回）				

授業概要

学校を中心とした教育実践について、①ひろく歴史的・社会的・文化的な背景のもとに原理的に考察すること、②具体的な事例を科学的根拠を用いて考察することを目的とする。すなわち、学校教育を現場における実践的観点と学術界における理論的観点の両側面からとらえることがテーマとなる。教育学部１年生を対象とし、学校教育の全体像を理解してもらうために、現代の教育課題（担当：芝野）及び教師の活動（担当：服部）について、導入的な授業を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性		
１．DP1.幅広い教養やスキル	**具体的内容**： 教職における専門的知識の獲得	**目標**： 学校教育及び教職における最新課題に関する知識を理解することができる。
汎用的な力		
１．DP6.行動・実践		教育事象の成り立ちを科学的根拠を用いながら理解することを通じて、教育現場における具体的な実践を構想することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合　　**評価の基準**

シャトルシート　40%　：　芝野、服部（各20%）：主に「授業内容をふまえ、現代の教育課題について具体的なイメージを持てているか」「授業内容を理解し、自分の意見を持てているか」というという観点から評価。

ふりかえりテスト　60%　：　芝野、服部（各30%）：講義内容を踏まえ、「現代の教育問題について実践と理論を結びつけて論じることができているか」「様々の教育課題をとらえる」を問うテスト（論述、穴埋め、記号選択）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

【参考書・参考資料等】
（芝野）『学校にできること』/志水宏吉/角川学芸出版/2010年
『子どもの貧困』/阿部彩/岩波新書/2008年
『学校文化とジェンダー』/木村涼子/勁草書房/1999年
『外国人の子どもの教育』/宮島喬/東京大学出版/2014年
『教育という病』/内田良/光文社新書/2015年

（服部）『文部科学法令要覧』文部科学法令研究会/ぎょうせい/平成30年度版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワー等

場所：　研究室

備考・注意事項：　（服部）毎週水曜日2限･昼休み（10：30-13：00）、研究室で応じる。
（芝野）毎週火曜日5限（16：20-17:50）、研究室で応じる。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（担当：芝野淳一・服部敬一）** これからの授業の進め方、評価方法などについて理解します。 キーワードは、学校教育、教師、研究。	講義内容を配布資料を用いて復習し、以降の授業に備えよう。	4時間
第2回	**現代の教育問題（１） 教育問題を捉える視座（担当：芝野淳一）** 現代の学校教育における諸問題を捉えるための視座を、教育社会学の学問領域に依拠しながら提示します。 キーワードは、複眼的思考、教育社会学、エビデンス。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて整理しよう。	4時間
第3回	**現代の教育問題（２）学力と学校 （担当：芝野淳一）** 学校教育において学力格差が生じる要因と、格差を乗り越える学校の取り組みについて学びます。 キーワードは、学力格差、社会階層、効果のある学校。	講義の内容を配布資料及び指定した文献を用いて復習し、教育界における学力問題やその解決策に関する知識を深めよう。	4時間

第4回	**現代の教育問題（３） 貧困と学校（担当：芝野淳一）** 子どもの貧困とその連鎖の実態を理解し、それを断ち切るための学校の取り組みやスクールソーシャルワークの存在について学びます。 キーワードは、子どもの貧困、貧困の連鎖、スクールソーシャルワーク	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、学校現場における貧困問題やその解決策に関する知識を深めよう。	4時間
第5回	**現代の教育問題（４） ジェンダーと学校（担当：芝野淳一）** 学校におけるジェンダー問題について学び、男女格差やセクシャル・マイノリティといった事象について深く考えます。 キーワードは、ジェンダー、バックラッシュ、セクシャル・マイノリティ。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、学校におけるジェンダー問題やその解決策に関する知識を深めよう。	4時間
第6回	**現代の教育問題（５）エスニシティと学校（担当：芝野淳一）** ニューカマー外国人の子どもの教育問題について学び、多様なエスニシティに開かれた学校づくりの方途を探ります。 キーワードは、ニューカマー外国人、エスニシティ、多文化共生。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、学校において外国人児童が直面する問題やその解決策に関する知識を深めよう。	4時間
第7回	**現代の教育問題（６）事故と学校（担当：芝野淳一）** 学校事故の実態、要因、事故リスクを下げる方途について、科学的根拠に基づいて学びます。 キーワードは、学校安全、学校事故、教育リスク。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、学校で起こる事故リスクやその解決策に関する知識を深めよう。	4時間
第8回	**学校教育を「科学」する方法（担当：芝野淳一）** 現代の教育問題（１）～（６）の講義がすべてエビデンス（科学的根拠）に基づいて展開されてきたことを振り返り、エビデンスを獲得する方法としての社会調査法について学びます。 キーワードは、エビデンス・ベースド・アプローチ、社会調査法、量的・質的調査。	講義の内容を配布資料を用いて復習した上で、社会調査の技法を使った教育に関する文献を読んでみよう。	4時間
第9回	**教師の活動（１） 学校全体（全教師）で取り組む教育（担当：服部敬一）** 学校の教職員にはどのような人がいるのか，それぞれの役割の知る。学校教育法に基づく学校，保育所保育指針に基づく保育所，幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく幼保連携型認定こども園について，その組織について理解する。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，学校の人と組織ついて理解を深める。	4時間
第10回	**教師の活動（２） 学力向上と教師の指導力（担当：服部敬一）** 教師が子どもの学力向上に果たす役割，よい授業とは，子どもの学力と教師の指導力の関係等から授業において教師は何をすべきかについて理解を深める。	教師の活動（３） 講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，教師の職務と責任について理解を深める。	4時間
第11回	**指導における教師の指導技術（担当：服部敬一）** 教科指導における教師の技術にはどのようなものがあるか，教師の基本的な指導への姿勢，指導技術について理解を深める。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，教師の指導への姿勢，指導技術について理解を深める。	4時間
第12回	**教師の活動（４） 教師の指導力の向上と研修（担当：服部敬一）** 教師の指導力の向上に欠かすことのできない研修の意義や内容について理解を深める。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，研修，教材研究の意義について理解を深める。	4時間
第13回	**教育行政と学校教育（担当：服部敬一）** 学校教育法に基づく学校，保育所保育指針に基づく保育所，幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく幼保連携型認定こども園について，それぞれの特質と目的についての理解を深める。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，教育行政と学校の関係ついて理解を深める。	4時間
第14回	**教師の研修（１）研修の法的根拠からのアプローチ（担当：服部敬一）** 教師の指導力向上に向けた研修についての法的根拠を理解する。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，教師の指導力向上（教育方法からのアプローチ）にいて理解を深める。	4時間
第15回	**教師の研修（２）教師の修養からのアプローチ（担当：服部敬一）** 教師の指導力向上にむけた修養からのアプローチについて理解する。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，教師の指導力向上（教師研究からのアプローチ）にいて理解を深める。	4時間

授業科目名	**教育工学入門**				
担当教員名	**担当者未定**				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業の目的は「教育の情報化」に関する知識を身に付けることと、パソコンを用いて教材の作成の手法を身に付けることである。「教育の情報化」は授業をより魅力的、より効果的にする、あるいは学校業務をより効率的にする狙いがある。「教育の情報化」の学問的背景として教育工学がある。そこで、教育工学が、これまでにどのように発展し、現在、どのように利用されているのかを学びながら、自分が授業をした時に情報通信技術（ICT）をどのように利用すれば良いのかを学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

教育工学に関する基礎理論

目標：

教育での様々なICT利用について特色を整理することができる。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見

ICTの機器やシステムを学習の場面で適切に利用し、教育課題を解決することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回の授業における課題提出を前提とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の課題	50%	： 授業内容を理解した記述であること。自分が「ICTを利用して授業をする」という考察があること。
最終課題	50%	： 最終課題として、毎回の課題に関する総括としてのレポート。パソコンを用いて制作した教材を提出。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
赤堀侃司	・ 教育工学への招待　新版	・ ジャムハウス	・ 2013年

参考文献等

参考書・参考資料等については、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： ※初回授業時に周知します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、教育工学について** 当該授業の目標、学習内容、評価について説明します。「教育工学とは何か、なぜ必要か」を話し合ってもらいます。	授業で話し合った結果と自分の意見を含めてレポートを提出する。キーワード：教育工学	4時間
第2回	**学びのモデル(1)－記憶、目標、行動主義** 記憶の階層、達成目標理論、行動主義の学習の考え方について、具体例を通して学びます。これらの考え方が、教育の場面にどのように適用できるかを話し合ってもらいます。	授業で話し合った結果と自分の意見を含めてレポートを提出する。キーワード：記憶の階層、達成目標理論、行動主義	4時間
第3回	**学びのモデル(2)－認知主義、構成主義** 認知主義及び社会構成主義の学習の考え方について、具体例を通して学びます。これらの考え方が、教育の場面にどのように適用できるかを話し合ってもらいます。	授業で話し合った結果と自分の意見を含めてレポートを提出する。キーワード：認知主義、社会構成主義	4時間
第4回	**教育の評価(1)－総括的評価、形成的評価**	授業で話し合った結果と自分の意見を含めてレポートを提出する。キーワード：総括的評価、形成的評価	4時間

	総括的評価、形成的評価（パフォーマンス評価を含む）について、具体例を通して学びます。これらの評価が、教育の場面にどのように適用できるかを話し合ってもらいます。		
第5回	**教育の評価(2)－コンピュータテスティング** 代表的なコンピュータテスティングであるS-P表、ISR分析、項目応答理論について、具体例を通して学びます。コンピュータテスティングが、教育の場面にどのように適用できるかを話し合ってもらいます。	授業で話し合った結果と自分の意見を含めてレポートを提出する。キーワード：コンピュータテスティング	4時間
第6回	**視聴覚機器** 古典的な視聴覚機器を含めた体系と、現在の教育メディアについて、具体例を通して学びます。これらが、教育の場面にどのように適用できるかを話し合ってもらいます。	授業で話し合った結果と自分の意見を含めてレポートを提出する。キーワード：視聴覚機器、教育メディア	4時間
第7回	**ICTの潮流(1)－コンピュータ、インターネット** コンピュータ及びインターネットの概要について、具体例を通して学びます。これらの技術が、教育の 場面にどのように適用できるかを話し合ってもらいます。	授業で話し合った結果と自分の意見を含めてレポートを提出する。キーワード：コンピュー タ、インターネット	4時間
第8回	**ICTの潮流(2)－ダイナブック、ハイパーリンク** ダイナブック、ハイパーリンク、マルチメディア、ソーシャルネットワークなどの考え方について、具体 例を通して学びます。これらが、教育の場面にどのように適用できるかを話し合ってもらいま す。	授業で話し合った結果と自分の意見を含めてレポートを提出する。キーワード：ダイナブック、ハイパー リンク	4時間
第9回	**学習支援システム(1)－テーティングマシーン、シミュレーター** 古典的なテーティングマシーン、CAIなどの学習支援システムと、クリッカー、シミュレーターについて、具体例を通して学びます。これらの考え方が、教育の場面にどのように適用できるかを話し合 ってもらいます。	授業で話し合った結果と自分の意見を含めてレポートを提出する。キーワード：クリッカー、シミュレーター	4時間
第10回	**学習支援システム(2)－eラーニングシステム、LMS** eラーニングシステム、LMSについて、具体例を通して学びます。これらのシステムが、教育の場面にどのように適用できるかを話し合 ってもらいます。	授業で話し合った結果と自分の意見を含めてレポートを提出する。キーワード：eラーニングシステム、LMS	4時間
第11回	**学習支援システム(3)－eポートフォリオシステム** eポートフォリオシステムについて、具体例を通して学びます。このシステムが、教育の場面にどのように適用できるかを話し合 ってもらいます。	授業で話し合った結果と自分の意見を含めてレポートを提出する。キーワード：eポートフォリオシステム	4時間
第12回	**教務支援システム** 教務支援システムについて、具体例を通して学びます。このシステムが、教育の場面にどのように適用できるかを話し合 ってもらいます。	授業で話し合った結果と自分の意見を含めてレポートを提出する。キーワード：教務支援システム	4時間
第13回	**情報モラル、情報セキュリティ、情報法** 情報モラル、情報セキュリティ、情報法（個人情報保護法など）について、具体例を通して学びます。これらを教育の場面で、どのように定着できるかを話し合 ってもらいます。	授業で話し合った結果と自分の意見を含めてレポートを提出する。キーワード：情報モラル、情報セキュリティ、情報法	4時間
第14回	**情報教育** 情報教育（学習指導要領の観点、学校現場での特徴的な取組み）について、具体例を通して学びます。情報教育を初等教育の場面に、どのように適用できるかを話し合 ってもらいます。	授業で話し合った結果と自分の意見を含めてレポートを提出する。キーワード：情報教育の特徴的な取組み	4時間
第15回	**総括（総合演習）** これまでに学んだ知見をふまえ、教育工学がどのような教育課題に適用できるかをグループで議論し、発表してもらう。	グループで話し合った結果と自分の意見を含めてレポートを提出する。キーワード：教育工学、教育課題	4時間

授業科目名	**海外教育演習**				
担当教員名	**橋本隆公・芝野淳一**				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

オーストラリア（ケアンズ市）あるいはグアム（米国）の小学校の視察および現地の教員や児童との交流を通して、現在のオーストラリアあるいはグアム（米国）における学校教育の実情を知り、それらの国の学校教育を比較することを通して、日本の教育文化の特質を深く理解し、子どもの教育に実際にかかわっていく際の課題意識を幅広く高めていく。本演習は、大学での事前指導、オーストラリア（ケアンズ市）あるいはグアム（米国）での保育園・幼稚園・小学校・在外教育施設等での実地演習、大学での事後指導で構成されている。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	オーストラリア（ケアンズ市）あるいはグアム（米国）の小学校の視察	各国の学校教育を比較することを通して、日本の教育文化の特質を深く理解し、課題意識を幅広く高めていく。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	子どもの教育に実際にかかわっていく際の課題意識を幅広く高めていく。
2 ．DP6.行動・実践	各国の子どもの教育に物怖じすることなく、かかわっていく力を身につける。

学外連携学修

有り　（連携先：サンシャインデイケアセンター・TAS・エッジヒル小学校など）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題レポート	40%	： 実地演習を通して得た知識を本学所定のルーブリックにて評価する。
成果発表内容	30%	： 事後学習における実地演習を通した学びを本学所定のルーブリックにて評価する。
取り組み状況	30%	： 実地演習中の複数の施設訪問プログラムへの参加状況を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日5限（橋本・芝野）
場所：　橋本：中央館2階　芝野：中央館5階

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　渡航に関するガイダンス、および、全体スケジュールの共通理解** 大学にて、次の3つのガイダンスを行う。第1部は、教員による授業の目的・概要・スケジュールの説明とする。第2部は、旅行担当者からの渡航に関する説明とする。第3部は、教員と旅行担当者から、グアム（米国）とオーストラリアの概要を紹介する。	文献研究レポート	4時間
第2回	**事前学習（１）　オーストラリア・グアムの歴史・文化・風土（※日本との交流史を含む）** 大学で、オーストラリア・グアムの歴史・文化・風土（※日本との交流史を含む）を知り、日本も含めた複数地域を比較することで、オーストラリア・グアムの課題を発見する。	課題発見レポート	4時間
第3回	**事前学習（２）　オーストラリア・グアムの教育事情（現地にて子どもと交流する活動の準備）** 大学で、オーストラリア・グアムの教育事情を知り、日本も含めた複数地域を比較することで、オーストラリア・グアムの子どもたちとの交流活動の準備に取り組む。	実地演習先についてのレポート	4時間
第4回	**事前学習（３）　地域別教育課題（現地にて教員と交流する企画の準備）**	実地演習先での活動計画と質問の立案	4時間

	大学で、地域別教育課題について、実地演習を通して解決できる要素を整理し、現地にて教員と交流する企画の準備に取り組む。		
第5回	**実地演習（１）　オーストラリアまたはグアム** 現地滞在中に関するオリエンテーションを行う。	訪問施設①の午前の活動のレポート	4時間
第6回	**実地演習（２）　オーストラリアまたはグアム** 幼児教育に関する現地視察を行う。	訪問施設①の午後の活動のレポート	4時間
第7回	**実地演習（３）　オーストラリアまたはグアム** 幼児教育に関する施設で、子どもと交流活動を行う。	訪問施設②の午前の活動のレポート	4時間
第8回	**実地演習（４）　オーストラリアまたはグアム** 幼児教育に関する現地視察を振り返る。	訪問施設②の午後の活動のレポート	4時間
第9回	**実地演習（５）　オーストラリアまたはグアム** 初等教育に関する現地視察を行う。	訪問施設③の午前の活動のレポート	4時間
第10回	**実地演習（６）　オーストラリアまたはグアム** 初等教育に関する施設で、教員と交流企画（ディスカッション）を行う。	訪問施設③の午後の活動のレポート	4時間
第11回	**実地演習（７）　オーストラリアまたはグアム** 現地で歴史・文化・風土などについて実感を伴いながら理解する。	見学施設に関するふり返り	4時間
第12回	**実地演習（８）　オーストラリアまたはグアム** 現地で実地演習全体を振り返る。	実地演習全体についてのふり返り	4時間
第13回	**実地演習の振り返り・考察** 大学で、それぞれの実地演習を振り返り、課題について考察する。	発表用レジュメの作成	4時間
第14回	**レポート作成（※発表を含む）** 大学で、課題について、実地演習を通して探究したことをレポートにし、口頭でプレ発表する。	発表用プレゼンの作成	4時間
第15回	**まとめ　オーストラリア・グアムの教育事情と実地演習の往還を図る** 大学で、レポートの活用したポスターセッション形式の相互評価を通して、日本の教育文化の特質を深く理解し、子どもの教育に実際にかかわっていく際の課題意識を幅広く高めていく。	最終レポート作成	4時間

授業科目名	**教育インターンシップⅠ**				
担当教員名	**石田貴子・辻村敬三・加藤博之・村田観弥・川島裕子**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	辻村：京都府立聾学校教諭（6年）、京都府小学校教諭(14年）、京都府教育委員会指導主事（7年）の勤務経験（全15回） 加藤：大阪市立小学校教諭（17年）、校長（８年）、大阪市教育委員会事務局（13年）の勤務経験（全15回）				

授業概要

教育インターンシップⅠは、実習の一環として位置づけられる。１年次に行った見学実習を受けて、長期にわたり保育・教育現場での活動に継続的に取り組む中で、保育者・教員等の子どもにかかわる仕事に関する資質･能力を高めていく。毎回目的を持って活動し、子ども達とのかかわり方やその他の業務を体験するとともに、そこで得られるさまざまな気付き･学びを日誌に記録し、省察することで、業務内容と１日の流れを理解していく。さらに、記録に基づく交流を行い、自己の課題を明らかにした上で、教育インターンシップⅡの学びへとつなぐ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	**目標**：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	実際に保育・教育現場に身を置くことによって、求められる専門的な知識や技能を理解し、また日常的な業務内容にも理解を深める。	保育者・教育者として求められる専門的知識・技能を的確に述べることができる。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	求められる専門的な知識や技能について、自身の課題を見出すことができる。
2 ．DP8.意思疎通	他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		**評価の基準**
授業への参加度	20%	： ノート筆記、ワークシート等への取り組み、発言等の意欲的な受講態度をもとに評価する。
課題達成度	50%	： 日誌の記入内容（業務内容の理解度、課題発見及び課題克服への意欲や態度等）等をもとに評価する。
期末レポート	30%	： 自身の現場体験を真摯に振り返り、今後の学修への展望を持つことができているかをもとに評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で連絡

場所： 初回授業で連絡

備考・注意事項： ＜授業外での質問の方法＞
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールおよびオフィスアワーでも対応する。
メールアドレスやオフィスアワーなどは初回の授業で周知します。
ただし、件名に「教育インターンシップⅠ：質問：〇〇〇〇（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価等について）** 本授業の目標・内容・課題・評価等を確認していきます。	シラバスを読み、授業及びインターンシップについてイメージを持つ。	4時間
第2回	**インターンシップ活動の意義と目的および注意すべき事項について** インターンシップ活動の意義と目的および注意すべき事項を確認していきます。	インターンシップに臨むに当たって、必要な事項をまとめておく。	4時間

第3回	**インターンシップ先についての事前学習及び自らの目標課題設定** インターンシップ実習先についての事前学習内容を確認した上で、自らの目標課題を設定していきます。	インターンシップに臨むに当たって、実習先の校園の概要について調べておく。	4時間
第4回	**インターンシップ報告書の記入と提出及び記録の記入について** インターンシップ先での事前訪問結果を明確化し、インターンシップ記録の記入法について学びます。	インターンシップ先の教育･保育方針及び内容、施設面等の特徴を詳しく調べ、まとめておく。	4時間
第5回	**インターンシップの省察（1）** インターンシップでの学びを振り返ります。	インターンシップ記録を作成し、学びと自身の課題を明確にする。	4時間
第6回	**インターンシップの省察（2）** インターンシップでの学びを振り返ります。	インターンシップ記録を作成し、学びと自身の課題を明確にする。	4時間
第7回	**インターンシップの省察（3）** インターンシップでの学びを振り返ります。	インターンシップ記録を作成し、学びと自身の課題を明確にする。	4時間
第8回	**グループ討議　（1）** これまでのインターンシップでの学びを振り返り、グループで交流することを通して、成果と課題についての理解を深めます。	これまでの現場体験を振り返り、学びと自身の課題をまとめる。	4時間
第9回	**インターンシップの省察（4）** インターンシップでの学びを振り返ります。	インターンシップ記録を作成し、学びと自身の課題を明確にする。	4時間
第10回	**インターンシップの省察（5）** インターンシップでの学びを振り返ります。	インターンシップ記録を作成し、学びと自身の課題を明確にする。	4時間
第11回	**インターンシップの省察（6）** インターンシップでの学びを振り返ります。	インターンシップ記録を作成し、学びと自身の課題を明確にする。	4時間
第12回	**インターンシップの省察（7）** インターンシップでの学びを振り返ります。	インターンシップ記録を作成し、学びと自身の課題を明確にする。	4時間
第13回	**グループ討議　（2）** これまでのインターンシップでの学びを振り返り、グループで交流することを通して、幼児･児童への具体的な関わりのあり方を検討していきます。	これまでの現場体験を振り返り、幼児･児童への具体的な関わりについての学びと自身の課題をまとめる。	4時間
第14回	**報告書作成と発表会について** インターンシップでの学びを明確化します。	これまでの現場体験を総括し、今後の課題を明確にする。	4時間
第15回	**まとめと質疑応答** インターンシップ全体を振り返ります。	他の受講生の振り返りを参考にし、今後の課題設定をさらに明確にする。	4時間

授業科目名	**教育インターンシップⅡ**				
担当教員名	**加藤博之・村田観弥・川島裕子**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	村田：兵庫県立特別支援学校の児童福祉施設内の分教室にて勤務経験（4年）、及び幼稚部を含めた指導経験（全15回） 加藤：大阪市立小学校教諭（17年）、校長（８年）、大阪市教育委員会事務局（13年）の勤務経験（全15回）				

授業概要

教育インターンシップⅡは、実習の一環として位置づけられる。教育インターンシップⅠを受けて、長期にわたり保育・教育現場での活動に継続的に取り組む中で、保育者・教員等の子どもにかかわる仕事に関する資質･能力を高めていく。毎回目的を持って活動し、子ども達とのかかわり方やその他の業務を体験するとともに、そこで得られるさまざまな気付き･学びを日誌に記録し、省察することで、インターンシップⅠでの学びをさらに深める。記録に基づく交流を行い、自己の課題を明らかにした上で、教育･保育実習での学びへとつなぐ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	**目標**：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	実際に保育・教育現場に身を置くことによって、求められる専門的な知識や技能を理解し、また日常的な業務内容にも理解を深める。	保育者・教育者として求められる専門的知識・技能を的確に述べることができる。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	求められる専門的な知識や技能について、自身の課題を見出すことができる。
2 ．DP8.意思疎通	他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・その他(以下に概要を記述)
　必要に応じて、ゲストスピーカーを呼ぶ場合がある。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		**評価の基準**
授業への参加度	40%	： ノート筆記、ワークシート等への取り組み、発言等の意欲的な受講態度をもとに評価する。
課題達成度	50%	： 日誌の記入内容（業務内容の理解度、課題発見及び課題克服への意欲や態度等）等をもとに評価する。
期末レポート	10%	： 自身の現場体験を真摯に振り返り、今後の学修への展望を持つことができているかをもとに評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で連絡
場所：　初回授業で連絡
備考・注意事項：　授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス：後日連絡
ただし、件名に「教育インターンシップⅡ：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（教育インターンシップⅠの体験学習を踏まえ、本授業の目標・内容・評価等について）** 本授業の目標・内容・課題・評価等を確認していきます。	授業で指示された課題に取り組むこと。	4時間

第2回	**インターンシップ活動の意義と目的および注意すべき事項について** インターンシップ活動の意義と目的および注意すべき事項を確認していきます。	インターンシップに臨むに当たって、必要な事項をまとめておく。	4時間
第3回	**インターンシップ実習先についての事前学習及び自らの目標課題設定** インターンシップ実習先についての事前学習内容を確認した上で、自らの目標課題を設定していきます。	インターンシップに臨むに当たって、実習先の園の概要について調べておく。	4時間
第4回	**インターンシップ報告書の記入と提出について** インターンシップ先での事前訪問結果を明確化します。	インターンシップ先の保育・教育方針及び内容、施設面等の特徴を詳しく調べ、まとめておく。	4時間
第5回	**インターンシップの省察（１）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第6回	**インターンシップの省察（２）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第7回	**インターンシップの省察（３）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第8回	**グループ討議　（１）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第9回	**インターンシップの省察（４）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第10回	**インターンシップの省察（５）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第11回	**インターンシップの省察（６）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第12回	**インターンシップの省察（７）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第13回	**グループ討議　（２）** インターンシップでの学びをふりかえり、具体的な関わりのあり方を検討していきます。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第14回	**報告書作成と発表会について** インターンシップでの学びを明確化します。	これまでの現場体験を総括し、今後の課題を明確にする。	4時間
第15回	**まとめと質疑応答** インターンシップ全体をふりかえります。	他の受講生の振り返りを参考にし、今後の課題設定をさらに明確にする。	4時間

授業科目名	**教育実習事前事後指導（小学校）**				
担当教員名	**加藤博之・赤沢真世**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	加藤：大阪市立小学校教諭（17年）、校長（８年）、大阪市教育委員会事務局（13年）の勤務経験（全15回） 赤沢：私立中学校・高等学校英語科非常勤講師（1ヶ月×3年）の勤務経験（全15回）				

授業概要

教育実習に必要な基本的事項や教育実習参加についての参加要件（参加資格審査要件を満たしているかの確認）や事務手続き（実習参加カード）、心構えなどについて講義し、教育実習に対する目的意識を明確にする。そして、教育実習が効果的に行われるようにする。
教育実習参加後は、教育実習の総まとめをし、実習日誌の整理、実習校への対応などを含め自己評価させ、教育実習参加体験の交流や発表会などを行い、実習体験の有効的な活用をはかる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：
実際の小学校で今までの学修内容や教育の理論を確認し、自らのものとする。

目標：
小学校現場での実習を通して今までの授業内容を実際に使用する。

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践

研究授業やそれにつながる授業を指導教員の指導の下に行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合　　**評価の基準**

事前講義への参加度　60%　：　教育実習への参加について、事前事務手続きを確実に行うこと。また、教育実習参加の心構えをきちんと持ち、各教科学習や講義内容の再確認などを適切に行えるかをみる。授業中の課題への取組みを含む。

実習記録の記述内容　40%　：　本講義で指示された記述方法や教育実習参加校での指導、巡回担当指導教員の指示どうり教育実習日誌が記述されているか。また、自分なりの課題や疑問を持って記述されているかどうかなど。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考書・参考資料等
柴田義松、木内剛編 『教育実習ハンドブック』 学文社 2012年
その他、必要に応じて紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、実習時期もばらばらであるので通年を通じた断続的な講義内容となるが、毎回必ず参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：　（加藤）初回授業時に周知する。

（赤沢）初回授業時に周知する。他の時間帯は事前にメールでアポイントを取ること。
メールアドレス　akazawa@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（教育実習の意義・目的）** 大学で学修した理論と教育実践とを結ぶ機会が教育実習であることを確認します。	教育実習に対する心構えを確かなものにするための考えを持つ。	1時間
第2回	**教育実習参加資格について** 実習参加時までの成績表を基に、実習参加の可否を判断します。	3年生までの成績を整理しておく。	1時間
第3回	**学校というところ（１）（学校の1年、教員の事務など）** 実習する学校の概要をHPや教員の話からつかみます。	実習でお世話になる各学校の様子を事前調査する。	1時間
第4回	**学校というところ（２）（学校の1日、教員の職務など）** 「教職論」で学修したことを基に、学校での過ごし方を考えます。	教員の服務についてまとめる。	1時間

第5回	**教育実習の内容（教育課程、学級経営、学習指導、生活指導など）** 児童の教育をつかさどることを具体的に考えます。	教員の1日の生活がどのようであるかを調べること。	1時間
第6回	**学校現場の声を聴く（現職教員またはそれに代わる教員の講話）** 教育実習生を受け入れる立場の学校から、教育実習とは何かを考えます。	講話に対する感想や学校現場がどんな気持ちで実習生を受け入れているかを考える。	1時間
第7回	**教育実習の依頼について（参加手続き、心構えなど）** 教育実習参加時までの詳細について様々な打ち合わせを行わなければならないことを知り、シュミレーションします。	教育実習参加時までの事務手続きや教育実習参加への心構えを自分なりに整理しておく。	1時間
第8回	**教育実習参加体験談** 講話（もしくはそれに替わる話）を聞き、実習参加への心構えを強固なものにします。	教育実習参加時までの事務手続きや教育実習参加への心構えを自分なりに整理しておく。	1時間
第9回	**指導案の書き方（教材研究、授業、発問、板書など）** 指導が想定される教科について、指導案の作成を行います。	指導案サンプルにもとずいて、何種類かの指導案を作成する。	1時間
第10回	**実習記録ノートの書き方（子どもの観察、研究授業、授業観察）** 実習日誌の書き方について、具体項目に沿って学修し、そのポイントを学びます。	事前調査で判明している部分について、実習日誌にあらかじめ記入する。	1時間
第11回	**実習直前指導** 各実習指導教員から個別注意事項などの指導を受けます。	実習指導担当教員と連絡を取り、教育実習がスムーズに行われるようにしておく。	1時間
第12回	**実習参加直前個別指導（実習参加体験の交流）** 体験談（もしくはそれに替わる話）を聞き、実習参加に遺漏がないか確認します。	体験談（もしくはそれに替わる話）を基に、自分の今持っている力これから補わねばならない力を整理する。	1時間
第13回	**実習参加直後個別指導（実習参加レポートの作成）** 実習日誌（記録）を整理し、実習について省察します。	実習日誌の整理	1時間
第14回	**実習のまとめ、実習記録の整理と自己評価** 実習日誌（記録）や参加レポートを基に、実習について整理、自己評価を行います。	実習日誌の整理。	1時間
第15回	**実習の評価と総括（報告会を含む）** 実習参加を振り返り、代表者が報告を行います。	自分自身の実習を振り返る。	1時間

授業科目名	**教育実習事前事後指導（幼稚園）**				
担当教員名	**吉次豊見・松阪崇久・清水真由子・加藤博之**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	吉次：公立幼稚園にて教諭として勤務(12年)（全15回） 加藤：大阪市立小学校教諭（17年）、校長（８年）、大阪市教育委員会事務局（13年）の勤務経験（全15回）				

授業概要

教育実習（幼稚園）に必要な基本的事項と心構えについて講義し、教育実習に対する目的意識を明確にし、教育実習が効果的に行われるようにする。実習はそれまでに学んだ授業を統合させるものであることから、すでに学んだことがらを十分に活かして実習準備に取り組むことが必要である。教育実習参加後は、教育実習の総まとめをし、実習日誌の整理、実習園への対応などを含め自己評価をするとともに、教育実習参加体験の有効的な活用をはかる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	保育者の専門知識と技能および職業理解	教職および教育課題についての知識をもち、保育教材の研究を行い保育技術の基本を身につける。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	保育技術と実践	保育技術の基礎を体得した上で、自らの実践を省察しつつ保育を計画する力を身に付ける。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		自らの実践を省察し、課題を見つけることができる。
2 ．DP5.計画・立案力		保育を計画し、実践に繋げることができる。
3 ．DP6.行動・実践		保育技術の基礎を身につけ実践することが出来る。
4 ．DP7.完遂		実習に向けての事務的な諸手続を完遂することができる。
5 ．DP9.役割理解・連携行動		保育者の協働、実習生同士の協働について理解し、連帯行動をとることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的参加 20%	：	各回の取り組み（1点×15回）：授業外学修に取り組み、積極的に演習に参加している。発表（5点）：全体での発表に関して、積極性や回数内容を総合して評価する。
課題達成度 30%	：	各回の課題（2点×15回）：授業での学びを踏まえ、深く丁寧に考察できている（2点）、授業での学びを踏まえ、一通り考察できている（1点）
指導計画案 10%	：	8～10点：指導案の書き方を理解し適切な記述ができ保育を行う準備ができている。漢字などの誤字脱字もほとんどない。5～7点：記述等に課題がある。4点以下：大きな課題がある。
模擬保育関係 10%	：	8～10点：幼稚園を想定した保育を行う準備が適切にできている。5～7点：いずれかに課題がある。4点以下：いずれにも大きな課題がある。
実習後レポート 20%	：	16～20点:実習の成果と自己の課題、次の学修目標が明確に述べられている。10点～15点：いずれかに課題がある。9点以下：いずれにも課題がある。
諸手続の遂行 10%	：	個人調査票の提出などの諸手続きが滞りなく行われていれば10点として、不備があるごとに減点する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省 厚生労働省　内閣府	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園・保育要領　＜原本＞	チャイルド本社	2017年
長島和代（編）	これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える　保育の基本用語	わかば社	2014年
長島和代（編）	これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える　保育のマナーと言葉	わかば社	2013年

参考文献等

『幼稚園教育実習』林邦雄・谷田貝公昭監修　一藝社　2012年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　各教員初回授業時に指示する

場所：　各教員研究室　初回授業時に指示する

備考・注意事項：　【吉次】yoshitsugu@osaka-seikei.ac.jp
【加藤】katoh-h@osaka-seikei.ac.jp
【松阪】matsusaka@osaka-seikei.ac.jp
【清水】shimizu-m@osaka-seikei.ac.jp
Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（教育実習の意義・目的）** 授業の目標、内容そして評価の仕方などについて理解する。 実習に向けての諸手続きについて知る。	シラバスを読み、授業の概略を理解する。	1時間
第2回	**教育実習参加資格について** 履修登録認定、実習参加認定について知る。 実習に向けて準備するべきことを知り、実習開始までのスケジュールをたてる。	成績表をもとに実習参加資格を確認し、実習までのスケジュールを立てる。	1時間
第3回	**幼稚園実習の意義** 幼稚園教育実習の意義や目的を確認する。また、自己課題を把握し、大学での理論研究を幼稚園で総合的に実証研究するためのあり方や幼児への接し方などを学ぶ。	実習ハンドブックを予習・復習する。	1時間
第4回	**日誌・記録の意義** 体験を整理し、確認すること、保育への深い理解を目指して記録をとるということ、明日へつなぐために記録をとること、指導者から助言をいただくため、といった記録の意義を学ぶ。	これまでの実習の記録を見直す。	1時間
第5回	**指導計画案の作成について** 子どもの発達段階を十分に把握した上で指導計画案をたてることができるようになる。 独創的な活動を発案し、子どもが楽しんで活動できることを一番に考えてみる。	実習予定幼稚園に合わせて、部分実習指導案を作成する。	1時間
第6回	**現場の声を聴く（幼稚園教諭の講話）** 実習において充実した学びが得られるように現場の教員の話を注意深くきく。	学んだことがらを実習準備に以下得るように書き残しまとめる。	1時間
第7回	**教育実習の依頼について（参加手続き、心構えなど）** 実習生としてどのような態度であれば望ましいのかを自らの力で考え、行動に移す。	実習に向けての事務手続きの流れを理解し、基本的なマナーを身に付ける。	1時間
第8回	**教育実習参加体験談** これまでの実習体験をお互いに話し合い・分かち合う。	これまでに参加した実習の記録を持ち寄り体験を分かち合う。	1時間
第9回	**さまざまな教育方針の幼稚園** 幼稚園の教育方針は、その地域性や沿革などによって大きく異なることを知る。	教育目標の成り立ちを知り、自分の実習先の教育目標、地域性、沿革などを調べてくる。	1時間
第10回	**実習生としての姿勢** 新しい出会いを通して実習生としてどのように成長していきたいかを具体的にイメージする。	教育実習の全体の流れを理解し、各段階における学びのスケジュールをイメージしてまとめる。	1時間
第11回	**実習直前指導** 実習園を訪問する際の身だしなみや振る舞いなどの復習をする。	自信をもって実習に臨めるように最後の準備及び心構えを確認する。	1時間
第12回	**実習参加直前個別指導（実習参加体験の交流）** ひとりひとりの準備を確認し、同時にお互いの準備の状況について交流する。	実習園毎に実習準備の最終段階を確認する。	1時間
第13回	**実習参加直後個別指導（実習参加レポートの作成）** 実習記録の仕上げを行い、体験を振り返る。	実習園における体験を分かち合う作業を通して、体験を客観的に振り返りまとめる。	1時間
第14回	**実習のまとめ、実習記録の整理と自己評価** 4週間の実習の総まとめを行い、記録の整理をしながら自分自身の実習を評価する。	実習参加レポートを完成させる。	1時間
第15回	**実習の評価と総括** 自己評価と指導者からの評価を統合させ、自分のこれからの育ちへと活かす。 保育者になるため、自らの課題を明らかにし、今後の成長へと歩みだす。	保育職に就くという目標に向かっての課題をみつける。	1時間

1

授業科目名	**介護等体験（施設）**				
担当教員名	**村田観弥・寶學淳郎**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中学校勤務時の交流学級担当教員の経験、及び特別支援学校にて勤務した経験（児童福祉施設内の分教室を含む）を踏まえ、具体的事例をもとに講義する（全15回）。				

授業概要

高齢介護および障がい者支援の基礎知識を修得し、社会福祉施設と特別支援学校の目的と授業内容に関する基礎知識を修得する。社会福祉施設（5日間）と特別支援学校（2日間）における事前学習、事後学習を行う。具体的には、演習的方法も一部取り入れた準備学習、実習中の指導助言、学びと課題を明確にするための事後学習をおこなう。
また、本授業は義務教育免許取得者には必修の授業であり、免許申請時に体験記録証明書が求められる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP1.幅広い教養やスキル

具体的内容：義務教育学校の教員として持つべき考え方や態度の修得。

目標：他者の尊厳を尊重して共感的に接する態度を持つことができる。

汎用的な力

1 ．DP10.忠恕の心

義務教育に携わる教員としてのあり方を涵養することができる。

学外連携学修

有り　（連携先：大阪府教育委員会、大阪府社会福祉協議会）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
日誌 40%	：	日誌の記述内容や考察。
介護等体験への参加（事前事後指導含む） 50%	：	事前・事後のガイダンスやオリエンテーションへの出席、特別支援学校、施設での実習への参加度。
期末レポート 10%	：	実習のまとめとしてのレポートの提出

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

全国特別支援学校長会／介護体験ハンドブック　フィリア／ジアース教育出版会
その他、授業で必要な資料（HOW　TO　介護　大阪府社会福祉協議会など）を配布するとともに、適宜参考書を紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は集中授業を行う。特に実習に当たっては「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、実習に向けて準備をすること。また、実習前には実習施設についてのガイダンスを行うので必ず参加すること。また、施設実習は各担当教員による個別指導が行われるので担当教員と連絡を取り、実習に備えること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後
場所：　授業教室
備考・注意事項：　授業時間外でも質問に応じます。
オフィスアワー等については、初回の授業時に周知します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**本授業の目的と評価法について** 介護等体験特例法により介護等体験を行う必要のあることを学びます。	介護等体験特例法の詳細について復習する。	1時間
第2回	**介護等体験の目的と障がいに関する基礎知識** 障がいについての考え方や障がい種別、その程度などについて学びます。	障害についての考え方、（特にノーマライゼイションの考え）について考察する。	1時間
第3回	**社会福祉施設についての学習：高齢者福祉施設と障害者福祉施設の違い** 大阪府社会福祉協議会「HOW　TO　介護」を使用して、具体的に学びます。	「HOW　TO　介護」のＱ＆Ａ部分について詳細を確認しておく。	1時間
第4回	**特別支援学校についての学習：教育内容と教育方法等** 特別支援学校での教育支援について、法制度や推進方法、教育支援計画などについて学びます。	特別支援学校の種類や特別支援学校の児童生徒の特性についてまとめる。	1時間
第5回	**社会福祉施設ガイダンス：実習先事前調査課題の概要説明等** 各自が配当される実習先が異なることを知り、その施設の概要などについて予備知識を持つこと、そのポイントを学びます。	社会福祉施設の種類についてまとめる。	1時間
第6回	**特別支援学校ガイダンス：実習先事前調査課題の概要説明等**	特別支援学校での教育計画、行事、個別指導等について考える。	1時間

	特別支援学校について調べ、1日の流れなどをつかみます。		
第7回	**自己紹介状作成** 実習参加にあたり、自己分析を行い、自己紹介状を作成します。	各資料の準備	1時間
第8回	**実習先事前調査課題の提出、内容確認** 障がいのある子どもへのかかわり方と介護体験の実際について学びます。	ＶＴＲをもとに障がいのある子どもへのかかわり方について留意点をまとめる。	1時間
第9回	**事前学習：事前提出物・持ち物・事前挨拶の確認等** 事前に提出する書類などの書き方、持ち物等について最終確認を行います。	各種書類作成に必要な資料準備、持ち物の準備。	1時間
第10回	**予備日2日＋実習7日** 各実習先の指示に従い、実際に体験を行います。	実習	10時間
第11回	**予備日2日＋実習7日** 各実習先の指示に従い、実際に体験を行います。	実習	10時間
第12回	**予備日2日＋実習7日** 各実習先の指示に従い、実際に体験を行います。	実習	10時間
第13回	**予備日2日＋実習7日** 各実習先の指示に従い、実際に体験を行います。	実習	10時間
第14回	**予備日2日＋実習7日** 各体験先の指示に従い、実際に体験を行います。	実習	10時間
第15回	**事後学習（振り返り・実習先へのお礼状作成）** 提出物などをもとに、体験を振り変えるとともに、実習先へのお礼状などの作成について学びます。	実習	10時間

授業科目名	**教職実践演習（幼稚園、小学校）**				
担当教員名	**加藤博之・石田貴子・吉次豊見**				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	加藤：大阪市立小学校教諭（17年）、校長（８年）、大阪市教育委員会事務局（13年）の勤務経験（全15回） 吉次：公立幼稚園にて教諭として勤務（全15回）				

授業概要

本授業では、教職課程（幼稚園、小学校）に関するこれまでの学修を振り返り、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児・児童理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項、のそれぞれについて、幼稚園教諭・小学校教諭として必要な知識・技能の修得状況を確認し、必要に応じて補完的指導を行う。さまざまな角度から一人ひとりの資質能力が確認できるよう、講義、グループ討論、ロールプレイング、事例研究、模擬授業・模擬保育などの方法を適宜取り入れる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	教職課程に関する必修科目及び選択科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返る。	教員として必要な知識・技能を修得したことを確認することができる。

汎用的な力

1 ．DP7.完遂	目標に向かってやりとげることができる。
2 ．DP8.意思疎通	他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度	30%	： 授業内でのグループ討論、ロールプレイング等への関与状況。
課題達成度	30%	： 2点×15回。毎授業終了時点で提出する「今回の学び・今後の自らの課題」を記載したふりかえりシートの記載内容。 教員としての専門性を踏まえたふりかえりができている：2点 授業内容を踏まえている：1点
期末レポート	40%	： 授業概要記載の4項目につき、現時点での到達点及び今後更に向上させるために必要なことを具体的かつ詳細に記載できている：10点 具体性を欠くもしくは詳細ではない：5点 具体性を欠くかつ詳細ではない：1点

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、授業時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 後日伝達

場所： 加藤：後日伝達　石田：中央2階75　吉次：後日伝達

備考・注意事項： 授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス
加藤：katoh-h@osaka-seikei.ac.jp
石田：ishida-ta@osaka-seikei.ac.jp
吉次：yoshitsugu@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「教職実践演習：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション―授業の内容や授業の目的を知る** ①本授業の目標・内容・評価等について　②これまでの学修の振り返り	これまでの履修カルテ記載事項を確認しておくこと	4時間
第2回	**教職の意義・教員の役割、職務内容、責任の理解(1)　教員に求められる資質能力**	教員の資質能力に関して指示する課題に取り組むこと	4時間

	教員に求められる資質能力について、グループ討論などを通して理解を深めます。		
第3回	**教職の意義・教員の役割、職務内容、責任の理解(2)　教員としての使命感・愛情** 教員としての使命感や教育的愛情について、グループ討論などを通して理解を深めます。	教員としての使命感・愛情に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第4回	**教職の意義・教員の役割、職務内容、責任の理解(3)　教員の職務内容と責任** 教員の職務内容と子どもに対する責任について、事例を検討することなどを通して理解を深めます。	教員の職務内容と責任に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第5回	**教員に求められる社会性・対人関係能力(1)　教員に求められる社会性** 「学校」という組織の一員であることの自覚について、グループ討論や事例の検討などを通して理解を深めます。	教員に求められる社会性に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第6回	**教員に求められる社会性・対人関係能力(2)　人間関係構築の基礎** 人間関係構築の基礎について、講義やグループ討論などを通して理解を深めます。	人間関係構築の基礎に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第7回	**教員に求められる社会性・対人関係能力(3)　保護者や地域関係者との関係構築** 保護者や地域の関係者との人間関係の構築について、事例の検討やロールプレイングなどを通して理解を深めます。	保護者等との関係構築に関して指示する課題に取り組む	4時間
第8回	**子ども理解と学級経営(1)　幼児・児童理解と適切な関わり** 幼児・児童理解と適切な関わりについて、実習事例の検討などを通して理解を深めます。	幼児・児童理解と関わりに関して指示する課題に取り組む	4時間
第9回	**子ども理解と学級経営(2)　幼児・児童理解に基づく学級経営** 幼児・児童理解に基づく学級経営について、教員勤務経験者の講義を通して理解を深めます。	幼児・児童理解と学級経営に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第10回	**子ども理解と学級経営(3)　子どもの問題と学級経営** いじめ・不登校などの問題と学級経営について、事例の検討やロールプレイングなどを通して理解を深めます。	子どもの問題と学級経営に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第11回	**教科・保育内容等の指導力(1)　授業・保育の計画と評価** 学習指導計画案、保育指導計画案の作成と評価について、講義やグループ討論などを通して理解を深めます。それをもとに、指導計画案を作成します。	授業・保育の計画と評価に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第12回	**教科・保育内容等の指導力(2)　模擬授業の実践と振り返り** 作成した学習指導計画案をもとに模擬授業を実施し、評価の観点にもとづいて振り返ります。	学習指導計画案作成と模擬授業に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第13回	**教科・保育内容等の指導力(3)　模擬保育の実践と振り返り** 作成した保育指導計画案をもとに模擬保育を実施し、評価の観点にもとづいて振り返ります。	保育指導計画案作成と模擬保育に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第14回	**教科・保育内容等の指導力(4)　幼小の連携・接続** 幼稚園と小学校との連携・接続について、講義やグループ討論などを通して理解を深めます。	幼小の連携・接続に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第15回	**資質能力の確認とまとめ** 教員として資質能力及び実践的指導力の基礎が培われているかを、履修カルテの振り返りや期末レポートの作成などを通して確認していきます。	資質能力及び実践的指導力の基礎に関して指示する課題に取り組むこと	4時間

授業科目名	**保育実習指導Ⅰ-1**				
担当教員名	**石田貴子・吉次豊見・清水真由子**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立幼稚園にて教諭として勤務（全15回）				

授業概要

本授業は、保育実習Ⅰ－１（保育所）を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させることをねらいとする。まず、保育実習全体の展開と実習の意義、保育実習Ⅰ－１の目標・内容を把握し、保育所について理解を深めながら、諸手続きや心構え、計画や記録等について具体的に学ぶ。実習後、自己評価や話し合い、実習先評価を踏まえた個別面談等を通し、実習Ⅰ－１での到達点と新たな課題を確認する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	保育所･保育士に関する知識･理解と実習の意義	保育所及び保育士について理解を深め、資格取得における実習の必要性を理解することができる
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	保育の総合的理解に基づく実践力の育成	既習の内容を総合し、実践を設計していくことができる
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		保育者としての自己を客観的に見つめ、課題を抽出することができる
2 ．DP5.計画・立案力		実習までのスケジュールを管理し、計画的に実習準備を進めることができる
3 ．DP6.行動・実践		保育者としての自己を意識し、保育者にふさわしい行動を日常的にとることができる
4 ．DP7.完遂		実習をやり遂げることができる
5 ．DP9.役割理解・連携行動		実習班の一員として適切な行動ができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的参加･貢献 20%	：	授業外学習に取り組み、積極的に演習に参加している（1点×15回)、積極的に発表している(5点満点)で評価する。
授業内での課題達成 30%	：	各回の課題に関し、深く丁寧に考察できていれば2点、一通り考察できていれば1点（×15回）で評価する。
実習記録記入法･指導計画案･保育実技 20%	：	実習記録の書き方がわかり、インターンシップ等の体験が適切な形式で記入できれば10点、指導計画案(部分案)の書き方がわかり、部分実習に必要な保育実技が模擬保育の形式で適切にできれば10点とする。
実習レポート（期末） 10%	：	独自のルーブリックにもとづき評価する。
諸手続きの遂行 10%	：	実習に関する諸手続きが滞りなく行われていれば10点とし、不備があるごとに減点する。
実習報告会での発表 10%	：	ポスターを適切に作製できれば5点、発表を適切に行えれば5点とする。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省･厚生労働省･内閣府	・ 幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育･保育要領　＜原本＞	・ チャイルド本社	・ 2017年

参考文献等

・『保育所保育指針解説』厚生労働省編　（2018年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 後日伝達

場所： 石田：中央館2F　吉次:後日伝達　　清水：後日伝達

備考・注意事項： e-mail：
【石田】ishida-ta@osaka-seikei.ac.jp
【吉次】yoshitsugu@osaka-seikei.ac.jp
【清水】shimizu-m@osaka-seikei.ac.jp
※Ｅメールには、学年・クラス・学籍番号・氏名を必ず入れてください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 本授業の目標、内容、評価等について理解する。また、保育実習全体の展開と実習参加資格、諸手続きについて理解する。	予習：シラバスを読み、授業の概略について理解する。	1時間
第2回	**保育実習の意義と内容** 実習の意義及び段階と、保育実習Ｉ－１の位置づけや内容等について理解する。	予習：見学実習及びインターンシップの手引きを読み直し、既習内容について確認する。	1時間
第3回	**保育所の理解(1)　保育所及び保育士についての基本的理解** 保育所保育指針やDVD教材により、保育所と保育士の職務について理解する。	予習：保育所保育指針を通読する。	1時間
第4回	**保育所の理解(2)　実習先保育所の理解** 各自の実習予定保育所について調べ、発表する。	予習：実習予定保育所の沿革や方針などについて調べ、まとめる。	1時間
第5回	**実習に際しての留意事項** 子どもの人権の尊重やプライバシー保護、守秘義務、実習態度、マナーなどについて理解する。	予習：守秘義務に関するワークを行う。	1時間
第6回	**観察、記録、評価の視点と方法(1)　一般的な留意事項** 観察、記録、評価の視点と方法について学ぶ。	予習：見学実習及びインターンシップの手引きを読み直し、既習内容について再確認する。	1時間
第7回	**観察、記録、評価の視点と方法(2)　　実習記録の記入法** 実際の保育所実習記録等を見ながら、記入法について具体的に学ぶ。	予習：インターンシップで作成した記録を見直す。	1時間
第8回	**計画と実践(1)　実習指導案の作成** 実習における計画と実践のつながりを理解し、実習指導案の作成法について学ぶ。	予習：部分実習指導案を作成する。	1時間
第9回	**計画と実践(2)　模擬保育の実施** 部分実習指導案を発表し、模擬保育を行う。	予習：部分実習指導案を見直し、模擬保育の練習をする。	1時間
第10回	**実習直前指導** これまでの学習を振り返り、実習準備ができているかを確認する。	予習：ワークシートに実習準備の状況を記入する。	1時間
第11回	**実習の振り返りと自己評価(1)　実習の振り返りと自己評価** 実習を振り返り、自己評価を行う。	予習：自己評価ワークシートに取り組む。	1時間
第12回	**実習の振り返りと自己評価(2)　体験の交流** 実習体験についてグループで話し合い、発表する。	予習：実習レポート(下書き)を作成する。	1時間
第13回	**実習の振り返りと自己評価(3)　個別面談** 実習先保育所からの評価にもとづき、担当教員との個別面談を行う。	復習：面談を踏まえて実習レポートを見直す。	1時間
第14回	**自己の課題の明確化** 保育者を目指す上での今後の課題と学習目標について考える。	予習：実習レポートを仕上げる。	1時間
第15回	**総括** 実習レポートに基づき、報告会を行う。	予習：発表のためのポスターを、園ごとに作成する。	1時間

授業科目名	**保育実習指導Ⅰ-2**				
担当教員名	**山本智也・村田観弥**				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山本：大阪府社会福祉審議会児童福祉専門分科会被措置児童等援助専門部会委員（全15回） 村田：兵庫県立特別支援学校の児童福祉施設内の分教室にて勤務（4年）、及び幼稚部を含めた指導（全15回）				

授業概要

本授業は、保育実習Ⅰ－２（施設）を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させることをねらいとする。
まず、保育実習Ⅰ－２の目標・内容を把握し、諸手続きや心構え、実習Ⅰ－１での自己の課題等を確認しながら、実習施設について理解を深める。実習後、自己評価や話し合い、実習先評価を踏まえた個別面談等を通し、実習Ⅰ－２での到達点と新たな課題を確認する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	保育実習の意義と目的及び内容を踏まえ、実習に際しての留意事項を理解し、計画や記録等について具体的に理解することができる。	実習における課題を明確にした上で、実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。
汎用的な力		
1．DP7.完遂		実習に取り組むことを通して、自己に課せられた役割・課題を完遂することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度 20%	：	各回の取り組み：授業外学習に取り組み、積極的に演習に参加しているかどうか（15%）に加えて、授業における発表に関し、積極性や回数、内容を総合して評定する。
課題達成度：各回授業での考察 30%	：	授業での学びへの理解、学びを踏まえた考察ができているかを評価する（2点満点）
課題達成度：実習記録の記述 20%	：	保育の適切な理解に基づく記述がなされ、深く考察されているかを基準に評定する。
課題達成度：実習レポート（期末レポート） 20%	：	実習の成果と課題、学習目標が明確に述べられているかどうかを評定する。
諸手続きの遂行 10%	：	個人調査票の作成・提出、細菌検査等の手続き、実習後の報告書の提出などが適切に行われているかを評定する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
吉村美由紀・吉村謙編	・ 福祉施設実習ハンドブック：保育士養成課程　五訂	・ みらい	・ 2019年

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

１　本科目は、１単位の科目であるため、平均すると毎回２時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

２　本科目は、平成31年11月18日（月）から12月14日(土)までの実習期間には開講せず、以下の日程を通常授業に加えて実施する。
10月16日(水)、10月23日(水)、10月30日(水)、11月6日(水)のいずれも４講時(予定)
このため、後期水曜４講時に他の授業を履修できないので注意すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 担当教員ごとに異なります。
山本：月曜日３講時　中央館２階個人研究室79
村田：初回授業時に提示する。

授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス
山本：yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp
村田：murata-k@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「保育実習指導1-2：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** ①本授業の目標・内容・評価等について　②保育実習Ｉ－２の目標・内容について	予習：テキスト第１部を熟読しておくこと	2時間
第2回	**保育実習Ｉ－１の振り返りと自己の課題の確認** 保育所における保育実習をふりかえり、児童福祉施設での実習への課題を確認していきます。	予習：保育実習Ｉ－１の実習記録を読み直すこと	2時間
第3回	**実習に関する諸手続きについて** 実習に向けた諸手続について徹底します。	予習：テキスト第２部を熟読しておくこと	2時間
第4回	**実習施設についての理解(1)　児童養護系施設について** 児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設について理解を深めます。	予習：テキスト第４部を熟読しておくこと	2時間
第5回	**実習施設についての理解(2)　障害児(者)系施設について** 障害のある子どもや人に関わる施設について理解を深めます。	予習：テキスト第４部を熟読しておくこと	2時間
第6回	**実習に際しての留意事項** 児童福祉施設での実習内容について理解を深めます。	予習：テキスト第３部を熟読しておくこと	2時間
第7回	**観察、記録、評価の視点と方法** 実習における観察、記録、評価の在り方について、特にエピソード記述について理解を深めます。	予習：実習計画書案を作成しておくこと	2時間
第8回	**実習計画の意義** 目標・課題をもって実習に臨む意味を考えていきます。	予習：実習計画書案の作成すること	2時間
第9回	**実習計画の検討** 実習における目標・課題を具体化していきます。	予習：テキスト第７部を熟読しておくこと	2時間
第10回	**実習直前指導** 実習に際しての具体的な留意事項などを確認していきます。	予習：テキスト第７部を熟読しておくこと	2時間
第11回	**実習の振り返りと自己評価** 事後指導として、実習をふりかえります。	予習：テキスト第５部を熟読しておくこと	2時間
第12回	**実習体験に関する話し合いと発表** 受講生相互に話し合うことで、実習体験をわかちあいます。	予習：発表のための実習記録の精査	2時間
第13回	**実習先評価に基づく個別のふりかえり** 個別面談等を通して、実習を通しての学びを確認していきます。	復習：面談のふりかえりをまとめる。	2時間
第14回	**自己の課題の明確化** 実習を通して得た自己の課題を明確化していきます。	復習：実習レポートを作成する。	2時間
第15回	**総括：事前事後指導を含めた実習全体のふりかえり** 保育者として今後の学習課題を考えていきます。	復習：実習での体験をまとめ、次回実習への課題を示す。	2時間

授業科目名	**保育実習指導Ⅱ**				
担当教員名	**石田貴子・松阪崇久**				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、保育実習Ⅱを円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させることをねらいとする。まず、保育実習Ⅰを振り返り、自己の到達点と課題を確認しながら、各科目の学習状況を踏まえて保育所保育に関する理解を深め、総合実習に向けた準備を行う。実習後、自己評価や話し合い、実習先評価を踏まえた個別面談等を通し、実習Ⅱでの到達点と新たな課題を確認する。また、日程に沿って、諸手続きも同時に行う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	保育の総合的理解と保育実践力の向上	これまでの保育に関する学習を総合し、全日保育実習を行うことができる
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		保育者としての自己を客観的に見つめ、課題を抽出することができる
2 ．DP5.計画・立案力		実習までのスケジュールを管理し、計画的に実習準備を進めることができる
3 ．DP6.行動・実践		保育者としての自己を意識し、保育者にふさわしい行動を日常的にとることができる
4 ．DP7.完遂		実習をやり遂げることができる
5 ．DP9.役割理解・連携行動		実習班の一員として、適切な行動ができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加･貢献	10%	： 授業内での交流･発表への積極的な参加ができているか（5点満点）、参加の前提となる授業時間外学習に適切に取り組めているか（5点満点）で評価する。
授業内での課題達成	50%	： 各回の授業内での課題に適切に取り組めていれば、2点満点×13回(26点)、模擬保育への取り組み5点満点×2回（10点）、適切な指導案作成7点満点×2種（14点）とする。
実習レポート（期末）	20%	： 実習終了後のレポートについて、独自のルーブリックに基づき評価する。
実習報告会での発表	10%	： 発表用ポスター作成5点満点、発表5点満点とし、各5段階で評価する。
諸手続きの遂行	10%	： 実習に必要な手続きを滞りなく行うことができれば10点満点とし、不備があるごとに減点する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省･厚生労働省･内閣府	・ 幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育･保育要領　＜原本＞	・ チャイルド本社	・ 2017年

参考文献等

・『保育所保育指針解説』厚生労働省編　(2018年)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　後日伝達
場所：　石田：中央館2階研究室　松阪：後日伝達

備考・注意事項： e-mail：
（石田）ishida-ta@osaka-seikei.ac.jp
（松阪）matsusaka@osaka-seikei.ac.jp
※Ｅメールには、学年・クラス・学籍番号・氏名を必ず入れてください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 本授業の目標・内容・評価等について理解する。また、保育実習Ⅱの目標・内容・手続き等について、具体的に理解する。	シラバス及び保育実習の手引きを読み、保育実習Ⅱ及び保育実習指導Ⅱの概略について理解する。	1時間
第2回	**保育実習Ⅰの振り返りと自己の課題の確認** 保育実習Ⅰの事後指導を通じて明らかになった実習の成果と自己の課題を確認し、保育実習Ⅱにおける自己の目標と、それまでの学習計画について考える。	保育実習Ⅰ－１のレポートを読み返し、自己の課題を確認する。	1時間
第3回	**保育所の役割と機能、保育士の業務と職業倫理** 保育所保育指針やDVD教材、実習体験の振り返り等により、保育所の役割と機能、保育士の業務と職業倫理について理解を深める。	保育所保育指針を読み、保育所の役割と機能、保育士の業務と職業倫理についてまとめる。	1時間
第4回	**子どもの保育と保護者への支援** 保育所保育指針やDVD教材、実習体験の振り返り等により、子どもの保育と保護者への支援について理解を深める。	保育所保育指針を読み、子どもの保育と保護者の支援についてまとめる。	1時間
第5回	**観察、記録、自己評価の視点と方法** 観察、記録、自己評価の視点と方法について確認し、保育実習Ⅰ－１での記録を見直す。	保育実習Ⅰ－１の記録を見直し、自己の課題を考える	1時間
第6回	**子どもの理解と適切な関わり** 実習体験を振り返り、子どもの理解と適切な関わりについて学びを深める。	保育実習Ⅰ－１におけるエピソードから、特に気になる事例を抽出する	1時間
第7回	**保育計画の理解と指導計画案の作成** 実習予定保育所にあわせ、全日実習の指導計画案を作成する。	３歳未満児対象及び３歳以上児対象の全日実習指導案を作成する	1時間
第8回	**指導計画案に基づく模擬保育の実施と振り返り(1)　3歳未満児対象** 全日実習指導計画案の中から活動を部分的に取り出し、模擬保育を行う。終了後、指導計画案と模擬保育について振り返り、課題を明確にする。	3歳未満児対象の全日実習指導案を見直し、模擬保育の準備をする	1時間
第9回	**指導計画案に基づく模擬保育の実施と振り返り(2)　3歳以上児対象** 全日実習指導計画案の中から活動を部分的に取り出し、模擬保育を行う。終了後、指導計画案と模擬保育について振り返り、課題を明確にする。	3歳以上児対象の全日実習指導案を見直し、模擬保育の準備をする	1時間
第10回	**実習直前指導** これまでの学習を振り返り、実習準備ができているかを確認する。	ワークシートに準備の状況を記入する。	1時間
第11回	**実習の振り返りと自己評価** 実習を振り返り、自己評価を行う。	実習自己評価シートを作成する。	1時間
第12回	**実習体験に関する話し合いと発表** 実習体験についてグループで話し合い、発表する。	実習レポート(下書き)を作成する。	1時間
第13回	**実習先評価に基づく個別面談** 実習先保育所からの評価にもとづき、担当教員との個別面談を行う。	面談を踏まえ、実習レポートを見直す。	1時間
第14回	**保育士としての自己の課題の明確化** 保育者を目指す上での今後の課題と学習目標について考える。	実習レポートを仕上げる。	1時間
第15回	**総括** 実習レポートにもとづき、実習報告会を行う。	報告会のためのポスターを作成する。	1時間

授業科目名	**保育実習指導Ⅲ**				
担当教員名	**山本智也**				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪府社会福祉審議会児童福祉専門分科会被措置児童等援助専門部会委員（全15回）				

授業概要

本授業は、保育実習Ⅲを円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させることをねらいとする。まず、保育実習Ⅰを振り返り、自己の到達点と課題を確認しながら、各科目の学習状況を踏まえて施設養護に関する理解を深め、参加・部分実習に向けた準備を行う。実習後、自己評価や話し合い、実習先評価を踏まえた個別面談等を通し、実習Ⅲでの到達点と新たな課題を確認する。また、日程に沿って諸手続も同時に行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：保育実習の意義と目的及び内容を理解し、実習に取り組む。さらに実習後の事後指導を通して、実習の総括を行う。

目標：実習課題の明確化、実習計画の具体化と実践、実習後のふりかえりを的確に行うことができる。

汎用的な力

1 ．DP7.完遂

実習に取り組むことを通して、自己に課せられた役割・課題を完遂することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	20%	：備的学習の状況、授業への取組の積極性などを観点として評価する。
課題達成度	30%	：個別支援計画、実習計画の作成状況、実習の事後指導での省察の深まりなどを観点として評価する。
実習レポート（期末）	40%	：実習の成果と課題、学習目標が明確に述べられているかどうかを評定する。
諸手続の遂行	10%	：実習に関わる諸手続の遂行状況を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
岡本幹彦ほか編	・福祉施設実習ハンドブック：保育士養成課程　四訂	・みらい	・2013年

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：中央館２階個人研究室79

備考・注意事項：授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス：yamamoto-to@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「保育実習指導３：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** ①本授業の目標・内容・評価等について　②保育実習Ⅲの目標・内容について	予習：テキスト第１部を熟読しておくこと	2時間
第2回	**保育実習Ⅰの振り返りと自己の課題の確認** これまでの保育実習をふりかえり、児童福祉施設での実習への課題を確認していきます。	予習：保育実習Ⅰ－２の実習記録を読み直すこと	2時間
第3回	**子どもの最善の利益を考慮した養護・療育の具体的理解**	予習：テキスト118～119ページを熟読しておくこと	2時間

	養護・療育について、子どもの最善の利益を踏まえて理解を深めます。		
第4回	**子どもの養護と療育と保護者支援** 保育士にとってのソーシャルワーク的援助の視点について理解を深めます。	予習：テキスト120～123ページを熟読しておくこと	2時間
第5回	**地域社会とのかかわりへの理解** 施設と地域の関係、他機関との連携について理解を深めます。	予習：テキスト123～125ページを熟読しておくこと	2時間
第6回	**子ども支援の基本的態度** 対人援助者としての基本的態度について再確認していきます。	予習：相談援助での学びをまとめておく	2時間
第7回	**子どものニーズ把握と適切な関わり** ニーズを多面的に理解し、支援計画につながるアセスメントの在り方について理解を深めます。	予習：相談援助での学びをまとめておく	2時間
第8回	**個別支援計画の理解** 事例を通して個別支援計画の意義について理解していきます。	予習：個別支援計画案の作成すること	2時間
第9回	**個別支援計画の作成** 事例を通して個別支援計画について理解していきます。	予習：部分的支援計画案を作成すること	2時間
第10回	**実習直前指導** 実習に際しての具体的な留意事項などを確認していきます。	予習：実習計画書案を作成しておくこと	2時間
第11回	**実習の振り返りと自己評価** 事後指導として、実習をふりかえります。	予習：テキスト第５部を熟読しておくこと	2時間
第12回	**実習体験に関する話し合いと発表** 受講生相互に話し合うことで、実習体験をわかちあいます。	予習：発表のための実習記録の精査	2時間
第13回	**実習先評価に基づく個別面談** 個別面談を通して、実習を通しての学びを確認していきます。	復習：面談のふりかえりをまとめる。	2時間
第14回	**保育士としての自己の課題の明確化** 実習を通して得た自己の課題を明確化していきます。	予習：実習での体験をまとめておくこと	2時間
第15回	**総括** 保育者として今後の学習課題を考えていきます。	復習：実習レポートを作成する。	2時間

授業科目名	**保育実践演習**				
担当教員名	**石田貴子・松阪崇久**				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、保育士資格に関するこれまでの学修を振り返り、①保育士の意義や役割、職務内容、児童に対する責任、②社会性、対人関係能力、児童理解、③保育内容等の指導力、に関する各事項について、保育士として必要な知識・技能の修得状況を確認し、必要に応じて補完的指導を行う。さまざまな角度から一人ひとりの資質能力が確認できるよう、講義、グループ討論、ロールプレイング、事例研究、模擬保育などの方法を適宜取り入れる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	保育士資格に関する必修科目及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返る。	保育士として必要な知識・技能を修得したことを確認することができる。

汎用的な力

1 ．DP7.完遂	目標に向かってやり遂げることができる。
2 ．DP8.意思疎通	他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度	30%	： 授業内でのグループ討論、ロールプレイング等への関与状況。
課題達成度	30%	： 2点×15回。毎授業終了時点で提出する「今回の学び・今後の自らの課題」を記載したふりかえりシートの記載内容。 保育士としての専門性を踏まえたふりかえりができている：2点 授業内容を踏まえている：1点
期末レポート	40%	： 以下の4項目10点×4。①使命感や責任感、教育的愛情等、②社会性や対人関係能力、③子ども理解、④保育内容の指導力に関する事項につき、到達点及び今後の課題。 具体的かつ詳細：10点、具体的もしくは詳細：5点

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省・厚生労働省･内閣府	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　＜原本＞	チャイルド本社	2017年

参考文献等

『保育所保育指針解説』厚生労働省編　(2018年)
※ほか、授業中に適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　石田：後日伝達　松阪：後日伝達

場所：　石田：中央館２階75　　松阪：後日伝達

備考・注意事項：　質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス
石田貴子：ishida-ta@osaka-seikei.ac.jp
松阪崇久：matsusaka@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「保育実践演習：質問：〇〇〇〇（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション－授業の内容や授業の目的を知る。** ①本授業の目標・内容・評価等について　②これまでの学修の振り返り	これまでの履修カルテ記載事項を確認しておくこと	4時間

第2回	**保育士の意義・役割、職務内容、責任の理解(1)　保育士に求められる資質能力** 保育士の資質能力についてグループ討論などを通して理解を深めます。	保育士の資質能力に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第3回	**保育士の意義・役割、職務内容、責任の理解(2)　保育士としての使命感・愛情** 保育士としての使命感・愛情についてグループ討論などを通して理解を深めます。	保育士としての使命感・愛情に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第4回	**保育士の意義・役割、職務内容、責任の理解(3)　保育士の職務、職業倫理** 保育士の職務と職業倫理について事例を検討することなどを通して理解を深めます。	保育士の職務と職業倫理に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第5回	**保育士に求められる社会性・対人関係能力(1)　対人援助職としての基礎** 対人援助職としての基礎となる社会性について、事例を検討することなどを通して理解を深めます。	対人援助職としての基礎となる社会性に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第6回	**保育士に求められる社会性・対人関係能力(2)　個別援助技術の専門性** 個別援助場面での保育士の専門性について、ロールプレイングなどを通して理解を深めます。	個別援助場面での保育士の専門性に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第7回	**保育士に求められる社会性・対人関係能力(3)　集団援助技術の専門性** 集団援助場面での保育士の専門性について、ロールプレイングなどを通して理解を深めます。	集団援助場面での保育士の専門性に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第8回	**子ども理解と適切な関わり(1) 子ども理解の方法** ニーズ把握、アセスメントを通した子ども理解について理解を深めます。	ニーズ把握、アセスメントを通した子ども理解に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第9回	**子ども理解と適切な関わり(2) 保育実践における支援事例の特質** 保育実践における支援事例から、その支援の特質を確認していきます。	保育実践における支援事例に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第10回	**子ども理解と適切な関わり(3)　保育実践における支援事例の検討** 保育実践における模擬事例を通して、具体的な支援を検討していきます。	保育実践における模擬事例に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第11回	**保育内容等の指導力(1)　養護に関わる内容** 生命の保持、情緒の安定といった養護に関わる内容について実践的指導力の基礎が培われているかを確認していきます。	養護に関わる内容に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第12回	**保育内容等の指導力(2)　教育に関わる内容** 健康、人間関係、環境、言葉及び表現の５領域に関わる内容について実践的指導力の基礎が培われているかを確認していきます。	５領域に関わる内容に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第13回	**保育内容等の指導力(3)　健康及び安全に関わる内容** 子どもの健康支援、安全管理、食育の推進について実践的指導力の基礎が培われているかを確認していきます。	健康及び安全に関わる内容に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第14回	**保育内容等の指導力(4)　保育の計画及び評価** 保育の計画と評価について実践的指導力の基礎が培われているかを確認していきます。	保育の計画と評価に関して指示する課題に取り組むこと	4時間
第15回	**資質能力の確認とまとめ** 保育士として資質能力及び実践的指導力の基礎が培われているかを、保育士養成課程科目の学修の振り返りやレポート作成などを通して確認していきます。	資質能力及び実践的指導力の基礎に関して指示する課題に取り組むこと	4時間

授業科目名	**基礎ゼミⅡ（小）**				
担当教員名	**鈴木勇・羽野ゆつ子・芝野淳一・川島裕子・清水真由子・岡寺瞳**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

教職・保育専門職を志す学生に求められる様々な研究法の基礎について学び、研究とは何かを理解することが本授業の目的である。教育・保育のプロセスや対象となる幼児・児童を理解する上で重要な問いの立て方、さまざま研究方法（質問紙調査法、フィールド調査法、インタビュー法、授業分析など）を学び、実際に研究を遂行するためのスキルを体得する。また、研究を行う上での基本的なルールを理解し、研究倫理についても把握し、教育・保育をめぐる問題を分析するために必要な知識を修得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	研究の目的と方法	教職・保育専門職を志す学生に求められる様々な研究方法の基礎について学び、その特徴を理解する。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	研究論文や研究方法を自らの課題と関連づけながら理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点（2点×15回）	30%	： 毎回のシャトルシートおよびワークシート等の取り組み状況、授業への参加度（グループでの話し合いへの参加状況、発言など）、授業外での準備状況などに基づき評価する。
課題（文献研究）	60%	： 6回の提出課題について、文章力、読解力、理論的構成力等の観点から評価する。
期末レポート	10%	： 授業全体の振り返り。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の演習であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業担当の各教員から伝達する。基本的には、当該授業時間の前後に個別の質問に対応する。ただし、前後に担当者の授業があった場合、各教員からオフィスアワーを伝達する。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：研究とは** 授業の趣旨、計画、評価方法を確認します。研究とは何かについてその概略を学びます。	卒業論文とは何かを調べてくる。	4時間
第2回	**卒業論文とは** 卒業論文とは何か、なぜ卒業論文を書くのか、その意図を理解し、卒業論文作成までのスケジュールを確認する。	これまでの教育学部の学びと照らし合わせて、自分の気になるテーマを考えてくる。また、教育学部の教員の専門分野について調べてくる。	4時間
第3回	**卒業論文のテーマの決め方** 問いを持つとはどういうことなのか、テーマを選ぶためにはどのようなことに留意したらよいのかを学ぶ。	先行研究という言葉の意味を調べてまとめてくる。	4時間
第4回	**先行研究とは何か** さまざまな研究分野を知り、先行研究を調べることの意味や、その探し方を理解する。	気になる論文を各自で調べてくる。	4時間

第5回	**研究方法（１）質問紙調査法** 質問紙調査法についてその目的と方法を理解する。	授業を振り返りまとめてくる。	4時間
第6回	**研究方法（２）フィールド調査** フィールド調査についてその目的と方法を理解する。特に行動観察を通して対象者・児を理解する方法を知る。	授業を振り返りまとめてくる。	4時間
第7回	**研究方法（３）インタビュー調査法** インタビュー調査についてその目的と方法を理解する。	授業を振り返りまとめてくる。	4時間
第8回	**研究方法（４）授業分析** 授業分析についてその目的と方法を理解する。	授業を振り返りまとめてくる。	4時間
第9回	**論文の構成と記載方法** 論文の基本的な構成について理解した上で、さまざまな研究方法による記載法の違いも理解する。	配布された論文を読んでまとめてくる。	4時間
第10回	**文献による理解（１）質問紙調査法** 質問紙調査法を用いた研究論文を読んで理解する。	配布された論文を読んでまとめてくる。	4時間
第11回	**文献による理解（２）フィールド調査法** フィールド調査法を用いた研究論文を読んで理解する。	配布された論文を読んでまとめてくる。	4時間
第12回	**文献による理解（３）フィールド調査法** フィールド調査法を用いた研究論文を読んで理解する。	配布された論文を読んでまとめてくる。	4時間
第13回	**文献による理解（４）授業分析** 授業分析を行った研究論文を読んで理解する。	研究倫理についての配布資料に目を通しまとめてくる。	4時間
第14回	**研究倫理** 研究者に必要な研究倫理とその内容を理解する。また卒業研究に必要な研究倫理審査の手続きについて理解する。	最終レポートの作成	4時間
第15回	**まとめ** これまでの授業内容を振り返り、卒業研究の問いの立て方、研究方法の様々について理解できたかどうかを確認する。	最終レポート提出	4時間

授業科目名	**基礎ゼミⅡ（幼保）**				
担当教員名	**鈴木勇・羽野ゆつ子・芝野淳一・川島裕子・清水真由子・岡寺瞳**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

教職・保育専門職を志す学生に求められる様々な研究法の基礎について学び、研究とは何かを理解することが本授業の目的である。教育・保育のプロセスや対象となる幼児・児童を理解する上で重要な問いの立て方、さまざま研究方法（質問紙調査法、フィールド調査法、インタビュー法、授業分析など）を学び、実際に研究を遂行するためのスキルを体得する。また、研究を行う上での基本的なルールを理解し、研究倫理についても把握し、教育・保育をめぐる問題を分析するために必要な知識を修得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	研究の目的と方法	教職・保育専門職を志す学生に求められる様々な研究方法の基礎について学び、その特徴を理解する。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	研究論文や研究方法を自らの課題と関連づけながら理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点（2点×15回）	30%	： 毎回のシャトルシートおよびワークシート等の取り組み状況、授業への参加度（グループでの話し合いへの参加状況、発言など）、授業外での準備状況などに基づき評価する。
課題（文献研究）	60%	： 6回の提出課題について、文章力、読解力、理論的構成力等の観点から評価する。
期末レポート	10%	： 授業全体の振り返り。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の演習であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業担当の各教員から伝達する。基本的には、当該授業時間の前後に個別の質問に対応する。ただし、前後に担当者の授業があった場合、各教員からオフィスアワーを伝達する。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：研究とは** 授業の趣旨、計画、評価方法を確認します。研究とは何かについてその概略を学びます。	卒業論文とは何かを調べてくる。	4時間
第2回	**卒業論文とは** 卒業論文とは何か、なぜ卒業論文を書くのか、その意図を理解し、卒業論文作成までのスケジュールを確認する。	これまでの教育学部の学びと照らし合わせて、自分の気になるテーマを考えてくる。また、教育学部の教員の専門分野について調べてくる。	4時間
第3回	**卒業論文のテーマの決め方** 問いを持つとはどういうことなのか、テーマを選ぶためにはどのようなことに留意したらよいのかを学ぶ。	先行研究という言葉の意味を調べてまとめてくる。	4時間
第4回	**先行研究とは何か** さまざまな研究分野を知り、先行研究を調べることの意味や、その探し方を理解する。	気になる論文を各自で調べてくる。	4時間

第5回	**研究方法（１）質問紙調査法** 質問紙調査法についてその目的と方法を理解する。	授業を振り返りまとめてくる。	4時間
第6回	**研究方法（２）フィールド調査** フィールド調査についてその目的と方法を理解する。特に行動観察を通して対象者・児を理解する方法を知る。	授業を振り返りまとめてくる。	4時間
第7回	**研究方法（３）インタビュー調査法** インタビュー調査についてその目的と方法を理解する。	授業を振り返りまとめてくる。	4時間
第8回	**研究方法（４）授業分析** 授業分析についてその目的と方法を理解する。	授業を振り返りまとめてくる。	4時間
第9回	**論文の構成と記載方法** 論文の基本的な構成について理解した上で、さまざまな研究方法による記載法の違いも理解する。	配布された論文を読んでまとめてくる。	4時間
第10回	**文献による理解（１）質問紙調査法** 質問紙調査法を用いた研究論文を読んで理解する。	配布された論文を読んでまとめてくる。	4時間
第11回	**文献による理解（２）フィールド調査法** フィールド調査法を用いた研究論文を読んで理解する。	配布された論文を読んでまとめてくる。	4時間
第12回	**文献による理解（３）インタビュー調査法** インタビュー調査を用いた研究論文を読んで理解する。	配布された論文を読んでまとめてくる。	4時間
第13回	**文献による理解（４）授業分析** 授業分析を行った研究論文を読んで理解する。	研究倫理についての配布資料に目を通しまとめてくる。	4時間
第14回	**研究倫理** 研究者に必要な研究倫理とその内容を理解する。また卒業研究に必要な研究倫理審査の手続きについて理解する。	最終レポートの作成	4時間
第15回	**まとめ** これまでの授業内容を振り返り、卒業研究の問いの立て方、研究方法の様々について理解できたかどうかを確認する。	最終レポート提出	4時間

授業科目名	**基礎ゼミⅢ**				
担当教員名	**鈴木勇・岡寺瞳・清水真由子・松阪崇久・芝野淳一・橋本隆公**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

教職・保育専門職を志す学生に求められる様々な研究方法について学び、その特徴を理解することが本授業の目的である。教育的事象を分析していく上で理解しておくべき様々な研究方法（事例研究、観察法、実験法、質問紙調査法、インタビュー法）を学び、実際に研究を遂行するためのスキル（質的および量的研究の分析法や論文の記載法等）を体得する。また、研究を行う上での基本的なルールを把握し、教育・保育をめぐる問題を分析するために必要な知識を修得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性　　**具体的内容**：　　**目標**：

1 ．DP2. 専門的知識・技能、職業理解　　研究方法　　教職・保育専門職を志す学生に求められる様々な研究方法について学び、その特徴を理解する。

汎用的な力

1 ．DP4. 課題発見　　研究論文や研究方法を自らの問題と関連づけながら理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点（2点×15点）	30%	： 毎回のシャトルシートおよびワークシート等の取り組み状況、授業への参加度（グループでの話し合いへの参加状況、発言など）、授業外での準備状況などに基づき評価する。
課題（レポート）	60%	： 3回の提出課題について、文章力、読解力、理論的構成力等の観点から評価する。
文献発表	5%	： 読解力と表現力によって評価する。
期末レポート	5%	： 授業全体の振り返り。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：　授業担当の各教員から伝達する。基本的には、当該授業時間の前後に個別の質問に対応する。ただし、前後に担当者の授業があった場合、各教員からオフィスアワーを伝達する。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：研究へのいざない** 科目の主旨、計画、評価方法を確認します。研究とは何かについての概要を学びます。	次回の論文を読んで論点をまとめる。	4時間
第2回	**研究分野と方法を知る（１）　教育学・保育学の文献研究** 教育学・保育学の研究内容と、文献研究の方法を学びます。	次回の論文を読んで論点をまとめる。	4時間
第3回	**研究分野と方法を知る（２）　教育・保育方法の事例研究** 教科教育・保育方法の研究内容と、事例研究の方法を学びます。	次回の論文を読んで論点をまとめる。	4時間
第4回	**研究分野と方法を知る（３）　教育心理学の実験研究** 教育心理学の研究内容と、実験研究法を学びます。	次回の論文を読んで論点をまとめる。	4時間
第5回	**研究分野と方法を知る（４）　教育社会学の観察（フィールドワーク）研究** 教育社会学の研究内容と、観察法（フィールドワーク）を学びます。	研究内容と方法について、自分の関心を見つめよう。	4時間

第6回	**質問紙調査法（１）　質問紙の作成** 質問紙調査法の概要と、質問紙の作成方法を学びます。	質問紙調査で検討したいことを考えよう。	4時間
第7回	**質問紙調査法（２）　質問紙調査の分析方法** 分析の視点を検討し、データ分析の方法を学びます。	データ分析をやってみよう。	4時間
第8回	**質問紙調査法（３）　データ分析と結果の整理** データ分析の結果を読み、考察します。	レポート作成に向けて、文献を探そう。	4時間
第9回	**質問紙調査法（４）　量的研究レポートの作成方法** 図表の作成や、レポート作成の方法を学びます。	レポートを完成させる。	4時間
第10回	**質問紙調査法（５）　調査結果の発表** 調査結果レポートを交流し、議論します。	他の人の発表や意見を聞き、参考になったことをピックアップしておこう。	4時間
第11回	**インタビュー法（１）　インタビュー項目の作成** インタビュー法の概要を学び、インタビュー項目を考えます。	インタビュイーを探し、アポイントをとろう。	4時間
第12回	**インタビュー法（２）　インタビュー・データの分析方法** 質的データの分析方法を学びます。	インタビューをしてみよう。	4時間
第13回	**インタビュー法（３）　インタビュー・データの分析** インタビュー・データを分析し、結果を整理し、考察します。	レポート作成に向けて、文献を探そう。	4時間
第14回	**インタビュー法（４）　質的研究レポートの作成方法** 質的データに基づく研究レポートの作成方法を学びます。	レポートを完成させよう。	4時間
第15回	**インタビュー法（５）　インタビュー結果の発表** インタビュー結果報告を交流し、議論します。	他の人の発表や意見を聞き、参考になったことをピックアップしよう。	4時間

授業科目名	**専門基礎演習Ⅰ**				
担当教員名	教育学部専任教員				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、インターンシップ等での教育・保育実践経験をふりかえり、受講生自身の課題意識を明確にしていく。その後、広い意味での教育・保育に関わる文献を読み、近年の研究課題や研究方法、考察や議論の展開を学ぶ。受講生には、担当の文献を読み、発表することが求められる。この過程をとおして、文献の批判的な読み方および教育・保育についての認識を深めていく。最後に、研究の視点から教育・保育実習のテーマを検討する。並行して、４年生の卒業研究構想発表・研究計画立案の発表に参加し、卒業研究の進め方を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	受講者の個別課題	個別課題の基づく文献研究と認識を深める

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	個別の課題に基づく文献研究と課題への認識を深める
2 ．DP6.行動・実践	討議に積極的に参加し、意見を述べることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各自の課題の進捗状況(ポートフォリオを含む) 60%	：	各自の課題への進捗状況を卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。
討議への参加 20%	：	討議に積極的に参加し、意見を述べることができる。
試験（研究構想提出または発表） 20%	：	研究構想を卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・『よくわかる卒論の書き方』第2版　　白井利明　高橋一郎著　ミネルヴァ書房　2013年
・『保育研究へのアプローチ１　課題研究・ゼミナールの手引き』飯田良治　民秋言編　萌文書林　1988年
その他、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
担当者によっては、学外授業が開催される場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業担当の各教員から伝達する。基本的には、当該授業時間の前後に個別の質問に対応する。ただし、前後に担当者の授業があった場合、各教員からオフィスアワーを伝達する。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・研究倫理に関する学習** インターンシップ等での教育・保育実践経験をふりかえりを含めて、受講生の自己紹介を行い、関心を共有する。本科目の性格や授業の目標、内容、評価、課題等について理解する。日本学術振興会の研究倫理教育教材等を用いて、研究を進めたり論文を書いたりする際に求められる研究倫理について学習する。	テーマ構想発表準備	4時間
第2回	**文献の講読（１）　講読文献の選定と文献の読み方** 講読文献と発表担当者を決め、文献の読み方の基本を再確認する。	テーマ構想発表準備	4時間
第3回	**文献の講読（２）　目的と方法の関連性**	テーマ構想発表準備	4時間

	研究の目的と方法の関連性に着目し、文献講読の方法を確認する。		
第4回	**卒業研究の構想発表参加（１）　第１グループ** ４年生の構想発表に参加し、問題設定と方法の関連性を中心に、研究の進め方を学ぶ。	テーマ構想発表準備	4時間
第5回	**卒業研究の構想発表参加（２）　第２グループ** ４年生の構想発表に参加し、問題設定と方法の関連性を中心に、研究の進め方を学ぶ。	テーマ構想発表準備	4時間
第6回	**卒業研究の構想発表参加（３）　第３グループ** ４年生の構想発表に参加し、問題設定と方法の関連性を中心に、研究の進め方を学ぶ。	テーマ構想発表レジュメ作成	4時間
第7回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表（１）　第１グループ** インターンシップや実習等での経験をふりかえり、教師・保育者と子どもの関わり、学校・園の環境など印象に残っていることをふりかえり、関心のあるテーマについて発表する。	テーマ構想発表レジュメ作成・文献調査	4時間
第8回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表（２）　第２グループ** インターンシップや実習等での経験をふりかえり、教師・保育者と子どもの関わり、学校・園の環境など印象に残っていることをふりかえり、関心のあるテーマについて発表する。	テーマ構想発表レジュメ作成・文献調査	4時間
第9回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表（３）　第２グループ** インターンシップや実習等での経験をふりかえり、教師・保育者と子どもの関わり、学校・園の環境など印象に残っていることをふりかえり、関心のあるテーマについて発表する。	文献調査	4時間
第10回	**卒業研究の計画発表参加（１）　第１グループ** ４年生の計画発表に参加し、研究方法や進め方を中心に、研究の方法を学ぶ。	文献調査	4時間
第11回	**卒業研究の計画発表参加（２）　第２グループ** ４年生の計画発表に参加し、研究方法や進め方を中心に、研究の方法を学ぶ。	文献調査	4時間
第12回	**卒業研究の計画発表参加（３）　第３グループ** ４年生の計画発表に参加し、研究方法や進め方を中心に、研究の方法を学ぶ。	文献講読発表準備	4時間
第13回	**文献の講読（１）　第１グループ** 関心のあるテーマの文献を選び、キーワード、目的と方法、論の展開などに着目して見出される疑問点を取り上げ、発表と討論を行う。	文献講読発表準備	4時間
第14回	**文献の講読（２）　第２グループ** 関心のあるテーマの文献を選び、キーワード、目的と方法、論の展開などに着目して見出される疑問点を取り上げ、発表と討論を行う。	文献講読発表準備	4時間
第15回	**文献の講読（３）　第３グループ** 関心のあるテーマの文献を選び、キーワード、目的と方法、論の展開などに着目して見出される疑問点を取り上げ、発表と討論を行う。	テーマ構想	4時間

授業科目名	**専門基礎演習Ⅱ**				
担当教員名	**教育学部専任教員**				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、保育・教育分野における自己の関心・課題を明確にし、専門研究につなげることをねらいとする。専門基礎演習Ⅰで明確になった各自の関心・課題にもとづき、保育学・教育学の先行研究を調査して分析し、研究方法や到達点などについて討論する。この過程で先行研究調査と分析の方法を学び、各自の研究テーマを考え、そのテーマに基づく資料収集や調査研究などを行う。並行して４年生の卒業研究中間発表・研究概要発表に参加し、卒業研究の進め方を学ぶ。データ管理、引用、実験及び著作権等に関する研究倫理の学習を継続する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	各自の研究テーマを設定する	卒業研究計画書の提出

汎用的な力

1 ．DP5.計画・立案力		各自の課題の遂行、プレゼン
2 ．DP6.行動・実践		討議に積極的に参加し、意見を述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合　　評価の基準

各自の課題の進捗状況（ポートフォリオを含む）	60%	： 各自の課題への進捗状況を卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。
討議への参加	20%	： 討議に積極的に参加し、意見を述べることができる。
試験（研究計画書提出）	20%	： 卒業研究計画書（３年次）版を卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・『よくわかる卒論の書き方』第2版　　白井利明　高橋一郎著　ミネルヴァ書房　2013年
・『保育研究へのアプローチ１　課題研究・ゼミナールの手引き』　飯田良治　民秋言編　萌文書林　1988年
その他、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
担当者によっては、学外授業が開催される場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業担当の各教員から伝達する。基本的には、当該授業時間の前後に個別の質問に対応する。ただし、前後に担当者の授業があった場合、各教員からオフィスアワーを伝達する。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・卒業研究中間発表への参加（１）　第1グループ** 本科目の性格や授業の目標、内容、評価、課題等について理解する。４年生の中間発表に参加し、研究方法（対象者、材料・文献、手続き等）と結果を中心に発表し、全体で討議する。	実習のふりかえりとテーマ構想	4時間
第2回	**卒業研究中間発表への参加（２）　第２グループ** ４年生の中間発表に参加し、研究方法（対象者、材料・文献、手続き等）と結果を中心に発表し、全体で討議する。	実習のふりかえりとテーマ構想	4時間
第3回	**卒業研究中間発表への参加（３）　第３グループ** ４年生の中間発表に参加し、研究方法（対象者、材料・文献、手続き等）と結果を中心に発表し、全体で討議する。	実習のふりかえりとテーマ構想	4時間
第4回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表（１）　第１グループ**	先行研究調査計画	4時間

	教育実習での経験をふりかえり、前期に構想したテーマをみつめ、研究テーマの設定に向けた構想発表を行う。		
第5回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表（２）　第２グループ** 教育実習での経験をふりかえり、前期に構想したテーマをみつめ、研究テーマの設定に向けた構想発表を行う。	先行研究調査計画	4時間
第6回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表（３）　第３グループ** 教育実習での経験をふりかえり、前期に構想したテーマをみつめ、研究テーマの設定に向けた構想発表を行う。	先行研究整理（扱う順の検討・分析の視点）	4時間
第7回	**研究概要発表への参加（１）　第１グループ** ４年生の研究概要発表に参加し、全体概要（研究の目的、方法、結論）について、全体で討議する。	先行研究レビュー	4時間
第8回	**研究概要発表への参加（２）　第２グループ** ４年生の研究概要発表に参加し、全体概要（研究の目的、方法、結論）について、全体で討議する。	先行研究レビュー	4時間
第9回	**研究概要発表への参加（３）　第３グループ** ４年生の研究概要発表に参加し、全体概要（研究の目的、方法、結論）について、全体で討議する。	先行研究レビュー発表準備	4時間
第10回	**先行研究についての討論（１）　第１グループ** 第１グループが研究テーマの先行研究レビューを発表し、研究テーマ設定、研究方法、先行研究の到達点について全体で討議する。	先行研究レビュー発表準備・卒業研究計画書作成準備	4時間
第11回	**先行研究についての討論（２）　第２グループ** 第２グループが研究テーマの先行研究レビューを発表し、研究テーマ設定、研究方法、先行研究の到達点について全体で討議する。	先行研究レビュー発表準備・卒業研究計画書作成準備	4時間
第12回	**先行研究についての討論（３）　第３グループ** 第３グループが研究テーマの先行研究レビューを発表し、研究テーマ設定、研究方法、先行研究の到達点について全体で討議する。	先行研究レビュー発表準備・卒業研究計画書作成準備	4時間
第13回	**卒業研究のテーマと構想（１）　全体イメージの構築** これまでの学びを踏まえ、卒業研究のテーマと構想の概要を発表する。	卒業研究計画書作成準備	4時間
第14回	**論文要旨発表への参加** ４年生の論文要旨発表に参加し、討議する。	卒業研究計画書作成準備	4時間
第15回	**卒業研究のテーマと構想（２）　発表** 卒業研究のテーマと構想について、発表・交流する。	卒業研究計画書提出	4時間

授業科目名	**専門演習Ⅰ**				
担当教員名	教育学部専任教員				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

卒業研究の計画ならびに進め方に関する指導を中心に行う。受講生は、各自の卒業研究を構想し計画して発表する。特に、問題設定（問題意識、概念定義、先行研究、仮説）に基づく研究方法の立案を中心に、構想の妥当性を全体で検討・討議して、各自の研究にフィードバックさせていく。並行して、３年生のテーマ構想発表・文献講読に参加し、討議に参加するとともに、自身の研究方法にフィードバックさせる機会とする。研究遂行過程をとおして、研究倫理の学習も継続する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	各自の課題（卒業研究）を行う	各自の課題（卒業研究）の研究方法を立案し、実施する。

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践	各自の課題（卒業研究）を行う
2 ．DP6.行動・実践	グループ討議での建設的な意見

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各自の課題の進捗状況（ポートフォリオを含む（	：	各自の課題への進捗状況を卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。
60%		
討議への参加	：	討議に積極的に参加し、建設的な意見を述べられているかを評価する。
20%		
試験（研究計画書提出または研究計画発表）	：	5月の研究計画書からの進捗状況を卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。
20%		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・『よくわかる卒論の書き方』第2版　　白井利明　高橋一郎著　ミネルヴァ書房　2013年
その他、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
担当者によっては、学外授業が開催される場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：　授業担当の各教員から伝達する。基本的には、当該授業時間の前後に個別の質問に対応する。ただし、前後に担当者の授業があった場合、各教員からオフィスアワーを伝達する。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション・研究倫理に関する学習** 各自のテーマを発表し、類似の受講生同士で３程度のグループに分かれる。本科目の性格や授業の目標、内容、評価、課題等について理解する。日本学術振興会の研究倫理教育教材等を用いて、研究を進めたり論文を書いたりする際に求められる研究倫理について学習する。	研究方法立案に向けた調査計画の構想	4時間
第2回	**卒業研究の構想に向けた調査（１）　調査の計画** 卒業研究の構想に向けた調査について、実施計画を立てる。	調査の実施	4時間
第3回	**卒業研究の構想に向けた調査（２）　方法の立案** 調査結果（文献紹介など）にもとづき、卒業研究方法を立案する。	研究計画書の作成	4時間
第4回	**卒業研究の構想発表（１）　第１グループ**	研究計画書の作成	4時間

	第1グループの受講生が自己の構想を発表する。研究方法を中心に、問題設定と方法の関連性から、方法の妥当性について、全体で討議する。		
第5回	**卒業研究の構想発表（２）　第２グループ** 第2グループの受講生が自己の構想を発表する。研究方法を中心に、問題設定と方法の関連性から、方法の妥当性について、全体で討議する。	研究計画書の作成	4時間
第6回	**卒業研究の構想発表（３）　第3グループ** 第3グループの受講生が自己の構想を発表する。研究方法を中心に、問題設定と方法の関連性から、方法の妥当性について、全体で討議する。	研究計画書の作成・提出	4時間
第7回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表への参加（１）　第１グループ** テーマ構想発表に参加し、テーマ設定の方法、問いの立て方など、研究方法を中心に、討論を行う。	研究方法の修正、具体的な立案、予備調査等の実施	4時間
第8回	**研究方法の修正、具体的な立案、予備調査等の実施** テーマ構想発表に参加し、テーマ設定の方法、問いの立て方など、研究方法を中心に、討論を行う。	研究方法の修正、具体的な立案・予備調査等の実施	4時間
第9回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表（３）　第３グループ** テーマ構想発表に参加し、テーマ設定の方法、問いの立て方など、研究方法を中心に、討論を行う。	研究方法の修正、具体的な立案・予備調査等の実施	4時間
第10回	**卒業研究の計画立案（１）　第１グループの発表と検討** 第1グループの受講生が研究計画の発表を行う。日程や進め方等について、全体で検討する。	研究方法の修正、具体的な立案・予備調査等の実施	4時間
第11回	**卒業研究の計画立案（２）　第２グループの発表と検討** 第2グループの受講生が研究計画の発表を行う。日程や進め方等について、全体で検討する。	研究方法の修正、具体的な立案・予備調査等の実施	4時間
第12回	**卒業研究の計画立案（３）　第３グループの発表と検討** 第3グループの受講生が研究計画の発表を行う。日程や進め方等について、全体で検討する。	調査等の実施	4時間
第13回	**文献の講読への参加（１）　第１グループ** 文献紹介に参加し、文献の読み方、問いの立て方など、研究方法を中心に、討論を行う。	調査等の実施	4時間
第14回	**文献の講読への参加（２）　第２グループ** 文献紹介に参加し、文献の読み方、問いの立て方など、研究方法を中心に、討論を行う。	調査等の実施	4時間
第15回	**文献の講読への参加（３）　第３グループ** 文献紹介に参加し、文献の読み方、問いの立て方など、研究方法を中心に、討論を行う。	調査等の実施	4時間

授業科目名	**専門演習Ⅱ**				
担当教員名	教育学部専任教員				
学年・コース等	4年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

卒業研究の進め方に関する指導を受けながら卒業研究を完遂する。演習では各自の卒業研究の進捗発表を行う。専門演習Ⅰで設定した問題と研究方法（対象者、材料・文献、手続き）と研究の進捗を中心に、全体で検討・討議して各自の研究にフィードバックさせていく。これらを通じて、卒業研究の成果物としての卒業論文を完成させる。並行して３年生のテーマ構想発表・文献レビュー発表に参加し、自身の研究にフィードバックさせる。研究倫理について、研究の遂行と論文執筆の過程で生じた疑問等について、個別に指導を受けながら学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	**具体的内容**：	**目標**：
１．DP1.幅広い教養やスキル	各自の課題	卒業論文の完成
２．DP1.幅広い教養やスキル	討議への参加	建設的な意見を述べる
汎用的な力		
１．DP7.完遂		各自の課題

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合	**評価の基準**
各自の課題への進捗状況（ポートフォリオを含む） 60%	： 各自の課題への進捗状況を卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。
討議への参加 20%	： 討議に積極的に参加し、建設的な意見を述べられているかを評価する。
試験（卒業研究発表会） 20%	： 卒業研究発表会の発表および参加について、卒業研究ルーブリックを参考にして評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・『よくわかる卒論の書き方』第2版　白井利明　高橋一郎著　ミネルヴァ書房　2013年
その他、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
担当者によっては、学外授業が開催される場合がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：授業担当の各教員から伝達する。基本的には、当該授業時間の前後に個別の質問に対応する。ただし、前後に担当者の授業があった場合、各教員からオフィスアワーを伝達する。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 本科目の性格や授業の目標、内容、評価、課題等について理解する。中間発表に向けて、各自の研究構想と計画を再確認し、類似の受講生同士で３程度のグループに分かれる。	中間発表準備	4時間
第2回	**卒業研究中間発表準備** 研究方法（対象者、材料・文献、手続き等）と結果を中心に、卒業研究中間発表準備を進める。	中間発表準備	4時間
第3回	**卒業研究中間発表（１）　第1グループ** 第1グループの受講生が、研究方法（対象者、材料・文献、手続き等）と結果を中心に発表し、全体で討議する。	調査等の実施、結果の整理	4時間
第4回	**卒業研究中間発表（２）　第２グループ** 第２グループの受講生が、研究方法（対象者、材料・文献、手続き等）と結果を中心に発表し、全体で討議する。	調査等の実施、結果の整理	4時間
第5回	**卒業研究中間発表（３）　第３グループ** 第３グループの受講生が、研究方法（対象者、材料・文献、手続き等）と結果を中心に発表し、全体で討議する。	調査等の実施、結果の整理	4時間

第6回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表への参加（１）　第１グループ** 教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表への参加（１）　第１グループ	調査等の実施、結果の整理	4時間
第7回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表への参加（２）　第２グループ** テーマ構想発表に参加し、テーマ設定を中心に、討論を行う。	調査等の実施、結果の整理	4時間
第8回	**教育・保育経験のふりかえりとテーマ構想発表への参加（３）　第３グループ** テーマ構想発表に参加し、テーマ設定を中心に、討論を行う。	調査等の実施、結果の整理	4時間
第9回	**研究概要発表（１）　第１グループ** 第1グループの受講生が結果と考察を含め、全体概要（研究の目的、方法、結論）を発表し、全体で討議する。	題目届作成、論文執筆（序章）	4時間
第10回	**研究概要発表（２）　第２グループ** 第２グループの受講生が結果と考察を含め、全体概要（研究の目的、方法、結論）を発表し、全体で討議する。	題目届作成、論文執筆（本論）	4時間
第11回	**研究概要発表（３）　第３グループ** 第３グループの受講生が結果と考察を含め、全体概要（研究の目的、方法、結論）を発表し、全体で討議する。	題目届作成、論文執筆（本論）	4時間
第12回	**先行研究についての討論への参加（１）　第１グループ　と論文執筆進捗報告** ３年生の研究テーマの先行研究レビュー発表に参加し、研究テーマ設定、研究方法、先行研究の到達点について全体で討議する。論文執筆の進捗状況を報告する。	論文執筆（終章）	4時間
第13回	**先行研究についての討論への参加（２）　第２グループ　と論文執筆進捗報告** ３年生の研究テーマの先行研究レビュー発表に参加し、研究テーマ設定、研究方法、先行研究の到達点について全体で討議する。論文執筆の進捗状況を報告する。	図表や注、文献を整理し、全体を推敲する。第３グループの先行研究についての討論への参加（３）	4時間
第14回	**卒業研究のテーマと構想（１）への参加　と　卒業論文完成報告** ３年生の卒業研究のテーマと構想の概要発表に参加し、全体Tで討議する。卒業論文の完成報告を行い、提出準備を完了させる。	卒業論文提出	4時間
第15回	**論文要旨発表** 受講生相互に論文要旨を発表し、討議する。	卒業論文発表会の準備・卒業研究のテーマと構想（２）発表への参加	4時間

授業科目名	**キャリア基礎Ⅱ／教職基礎Ⅰ（小）**				
担当教員名	**寶學淳郎・松田修**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	・小学校教諭、教育委員会、校長を務める。（1回～8回） ・教育現場で教育課題等についての計画・改善を推進する。また、教育委員会で教育行政についても経験を深める。				

授業概要

教職を志す学生に求められる基礎的知識を学習し、教育をめぐる諸問題にアプローチするための視座を獲得することが本授業の目的である。授業では演習を取り入れ、参加者が主体的に知識の習得につとめる。また、教育問題に関して、論述と議論を重ねることで、授業参加者の問題意識を深めてゆく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP1.幅広い教養やスキル

具体的内容：教職教養の基礎知識の獲得

目標：学校教育に関する教職基礎を学び、教職についてのスタンダードな知識を身につけることができる。

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践

取得した知識を多様なエビデンスと結びつけ、的確に課題を発見するとともに、その課題に対して妥当な解決策を構想することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
シャトルシート	40%	：授業毎にシャトルシートの提出を求め、評価の対象とする。シャトルシートは、授業の内容が的確に纏められているか、授業内容に対する自分の意見が記述されているかを評価する。
定期試験	20%	：定期試験中に実施する。授業内容について的確に把握できているかを確認する筆記テスト（穴埋め及び記号選択、論述等）を実施する。
第８回目テスト	20%	：第２回～７回の基礎知識の定着を確認し、学修状況をふりかえる
第15回目テスト	20%	：第９回～14回の基礎知識の定着を確認し、学修状況をふりかえる

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

寶學：『やさしい教育原理』第３版　田島一他　有斐閣アルマ　2016年
松田：『小学校学習指導要領解説　総則編』　文部科学省　平成29年6月

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業時間の前後
場所：　授業教室
備考・注意事項：　その他、オフィスアワー等の連絡方法は、初回授業時に連絡します。。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講義の目的，概要，評価についてのオリエンテーション（担当：寶學淳郎・松田修）** 講義の目的，概要，評価について学習する。教職とは「何か」について、その意義や役割について考える。	講義の目的，概要，評価について理解を深める。	4時間
第2回	**教育課程と学習指導要領（担当：松田修）** 教育課程の意義や内容に関することを理解するとともに学習指導要領との関連について学ぶ。	学習内容を配布プリントを基に復習し、教育課程と学習指導要領についての意義と関連について理解を深める。	4時間
第3回	**学習指導要領の改訂と歴史的変遷　（担当：松田修）** 学習指導要領の歴史とその背景にある教育意識について学ぶ。	学習内容を配布プリントを基に復習し、学習指導要領の歴史的変遷とその背景についての理解を深める。	4時間
第4回	**「確かな学力」と学力低下論争（担当：松田修）** 学力低下論争についての議論をもとに、「確かな学力」が求められる背景や内容について学ぶ。	授業内容を配布したプリントを基に復習し、「確かな学力」に対する背景や内容についての理解を深める。	4時間

第5回	**新学習指導要領の基本的な考え方（１）　（担当：松田修）** 新学習指導要領のキーワードである「社会に開かれた教育課程」「資質・能力」を基に、新学習指導要領の基本的な考え方や学力観について学ぶ。	学習内容を配布プリントを基に復習し、学習指導要領の歴史的変遷とその背景についての理解を深める。	4時間
第6回	**新学習指導要領の基本的な考え方（２）（担当：松田修）** 新学習指導要領のキーワードである「主体的・対話的で深い学び」「評価の観点」「カリキュラム・マネジメント」など、授業観、評価観をはじめカリキュラム・マネジメントについて学ぶ。	学習内容を配布プリントを基に復習し、新学習指導要領についての、授業観、評価観をはじめカリキュラム・マネジメントについての理解を深める。	4時間
第7回	**道徳教育・体験活動の充実と「豊かな心」（担当：松田修）** 道徳教育や体験活動が重視される背景や具体的な取り組みについて提言や答申を基に学ぶ。	学習内容を配布プリントを基に復習し、道徳教育・体験活動が重視される背景や取組について理解を深めることができる。	4時間
第8回	**前半（2～7回）のテストと振り返り　（担当：松田修）** 第2回～7回までの基礎知識の定着を確認し、学修状況をふりかえり、今後の計画を構想する。	授業内容及びテスト内容を復習し、知識の定着を目指す。	4時間
第9回	**教育とは何か（１）人間への問いと教育への問い、学ぶことと教えること（担当：寶學淳郎）** 人間への問いと教育への問い、学ぶことと教えることについて学ぶ。	授業内容を配付プリントを基に復習し、人間への問いと教育への問い、学ぶことと教えることについて理解を深める。	4時間
第10回	**教育とは何か（２）発達への助成的介入、教育と教化と形成（担当：寶學淳郎）** 発達への助成的介入、教育と教化と形成について学修する。	授業内容を配布プリントを基に復習し、発達への助成的介入、教育と教化と形成についての理解を深める。	4時間
第11回	**学校の成り立ち（担当：寶學淳郎）** 学校の成り立ちについて学修する。	授業内容を配布したプリントを基に復習し、学校の成り立ちについての理解を深める。	4時間
第12回	**日本の学校(1)近代以前の日本の学校（担当：寶學淳郎）** 近代以前の日本の学校について学修する。	授業内容を配布プリントを基に復習し、近代以前の日本の学校についての理解を深めることができる。	4時間
第13回	**日本の学校（2）日本の近代化と学校教育（担当：寶學淳郎）** 日本の近代化と学校教育について学修する。	授業内容を配布プリントを基に復習し、近代日本における学校教育についての理解を深める。	4時間
第14回	**日本の学校（３）戦後の新たな出発、その後の展開（担当：寶學淳郎）** 戦後の新たな出発、その後の展開について学修する。	授業内容を配布プリントを基に復習し、戦後の新たな出発、その後の展開について理解を深めることができる。	4時間
第15回	**後半（9～14回）のテストとふりかえり（担当：寶學淳郎）** 第9回～14回までの基礎知識の定着を確認し、学修状況を振り返り、今後の計画を構想する。	授業内容及びテスト内容を復習し、知識の定着を目指す。	4時間

授業科目名	**キャリア基礎Ⅱ／教職基礎Ⅰ（幼）**				
担当教員名	青木知史・津田由加子				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	保育士・幼稚園教諭として保育園・幼稚園にて勤務。（第9回~15回）				

授業概要

教職を志す学生に求められる基礎的知識を学習し、教育をめぐる諸問題にアプローチするための視座を獲得することが本授業の目的である。前半では、教職基礎として、教育心理学・教育原理・教育制度に関する基礎知識を得る。後半では、教育方法・保育方法など実践的な内容と理論との関わりについて学ぶ。授業では演習を取り入れ、参加者が主体的に知識の習得につとめる。また、教育問題に関して、論述と議論を重ねることで、授業参加者の問題意識を深めてゆく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP1.幅広い教養やスキル

具体的内容：教職教養の基礎知識の獲得

目標：学校教育に関する教職教養を学び、教職についてのスタンダードな知識を身につけることができる。

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践

習得した知識を多様なエビデンスと結びつけ、的確に課題を発見するとともに、その課題に対して妥当な解決策を構想することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
シャトルシート	30%	：毎授業ごとにシャトルシートの提出を求め、評価の対象とします。シャトルシートは、授業内容が的確にまとめられているか、授業内容に対する自分の意見が記述できているかを評価します。
試験（筆記）	30%	：授業の内容について的確に把握できているかを確認する筆記テスト（穴埋め及び記号選択の形式）を各回および定期試験期間に実施します。
課題提出	40%	：内容の妥当性を独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：授業終了後

場所：授業教室

備考・注意事項：青木：質問方法については、担当初回に伝達する。
津田：質問方法については、担当初回に伝達する。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション－教職基礎とは（青木知史）** 教育職員免許法を説明するとともに、教職基礎について概説します。	授業の内容を整理し、以降の授業の準備を行おう。	4時間
第2回	**生徒指導の理論と幼児教育・保育（担当：青木知史）** 生徒指導の理論と幼児教育および保育との関わりについて考えます。	配布資料（生徒指導の理論）の復習および授業テーマに関連する資料の検索とまとめを行おう。	4時間
第3回	**教育相談と幼児教育・保育（担当：青木知史）** 教育相談と幼児教育および保育との関わりについて考えます。	配布資料（教育相談）の復習および授業テーマに関連する資料の検索とまとめを行おう。	4時間
第4回	**体罰の禁止と幼児教育・保育（担当：青木知史）** 体罰の禁止と幼児教育および保育との関わりについて考えます。	配付資料（体罰の禁止）の復習および授業テーマに関連する資料の検索とまとめを行おう。	4時間

第5回	**特別支援教育と幼児教育・保育（担当：青木知史）** 徳兵衛津支援教育と幼児教育および保育との関わりについて考えます。	配布資料（特別支援教育）の復習および授業テーマに関連する資料の検索とまとめを行おう。	4時間
第6回	**インクルーシブ教育と幼児教育・保育（担当：青木知史）** インクルーシブ教育と幼児教育および保育との関わりについて考えます。	配布資料（インクルーシブ教育）の復習および授業テーマに関連する資料の検索とまとめを行おう。	4時間
第7回	**発達障害と幼児教育・保育（担当：青木知史）** 発達障害と幼児教育および保育との関わりについて考えます。	配布資料（発達障害）の復習および授業テーマに関連する資料の検索とまとめを行おう。	4時間
第8回	**前半のまとめとふり返り（担当：青木知史）** 第2回～7回までの基礎知識の定着を確認し、学習状況をふり返り、今後の計画を構想します。	授業の内容を整理し、以降の授業の準備を行おう。	4時間
第9回	**教育方法と保育方法（担当：津田由加子）** 小学校以上の教育と保育を比較し、幼児を対象とする保育の方法の特徴について理解します。	授業の内容を整理し、以降の授業の準備を行おう。	4時間
第10回	**子どもとの関わり（担当：津田由加子）** 子どもへの話し方や言葉かけの仕方に着目し、関わり方について考えます。	授業の内容を整理し、以降の授業の準備を行おう。	4時間
第11回	**保育教材の研究と活用１　　言葉に関する文化財（担当：津田由加子）** 絵本、紙芝居など、言葉に関する文化財を活用した保育の方法について学びます。	授業の内容を整理し、以降の授業の準備を行おう。	4時間
第12回	**保育教材の研究と活用２　伝承遊び（担当：津田由加子）** わらべうた、折り紙など、伝承遊びを生かした保育の方法について学びます。	授業の内容を整理し、以降の授業の準備を行おう。	4時間
第13回	**環境の構成（担当：津田由加子）** 子どもの主体的な活動を引き出す環境構成について学びます。	授業の内容を整理し、以降の授業の準備を行おう。	4時間
第14回	**日本の保育方法の歴史的変遷　１　明治期～昭和（戦前）（担当：津田由加子）** 明治期から昭和（戦前）に至る保育方法の変遷をとらえます。	授業の内容を整理し、以降の授業の準備を行おう。	4時間
第15回	**日本の保育方法の歴史的変遷　２　昭和（戦後）～現代と後半のまとめ（担当：津田由加子）** 昭和（戦後）から現代に至る保育方法の変遷をとらえます。 後半のまとめをし、学習状況をふり返ります。	授業の内容を整理し、これまでの授業を振り返ろう。	4時間

授業科目名	**キャリア基礎Ⅲ／教職基礎Ⅱ（小）**				
担当教員名	**寶學淳郎・松田修**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	・小学校教諭、教育委員会、校長を務める。（9回～15回） ・教育現場で教育課題等についての計画・改善を推進する。また、教育委員会で教育行政についても経験を深める。				

授業概要

教職を志す学生に求められる応用的知識を学習し、教育をめぐる諸問題を深く洞察するための視座を獲得することが本授業の目的である。授業では演習を取り入れ、参加者が主体的に知識の習得に努める。また、教育問題に関して、論述と議論を重ねることで、授業参加者の問題意識を深めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	西洋教育史、教育制度など教職教養の基礎知識の獲得	西洋教育史、教育制度などに関する教職基礎を学び、教職についてのスタンダードな知識を身につけることができる。

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践	取得した知識を多様なエビデンスと結びつけ、的確に課題を発見するとともに、その課題に対して妥当な解決策を構想することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
シャトルシート	40%	： 授業毎にシャトルシートの提出を求め、評価の対象とする。シャトルシートは、授業の内容が的確に纏められているか、授業内容に対する自分の意見が記述されているかを評価する。
定期試験	20%	： 定期試験期間中に実施する。授業内容について的確に把握できているかを確認する筆記テスト（穴埋め及び記号選択の形式）を実施する。
第８回目テスト	20%	： 第２回から第７回までの基礎知識の定着を目指す。
第15回目テスト	20%	： 第８回から第15回までの基礎知識の定着を目指す。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

寶學：『教育史入門』　森川輝紀・小玉重夫　放送大学教育振興会　2016年
松田：適宜、授業の中で紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業時間の前後
場所：　授業教室
備考・注意事項：　その他、オフィスアワー等でも質問を受け付けます。連絡方法は最初の授業で知らせます。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講義の目的，概要，評価についてのオリエンテーション（担当：寶學淳郎・松田修）** 講義の目的，概要，評価について学習する。教育活動を実施するにあたり、様々な教育法規とのつながりがあることを学ぶ。	講義の目的，概要，評価について理解を深める。	4時間
第2回	**古典古代の教育（担当：寶學淳郎）** 古典古代の教育について学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し，古典古代の教育について理解を深める。	4時間
第3回	**近代以前の西洋の共同体における子育て（担当：寶學淳郎）** 近代以前の西洋の共同体における子育てについて学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し，近代以前の西洋の共同体における子育てについて理解を深める。	4時間
第4回	**近代市民革命と国民国家の形成（担当：寶學淳郎）** 近代市民革命と国民国家の形成について学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し，近代市民革命と国民国家の形成について理解を深める。	4時間
第5回	**子どもの発見と近代家族（担当：寶學淳郎）** 子どもの発見と近代家族について学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し，子供の発見と近代家族について理解を深める。	4時間

第6回	**西洋の近代学校と義務教育（担当：寶學淳郎）** 西洋の近代学校と義務教育について学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し，西洋の近代学校と義務教育について理解を深める。	4時間
第7回	**子どもの世紀（担当：寶學淳郎）** 子どもの世紀について学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し，子どもの世紀について理解を深める。	4時間
第8回	**前半（2～7回）のテストと振り返り** 第2回～7回までの基礎知識の定着を確認し、学修状況をふりかえり、今後の計画を構想する。 キーワードは、第2～7回にあげたもの全て。	授業内容やテスト内容を復習し、知識の定着を目指す。	4時間
第9回	**教育制度と学校制度（担当：松田修）** 日本国憲法や教育基本法をもとに、教育制度と憲法、法律との関わりについて学ぶ。	授業内容を配布プリントを基に復習し、憲法や法律と教育制度との関係を理解する。	4時間
第10回	**教員養成と免許制度（担当：松田修）** 戦後の教員養成の歴史について学ぶとともに、主として教員免許更新制度について学ぶ。	授業内容を配布プリントを基に復習し、戦後の教員養成の歴史や教員免許更新制度についての理解を深める。	4時間
第11回	**教員の任用と服務（担当：松田修）** 教員の職務内容や義務について学ぶ。	授業内容を配布プリントを基に復習し、教員の職務内容や義務のについての理解を深める。	4時間
第12回	**教員の資質能力の向上と研修（担当：松田修）** 教員の力量形成としての研修や制度等について学ぶ。	授業内容を配布プリントを基に復習し、教員の力量形成としての研修や制度等についての理解を深める。、	4時間
第13回	**教育活動に関する制度（担当：松田修）** 教科書制度の果たす役割や懲戒と体罰についての考え方について学ぶ。	授業内容を配布プリントを基に復習し、教科書制度における目的や意義、懲戒や体罰についての理解を深める。	4時間
第14回	**学校運営に関する制度（担当：松田修）** 学校事故における教員の責任やいじめ防止対策推進法について学ぶ。	授業内容を配布プリントを基に復習し、学校事故における教員の責任やいじめ防止対策推法についての背景や目的について理解を深める。	4時間
第15回	**後半（9～14回）のテストとふりかえり（担当：松田修）** 第9回～14回までの基礎知識の定着を確認し、学修状況を振り返り、今後の計画を構想する。	授業内容やテスト内容を復習し、知識の定着を目指す。	4時間

授業科目名	キャリア基礎Ⅲ／教職基礎Ⅱ（幼）				
担当教員名	青木知史				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

教職を志す学生に求められる応用的知識を学習し、教育をめぐる諸問題を深く洞察するための視座を獲得することが本授業の目的である。教職基礎の内容をキャリア基礎Ⅱより詳細に取り上げ、特に教育心理学分野を中心に知識を深める。また、教育および保育に関する時事問題について広く問題意識を持ち、理解を深める機会とする。授業では演習を取り入れ、参加者が主体的に知識の修得につとめる。また、教育問題に関して、論述と議論を重ねることで、授業参加者の問題意識を深めてゆく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	教育心理学および教育時事に関する基礎知識の獲得	発達や学習、授業や教育評価に関連する教育心理学の内容を学び、教育心理学のスタンダードな知識を身につけることができる。

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践		習得した知識を多様なエビデンスと結びつけ、的確に課題を発見するとともに、その課題に対して妥当な解決策を構想することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
シャトルシート	20%	： 毎授業ごとにシャトルシートの提出を求め、評価の対象とします。シャトルシートは、授業内容が的確にまとめられているか、授業内容に対する自分の意見が記述できているかを評価します。
試験（筆記）	40%	： 授業の内容について的確に把握できているかを確認する筆記テスト（穴埋め及び記号選択の形式）を各回および定期試験期間に実施します。
課題提出	40%	： 内容の妥当性を独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業終了後
場所： 授業教室
備考・注意事項： 質問方法については、担当初回に伝達する。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**教育心理学とは何か** 授業概要や成績評価等について説明した後、本授業のテーマである教育心理学の概要についてレクチャーする。	授業の内容を整理し、以降の授業の準備を行う。	4時間
第2回	**発達理論および児童福祉と教育心理学** 幼児教育・保育分野を中心に発達理論および児童福祉と教育心理学の関わりについて考える。	配布資料（発達理論および児童福祉）を復習し、以後の授業テーマに関する資料検索を行う。	4時間
第3回	**人間の発達と教育心理学** 幼児教育・保育分野を中心に人間の発達と教育心理学の関わりについて学ぶ。	配付資料（人間の発達）の復習および授業テーマに関連する資料の検索とまとめを行う。	4時間
第4回	**子どもの養育と教育心理学**	配付資料（子どもの養育と教育心理）の復習および授業テーマに関連する資料の検索とまとめを行う。	4時間

	幼児教育・保育分野を中心に子どもの養育と教育心理学の関わりについて学ぶ。		
第5回	**発達課題の理論および保育内容と教育心理学** 幼児教育・保育分野を中心に発達課題の理論および保育内容と教育心理学の関わりについて学ぶ。	配付資料（発達課題の理論および保育内容）の復習および授業テーマに関連する資料の検索とまとめを行う。	4時間
第6回	**動機・欲求理論と教育心理学** 幼児教育・保育分野を中心に動機･欲求理論と教育心理学の関わりについて学ぶ。	配付資料（動機・欲求理論）の復習および授業テーマに関連する資料の検索とまとめを行う。	4時間
第7回	**学習理論と教育心理学** 幼児教育・保育分野を中心に学習理論と教育心理学の関わりについて学ぶ。	配付資料（学習理論）の復習および授業テーマに関連する資料の検索とまとめを行う。	4時間
第8回	**前半のまとめとふり返り** 第2回～7回までの基礎知識の定着を確認し、学習状況をふり返り、今後の計画を構想する。	ふり返りテストに向けての準備と知識定着の確認を行う。	4時間
第9回	**記憶理論と教育心理学** 幼児教育・保育分野を中心に記憶理論と教育心理学の関わりについて学ぶ。	配付資料（心理療法）の復習および授業テーマに関連する資料の検索とまとめを行う。	4時間
第10回	**人格理論と教育心理学** 幼児教育・保育分野を中心に人格理論と教育心理学の関わりについて学ぶ。	配付資料（人格理論）の復習および授業テーマに関連する資料の検索とまとめを行う。	4時間
第11回	**防衛機制と教育心理学** 幼児教育・保育分野を中心に防衛機制と教育心理学の関わりについて学ぶ。	配付資料（教育評価）の復習および授業テーマに関連する資料の検索とまとめを行う。	4時間
第12回	**心理療法と教育心理学** 幼児教育・保育分野を中心に心理療法と教育心理学の関わりについて学ぶ。	配付資料（知能）の復習および授業テーマに関連する資料の検索とまとめを行う。	4時間
第13回	**集団の指導と教育心理学** 幼児教育・保育分野を中心に集団の指導と教育心理学の関わりについて学ぶ。	配付資料（集団の指導）の復習および授業テーマに関連する資料の検索とまとめを行う。	4時間
第14回	**知能と教育心理学** 幼児教育・保育分野を中心に知能と教育心理学の関わりについて学ぶ。	配付資料（知能）の復習および授業テーマに関連する資料の検索とまとめを行う。	4時間
第15回	**全体のまとめと振り返り** 教育心理学の基礎知識の定着を確認し、学修状況をふりかえり、今後の計画を構想する。	授業内容やテスト内容を復習し、知識の定着を目指す。	4時間

授業科目名	**キャリア演習Ⅰ**				
担当教員名	**辻村敬三・加藤博之・山本智也・清水真由子**				
学年・コース等	3年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	辻村敬三：京都府立聾学校教諭（6年）、京都府小学校教諭(14年）、京都府教育委員会指導主事（7年）の勤務経験（全15回） 加藤博之：大阪市立小学校教諭（17年）、校長（８年）、大阪市教育委員会事務局（13年）の勤務経				

授業概要

学生が自分の特性を見つめ直し、主体的に自身の人生設計を考えていくために、次の課題に取り組んでいく。まず、計画的に学習する態度を養っていくために、自己のあり方を丹念にとらえた上で、学習計画の立て方を学び、実際に計画を立ててみる。次に、自分の学習計画をもとに、毎回進捗状況をチェックすると同時に、実社会において活躍していくために必要な教養やスキル等を学んでいく。これらの取り組みを通し、社会人として働くことの意義を理解し、就業意識を高めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	**目標**：
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	社会人としての意識と教養を身につける	実社会で主体的に生きるために必要な知識や実行力の向上を図る姿勢を身につけている。

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践	目標に向かい主体性を持ち、前向きに行動することができる。
2 ．DP8.意思疎通	他者の意見をよく聞き、自己の考えを正確に伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		**評価の基準**
小テスト	20%	： 授業内容についての理解度を評価します。
討議・交流・発表	40%	： 積極的な発言と論理的構成・意思疎通を図る姿勢について評価します。
期末レポート	40%	： 内容の妥当性と論理的構成、理解の正確性について、独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『セサミノート（一般教養）』　東京アカデミー　七賢出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワー
場所：　研究室
備考・注意事項：　授業や会議時を除いて、できる限り対応します。昼休みなどを利用して、相談時間の調整に来てください。
オフィスアワー等についての詳細は、初回の授業時に周知します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（人生設計とキャリア）** 自分の特性を見つめ直し、主体的に人生を設計していくために、将来希望する職業について考え、その実現のために必要な取組や課題を検討します。	これまでの学修を振り返り、自らの課題を具体的にリストアップしておく。	4時間
第2回	**就職活動の流れと就職までのロードマップ作成** 一般的な就職活動の流れについて理解した上で、自分の志望職業に的を絞って、就職までに必要な活動や身に付けるべき能力などを調査・分析し、就職までの準備について個々にロードマップを作成します。	受験を志望する府市の情報をインターネット等で集めて整理する	4時間
第3回	**自己分析と目標設定の手法** 志望職種の特性を分析し、求められる資質や能力を明確にし、それを尺度にして自分の学力状況を分析します。一般教養、専門知識、実技技能、小論文など具体的なレベルで求められる内容や力を把握し、目標を設定した上で学修計画を作成します。	１，２年次に取り組んだ模擬試験や小論文など、自分の学修・学力状況を分析できる資料を整理し、課題を分析しておく。	4時間

第4回	**知識の習得、定着を図る学修スキル** 一般教養、専門知識などに関する知識を習得、定着を図る学習手法について学び、これまでの経験を交流することで効果的な学習方法を検討します。個々に作成した学修計画について、進捗状況を交流し、次週までの目標を設定します。	授業を振り返り、自分に適した学習方法を決定し、カードやノートなど必要なツールを準備する。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第5回	**技能の習得、定着を図る学修スキル** 実技技能、小論文などに関する知識を習得、定着を図る学習手法について学び、これまでの経験を交流することで効果的な学習方法について考えます。	授業を振り返り、自分に適した学習方法を決定し、カードやノートなど必要なツールを 準備する。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第6回	**学修の効果を向上させるスキルの検討** 各自の学修計画に沿ったこれまでの取組を省察し、効果的であった学修スキルについて交流し、より効果的な方法を検討します。	授業を振り返り、自分の学習方法を修正、改善し、必要なツールを準備する。 設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第7回	**一般教養として求められるミニマムエッセンシャルズ(言語領域)** 社会人、職業人として求められる一般教養（言語領域）内容を分析し求められるミニマムエッセンシャルズについてその特質や価値を考察し、整理します。 演習として【社会的言語コミュニケーションスキル①】を設定し、①「若者言葉」ビジネスの場や上司等目上の人に対する相応しい使い方に言い換えについて学びます。続いて【第1回問題】に取組んだ後、グループディスカッションを行い、自身の経験と結びつけて学びをまとめます。	授業で整理した内容をもとに、自分知識の獲得状況を振り返り、学修計画に生かすよう にする。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第8回	**一般教養として求められるミニマムエッセンシャルズ(社会科学領域)** 社会人、職業人として求められる一般教養（社会科学領域）内容を分析し、求められるミニマムエッセンシャルズについてその特質や価値を考察し、整理します。 演習として【社会的言語コミュニケーションスキル②】を設定し、②間違えて使ってしまいがちな「敬語」について学びます。続いて【第1回問題】に取組んだ後、グループディスカッションを行い、自身の経験と結びつけて学びをまとめます。	授業で整理した内容をもとに、自分知識の獲得状況を振り返り、学修計画に生かすようにする。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第9回	**一般教養として求められるミニマムエッセンシャルズ(自然科学領域)** 社会人、職業人として求められる一般教養（自然科学領域）の内容を分析し、求められるミニマムエッセンシャルズについてその特質や価値を考察し、整理します。 演習として【社会的言語コミュニケーションスキル②】を設定し、について学びます。続いて【第1回問題】に取組んだ後、グループディスカッションを行い、自身の経験と結びつけて学びをまとめます。	授業で整理した内容をもとに、自分知識の獲得状況を振り返り、学修計画に生かすようにする。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第10回	**教職に求められるミニマムエッセンシャルズ（教育原理・保育原理）** 教職に就く者に求められる教職教養（教育原理関連）内容を分析し、求められるミニマムエッセンシャルズについてその特質や価値を考察し、整理します。 演習として【社会的言語コミュニケーションスキル③】③意味を間違えてしまう敬語を設定し、について学びます。続いて【第1回問題】に取組んだ後、グループディスカッションを行い、自身の経験と結びつけて学びをまとめます。	授業で整理した内容をもとに、自分知識の獲得状況を振り返り、学修計画に生かすようにする。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第11回	**教職に求められるミニマムエッセンシャルズ（教育心理）** 教職に就く者に求められる教職教養（教育心理関連）内容を分析し、求められるミニマムエッセンシャルズについてその特質や価値を考察し、整理します。 演習として【社会的言語コミュニケーションスキル④】④使うと相手に失礼にあたる間違った「慣用句」を設定し、について学びます。続いて【第1回問題】に取組んだ後、グループディスカッションを行い、自身の経験と結びつけて学びをまとめます。	授業で整理した内容をもとに、自分知識の獲得状況を振り返り、学修計画に生かすようにする。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める	4時間
第12回	**教職に求められるミニマムエッセンシャルズ（その他）** 教職・保育職に求められる専門的な知識等について、試験問題や募集要項等を分析し、ミニマムエッセンシャルズについてその特質や価値を考察し、整理します。 演習として【社会的言語コミュニケーションスキル⑤】⑤社会人になってから使うと恥をかく「バイト敬語」を設定し、について学びます。続いて【第1回問題】に取組んだ後、グループディスカッションを行い、自身の経験と結びつけて学びをまとめます。	授業で整理した内容をもとに、自分知識の獲得状況を振り返り、学修計画に生かすようにする。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第13回	**学修計画のセルフマネジメントの手法** 学修計画の実施と自己管理、自己チェックの手法を学び、自らの進捗状況を分析します。それをもとに、今後の課題と、学修計画の修正を行います。 【社会的言語コミュニケーションスキル】の①～⑤を振り返り学びをまとめます。まとめテストに取組み、自らの課題を分析します。	授業で実施した自己チェックをもとに、今後の課題をリストアップし、行動計画として再設定し今後の学修に生かすようにする。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第14回	**学修状況の評価方法** これまでに学んだ知識の定着状況を評価、判断する手法について学び、評価の観点や方法を検討します。設定した観点や基準に従って、評価問題の試案を作成します。	授業で作成した試案をもとに、自己評価を行い、自分の学修状況について文章にまとめておく。設定した学修計画に沿って、自学自修を進める。	4時間
第15回	**総括と今後学修計画の作成** 授業や自学自修として取り組んできた学修を省察し、今後の課題を明確にした上で、学修計画の修正を行います。	修正した学修計画をもとに、具体的な行動計画（目標、スケジュール、取組内容等）を作成する	4時間

授業科目名	**キャリア演習Ⅱ（小）**				
担当教員名	**辻村敬三・福岡亮治**				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	【辻村】全１５回を担当する 京都府内の小学校教諭 京都府山城教育局指導主事				

授業概要

学生が自分の特性を見つめ直し、主体的に自身の人生設計を考えていくために次の課題に取り組んでいく。まず、計画的に学修する態度を養っていくために、学修計画を立てる。次に、小学校教員に求められる専門的な知識や社会教養について、その習得状況を個別的に確認し、不十分な場合は補充を行っていく。また、自分の学修計画をもとに毎回進捗状況をチェックするとともに、今日の学校教育をめぐる主要な問題についてそれぞれテーマ化し、小論文形式で問題理解を深めることによって課題意識を養っていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	**目標**：
１．DP1.幅広い教養やスキル	専門的知識	文化的素養としての教養知識を身につけることができる。
２．DP2.専門的知識・技能、職業理解	職業理解	教育を取り巻く諸課題を学ぶことで、教職に関する基本的な見識を得ることができる。

汎用的な力

１．DP4.課題発見	様々な資料、データから教育に関わる課題をとらえ、考察することができる。
２．DP5.計画・立案力	主体的・継続的に学び続ける力を養うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		**評価の基準**
授業内小テスト 40%	：	授業内容の理解度を問う小テストを5点×8回とし、60点以上を合格点として評価する。
定期テスト 60%	：	全授業内容について正しく理解し、適切に解答しているかを問う。60点以上を合格点として評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業に於いて、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後

場所： 各研究室

備考・注意事項： オフィスアワー場所は、辻村：研究室（中央館２階）、福岡：理科室(中央館2階)
授業の前後にも質問に応じる。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（小学校教員としてのキャリア形成の重要性）** 各自治体の募集資料等から、小学校教員に求められる資質や能力について学び、教員を目指す者として自分の特性や課題を見つめ直し、キャリア形成に向けて主体的に取り組んでいく展望を確かなものにします。	自らの志望と、これまでの取組を振り返り、自らの課題を具体的にリストアップしておく。キーワード：求められる教師像	4時間
第2回	**自治体の教育理念・方針・施策**	授業で整理したキーワードについて、疑問などをまとめておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード:自治体の教育理念	4時間

	志望する自治体の教育理念や方針・施策を調査し、採用に向けて理解すべき内容をキーワードの形で整理します。その中から教職教養に関連する内容を取り上げ、今後の学修計画を作成します。		
第3回	**教育理念・方針の考察・小論文作成** 自治体の教育理念・方針に関わるキーワードからテーマを設定し、必要な情報を集めた上で、考察と見解を小論文にまとめます。	自治体のパンフレットや新聞記事などから、取り上げるキーワードに関する情報を集め、ファイルしておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：教育理念	4時間
第4回	**自治体の教育理念のまとめと小論文のブラッシュアップ** 前時に作成した小論文を交流し、相互批正の後、加筆修正します。他の人の小論文から、各自治体の教育理念を学び、知識の幅を広げます。	他の小論文から学んだ知識をノートに整理しておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：教育理念	4時間
第5回	**教育施策の考察・小論文作成** 自治体の教育施策に関わるキーワードからテーマを設定し、必要な情報を集めた上で、考察と見解を小論文にまとめます。	自治体のパンフレットやインターネットなどから、取り上げるキーワードに関する情報を集め、ファイルしておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：特色ある教育施策	4時間
第6回	**自治体の教育施策のまとめと小論文のブラッシュアップ** 前時に作成した小論文を交流し、相互批正の後、加筆修正します。他の人の小論文から、各自治体の特色ある教育施策を学び、知識の幅を広げます。	他の小論文から学んだ知識をノートに整理しておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：特色ある教育施策	4時間
第7回	**小学校教育に関わるトピック（教育思潮）の考察と小論文作成** 現在の教育思潮に関わるキーワードからテーマを設定し、必要な情報を集めた上で、考察と見解を小論文にまとめます。	新聞記事、インターネットなどから、取り上げるキーワードに関する情報を集め、ファイルしておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：21世紀型学力・アクティブラーニング等	4時間
第8回	**教育思潮のまとめと小論文のブラッシュアップ** 前時に作成した小論文を交流し、相互批正の後、加筆修正します。他の人の小論文から、教育思潮に関するトピックを学び、知識の幅を広げます。	他の小論文から学んだ知識をノートに整理しておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：教育思潮	4時間
第9回	**小学校教育に関わるトピック（教育問題）の考察と小論文作成** 現在の教育を巡る諸問題に関わるキーワードからテーマを設定し、必要な情報を集めた上で、考察と見解を小論文にまとめます。	設定したテーマに関する新聞記事や情報、過去問題の解答例などを集めて、ファイルにまとめておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：教育問題	4時間
第10回	**教育問題のまとめと小論文のブラッシュアップ** 前時に作成した小論文を交流し、相互批正の後、加筆修正します。他の人の小論文から、教育問題に関するトピックを学び、知識の幅を広げます。	他の小論文から学んだ知識をノートに整理しておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：教育問題	4時間
第11回	**生徒指導事例に関わる考察と小論文作成** 生徒指導に関わる具体的事例からテーマを設定し、必要な情報を集めた上で、考察と見解を小論文にまとめます。	設定したテーマに関する新聞記事や情報、過去問題の解答例などを集めて、ファイルにまとめておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：生徒指導	4時間
第12回	**生徒指導事例のまとめと小論文のブラッシュアップ** 前時に作成した小論文を交流し、相互批正の後、加筆修正します。他の人の小論文から、生徒指導事例に関するトピックを学び、知識の幅を広げます。	他の小論文から学んだ知識をノートに整理しておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：生徒指導事例	4時間
第13回	**危機管理事例に関わる考察と小論文作成** 小学校現場における危機管理に関わる具体的事例からテーマを設定し、必要な情報を集めた上で、考察と見解を小論文にまとめます。	設定したテーマに関する新聞記事や情報、過去問題の解答例などを集めて、ファイルにまとめておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：学校危機管理	4時間
第14回	**危機管理事例のまとめと小論文のブラッシュアップ** 前時に作成した小論文を交流し、相互批正の後、加筆修正します。他の人の小論文から、危機管理事例に関するトピックを学び、知識の幅を広げます。	他の小論文から学んだ知識をノートに整理しておく。作成した学修計画に沿って自学自修を進める。キーワード：危機管理	4時間
第15回	**総括と今後の学修計画の作成** 授業で取り組んできた小論文や、自学自修として取り組んできた学修を省察し、今後の課題を明確にした上で、学修計画の修正を行います。	修正した計画をもとに、具体的な行動計画（目標、スケジュール、取組内容等）を作成する。キーワード：小学校教員としてのキャリア形成	4時間

授業科目名	**キャリア演習Ⅱ（幼保）**				
担当教員名	**吉次豊見**				
学年・コース等	3年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立幼稚園にて教諭として勤務（全15回）				

授業概要

学生が自分の特性を見つめ直し、主体的に自身の人生設計を考えていくために次の課題に取り組んでいく。まず、計画的に学修する態度を養っていくために、学修計画を立てる。次に、幼稚園教諭・保育士に求められる専門的な知識について、その修得状況を個別的に確認し、不十分な場合は補充を行っていく。また、自分の学修計画をもとに毎回進捗状況をチェックするとともに、各幼稚園・保育施設について、それぞれの多様な取り組み状況を調査・研究する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：専門的知識の習得

目標：教育・保育を巡る諸問題に関する知識を身につけることができる。

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践

子ども、同僚に対して共感的に接し、学び合おうとする態度を養うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合　　**評価の基準**

小テスト　40%　：　授業内容の理解度を問う小テストを５点×８回実施します。

課題提出　30%　：　講義内容について正しく理解し、自らの考えや他者の意見をもとに深く考察できているかについて独自のルーブリックで評価します。

期末テスト　30%　：　幼稚園教諭・保育士となるにあたってのこれまでの学びについて学修の定着度を測るテストを実施します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

幼稚園ランナー 2019年度版（教員採用試験シリーズ システムノート）／東京教友会／ 一ツ橋書店
保育者になるための国語表現／田上貞一郎／／萌文書林
その他、授業内で紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
特に公立幼稚園・保育所・認定こども園への就職を希望する者は必ず受講すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　後日指定する

場所：　中央館5F研究室112

備考・注意事項：　【吉次豊見】yoshitsugu@osaka-seikei.ac.jp（Ｅメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。）

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価等について）** 保育職としてのキャリア形成の重要性を認識する。	これまでの学びを振り返り自らの課題をリストアップする。	4時間
第2回	**学修計画の作成と実施** 保育職としてのキャリア形成にむけ、今後の展望と行動計画をたてる。	今後の展望を具体化する。	4時間
第3回	**希望進路に応じた指導（１）幼稚園と保育園** 幼稚園教諭・保育士として働く自分をイメージする。	幼稚園教諭と保育士の専門性の違いと共通点についてまとめる。	4時間
第4回	**希望進路に応じた指導（２）施設等** 保育士の多様な活躍の場を知り、その専門性を理解する。	保育士資格をもって働ことができる場を調べてくる。	4時間
第5回	**就職希望地域における幼稚園・保育施設の研究（１）園の特色** 幼稚園・保育園・認定子ども園および公立・私立等、多様な園の特色を理解する。 地域によって異なる保育の在り方を理解する。	幼稚園、保育園、認定子ども園などの施設の違いをまとめる。	4時間

第6回	**就職希望地域における幼稚園・保育施設の研究（２）子育て支援体制** 地域における子育て支援の多様性を理解する。 地域によって異なる保育の現代的課題について知る。 就職希望地域の保育の特色と課題を調べる。	就職希望地域における幼稚園・保育施設について調べてくる。	4時間
第7回	**一般教養・教職教養・専門知識等の習得状況確認と補完（１）一般教養** 保育者に必要とされる専門的知識、技能、教養について理解した上で、自己の到達点を認識する。 特に一般教養を中心とした素養の大切さを理解する。	保育者に必要とされる専門的知識、技能、教養について復習する。	4時間
第8回	**一般教養・教職教養・専門知識等の習得状況確認と補完（２）教職教養** 保育者に必要とされる専門的知識、技能、教養について理解した上で、自己の到達点を認識する。 特に教職教養を中心とした知識の重要性を理解する。	保育者に必要とされる一般教養・教職教養・専門知識及び保育実技について学んだことを復習する。	4時間
第9回	**一般教養・教職教養・専門知識等の習得状況確認と補完（３）保育の専門的知識** 保育者に必要とされる専門的知識、技能、教養について理解した上で、自己の到達点を認識する。 特に保育の専門的知識を中心に自己の課題について自覚する。	保育者に必要とされる一般教養・教職教養・専門知識及び保育実技について学んだことを復習する。	4時間
第10回	**一般教養・教職教養・専門知識等の習得状況確認と補完（４）時事問題と保育** 保育者に必要とされる専門的知識、技能、教養について理解した上で、自己の到達点を認識する。 特に時事問題に関する文章表現等を通じて、自己の課題について自覚する。	保育者に必要とされる一般教養・教職教養・専門知識及び保育実技について学んだことを復習する。	4時間
第11回	**一般教養・教職教養・専門知識等の習得状況確認と補完（５）保育者の仕事と自己の特性** 保育者に必要とされる専門的知識、技能、教養について理解した上で、自己の到達点を認識する。 特に保育者の仕事と自己の特性の関係を省察することを通じ、自己の課題について自覚する。	保育者の仕事と自己の特性の関係を省察し、自らの課題と強みをまとめる。	4時間
第12回	**一般教養・教職教養・専門知識及び保育実技の習得状況確認とまとめ** 第7回から第11回を振り返りまとめる。	自らの学びを振り返り今後の学修計画をたてる。	4時間
第13回	**自己省察の作成** 自己省察の作成の作成を通して自己の強みと課題を明確にする。	今後の学修計画を立てる。	4時間
第14回	**学修計画の再構成と実施** 自己の課題を明確にして今後の学修計画を具体化する。	今後の学修計画を見直す。	4時間
第15回	**総括と今後の学修計画の完成** １５回の授業のまとめを通して「保育者に必要な資質・能力」について考察し、理想とする保育者像について明確化する。	理想とする保育者像についてイメージする。	4時間

授業科目名	**キャリア演習Ⅲ（小）**				
担当教員名	**橋本隆公・松田修**				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	・小学校教諭、教育委員会、校長を務める。（松田）　・小学校教諭、独立大学法人附属小学校教諭、同副校長を勤める。（橋本） ・教育現場で教育課題等についての計画・改善を推進する。また、教育委員会で教育行政についても経				

授業概要

学生が、小学校教員として必要な資質・能力を身につけるために、教育人材育成センターと協力して次の課題に取り組んでいく。まず、今日の小学校教員に求められる資質・能力の内容について調査し、自身の今後の課題を見出す。次にその課題をテーマに、小集団による討論を通してコミュニケーション・スキルの向上を図る。また、担当教員の講義から最近の教育課題（いじめ、体罰、保護者対応等）について知識を蓄え、さらにその教育課題をテーマとした討論によって理解を深めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性		
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	**具体的内容**： 小学校現場で起因している様々な事象に対する考察	**目標**： 小学校教員として必要な実践力を身につける。
汎用的な力		
1 ．DP6.行動・実践		小学校教員として必要な実践力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加状況 40%	：	各回で出される課題やレポートについて適切に対応、答えられているか、また、教員からの質問に対して適切に答えられているか。
ロールプレイングや面談への参加状況 50%	：	各回で出題される課題や面談の状況、ロールプレイングの様子、他の人の対応の様子などを見てのコメントが適切に出来るかなど。
期末レポート 10%	：	各回で出される課題やレポートについて総括するレポートで、小学校現場で起因している様々な事象に対する考察が出来るかなど。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜参考資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　教員によって異なる
場所：　各研究室
備考・注意事項：　第1回の授業の際に詳細を伝える。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：小学校教員として必要な資質・能力を経験をもとにした考察** 今日の小学校教員に求められる資質・能力の内容について、調査し、これまでのインターンシップや教育実習の経験から、考えられることを書き出し、グループディスカッションを通して整理し、調査に向けた見通しを持ちます。新聞、インターネット、書籍、その他の資料から必要な情報を収集する方法を確認し、計画を立てます。	本講義を見通した自分自身の課題をまとめる。	4時間
第2回	**調査資料をもとにしたディスカッション（小学校教員として必要な資質・能力）** 入手した資料をグループで分類整理して考察し、資料に基づいたディスカッションを行い、コミュニケーションスキルの向上を図ります。その結果をまとめ、プレゼンテーションの準備をします。	事前ワークに取り組む、学修中に出た課題への取り組み。	4時間
第3回	**プレゼンテーション（小学校教員として必要な資質・能力）** グループごとにテーマに即したプレゼンテーションを行い、クラス全体で考察を深めます。考察の結果は、各自、小レポートにまとめます。	事前ワークに取り組む、学修中に出た課題（小レポート）をまとめる。	4時間
第4回	**スピーチ「小学校教員としての私の“強みと課題”」の作成**	事前ワークに取り組む、学修中に出た課題への取り組み。	4時間

	前時までの授業で整理した「小学校教員として必要な資質・能力」や、本学の建学の精神、教育学部のアカデミックスキルなどに照らして、自分自身の特性や資質を振り返り、自らの“強みと課題”を明らかにします。それに基づいて、３分程度の自己アピールスピーチの準備をします。		
第5回	**スピーチ「小学校教員としての私の“強みと課題”」の実施** グループ内でスピーチを発表し、相互批評を通してブラッシュアップし、プレゼンテーション力の向上を図ります。	本講義でまとめた事柄、学修中に出た課題への取り組み。	4時間
第6回	**最近の教育課題に関する知識・見識** いじめや不登校など、最近の教育課題について、これまでのインターンシップや教育実習の経験から、考えられること を書き出し、グループディスカッションを通して整理し、調 査に向けた見通しを持ちます。新聞、インターネット、書籍、その他の資料から必要な情報を収集する方法を確認し、計画を立てます。	事前ワークに取り組む、学修中に出た課題への取り組み。	4時間
第7回	**グループディスカッション（最近の教育課題）①** テーマに即したグループディスカッションを行います。グループでテーマに沿った討論を行うことと、他のグループのディスカッションを観察・評価することで、発言の仕方や振る舞い方について、学び合います。	事前ワークに取り組む、学修中に出た課題への取り組み。	4時間
第8回	**グループディスカッション（最近の教育課題）②** テーマに即したグループディスカッションを行います。グループでテーマに沿った討論を行うことと、他のグループのディスカッションを観察・評価することで、発言の仕方や振る舞い方について、学び合います。ディスカッションを通して学んだ「小学校教員として必要な資質・能力」について考察し、小レポートにまとめます。	事前ワークに取り組む、学修中に出た課題への取り組み。	4時間
第9回	**様々な場面で必要な資質・能力（生徒指導場面）** これまでのインターンシップや教育実習の経験から授業以外の生徒指導場面を想定し、その際に教員に必要な指導や振る舞いについて考えられることを書き出し、グループディスカッショ ンを通して整理します。グループで場面・テーマを設定し、模擬指導の指導案を検討します。	事前ワークに取り組む、学修中に出た課題への取り組み。	4時間
第10回	**模擬指導（生徒指導場面）①　前半グループ** 実際の場面を想定し、グループごとに模擬指導を行います。他のグループの模擬指導を観察・評価することで、指導の仕方や教員の態度、振る舞い方について、学び合います。模擬指導を通して気付いたことをグループで交流し考察します。	事前ワークに取り組む、学修中に出た課題への取り組み。	4時間
第11回	**模擬指導（生徒指導場面）②　後半グループ** 実際の場面を想定し、グループごとに模擬指導を行います。他のグループの模擬指導を観察・評価することで、指導の仕方や教員の態度、振る舞い方について、学び合います。模擬指導を通して学んだ「小学校教員として必要な資質・能力」について考察し、小レポートにまとめます。	事前前半グループで出された課 題に取り組む、学修中に出た課題へ の取り組み。	4時間
第12回	**教育相談に必要な資質・能力** 保護者との個別面談や教育相談の際に必要な対話、傾聴、カウンセリング、コーチングなどのコミュニケーションスキルについて理解し、これまでの経験などについてグループで交流します。グループごとに教育相談の具体的場面を想定し、シミレーションの計画を立てます。	事前ワークに取り組む、学修中に出た課題への取り組み。	4時間
第13回	**教育相談のシミレーション①　前半グループ** グループごとに教育相談シミレーションを行います。他のグループのシミレーションを観察・評価することで、相談や対話の仕方や教員の態度、振る舞い方について、学び合います。授 業を通して気付いたことをグループで交流し考察します。	事前ワークに取り組む、学修中に出た課題への取り組み。	4時間
第14回	**教育相談のシミレーション②　後半グループ** グループごとに教育相談シミレーションを行います。他のグループのシミレーションを観察・評価することで、相談や対話の仕方や教員の態度、振る舞い方について、学び合います。授 業を通して学んだ「小学校教員として必要な資質・能力」について考察し、小レポートにまとめます。	前半グループで出された課題に取り組む、学修中に出た課題への取り組み。	4時間
第15回	**総括と今後の学修計画** 授業で取り組んできた事を振り返り、「小学校教員に必要な資質・能力」について改めて考察し、自分自身の“強みと課 題”を明確にします。その上で、改善・向上のための学修計 画を作成します。	本講義で出た様々な課題へのまとめを作成する。	4時間

授業科目名	**キャリア演習Ⅲ（幼保）**				
担当教員名	**大橋喜美子**				
学年・コース等	4年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼稚園・保育所合計23年勤務、大学教育歴26年				

授業概要

学生が自分の特性を見つめ直し、主体的に自身の人生設計を考えていくために次の課題に取り組んでいく。特に、保育実習やキャリア演習Ⅰ・Ⅱなどでの学びを踏まえて、卒業後の進路と目指す保育者像を明確にし、保育現場から求められている具体的な資質・能力について理解して、知識と実践力の向上を図る。また、現役の保育所園長やミドルリーダー的存在の幼稚園教諭の講話から、幼稚園教諭・保育士としてキャリア形成を継続していくための意識の高揚を図り、主体的に取り組むことができるようになることを目指す。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	現代社会で求められる幼稚園教諭・保育士に求められる資質、能力の理解	文化的素養として保育をめぐる諸問題に関する知識を身につけることができる。
2 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	模擬保育及び保育実技	子ども、同僚に対して共感的に接し、学び合おうとする態度を養うことができる。
汎用的な力		
1 ．DP6.行動・実践		幼稚園教諭・保育士に求められる資質、能力を知り、希望する進路に関するプレゼンやディスカッションを行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内容についての小レポート	40%	： 自らの反省を踏まえつつ、幅広い知識をもとに深い考察を行った上で書けているかで評価する。20点×2回（計40点）
授業への参加度	15%	： 授業内で実施する模擬保育などへの参加や発表、グループディスカッションでの積極的な発言などを評価する。（各回1点×15回）
模擬保育への参加	5%	： 積極的な参加と事前の練習、技能の到達度によって評価する。
討議への参加	20%	： 保育の専門性とは何かについて、討議を実施して、自分の進路に向き合う姿勢を確かなものにする。
期末レポート	20%	： 就職先の特性を視野に入れて、前期に学んだ学習の総まとめを記述する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

田上貞一郎 『保育者になるための国語表現』 萌文書林 2010年
その他　授業内で紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
「キャリア演習Ⅰ」または「キャリア演習Ⅱ」を修得または履修中であることが望ましい。キャリア実現に向けたこれまでの取り組みを総括し、さらに実力を確かなものとするための授業です。授業外での意欲的な学修が必要不可欠です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日昼休み・その他随時
場所：　大橋研究室
備考・注意事項：　【大橋喜美子】初回授業時に指示する。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：幼稚園教諭・保育士に必要な資質・能力について** 今日の幼稚園教諭・保育士に求められる資質・能力について調査し、これまでのインターンシップや実習の経験から自分の考えをまとめる。その上でグループディスカッションを通して整理し、調査に向けた見通しを持ちます。新聞、インターネット、書籍、その他の資料から必要な情報を収集する方法を確認し、計画を立てる。	授業で確認した方法に従い、必要な情報を収集して整理する。	4時間
第2回	**調査資料をもとにしたディスカッション（幼稚園教諭・保育士に必要な資質・能力について）**	授業を振り返り発表に備えて自らの考えをまとめる。	4時間

	幼稚園教諭・保育士に必要な資質・能力について、入手した資料をグループで分類整理した上でディスカッションを行ってコミュニケーションスキルの向上を図ります。その結果をまとめてプレゼンテーションの準備をする。		
第3回	**プレゼンテーション：幼稚園教諭・保育士に必要な資質・能力について** グループごとにテーマに即したプレゼンテーションを行い、クラス全体で考察を深めて、考察の結果は、各自でレポートにまとめる。	レポートをもとに、自分自身の現状を理解する。	4時間
第4回	**幼稚園教諭・保育士としての自分の強みと課題を知る。** 前回までに整理した「幼稚園教諭・保育士に必要な資質・能力」や、本学の建学の精神、教育学部のアカデミックスキルなどに照らして、自分自身の特性や資質を振り返り、自らの“強みと課題”を明らかにする。それにもとづいて自分を表現する文章を作成する。	次回の発表の準備と練習をしておく。	4時間
第5回	**幼稚園教諭・保育士としての私の“強みと課題”の発表** テーマに沿ってスピーチを行い、相互批評を通してブラッシュアップし、プレゼンテーション力の向上を図る。	自己と他者の強みと課題をまとめる。	4時間
第6回	**希望する進路と目指す保育者像（１）ゲストスピーカー（保育所園長経験者を招聘）** 幼稚園・保育園・認定子ども園・施設保育士など、保育職としての自らの進路を見定めるためにゲストスピーカーの話を聞いて、その上で、グループで話しあいながらそれぞれの進路の魅力について整理する。	就職を希望する園についてリストアップし、その保育内容や保育理念についてまとめる。	4時間
第7回	**希望する進路と目指す保育者像（２）** 幼稚園・保育園・認定子ども園・施設保育士など、各進路ごとに集まり、収集した情報をもとにグループディスカッションを行い、なぜその園や施設を選んだのかを互いに発表し合いながら情報共有を図り、自らの考えを整理していく。	自己の進路についての考察を行い、目指す保育者像を言語化する。	4時間
第8回	**希望する進路と目指す保育者像（３）ゲストスピーカー（幼稚園教諭経験者を招聘）** 現役のミドルリーダー的存在の幼稚園教諭の話を聞いて、就職に向けて自らが目指す保育者像を形にしていく。レポート課題を提出する。	次回までに保育の現代的課題について調べてくる。	4時間
第9回	**グループディスカッション（１）：保育の現代的課題に関する知識・見識** テーマに沿ったグループディスカッションを行い、グループディスカッションでは、集めた資料にもとづいて討論を行うことと、他のグループを観察・評価することで、発言の仕方や振る舞い方について学び合いをする。	トピックとして取り上げる保育の現代的課題について事前学修を行う。	4時間
第10回	**グループディスカッション（２）：保育の現代的課題に関する知識・見識** テーマに沿ったグループディスカッションを行う。グループディスカッションでは、集めた資料にもとづいて討論を行うことと、他のグループを観察・評価することで、発言の仕方や振る舞い方について学び合いをする。	トピックとして取り上げる保育の現代的課題について事前学修を行う。	4時間
第11回	**グループディスカッション（３）：保育の現代的課題に関する知識・見識** テーマに沿ったグループディスカッションを行い、グループディスカッションでは、集めた資料にもとづいて討論を行うことと、他のグループを観察・評価することで、発言の仕方や振る舞い方について学び合う。	グループディスカッションを通して学んだ内容をまとめる。	4時間
第12回	**模擬保育及び保育実技（１）ピアノの弾き歌い** グループに分かれて模擬保育を行い、他の発表者の模擬保育を観察・評価することで、指導の仕方や保育者の態度、振る舞い方について学び合います。また模擬保育をして気付いたことをグループで話し合いまとめる。	素話・絵本読みについて準備を行う。	4時間
第13回	**模擬保育及び保育実技（２）素話・絵本読み** グループに分かれて模擬保育を行う。他の発表者の模擬保育を観察・評価することで、指導の仕方や保育者の態度、振る舞い方について学び合います。また模擬保育をして気付いたことをグループで話し合いまとめる。	手遊びについて準備を行う。	4時間
第14回	**模擬保育及び保育実技（３）手遊び** グループに分かれて模擬保育を行い、他の発表者の模擬保育を観察・評価することで、指導の仕方や保育者の態度、振る舞い方について学び合います。また模擬保育をして気付いたことをグループで話し合いまとめる。	自らの保育技能についての課題をまとめる。	4時間
第15回	**総括と今後の学修計画** 自己評価と教員からの評価、およびクラスの仲間からの評価を統合させ、自分の強みと課題を明確にします。その上で、今後の改善・向上のための学修計画を作成する。	自らの保育技能についての課題を明確にする。	4時間

授業科目名	**教職論（中等）**				
担当教員名	**大槻雅俊**				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立小学校長として着任地域の3中学校と小中連携の教育活動を推進するとともに３中学校及び府立高校の学校評議員として学校運営に参画する。（全15回）				

授業概要

教育は教員の人間性や専門性などが大きく関わっており、それゆえ「教育は人なり」といわれてます。本授業では、教職の意義や教員の役割、教員をとりまく様々な事象を考察し、今日求められている教員の職務内容について理解するとともに、教員としての人間性、資質・能力などの素地を高め、自覚･責任感をもって進路選択ができるようにします。授業では教育関連法規や教育現場の具体的な事象を取上げ、現職教員による講話も交えて進めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	**目標**：
1 ．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教師としての基礎的資質に関する知識	生徒の育成を目指す教員として学習指導、服務などに関する知識を身につけることができる。

汎用的な力

1 ．DP4. 課題発見	学校現場の現状を見据え、教師を取り巻く課題を見出す力を養うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ成績評価を「ー」(評価しない)とします。
レポートの提出について、指示された期限を厳守しないときは受け付けないこともあります。

成績評価の方法・評価の割合		**評価の基準**
レポート 50%	：	内容の妥当性と論理構成などの観点から、独自のルーブリックに基づいて評価をします。
授業のなかの課題（ミニレポート） 30%	：	教師としての基礎的資質に関して、知識理解と表現力などの観点から独自のルーブリックに基づいて評価をします。
受講状況 20%	：	授業中の学習意欲、受講態度（私語、携帯電話の使用など授業と関係がない行為をした場合は減点対象とします。）提出物などを、チェックリストを活用し、独自のルーブリックに基づいて総合的に評価します。

使用教科書

指定する

著者	**タイトル**	**出版社**	**出版年**
広岡義之	・ はじめて学ぶ教職論	・ ミネルヴァ書房	・ 2017年

参考文献等

秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣
山口健二・高瀬淳　編『教職論ハンドブック』　ミネルヴァ書房
ほか、適宜授業で紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日　４限
場所：　西館4階個人研究室
備考・注意事項：　オフィスアワーは水曜日、４限ですが、そのほか研究室在室中はいつでも質問等可能です。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーションと教職の意義** 授業の受け方や提出物等の出し方などを理解するとともに、教職について学ぶことの意義を理解し今後の授業の見通しを把握する。	教職の意義のなかで教師とは何であるか復習し、自身が目指す教師像を述べることができるようにする。	4時間
第2回	**学校教育の現状と課題** 教員の定年による大量退職と若手教員の増加、少子化問題による学校数・学級数の減少化、学力問題、いじめ、非行、暴力などについて知る。	教育の諸問題のうち学力について調べてまとめてくる。	4時間
第３回	**教職についての社会の見方**	教員の品格について問題となることが予想される事象を調べてくる。	4時間

	教員の失態は社会で問題になりやすい。言動や身なり、教養、博識など人々の教員の捉えかたについて理解する。		
第4回	**求められる教員の資質能力(1)－教員としての人間性－（現職教員の講話）** 教員として授業ができる基礎知識、児童・生徒や保護者などを受けれる受容的な態度などを身につけた豊かな人間性について理解する。講話は場合によっては視聴覚教材を活用することもある。	教員の心身の健康と児童・生徒の関係をまとめる。	4時間
第５回	**求められる教員の資質能力(2)－教師の能力－（現職教員の講話）** 教員は授業が勝負であると言われ、ひとり一人の児童・生徒に応じた授業ができることは教員にとって必須である。このような趣旨を踏まえ、授業力とは何か、また児童・生徒の育成に間接的にかかわる事務処理能力、交渉能力・対応能力などについて理解する。講話は場合によっては視聴覚教材を活用することもある。	教師の授業力を高めるための取り組みをまとめる。	4時間
第６回	**教職員の種類と資格** 教員の免許について、その種類や職務内容そして取得に必要な履修科目等について理解するとともに教員以外の職員の職務についても知る。	学校教育に携わるうえで必要な公的資格をまとめ、説明できるようにする。	4時間
第７回	**教員の身分保障** 教員の出勤時刻や退勤時刻、および問題対応の時間などと労働基準法との関係について知り、勤務条件と実際の勤務および服務について理解する。	教員の服務規程を一覧表にまとめ、説明できるようにする。	4時間
第８回	**教員研修と向上心（指導体制の充実のための研修）** 教員の研修はかならず取り組まなければならないことである。研修は義務としての研修と自己向上のための研修に大別でき、それぞれ具体的な事柄を取上げる。研修は教員にとって重要であることを理解する。	研修の種別と必要性をまとめ、その意義を説明することができるようにする。	4時間
第９回	**教員の力量と学習指導** 中学校及び高等学校の専門教科など、教科指導の進め方、そして児童・生徒の実態を理解しながら授業を展開することを理解し、教員の力量を向上させることの大切さを理解する。	教科指導と生徒指導の両輪関係を述べることができるようにする。	4時間
第10回	**校内組織と教員の力量（校長を中心とした校内組織と補佐）** 校務は学校に在籍する教職員で分担して運営される。校務分掌の内容と学校組織について知り、教務、研究、生活指導をはじめ種々の校務があることと、校務を担ううえでの個人の適性について理解する。	校内の職務としての校務分掌を事前に調べてまとめてくる。	4時間
第11回	**校務分掌とその実際** 校務分掌の内容を、学校運営上必要である教務、研究、生徒指導、保健などの校務の実際の様子と課題について理解する。	校務分掌の実際で学んだことから長所と短所をまとめ短所の改善策を考えることができる。	4時間
第12回	**学校外の職務と教員の関わり** 地方の教育行政（区役所イベントなど）、警察署、消防署、医師会、青少年指導委員会などと学校の職務との関連について知り、児童・生徒の健全育成にとって相互協力が重要であることと教員のかかわりについて理解する。	学校と関係機関のつながりを図式的にまとめることができる。	4時間
第13回	**教職員等と学校関係者等との連携協働（チーム学校運営への対応）** 地域の学校という意識、地域の連合組織と学校・教員の関連、地域の一員である家庭について知り、児童・生徒の健全育成にとって相互連携が必要であることを理解する。	学校、家庭、地域の連携の重要性をまとめることができる。	4時間
第14回	**教員をめぐる事件・事故** 不審者侵入、交通事故、学校事故などの学校安全管理や飲酒運転、セクハラなど教職員の不祥事や事案が起こる背景について知り、教職員のあるべき姿について理解する。	学校の安全管理（校内外）をまとめ、発表できるようにする。	4時間
第15回	**まとめと授業全体の振りかえり** 教員として教育現場に赴く際、一人ひとりの児童・生徒への深い愛情と理解にもとづき、熱意をもって指導にあたれる理想としての教員像を描くことができるようにする。さらに自己教育力を磨き高めるうえで、自己の課題を捉えることができる。	自身が描く教師像と努力すべきことがらをまとめる。	4時間

授業科目名	教育学（中等）／教育学概論				
担当教員名	徳永正直				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

無力な赤ん坊が「大人」としての人間になるためには「教育」が不可欠だとされるが、それでは「教育とは何か？」この問いに答えるために、さまざまな教育思想（ルソー、ヘルバルト、デューイ、ボルノー等）の理解を通じて「教育の理念」を検討する。また、学校教育に関連した諸問題を歴史的に考察し、今日の具体的な教育問題（いじめ・自殺、児童虐待、体罰など）の原因と背景を考える。
各自がそれぞれに理想的な教師像を確立するための学びとし、子どもを正しく理解することや、教育することの難しさを深く理解する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	生涯にわたる人間形成に関わる原理的基礎を理解する。	人間形成の営みに携わる者としての基本的素養を身につけることができる。
2 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	教育の思想と歴史的変遷について理解するとともに、教育をめぐる状況、教育制度等に関する基礎的な教養を身につける。	教育に関する基礎的な理論について具体的にとらえた上で教育をめぐる現代的状況を的確にとらえることができる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		人間形成に関わる今日的課題を見出すことができる。
2 ．DP8.意思疎通		他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価は次の３つの観点からの総合評価が６０％以上を合格とする。
①教育の原理的基礎の理解
②教育の歴史をふまえた教育の意義・目的の理解
③子どもの現状の理解と教育的諸問題への適切な対応

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中の課題達成度	40%	： 毎回の授業終了時に行う小レポートの内容（理解度など）をもとに評価する。キーワードを含み論理的整合性がとれた論述は3点とし、誤りや不正確な内容であれば1点とする。
レポート	50%	： 教育の基礎的理解にかかわる教育思想・教育の理念に関し、各自が興味を持ったテーマについてレポートを作成し、理解度が十分であり、学術的なレポートの形式になっていれば50点満点とする。
授業への参加度	10%	： 教員からの質問に応じて的確に回答することや、ディスカッションへの参加状況などに基づいて総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

徳永正直・竹中暉雄・宮野安治・中山征一『時代と向き合う教育学（改訂版）』（ナカニシヤ出版、2003年）
徳永正直『教育的タクト論ー実践的教育学の鍵概念』（ナカニシヤ出版、2007年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 後日連絡します。

場所： 徳永研究室

備考・注意事項： 授業外での質問の方法
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールでも対応する。
メールアドレス
tokunaga-m@osaka-seikei.ac.jp
ただし、件名に「教育学：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション―具体的な教育問題を手がかりに考える。**	授業内容の要約（キーワード：教員の懲戒権）と次回授業の資料を読む。	4時間

	教育に関する具体的な問題を学問的に考えることの大切さを認識する。 大阪府立S高校で起きた体罰事件に含まれる教育学的問題について考える。 ①この事件を惹き起した教員の問題点（不適格教員と指導力不足教員の違いを明確にする。） ②教員に対する懲戒処分と関連する法律 ③教員の懲戒権を考える。学校教育法第11条の趣旨		
第2回	**教育手段としての「賞罰」を考える。ー体罰と児童虐待** ①賞罰の定義と賞罰を多用する教育の危険性 ②体罰問題を歴史的に考える。 ③家庭での「しつけ」としての体罰と身体的虐待 ④体罰肯定論と体罰否定論でディスカッション ⑤教育は調教ではない。 ⑥望ましい罰のあり方を検討する。	授業内容の要約と授業で取り上げなかった体罰事件を調べ、それに対する意見をまとめる。	4時間
第3回	**「教育」の重要性と危険性（１）ー赤ちゃん学の成果に学ぶ。** 人間にとっての教育の必要性と重要性の根拠を明らかにする。 ①野生児研究「狼に育てられた子」の嘘 ②ポルトマンの人間学「人間は一年早産の動物である。」 ③赤ん坊の不思議な能力と母子関係の特質ー「赤ちゃん学」の成果に学ぶ。 ④適切な呼応関係の大切さ	赤ちゃん学に関連する著書を読みレポートにまとめる。	4時間
第4回	**「教育」の重要性と危険性（２）ー教育勅語と教育基本法** 教育は人間形成にとって不可欠な営みであるが、しかし同時に教育には思想統制・思考方法の統制・感性の統制につながる側面があることを確認する。 太平洋戦争以前の「教育勅語」体制の教育の問題点を明らかにしつつ、戦後の「教育基本法」体制の教育の意義について解説する。 ドイツにおける「過去の克服」と日本の取り組みを考える。	授業内容を要約（キーワード：教育勅語と教育基本法）する。	4時間
第5回	**近代教育制度の成立と展開ー学校の役割と学校教育をめぐる諸問題** 学校の役割を歴史的に検証しながら、とりわけ明治期以後の学校教育の変遷について解説する。 また、近年、学校ではさまざまな問題（不登校・学級崩壊・いじめ自殺・教員の過労死など）が発生しているが、問題解決に向けた家庭・地域・行政の協力関係について紹介する。	子どもの問題行動解決に向けた学校での取り組みについて調べてレポートにまとめる。	4時間
第6回	**子どもの問題行動の変遷（1980年代以後）と学校教育ー管理主義教育の弊害** 「いじめ・自殺」問題への社会的注目とその背景にあった管理主義教育の問題点を、子どもの権利条約を踏まえて明らかにする。子どもの権利条約の背景にコルチャックの思想があることを確認する。また、学校での事故等などへの対応にも触れる。	子どもの権利条約の画期的な意義についてまとめる。	4時間
第7回	**アリス・ミラーの反教育学ー闇教育と光の教育ーその意義と問題点** 「教育」や「しつけ」の美名の下に子どもを虐待してはならないというアリス・ミラーの子ども解放思想について解説し、彼女の思想の意義と問題点を考えながら、本来の教育のあり方を検討する。 幼少期に虐待されて心にトラウマを刻印された子どもの発達上の問題についても解説する。 また、闇教育と光の教育についてディスカッションし、「しつけ糸の教育」の重要性を認識する。	アリス・ミラーの著作の指定箇所を読み、それに対する各自のコメントを作成する。	4時間
第8回	**ルソーの教育思想ー「子どもの発見者」として高く評価される理由** 教育の歴史上「子どもの発見者」として高く評価されるルソーの教育思想を解説する。 ①西欧における子ども観の変遷ー親子関係の歴史的変遷をたどる。 ②ルソーの生涯 ③『エミール』（1762年）における消極教育、現在主義、子どもの発達に忠実な教育の立場をとるルソー ④ルソーの教育思想の問題点	授業内容（キーワード：消極教育、現在主義など）を要約する。	4時間
第9回	**ヘルバルトの教育思想ールソー批判と学問としての教育学の確立者** ルソーの子ども観を徹底的に批判したヘルバルトの教育思想を解説する。「堅固な道徳的性格」を意図的計画的に作り上げるヘルバルトの教育思想を理解する。 ①ヘルバルトの生涯 ②家庭教師時代の体験と教育思想への影響 ③「堅固な道徳的性格」とは何か ④「管理」「教育的教授」「訓育」の体系性	授業内容を要約しておく。	4時間
第10回	**教育の根本問題ー教育学的二律背反（デューイとブルナーの教育思想にも関連づける）** ルソーとヘルバルトの教育思想が何故決定的に対立するのかを理解すれば、教育の難しさを理解する手がかりになる。どのように対立するのかを話し合う。そして、教育をめぐる解決困難な対立について解説する。 ①指導か放任か ②子ども中心主義か教師中心の教育か ③子どもの自然な発達に忠実な教育か発達を意図的に早める教育か ④理想的な教育か現実的な教育か	授業内容を要約しておく。	4時間
第11回	**ボルノーの教育思想ー教育の非連続的形式（「覚醒」「出会い」「危機」「訓戒」などの意義）** 陶冶可能性を前提とする伝統的な教育とは次元の異なる「教育の非連続的形式」として「覚醒」や「出会い」や「危機」の人間形成にとっての意義を解明したボルノーの思想を解説する。 自分自身にとっての「覚醒」や「出会い」や「危機」の体験について話し合う。 人間学的教育学の立場を確立したボルノーの思考方法に学ぶ。	人間学的教育学について調べてレポートする。	4時間
第12回	**環境問題と環境教育ー現代社会における焦眉の教育課題** 地球温暖化に象徴される地球環境問題の解決は人類に課せられた焦眉の課題であるが、日本における「公害」問題から始まる環境教育の取り組みを歴史的に考察する。 経済発展と環境保護との両立を図る「持続可能な開発」を担保するための取り組みについて、環境倫理学に関連づけながら解説する。	環境教育の取り組みについて各自調べてレポートする。	4時間
第13回	**ライフサイクル（人生周期）と発達課題ー通過儀礼の意義** 誕生から死に至る人間の生涯をいくつかの段階に区分して捉えるライフサイクルの考え方との関連で、各段階における発達課題について解説する。その際に乳幼児期から就学期への移行と青年期から成人期への移行の際に行われる通過儀礼の意義を考える。 また、大人と子どもの違いを確認し、主権者教育について話し合う。	さまざまな世界の成人式について調べて報告する。	4時間
第14回	**「良い教師」の条件（１）ー教師の使命と責任**	教育愛と子ども理解に関する参考文献を読む。	4時間

	教師に対する社会的批判が強くなっているが、そもそも教師の使命と責任はどうあるべきか。 ①各自が出会った優れた教師や指導者について話し合う。 ②良い教師の条件 子どもの適切な理解、子どもを愛するということ、適切な指導の本質について考える。		
第15回	**「良い教師」の条件（２）ー教師の専門性と教育的タクト** 教師という仕事の困難さを理解するとともに、教育者に求められる専門的能力のひとつとされるタクトのさまざまな働きについて紹介する。	教育的タクトのさまざまな働きについてレポートにまとめる。	4時間

1

授業科目名	**教育心理学（中等）／教育心理学**				
担当教員名	**米田薫**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

「教育心理学」は心理学の一領域で，教育に関連する諸事象を心理学的に研究し、教育の効果を高めるために役立つ心理的知見と心理的技術を提供しようとする学問である。本講義は、発達、パーソナリティと知能、学習と教育評価、動機づけを取り上げ、一人ひとりの子どもの発達の特性や個に応じた教育的対応や集団の状況に応じた指導・援助についての理解を深め、心理学的知見に基づく教育観を醸成する。本講義は、グループで与えられた課題をレポートし、そのプレゼンテーションを行う形式で進めていく。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	教育心理学に関する基本的知識	教育心理学の基本的な事項について理解し、説明することができる。
汎用的な力		
1 ．DP6.行動・実践		与えられたテーマについて、グループで計画的に調査し、発表することができる。
2 ．DP7.完遂		自分の担当した役割に責任があることを自覚し、グループワークを最後まで遂行できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内のテスト 15%	：	授業内に実施する各単元の基礎的事項に関するテストにより評価する。
各単元のワークシート、課題レポート 50%	：	各単元で作成するワークシートと与えられた課題についてのレポートによって評価する。
プレゼンテーション 20%	：	与えられた課題に関するプレゼンテーションの内容とパフォーマンスにより評価する。
プレゼンテーションに用いる資料 15%	：	プレゼンテーションに用いた資料の内容の正確さと適切さで評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
遠藤司編著	・ 教育心理学	・ 一藝社	・ 2014年

参考文献等

桜井茂男編著『たのしく学べる最新教育心理学』図書文化社、2004
古谷喜美代ら編著『児童生徒理解のための教育心理学』ナカニシヤ出版　2013
藤澤文編著『教職のための心理学』ナカニシヤ出版　2013
前原武子編著『生徒支援の教育心理学』北大路書房　2002

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。予習としてテキストの次時の範囲を読んでワークシートにまとめて授業に臨むこと、事後に自分で学修した事項をまとめること、確認テストに備えて復習しておくことを求める。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　木曜日2時間目

場所：　中央館５階127

備考・注意事項：　質問は、Ｅメール（アドレス：yoneda@osaka-seikei.ac.jp）でも対応する。件名に「教心質問：○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、名前を明記すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　教育心理学とは何かを明らかにしよう** 教育心理学の定義、領域について概説し、この講義の進め方等について説明します。	シラバスを熟読する。教育心理学の定義、領域と内容を説明できるようにする。	4時間

第2回	**発達と教育（１）発達とは何か** 発達の定義、規定するもの、基本となる代表的な理論	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。グループで与えられた課題について学習する。	4時間
第3回	**発達と教育（２）発達の諸相** 発達段階と各段階の特徴と、親子関係から見た発達について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。グループで与えられた課題について学習する。	4時間
第4回	**発達と教育（3）青年期の心理** 中学生・高校生時代の心理について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。グループで与えられた課題について学習する。	4時間
第5回	**学習の理論** 学習の定義、基本となる代表的な学習理論の概観、記憶について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。グループで与えられた課題について学習する。	4時間
第6回	**教授と学習** 代表的な教授理論を概観します。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。	4時間
第7回	**動機づけの理論** 動機づけ、原因帰属、自信と無気力について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。	4時間
第8回	**知能と学力** 定義、代表的な理論，測定法、知能と学力の関係について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。グループで与えられた課題について学習する。	4時間
第9回	**中間まとめ** 前半の学びを振り返り、深めます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。	4時間
第10回	**教育の評価** 子どもを生かす教育評価を概観します。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。	4時間
第11回	**授業の実践と研究** 心理学を生かした授業実践について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。	4時間
第12回	**学級集団** 心理学を生かした学級集団づくりについて学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。	4時間
第13回	**パーソナリティの問題と生徒理解** 定義、代表的な理論、社会性や道徳性に関する理論を概観します。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。	4時間
第14回	**障害のある子どもへの支援** 支援を要する子どもへの支援のあり方を学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。テキストで次時の予習を行い、ワークシートにまとめる。グループで与えられた課題について学習する。	4時間
第15回	**総括** 本科目を受講して、得たものと今後の学修のあり方について考えます。	本時の学習内容について追加学習し、ワークシートにまとめる。	4時間

授業科目名	**特別支援教育**				
担当教員名	**村田観弥**				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中学校勤務時の交流学級担当教員の経験、及び特別支援学校にて勤務した経験を踏まえ、具体的事例をもとに講義する（全15回）。				

授業概要

2014年の「障害者権利条約」批准により、「障害者差別解消法」「改正障害者雇用促進法」の施行など、国内における「障害」にかかわる法整備が進み、教育においても特別支援教育からインクルーシブ教育推進への動きが加速している。本科目では、「障害」を取り巻く最新の教育的動向を考えることを通して、「障害」のあるとされる子どもへの教育的支援の基礎、及び実践における支援のあり方を学ぶとともに、「障害」「支援」「共生」「教育」といった概念について深く考え、自らのかかわりを常に問い直す教育的姿勢の涵養を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	特別支援教育に関する知識	教員免許取得を目指す者として、「障害」についての基礎的な知識を習得するとともに、教育的支援に必要な制度及び組織のあり方について理解する。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	模擬的な事例検討を通して、「障害」への教育的支援のあり方や「合理的配慮」を考える。	事例にもとづいたグループでの議論（事象分析や状況判断の検証）から、知識と実践を接合する困難さや対話的関係の重要性に気付く。

汎用的な力

1 ．DP5.計画・立案力	専門的知識を活用し、個々の児童の状況把握と問題解決への方策を立案できる。
2 ．DP9.役割理解・連携行動	教育的支援を実践する専門家としての役割と限界を知ることで、組織内の一員としての連携の重要性を理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回のリアクションペーパー（2点×15回）	30%	： 毎回、講義への感想・意見と質問への回答を求める。どちらも記述できている場合は2点、どちらかのみの場合は1点と採点する。
講義への参加度（20点）	20%	： グループ・ディスカッションへの参加度、プレゼンテーションの質、グループへの貢献度などを総合的に判断する。特に、割り当てられたプレゼンテーションの質を重視する。
小論文（30点）	30%	： 講義内で学んだ知識が正確に述べられているか、自らの問題として捉えられているか、主張が論理的かを重視する。
小テスト（10点×2回）	20%	： 受講者の理解度を測るための小テストを行う。講義内で示された重要語句の説明を求め、10点満点で採点する。2回実施する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特別支援学校―幼稚部教育要領/小学部・中学部学習指導要領/高等部　文部科学省　2015
特別支援学校学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)　文部科学省 2015
【新訂版】特別支援教育の基礎基本　独立行政法人国立特別支援教育総合研究所　　2015　ジアース教育新社
【改訂版】特別支援教育基本用語100　明治図書出版　2014
物語としての発達/文化を介した教育―発達障がいの社会モデルのための教育学序説　津田英二　生活書院　2012
アメリカの教室に入ってみた: 貧困地区の公立学校から超インクルーシブ教育まで 赤木和重　ひとなる書房　2017

その他　講義中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワーの時間帯（初回伝達）

場所：　研究室

備考・注意事項：　メールでも対応する。メールには、必ず氏名と所属を記すこと。
メール・アドレス、オフィス・アワーについては、講義初回に提示する。
murata-k@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

	授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**「障害」とは何か** 障害概念についての基礎的内容。ICFモデルの説明。近年の社会的問題（臓器移植や出生前診断）の話題から自己の問題として捉える。	講義内容について復習する。提示された話題について、今後のグループ討議のため調べておく。	4時間
第2回	**「支援」と「合理的配慮」を考える** 「支え合い、援ける」という関わりについての根源性を問う。障害者権利条約、障害者差別解消法の説明から「合理的配慮」概念について考える。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは講義中に提示する（キーワードの一例：ICFモデル　障害者差別　合理的配慮　当事者主権など）。	4時間
第3回	**障害児教育の歴史・変遷：特殊教育から特別支援教育へ** 国内外の動向を概観し、世界的潮流の中で日本の障害児教育がどのような変遷をたどったかを知るとともに、特別支援教育の理念と基本的な考え方を理解する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：就学義務　養護学校制度　中央教育審議会　ウォーノック報告など）。	4時間
第4回	**特別支援教育の制度（１）：個別の教育支援（指導）計画/特別支援教育コーディネーター** 計画書の内容/書き方、コーディネーターの役割について、具体例を提示し解説する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：個別の教育支援計画　個別の指導計画　特別支援教育コーディネーター　医療的ケア　など）。	4時間
第5回	**特別支援教育の制度（２）：校内支援体制/センター的機能/地域連携** 教員間及び専門職間連携について、就労移行支援や障害者福祉の現状なども踏まえ、解説する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：特別なニーズ　発達検査　校内支援会議　センター的機能　など）。	4時間
第6回	**特別支援教育の制度（３）：インクルーシブ教育と共生社会** 近年の各国の教育環境との比較を通して、インクルージョンの理念と日本の現状を提示する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：インクルージョン　インテグレーション　通級による指導　交流及び共同教育　など）。	4時間
第7回	**特別支援教育の理論と方法（１）：視覚障害** 視覚障害教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：弱視　点字　触覚教材　拡大教科書　晴眼者　など）。	4時間
第8回	**特別支援教育の理論と方法（２）：聴覚障害** 聴覚障害教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：難聴　人工内耳　指文字　手話　キュード・スピーチ　など）。	4時間
第9回	**特別支援教育の理論と方法（３）：知的障害** 知的障害教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：知能検査　知能指数　発達指数　各教科等を合わせた指導　自立活動　など）。	4時間
第10回	**特別支援教育の理論と方法（４）：肢体不自由** 肢体不自由教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：痙直型まひ　アテトーゼ型まひ　筋ジストロフィー　コミュニケーションエイド　てんかん発作　など）。	4時間
第11回	**特別支援教育の理論と方法（５）：重複障害/病弱** 重複障害教育及び病弱教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：重度・重複障害　AAC　VOCA　院内学級　ターミナル期　など）。	4時間
第12回	**特別支援教育の理論と方法（６）：自閉症スペクトラムとその近接障害** 障害概念及び支援方法について解説。LD及びADHD、発達障害概念についても取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：自閉症　アスペルガー障害　LD　ADHD　二次的障害　アセスメント　など）。	4時間
第13回	**特別支援教育の理論と方法（７）：性同一性障害、うつ病、言語障害、パーソナリティ障害など、「障害」に近接する問題** 近年注目される障害概念や発達障害との関連が指摘されるものなどを中心に、事例を交え説明する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：ジェンダー　LGBT（性的マイノリティ）　言葉の教室　吃音　かん黙　など）。	4時間

第14回	**障害と教育を巡る諸問題：障害者差別/就労/福祉政策/貧困/外国にルーツがある家庭** 障害を巡る教育や社会の諸問題を考えることで教育的支援の意味について掘り下げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：家族支援　就労支援　法定雇用率　障害者総合支援法　貧困問題　外国にルーツがある家庭　など）。	4時間
第15回	**特別支援教育の今後と課題（総括）** これまでの講義について総括し、特別支援教育における今後の方向性と課題について提示する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：インクルーシブ教育システム　スクールクラスター　共生社会　など）。	4時間

1

授業科目名	**特別支援教育概論（中等）**				
担当教員名	**村田観弥**				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中学校勤務時の交流学級担当教員の経験、及び特別支援学校にて勤務した経験を踏まえ、具体的事例をもとに講義する（全15回）。				

授業概要

2014年の「障害者権利条約」批准により、「障害者差別解消法」「改正障害者雇用促進法」の施行など、国内における「障害」にかかわる法整備が進み、教育においても特別支援教育からインクルーシブ教育推進への動きが加速している。本科目では、「障害」を取り巻く最新の教育的動向を考えることを通して、「障害」のあるとされる子どもへの教育的支援の基礎、及び実践における支援のあり方を学ぶとともに、「障害」「支援」「共生」「教育」といった概念について深く考え、自らのかかわりを常に問い直す教育的姿勢の涵養を目指す。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	特別支援教育に関する知識	教員免許取得を目指す者として、「障害」についての基礎的な知識を習得するとともに、教育的支援に必要な制度及び組織のあり方について理解する。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	模擬的な事例検討を通して、「障害」への教育的支援のあり方や「合理的配慮」を考える。	事例にもとづいたグループでの議論（事象分析や状況判断の検証）から、知識と実践を接合する困難さや対話的関係の重要性に気付く。
汎用的な力		
1 ．DP5.計画・立案力		専門的知識を活用し、個々の児童の状況把握と問題解決への方策を立案できる。
2 ．DP9.役割理解・連携行動		教育的支援を実践する専門家としての役割と限界を知ることで、組織内の一員としての連携の重要性を理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回のリアクションペーパー（2点×15回） 30%	：	毎回、講義への感想・意見と質問への回答を求める。どちらも記述できている場合は2点、どちらかのみの場合は1点と採点する。
講義への参加度（20点） 20%	：	グループ・ディスカッションへの参加度、プレゼンテーションの質、グループへの貢献度などを総合的に判断する。特に、割り当てられたプレゼンテーションの質を重視する。
小論文（30点） 30%	：	講義内で学んだ知識が正確に述べられているか、自らの問題として捉えられているか、主張が論理的かを重視する。
小テスト（10点×2回） 20%	：	受講者の理解度を測るための小テストを行う。講義内で示された重要語句の説明を求め、10点満点で採点する。2回実施する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特別支援学校―幼稚部教育要領/小学部・中学部学習指導要領/高等部　文部科学省　2015
特別支援学校学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)　文部科学省 2015
【新訂版】特別支援教育の基礎基本　独立行政法人国立特別支援教育総合研究所　　2015　ジアース教育新社
【改訂版】特別支援教育基本用語100　明治図書出版　2014
物語としての発達/文化を介した教育―発達障がいの社会モデルのための教育学序説　津田英二　生活書院　2012
アメリカの教室に入ってみた: 貧困地区の公立学校から超インクルーシブ教育まで 赤木和重　ひとなる書房　2017

その他　講義中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　オフィスアワーの時間帯（初回伝達）

場所：　研究室

備考・注意事項：　メールでも対応する。メールには、必ず氏名と所属を記すこと。
メール・アドレス、オフィス・アワーについては、講義初回に提示する。
murata-k@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**「障害」とは何か** 障害概念についての基礎的内容。ICFモデルの説明。近年の社会的問題（臓器移植や出生前診断）の話題から自己の問題として捉える。	講義内容について復習する。提示された話題について、今後のグループ討議のため調べておく。	4時間
第2回	**「支援」と「合理的配慮」を考える** 「支え合い、援ける」という関わりについての根源性を問う。障害者権利条約、障害者差別解消法の説明から「合理的配慮」概念について考える。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは講義中に提示する（キーワードの一例：ICFモデル　障害者差別　合理的配慮　当事者主権など）。	4時間
第3回	**障害児教育の歴史・変遷：特殊教育から特別支援教育へ** 国内外の動向を概観し、世界的潮流の中で日本の障害児教育がどのような変遷をたどったかを知るとともに、特別支援教育の理念と基本的な考え方を理解する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：就学義務　養護学校制度　中央教育審議会　ウォーノック報告など）。	4時間
第4回	**特別支援教育の制度（１）：個別の教育支援（指導）計画/特別支援教育コーディネーター** 計画書の内容/書き方、コーディネーターの役割について、具体例を提示し解説する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：個別の教育支援計画　個別の指導計画　特別支援教育コーディネーター　医療的ケア　など）。	4時間
第5回	**特別支援教育の制度（２）：校内支援体制/センター的機能/地域連携** 教員間及び専門職間連携について、就労移行支援や障害者福祉の現状なども踏まえ、解説する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：特別なニーズ　発達検査　校内支援会議　センター的機能　など）。	4時間
第6回	**特別支援教育の制度（３）：インクルーシブ教育と共生社会** 近年の各国の教育環境との比較を通して、インクルージョンの理念と日本の現状を提示する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：インクルージョン　インテグレーション　通級による指導　交流及び共同教育　など）。	4時間
第7回	**特別支援教育の理論と方法（１）：視覚障害** 視覚障害教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：弱視　点字　触覚教材　拡大教科書　晴眼者　など）。	4時間
第8回	**特別支援教育の理論と方法（２）：聴覚障害** 聴覚障害教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：難聴　人工内耳　指文字　手話　キュード・スピーチ　など）。	4時間
第9回	**特別支援教育の理論と方法（３）：知的障害** 知的障害教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：知能検査　知能指数　発達指数　各教科等を合わせた指導　自立活動　など）。	4時間
第10回	**特別支援教育の理論と方法（４）：肢体不自由** 肢体不自由教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：痙直型まひ　アテトーゼ型まひ　筋ジストロフィー　コミュニケーションエイド　てんかん発作　など）。	4時間
第11回	**特別支援教育の理論と方法（５）：重複障害/病弱** 重複障害教育及び病弱教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：重度・重複障害　AAC　VOCA　院内学級　ターミナル期　など）。	4時間
第12回	**特別支援教育の理論と方法（６）：自閉症スペクトラムとその近接障害** 障害概念及び支援方法について解説。LD及びADHD、発達障害概念についても取り上げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：自閉症　アスペルガー障害　LD　ADHD　二次的障害　アセスメント　など）。	4時間
第13回	**特別支援教育の理論と方法（７）：性同一性障害、うつ病、言語障害、パーソナリティ障害など、「障害」に近接する問題** 近年注目される障害概念や発達障害との関連が指摘されるものなどを中心に、事例を交え説明する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：ジェンダー　LGBT（性的マイノリティ）　言葉の教室　吃音　かん黙　など）。	4時間

第14回	**障害と教育を巡る諸問題：障害者差別/就労/福祉政策/貧困/外国にルーツがある家庭** 障害を巡る教育や社会の諸問題を考えることで教育的支援の意味について掘り下げる。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：家族支援　就労支援　法定雇用率　障害者総合支援法　貧困問題　外国にルーツがある家庭　など）。	4時間
第15回	**特別支援教育の今後と課題（総括）** これまでの講義について総括し、特別支援教育における今後の方向性と課題について提示する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。特に発表の順番に当たっているグループは、プレゼンテーションの準備をしておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：インクルーシブ教育システム　スクールクラスター　共生社会　など）。	4時間

授業科目名	**教育課程論（中等）**				
担当教員名	山本はるか				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

教育課程とは、生徒の学習経験を組織的に編成するために用意された教育計画である。本講義では、中学校・高等学校の学習指導要領の基本構造や特色について、学習指導要領の歴史的展開や社会状況の変化、背景にある教育思想や学力観・評価観を踏まえて考察していく。また、特色ある学校づくりと教育課程の開発について、具体例を踏まえながら、教育課程編成の現状と課題について考察を深め、課題を克服するための編成案を作成する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	教育課程に関する基礎的な考え方・知識	教育課程の基礎的な考え方や知識を修得することができる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育課程を分析する力	教育課程に関する基礎的な考え方や知識を活用して、実際の教育課程の成果と課題を分析することができる。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	教育課程編成に際して、教員が直面する課題を見出すことができる。
2 ．DP5.計画・立案力	発見した課題の解決に向けて、教育課程編成案を作成することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験 50%	：	教育課程に関する基礎的な考え方や知識を修得できているかどうかを判断する。
授業内課題を含むレポート 50%	：	教育課程に関する基礎的な考え方や知識を活用して、実際の教育課程を分析し、現状と課題について考察し、課題を克服するための編成案を作成することができているかどうかを判断する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編	東山書房	2018年
文部科学省	高等学校学習指導要領（平成30年告示）		年

参考文献等

田中耕治編著『よくわかる教育課程　第2版』ミネルヴァ書房、2018年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜日　3限
場所：　研究室（本館5F）

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション／現代の教育課程をめぐる課題** 教育課程の定義と、現代の教育課程をめぐる課題を知る。	予習シートの作成：学習指導要領、カリキュラム・マネジメント	4時間
第2回	**教育課程論の範囲、カリキュラム・マネジメント** これまで提案されてきた学習指導要領の変遷を概観する。カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえて、教育課程を捉え直すことの意義を知る。	予習シートの作成：経験主義、系統主義	4時間
第3回	**学習指導要領の変遷（１）経験カリキュラムと学問中心カリキュラム** 1940～1960年代の教育課程の特徴を知る。	予習シートの作成：生きる力、確かな学力	4時間
第4回	**学習指導要領の変遷（２）生きる力と確かな学力** 1970～1990年代の教育課程の特徴を知る。	予習シートの作成：PISA、資質・能力	4時間
第5回	**学習指導要領の変遷（３）現代に求められる学力** 2000年代以降の教育課程の特徴を知る。	予習シートの作成：総合的な学習の時間	4時間
第6回	**カリキュラム構成（１）総合学習**	予習シートの作成：道徳	4時間

	総合的な学習の時間を事例として、教科外の視点から、カリキュラムの編成の在り方を学習する。		
第7回	**カリキュラム構成（２）道徳の教科化** 道徳を事例として、教科と教科外の区分や、教科として成立させることの意義と課題を知る。	予習シートの作成：教育目標、教育評価	4時間
第8回	**カリキュラム開発（１）目標論・評価論とカリキュラム** 目標と評価の設定が、カリキュラム開発に与える影響を知る。	予習シートの作成：教材、発問	4時間
第9回	**カリキュラム開発（２）教材論・発問論とカリキュラム** 授業づくりの視点から、授業とカリキュラムのつながりを知る。	予習シートの作成：素朴概念	4時間
第10回	**カリキュラム評価（１）子どもの学びのメカニズムとカリキュラム、素朴概念** 子どもの視点を踏まえてカリキュラムを開発することの意義を知る。	予習シートの作成：試験、相対評価、絶対評価	4時間
第11回	**カリキュラム評価（２）教育評価の変遷と３つの機能** 教育評価の考え方の変遷を知る。	予習シートの作成：パフォーマンス評価、ルーブリック	4時間
第12回	**カリキュラム評価（３）新しい評価法、パフォーマンス評価、ルーブリック** 新しい教育評価の方法を知る。	予習シートの作成：外国語活動、接続	4時間
第13回	**新しい教育課程の課題（１）英語の教科化をめぐって** 小学校段階における英語の教科化を題材として、教育課程の接続に関わる成果を課題を知る。	予習シートの作成：夜間中学校	4時間
第14回	**新しい教育課程の課題（２）夜間中学校の取り組み** 夜間中学校における教師の取り組みを知ることで、学習者自身の経験を相対化する。	定期試験に向けて、これまでの学習を振り返る	4時間
第15回	**総括と質疑応答** 教育課程に関する基礎的な考え方や知識を踏まえて、実際の教育課程を分析する。	教育課程分析を完成させる	4時間

432

授業科目名	**中等保健体育科指導法Ⅰ**				
担当教員名	**田中　譲**				
学年・コース等	２年	開講時期	前期	単位数	２
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、保健体育科の目標について理解を深め、学習指導要領上の内容の配列と関連付けて教科特性を理解するとともに、授業を展開していく際の方法論についての基本的な枠組みを理解する。特に、①社会的背景および科学的根拠をもとに体育の目標の変遷過程について理解する。②労作としての「身体活動」と運動を楽しむ「生涯スポーツ」のそれぞれ意義と意味を理解する。③学習指導要領改訂のポイントと体育の学習内容を踏まえた単元の学習目標を学ぶ。④保健授業の学習内容を踏まえた単元の学習目標を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	**目標**：
１．DP1.幅広い教養やスキル	学習指導要領における保健体育の歴史的な経緯を学びながら目標を理解する。	本授業では、教師としての専門性を高めるための基礎的な知識・技術を身につけることを目標とする。
２．DP2.専門的知識・技能、職業理解	保健体育科が学校制度に導入された背景を通してその必要性を理解する。	保健体育科教員としての態度の基礎を身につける。

汎用的な力

１．DP6.行動・実践	課題を解決する方法を身につける。
２．DP8.意思疎通	課題解決方法の習熟をグループなどの議論を通して身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		**評価の基準**
筆記試験 50%	：	15回目の授業終了後に筆記試験を実施し、理解度を評価する。
指導案作成 30%	：	各テーマ（種目）に対する指導案を作成させ、その内容を評価する。
授業参加への積極性 20%	：	授業参加の積極性は、教員の質問に対応して的確に回答することを標準とし、積極的な発言、出された課題への対応などを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

大修館書店「保健体育」平成28年度用
東京書籍「新しい保健体育」平成28-31年度用

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日昼休み。研究室にいる場合は、いつでも対応。
場所：　研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（本授業のねらいと内容）** 学校現場で仲間として受け入れられる教員像を考えるとともに、そのような教員になるための方策を考える。	求められる教員像の整理と指導の歴史を考えておく。	2時間
第2回	**学習指導要領の変遷（教師と子どもの教育的関係に着目して）** 学習指導要領が形成された歴史的背景を説明し、その必要性と問題点について理解する。	指導法の歴史の再確認をする。また、指導要領の総説を読んでおく。	2時間
第3回	**現行学習指導要領解説（総説および目標）** 学習指導要領における体育領域の目標を理解し、現在求められている目標と生徒の実情を理解する。	体育領域の目標の再確認と体育の現代課題を調べておく	2時間
第4回	**体育の意義と現代課題（体育の目標構造と体育学力）（体力・運動能力を高める理由）** 学習指導要領における体育領域の目標変遷を理解することから、現在求められている目標を理解する。	各種目の実技に入る前に、総説を再度理解しておくこと。	2時間

第5回	**体つくり運動および器械運動の特性と教育内容** 体つくり運動および器械運動は、どのような経緯で学校教育に導入されたかを知ることで、両領域の特性を理解する。	体つくり運動および器械運動の指導法の復習。陸上競技および水泳の指導法の予習。	2時間
第6回	**陸上競技および水泳の特性と教育内容** 陸上競技および水泳の歴史を概観しながら、各種目の特性を理解する。	陸上競技および水泳の指導法の復習。球技科目の予習。	2時間
第7回	**球技の特性と教育内容** 球技の発生とその歴史的経緯を知ることで、球技の特性を理解するとともに、生徒が身につける能力の発展を学ぶ。	球技科目の復習。武道とダンスの予習。	2時間
第8回	**武道およびダンスの特性と教育内容** 武道とダンスの種類を分類しながら、それぞれの特性を明らかにしていく。	武道とダンスの復習。保健の意義と現代課題を調べておく。	2時間
第9回	**保健の意義と現代課題（健康生活と保健学力）** 保健が学校教育に導入された経緯を知るとともに、その必要性を理解する。	保健の歴史を再度確認する。保健領域の予習。	2時間
第10回	**保健領域における教育内容** 保健の知識だけでなく、実学としての保健について理解する。	日々の暮らしの中で、「保健」を意識できるようにしておく。	2時間
第11回	**教科書「保健体育」の内容比較** 称されている教科書を比較し、その内容を理解する。	教科書それぞれの違いから、指導法の違いについても再度確認しておく。	2時間
第12回	**教科書「保健体育」の内容比較** 比較した内容の違いを明らかにし、それぞれの教科書の特性を明らかにする。	次週の指導案の作成に向けて、資料の準備等をすすめておく。	2時間
第13回	**指導案作成の目的と方法** 指導案とは何かを理解し、作成のための順序とその形式を理解する。	生徒・学生の目線にたった指導案の作成を心がける。	2時間
第14回	**指導案の作成** 前時の指導を活用し、実際の指導案を作成する。	実際に指導することを踏まえたうえで、指導案を作成する。	2時間
第15回	**総括と質疑** これまでの授業の総括を行う。また、指導案等の質疑応答を行い、全員で理解を深める。	指導法Ⅱに向けて１５回の復習を徹底しておく。	2時間

432

授業科目名	**中等保健体育科指導法Ⅱ**				
担当教員名	**田中　譲**				
学年・コース等	２年	開講時期	後期	単位数	２
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、中等教育および高等学校における保健体育科の学習内容に応じた学習指導の展開および学習評価等を理解し、授業論や指導論を中心とした授業研究及び授業分析、運動教材の特性に応じた授業案について学び、指導計画の作成と展開によって教育的実践力の資質を養う。特に①中学校及び高等学校における運動種目の特性と「こつ」を理解する。②中学校及び高等学校における運動種目の実践的な学習指導計画の立案と学習評価について理解する。③「保健」における科学的根拠を基にした学習指導計画の立案と学習評価について理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	教育現場での課題を抽出し、その解決方法をグループ学習で導き出す。	教育現場の課題を明らかにし、その解決に向かう態度を養う。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	教育現場の現状分析から、授業での課題を明らかにする。
2 ．DP8.意思疎通	課題を構築する過程で、グループ間のコミュニケーションを図り、解決策を考える。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
筆記試験 40%	：	15回目の授業終了後に筆記試験を行い、理解度を評価する。
模擬授業における自己評価と他者評価の総合評価 40%	：	作成した指導案に準拠して学習指導が円滑に進んでいるかを評価する。
授業参加の積極性 20%	：	授業参加の積極性は、教員の質問に的確に応答したり、出された課題への対応などを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

後藤幸弘・上原禎弘　編著『内容学と架橋する保健体育科教育論』　晃洋書房　2012

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日昼休み。研究室にいるときはいつでも可。
場所：　研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（本授業のねらいと内容）** 本授業は、中学生を対象とした指導案による実際の体育授業に取り組み、自己の課題を明らかにするものである。	指導法Ⅰで学んだことの復習をしておく。 学習過程論の予習をしておく。	2時間
第2回	**課題解決的学習の理論（1）（学習過程論）** 広岡亮蔵の学力論から導き出された授業の方法について、学習過程を中心に説明する。	学習過程論から得た知識を、指導案に落とし込めるようにしておく。	2時間
第3回	**課題解決的学習の理論（2）（学習指導スタイル論）** 体育授業で身につけるべき知識・技術と学び取り方について、その目標に応じた学習過程と教授方法の違いを説明する。	学習指導スタイル論から得た知識を、指導案に落とし込めるようにしておく。	2時間
第4回	**課題解決的学習と教授技術** 課題解決学習の特徴を理解し、具体的な指導案作成に向け教材研究を行う。	課題解決的学習を、指導案に落とし込めるようにしておく。	2時間
第5回	**学習指導スタイルに応じた指導案の作成**	自分が指導案を作成することを念頭に置き、授業に参加し、復習する。	2時間

	知識・技術を目標に置くか、学び取り方を目標に置くか、それぞれの目標に応じた指導案の作成を学修する。		
第6回	**運動発達の理論（個人的スポーツ）** 個人の運動発達について学ぶとともに、対象の学年に応じた学習目標の立て方について学修する。	各学年、各発達段階における指導案を検討する。	2時間
第7回	**走り幅跳びの指導案づくり（指導と評価）** 走り幅跳びの指導案を作成するとともに、評価の仕方を学ぶ。	走り幅跳びの指導案を予習しておく。 次週の模擬授業の準備をする。	2時間
第8回	**走り幅跳びの模擬授業** 走り幅跳びの模擬授業を行い、授業評価を学ぶ。	模擬授業の反省と考察を行う。 球技の指導案を予習しておく。	2時間
第9回	**戦術的学習の理論（球技）** 戦術課題の分類と戦術学習を可能にする課題ゲームを学修する。	戦術課題を検討しておく。	2時間
第10回	**バスケットボールの指導案づくり（指導と評価）** バスケットボールの指導案を作成する。	バスケットボールの指導案を予習しておく。 次週の模擬授業の準備を行う。	2時間
第11回	**バスケットボールの模擬授業** バスケットボールの模擬授業を行い、授業評価を学ぶ。	模擬授業の反省と考察。 保健について指導案を考えておく。	2時間
第12回	**保健の授業づくり** 保健学修の要点を理解し、学修内容の特性を考えながら、指導案を作成する。	指導案を予習しておく。 次週の模擬授業の準備を行う。	2時間
第13回	**保健の模擬授業** 保健の模擬授業を行い、授業評価を学ぶ。	模擬授業の反省と考察。	2時間
第14回	**保健体育教師と体育授業　（自己反省）** 模擬授業で得られた感想や意見を集約し、今後の授業に生かせる工夫を考える。	指導法Ⅰ・Ⅱで行ってきた指導案を再度振り返っておく。	2時間
第15回	**総括と質疑** 中等保健体育科指導法Ⅲに向け、何が課題になるかを討議し、その解決方法を考える。	次年度は教育実習に臨む立場として、指導案のブラッシュアップや知識の積み上げを行う。	2時間

授業科目名	**中等英語科指導法Ⅰ**				
担当教員名	高橋昌由				
学年・コース等	2年生	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高校教員、指導教諭、主幹教諭（首席）（前15回）				

授業概要

現代の英語教育をとりまく課題および学習指導要領の改訂への経緯や背景を理解する。さらに、指導技術、英語教授法、観点別評価およびCAN-DOリストを含む評価方法等の学修や、input→intake→outputのモデル、コミュニケーション能力の育成と４技能の総合的な育成の成果としての自己表現等のoutputができる指導方法の修得を目標とする。特に、input→intakeの指導方法の修得を重視し、模擬授業を通して実践的な指導力量を高めることを目指す。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	英語教育に関する知識	英語教育に関する情報や知見を理解できる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	英語教育に関する知識の習得と技能の実践	英語教育に必要な知識をもとに的確に指導することができる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		具体的な場面での課題を検討することができる。
2 ．DP5.計画・立案力		具体的な場面に応じた指導を計画・立案できる。
3 ．DP6.行動・実践		具体的な場面に応じて、的確に指導することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

常に、謙虚に、前向きに、困難を克服するやる気を忘れずに、協力して、努力しましょう。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	40%	： 学修の成果を客観的に測定する。
授業外課題・小テスト	20%	： 予習課題、レポート、復習など
授業への参加度	40%	： 教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを特に評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
岡田圭子他	基礎から学ぶ英語科教育法	松柏社	2015年
文部科学省	中学校学習指導要領解説　外国語編	開隆堂出版	2018年
文部科学省	高等学校学習指導要領解説　外国語編・英語編		年

参考文献等

大喜多喜夫著　『英語教員のための授業活動とその分析』　大修館書店　2004
国立教育政策研究所教育課程研究センター　『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料[中学校　外国語]』　教育出版　2012
国立教育政策研究所教育課程研究センター　『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料[高等学校　外国語]』　教育出版　2012
根岸雅史他著　『NEW CROWN ② ENGLISH SERIES New Edition』　三省堂　2016
野村恵造他著　『Revised Vision Quest English Expression Ⅰ Standard』　啓林館　2017
村野井仁他著　『Genius English Communication I Revised』　大修館書店　2017

履修上の注意・備考・メッセージ

・教室で使える正確な英語の力を高めてください。そのためにも多読、文法・語法の整理に注力してください。
・予習、復習、準備を怠らないように。また、欠席は許されない。
・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日2限目
場所：　研究室

授業計画

	授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**オリエンテーション、英語教育の目的、学習指導要領（１）全体の構成** 授業の進め方と評価についてのオリエンテーション、 英語教育の目的 学習指導要領（１）：英語教育の課題、現行学習指導要領の、改訂の経緯、背景、要点、「指導計画の作成」、「内容の取扱い」、「道徳教育」	予習・復習課題、発表の準備・練習：授業の進め方と評価についてのオリエンテーション、 英語教育の目的 学習指導要領（１）：英語教育の課題、現行学習指導要領の、改訂の経緯、背景、要点、「指導計画の作成」、「内容の取扱い」、「道徳教育」を入念に学修してください。	4時間
第2回	**学習指導要領（２）細部の着眼点** コミュニケーション能力の育成と４技能の総合的な育成、観点別評価とCAN-DOリスト 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：コミュニケーション能力の育成と４技能の総合的な育成、観点別評価とCAN-DOリスト 講義、発表、実践、タスクを入念に学修してください。	4時間
第3回	**リスニング指導、英語教師論、学習者論** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：リスニング指導、英語教師論、学習者論を入念に学修してください。	4時間
第4回	**スピーキング指導、教授法** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：スピーキング指導、教授法を入念に学修してください。	4時間
第5回	**リーディング指導、言語習得と言語教育** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：リーディング指導、言語習得と言語教育を入念に学修してください。	4時間
第6回	**ライティング指導** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：ライティング指導を入念に学修してください。	4時間
第7回	**４技能と音声・語彙・文法指導** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：４技能と音声・語彙・文法指導を入念に学修してください。	4時間
第8回	**教材研究、ティーム・ティーチング、指導案、評価とテスト** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：教材研究、ティーム・ティーチング、指導案、評価とテストを入念に学修してください。	4時間
第9回	**教育実習、今後への展望** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：教育実習、今後への展望を入念に学修してください。	4時間
第10回	**中学校学習指導要領（１）言語活動とその取扱い** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：中学校学習指導要領（１）言語活動とその取扱いを入念に学修してください。	4時間
第11回	**中学校学習指導要領（２）言語材料とその取扱い** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：中学校学習指導要領（２）言語材料とその取扱いを入念に学修してください。	4時間
第12回	**高等学校学習指導要領（１）コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：高等学校学習指導要領（１）コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを入念に学修してください。	4時間
第13回	**高等学校学習指導要領（２）英語表現Ⅰ・Ⅱ、「共通する内容等」** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：高等学校学習指導要領（２）英語表現Ⅰ・Ⅱ、「共通する内容等」を入念に学修してください。	4時間
第14回	**学習指導要領（３）コミュニケーション能力の育成と４技能の総合的な育成の授業実践** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：学習指導要領（３）コミュニケーション能力の育成と４技能の総合的な育成の授業実践を入念に学修してください。	4時間
第15回	**総括と質疑応答** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：これまでの授業内容を入念に学修してください。	4時間

1

授業科目名	**中等英語科指導法Ⅱ**				
担当教員名	高橋昌由				
学年・コース等	2年生	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	高校教員、指導教諭、主幹教諭（首席）（前15回）				

授業概要

中等英語科指導法Ⅰでの学修の成果をもとに、よりすぐれた授業実践力および授業運営力を習得する。そのために、指導案作成の意義と方法を理解して、学習指導要領、英語教授法、評価方法等をより深く理解する。これらにもとづいて、input→intakeの授業実践のあり方のみならず、自己表現等を含むoutputに導くすぐれた授業の指導案を作成して、その授業を実践する力を模擬授業とその後の討論や省察で習得する。さらに、生徒理解を含めた１年間などの長期的な視点での授業運営力も習得する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	英語教育に関する知識	英語教育に関する情報や知見を理解できる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	英語教育に関する知識の習得と技能の実践	英語教育に必要な知識をもとに的確に指導することができる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		具体的な場面での課題を検討することができる。
2 ．DP5.計画・立案力		具体的な場面に応じた指導を計画・立案できる。
3 ．DP6.行動・実践		具体的な場面に応じて、的確に指導することができる。
4 ．DP7.完遂		あらゆる困難を超克して優れた指導をすることができる。
5 ．DP8.意思疎通		優れたコミュニケーションをとることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

常に、謙虚に、前向きに、困難を克服するやる気を忘れずに、協力して、努力しましょう。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	40%	： 学修の成果を客観的に測定する。
授業外課題・小テスト	20%	： 予習課題、レポート、復習など
授業への参加度	40%	： 教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを特に評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
JACET教育問題研究会	行動志向の英語科教育の基礎と実践	三修社	2017年
文部科学省	中学校学習指導要領解説　外国語編	開隆堂出版	2018年
文部科学省	高等学校学習指導要領解説　外国語編・英語編		年

参考文献等

国立教育政策研究所教育課程研究センター　『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料[中学校　外国語]』　教育出版　2012
国立教育政策研究所教育課程研究センター　『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料[高等学校　外国語]』　教育出版　2012
岡田圭子他著　『基礎から学ぶ英語科教育法』　松柏社　2015
齋藤榮二著　『「英語で授業」ここがポイント』　大修館書店　2015
望月昭彦他編著　『英語4技能評価の理論と実践：CAN-DO・観点別評価から技能統合的活動の評価まで』　大修館書店　2015
根岸雅史他著　『NEW CROWN ② ENGLISH SERIES New Edition』　三省堂　2016
野村恵造他著　『Revised Vision Quest English Expression Ⅰ Standard』　啓林館　2017
村野井仁他著　『Genius English Communication Ⅰ Revised』　大修館書店　2017

履修上の注意・備考・メッセージ

・教室で使える正確な英語の力を高めてください。そのためにも多読、文法・語法の整理に注力してください。
・予習、復習、準備を怠らないように。また、欠席は許されない。
・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日2限目

場所：　研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、英語教育課程、授業の準備と計画、模擬授業、学習指導案の作成 講義、発表、実践、タスク** 授業の進め方と評価についてのオリエンテーション 英語教育課程、授業の準備と計画、模擬授業、学習指導案の作成 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：英語教育課程、授業の準備と計画、模擬授業、学習指導案の作成 講義、発表、実践、タスクについてよく学修してください。	4時間
第2回	**リーディング指導、言語習得と教授法　指導案（1）コミュニケーション英語I（リーディングと4技能統合）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：リーディング指導、言語習得と教授法　指導案（1）コミュニケーション英語I（リーディングと4技能統合）についてよく学修してください。	4時間
第3回	**リスニング指導、授業の形態、学習者論、教師論　指導案（2）コミュニケーション英語I（リスニングと4技能統合）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：リスニング指導、授業の形態、学習者論、教師論　指導案（2）コミュニケーション英語I（リスニングと4技能統合）についてよく学修してください。	4時間
第4回	**模擬授業（1）コミュニケーション英語I（リーディング・リスニングと4技能統合）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：模擬授業（1）コミュニケーション英語I（リーディング・リスニングと4技能統合）についてよく学修してください。	4時間
第5回	**ライティング指導、測定と診断　指導案（3）中学校英語教科書②（ライティングと4技能統合）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：ライティング指導、測定と診断　指導案（3）中学校英語教科書②（ライティングと4技能統合）についてよく学修してください。	4時間
第6回	**スピーキング指導、教室の使用言語　指導案（4）中学校英語教科書②（スピーキングと4技能統合）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：スピーキング指導、教室の使用言語　指導案（4）中学校英語教科書②（スピーキングと4技能統合）についてよく学修してください。	4時間
第7回	**模擬授業（2）中学校英語教科書②（ライティング・スピーキングと4技能統合）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：模擬授業（2）中学校英語教科書②（ライティング・スピーキングと4技能統合）についてよく学修してください。	4時間
第8回	**音声と文字の指導、語彙と辞書指導　指導案（5）英語表現I（音声・語彙・辞書と文字と4技能統合）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：音声と文字の指導、語彙と辞書指導　指導案（5）英語表現I（音声・語彙・辞書と文字と4技能統合）についてよく学修してください。	4時間
第9回	**文法指導　指導案（6）英語表現I（文法と4技能統合）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：文法指導　指導案（6）英語表現I（文法と4技能統合）についてよく学修してください。	4時間
第10回	**模擬授業（3）英語表現I（音声・語彙・辞書と文字および文法と4技能統合）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：模擬授業（3）英語表現I（音声・語彙・辞書と文字および文法と4技能統合）についてよく学修してください。	4時間
第11回	**日本の英語教育と世界　指導案（7）中学校英語教科書①（input→intake→outputと4技能統合）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：日本の英語教育と世界　指導案（7）中学校英語教科書①（input→intake→outputと4技能統合）についてよく学修してください。	4時間
第12回	**教育実習にむけた準備　指導案（8）中学校英語教科書②（input→intake→output と4技能統合）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：教育実習にむけた準備　指導案（8）中学校英語教科書②（input→intake→output と4技能統合）についてよく学修してください。	4時間
第13回	**模擬授業（4）中学校英語教科書③（input→intake→output と4技能統合）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：模擬授業（4）中学校英語教科書③（input→intake→output と4技能統合）についてよく学修してください。	4時間
第14回	**模擬授業（5）コミュニケーション英語I／英語表現I（input→intake→output と4技能統合）** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：模擬授業（5）コミュニケーション英語I／英語表現I（input→intake→output と4技能統合）についてよく学修してください。	4時間
第15回	**総括と質疑応答** 講義、発表、実践、タスク	予習・復習課題、発表の準備・練習：これまでの学修をよく振り返っておいてください。	4時間

433

授業科目名	**生徒・進路指導論（中等）**				
担当教員名	**中野澄**				
学年・コース等	２年	開講時期	後期	単位数	２年
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校教員、教育委員会指導主事、文部科学省生徒指導調査官、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター総括研究官として、生徒指導及び進路指導に関する実務や研究に携わる。				

授業概要

学校教育における生徒指導及び進路指導等の位置づけ及び教育機関における体制について理解し、これらを実施するために必要な諸理論や手法について、体罰や懲戒の問題を含めて学ぶ。また、「いじめ」や「不登校」といった具体的な問題行動および進路指導の事例を取り上げ、問題の理解を深める。そして、理論と事例研究の統合を図ることにより、生徒指導および進路指導に関する現代的な課題を探究し、実際の教育活動への示唆を得る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：望ましい生徒指導・進路指導のあり方への理解を深め，教育現場での実践に活かすことができるようにする。

目標：生徒指導・進路指導に関する知識・技能を身につけている。教育現場における生徒指導・教育相談の役割と重要性を理解している。

汎用的な力

1 ．DP9.役割理解・連携行動

教職員間・家庭・地域・関係諸機関との連携のありかたについて理解している。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合　　**評価の基準**

授業の参加度　40%　：　授業への積極的参加，グループワークへの貢献度，授業態度などを総合的に評価する。

授業外課題　40%　：　生徒指導・進路指導のそれぞれについてレポートを課す。

試験　20%　：　生徒指導・教育相談に関する役割と重要性を理解し，専門的知識を身につけることができたかについて筆記試験で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省　『生徒指導提要』　2010年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜３限
場所：　研究室または教室（授業時間の前後）
備考・注意事項：　研究室または教室（授業時間の前後）

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 生徒指導、進路指導とはなにかについて概要を知り、それらを学ぶ意味について理解する。授業の進め方について理解する。グループ編成を行う。	学修内容について整理する。この講義に期待すること及び自分の問題意識を整理しておく。	4時間
第2回	**学校現場における生徒指導・進路指導の理論と実際** 生徒指導が学校教育の中でどのように位置づけられ、どのような体制で取り組まれているのか、そのシステムについて知ると同時に、どのような児童生徒観をもとに何を目指して実践されているかについて理解する。	学修内容について整理する。自身の中学校での体験を振り返り、何が生徒指導・進路指導として行われていたか考えてみる。	4時間

第3回	**生徒指導・進路指導の位置づけと体制** 常的な教育活動の中に生徒指導の機能があることを理解し、各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の機能のあり方について探求する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、様々な教育活動における生徒指導・進路指導のあり方について文献にあたる。	4時間
第4回	**生徒指導と生徒（子ども）の人権** 子どもの人権を尊重した生徒指導とは何か、事例をもとに探求する。また、懲戒・体罰と教師の指導性について考 察し、真の生徒指導とはどうあるべきかを探求する。グルー プワークを行う。	学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、報道等で取り上げられる子供にまつわる学校等の対応事案について、人権の視点から対応を考えてみる。	4時間
第5回	**生徒指導の理論と手法（１） 自己と向き合う** 「集団によって個が育つ」ことを深く理解するとともに、設定された場面における自尊感情の育成を意識した生徒指導のあり方について考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、生徒指導の３機能について事例を調べる。	4時間
第6回	**生徒指導の理論と手法（２） 対人関係を見直す** 「集団によって個が育つ」ことを深く理解するとともに、設定された場面における自尊感情の育成を意識した生徒指導のあり方について考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、生徒指導の３機能について事例を調べる。	4時間
第7回	**キャリア教育・進路指導の理論と進め方** 学校現場におけるキャリア教育・進路指導が学校全体の中でどのように位 置づけられ、どのような体制で取り組まれているのか、そ のシステムについて知ると同時に、どのような児童生徒観をも とに何を目指して実践されているかについて理解する。	学修内容について整理する。自身の中学 校での体験を振り返り、何がキャリア教育・進路指導とし て行われていたか考えてみる。	4時間
第8回	**学校・家庭・地域社会の連携** 学校が家庭や地域との連携して取り組んだ事例をも とに、連携の大切さとその方法について考究する。	学校・家庭・地域の連携によって指導に成果の上がった事例を、授業で扱った事例以外で見つける。三者の連携に関して学んだことをレポートにまとめる。	4時間
第9回	**生徒指導と学級形成の今日的意義** 日常的な教育活動の中に生徒指導の機能があることを理解し、各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の機能のあり方について探求する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、様々な教育活動における生徒指導のあり方について文献にあたる。	4時間
第10回	**学級集団形成の目的と方法** 「集団によって個が育つ」ことを深く理解するとともに、設定された場面における自尊感情の育成を意識した生徒指導のあり方について考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、生徒指導の３機能について事例を調べる。	4時間
第11回	**実践事例研究（１）いじめ問題の構造** 「いじめ防止対策推進法」及び「学校いじめ防止基本方針」に基づく、学校現場における組織対応の重要性について理解する。また、インターネットによるいじめ事案をもとに、「学校いじめ防止基本方針」に基づく対応のあり方を考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。学校のホームページ等の情報によって得られた複数校の「学校いじめ防止方針」を参考に、未然防止と早期発見・早期対応の違いについて、グループワー クでの論点をまとめる。	4時間
第12回	**実践事例研究（２）いじめ問題の対策** 「いじめ防止対策推進法」及び「学校いじめ防止基本方針」に基づく、学校現場における組織対応の重要性について理解する。また、インターネットによるいじめ事案をもとに、「学校いじめ防止基本方針」に基づく対応のあり方を考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。学校のホームページ等の情報によって得られた複数校の「学校いじめ防止方針」を参考に、未然防止と早期発見・早期対応の違いについて、グループワー クでの論点をまとめる。	4時間
第13回	**実践事例研究（３）不登校** 不登校の定義を知り、不登校対策を未然防止・早期対応・自立支援に分けつつ、状況に応じたチーム学校の対応について理解を深める。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、不登校児童生徒に関するチーム学校について事例を調べる。	4時間
第14回	**実践事例研究（４）進路指導** 進路指導・キャリア教育の方法として、個別の課題に向き合うカウンセリングとしての指導の在り方を理解する。	学修内容について整理する。自身の中学 校での体験を振り返り、進路相談の中でどんなカウンセリングが行われていたか考えてみる。	4時間
第15回	**まとめ —理論と実践の統合を図るために** これまでの学修内容を振り返り，望ましい生徒指導及び進路指導のあり方について考究する。	生徒指導・進路指導について学んだ内容を整理しレ ポートする。定期試験にむけて１５回の授 業全体から学んだことを復習する。	4時間

授業科目名	**陸上競技**				
担当教員名	**熊野陽人**				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

陸上競技は走・跳・投・歩から構成される運動であり、あらゆる運動・スポーツ活動の基本となる身体能力を用いる種目である。本授業では、個人で設定した課題目標を達成する事を目指し、他者へ陸上競技の指導が行えるような能力の養成を目指す。特に、中学校、高等学校の学習指導要領（保健体育）に示される陸上競技種目の特性と正しい基本技能および「こつ」を習得するとともに初心者から熟練者まで幅広く対応できる指導法を習得することを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	陸上競技（走・跳・投・歩）の基本的技能	陸上競技（走・跳・投・歩）の基本的技能を習得し、それぞれの運動の仕組みや「こつ」を理解できる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	陸上競技の基本的な理論および技能をもとにした他者への指導法	陸上競技の基本的な理論および技能を活かし、他者に陸上競技の指導ができる。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	自己の運動技能を評価し、陸上競技の基本的技能習得のために必要な課題を説明することができる。
2 ．DP6.行動・実践	他者と協力して授業を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
基本的技能の習得状況 40%	：	①各種目における基本的技能の習得状況 ②自分の課題を明確にし、その課題に応じた練習を行っているかどうか
授業中の課題レポート 20%	：	①指示した形式と提出期限を守っているかどうか ②参考文献等を活用し、客観的な事実と自分の考えを具体的に書いているかどうか
授業への取り組み状況 40%	：	①体調管理を行い万全の準備で受講しているかどうか ②授業中に指導内容を理解し、技能習得に積極的に取り組んでいるかどうか

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	『中学校学習指導要領解説　保健体育編』	東山書房	2008年
文部科学省	『高等学校学習指導要領解説　保健体育編』	東山書房	2009年

参考文献等

陸上競技指導教本（基礎理論編）、日本陸上競技連盟編、大修館書店
陸上競技指導教本（種目別実技編）、日本陸上競技連盟編、大修館書店

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　木曜日　お昼休み

場所：　研究室

備考・注意事項：　オフィスアワーの利用に関しては、初回授業時に伝える。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**陸上競技の特性およびルールの解説と評価法について説明** 陸上競技の特性について解説するとともに、授業を進めるにあたってのルールや評価方法について説明する。	陸上競技の特性について予習する。	4時間
第2回	**短距離種目（1）100m・200m・400m** スターティングブロックを用いたクラウチングスタートとスタンディングスタートの違いを理解し実践する。100m・200m・400m走の運動局面（加速局面、中間疾走局面、減速局面）を理解し、各局面に応じた走り方を実践する。	クラウチングスタートのルール、100m・200m・400m走の運動局面について予習する。	4時間

第3回	**短距離種目（２）ハードル走** ハードル走における踏切、クリアランス（ディップ、抜き脚、着地）を理解し、様々なインターバルやハードル高での50mハードル走を実践する。	ハードル走のルール（走距離、ハードル高、インターバル、男女によるルールの違い）を予習する。	4時間
第4回	**短距離種目（３）4×100mリレー** 4×100mリレーのルール（バトンゾーン、ブルーゾーンなど）と、バトンパス方法（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス）について理解し、実践する。	4×100mリレーのルールと、バトンパス方法について予習する。	4時間
第5回	**中距離種目（アネロビクス運動とエアロビクス運動）** 短距離種目のアネロビクス運動と、中距離・長距離種目のエアロビクス運動の違いについて理解し、アネロビクスとエアロビクスの境界に位置する800m～1500m走を実践する。	アネロビクス運動とエアロビクス運動の違いについて予習する。	4時間
第6回	**長距離種目（心拍数で運動強度をコントロールする）** 1500m～5000m走に相当するペースで走り、心拍数による運動強度のコントロールを実践する。また、心拍数と主観的運動強度の対応関係を理解する。	安静時心拍数、最大心拍数、主観的運動強度について予習する。	4時間
第7回	**跳躍種目（１）走り高跳び** 走り高跳びの運動局面（助走、踏切、空中、着地）とクリアランス方法（はさみ跳び、背面跳び、ベリーロール）を理解し、実践する。	走り高跳びの運動局面（助走、踏切、空中、着地）とクリアランス方法（はさみ跳び、背面跳び、ベリーロール）について予習する。	4時間
第8回	**跳躍種目（２）走り幅跳び** 走り幅跳びの運動局面（助走、踏切、空中、着地）と空中動作（かがみ跳び、はさみ跳び、そり跳び）を理解し、実践する。	走り幅跳びの運動局面（助走、踏切、空中、着地）と空中動作（かがみ跳び、はさみ跳び、そり跳び）について予習する。	4時間
第9回	**跳躍種目（３）三段跳び、バウンディング運動** 三段跳びの運動局面（助走、ホップ、ステップ、ジャンプ、着地）を理解し、実践する。また、リズミカルに跳躍するバウンディング運動の特性について理解し、実践する。	三段跳びの運動局面（助走、ホップ、ステップ、ジャンプ、着地）とバウンディング運動の特性について予習する。	4時間
第10回	**投擲種目（１）砲丸投げ** 砲丸投げの投法（立投げ、グライド投法、回転投法）を理解し、実践する。ボールを「投げる」動作と、砲丸を「突き出す」動作との違いを理解する。また、安全に砲丸投げを行うためのリスクマネジメント方法を理解する。	砲丸投げの投法（立投げ、グライド投法、回転投法）について予習する。	4時間
第11回	**投擲種目（２）円盤投げ** 円盤投げの特性（構え、ターンの仕方）を理解し、実践する。また、安全に円盤投げを行うためのリスクマネジメント方法を理解する。	円盤投げの特性（構え、ターンの仕方）を予習する。	4時間
第12回	**投擲種目（３）やり投げ** やり投げの特性（構え、クロスステップ）を理解し、実践する。また、安全にやり投げを行うためのリスクマネジメント方法を理解する。	やり投げの特性（構え、クロスステップ）を予習する。	4時間
第13回	**陸上競技のコーチング（１）観察による運動修正** 短距離走を運動課題として、自身の動作を撮影した映像をもとに自己評価し、セルフコーチングによって動作の修正を試みる。また、他者の動作を観察することで改善すべき点を抽出し、コーチングによって他者の動作の修正を試みる。	セルフコーチングによる自己の運動修正、コーチング（観察）による他者の運動修正について予習する。	4時間
第14回	**陸上競技のコーチング（２）活動後増強を利用したパフォーマンス向上方法** 活動後増強という生理現象を利用し、陸上競技のウォーミングアップ方法を理解し、実践する。また、動作のグレーディング能力は直前の運動課題に大きく影響を受けることを理解する。	活動後増強、グレーディングについて予習する。	4時間
第15回	**各種目の動作習得状況の確認と指導** 短距離種目、中距離種目、長距離種目、跳躍種目、投擲種目の内容を振り返り、基本技能や動作の「こつ」を習得するにあたって課題となる点を挙げる。そして、その課題となる点をクリアするための方法を考える。	短距離種目、中距離種目、長距離種目、跳躍種目、投擲種目の内容を振り返り、基本技能や動作の「こつ」を習得するにあたって課題となる点を事前に挙げておく。	4時間
第回			時間
第回			4時間時間
第回			4時間時間

授業科目名	**器械運動**				
担当教員名	**辻哲夫**				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

中学校・高等学校の学習指導要領に示されている器械運動の特性や例示されている技の系統性を理解する。特に、器械運動をどのように学習・指導していけばよいか、学習場面の工夫や予備的な運動と技の関係を学び実技実践につなげるようにする。技能学習では、マット運動・鉄棒運動・平均台運動・跳び箱運動の実技練習を通して、安全で正確に技を実施する技能を身につけていく。また、器械運動の授業設計の仕方や技の指導法・示範・幇助法などの指導実践に必要な能力の習得を目指して、知識・理解と関連を図りながら技能学習を進めていく。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	器械運動の基本的な技の技術を理解し習得する	中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編「器械運動」に例示された技の技術ポイントを理解し、示範することができる
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	技の系統性及びアナロゴンを理解する	技を指導するにあたり、技術ポイントに則ったアナロゴンとなる動きを選択、あるいは開発し、その効果を実践で確認することができる
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		技の習得において、不足する感覚や動き方を抽出し、解決に向けた情報収集を行うことができる
2 ．DP6.行動・実践		技の習得に向けて継続して修練することができる
3 ．DP8.意思疎通		技の習得において、お互いに教え合うことで技術ポイントや動き方の情報をわかりやすく伝えることができる
4 ．DP9.役割理解・連携行動		用具のセット・オフをグループで行うことでメンバーとコミュニケーションを図りながら円滑に活動が進められる
5 ．DP10.忠恕の心		学習仲間の動きを幇助することにより、他者を思いやることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。
授業への参加度は、教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言及び活動などを評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
運動課題の習熟度	：	授業中の活動状況、4種目の運動課題について独自のルーブリックに基づいて評価する（10点満点×4種目） 授業内で実施
40%		
課題レポート	：	内容の妥当性を独自のルーブリックに基づいて評価する 5回提出（8点満点×5回）
40%		
授業への参加度	：	授業内での積極性及び取り組み状況、協力する姿勢について、独自のルーブリックに基づいて評価する
20%		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 中学校学習指導要領解説　保健体育編	・ 東山書房	・ 2017年
文部科学省	・ 高等学校学習指導要領解説　保健体育編	・ 東山書房	・ 2009年

参考文献等

三木四郎・加藤澤男・本村清人編著　『中・高校　器械運動の授業づくり』　大修館書店　2006
三木四郎著　『器械運動の動感指導と運動学』　明和出版　2015

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後に質問に応じます。

場所： 授業場所

備考・注意事項： 実技を伴うので運動に適した服装などの準備をすること。
実技授業であるが、必ず筆記用具を持参すること。
器械運動は、「できる、できない」がはっきりしている運動領域であることから、あきらめずに技能習得を目指すこと。また、非日常的な動きを伴うので危険性を充分に意識して授業に臨むこと。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**器械運動の特性と学習の留意点** オリエンテーション（器械運動の基本的な知識、授業の進め方、グルーピング） 倒立の技術チェックアンケート 器械運動に関係した体ほぐし運動、体つくり運動の実践	中学校学習指導要領　解説体育編　「B 器械運動 第1学年及び第2学年、第3学年」を読むこと	2時間
第2回	**技の系統と予備的な運動** 器械運動の様々な技のアナロゴンとなる予備的な運動を実践する 技の系統的な配列について理解する	中学校学習指導要領　解説体育編　「B 器械運動 第1学年及び第2学年　(1) マット運動」を読むこと高等学校学習指導要領　解説体育編　「B 器械運動　(1) マット運動」を読むこと、アナロゴン、技の系統性についてまとめる	2時間
第3回	**マット運動（１）マット運動の導入と基本的な技** マット運動の基本的な技を実践する （回転系の接転技群、巧技系の平均立ち技群、倒立） （回転系のほん転技群）	回転系の接転技群、巧技系の平均立ち技群、回転系のほん転技群、倒立の基本技について、技術ポイントをまとめる	2時間
第4回	**マット運動（２）マット運動の基本的な技と発展技** マット運動の発展的な技を実践する （回転系の接転技群、巧技系の平均立ち技群、倒立） （回転系のほん転技群）	回転系の接転技群、巧技系の平均立ち技群、回転系のほん転技群、倒立の発展技について、技術ポイントをまとめる	2時間
第5回	**マット運動（３）マット運動の技の組み合わせと演技** マット運動の自由演技を自己の能力に合わせて構成し発表するとともに評価を行う	中学校学習指導要領　解説体育編　「B 器械運動 第3学年　(1) マット運動」を読むこと演技の評価についてまとめる	2時間
第6回	**鉄棒運動（１）鉄棒運動の導入と基本的な技** 鉄棒運動の基本的な技を実践する （支持系の前方・後方支持回転技群、懸垂技群）	中学校学習指導要領　解説体育編　「B 器械運動 第1学年及び第2学年　(2) 鉄棒運動」を読むこと高等学校学習指導要領　解説体育編　「B 器械運動　(2) 鉄棒運動」を読むこと支持系の前方・後方支持回転技群、懸垂技群の基本的な技における技術ポイントについてまとめる	2時間
第7回	**鉄棒運動（２）鉄棒運動の基本的な技と発展技** 鉄棒運動の発展的な技を実践する （支持系の前方・後方支持回転技群、懸垂技群）	支持系の前方・後方支持回転技群、懸垂技群の発展的な技における技術ポイントについてまとめる	2時間
第8回	**鉄棒運動（３）鉄棒運動の技の組み合わせと演技** 鉄棒運動の自由演技を自己の能力に合わせて構成し発表するとともに評価を行う	中学校学習指導要領　解説体育編　「B 器械運動 第3学年　(2) 鉄棒運動」を読むこと演技の評価についてまとめる	2時間
第9回	**平均台運動（１）平均台運動の導入と基本的な技** 平均台運動の基本的な技を実践する （体操系の歩走・跳躍グループ、バランス系のポーズ・ターングループ）	中学校学習指導要領　解説体育編　「B 器械運動 第1学年及び第2学年　(3) 平均台運動」を読むこと高等学校学習指導要領　解説体育編　「B 器械運動　(3) 平均台運動」を読むこと体操系の歩走・跳躍グループ、バランス系のポーズ・ターングループの基本的な技における技術ポイントについてまとめる	2時間
第10回	**平均台運動（２）平均台運動の基本的な技と発展技** 平均台運動の発展的な技を実践する （体操系の歩走・跳躍グループ、バランス系のポーズ・ターングループ）	体操系の歩走・跳躍グループ、バランス系のポーズ・ターングループの発展的な技における技術ポイントについてまとめる	2時間
第11回	**平均台運動（３）平均台運動の技の組み合わせと演技** 平均台運動の自由演技を自己の能力に合わせて構成し発表するとともに評価を行う	中学校学習指導要領　解説体育編　「B 器械運動 第3学年　(3) 平均台運動」を読むこと演技の評価についてまとめる	2時間
第12回	**跳び箱運動（１）跳び箱運動の導入と基本的な技** 跳び箱運動の基本的な技を実践する （切り返し系の切り返し跳びグループ、回転系の回転跳びグループ）	中学校学習指導要領　解説体育編　「B 器械運動 第1学年及び第2学年　(4) 跳び箱運動」を読むこと高等学校学習指導要領　解説体育編　「B 器械運動　(4) 跳び箱運動」を読むこと切り返し系の切り返し跳びグループ、回転系の回転跳びグループの基本的な技における技術ポイントについてまとめる	2時間
第13回	**跳び箱運動（２）跳び箱運動の基本的な技と発展技** 跳び箱運動の発展的な技を実践する （切り返し系の切り返し跳びグループ、回転系の回転跳びグループ）	切り返し系の切り返し跳びグループ、回転系の回転跳びグループの発展的な技における技術ポイントについてまとめる	2時間
第14回	**跳び箱運動（３）跳び箱運動の技の組み合わせと演技** 跳び箱運動の自由演技を自己の能力に合わせて構成し発表するとともに評価を行う	中学校学習指導要領　解説体育編　「B 器械運動 第3学年　(4) 跳び箱運動」を読むこと演技の評価についてまとめる	2時間
第15回	**総括と質疑応答** 授業で解決しなかった動きや技術について質疑応答を行う 自由課題学習（実技）を行う	器械運動の授業づくりのポイントをまとめる	2時間

授業科目名	**球技Ⅰ（ネット型）**				
担当教員名	**中村浩也**				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	国内外における幅広い競技レベル（普及レベル～国代表レベル）・年齢層（就学前～高齢者）を対象に、20年以上にわたり指導を行っている。				

授業概要

学習指導要領に示されるネット型スポーツのうち、バレーボールを中心に取り上げる。バレーボールは力と高さと予測のゲームと言われており、日本で人気の高いスポーツの一つである。しかしバレーボールを教材として体育授業を展開するとき、その技術習得の難しさからバレーボール本来の楽しさを伝えることが困難なケースがよく見受けられる。本講義では、レクリエーションレベルから競技レベルまで幅広く対応できるよう、それぞれのレベルに応じた指導法を学ぶ。指導者を志す学生としてふさわしい態度で臨んでいただきたい。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	ネット型スポーツに関する知識と技能及び指導法	ネット型スポーツに関する知識・技術を習得し、指導法について理解できる。

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践		身体運動の構造と機能について理解できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

成績評価

注意事項等

本授業は一般の体育実技とは異なり、教職科目として位置付けられている。よって受講者には実技の習得はもとより、指導者を目指す者としての高い学習意欲と実技指導能力の醸成を求める。成績評価においても、上記の観点を念頭に進める。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実技試験	50%	： ネット型スポーツにおける各種スキルについて、独自のルーブリックに基づき4段階で評価する。
授業への取り組み状況	50%	： 教員や他の受講生とのやり取り、実習への取り組み姿勢、および授業中に作成するプログレスレポートを独自のルーブリックによって評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

コーチングバレーボール（基礎編）, 日本バレーボール協会, 大修館書店, 2017

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は実技中心で行います。よって、運動にふさわしい服装・シューズを着用し参加すること。また、ピアスやネックレス、指輪等の装飾品は原則として外しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業教室
備考・注意事項： 授業前後に質問を受け付けます。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ネット型スポーツの基本的要素** ネット型スポーツの基本的要素について概説する。また、バレーボールの歴史的背景や技術の進化、授業化にあたっての要点理解を促す。	ネット型スポーツについてまとめる	1時間
第2回	**サーブの基礎技術** バレーボールにおけるサーブの種類について理解し、基礎技術及び指導法を学ぶ。	サーブの基礎技術を練習する	1時間
第3回	**サーブの応用技術** バレーボールにおけるサーブの基礎技術をもとに、発展的な技術と指導法を学ぶ。	サーブの応用技術を練習する	1時間
第4回	**レセプションの基礎技術** バレーボールにおけるレセプションについて理解し、基礎技術及び指導法を学ぶ。	レセプションの基礎技術を練習する	1時間
第５回	**レセプションの応用技術** バレーボールにおけるレセプションの基礎技術をもとに、発展的な技術と指導法を学ぶ。	レセプションの応用技術について練習する	1時間
第6回	**パスの基礎技術** バレーボールにおけるパスについて理解し、基礎技術及び指導法を学ぶ。	パスの基礎技術について練習する	1時間
第7回	**パスの応用技術** バレーボールにおけるパスの基礎技術をもとに、発展的な技術と指導法を学ぶ。	パスの応用技術について練習する	1時間

第8回	**アタックの基礎技術** バレーボールにおけるアタックについて理解し、基礎技術及び指導法を学ぶ。	アタックの基礎技術について練習する	1時間
第9回	**アタックの応用技術** バレーボールにおけるアタックの基礎技術をもとに、発展的な技術と指導法を学ぶ。	アタックの応用技術について練習する	1時間
第10回	**ブロックの基礎技術** バレーボールにおけるブロックについて理解し、基礎技術及び指導法を学ぶ。	ブロックの基礎技術について練習する	1時間
第11回	**ブロックの応用技術** バレーボールにおけるブロックの基礎技術をもとに、発展的な技術と指導法を学ぶ。	ブロックの応用技術について練習する	1時間
第12回	**チーム構成とフォーメーション** バレーボールのチーム構成とフォーメーションについて理解し、戦術に関する基礎的理解を促す。	フォーメーションについて練習する	1時間
第13回	**バレーボールにおける戦術の基礎** バレーボールにおける戦術について理解し、基礎的な実践法を学ぶ。	戦術シートの作成	1時間
第14回	**バレーボールにおける戦術の応用** バレーボールにおける戦術の基礎的理解をもとに、発展的取り組みと指導法を学ぶ。	戦術シートの作成	1時間
第15回	**バレーボールの教材化** バレーボールを教材化する際の問題点について理解し、より良い授業とは何かについて考える。	全体の復習	1時間

授業科目名	**球技Ⅱ（ベースボール型）**				
担当教員名	**灘本雅一**				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、中学校及び高等学校学習指導要領(保健体育)に示されるベースボール型スポーツのうち、ソフトボール・ティーボール・キックベースボールを中心に行う。また、レクリエーションレベルから競技レベルまで幅広く対応できるよう、それぞれのレベルに応じた指導法を学ぶことを目的とする。具体的には、次の5点を習得させる。①種目の特性と審判法②キャッチング・トス・バッティングスキル・ピッチングの基本技能と応用技能③守備パターン・攻撃パターンと走塁の実践学習④戦術のバリエーション⑤基本技能を修得するための指導法

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	①ウォームアップ・クールダウンの方法を理解できる。 ② ベースボールに必要な基本動作(投・捕・打・走)を修得することができる。 ③ 安全対策を重視した種々のゲームを理解し、その実践方法を理解できる。	正確な投球と正しい捕球体制がとれる。狙った方向に打球を打てる。進塁打、犠打が打てる。状況に応じた適切な走塁ができる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	ソフトボールやキックベースボールは、投げることや走ることという運動が備わった教材としての価値も高く、中学校・高等学校での指導を意識しながらゲーム展開を実践できる知識と技能を修得する。	フォースアウト、タッチアウトの理解ができ、状況に応じた判断ブーレができる。集団技能としてダブルプレーができる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		個人的技能の課題を見つけ、修正する力を身につける。
2 ．DP9.役割理解・連携行動		集団的技能を高めるための、ホジション理解とカーバーリング及び犠打の理解で身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
特性・ルールの習得 30%	：	状況に応じた判断プレーと状況に応じた攻守のセオリー理解を総合的に評価を行う。
技能・戦術の習得 30%	：	投能力(距離と正確性)、捕球技能(ゴロとフライの基本捕球姿勢)、打撃能力(飛距離と狙った方向に打てる)、ゲーム形式での打撃・守備・走塁の判断能力を総合的に評価を行う。
指導練習における事前準備・運営・実践 40%	：	準備運動や整理運動、集合時の聞く姿勢、判断能力を高める適切な指示の声、チームワークを総合的に評価を行う。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	中学校学習指導要領解説　保健体育編	東山書房	2008年
文部科学省	高等学校学習指導要領解説　保健体育編	東山書房	2009年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業を行う場所
備考・注意事項： オフィスアワーの活用に関しては、初回授業で説明します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の進め方と評価についてオリエンテーション** ボール運動に対する自己評価などを行う ソフトボールのルール理解。	学習指導要領　球技ベースボール型を熟読し、内容を把握しておくこと。	4時間

第2回	**チーム編成及びウォームアップ・クールダウンの方法** チーム編成に基づき、ベースボールに適したウォームアップ・クールダウンを行う。	授業で実践したベースボールに適したウォームアップ・クールダウンをできるようにしておく。	4時間
第3回	**ウォームアップ・クールダウンの実践及びキャッチボールの基本動作について** チーム編成に基づき、キャッチボールを行う。	授業で実践した、色々なキャッチボールをイメージして、動きを理解しておく。	4時間
第4回	**Ｔボール、ソフトボール、キックベースボールの概要及び解説** ベースボール型のゲーム展開をケースごとに行う。	授業で実践した、色々なケースでの動きをイメージし理解しておく。	4時間
第5回	**Ｔボールの実践（１）打撃練習** ティーを用いた打撃練習による、バッティングポイントを習得する。	授業で実践したバッティングポイントをイメージして、バッティング動作をイメージしておくこと。	4時間
第6回	**Ｔボールの実践（２）守備、走塁練習** ランナー付きのノックとT打撃によるランナー付きシート打撃による守備主体の練習を行う。	授業で実践した、守備位置やフォースプレイをイメージして、動きを理解しておく。	4時間
第7回	**Ｔボールの実践（３）ゲーム** ティーボールでのゲーム展開を理解する。	記録シートにも基づき、状況判断が正しく出来たかを振り返り、反省点を書き出すこと。	4時間
第8回	**ソフトボールの実践（１）打撃練習** ティーボールと異なり、ソフトボールでの動くボールを打つ、ヒッティングポイントを習得する。	授業で実践したバッティングポイントをイメージして、バッティング動作をイメージしておくこと。	4時間
第9回	**ソフトボールの実践（２） 守備、走塁練習** ランナー付きのノックとランナー付きシート打撃による守備主体の練習を行う。	授業で実践した、守備位置やフォースプレイをイメージして、動きを理解しておく。	4時間
第10回	**ソフトボールの実践（３） ゲーム** ソフトボールのゲーム展開を理解する。	記録シートにも基づき、状況判断が正しく出来たかを振り返り、反省点を書き出すこと。	4時間
第11回	**ソフトボールの実践（４） ゲーム** 満塁スタート制によるフォームプレー、ダブルプレーの判断理解を展開する。	記録シートにも基づき、状況判断が正しく出来たかを振り返り、反省点を書き出すこと。	4時間
第12回	**キックベースの実践（１）打撃（キック）練習** 打撃練習によるヒッティングポイントを習得する。	ボールをヒットするタイミングやポイントをイメージしておく。	4時間
第13回	**キックベースの実践（２）守備、走塁練習** ランナー付きのノックとランナー付きシート打撃による守備主体の練習を行う。	授業で実践した、守備位置やフォースプレイをイメージして、動きを理解しておく。	4時間
第14回	**キックベースの実践（３） ゲーム** キックベースボールのゲーム展開を理解する。	記録シートにも基づき、状況判断が正しく出来たかを振り返り、反省点を書き出すこと。	4時間
第15回	**総括と質疑応答** 授業で展開したゲーム理解をケースに応じた状況判断が理解出来たかをテストする。	ルールやセオリーを学習しておくこと。	4時間

授業科目名	**球技Ⅲ（ゴール型）**				
担当教員名	**上田真也**				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

サッカーにおける個人戦術、グループ戦術、チーム戦術を理解し、習得することで仲間と関わり合いながら攻防するサッカー本来の楽しさを経験することを目的とする。また、ゲーム分析を通じて、戦術に関わるグループディスカッションを交えることで、将来、教育現場における指導者として適切な指導が行える能力を養うことを目的とする。具体的に、ゲーム状況をビデオ撮影し、ゲームの流れや現象に関する課題を抽出することで、トレーニングメニューやゲームプランの立案を行えるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

前半は、サッカーに欠かせないスキルトレーニング（パス・ドリブル・シュート等）を行う。後半は、個人戦術・グループ戦術・チーム戦術について、実技形式で学習する。

目標：

サッカーにおける個人戦術、グループ戦術、チーム戦術を理解し、習得することで仲間と関わり合いながら攻防するサッカー本来の楽しさを経験することを目的とする。

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践

グループディスカッションを交えることで、将来、教育現場における指導者として適切な指導が行える能力を養うことを目的とする。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
授業への取り組み状況とは教員からの質問に応じて的確に回答するとともに、共同的かつ積極的な参加を評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
レポート課題	20%	： 指定した課題に対して参考図書や文献等を用いて論述できているかどうか。文字数や提出期日などが守られているかどうか。総合的に判断し採点を行う。
授業への取り組み	50%	： サッカー技能に対する個人の取り組みおよびチーム、グループでの活動状況を総合的に判断し採点を行う。
実技テスト	30%	： サッカー技能習得に向けて、中間および最終に実技試験を行う。個人、チーム等での実技を通して、その成長や努力も含めて総合的に判断し、評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

瀧井敏郎　編『ワールドサッカーの戦術』ベースボールマガジン社　1995
小野　剛　編『クリエイティブ・サッカーコーチング』大修館書店　1998

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後
場所：　授業を行う場所
備考・注意事項：　オフィスアワーの詳細に関しては、初回授業時に説明する。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**サッカーの歴史およびルールについて** サッカーの歴史および背景を振り返るとともに、ルールの確認を行っていく。また、今後のスケジュールの確認やグルーピングを行うと同時に、授業参加にあたっての注意事項等についても確認していく。	授業内で配布した資料を用いて、サッカーの歴史およびルールの復習を行う。	4時間
第2回	**ボールフィーリング** 「どのくらいの強さでボールタッチすると、ボールがどのくらい移動するのか？」や「足のどの部分でタッチすると、どの方向にボールが移動するのか？」といったボールフィーリングを養うことを目的に、授業を展開する。	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間
第3回	**基本技術の習得（１）パス**	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間

	多様なキックの方法について紹介し、意図した方向、強さ、タイミングでパスが行えることを目的に、授業展開する。		
第4回	**基本技術の習得（２）トラップ** 自分に向かってくるボールに対して、意図した場所にボールを置くことを目的に、授業を展開する。	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間
第5回	**基本技術の習得（３）ドリブル** ドリブルの種類（運ぶドリブル、交わすドリブル、突破するドリブル等）について解説する。また、ドリブルをしながら相手や味方の状況を把握することを目的に、授業展開する。	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間
第6回	**基本技術の習得（４）シュート** シュートキックそのものの技能向上を目的とするだけではなく、どのポジションで、どのような身体の向きでボールを受ければ質の高いシュートが打てるのかについても追及し、授業展開する。	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間
第7回	**１対１の攻防（１）オフェンス** 個人戦術の攻撃に着目し、これまでの授業で習得したトラップ、ドリブル、シュートを1vs1の攻防の中で応用することを目的に、授業展開する。	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間
第8回	**１対１の攻防（２）ディフェンス** 個人戦術の守備に着目し、ボールを持っている者に対する守備とボールを持っていない者に対する守備について、優先順位を整理するとともに、正しいポジショニングについて理解することを目的として、授業展開する。	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間
第9回	**２対１の攻防** グループ戦術の攻撃に着目し、1vs1では発生しなかったパスの選択肢を増やすことで、「壁パス」や「クロスオーバー」といったコンビネーションプレーを活用できるようになることを目的として、授業展開する。	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間
第10回	**３対２の攻防** グループ戦術の守備に着目し、1vs1では発生しなかったチャレンジ＆カバーの原則について、理解することを目的に、授業展開する。	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間
第11回	**５対５の攻防** これまで学習した個人戦術・グループ戦術をゲームの中で応用することを目的に、授業展開する。	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間
第12回	**８対８（ハーフコートゲーム）** これまで学習した個人戦術・グループ戦術をゲームの中で応用することを目的に、授業展開する。	授業内でのトレーニングを繰り返す。	4時間
第13回	**１１対１１（ゲーム）の実践とビデオ撮影** グルーピングした各チームでチーム戦術を共有し、実際のゲームの中で発揮することを目的とする。ゲームはビデオ撮影し、次回のゲーム分析時に用いる。	撮影したゲームを一通り見直す。	4時間
第14回	**ゲーム分析と課題の抽出** 前回撮影したゲームから、ポジティブ・ネガティブ場面を抽出し、課題を見つける。課題克服のためにどのようなトレーニングが必要であるかグループディスカッションを行う。	ポジティブ・ネガティブ場面を整理し、各自トレーニングメニューを作成しておく。	4時間
第15回	**練習メニューの作成とその実践** 各自が立案したトレーニングメニューを実際に指導実践するとともに、その指導実践に対してグループディスカッションを行う。	グループディスカッションの内容をまとめる。	4時間

授業科目名	**水泳**				
担当教員名	**川島康弘**				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

水泳は、全身を使った運動であり、生涯スポーツとしても適切なスポーツである。健康の維持増進という観点からも多くの人々によって親しまれている。しかし、水の中では意識的な努力呼吸が必要で、水泳の練習には危険性も含まれる。また、学校体育においては、水中運動体験のある児童と全く体験していない児童と二極化傾向にあり、指導は一工夫必要である。そこで本授業では、安全で有効な指導方として、平泳ぎ・クロール・背泳ぎ・バタフライを正しい泳法で25m完泳できる能力と水泳の知識を教授する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	水中運動の楽しさを体験学習する	水中に関するスキルとリスク管理を学ぶ

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践		水の特性を理解し、４泳法を身につける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
４泳法実技試験 60%	：	４泳法の習得状況に応じて評価する
授業の取り組み状況 30%	：	４泳法の修得に対して理論を理解し、反復練習を積極的に実践している
実技指導レポート 10%	：	毎回の指導内容の振り返りと課題を明確に記載し提出期限を守っているか

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考書・参考資料等
必要に応じて指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業教室

備考・注意事項： 具体的な質問方法については、初回授業時に周知します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**評価方法と講義目的と注意点および実技スケジュールについてオリエンテーション** シラバスを基に講義の目的、１５回の授業の内容、評価の内容について学習する。 特に、安全管理について：プール（水温、塩素残量）、着衣、貴重品の管理、各自の体調管理、バディィシステム、点呼等についても学習する。	水泳に環境について予習する	1時間
第2回	**聞き取り調査を基にしたクラス分けの確定とリスク管理について** 健康調査と泳力調査を基に４グループにクラス分けをする。 プールの水温、塩素残量、更衣室、準備・整理体操、体調チエック等の安全管理を確認する。	安全管理について予習する	1時間
第3回	**プールで楽しく泳ぐ** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 実際の泳力確認を行いクラス分けの再調整と各人お得意な泳法で泳ぎ、指導法についても学習する。 ３０分の授業の後、点呼の後１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	楽しく水中運動を行うために必要なポイントを予習する	1時間
第4回	**クロール（１）　水慣れと浮しうき・泳法確認**	自由形の特性について予習する	1時間

	出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 ※初級は水慣れと浮しうき　※中級及び上級は泳法確認、後半は指導法について学習する。 ３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。		
第5回	**クロール（２）　プル練習とローリングの習得・上級は泳ぎこみ** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 ※初級はプル練習とローリングの習得　※中級および上級は泳ぎこみ、後半は指導法について学習する。 、３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	自由形の「こつ」について予習する	1時間
第6回	**クロール（３）　ブレス習得と２５m完泳・クロール** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 ※初級はブレス習得と２５ｍ完泳※中級および上級はクロール、後半は指導法について学習する。 ３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	自由形の指導法について予習する	1時間
第7回	**背泳ぎ（１）　浮しうきとキック・泳ぎこみ** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 ※初級は浮しうきとキック　※中級および上級は泳ぎこみ、後半は指導法について学習する。 ３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	背泳の特性について予習する	1時間
第8回	**背泳ぎ（２）　プルと２５m完泳・背泳ぎ確認** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 初級はプルと２５ｍ完泳、中級および上級はクロールと背泳ぎ確認、後半は指導法について学習する。 ３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	背泳の「こつ」について予習する	1時間
第9回	**バタフライ（１）　ドルフィンキック・バタフライ泳法確認** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 初級はドルフィンキック、中級および上級はバタフライ泳法確認、後半は指導法について学習する。 ３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	背泳の指導法について予習する	1時間
第10回	**バタフライ（２）　ドプル・４泳法確認** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 ※初級はドプル※初級および中級は４泳法確認、後半は指導法について学習する。 ３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	バタフライの特性について予習する	1時間
第11回	**水中運動（アクアビクス）** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 音楽に合わせて水中で楽しく踊る。後半は指導法についても学習する。 ３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	アクアビクスについて予習する	1時間
第12回	**着衣泳法** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 各班毎に着衣泳法を練習し、後半は指導法について学習する。 ３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	着衣泳法について予習する	1時間
第13回	**水の安全と救助法を学ぶ** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 水の安全と救助法を学び、後半は指導法についても学習する。 ３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする	水の事故について予習する	1時間
第14回	**泳力別、４泳法の確認** 出席を取る、健康状態の確認、準備体操、シャワーを浴びる、グループ毎に入水。 各班毎に４泳法で練習し、後半は新しい班編成で４泳法のレースを行なう。 ３０分の授業の後、１０分間のプールサイドで休息を取り、再び入水を繰りかえす。 笛の合図で一斉にプールから出水し、各班毎に点呼を取り全員の安全を確認し整理体操をする。	水の事故予防について予習する	1時間
第15回	**総括　振り返り・各班毎に発表** 教室で、ビデオで４泳法（平泳ぎ、背泳、バタフライ、クロール）の学習をする。 １５回の授業を振り返り、各班毎に発表し合う。 水泳の授業の感想文を作成する。	実技内容を振り返る	1時間

432

授業科目名	**野外活動**				
担当教員名	**横山　誠**				
学年・コース等	２年	開講時期	前期集中	単位数	２
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	職務経験として、大阪体育大学野外実習教務補佐や大阪府立少年自然の家での野外教育・野外活動に関する業務を経験している。また、前職の財団法人大阪府レクリエーション協会においても、子どもキャンプ、ファミリーキャンプ、その他野外活動のイベントを企画運営した経歴がある。				

授業概要

本授業では、自然に親しむ知識や技能を深化させることを目標とする。野外教育では、体験を通じた学習を重視しており、野外活動を指導する上で必要な基礎的技術を身につけることを目標として様々な活動に取り組む。また、活動場所となる施設の特性に対する理解を深めると同時に、野外での活動を安全に実施するためのポイントについても理解を深めていく。さらに自然環境の中で相互協力を行うことで、他者とのコミュニケーション能力や人間性･創造性を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	**目標**：
１．DP2.専門的知識・技能、職業理解	野外活動を指導するための基礎的な知識と技術を習得する。	正しく自然を理解し、野外活動の目的と意義を理解できる。

汎用的な力

１．DP5.計画・立案力		野外活動を指導する上で必要な基礎的な知識や技術、リスクマネジメント等を習得できる。
２．DP6.行動・実践		児童・生徒に適切なキャンプや野外活動の指導ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象となる。

成績評価の方法・評価の割合	**評価の基準**
実習前の実施計画書　20%	： 野外活動に関する計画書を作成し、その内容を評価する。
実習後レポート試験　20%	： 全授業終了後にレポートを実施し、その内容を評価する。
野外活動にかかわる技術の習得度　60%	： それぞれの実習における技術、技能の習得度合いを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

公益社団法人日本キャンプ協会　『キャンプ指導者入門』　2006
自然体験活動研究会編　野外教育入門シリーズ第1巻　『野外教育の理論と実践』　杏林書院　2011
日本野外活動研究会編　『キャンプテキスト』　杏林書院　1999
日本野外教育研究会編　『キャンププログラム１』　杏林書院　1992
文部科学省　『中学校学習指導要領解説　保健体育編』　東山書房　2008
文部科学省　『高等学校学習指導要領解説　保健体育編』　東山書房　2009

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、安全で楽しい野外活動について自分なりにイメージを持ち、これまでの経験を振り返っておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：　授業の前後、休憩時間などに実施する

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス（集中講義の詳細）** 本時全体のイメージを共有する	野外活動についてのイメージを持つ	2時間
第2回	**各キャンププログラムの実施計画書の作成** 様々な野外活動プログラムがある中、それらがどうぞのように実施されているのか、またどのような点に注意しながら指導を行っているのか、実際に現時点での指導計画書を作成してみる	できるだけ多くの情報を検索し、事例からたくさんの指導計画を学びながら進めていく	2時間
第3回	**キャンプについての理解（キャンプの歴史）**	日本キャンプ協会やYMCAなど古くからキャンプを実施している団体等の資料も参考にしておく。	2時間

	我が国のキャンプの歴史は約100年を数える。時間と共に社会状況と共に変わってきたこともあるが、変わらず大切に伝承されてきていることもある。そうしたことを理解し学びを深める。		
第4回	**野外活動の基本的な考え方と野外における安全管理法** 野外活動は楽しい反面、自然の厳しさを目の当たりにすることがあり、様々な事故事例も報告されている。それらすべての事故の要因を配乗することは難しいが、安全管理を徹底することで事故の発症を最小限に抑えることができる。それは指導者側だけではなく、参加者に意識が非常に重要であることも認識する。	様々な事故事例を自分なりに分析し、安全教育について考える	2時間
第5回	**野外活動における事故事例とリスクマネジメント** 日本子供会連合会などが作成したKYT(危険予知トレーニング）のワークシートなどをもとに、リスクマネジメントについてグループワークを通して考えていく。	キャンプを実施している団体等の危機管理マニュアルなども参考にしておくこと。	2時間
第6回	**コミュニケーション実習（１）アイスブレーキング** コミュニケーション技法について体験的に理解を深める。	どの様な場面でどのようなアイスブレーキングが有効なのかを検討する。また自分が体験したアイスブレーキングをふりかえる。	2時間
第7回	**コミュニケーション実習（２）ASE** 海外のキャンプ場で実施されているパッケージ土プログラムを体験する。グループで与えられた課題を体験学習法のサイクルに基づき体験し学びを深める。	Jリーグほか、多くのスポーツチームや企業などでの実践事例があるので、それらの情報を入手し社会のニーズや背景を知る。	2時間
第8回	**キャンプサイトの設営・ロープング実習** キャンプでは必須といってよいスキルにひとつがロープワークである。特に海洋プログラムではキング・オブ・ノットと言われるもやい結びをはじめヨット操船でいくつかのロープングが必要とされる。実践の場で使えるようにしたい。	身の回りにいろいろなひもがあると思うので、予習・復習をきちんとすること。	2時間
第9回	**野外炊飯実習・ナイトプログラム実習** キャンプでの野外は楽しみのひとつであるが、このスキルは被災した際などにも使える・使わないといけないスキルでもある。楽しみなgら基本的なスキルを身につけてほしい。またナイトプログラムは、感性を磨く活動としても有効である。5感を研ぎ澄ましいろいろな物を見て感じてほしいと思う。	野外炊事は火や刃物を使うので、各自で事前にリスクマネジメントを考えておくこと。	2時間
第10回	**野外フィールド実習・登山実習** 野外のフィールドは海だけでなく、身近な山の活動も含まれる。また近年発生の可能性が高まっている東南海沖の地震では津波の被害も予想されている。そうなれば海抜の低いところから高台へ避難し、そこで生活をしないといけないことも考えられる。そうした防災教育の観点からも、一時的に海から山へ移動し活動を行う。	い日に必要な水の量や山の活動でのリスクマネジメントについても各自調べておくこと。	2時間
第11回	**体験学習法の理解** 様々なプログラムを体験し、個人としてグループとしての成長を考える。体験学習法について理解を深め、体験による効果を振り返る。	プログラム中の気づきなどを整理しておくと学びを深めるのにも役立つ。	2時間
第12回	**水辺活動実習** 水辺活動では、様々なアクティビティがある。自走するものや風の力を受けながら操作するものなど。また一人で行うものもあればグループで協力しないとできない活動もある。そうしたことを考えながら体験します。	自分の操作、操縦についてふりかえり、理論的なことが理解できているかもふりかえる。	2時間
第13回	**プログラムデザインと対象者の理解** 本時の活動を通して、フロー理論などを用いて評価を行う。自己のスキルだけでなく対象者全体にとって無理のない、そして退屈しない活動であったのかをふりかえる。	様々な対象者にあったプログラムデザインを考えてみる。もちろん、そこには安全が一番でないとならない。	2時間
第14回	**キャンププログラムの企画・運営・評価** 本時全般について、企画面、運営名から評価を行う。	単なる感想に終わることのないよう、気づきを振り返りながら評価を行う	2時間
第15回	**振り返り（グループ討論）とレポートの作成** 個人としてだけでなくグループとしてのふりかえり、評価を行い多くの気づきを得るようにする。そして、今後は実践者として、そして指導者側になった際に生かせるような意見交換を行い、今後のアウトドアライフをイメージする。	日々の生活や教育現場など、あらゆるところでのアウトドアライフをイメージし、本授業を糧にしていく	2時間

授業科目名	**体つくり運動**				
担当教員名	**辻哲夫**				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

様々なスポーツの基本となる体をコントロールする能力の向上を修得し、学校現場で教授できる力を身につけることを目指す。効果的な指導方法や練習方法を理解し、よりよく動くための様々な能力、感覚を向上させるための理論を学習、実践する。学習指導要領解説体育編に示された体ほぐしの運動、体力を高める運動について理解し、実践を通して、その運動の持つ楽しさや喜びを体得する。また、グループ毎に運動領域の教材づくりや指導法についても取り組む。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	体つくり運動の基本的な理論を理解する	中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編「体つくり運動」に記載された運動の意義を理解し、目的に応じた運動を提示することができる
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	高めたい体力に応じた運動を選択、開発することができる	個々の体力の現状に応じ、高めるべき体力要素を選定し、効果的な運動を提示、あるいは開発することができる
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		個々の体力について課題を発見し、それに応じた体つくり運動を選択することができる
2 ．DP5.計画・立案力		体つくり運動の教材を開発することができる
3 ．DP6.行動・実践		個々の体力に応じた体つくり運動について選択し、実行することができる
4 ．DP8.意思疎通		体つくり運動の方法・手順を相互に共有することができる
5 ．DP9.役割理解・連携行動		用具のセット・オフをグループで行うことでメンバーとコミュニケーションをとりながら円滑に活動が進められる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
学習への積極的な取り組みを前提に、運動課題の習熟度（実技テスト）と提出物で総合的に評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題レポート 30%	：	内容の妥当性を独自のルーブリックに基づいて評価する 6回提出（5点満点×6回）
運動課題の習熟度 30%	：	授業中の活動状況、長ナワ・短ナワの運動課題について独自のルーブリックに基づいて評価する 授業内で実施
プレゼンテーション 20%	：	内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価する
授業への参加度 20%	：	授業内での積極性及び取り組み状況、協力する姿勢について、独自のルーブリックに基づいて評価する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	中学校学習指導要領解説　保健体育編	東山書房	2017年
文部科学省	高等学校学習指導要領解説　保健体育編	東山書房	2009年

参考文献等

体つくり運動　学校体育実技指導資料第7集（改訂版）　文部科学省　東洋館出版社　2013年
小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック　文部科学省　アイフィス　2014年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後に質問に応じます。

場所： 授業場所

備考・注意事項： 実技を伴うので運動に適した服装などの準備をすること。
実技授業であるが、必ず筆記用具を持参すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（体つくり運動の基本的な概念、授業の進め方、グルーピング）手軽な体つくり運動、体ほぐしの運動の実践** 授業の進め方、グルーピング（必要に応じて随時行う）、アンケート、注意事項等 手軽な体つくり運動、「ラジオ体操第一」の実践-手軽な運動から気づき・交流のねらいを理解する	体つくり運動の概念、授業の進め方、注意事項等を理解する、「ラジオ体操第一」の習得 身近な運動から体つくり運動、体ほぐしの運動について探る	2時間
第2回	**体つくり運動の理論と実践(1)（導入）体つくり運動の実践による意義の検討** 「ラジオ体操第一」の実践・習得 「ラジオ体操第一」のアレンジ体操をグループで考案する	ラジオ体操第一の習得、アレンジ体操の検討、中学校学習指導要領　解説保健体育編　「A 体つくり運動　第1学年及び第2学年　(1) 体ほぐしの運動」を読むこと高等学校学習指導要領　解説保健体育編　「A 体つくり運動　(1) 体ほぐしの運動」を読むこと	2時間
第3回	**体つくり運動の理論と実践(2)（基礎的運動）体ほぐしの運動の理論と実践、教材の検討** ラジオ体操第一のアレンジをグループ発表する 体ほぐしの運動としての意義、体つくり運動としての意義を探る	ラジオ体操第一の習得、アレンジ体操の検討、中学校学習指導要領　解説保健体育編　「A 体つくり運動　第1学年及び第2学年　(1) 体ほぐしの運動」を読むこと高等学校学習指導要領　解説保健体育編　「A 体つくり運動　(1) 体ほぐしの運動」を読むこと	2時間
第4回	**体つくり運動の理論と実践(3)（基礎的運動）体ほぐしの運動の理論と実践、教材の検討** 気づき、交流をねらいとした「体ほぐしの運動」を実践する 実践をもとにグループで「体ほぐしの運動」の教材を検討する	「体ほぐしの運動」の教材を検討する中学校学習指導要領　解説保健体育編　「A 体つくり運動　第1学年及び第2学年、第3学年　(1) 体ほぐしの運動」を読むこと高等学校学習指導要領　解説保健体育編　「A 体つくり運動　(1) 体ほぐしの運動」を読むこと	2時間
第5回	**体つくり運動の理論と実践(4)（基礎的運動）体ほぐしの運動のグループ発表、実践、検討** 検討した「体ほぐしの運動」の教材をグループ発表する グループ相互で実践し、課題・改良点を検討する	「体ほぐしの運動」についてまとめる	2時間
第6回	**体つくり運動の理論と実践(5)（実践的運動）体つくり運動の理論と実践、教材の検討①** 体の柔らかさを高めることを主体とした運動について実践する 体の柔らかさを高めることを主体とした運動について教材を検討する	中学校学習指導要領　解説保健体育編　「A 体つくり運動　第1学年及び第2学年　(2) 体力を高める運動」を読むこと高等学校学習指導要領　解説保健体育編　「A 体つくり運動　(2) 体力を高める運動」を読むこと体の柔らかさを高めることを主体とした運動についてまとめる	2時間
第7回	**体つくり運動の理論と実践(5)（実践的運動）体つくり運動の理論と実践、教材の検討②** 巧みな動きを高めることを主体とした運動について実践する（なわとび編、その他） 巧みな動きを高めることを主体とした運動について教材を検討する	中学校学習指導要領　解説保健体育編　「A 体つくり運動　第1学年及び第2学年　(2) 体力を高める運動」を読むこと高等学校学習指導要領　解説保健体育編　「A 体つくり運動　(2) 体力を高める運動」を読むこと巧み な動き動きを高めることを主とした運動についてについてまとめる	2時間
第8回	**体つくり運動の理論と実践(6)（実践的運動）体つくり運動の理論と実践、教材の検討③** 巧みな動きを高めることを主体とした運動について実践する（ボール経編、フープ編、その他） 巧みな動きを高めることを主体とした運動について教材を検討する	中学校学習指導要領　解説保健体育編　「A 体つくり運動　第1学年及び第2学年　(2) 体力を高める運動」を読むこと高等学校学習指導要領　解説保健体育編　「A 体つくり運動　(2) 体力を高める運動」を読むこと力強い動きを高めることを主とした運動についてについてまとめる	2時間
第9回	**体つくり運動の理論と実践(7)（実践的運動）体つくり運動の理論と実践、教材の検討④** 力強い動きを高めることを主体とした運動について実践する 力強い動きを高めることを主体とした運動について教材を検討する 動きを持続する能力を高めることを主体とした運動について実践する 動きを持続する能力を高めることを主体とした運動について教材を検討する	中学校学習指導要領　解説保健体育編　「A 体つくり運動　第1学年及び第2学年　(2) 体力を高める運動」を読むこと高等学校学習指導要領　解説保健体育編　「A 体つくり運動　(2) 体力を高める運動」を読むこと動きを持続する能力を高めることを主体とした運動についてまとめる	2時間
第10回	**体つくり運動実践(1)（実践的運動）体つくり運動の教材づくり①** 体つくり運動を組み合わせる手順、方法について理解する 体つくり運動の教材について、グループで授業の展開部分を抽出した内容を実践しながら考案する	中学校学習指導要領　解説保健体育編　「A 体つくり運動　第1学年及び第2学年、第3学年　2 態度　3 知識、思考・判断」を読むこと、体つくり運動の教材を作成する	2時間
第11回	**体つくり運動実践(1)（実践的運動）体つくり運動の教材づくり②** 体つくり運動の教材について、グループで授業の展開部分を抽出した内容を実践しながら考案する	中学校学習指導要領　解説保健体育編　「A 体つくり運動　第1学年及び第2学年、第3学年　2 態度　3 知識、思考・判断」を読むこと、体つくり運動の教材を作成する	2時間
第12回	**体つくり運動実践(2)（実践的運動）体つくり運動の組合せ教材の発表と検討** 授業の展開部分の教材をグループごとに発表する グループ相互で実施し、課題点を検討する	教材の修正、まとめを行う	2時間
第13回	**体つくり運動発展(1)（発展的運動）コーディネーション系プログラムの実践①** 様々なスポーツにおけるコーディネーショントレーニングについて概要を理解する 長ナワ、短ナワ運動の様々な運動例を実践する	コーディネーショントレーニングについてまとめる、長ナワ、短ナワ運動について文献を調べる	2時間
第14回	**体つくり運動発展(2)（発展的運動）コーディネーション系プログラムの実践②** 長ナワ、短ナワ運動の様々な運動例を実践する 長ナワ、短ナワの実技テスト	長ナワ、短ナワ運動についてまとめる	2時間

第15回	**授業総括・実技テスト** 体つくり運動の理論、実践についてのまとめ	まとめの内容を整理する授業で未解決の疑問について整理する	2時間

授業科目名	**武道**				
担当教員名	**村田正夫**				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公益財団法人全日本柔道連盟公認A指導員。2018年全日本柔道連盟より世界選手権優勝者の発掘・育成を評価され、優秀指導者賞を授与。本実技を担当（全15回）				

授業概要

武技・武術などから発生した日本固有の文化ある武道の中で柔道について学ぶ。柔道は嘉納治五郎師範によって創始され、その目的とするところは相手との稽古などを通して身体や精神を鍛錬修養し、これによって自己を完成させ、社会に役立つ人間づくりとしている。本授業では、柔道に必要な基本動作（礼法・姿勢・組み方・進退動作・崩し・体捌き・受身）と対人技能（投げ技・固め技）の習得により、柔道の技能能力を高める。また、技能の習得過程で柔道の理念である「精力善用」「自他共栄」の精神を理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	**具体的内容**：	**目標**：
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	認知的領域	日本傳講道館柔道の概要（歴史、目的など）について説明できる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	技能的領域	中学校、高等学校において実技授業を行なうことができる。
汎用的な力		
1 ．DP6.行動・実践		伝統的な行動の仕方に留意し、互いを尊重することができる。（情意的領域）

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

授業への参加度は、教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実技習熟度	40%	：＊＊＊
授業中の課題提出	20%	：＊＊＊
授業への参加度	40%	：＊＊＊

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	中学校学習指導要領解説　保健体育編	東山書房	2008年
文部科学省	高等学校学習指導要領解説　保健体育編	東山書房	2009年

参考文献等

中西英敏　『DVDでわかる柔道入門』西東社　2007
村田正夫　『柔道レベルアップ教本』ベースボール・マガジン　2010

履修上の注意・備考・メッセージ

履修にあたり下記項目について厳守すること。

1. 事故防止、学習効果を高めるため、国際柔道連盟の規定に合ったゼッケン付の柔道衣の着用を義務づける。
2. 柔道衣の着用時には、身に着ける装飾類、ミサンガなどは必ず取り外すこと。
3. 柔道衣の下には、男子は衣類を着用せず、女子はTシャツなどボタンのない衣類を着用すること。
4. 長髪の者は必ず髪留め（ゴム）をすること。
5. 感染症防止のため、柔道衣の貸し借りは厳禁とする。また使用した柔道衣は洗濯をして常に清潔を保つこと。
6. 爪は短く切っておくこと。
7. 貴重品は各自で管理すること。
8. 履修者の安全確保のため、受け身の習得授業は（3回目、4回目、5回目）必ず出席すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後
場所：　授業の教室
備考・注意事項：　授業以外日での対応に関しては、授業初回時に連絡する。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**柔道の基礎知識　柔道の歴史と理念、礼の意味** 実技全体の流れ、評価方法、柔道場内における諸注意、柔道の概要について説明する。	シラバスを熟読し、柔道の概要について調べる。	4時間

第2回	**立ち技の基本動作　礼法、組み方、姿勢、進退動作、崩し、体さばき** 柔道衣の各名称と着方について説明する。また、基本動作の中から礼法、組み方、姿勢、進退動作、崩し、体さばきについて解説する。	柔道衣の着方や礼の意味、礼法について調べ理解する。	4時間
第3回	**受け身の習得と投げ技（１）後ろ受け身と大内刈り** ①後ろ受け身の説明およびその単独練習方法、二人組みでの練習方法を紹介する。 ②大内刈などを解説し、この技を用いて後ろ受け身を習得する。	後ろ受け身、大内刈について調べる。	4時間
第4回	**受け身の習得と投げ技（２）横受け身と支え釣り込み足** ①横受け身の説明およびその単独練習方法、二人組みでの練習方法を紹介する。 ②支え釣り込み足を解説し、この技を用いて横受け身を習得する。	横受け身と支え釣り込み足について調べる。	4時間
第5回	**受け身の習得と投げ技（３）前回り受け身と体落し** ①前回り受け身の説明およびその単独練習方法、二人組みでの練習方法を紹介する。 ②体落しを解説し、この技を用いて前回り受け身を習得する。	前回り受け身と体落し	4時間
第6回	**学びの精度を高める　かかり練習（打ち込み）、約束練習、受け身の反復練習** ①各受け身（後ろ受け身、横受け身、前回り受け身）について反復練習の他、強さ、高さ、速さ　加え、受け身の精度を高めていく。 ②各技（大内刈、支え釣り込み足、体落し）についてはかかり練習、約束練習を実施し、技の精　度えお高めていく。	かかり練習と約束練習について調べる。	4時間
第7回	**技の発展（１）慣性の法則、作用反作用を利用して技を仕掛ける（単独技、連絡技）** 学んだ技を効率よくかつ効果的に仕掛ける方法（相手の力を利用する）として、慣性の法則、作用・反作用などを用いることについて解説する。また立ち技における乱取りを実施する。	慣性の法則と作用・反作用について調べる。	4時間
第8回	**技の発展（２）コーディネーション能力を向上させる** 技を掛ける際の「崩し、作り、掛け」ていく。向上させるため、柔道におけるコーディネーション能力を高めていく。合わせて立ち技における乱取りを実施する。	7つのコーディネーションについて調べる。	4時間
第9回	**固め技の基礎知識　固め技の分類、抑え込みの条件、抑え技の紹介** 固め技（寝技）基礎知識として以下について説明する。 ①固め技の分類（抑え込み技、絞め技、関節技） ②抑え込みの条件（抑え込みの成立、不成立、一本、技ありの定義など） ③抑え込むポイント ④袈裟固めを学ぶ 合わせて立ち技の乱取りを実施する。	固め技の分類や抑え込みの条件について調べる。	4時間
第10回	**抑え技の習得プロセス　攻撃→抑える→逃れ方** ①抑え技の攻め方、抑え方、逃げ方について説明する。 ②横四方固めを学ぶ。 ③寝技の乱取りを実施する。 合わせて立ち技の乱取りを実施する。	抑え技の攻め方、逃げ方について調べる。	4時間
第11回	**体勢別の攻撃の仕方　上からの攻撃と下からの攻撃** ①相手が仰向けや四つんばい状態時の攻め方について解説する。 ②上四方固めを学ぶ。 ③寝技の乱取りを実施する。 合わせて立ち技の乱取りを実施する。	相手が仰向けや四つんばいの状態時の攻め方について調べる。	4時間
第12回	**柔道審判規定　試合場、審判、技の効果の判定、禁止事項、審判員のジェスチャーなど** ①柔道のルール（審判規定）について解説する。 ②寝技の乱取り、立ち技の乱取りを実施する。	審判法について調べる。	4時間
第13回	**まとめ（１）　学習した成果を試合（寝技のみ）で実践し、仲間の学習効果を相互評価する** ①寝技における試合を実施する。	試合を踏まえ、自分の柔道について振り返る。	4時間
第14回	**まとめ（２）　学習した成果を試合で実践し、仲間の学習効果を相互評価する** ①試合の実施を通してこれまでの学習効果を互いに確認する。	試合を踏まえ、自分の柔道について振り返る。	4時間
第15回	**まとめ（３）　学習した成果を発表会で実践し、仲間の学習効果を相互評価する** 柔道技術における習熟度チェックを実施する。 ①前回り受け身（左右） ②動きながらの投げ込み ③動きながらの受け身	習熟度チェックを通して自己評価する。	4時間

授業科目名	**ダンス**				
担当教員名	**千住真智子**				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

舞踊の表現技法を実習し、専門的技術と知識を獲得させ、個性的な表現及び作品の創作ができることを授業の目的とする。本講義は、（1）舞踊の各ジャンルの 表現技法の習得、（2）舞踊作品の創作、（3）舞踊作品発表のために舞台製作（企画・運営等）を行う。さらに実習のまとめとして、舞台上で作品を発表するという 機会を設け、舞台上の演習及び照明効果を含めた舞台実習を行う。各実習を通して学校教育の中で行われるダンスの指導に必要な内容を盛り込んでゆく。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	個性的な表現及び作品の創作ができるための知識や技能を獲得する	舞台上での作品製作と発表ができる
汎用的な力		
1 ．DP5.計画・立案力		身につけた知識や技能をもとに作品発表へつなげるための計画を作成できる
2 ．DP6.行動・実践		立案した計画を実践・遂行し、舞台上で発表できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
創作発表 50%	： 創作発表に向けたグループでの取り組み姿勢を総合的に評価する。
課題レポートの作成 20%	： 指示した課題内容に関して、文献等を用いて記述できているかどうか？文字数や提出期限等を厳守できているかなど評価を行う。
舞台企画書（案）の作成 30%	： 企画書の作成にあたり、グループでの取り組みおよび企画書の内容に関して総合的に評価を行う。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	中学校学習指導要領解説　保健体育編	東山書房	2008年
文部科学省	高等学校学習指導要領解説　保健体育編	東山書房	2009年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の進め方と評価及び授業進行にあたってのルールについてのオリエンテーション** 本授業の目標と内容について解説し、今後の授業計画にそった準備物、内容について説明する。また評価基準についてに説明する。	学習指導要領（中学校保健体育Gダンス）を熟読し、内容を把握しておく。	4時間
第2回	**舞踊の様々なジャンルの表現技法の習得（１）フォークダンス** 各地に伝承されているフォークダンスを実践し、フォークダンスの説明からでも内容を読み取り、実践することが可能になり、さらに指導もできるようにする。	実践したフォークダンスのステップを覚え、踊れるように復習する（ステップの名前と踊り方も把握しておく）。	4時間
第3回	**舞踊の様々なジャンルの表現技法の習得（２）民謡** 日本の代表的な民謡についての知識を深め、その一例を踊れるようになり、動きの特徴について理解する。	提示された民謡の全体像を把握し、実践した内容を復習することで後日再現できるようにしておく。	4時間

第4回	**舞踊の様々なジャンルの表現技法の習得（３）エアロビックダンス** エアロビックダンスの発生及び拡がりを理解する。そしてエクササイズの内容を把握し、そのエクササイズプログラムを実践する。	授業で実践したエクササイズプログラムを把握し、実践した内容を復習することで、一人でもエクササイズの動きを行うことができるようにする。	4時間
第5回	**舞踊の様々なジャンルの表現技法の習得（４）ジャズダンス（現代的なリズムのダンス）** 現代的なリズムの音楽を使って、基本のステップを実践し、短い動きのひと流れを創作する。	現代的リズムで実践したステップを復習し、一人一人独自の動きの組み合わせからひと流れの動きを創り再現できるようになる。	4時間
第6回	**舞踊の様々なジャンルの表現技法の習得（５）ダンスコンテンポラリー（現代的リズムのダンス）** 現代的なリズムの音楽を使って、基本のステップを実践し、短い動きのひと流れを創作する。	現代的リズムで実践したステップを復習し、一人一人独自の動きの組み合わせからひと流れの動きを創り再現できるようになる。	4時間
第7回	**舞踊の様々なジャンルの表現技法の習得（６）表現技法習得の復習とまとめ** これまで５回学んだ表現技法を復習し、授業での指導時に行うダンスの準備運動プログラムを創る。	授業内で実践した内容を完成させ、練習することで後日再現、発表することができるように準備しておく。	4時間
第8回	**舞踊作品の創作　（１）作品の題材からテーマ、動きのモチーフ作り** ダンス作品の成り立ち、プロセスを理解し、どのような準備を行うことが必要であるのかを作品例を示して実践する。	授業の中で示した作品作りのプロセスの理解を作品例にそって高めるとともに、その実践の復習と作品の完成に向けた作業を進めておく。	4時間
第9回	**舞踊作品の創作　（２）テーマの探求、運動構成、動きのモチーフ作り** ダンス作品の成り立ち、プロセスを理解し、どのような準備を行うことが必要であるのかを作品例を示して実践する（場面構成）。	授業の中で示した作品作りのプロセスの理解を作品例にそって高めるとともに、その実践の復習と作品の完成に向けた作業を進めておく。	4時間
第10回	**舞踊作品の作品構成・作品の音楽の検討と具体的な場面の動き作り** ダンス作品の成り立ち、プロセスを理解し、どのような準備を行うことが必要であるのかを作品例を示して実践する（音楽との調和）。	授業の中で示した作品作りのプロセスの理解を作品例にそって高めるとともに、その実践の復習と作品の完成に向けた作業を進めておく。	4時間
第11回	**舞踊作品の全体像の検討・作品台本の制作** ダンス作品の成り立ち、プロセスを理解し、どのような準備を行うことが必要であるのかを作品例を示して実践する（作品台本を作る）。	授業の中で示した作品作りのプロセスの理解を作品例にそって高めるとともに、その実践の復習と作品の完成に向けた作業を進めておく。	4時間
第12回	**舞踊作品の動きのモチーフ、空間構成・作品の演出効果・演技について** ダンス作品の成り立ち、プロセスを理解し、どのような準備を行うことが必要であるのかを作品例を示して実践する（具体的作品場面を使って演出してみる）。	授業の中で示した作品作りのプロセスの理解を作品例にそって高めるとともに、その実践の復習と作品の完成に向けた作業を進めておく。	4時間
第13回	**舞台製作・舞台演習・舞台企画・舞台運営/発表会作り** これまで授業の中で創作した作品を使って発表会を作り、発表会作りに必要な内容、作成物を作る。	授業で仕上げ・完成まで達成していない内容を把握し、次回の授業までに仕上げておく。	4時間
第14回	**舞台製作・舞台演習・舞台企画・舞台運営/発表会作り** これまで授業の中で創作した作品を使って発表会を作り、発表会作りに必要な内容、作成物を作る。	授業で仕上げ・完成まで達成していない内容を把握し、次回の授業までに仕上げておく。	4時間
第15回	**発表・実習報告（作品評価）・まとめ** 授業内で創作した作品の発表会（小）を行い、自己・他者から見られるという経験を体感し、作品評価へとつなげる。	作品の評価の観点について発表会前に学習しておき、ポイントをまとめておく。	4時間

授業科目名	**体育原理**				
担当教員名	**寶學淳郎**				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、体育原理の観点から、現代社会の体育とスポーツのあり方を考えようとする。そのために、体育、スポーツの用語概念とその意味や内容の違いを解説する。次に体育・スポーツの歴史的変遷及びその振興を欧米、日本を中心に解説する。そして、体育授業やスポーツ実践の今日的状況を人文科学的立場から考察し、その理論的背景を学ぶ。また、特に高等学校学習指導要領（保健体育）を踏まえ、ドーピング、オリンピック・ムーブメント、スポーツ関係規定等を体育原理の観点から取り上げる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP1.幅広い教養やスキル

具体的内容：

体育の学問的基盤となる体育原理の基礎的知識や考え方を習得する。

目標：

① 体育原理の意義と目的、体育・スポーツの用語概念、その意味や内容の違いを理解できる。② 体育やスポーツの歴史や理論的背景を理解できる。③ ドーピングやオリンピック・ムーブメントなどを理解できる。

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践

体育授業やスポーツ実践の今日的状況を人文科学的な立場から考察できるようになり、教職に役立てることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
筆記試験 50%	：	定期試験期間に実施する。設問に理論的に回答がなされているかに応じて点数を加点・減点を行う。
授業中の課題提出 40%	：	①テーマに対して参考文献を活用して丁寧に作成されているか。②指示された形式を守り提出期限が守られているか。
授業の取り組み状況 10%	：	授業時間中の指導者の設問に積極的な回答をしているか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

友添秀則・岡出美則編　　教養としての体育原理　新版　大修館書店　2016年，その他必要に応じ指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　木曜日　お昼休み
場所：　研究室
備考・注意事項：　連絡方法は、初回授業時に伝える。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講義の目的、概要，評価についてのオリエンテーション，体育原理の基礎理論（１）体育原理とは何か** 講義の目的、概要，評価について学習した後，体育原理とは何かについて学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、体育原理とは何かについて理解を深める。	4時間
第2回	**体育原理の基礎理論（２）体育とスポーツの概念** 体育とスポーツの概念について学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、体育とスポーツの概念について理解を深める。	4時間
第3回	**体育・スポーツの変遷（１）スポーツの起源と古代・中世の体育・スポーツ** スポーツの起源と古代・中世の体育・スポーツについて学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、スポーツの起源と古代・中世の体育・スポーツについて理解を深める。	4時間
第4回	**体育・スポーツの変遷（２）近代体育の成立（ドイツを中心に）** 近代体育の成立についてドイツを中心に学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、近代体育の成立について理解を深める。	4時間
第5回	**体育・スポーツの変遷（３）近代スポーツの成立（イギリス、アメリカを中心に）** 近代スポーツの成立についてイギリス，アメリカを中心に学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、近代スポーツの成立について理解を深める。	4時間

第6回	**体育・スポーツの変遷（４）オーストリア、アメリカにおける新体育、戦争と体育・スポーツ** オーストリア、アメリカにおける新体育、戦争と体育・スポーツについて学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、オーストリア、アメリカにおける新体育、戦争と体育・スポーツについて理解を深める。	4時間
第7回	**体育・スポーツの変遷（５）近代日本における体育・スポーツの受容と展開** 近代日本における体育・スポーツの受容と展開について学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、近代日本における体育・スポーツの受容と展開について理解を深める。	4時間
第8回	**体育・スポーツの変遷（６）戦後の体育・スポーツの世界的動向と日本の体育・スポーツ** 戦後の体育・スポーツの世界的動向と日本の体育・スポーツについて学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、戦後の体育・スポーツの世界的動向と日本の体育・スポーツについて理解を深める。	4時間
第9回	**体育原理の発展理論（１）体育における人間形成、体育と身体形成** 体育における人間形成，体育と身体形成について学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、体育における人間形成，体育と身体形成について理解を深める。	4時間
第10回	**体育原理の発展理論（２）運動、遊びと体育、競争とフェアプレイ** 運動、遊びと体育、競争とフェアプレイについて学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、運動、遊びと体育、競争とフェアプレイについて理解を深める。	4時間
第11回	**体育原理の発展理論（３）技術指導からみた体育、体育と指導者** 技術指導からみた体育、体育と指導者について学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、技術指導からみた体育、体育と指導者について理解を深める。	4時間
第12回	**体育原理の発展理論（４）社会の変化と今後の体育** 社会の変化と今後の体育について学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、社会の変化と今後の体育について理解を深める。	4時間
第13回	**現代スポーツの周辺（１）オリンピズムとオリンピック・ムーブメント** オリンピズムとオリンピック・ムーブメントについて学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、オリンピズムとオリンピック・ムーブメントについて理解を深める。	4時間
第14回	**現代スポーツの周辺（２）スポーツ倫理、ドーピング、スポーツ関係規定** スポーツ倫理、ドーピング、スポーツ関係規定について学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し、スポーツ倫理、ドーピング、スポーツ関係規定について理解を深める。	4時間
第15回	**総括と質疑応答** 14回の授業内容を振り返り、２～３分程度で順番に発表する。	授業の振り返りレポートを作成する。	4時間

432

授業科目名	**スポーツ心理学**				
担当教員名	**山越　章平**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

スポーツ心理学とはスポーツに関する人間の心理的現象を扱う心理学の一領域と位置づけられる。本講義ではスポーツに関する心理学的基礎知識を習得する。さらに、スポーツスキルの獲得に関する運動学習、スポーツと健康、スポーツに関わる様々な問題等、広範囲に心理的現象を取り上げて概説する。さらに、得られた知見を競技活動および教育現場で活かせるよう、体育授業やクラブ活動での判例をもとに議題を明確にし、その対応策の構築を目指す。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	スポーツ心理学に関する知識	アスリートの心理的特徴およびアスリートの心の鍛え方について理解できる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	スポーツ心理学の知見を活かした指導力	スポーツに関係する心理的問題のアセスメントおよび介入方法について理解する。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		資料を収集し、ある領域に関する現状や課題について理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
筆記試験 50%	： 15回の授業終了後に、定期試験を実施する。
レポート 50%	： 講義内で指示したテーマについてレポート作成し提出する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

新・スポーツ心理学/伊達萬里子・松山博明・田中美吏・三村覚一・高見和至/嵯峨野書院

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（yamako-s@seisen.ac.jp）。メールには必ず氏名と所属を明記してください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講義の概要説明と評価基準を説明し,スポーツ心理学の概念について解説する** 授業の内容、進め方、評価について説明する。スポーツ心理学とはどのような学問なのかについて理解する。	スポーツ心理学の歴史について教科書や論文などで復習する。	4時間
第2回	**動機づけと目標設定(動機づけや目標設定の立て方やその方法)** 外発的動機づけ・内発的動機づけについて学ぶ。また、競技レベルによる外発的動機づけ・内発的動機づけの高さの違いについて学習し、動機づけを高める代表的な方法である目標設定について理解を深める。	スポーツの動機づけおよび目標設定について述べられている書籍や論文を読む。	4時間
第3回	**試合前の心理(リラクゼーションとサイキングアップ)** 試合前の心理状態と試合中のパフォーマンスの関係について学ぶ。また試合前の心理的状態をコントロールする代表的な技法であるリラクセーションとサイキングアップについて理解する。	試合前の心理状態とパフォーマンスの関係について述べられている書籍や論文を読む。	4時間
第4回	**試合中の心理(集中力と自己コントロール能力,自信,予測力,判断力の方法)** 試合中の心理状態と試合中のパフォーマンスの関係について学ぶ。また試合中の心理状態をコントロールする代表的な技法であるセルフ・トークとイメージ技法についても理解する。	試合中の心理状態と試合中のパフォーマンスの関係に関する理論について述べられている書籍や論文を読む。	4時間
第5回	**試合後の心理(内省や闘争力,勝利意欲などの試合に向けて気持ちの切り替え方)**	試合後の心理状態が心理的側面に及ぼす影響について述べられている書籍や論文を読む。	4時間

	試合後の心理状態がモチベーションや自信、メンタルヘルスに及ぼす影響について学ぶ。また試合後の心理状態をコントロールする代表的な技法であるリフレクションについて理解を深める。		
第6回	**スポーツ選手や生徒のフィジカルと心理の関連性（フィジカルと心理の関連性）** スポーツにおける身体的側面と心理的側面の関係について学ぶ。また試合で実力を発揮するうえで、どのように身体的・心理的側面を調整していくかについても理解する。	スポーツ場面における身体的側面と心理的側面の関係について述べられている書籍や論文を読む。	4時間
第7回	**ストレスとバーンアウト（選手や指導者にとっての対処方法とその実践例）** アスリートが直面するストレッサーとそれがもたらすメンタルヘルスへの影響について学ぶ。またストレッサーの対処方法についても理解する。	スポーツ選手のメンタルヘルスに関して述べられている書籍や論文を読む。	4時間
第8回	**レジリエンスの手法と克服方法（克服方法と実践例）** アスリートが困難を克服する際に必要とされるレジリエンスについて学ぶ。またレジリエンスを獲得するうえで指導者ができることについて理解を深める。	スポーツ選手のレジリエンスに関する書籍や論文を読む。	4時間
第9回	**性差とスポーツ心理** 性別によるスポーツ行動や心理面の違いについて理解する。	性別とスポーツ行動の関係について書かれている書籍や論文を読む。	4時間
第10回	**スポーツ選手の性格と特性** スポーツ選手における性格や特性がメンタルヘルスに与える影響について学ぶ。	スポーツ選手における性格とメンタルヘルスの関係について述べられている書籍や論文を読む。	4時間
第11回	**海外スポーツ選手の心理的特徴** 海外スポーツ選手の心理的特徴について学ぶ。また海外におけるエリート選手の育成方法の特徴について理解する。	エリート選手の育成過程の経歴や育成組織について調査した先行研究を読む。	4時間
第12回	**スポーツ指導者および教員の心理（指導者における心理と指導によって選手に与える影響）** 指導者のリーダーシップやコミュニケーションスタイルが選手や生徒に与える影響について学ぶ。また実際に指導をする際にどのようなことを気をつけるかについても学ぶ。	指導者のリーダーシップやコミュニケーションについて調査した先行研究を読む。	4時間
第13回	**ライフラインの作成の説明とその手法** 指導場面でライフラインを使用する利点や方法について学ぶ。また実際に自分のライフラインを作成し、今までの人生を振り返る。	ライフラインを用いてアスリートの経歴を調査した先行研究を読む。	4時間
第14回	**心理的競技能力診断検査の説明とその手法）** アスリートの心理的スキルを測定する代表的な尺度である心理的競技能力診断検査について学ぶ。また実際にこの尺度を使用し、自分自身の心理的長所と短所について理解する。	心理的競技能力診断検査についての論文を読む。	4時間
第15回	**講義の総括（これまでの講義の総括および質疑応答）** 第1回から第14回の内容をまとめる。	これまでの授業で使用した配布資料や教科書を復習する。	4時間

432

授業科目名	**スポーツ経営管理学**				
担当教員名	**大西　孝之**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

社会におけるスポーツの役割はますます大きくなっており、従来の方法ではその期待に応えることができてない。このようなスポーツを取り巻く環境の中で、スポーツをマネジメントする重要性が高まっている。そこで本講義では、プロ野球球団を題材として、スポーツを一つの事業、産業として体系的、計画的に運営するために必要な理論や手法を学ぶことを目的とする。具体的には、自身がプロ野球の球団をマネジメントすることを想定し、課題解決を図ることで、スポーツマネジメント全般の概念をつかむことを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	スポーツに関わる組織や個人をマネジメントするための知識と技能。	スポーツマネジメントが対象とする諸領域について基礎的事項を学修し、それを基に考え、実行できるようになる。
2 ．DP1.幅広い教養やスキル	幅広いマネジメント一般の考え方の理解。	スポーツ以外にも適応可能なマネジメント一般の考え方を学修する。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	収集したデータや事例から課題を発見する。
2 ．DP5.計画・立案力	発見した課題を解決するための方策を計画・立案する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中の課題提出	60%	： 毎講義で提示する課題に対する成果で判断します。
期末レポート	40%	： スポーツマネジメントが対象とする諸領域について理解できているかどうかという観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

Pedersen, P.M., Parks, J.B., Quarterman, J., and Thibault, L. 『Contemporary Sport Management』 (Human Kinetics)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます（ohnishi@soc.ryukoku.ac.jp）。メールには必ず、氏名・学籍番号・所属を明記してください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：プロ野球球団をマネジメントする** 本講義は前15回を通じてプロ野球の球団をマネジメントすることを想定し、課題解決を図ることで、スポーツマネジメント全般の概念をつかむ。第1回の講義ではその方法についての詳細を説明したうえで、「スポーツマネジメント」とは何かについて考える。	Jリーグのクラブや地域のスポーツクラブ、フィットネスクラブといった他のスポーツのマネジメントや一般の企業のマネジメントと比較して、プロ野球の球団のマネジメントは何が異なり、何が同じであるのかを整理する。	4時間
第2回	**スポーツ産業の歴史と発展** プロ野球という産業の歴史や構造を理解する。それらを通じて、スポーツ産業一般の特徴をつかむ。	プロ野球以外のスポーツ産業の特徴を整理する。	4時間

第3回	**スポーツ組織におけるマネジメントの考え方と実践** プロ野球の球団の組織構造を考える。具体的には、組織のビジョンを作成し、組織を構造を設計する。それらを通じて、スポーツ一般の組織論について理解する。	様々な組織のビジョンを調べ、それらに共通すること、特徴的なことを整理する。また、様々なスポーツ組織の組織構造を調べる。	4時間
第4回	**スポーツ組織におけるガバナンスとリーダーシップ** プロ野球の球団をマネジメントする上で、自身に求められるリーダーシップ像を整理する。また、自身のマネジメントに対するチェックづけの方法を考える。それらを通じて、スポーツ組織一般に求められるガバナンスとリーサーシップを理解する。	様々な組織のリーダーの特徴を調べる。また、そのリーダーのマネジメントをチェックする仕組みを調べる。	4時間
第5回	**スポーツ組織における人的資源管理** 自身がマネジメントするプロ野球球団の従業員を動機づける方法を検討する。それを通じて、スポーツ組織一般における労働者という人的資源をマネジメントする方法を理解する。	スポーツ組織に限らず、従業員の動機付けを高めている方法を調べ、それらに共通することを整理する。	4時間
第6回	**プロスポーツリーグのマネジメント** プロ野球やその他のプロスポーツリーグの特徴を理解する。	授業内で挙げた以外のリーグの構造を調べ、どのような特徴があるのかを調べる。	4時間
第7回	**スポーツ施設のマネジメント** プロ野球球団の試合を行う施設について考える。特に種々の法令との関連や今後のスポーツ施設に求められる点を考える。それらを通じて、スポーツ一般の施設のマネジメントを理解する。	授業内で挙げた以外のスポーツ施設がどのように運営されているのかを整理する。	4時間
第8回	**スポーツイベントのマネジメント** 今回は「プロ野球球団のマネジメント」ではなく、「オリンピック」をケースとしてスポーツイベントのマネジメントを考える。それを通じて、スポーツイベント一般に求められる考え方を理解する。	自身の興味関心のあるスポーツイベントがどのようにマネジメントされているのかを整理する。	4時間
第9回	**スポーツマーケティング** プロ野球球団のマネジメントにおいて求められるマーケティングについて考える。それを通じて、スポーツ一般におけるマーケティングを理解する。	スポーツ組織の取り組みをマーケティング観点から整理する。	4時間
第10回	**スポーツスポンサーシップ** プロ野球球団のスポンサーシッププロポーザルを考える。加えて「アンブッシュマーケティング」や「クラッタリング」を理解する。それらを通じて、スポーツ一般のスポンサーシップについて理解する。	様々なスポーツ組織のスポンサーシッププロポーザルを比較する。	4時間
第11回	**スポーツにおける財務と会計** 今回は「プロ野球球団のマネジメント」ではなく、「スポーツシューズの販売」をケースとして財務と会計を経験する。それを通じて、スポーツにおける財務と会計を理解する。	様々なスポーツ組織の財務諸表を比較する。	4時間
第12回	**スポーツの経済学** スポーツマネジメントにおける経済学的な考え方を理解する。特に「セイバーメトリクス」に基づいた選手評価の手法を経験する。	様々なスポーツマネジメントにおける現象を経済学的な観点から整理する。	4時間
第13回	**スポーツにおける法的諸側面** プロ野球球団の法的事例とリスクマネジメントを考える。それらを通じてスポーツのマネジメントにおける法的な考え方を理解する。	自身の興味のあるスポーツにおける法的事例を調べる。	4時間
第14回	**スポーツマネジメントにおける社会的責任** プロ野球球団が社会から求められる責任を考える。それを通じてスポーツのマネジメント一般に求められる社会的責任を理解する。	自身が興味があるスポーツ組織あるいはアスリートの社会的責任を整理する。	4時間
第15回	**総括（これまでの課題成果の発表）** これまでの授業のなかで取り組んだ課題をまとめて発表する。それを通じてこれまでに学修した内容を整理する。	これまでに取り組んだ課題を振り返り、授業外で学修した内容を付け加える。	4時間

授業科目名	**運動学**				
担当教員名	熊野陽人				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

運動学とは、人間をはじめとする生体の構造や機能、運動を、科学的な観点から解明しようとする学問であり、医療やリハビリテーション、スポーツの分野で盛んに研究・応用されている。体育・スポーツの分野における運動学は、力強い運動や巧みな運動などの様々な身体運動をとり上げて、力学・生理学・解剖学などの基礎知識を応用して研究することにより、それらの運動の仕組みを明らかにするところに特徴がある。本講では、身体運動の仕組みを理解するのに必要な基礎知識と、高度なスポーツ活動の理解に役立つ応用的な知識を学習する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	運動学に関する基本的な法則、知識、考え方	運動学に関する基本的な法則、知識、考え方をもとに、スポーツ動作や身体運動を客観的に考察できる。
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		日常生活や運動場面において、力学、解剖学の知識を活かすことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
筆記試験	45%	： 運動学における、身体運動の仕組みを理解するのに必要な基礎知識と、高度なスポーツ活動の理解に役立つ応用的な知識について理解を求める問題から評価する。
授業内ワークシート	45%	： 授業内容を踏まえてワークシートを完成できていれば2点とし、さらに自己の考えや具体的事例などを示していれば3点、誤りや内容不足の場合は0点または1点とする。これを全15回実施する。
課題レポート	10%	： ①問いに的確に回答しているか、②指示した形式と提出期限を守り丁寧に作成しているか、③参考文献等を活用し、客観的な事実と自分の考えを具体的に書いているか、以上の点を基準に評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
深代千之・川本竜史・石毛勇介・若山章信	スポーツ動作の科学　バイオメカニクスで読み解く	東京大学出版会	2010年

参考文献等

阿江通良・藤井範久、「スポーツバイオメカニクス20講」、朝倉書店、2002年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　木曜日　昼休み
場所：　研究室
備考・注意事項：　オフィスアワーの利用に関しては、初回授業時に伝える。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**運動学の定義の解説および授業ガイダンス** 運動学の定義と応用例を解説するとともに、授業概要のガイダンスを行う。	運動学の定義を理解する	4時間
第2回	**身体の構造と運動** 全身を構成する骨格系と筋系を概観し、身体運動の生み出す身体の構造を学ぶ。	骨格系と筋系を理解する	4時間
第3回	**運動を行うエネルギー** 運動を行う際に働くエネルギー供給系（ATP-CP系、解糖系、酸化系）の仕組みと違いを学ぶ。	エネルギー供給系の違いを理解する	4時間
第4回	**運動を支配する神経系** 運動を行う際に、神経系がどのように運動を制御しているのか、またどのようにしてヒトは新たな運動を獲得していくのか、その理論を学ぶ。	運動制御、運動学習を理解する	4時間
第5回	**身体運動と力学の法則**	ニュートンの運動法則とその応用について理解する	4時間

	身体運動を運動学的・力学的に理解する上で重要なニュートンの運動法則とその応用について学ぶ。		
第6回	**立位姿勢** ヒトの立位姿勢における姿勢の安定・制御の仕組み、身体重心の定義について学ぶ。	身体重心の定義を理解する	4時間
第7回	**歩く・走る** 歩行と走行におけるストライドとピッチ､速く走るメカニズムについて学ぶ。	歩行と走行の運動学的な違いを理解する	4時間
第8回	**跳ぶ** 「跳ぶ」という運動の特性と、SSC（Stretch Shortening Cycle）運動の仕組みを学ぶ。	SSC運動を理解する	4時間
第9回	**投げる** 様々なスポーツ種目に存在する投動作の特性を学ぶ。	投動作の種類を理解する	4時間
第10回	**打つ・蹴る** 様々なスポーツ種目に存在する打つ動作と蹴る動作の特性を学ぶ。	打つ動作の種類を理解する	4時間
第11回	**泳ぐ** 陸上ではなく水中で行う「泳ぐ」動作の特性と、その際に働く浮力、推進力、水の抵抗力について学ぶ。	泳ぐ動作の特性を理解する	4時間
第12回	**スポーツ外傷・障害のバイオメカニクス** スポーツや運動において発生する外傷や障害について、その運動学的な発生要因や特徴を学ぶ。	自身が経験したスポーツ外傷・障害の原因を考える	4時間
第13回	**運動学の研究と論文** スポーツ動作や身体運動に関して研究する際、どのようにして仮説検証を行うのか、また学術論文にはどのようにしてまとめるのか、その方法論を学ぶ。	仮説検証のプロセスを理解する	4時間
第14回	**運動学の実践的研究** 運動学における実践的研究の方法を学び、実際の学術論文の知見を紹介する。	学術論文の定義を理解する	4時間
第15回	**授業のまとめと質疑応答** これまでの授業の総括を行い、運動学に関する基本的な法則、知識、考え方をもとに、スポーツ動作や身体運動を客観的に考察するための方法を学ぶ。	これまでの授業内容を振り返り、理解できていない点を明確にし、再度理解を図る	4時間

授業科目名	**生理学**				
担当教員名	臼井達矢				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

生理学とは、身体の「構造」と「機能」を究明する学問である。それゆえ、運動生理学や運動学、栄養学など他の様々な学問を学ぶ上で、また自身の健康や身体パフォーマンス向上を考える上で、最も基礎となる専門分野である。本講義では、身体の形態的特徴およびその機能を、器官・組織・細胞レベルで概説する。これにより、人体の持つ精巧な仕組みを知り、さらに科学的知見に基づいた競技力向上のためのトレーニングや健康の維持増進を目的とした運動処方といったスポーツ・体育人が担う重要な役割について理解を深めていく。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	運動が身体へ及ぼす変化とそのしくみを生理学的観点から理解し、生理学的な基本的知識をもとに、体育やスポーツ指導の際に活用できる知識を身につける。	身体の構造と機能を理解し、さらに発育発達による身体の成長やその機能、また老化に伴う変化について理解できる。
2 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	生理学に知識を習得することで、安全かつ効果的な運動指導、スポーツ指導につなげる。また最新の運動生理学に関する知見から本学問の理解を深めていく。	生理学的な基本的知識をもとに、保健体育授業やスポーツ指導の際に活用できる知識を習得できる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		近年問題となっている運動やスポーツ現場での課題を明確にし、それらの解決方法に生理学の知識が必要であることを理解できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象となる。
規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。
観点：主に『身体構造の理解』『身体機能の理解』『身体と運動の理解』の3つの観点から理解度を評価する。
尺度：観点ごとに3段階、『理解できている』『十分理解できている』『応用し実践できる』かどうかで到達度を評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各回の授業内ワークシートの完成 15%	：	授業内容を踏まえてワークシートを完成できていれば2点とし、さらに自己の考えや具体的事例などを示していれば3点、誤りや内容不足の場合は0点または1点とする。これを全15回実施する。
小テスト 30%	：	・各単元ごとに、まとめ（確認テスト）を行い、その内容を1～3点で評価する。自己の考えや具体的事例などを示していれば3点とする。内容不足１点、未提出の場合は0点とする。これを全15回実施する。
期末試験 55%	：	授業内容の確認と特に授業内で学んだ基礎知識を用いて、正しく表現できているかどうか、それを活用した健康教育や運動指導に関する取り組みの提案ができているか。１５回授業終了後（定期試験期間）に実施する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

1) 基礎生理学，安谷屋均，東洋書店.
2) イラストでまなぶ生理学，田中越郎，医学書院.
3) メディカルクイズ100解剖・生理学編，安達洋祐，メディカルビュー社.

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日　お昼休み

場所： 研究室

備考・注意事項： ※連絡方法については初回授業において伝える。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**生理学とは？** 「健康」という問いから、自己のライフスタイルを見つめなおし、生活習慣の課題や問題を発見し、なぜ生活習慣が乱れているのかをグループで話し合い、健康のための生活習慣について考えます。さらに運動やスポーツの必要性についても理解を深めます。	振り返りシートの完成（自己の生活習慣を見つめなおし、健康のために良いこと、悪いことを考える）	4時間
第2回	**循環器**	振り返りシートの完成（循環器の構造と機能）	4時間

	・心臓の構造と機能 ・心臓の拍動メカニズム（刺激伝道系） ・血圧の仕組み		
第3回	**血液と免疫** ・血液循環 ・血液の性質と働き ・血液の性状と機能 ・細胞性免疫と液性免疫 ・白血球の働き	振り返りシートの完成（血液の成分と免疫機能）	4時間
第4回	**呼吸** ・呼吸中枢と調節 ・呼吸のメカニズム ・ガス交換 ・呼吸運動と呼吸筋 ・呼吸型	振り返りシートの完成（呼吸器系の構造と機能）	4時間
第5回	**筋の特性と骨格筋の機能** ・骨格筋の構造と機能 ・筋収縮のメカニズム ・筋収縮の種類 ・骨格筋の作用 ・骨格筋と運動神経、感覚神経	振り返りシートの完成（骨格筋の働きと性質）	4時間
第6回	**骨代謝** ・骨の構造と機能 ・骨代謝とメカニカルストレス ・骨代謝と骨細胞 ・骨の成長と老化	振り返りシートの完成（骨の構造と機能、骨代謝）	4時間
第7回	**脳・神経系** ・脳、神経系の種類 ・ニューロン ・中枢神経系 ・末梢神経系 ・脊髄神経	振り返りシートの完成（脳の構造と機能）	4時間
第8回	**自律神経** ・交感神経 ・副交感神経 ・自律神経と免疫 ・自律神経と腸との関連	振り返りシートの完成（自律神経の働き、交感神経と副交感神経）	4時間
第9回	**体温調節** ・体温調節のメカニズム ・体温調節と発汗 ・体温の異常 ・低体温が及ぼす影響 ・保温とヒートショックプロティン	振り返りシートの完成（体温調節のメカニズム）	4時間
第10回	**肥満細胞** ・肥満の分類 ・肥満細胞の働き ・白色脂肪細胞 ・褐色脂肪細胞 ・ベージュ細胞 ・アディポサイトカイン	振り返りシートの完成（脂肪細胞の働きと作用）	4時間
第11回	**ホルモン、内分泌** ・内分泌とは ・ホルモンの作用機序 ・視床下部と下垂体 ・甲状腺と副甲状腺 ・副腎 ・膵臓 ・性ホルモン	振り返りシートの完成（ホルモンの種類とその作用）	4時間
第12回	**エネルギー代謝（脂質代謝）** ・筋収縮とエネルギー ・ATP ・TCA回路 ・脂質代謝	振り返りシートの完成（脂質代謝のメカニズム）	4時間
第13回	**エネルギー代謝（糖代謝）** ・筋収縮とエネルギー ・糖代謝 ・ピルビン酸 ・乳酸 ・乳酸と脳細胞 ・乳酸と筋線維	振り返りシートの完成（糖代謝のメカニズム）	4時間
第14回	**消化器（消化吸収）** ・消化管 ・食道と胃 ・十二指腸と膵臓 ・小腸と大腸 ・消化液と消化酵素 ・肝臓の働き	振り返りシートの完成（消化と吸収）	4時間
第15回	**総括** ・人体の構造と機能 ・生理学の必要性 ・生理学的知識と運動指導	まとめシートの完成	4時間

授業科目名	**スポーツ生理学**				
担当教員名	臼井達矢				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本講義は、運動を行うことによって起こる身体の変化や適応についての専門基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、①生体の様々な仕組みと機能について体系的に学習する。②運動理論や運動に伴う生態機能の変化についての理解を深める。③ヒトの基本的生活活動と環境の変化に適応するしくみを理解する。④運動時と安静時の循環器系の機能変化を中心とする自律神経系の働きや脳機能などについて学習する。⑤スポーツ各分野におけるトレーニング効果の向上や健康の維持・増進に必要な専門知識を修得する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	運動が身体へ及ぼす変化とそのしくみを生理学的観点から理解し、生理学的な基本的知識をもとに、体育やスポーツ指導の際に活用できる知識を身につける。	身体の構造と機能を理解し、さらに発育発達による身体の成長やその機能、また老化に伴う変化について理解できる。
2 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	生理学に知識を習得することで、安全かつ効果的な運動指導、スポーツ指導につなげる。また最新の運動生理学に関する知見から本学問の理解を深めていく。	生理学的な基本的知識をもとに、保健体育授業やスポーツ指導の際に活用できる知識を習得できる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		近年問題となっている運動やスポーツ現場での課題を明確にし、それらの解決方法に生理学の知識が必要であることを理解できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象となる。
規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。
観点：主に『身体構造の理解』『身体機能の理解』『身体と運動の理解』の3つの観点から理解度を評価する。
尺度：観点ごとに3段階、『理解できている』『十分理解できている』『応用し実践できる』かどうかで到達度を評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各回の授業内ワークシートの完成 15%	：	授業内容を踏まえてワークシートを完成できていれば2点とし、さらに自己の考えや具体的事例などを示していれば3点、誤りや内容不足の場合は0点または1点とする。これを全15回実施する。
まとめプリント 30%	：	・各単元ごとに、まとめ（確認テスト）を行い、その内容を1～3点で評価する。自己の考えや具体的事例などを示していれば3点とする。内容不足１点、未提出の場合は0点とする。これを全15回実施する。
期末試験 55%	：	授業内容の確認と特に授業内で学んだ基礎知識を用いて、正しく表現できているかどうか、それを活用した健康教育や運動指導に関する取り組みの提案ができているか。１５回授業終了後（定期試験期間）に実施する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

1) 入門運動生理学，勝田茂，杏林書院.
2) 運動と免疫，大野秀樹，木崎節子，ナップ.
3) 健康，近藤幹生，臼井達矢，青踏社.
4) 運動による脳の制御，島田裕之，杏林書院.
5) １から学ぶスポーツ生理学，中里浩一，岡本孝信，須永美歌子，ナップ.

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は１年後期の生理学の知識を要する科目のため、生理学の単位を取得済みのこと。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日　お昼休み

場所： 研究室

備考・注意事項： ※連絡方法については初回授業において伝える。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツ生理学とは？** 「健康」という問いから、自己のライフスタイルを見つめなおし、生活習慣の課題や問題を発見し、なぜ生活習慣が乱れているのかをグループで話し合い、健康のための生活習慣について考えます。さらに運動やスポーツの必要性についても理解を深めます。	振り返りシートの完成（自己の生活習慣を見つめなおし、健康のために良いこと、悪いことを考える）	4時間

第2回	**運動と循環器** ・心臓の構造と機能 ・心臓の拍動メカニズム（刺激伝道系） ・血圧の仕組み ・運動と心拍	振り返りシートの完成（循環器の構造と機能）	4時間
第3回	**運動と免疫** ・血液循環 ・血液の性質と働き ・血液の性状と機能 ・細胞性免疫と液性免疫 ・白血球の働き ・運動の効用	振り返りシートの完成（血液の成分と免疫機能）	4時間
第4回	**運動と呼吸** ・呼吸中枢と調節 ・呼吸のメカニズム ・ガス交換 ・呼吸運動と呼吸筋 ・呼吸型 ・運動と呼吸商 ・運動と酸素摂取量	振り返りシートの完成（呼吸器系の構造と機能）	4時間
第5回	**運動と骨格筋** ・骨格筋の構造と機能 ・筋収縮のメカニズム ・筋収縮の種類 ・骨格筋の作用 ・骨格筋と運動神経、感覚神経 ・運動とロコモティブシンドローム ・運動とサルコペニア	振り返りシートの完成（骨格筋の働きと性質）	4時間
第6回	**運動と骨代謝** ・骨の構造と機能 ・骨代謝とメカニカルストレス ・骨代謝と骨細胞 ・骨の成長と老化 ・運動と骨代謝活性	振り返りシートの完成（骨の構造と機能、骨代謝）	4時間
第7回	**運動と神経系** ・脳、神経系の種類 ・ニューロン ・中枢神経系 ・末梢神経系 ・脊髄神経 ・運動による効用	振り返りシートの完成（脳の構造と機能）	4時間
第8回	**運動とエネルギー代謝** ・運動と脂質代謝 ・運動と糖代謝 ・運動と乳酸	振り返りシートの完成（運動とエネルギー代謝）	4時間
第9回	**運動と体温調節** ・体温調節のメカニズム ・体温調節と発汗 ・体温の異常 ・低体温が及ぼす影響 ・保温とヒートショックプロティン	振り返りシートの完成（体温調節のメカニズム）	4時間
第10回	**運動と肥満細胞** ・肥満の分類 ・肥満細胞の働き ・白色脂肪細胞 ・褐色脂肪細胞 ・ベージュ細胞 ・アディポサイトカイン	振り返りシートの完成（脂肪細胞の働きと作用）	4時間
第11回	**運動と内分泌** ・内分泌とは ・ホルモンの作用機序 ・視床下部と下垂体 ・甲状腺と副甲状腺 ・副腎 ・膵臓 ・性ホルモン	振り返りシートの完成（ホルモンの種類とその作用）	4時間
第12回	**運動と生活習慣病予防①** ・運動と高血圧 ・運動と虚血性心疾患 ・運動と動脈硬化	振り返りシートの完成（運動と生活習慣病①）	4時間
第13回	**運動と生活習慣病予防②** ・運動と糖尿病 ・運動とインスリン抵抗性 ・運動と肥満	振り返りシートの完成（運動と生活習慣病予防②）	4時間
第14回	**運動と生活習慣病予防③** ・運動と脳血管疾患 ・運動と認知症予防 ・運動とフレイル予防	振り返りシートの完成（運動と生活習慣病予防③）	4時間
第15回	**総括** ・人体の構造と機能 ・生理学の必要性 ・生理学的知識と運動指導	まとめシートの完成	4時間

授業科目名	**衛生学**				
担当教員名	**岡田邦夫**				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	労働者の健康に関する疫学研究に従事し、過去に海外に論文として発表している。また、企業における産業保健スタッフとして30数年にわたり現場での活動を通じて、社会保障制度、労働安全衛生、メンタルヘルスケアに直接従事し、かつ厚生労働行政における委員会の委員を歴任した。（全15回担当）				

授業概要

本講義では、衛生の本質である「衛」＝守る、「生」＝生命、健康の視点から、母子保健、学校保健、産業保健についての制度や、栄養、心、身体活動などの視座から健康づくりの重要性について学ぶことを目的としている。「衛生学」がいわゆる「保健」のあらゆる分野に関与していることを基本に、健康の保持増進、疾病予防、QOL(Quality of life)向上のための方法論について学び、我が国の課題である少子高齢化に対する対応について理解を深める。さらに、心の健康問題についても現状の理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見

2 ．DP6.行動・実践

具体的内容：

疫学から健康に関する情報を取得する

目標：

日常生活と健康

少子高齢化における社会的課題

健康づくりにおける行動変容の実際

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

専門的や領域であるので、授業において理解を深めることを第一として、授業中の小論文ならびに課題に対する授業中の応答によって評価するとともに、課題に対するレポートをもって成績を評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中の小レポート	50%	： 授業終了後に提出するレポートによる評価
課題に対するレポート	50%	： 本講義における課題を提起するので、それに対して提出されたレポートによる評価

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省「中学校学習指導要領解説　保健体育編」　東山書房　2008
文部科学省「高等学校学習指導要領解説　保健体育編」　東山書房　2009

履修上の注意・備考・メッセージ

専門的分野であるので、出席が所定以下である場合には、成績評価の対象としないので注意すること。
授業中に種々の質問をするので、自分の意見をしっかりと述べること。その意見について議論を深めたい。
授業中、不定期ではあるが、小レポートの提出を求める。学んだ知識の理解度を評価する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　4時限目（火曜日）

場所：　中央館5階共同研究室

備考・注意事項：　専門用語が多い授業であるので、わかりにくい専門用語については質問してください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**衛生学の授業の進め方についてのオリエンテーション―衛生学とは** 衛生学が取り扱う領域について概説し、全体を俯瞰することを目的とする。 衛は守ること、生は生命のことから、生命と健康を守るための知識や最近の知見について述べるとともに、実践的な健康づくりの進め方について概説する。	衛生学は、専門的知識が必要となるが、まずは、新聞などのマスコミュニケーションにおける情報において、インフルエンザなどの感染症、地球温暖化などによう自然環境の変化、などについてなどについて関心を持つことが重要である。1回目においては、衛生学とはどのような学問なのかを知ることで、社会環境と私たちの健康問題について常に関心を持つように心がけることが重要である。授業時に配布する資料を参考にして、関心のある分野については、さらにインターネット等で検索して知識を深めるること。	4時間
第2回	**環境問題の現状と対策**	公害に代表されるように、種々の化学物質などが私たちの健康に与える影響について、関心をもって見聞を広げることが求められる。過去の公害問題から、私たちは現在どのような対応がなされているのか、企業がどのような対応をしているのかを種々のマスメディアや書籍を通じて学ぶこと。配布資料について疑問点などがあれば、それに関連した書籍などを参考にして理解を深めること。	4時間

	我が国においては、過去に公害による健康障害が社会問題となり、訴訟にまで進展した歴史がある。私たちを取り巻く環境は、例えば、シックハウスなどのよって健康障害をもたらすことになり、さらに環境問題は生命をも脅かす存在にもなりつつある。また、、地球環境においては、、温暖化、オゾン層の破壊、砂漠化、酸性雨などが私たちの生活にも大きな影響を及ぼすことになってきた。これらの対応として現実に対処されている行動について理解を深め、地球環境とその将来像について学ぶことを目的とする。		
第3回	**産業保健の意義と活動** 働く人の健康は、労働安全衛生法によって規定されており、それに従って健康管理、作業環境管理、作業管理（3管理）が行われ、その実施のために労働安全衛生管理体制の構築と労働衛生教育がなされている。労働者の健康の保持増進は、労働生産性の向上のためには必須であり、また不幸にして労働災害が発生した場合には、労働災害補償がなされる仕組みがある。労働者の高齢化が進む我が国では、健康の保持増進（心身の健康と安全を確保するための体力）がますます重要になっている。ここでは、職場の健康について、産業保健の視点から概説する。	働く人の心身の健康問題が、新聞紙上に報道されている。特に心の健康問題は、裁判にもなって損害賠償請求などがなされている。このような現状について、日頃から関心を持ち、その発症要因について考えることが必要である。配布資料から、現状の理解とまた、なぜそのような健康問題が発生するのか、理解を深める。	4時間
第4回	**職業性疾患とその対策** 職業性疾患とは、業務に起因する疾患であり、業務に付随する危険性（紫外線、赤外線、レーザー、高気圧、暑熱、超音波、粉じん、身体負荷が過重にかかる業務等によって発症した心身の不調である。これらの疾患を予防するために、例えば粉じん作業については、「じん肺法」、「粉塵障害防止規則」によって規制されており、その防止は事業者の義務となっている。ここでは、職業性疾患とその対策について理解を深めることを目的とする。	働くことでなぜ健康を害するのか、という問題意識を持つことが必要である。職業病は、従来有害物質を扱うことなどによる中毒等があったが、現在では、ハラスメントの問題がある。この点について配布資料などから理解を深め、さらに関心のあるところは、専門書などを参考にして理解を深める。	4時間
第5回	**産業医活動について** 産業医とは、、事業場において労働者の健康管理等の業務を専門的立場から事業者に対して助言・勧告する医師をいい、労働安全衛生法によって、一定の規模（労働者数）の事業場には選任が義務付けられている。その違反に対しては罰金が科されることになっており、事業者としての責務となっている。主たる業務は、健康診断や事後措置、各種面談、職場巡視、安全衛生委員会等の参画などがあり、いわゆる健康管理、作業環境管理、作業管理において特に健康の視点から衛生管理者等と協力して職場の環境や労働者の健康管理を行うものである。ここでは、産業医について理解を深めることを目的とする。	労働者の健康は、事業者のみでは対応できないことから、専門的知識を有する専門家によってその対応が必要となる。配布資料により、産業医の業務について理解を深め、マスコミにおいて産業医がどのように報道されているのか、理解を深め、その役割を理解すること。	4時間
第6回	**労働衛生管理について** 企業は、健康管理、作業環境管理、作業管理の3管理を遵守して、職場における労働衛生の充実を図り、労働災害や業務に起因する労働者の心身の健康障害を未然に予防しなければならない義務がある。この義務履行によって、労働者の安全と健康が確保されることとなる。ここでは、3管理について概説するとともに、労働衛生管理体制、労働衛生教育についても概説し、労働安全衛生について理解を深めることを目的とする。	企業で事故（災害）が起こった場合、労働者の健康問題が発生した場合、結果としてその原因が追究され、その顛末が報道されることになるが、このような事故や健康問題を予防するために、どのような対策が講じられているのか、また法令でどのようなことが定められているのかを理解する。配布資料を参考にして、さらに理解を深め、専門的な視点について疑問があれば、質問などで知識を深堀するようにする。	4時間
第7回	**化学物質と体内動態** 外部環境から私たちの体内に入り込んだ化学物質が、有害物質であれば健康障害を発生することになる。すでに、その有害性が明らかになっている物質については、厚生労働省から注意して取り扱うべき物質として指定を受けているが、まだまだ徹底されているとは言えない現状である。我が国においては、有害物質に暴露されるような危険性のある職務に就く労働者においては、乳中に含まれる代謝産物を測定するなどして、その対策を講じている（生物学的モニタリング）。また、粉じん作業においては、肺がん、中皮腫などの発症リスクも高く、その対応が必要である。ここでは、化学物資と健康障害について概説し、その理解を深めることを目的とする。	地球上には、種々の有害物質があるが、一方では生活を営む上で必要な物質でもある。有害にして有用な物質を私たちはどのようにコントロールしているのかを授業を通じて学ぶこと、並びに配布資料に基づいて現状の問題点の把握をすること。	4時間
第９回	**産業保健制度について** 我が国の少子高齢化は、職場においては労働者の高齢化を進め、その結果、労働災害ならびに健康診断有所見率の増加をもたらしている。労働者の健康については、労働安全衛生法によって、事業場内の安全衛生管理体制の確立、健康管理、作業管理、作業環境管理、労働衛生教育などが重要な柱であることが明文化されている。ここでは、労働者の健康問題、労働災害等について理解を深めるとともに、高齢者の労働災害や中高年齢者のメンタルヘルス問題が重要な課題になっていることから、現代社会が抱える産業保健の課題について述べてみる。	労働者の健康の保持増進を図るために、我が国は以前から法的規制を行っていたこと、その理由としてすでに有名である「女工哀史」「職工事情」などによって当時の健康問題が明らかとなっている。「女工哀史」は当時も過酷な労働環境を知る上で重要な書籍である。	4時間
第10回	**環境と健康** 我が国には、過去において、熊本県の水俣病（有機水銀）、新潟県の第二水俣病、四日市ぜんそく（亜硫酸ガス）、富山県のイタイイタイ病（カドミウム）が4大公害病として社会的問題が提起された。また、そのほかに、光化学スモッグ（オキシダント）、自動車の排気ガスによる大気汚染による健康障害（川崎、西淀川等）がある。さらに、地球温暖化、酸性雨、砂漠化など、新たな問題が次々に発生し、課題が山積されている。ここでは、過去の公害問題について学び、さらに現在問題となっている地球全体の環境問題について触れ、過去の事例を忘れることなく、未来に向かってこれらの問題を解決するために関心を持ってもらうことを目的とする。	環境が私たちの健康に与える影響は大きく、環境汚染による多くの健康被害が報告され、また裁判例となっている。過去においては、自動車の排ガスなども社会的問題であったが、そのご技術開発によって大幅に改善されることになった。私たちを取り巻く環境と健康について配布資料からその問題点について理解すること。	4時間

第１１11回	**食の安全** 日々口にする食物は、私たちの生命の糧であり、健康を維持するための必要不可欠なものである。しかし、現実には、食の安全が脅かされることが過去に多く発生しており、その結果、多くの健康問題が発生した。食品公害は、私たちの生命と健康を脅かす重大な問題であり、その解決に向けては個人には限界があり、行政の対応が求められることになる。食品に含まれる有害物質による事故（水俣病等）、食品メーカによる混入事件（ヒ素ミルク等）、0157を例とする細菌性食中毒、犯罪としての食品中毒事件、フグなどの毒物を有する調理の問題（フグ中毒等）が挙げられる。ここでは過去の問題を振り返り、新たな問題が発生しないような仕組みや対策について述べてみる。	私たちが摂取する食物がもし、健康問題を起こすのであれば、いったい何を信用していいのだろうか。このような健康被害が発生しないようにするためには、どのような対応が必要であるのか。自分自身が万が一健康被害を受けたときに、どのような対応が可能なのか、その補償はどのようになっているのか、などに関心をもって調べることが必要。	4時間
第12回	**心の健康** 現代社会においては、ストレス要因が増加し続け、その結果心の健康問題が社会的問題となっている。特に、我が国においては、平成10年より14年間にわたって、自殺者が3万人を超え、その対応から課題を探ることが可能であろう。10歳代から自殺が死因の上位を占めていることから、心の健康問題は、我が国のすべてのライフステージにおいて極めて重要な課題であることはいうまでもない。ここでは、いわゆるメンタルヘルス不調や労働者の高ストレスの状況、自殺対策についてに解説する。	現在、心の健康問題が社会的課題となっている。特に若年層の自殺（自死）は少子高齢化が急速に進展する我が国にとっては重大な問題である。なぜ、そのような問題が発生するのか、について配布資料から学び、かつ一人ひとりがどのようなことをすればよいのか、また一人では解決できない場合のサポートについて知識を持つことが重要である。	4時間
第13回	**一次予防** 健康づくりにおいては、予防に代表される一次予防、早期発見早期治療の二次予防、疾病からの早期離脱、社会復帰を目指す三次予防がある。ここでは、ヘルスケアを中心とした予防的対応、すなわち一次予防について解説する。もとより、疾病が発症する前に予防することは、本人ならびに属している組織にとって大きな効果が期待される。すなわち、病気休業による労働力の減少、医療費の増大、などである。これらを解消するためには、日ごろから健康に関する知識を習得し、さらにその知識を実践するための能力が必要である。昨今、これら2つを合わしてヘルスリテラシーと呼ばれているが、自らが健康づくりのための行動変容を起こすことが求められている。	病気にならないようにするのではなく、現在の健康状態をさらに向上させることが一次予防であることから、現代社会において、心身の健康状態を保持または向上させるためにはどのような方策が考えられるのか、またその阻害要因とはどのようなものがあるのかを配布資料から学び、その対応策について個別条件に応じて考えること。	4時間
第14回	**衛生管理者** 衛生管理者とは、常時雇用する労働者が50人を超えれば、その職場において労働条件、労働環境の改善、健康管理・健康づくり等を担当する者として、事業者が配置しなければならないと労働安全衛生法で定められています。衛生管理者は国家資格で、一定の条件を満たすことで受験することができる。その職務は、労働災害の防止、労働衛生管理体制の構築、労働者の安全と健康の確保、快適な職場の醸成などがあり、産業医や保健師等の産業保健スタッフと連携して職場の健康づくりを推進する役割を担っている。ここでは、衛生管理者の役割について理解を深めることを目的とする。	衛生管理者は、国家資格であり、どのような役割を企業で果たすのかを学ぶためにも、試験問題等から衛生管理者の役割を知ることができる。試験問題を俯瞰して、卒業後に受験して資格を持つことも理解を深めることになる。	4時間
第15回	**公衆衛生にこれから** 公衆衛生（public health)は、ある特定の集団の健康問題等を分析評価することで、その集団を取り巻く環境の健康への影響を取り除き、より健康な社会を醸成することにある。主に、過去においては、感染症が人類において大きな脅威であったが、現代社会では、さらに環境問題やストレスによる精神疾患が大きな問題として挙げられる。個別対応には限界がある場合も多く、例えば、個人に対する禁煙への働きかけとともに職場や地域の禁煙を進めることでより大きな効果が期待できることがすでに周知されている。地球の環境問題は個人では対処不可能であり、地域、国、国際機関の協力と協働が必要な時代となっている。本授業では、グローバルな対応が必要な時代背景について理解を深めることを目的とする。	一人ひとりの健康問題から、家庭の、職場の、地域の、そして国、世界の人々の健康問題をどのような視点で俯瞰しそして解決していくのかを、考えてみることが重要。紛争、飢餓、自然災害、等が私たちの健康に大きな影響を及ぼすことから、私たちが取り組むべき課題について考えること。配布資料から、課題について理解すること。	4時間

授業科目名	**公衆衛生学**				
担当教員名	**岡田邦夫**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	職域において生活習慣病発症要因についての疫学的研究を行い、海外に論文として発表した。また、実際面で、職域における健康づくり事業の展開やその評価などを行い、現場での活動を通じて従業員のみならず組織の健康の視点から産業保健活動を長年にわたって実践してきた。（全15回）				

授業概要

公衆衛生は、衛生（衛＝守、生＝生命）を社会的環境等の大きな視点からとらえ、いわゆるポピュレーションアプローチによってその成果を期待するために原因を探り、その効果的な対策を講じることにある。いわば地域社会、職域をカバーして、住民、労働者の健康保持増進を確保するための学問である。感染症について、患者の個別対応では、感染拡大を防止することができないことから、地域的、職域的な視点から、対処することでその拡大を防止することが可能となる。そのような視点を持つことを目的とする学問体系である。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	疾病等を社会的視点から眺望する	疾病等を社会的視点から眺望できるようになる
2 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	社会的環境と健康についての関係性を俯瞰する	社会的環境と健康についての関係性を俯瞰できるようになる
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		健康問題が発生した場合にその要因を追及する
2 ．DP5.計画・立案力		原因が発見された場合、その対応について企画立案する

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

初めて学ぶ学問体系であることから、専門的用語も多く、授業でしっかりと専門分野についての理解を深めることが重要である。そのため、所定の出席が満たされなかった場合には、生成の評価の対象とはならないことに注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中のコメントや意見、ディスカッション 25%	：	授業中のディスカッションや意見を求めた場合に積極的に関与すること
授業中に提出を求めるレポート 25%	：	授業中に重要な課題について小レポートを提出してもらい、その理解を深める
レポート 50%	：	授業全体から重要な課題についてレポートを提出してもらいます。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省「中学校学習指導要領解説　保健体育編」　東山書房　2008
文部科学省「高等学校学習指導要領解説　保健体育編」　東山書房　2009

履修上の注意・備考・メッセージ

所定の出席を満たさなかった場合には成績の評価の対象とはならないことに注意。
授業中のディスカッションには積極的に発言すること
授業中に実施する小レポートも評価の対象としていることからしっかりと自分の意見を述べること

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　4時限目（火曜日）
場所：　中央館5階（共同研究室）

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の進め方と評価についてのオリエンテーション** 公衆衛生学についての体系的説明。特に社会医学的な健康づくりについての理解を深めるための学問体系であること を学ぶ。我が国が直面している少子高齢化と健康問題について理解を深めるとともにその対応策について学ぶ。	授業において、公衆衛生学がどのような学問であるのかを概説する。私たち を取り巻く環境の変化によってどのような健康問題が発生するのか、について理解を深めること。マスコミ等で我が国における高齢化問題や生活習慣病などについての報道があれば、関心をもって読み、理解すること。社会生活を送る上で必要な知識でもあり、また知っておくべき制度もあるので、はじめて知ったものについては、一度調べておくこと。	4時間
第2回	**統計から分析する国民の健康**	新聞紙上などで、我が国の平均寿命や健康寿命についての毎年報道されているが、これらがどのような意味を持っているのかを、一度考えてみることが必要である。なぜ、我が国は、世界でも有数の長寿国になっているのかについてその根拠となるべきことを配布資料などから理解すること。	4時間

	我が国においては、種々の統計が政府によって取りまとめられ発表されている。例えば、平均寿命、健康寿命は、現在男女とも乖離があり、高齢者の健康問題、特に支援や介護の問題が垣間見られる。また、国民栄養調査からは、私たちの日々の食や栄養がどのように変化し、その結果どのような健康問題に波及しているのかを推論することが可能である。さらに、死亡統計から、その原因が特定され、我が国として取り組むべき課題が明らかになっている。健康にかかわる種々の統計結果から我が国の国民の健康状況を理解することを目的とする。		
第3回	**疫学と公衆衛生** 一人ひとりの生活習慣が私たちの将来の健康にどのような影響を及ぼすのかを知ることによって、自分自身の健康づくり対策を理解することができる。統計は、大規模集団を研究対象として、健康を阻害すると考えられる要因を予測して、その要因を有する人たちの集団がどのような疾病を発症する危険性があるのかを明らかにして、私たちの生活を見直すことが可能となる。すべての人に該当するものではないが、多くに人についてリスク要因が確定されることになり、その結果から私たちは健康づくりの方法を学ぶことになる。	どのよう生活習慣がどのような疾病を発生させるのか。この問題については、疫学という研究方法によって大きく進歩した。たとえば、加齢とともに体重が増え続けると、果たして健康はどのように変化するのか、等が一例である。あるものを好んで食べ続けることによる健康への影響なども現在では多くの研究報告がある。健康を維持するための生活について多くの知識を習得することが必要。	4時間
第4回	**国民栄養と健康** 生命の糧である食物は、時としてその食べ方等によっては生命を維持することに反した結果をもたらすことになる。どのような食生活が疾病を予防しうるのか、については、高齢化が進む我が国においては、きわめて重要な課題である。日々の食生活を生活習慣病の関係については、すでに多くの報告があり、その研究成果から、私たちは多くを学び、結果として健康長寿社会の基盤となっている。栄養が健康に及ぼす影響について知り、実践する能力を身に着けることが必要である。	どのようなものを食べ、どの程度の運動をし、どのような睡眠をとれば疾病を予防できるのかは、高齢化が急速に進む我が国にとっては重大な課題である。特に食生活は、日々の生命の糧であり、その選択を間違った場合には、結果として食生活に由来する多くの疾病を発症することになる。すでにテレビ、新聞などでは栄養補助食品等が多くPRされているが、それらの情報も含めて正しい知識を持つことが重要である。自ら知識を求めて、生活習慣を確立することが必要である。	4時間
第5回	**母子保健の現状** 少子高齢化が急速に進展する我が国において、子供が健やかに成長できるように支援する社会的責務がある。母性ならびに乳児、幼児の健康の保持および増進を図るために母子保健法が制定され、その詳細について規定されている。母性健康管理が十分でなければ妊娠から分娩までに至る経過でいろいろな問題が発生することが予測されうる。我が国では、母子手帳によって母体の健康管理が行われている。また、小児期からは学校安全健康法によって、就職以後は、労働安全衛生法によって規定された健康管理が実施されている。ここでは、母性管理について理解を深めることを目的とする。	少子化が進む我が国において、母子保健は従来にも増して重要度が増してきている。我が国の母子保健にかかわる法令や制度を理解することは、男女にかかわらず必須の知識となっている。また、乳幼児から小児における健康問題については、社会的に支援することが必要であることから母子保健についての理解を配布資料から学び、自分自身で深めることが必要である。	4時間
第6回	**学校保健の現状** 学校における児童生徒及び教職員の健康保持増進を図るために規定された法律が学校保健安全法である。この法律においては、学校における保健管理管理に必要な事項を定め、学校における教育活動が安全な環境において実施され、児童生徒等の安全の確保を目的としている。 　学校保健においては、学校保健計画の策定、保健室、健康相談、保健指導、健康診断とともに学校安全についての計画の策定、地域との連携等が規定されている。ここでは、、学校保健安全法に基づき、学校保健についてその概要を解説し、理解を深めることを目的とする。	学校において児童生徒学生の健康をいかに確保するかは、感染症などが中心であったが、その後肥満の問題、さらに近年はメンタルヘルスにかかわる問題が社会的にも取り上げられている。子供の自殺（自死）は社会的には極めて重大な課題である。その解決方法については、一人ひとりが、自分自身が直面して時の対処方法等について理解を深めることが重要。	4時間
第7回	**社会保障制度** 社会保障は、疾病に対する保険、一定の生活水準を保障する公的扶助、高齢者や障碍者に対する社会福祉、感染症対策等の公衆衛生を含んでいる。医療保険は、病気になったときの医療費を給付するものであり、高齢期には年金保障によって生活を支援するものである。これらの制度は、病気になったときでも安心して受療できる制度であり、疾病の重症化に対する効果が期待される。労働者については雇用保険、労働災害補償保険などがあり、高齢者については、介護保険がある。公的扶助は、生活、教育などに対して生活保護費を支給するものである。公衆衛生は、予防接種などの感染症対策（乳幼児期の予防接種）がある。これらの仕組みを理解することを目的とする。	疾病になったときに医療機関を訪れることになるが、その際健康保険証を提示して保険診療を受けることになる。果たして、その仕組みはどのようになっているのか。また労働者が失業して場合、給与が支払われなくなるが、生活はできるのか、などについて正しい知識をもつことが必要。配布資料から我が国の社会保障制度を学ぶこと。	4時間
第8回	**老人保健制度** 我が国では、75歳以上（または65歳異常で市区町村で認定を受けた人）は、健保組合の被保険者・被扶養者であっても、医療の給付については、健康保険から切り離され「老人保健制度」が適用される。老人保健は、市区町村が運営し、、75歳以上の人の医療給付、40歳以上の人の保健事業、老人保健施設の整備などがおこなわれている。老人保健は市区町村で運営され、その費用は、健康保険組合、共済組合、国民健康保険から拠出されている。我が国の老人保健制度について、理解を深めることを目的とする。	高齢化が進展する我が国において、老人保健制度について理解を深めることが必要である。高齢者とそうでない人の健康保険制度の違い、介護保険とは、等の知識を持ち、社会の仕組みを理解すること。	4時間
第9回	**産業保健制度**	労働者が病気になったとき、仕事で重大な健康被害にあったときは、いったいどのような対応がなされるのかを知ること。配布資料から労働災害についての理解を深めること。	4時間

	我が国の労働生産人口の減少は、労働者の減少を意味しているものである。その結果、労働者の高齢化が進み、健康診断有所意見率や労働災害の増加をもたらしている。労働者の健康については、労働安全衛生法によって規定されており、健康診断並びに事後措置、健康の保持増進対策などが明文化されている。ここでは、職場が抱える課題について理解を深め、さらに高齢者の労働災害、中高年齢者のメンタルヘルス不調問題について概説し、その課題解決に向けた取り組みの必要性について概説する。		
第10回	**環境と健康** 我が国においては、過去に熊本県の水俣病（有機水銀）、新潟県の第2水俣病、四日市ぜんそく（亜硫酸ガス）、富山県のイタイイタイ病（カドミウム）が4大公害病として過去に社会問題となった。そのほかに、光化学スモッグ（オキシダント）、自動車の排ガスによる大気汚染（川崎、西淀川市）がある。さらに、地球温暖化、酸性雨、砂漠化、等新たな問題が次々に発生し、課題が山積されている。ここでは、過去の公害問題について学び、現代社会の問題も含めて社会が抱える問題とその解決法について学ぶ。	環境から私たちは、健康にもなるが、一方では疾病にも陥ることになる。日ごろから社会環境や自然環境が私たちの健康に及ぼす影響を知り、また、健康を保持するための方策について知ることが重要である。過去の環境問題を知り、未来の環境問題解決につなげるための知識を配布資料等から習得する。	4時間
第11回	**食の安全** 我々が日々口にする食物は、私たちの生命の糧であり、健康を保持増進するために必要不可欠なものである。しかし、現実には、食の安全が脅かされたことが過去に多く発生しており、その結果、多くに健康問題が発しした事実がある。食品公害は、私たちの生命と健康を脅かす重大な問題であり、その解決に向けては個人では限界があり、行政の対応に委ねることになる。 　食品に含まれる有害物質による事故、食品メーカーによる毒物混入事件、0157を例とする細菌性食中毒、犯罪としての食中毒事件、フグなどの毒物を有する調理の問題などが挙げられるが、これらの過去の問題を振り返りながら、現代生活における食の問題について触れていみる。	食は、日々の生命の糧であり、そのために我が国は種々の対策を法律などによって規制している。その社会的枠組みを理解すること。配布資料によって理解を深め、疑問点については参考図書を調べること。	4時間
第12回	**心の健康** 我が国においては、平成10年から14年間自殺者数が3万人を超えるような状況であった。まさしく、精神的な問題が、このような状況を招いたことになるが、その原因は、社会的、経済的な問題が考えられる。心の健康問題は、精神医学上の問題だけではなく、社会の仕組みや経済状況の変化によって大きく影響を受けることになる。ここでは、我が国の自殺の問題やその原因、さらには、現代人のストレスの原因等について概説し、その対処方法について概説する。	ストレスの解消方法とは、それぞれによって大きくことなるが、自分自身のストレスの解消法はいったいなんであるのか。人間関係、趣味、などいろいろな社会的関係が私たちの心の健康の保持に有効であることを学び、自分自身の健康保持対策を考えてみること。	4時間
第13回	**一次予防** 一次予防とは、健康な状態を維持するためのいわゆる健康づくりである。二次予防は疾病の早期発見と早期治療であり、三次予防は、疾病に陥った場合の早期社会復帰である。私たちの健康を高い状態で維持するためには、日頃から健康づくりに留意することが重要であり、そのためには、自分自身の健康に関する情報について関心を持ち、その変化に対応することで疾病の発症を予防することが可能である。その項目は、すでに周知されているが、食生活、身体活動、睡眠、適正飲酒などである。また、生きがい、働き甲斐も重要な因子である。	自分自身の生活を振りかえってみて、配布資料に記載されている健康的な習慣を維持すること。	4時間
第14回	**衛生管理者** 衛生管理者とは、職場において、労働者の健康障害を防止するために健康全般について管理するものを言います。労働安全衛生法において一定の従業員数を満たした場合には、選任しなければなりません。都道府県別に行われる衛生管理者試験に合格して、労働基準局長から免許を受けたものに限られます。健康診断による健康管理、救急処置、職場環境の改善などに携わり、労働者の健康の保持増進にかかわる職務を遂行することになります。ここでは、衛生管理者の職務について概説します。	衛生管理者については、あまり聞きなれないと思いますが、職場では労働者の健康保持増進等について重要な役割を担っています。試験問題集も出ていますので、一度どのような問題が出ているのか関心を持ち、卒業後に受験することで労働衛生についての理解が深まります。	4時間
第15回	**公衆衛生のこれから** 　IT化やロボット化が等の技術革新がますます進展する現代社会では、働く人の健康問題が広い視点での対応が求められることになります。時代の流れは、私たちの生活や疾病構造の変化をもたらしました。したがって、その対応についても時代の流れや、社会環境の変化に対応しなければなりません。近未来社会の人の健康については、社会環境との関わりを考慮した公衆衛生の在り方について議論したいと思います。	これからの社会を考えた場合、どのような仕事がなくなり、またどのような新しい仕事が生み出されるのでしょうか。その仕事への適応が否が応でも私たちに課せられる時代が到来しつつあります。人と技術の関係について新聞等の報道（新しい技術開発）を見据えて考えてみてください。	4時間

授業科目名	**学校保健**				
担当教員名	**岡田邦夫**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大学教員歴において、すでに学校保健に対する助言、ならびに種々の疾病を有する学生に対する相談、指導をおこなってきた。また、教職員の健康診断結果の説明や保健指導、受診勧奨などを行ってきた。現場での救急対応についても適宜実践経験がある。（全15回）				

授業概要

本講義は、学校保健に関する法的根拠や構造を学び、学校教育機関における健康指導のあり方について理解することを目的とする。具体的には、①「学校保健安全法」を基に、生徒の健康問題について理解を深める。②学校保健の教育現場における領域、構造や内容を学習する。③疾病とその予防および感染症の対応について理解する。④救急処置の理論と実際を学習する。⑤学校保健の実践活動を概説し、保健室の役割を理解する。⑥現代的な諸所の健康課題について現状把握と課題検討を行う。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	生徒の健康管理について法的根拠	学校保健安全法についての理解
2 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	健康管理についての専門的知識	健康管理の具体的な方法についての理解
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		学校における健康問題の把握
2 ．DP5.計画・立案力		疾病（感染症を含む）の対応とその予防
3 ．DP6.行動・実践		健康管理並びに健康づくりの対処行動

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

学校保健安全法、ならびに健康管理についての対処方法等は専門用語が多く、その理解については当初当惑することがあるが、授業において逐次説明するので、知識を深める。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業中に実施するレポート、ならびにディスカッション（授業中にコメントや意見を求めるので自分の考えをしっかりと述べること）、専門的な分野でもあるので、出席することで理解が深まるので、出席を重視する。
成績の評価は、与えられた課題に対するレポートによって行う

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業中のディスカッション	20%	： 適宜、授業中に質問または意見を求めるので真摯に回答すること
授業中のレポート	30%	： 授業中に重要な課題については、理解を深めるために小レポートの提出を求める
課題に対するレポート提出	50%	： 授業全体の評価としてレポートの提出を求める

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省「中学校学習指導要領解説　保健体育編」　東山書房　2008
文部科学省「高等学校学習指導要領解説　保健体育編」　東山書房　2009

履修上の注意・備考・メッセージ

学校保健に対する理解は、授業を通してその全体像を把握することが重要である。多岐にわたる領域であるので、授業中に理解を深めるようにすることが望ましい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　4時限目

場所：　共同研究室

備考・注意事項：　中央館5階共同研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の進め方と評価についてのオリエンテーション** 学校保健とは、学校保健活動を推進するにあたっての児童・生徒の健康問題について 　現代社会における児童・生徒等が抱える健康問題とは 　学校における児童生徒の健康管理の法的根拠について	小学校、中学校、等の学校生活において、健康診断を受けましたか、その項目はどのようなものでしたか。思い出してみましょう。また、その項目は何を目的に選ばれているのでしょうか。考えてみましょう。	4時間
第2回	**健康診断、健康相談** 学校保健安全法に定める健康診断の目的とその実際について概説する。なぜ、健康診断が必要であるのか。健康診断結果に基づいてどのような対処が求められるのか。我が国の独自の健康診断制度を理解するとともに、健康の保持増進、疾病の早期発見、疾病の予防などについて理解を深め、また事後措置（健康診断結果にもとづく事後の対応）についてその重要性を学ぶ。	健康診断の目的は何でしょうか。もし健康診断で異常が見つかった場合はどうすればよいのか。	4時間
第3回	**疾病と予防**	疾病になってからの対応ではなく、疾病にならないようにすることが重要である。そのためには何をすればよいのか。	4時間

	成人病、小児成人病等の疾病概念が、今日生活習慣病という疾病概念にまとめられ、WHOは、NCD(Non Communicable Disease)として定義するようになった。今日感染症についても新たな対応が必要となっているが、生活習慣に基づく諸疾病の増加は、その重症化も含めて極めて重要な課題であり、小児・児童期における健康教育がその後の健康的な生活習慣の定着に重要な要因となる。ここでは、特に生活習慣病の予防、小児メタボリックシンドロームなど今日的な疾病についての理解を深める。		
第4回	**感染症とその対応** 学校生活においては、ウイルス・細菌等の感染症は、学級、さらには学校内に伝播する危険性が極めて高い。その蔓延を予防するために種々の対応策が講じられている。児童・生徒に見られる感染症について概説し、その対応について理解を深める。	インフルエンザが流行しているときの予防対策は。また咳エチケットとは何か。	4時間
第5回	**ストレスへの対処と心の健康** 現代社会においては、種々のストレスがあり、環境面、人間関係などによってストレス関連疾患が増加している。その結果は、心身症やメンタルヘルス不調になる可能性が高い。ストレス要因となるものを理解し、その対処法を理解するとともに、周囲のサポートがストレスによる心身の異常を緩和すること、ならびに環境面においてストレスを緩和する対応、さらにコミュニケーションを深めることなどがその対応として重要であることを理解し、ストレスに基づく重大な健康障害を未然に予防することを学ぶ。	現代社会において私たちがストレスに対処するためにはどのような方法があるのか。	4時間
第6回	**子供の発育・発達に関する諸問題** 幼児・小児期においては、そのライフステージに応じた対応が必要である。スキャモンの発育曲線を、小児期に発達する脳神経系を刺激することが重要であることを示している。その時期を逸することなく健やかに発育を促すために、発育・発達における理解を深める。	子供の発育発達に必要なものとは、また周囲の支援は、ついて考えをまとめておく。	4時間
第7回	**保健室の役割** 学校において保健室は、児童・生徒の健康診断ならびにその事後措置、健康相談などの対応を行っている。学校保健の積極的な推進には、保健室の存在が必要不可欠である、その運営については、学校全体で議論すべきものであり、またその活動については教職員が理解すべきものである。学校保健安全法に定められた保健室の経営について概説し、教職員としての活動の一環としての健康管理を支援する保健室の機能を理解する。	ほけんしつの役割は、と聞かれたときに答えれるように。	4時間
第8回	**学校安全の現状と課題** 学校安全については、過去に多くに学校ならびに児童・生徒が危険にさらされた事件が物語っている。学校のみで安全対策を万全にすることはむつかしく、地域などの支援が必要である。学校独自の取り組みとともに地域との連携を強化して、学校の安全を確保することを学ぶ。	学校の安全が脅かされるとは、どういうことが考えられ、その対処策は、一度考えてみて、その最善の対策を考えてください。	4時間
第9回	**救急処置の理論と実際** 学校においては、種々の救急事案が発生することは周知の事実であるが、現場での対応によっては、予後を大きく左右することから、救急処置の理論、救急処置の実際について学びかつ実践できるようにしておくことが重要である。心肺停止の最も重大な事案から、生命に別条がなくて後遺症が予測されるような重大な怪我などに対して現場で迅速に対応することで予後が大きく変わることから、救急処置の理論と実際を学ぶことを目的とする。	学校現場での救急処置とは、CPR,AED,RICE　説明できますか。	4時間
第10回	**現代な健康問題（喫煙・飲酒・薬物乱用）** 現代社会において、受動喫煙が重要な社会環境問題となっており、また、飲酒運転や飲酒に起因する多くの事件が発生し、刑事事件となっている。さらに、薬物乱用（覚せい剤、麻薬、大麻等）は社会悪（犯罪）として認知されている。喫煙や薬物問題は低年齢化し、将来の心身の健康問題が危惧されている。また、喫煙、飲酒、薬物には依存性があり、さらにそれらに基づく事故、事件、犯罪なども周知の事実となっていることから、これらの問題について自己の考えを述べてもらい、知識の不足、認識の問題があれば、議論を通して理解することを目的とする。	社会的悪とされる薬物問題、現代社会における薬物問題とは、なぜやめれれないのか。	4時間
第11回	**現代的な健康問題（性教育・生活習慣病）** 性犯罪についての議論とともに、性教育の意義について議論を深める。性の問題は、隠蔽するのではなく、正しい知識を持つことが重要である。また、性感染症についての理解を深めることも必要であることから、HIV感染症をはじめとする疾患についても解説する。また、生活習慣病は若年化しており、小児期からの生活習慣がその後の健康に大きな影響を及ぼすことから、学校での教育における健康教育についての意義について意見交換する。	小児期から蔓延する生活習慣病、また性感染症、対応としての基本的な考え方をまとめると。	4時間
第12回	**学校保健安全法について** 学校保健安全法は、第1条に「学校における児童生徒及び職員の健康の保持増進を図るため、学校における保健管理に関し必要な事項を定めるとともに、学校における教育活動が安全な環境において実施され、児童生徒等の安全の確保が図られるよう、学校における安全管理に関し必要な事項を定め、もって学校教育の円滑な実施とその成果を確保に資することを目的とする。」と定められている。健康と安全の両立を学校で確立するためにどのようなことが法律でさだめっられているのかを理解し、その考え方を理解することを目的とする。	児童生徒の健康と学校の安全がなぜ法律によって規制されているのでしょうか。	4時間
第13回	**食育と学校給食** 学校における休職は、学校給食法によって規定されており、その第1条は、「学校給食が、児童生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ、児童及び生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものであることにかんがみ、学校給食及び学校給食を活用した食に関する指導の実施に関し必要な事項を定め、もって学校給食の普及充実及び学校における食育の推進を図ることを目的とする。」と規定されている。教育における食育は、以後の健康の向上にも寄与することから、十分な知識を有することが必要であることを学ぶことを目的とする。	学校給食の役割は、また期待される食育とは。最近の地産地消とは。	4時間
第14回	**学校保健活動の課題** 学校における過去の話題からは、給食における中毒、体育活動中の心肺停止事例、熱中症、外部からの侵入者による障害致死事件など児童生徒にとっては、必ずしも安心、安全な環境ではなかった事例がマスコミに報道された。しかし、これらを教訓として、より安全で安心して学校生活が送れるように上記のような諸問題を解決し、さらに防止していくことが重要である。現代社会において学校が抱える健康、安全問題について議論に意見交換を行う。	学校における保健活動は、どのようなものでしょうか。一度まとめてみてください。	4時間
第15回	**健康教育（統括と質疑応答）**	学校生活を安心して安全に過ごすことができるためには、また、健康問題を事前に察知して、その対策は。マスコミに報道されている学校問題に接したときにその原因は、その対策は、今回な是このユア問題が発生したのか。	4時間

健康教育は、できるだけ早期に実施することが望ましく、特に集団生活が始まる学校において、正しい知識の啓発普及が重要である。また、その知識の普及には、わかりやすい説明が必要であり、その実践には無理のない具体的な方法の提示が必要である。多種多様な考え方や生まれ育ってきた環境に相違があったとしても、健康教育は一貫して方、それぞれが有する考え方や価値観を配慮した個別健康教育が必要な時代となっている。これらの健康教育について、自分自身の健康行動を例にとって、健康教育むつかしさについて議論したい。		

授業科目名	**救急処置法**				
担当教員名	岡田邦夫／中村浩也				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	臨床経験の中で、救急事案に遭遇することが多々あり、また、麻酔科において実地訓練を受けた経験から、現在では、多くの陸上競技大会において救急処置を行っている。（第1回から第8回）				

授業概要

教育現場における緊急時の対応の基礎知知識と技術を習得することを目的とする。
教育現場においては予見できない事態、特に生命が危険にさらされる事故を想定した対処を学ぶことは必要不可欠である。本講義では、万が一の不測の事態に備えて、CPRやAEDの実践方法について学ぶ。また、教育現場において発生が予測できる各種外傷に対する遊休処置の必要性を理解し、確実に実践できるように実技を含めて学習する。さらにスポーツ現場におけるRICE処置についても理解とともに実践できるようにすることを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	**目標**：
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	救急処置についての正しい知識とスキルの習得	CPRについての正しい知識とスキルの習得
2 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	AEDなどを実践で使用できるスキルの確実な習得	AEDを正しく使用することができる

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	救急処置が必要な場合の迅速な判断
2 ．DP6.行動・実践	AEDを的確に使用することができるスキル

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める

授業における質問に対する応答
授業時の小レポートの提出

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

オムニバス形式　本講義は、理論編であり、救急処置の意義や具体的方法についての講義が中心となる。
理論的または法的問題について理解をすることであることから、授業中の質疑応答においてしっかりと正しい知識の習得が求められる。まあ、小レポートについてもわかりやすい、生命にかかわる問題であるので的確なレポートの記載を求める。授業については一定の出席が認められない場合には、成績評価の対象とならないことに注意すること。

成績評価の方法・評価の割合		**評価の基準**
授業中の応答	20%	： 授業中の質問に対する対応
授業中の小レポート	30%	： 小レポートの正確性
レポート	50%	： レポートのな内容の的確性を評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省　「中学校学習指導要領　保健体育編」　東山書房　2008
文部科学省　「高等学校学習指導要領　保健体育編」東山書房　2009
「赤十字救急法講習読本」　日本赤十字社

履修上の注意・備考・メッセージ

専門分野であるので、授業に出席することが重要である。したがって、所定の出席が認められない場合には、成績の評価対象にはならないことに注意すること。授業中の質問に対しては、自分の知っている範囲でいいので、しっかりと回答すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　4時限目（火曜日）
場所：　中央館5階共同研究室
備考・注意事項：専門用語、法律用語が多いので、わからない言葉があればご質問ください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**授業の進め方と評価についてのオリエンテーション** 救急とはどういうことなのか、についての理解を深める。また、救命の連鎖とBLS(basic Life Support)について学ぶ。 救急車を要請する場合（例えば、熱中症の場合には）	救急処置の全般について学び、具体的に救急事案に遭遇した場合にどのような処置ができるのかについてまずは学ぶこと。	4時間
第2回	**救急処置の基本知識** 救急（応急）処置とは、どのようなことなのか。我が国の救急医療の現状と問題点。 AEDの普及で、どのように意識は変化したのか。 救急のシステムがどのようになっているのか。 救急に関する法律があるのだろうか	救急処置の現状と問題点について、例えば、大規模マラソンなどでは心肺停止事例が報道されているが、もしその場に居合わせて場合にどのような対応をすればよいのだろうか。法的問題について日頃から関心を持つ	4時間

第3回	**緊急時の対応計画** エマージェンシーアクションプラン（EAP)の作成について スポーツイベントを開催する場合には、緊急事態が発生した場合、どの容易に対応するのか、また、事前に近隣の病院に依頼しているのかどう、そして、AEDの設置場所は確認されているのか、当日、どのような緊急事案が発生する可能性があるのか（熱中症、コンタクトスポーツの場合の骨折等）などを事前に検討して、対応することがが必要である。どのような条件であれば、どのような緊急事案が発生するのか、は十分学ばなければならない。	スポーツ大会、大規模マラソン大会ではどのような救護体制によって救急処置がなされているのか。その実態について知る（スポーツ番組などを見るとこは関心をもつこと）	4時間
第4回	**緊急時の救命処置（1）内科的疾患に対する救急処置の基礎知識** 現場での救急事案としては、意識障害をはじめとして重度の問題から、怪我に至るまでいろいろな問題が考えらえる。ここでは、内科的疾患に限定して意識障害、脳心臓疾患、けいれん、熱中症などについての病態について学ぶことを目的とする。	救急処置の基本的知識とは、もし、自分が意識のない人に遭遇した場合、どのように対応しますか。そのことがこたえられるようにすること。	4時間
第5回	**緊急時の救命処置（2）内科的疾患に対する救急処置の実践** 心肺蘇生法、AEDの使い方などについて学び、現場で活用できるよう基本的知識について概説する。また、熱中症の初期対応についても触れ、救急搬送する場合の注意点なども触れることとする。救急処置に対するABCDを学ぶ。	AEDの使い方は知っていますが、また、AEDはどのような場合に使用するのでしょうか。正しい知識が必要です。	4時間
第6回	**緊急時の救命処置（3）外科的疾患に対する救急処置の理論と実際** 外科的疾患とは、外傷、出血、骨折、捻挫、打撲、筋肉断裂、腱断裂などがある。これらに対する基本的な対処は、RICEであり、この基本をまず理解し、外科的疾患の種類や重症度に応じて個別に対応することになる。具体的な事例において、その対応を学ぶことを目的とする。	スポーツ外傷に対する救急処置についての実際について学ぶことが必要。救急処置についての実践能力を高めることが必要。そのためには、授業、研修を受けること。	4時間
第7回	**緊急時の救命処置の実際（1）突然の心停止を予防するために** 突然死をすべて予知し、予防することは不可能であるが、事前のメディカルチェックにおいて、リスク評価を行い、スポーツ活動を制限又は禁止することによって予防することが可能となる場合がある。特に、家族性の突然死があった場合には、十分な検査を行い、リスク評価をすべきである。	心肺停止が目の前で発生した場合、よりは、心肺停止が発生しないようにするためには、どのような対応が必要であるのか、を知ること。	4時間
第８回	**緊急時の救命措置の実際（2）心停止の評価及びCPRの実践** 心肺停止の事例について、心停止をどのように判断し、次にどのようなアクションを起こすのか、CPRは一人でできるものではないので周囲の人を一人でも多く巻き込んで対応することが必要であることを学ぶ。	心肺停止事例の対応に際してのチームワークとの必要性について学び、現場で生かすための力を養成する。	4時間
第９回	**緊急時の救命の実際（３）CPRおよびAEDの実践** CPR(心肺蘇生）に際して、現在では、心臓マッサージとAEDによる除細動が基本手技となっている。ここでは、CPRからAEDを使用することを想定した救命処置の実際について学ぶ。現場では、早急な対応が求められるので、正しい知識、手技を習得することが必要である。	CPRについては、具体的な順序、手技について理解を深め、またAEDの使用方法についても現場で迷ううことなく、すぐに対応できるようにする。	4時間
第10回	**RICE処置　体育・スポーツ活動時の外傷の特徴と救急処置について** RICEの基本的な処置について学び、現場でのファーストエイドをマスターすることを目的とする。外傷を負った場合の対応は、打撲、捻挫、骨折、出血、腱断裂等種々多様であるが、迅速にその判断をなし、最も適切な救急処置を施すことで、その後の治癒過程に好ましい影響を及ぼすことになる。	実技が中心であるので、目で見て、実際に自分自身で試行することが重要である。日ごろは、テキストなどを見て、迅速に対応できるようにしておくことが必要である	4時間
第11回	**外傷時の対応（1）上肢・頭頚部の外傷に対する対応** 上肢ならびに頭頚部の外傷については手指の腱断裂から肩関節の脱臼まで多種多様な外傷がある。また、生命や予後に大きな影響を与える頭頚部の外傷については、一刻を争う救急処置がもとめられることになる。特に頸部損傷については、搬送法についても十分な知識と対応能力が求めらえることになる。代表的な上肢・頭頚部の外傷を知ることが、、今迄に遭遇していない事例に対しても救急対応ができるの力を習得する。	三角巾、テーピング、包帯法、搬送法などについて正しい知識の習得をすること。救急処置のテキストを必ず一度はすべて熟読すること。	4時間
第12回	**外傷時の対応（２）下肢・体幹部の外傷に対する対応** 下肢については、特に関節（足関節、膝関節、股関節）が重要であり、アキレス腱や膝を取り巻く靭帯損傷については十分な知識が求められる。軟部組織についても、大腿部には大きな筋肉があり、いわゆる肉離れとされる筋繊維の断裂によるスポーツ外傷はその治癒に長期間必要となる。また、体幹部については、腰痛などが重要であり、いずれにしても、その処置とともに予防法についての理解も習得しておく必要がある。	代表的は、アキレス腱の断裂、大腿部の肉離れ、急性の腰痛などに対する処置法について、学ぶ。	4時間
第13回	**運搬法（1）一人での運搬方法** 救急事案が発生した場合、受傷者を救急車や救護所に搬送することが必要となる。その蔡、受傷による生命に対する危険度、重症度、受傷場所などによって搬送の可否、搬送する場合の方法、などについて理解を深めて置き、正しい搬送方法を習得することが必要である。ここでは、一人で搬送する場合についての手法を学ぶ。	一人で搬送する場合には、いろいろな問題点があるが、その問題点を理解し、その解決法についても理解するため授業以外にテキスト、資料などを参考にして知識を深める	4時間
第14回	**運搬法（2）複数名での運搬方法** 受傷し対象者に対して、周囲に複数の人がいた場合には、より安全に搬送することができるが、しかし、その方法については、全員が周知しておく必要がある。特に、頭頚部に受傷した場合には、搬送の方法によっては、予後を大きく左右するために、一人一人がしっかりとその役割を果たすことが求められる。ここでは、複数名による搬送についての方法を学ぶ。	受傷者を搬送する場合のチームワークとは。	4時間
第15回	**総合演習** 実技についての総合演習を行う。すでに今までの授業で習得して救急処置について再度確認をして、現場での活動が迅速に、かつ正確に行われ、安全に遂行できるように何度も学び返すことが重要であること。また、現場での救急処置は、チームワークが大きな力になることを学び、実践で生かせるようにすることが大切である。	今までに習得した救急処置の理論と実際を再学習し、現場で実践できること。	4時間

授業科目名	**英語学概論**				
担当教員名	**長瀬慶來**				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、英語の言語構造について、英語の音声を吟味する音声学、個別言語の音声のつながり方を扱う音韻論や、単語の構造と構成を吟味する形態論、文中の単語の連結の仕方やルールを研究する統語論、そのような連結が生み出す意味の形成を研究する意味論、古英語や中英語などの英語の歴史など、英語学の基本的知識を概説する。そのなかで様々な世界の英語に触れることで英語のヴァリエーションや背景となる文化について理解することをめざす。さらに、そうした基礎的な知識を踏まえて英語学習の効果的なあり方を吟味する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	英語学の各分野：音声学音韻論、形態論、統語論、意味論・語用論、英語史、等についての専門的知識を学ぶ。	英語の言語構造、語彙・意味論、英語の歴史など、英語学の基礎的な知識を修得する
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	英語学・言語学の知識を活用して第二言語習得・外国語教育について学ぶ。	英語学の基礎的知識に基づいた効果的な英語学習のあり方を探究することができる。
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		英語学の各分野の学びの中で、英語の未来、世界言語としての英語、これからの外国語学習の課題を見つける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内での発表・プレゼンテーション 30%	：	発表内容が適切であり、授業での学びをきちんと消化したうえで自らのプレゼンテーションができていたかどうか。
小レポート課題 30%	：	課題の理解が適切であり、各小レポートの設問に対する答えとして妥当であったか。
最終課題 40%	：	講義内容の理論的理解と実践的理解の双方ができているかどうか、英語学の専門的知識の学びにより、より高度な英語のCommunicative Competenceが達成できているかどうかを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
長谷川瑞穂 他	『はじめての英語学〈改訂版〉』	研究社	2014年

参考文献等

安井稔 『英語学概論』開拓社 1987
安藤 貞雄・澤田 治美（編） 『英語学入門』開拓社 2001

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 教室もしくは研究室
備考・注意事項： 授業の前後あるいはメール等により、あらかじめアポイントメントを取ることが望ましい。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 英語学の範囲、本授業の目標・内容および評価方法の確認	課題EXERCISE	4時間
第2回	**英語の歴史（1） 古英語** Beowulf を題材として、古英語時代の英語を概観する。	課題EXERCISE	4時間
第3回	**英語の歴史（2） 中英語** Chaucerのカンタベリー物語を題材として、中英語を概説する。	課題EXERCISE	4時間
第4回	**英語の歴史（3） 初期近代英語** ShakespearのRomeoとJulietteを題材として、初期近代英語を概説する。	課題EXERCISE	4時間

第5回	**英語の音声（1）　分節音** 英語の分節音について、母音と子音を中心に概説する。	課題EXERCISE	4時間
第6回	**英語の音声（2）　プロソディー** 英語のプロソディー（ストレスとイントネーション）について概説する。	課題EXERCISE	4時間
第7回	**英語の音声　（3）　音変化** 英語の様々な音変化（通時的および共時的）について、概説する。	課題EXERCISE	4時間
第8回	**英語の文法（1）統語論1** 英語の統語論について、生成文法を中心に概説する。	課題EXERCISE	4時間
第9回	**英語の文法（2）統語論2** 英語の統語論について、認知文法を中心に概説する。	課題EXERCISE	4時間
第10回	**英語の文法（3）　意味論と語用論** 英語の意味論と語用論について概説する。	課題EXERCISE	4時間
第11回	**言語と社会** 英語の社会言語学について概説する。	課題EXERCISE	4時間
第12回	**言語とコミュニケーション** コミュニケーション能力について概説する。	課題EXERCISE	4時間
第13回	**言語と文化** 言葉と文化について概説する。	課題EXERCISE	4時間
第14回	**世界の英語　英語とそのヴァリエーション** 世界の英語とそのヴァリエーションについて概説する。 最終レポート課題	課題EXERCISE	4時間
第15回	**言語教育と言語学** 英語学・言語学の知識が、外国語学習の学びにいかに寄与するか、概説する。 まとめと最終レポート課題の提出	最終レポート提出	4時間

授業科目名	**英語音声学・音韻論**				
担当教員名	**長瀬慶來**				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

英語音声学について、特に分節音(母音および子音）、超分節音（リズム、アクセント、イントネーション）および、音変化（弱化、脱落、同化、連結、その他の音変化について、理論と実技をバランスよく学んでいきます。英語音声運用能力の基礎となる英語音声学の基礎を身につけ、スピーキングおよびリスニングにおける音声コミュニケーション能力の向上を図るとともに、併せて口語英語のダイナミックな音変化の練習を行います。受講生が英語教師にふさわしい英語音声運用能力を身につけるようになること。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	英語音声学についての基礎知識を身に着け、併せて実技においても高度な英語音声運用能力を習得すること。	１． 英語の分節音（母音および子音）および口語英語の様々な音変化が正しく発音できるようになること。 ２． 英語の超分節音（リズムとイントネーション）が正しく運用できるようになること。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	英語音声学の講義は、理論的側面だけではなく、実践的運用能力の養成が大切となる。	英語教師にふさわしい英語音声運用能力を身につけるようになること。
汎用的な力		
1 ．DP6.行動・実践		自らの発音を矯正し，スピーキングにおけるコミュニケーション能力を向上させると共に、 聞き取り（リスニング）に於いても、音声コミュニケーション能力を向上させること。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内での発表・プレゼンテーション 30%	：	発表内容が適切であり、授業の学びをきちんと消化した上で自らのプレゼンテーションができていたかどうか
小レポート課題 30%	：	課題の理解が適切であり、各小レポートの設問に対する答えとして妥当であったか
最終課題 40%	：	講義内容の理論的理解と実践絵ｔきりかの双方ができているかどうか、英語音声学・音韻論の専門的知識の学びにより、より高度な英語のcommunicative competence が達成できているかどうかを評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
片山嘉雄 他	・ 『英語音声学の基礎―音変化とプロソディーを中心に』	・ 研究社	・ 1995年

参考文献等

Peter Ladefoged, A Course in Phonetics. Cengage Learning 2014
文部科学省 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 開隆堂出版 2016
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 外国語・英語編』 開隆堂出版 2015

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回２時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 教室もしくは研究室
備考・注意事項： 授業の前後あるいはメール等であらかじめアポイントメントを取ってください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 音声学・音韻論の概要、本授業の目標と評価の確認	EXERCISE課題	4時間
第2回	**音声の産出 (The production of speech sounds)**	EXERCISE課題	4時間

	発声と発音器官等の概説に始まり、音声の算出メカニズムを講義し、様々な発声法、発音法等の実技も多岐還視、習得する。		
第3回	**母音（1）Vowels 1　Simple Vowels** Daniel Jonesの開発した、基本母音(Cardinal Vowels)に基づき、日本語の5母音から英語の24母音への展開を図る。	EXERCISE課題	4時間
第4回	**母音（2）Vowels 2　Long vowels, diphthongs and triphthongs** IPAのチャートに基づき、長短よりも音質にこだわる英語の長母音二重母音等の習得を目指す。	EXERCISE課題	4時間
第5回	**子音（1）Consonants 1　Stops and Fricatives** 日本語との対照分析とIPAのチャートに基づき、英語子音：閉鎖音と摩擦音の習得を目指す。	EXERCISE課題	4時間
第6回	**子音（2）Consonants 2　Affricates, Nasals, liquids, and semi-vowels** 日本語との対照分析とIPAのチャートに基づき、英語子音：破擦音、鼻音、流音、半母音の習得を目指す。	EXERCISE課題	4時間
第7回	**シラブル　Syllables：: Strong and weak syllables** 英語の音節構造と日本語の音節構造の対照分析に基づき、日本人学習者が困難な英語の音節構造を習得することを目指す。	EXERCISE課題	4時間
第8回	**強勢（1）Stress in simple words** 英語の語強勢	EXERCISE課題	4時間
第9回	**強勢（2）Complex word stress** 複合語と句の強勢	EXERCISE課題	4時間
第10回	**音声変化（リエゾン）　Aspects of connected speech** 語の結合による音変化	EXERCISE課題	4時間
第11回	**リズム　Rhythm** 英語の基本リズム	EXERCISE課題	4時間
第12回	**イントネーション　Intonation** 英語の音調構造	EXERCISE課題	4時間
第13回	**音韻論（1）Phonology 1　Phonological Theory** 音声学と音韻論	EXERCISE課題	4時間
第14回	**音韻論（2）Phonology 2　Laboratory Phonology　と音声実技テスト** 実験音韻論、実験音声学そしてコンピュータによる音声分析 最終レポート課題の設定	EXERCISE課題	4時間
第15回	**世界の英語のヴァリエーション　(World Englishes)と試験** 世界の英語のヴァリエーションに触れ、その音声特徴を学ぶ。 最終レポート課題の提出	最終レポート提出	4時間

授業科目名	**第二言語習得論**				
担当教員名	**長瀬慶來**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

人は、どのような過程を経て第二言語（多くの日本人の場合は、外国語としての英語）を獲得するのかを総合的に学ぶ。履修者が受験勉強時などに、英語習得を試みる際の体験談を思い出してもらうことも含め、第二言語習得の基本的な意味を考察していく。さらに、個人による差異（習得に要する時間、習得の開始年齢、社会・家庭環境、など）が習得に及ぼす影響についても学習する。その上で、効果的な第二言語習得のための諸条件について考察する。加えて、母語が、獲得しようとする言語に与える影響について、対象言語学の見地からも学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	第二言語習得の理論と実践	第二言語習得の理論と実践をまなび、外国語としての英語学習に資する

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見		第二言語習得理論の課題について学ぶ

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則３分の２以上出席した場合のみ成績評価の対象となる。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
最終課題 40%	：	講義内容の理論的理解と実践的理解の双方ができているかどうか。第二言語習得の専門的知識の学びにより、より高度な英語のcommunicative competence が達成できているかどうか。
授業への参加度 30%	：	授業内での発表プレゼンテーションが適切であり、授業での学びをきちんと消化したうえで、授業に積極的に参加していたかどうか
小レポート課題 30%	：	課題の理解が適切であり、各小レポートの設問に対する答えとして妥当であるかどうか。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
佐野ほか	・ 第二言語習得	・ 大修館書店	・ 2011年

参考文献等

廣森友人『英語学習のメカニズム---第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』大修館書店2015

文部科学省　『高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編』　開隆館出版販売　2015
文部科学省　『中学校学習指導要領解説　外国語編 4版』　開隆館出版販売　2016

履修上の注意・備考・メッセージ

原則３分の２以上出席した場合のみ成績評価の対象となる。①最終レポート課題（50%）。②授業中の課題提出（10%）。③授業への参加度（40%）。授業への参加度は、教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを評価する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日3時限
場所：　研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション　第二言語習得とは何か** 第二言語習得とは何かについて概観する	第二言語習得についての考察	4時間
第２回	**グローバル社会の英語教育（１）英語はどのような言語か** 英語の歴史を概観して、英語の現在過去未来を展望する	英語史についての考察	4時間
第３回	**グローバル社会の英語教育（２）仕事で使える英語力とはどのようなものか** 英語が使える日本人とは？	英語が使える日本人についての考察	4時間
第4回	**第二言語習得の過程（１）日本人は英語ができないのか** 母語とターゲット言語との関係、距離、そして学習の難易について考察する	母語L1と第二言語L2間の距離についての考察	4時間
第5回	**第二言語習得の過程（２）習得の過程とはどのようなものか** 第一言語（母語）と第二言語の習得の共通性と相違点について学ぶ	第一言語（母語）と第二言語の習得の共通性と相違点	4時間

第6回	**言語のインプット（１）第二言語習得のために必要なインプット量とは** 第一言語の母語話者が受け取るインプット量と第二言語習得の学習者が受け取るインプット量の圧倒的な相違に気づき、必要とされるインプット量について学ぶ	言語のインプットについての考察	4時間
第7回	**言語のインプット（２）インプットの効果を高めるための工夫とはなにか** 第二言語習得者にとって、いかにしてインプット量を高めるかを学ぶ	インプットの効果についての考察	4時間
第8回	**言語のアウトプット（１）アウトプットはなぜ必要なのか** インプット仮説からアウトプット仮説へ	インプットからアウトプットへの考察	4時間
第9回	**言語のアウトプット（２）アウトプットを高めるための工夫とはなにか** アウトプット・インプットインタラクション仮説へ	インプットとアウトプットのインタラクションについて	4時間
第10回	**第二言語習得の動機づけ（１）なにが「やる気」を起こさせるのか** 動機付けについて考察する	動機付けについての考察	4時間
第11回	**第二言語習得の動機づけ（２）動機づけの持続に必要なものはなにか** 学びを継続するための環境づくり	動機付けの持続についての考察	4時間
第12回	**学習の方略（１）学習とはなにか** 学習方略について学ぶ	学習方略についての考察	4時間
第13回	**学習の方略（２）メタ認知とはなにか** メタ認知について学ぶ	メタ認知についての考察	4時間
第14回	**言語習得装置の普遍性** 言語学習に必要な、遺伝的要素、正確等々　言語習得装置の普遍性について学ぶ レポート課題を設定する	言語習得装置と言語普遍性についての考察	4時間
第15回	**学びのまとめとふりかえり** これまでの学びをまとめ、振り返る 最終レポート課題の提出	最終レポート提出	4時間

授業科目名	**英語文法論**				
担当教員名	**寺田寛**				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

この集中講義では、英語の文法（統語）論について、主要な文法項目を取り上げ、文の構造と意味を解説します。英語の言語的特性を意識しながら基本的な文法論を統一的にとらえることを目的としています。さらに、そうした基礎的な知識の修得に加えて、日本人英語学習者にそれぞれの要点をどのように指導すれば効果的な学習が促進されるかという実践的指導方法をも考察します。受講者は、集中講義が始まるまでに、教科書をひととおり読んでおいて、本文の英文が何を意図しているのか発表できるようにしておきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：英文法を英語で教えることができるよう、基礎的な文法用語に親しみ、母語話者のもつ英文法の知識を知る必要があります。教科書に沿って、知識の積み上げと、授業への実用を練習します。

目標：英語で英文法の用語をいうことができ、簡単な英文法の説明を英語でで き、英文法の問題作成ができるようになることを目標とします。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見

英文法の知識を使って、英語の授業を効率よく進めるように工夫します。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

実習として、英文法の試験問題を作成してみたいと思います。問答法では、教科書の内容についてクイズを出します。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

作成してもらう試験問題についてコメントします。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席してください。3分の2以上の欠席で成績評価を「不可」とします。遅刻も欠席としてカウントします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加・取り組み状況	20%	：授業中に私語やメイルやラインなどをしている場合には20点を減点します。居眠りや忘れ物がある場合にも減点します。
授業内課題	20%	：授業中の課題を何度か提出あるいは発表してもらいますが、提出あるいは発表をしなかった場合には減点します。
試験（筆記）	60%	：15回の講義の後、16回目にペーパーテストを行います。素点が評価に反映されます。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
今井邦彦、中島平三、外池滋生、Christopher Tancredi	Essentials of Modern English Grammar （エッセンシャル現代英文法）	研究社	1995年

参考文献等

畠山雄二（編） 『徹底比較　日本語文法と英文法』開拓社　2016

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるが集中講義のため、集中講義が始まるまでに15回分の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その日の授業の内容を丁寧に復習し、翌日の授業に向けて予習をしておきます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：授業前後

場所：授業教室

備考・注意事項：初回授業にて指示します

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　授業の目標・内容・評価方法、課題について、文の類別について** 授業の目標と内容、履修するうえでの注意点、評価方法を述べた後に、英文法を指導するうえでの心がけを考えてみます。教科書のChapter 1をもとにして、文の類別について文法知識の確認を行います。	教科書のPrefaceとChapter 1を読んでおいてください。	4時間
第2回	**文の類別について** 教科書のChapter 1のつづきをもとにして、文の類別について文法知識の確認を行います。	教科書のChapter 1のつづきを読んでおいてください。	4時間
第3回	**否定に関する文法　および指導方法についての議論** 教科書のChapter 3をもとにして、否定と強調について文法知識の確認を行います。	教科書のChapter 3を読んでおいてください。	4時間
第4回	**強調に関する文法　および指導方法についての議論**	教科書のChapter 3を読んでおいてください。	4時間

	教科書のChapter 3をもとにして、強調について文法知識の確認を行います。		
第5回	**動詞に関する文法　および指導方法についての議論** 教科書のChapter 5にもとづいて、文型について考えるとともに、句にはその中心となる要素つまり主要部があり、それと結びつきの強い要素である補部があることを確認します。	教科書のChapter 5を読んでおいてください。	4時間
第6回	**動詞に関する文法　および指導方法についての議論** 教科書のChapter 6にもとづいて、動詞の構造と性質を学びます。	教科書のChapter 6を読んでおいてください。	4時間
第7回	**動詞に関する文法　および中間まとめ** 教科書のChapter 6にもとづいて、動詞の構造と性質のつづきを学びます。	教科書のChapter 6を読んでおいてください。	4時間
第8回	**名詞に関する文法　および指導方法についての議論** 教科書のChapter 7にもとづいて、名詞の性質を確認します。	Chapter 7を読んでおいてください。	4時間
第9回	**形容詞に関する文法　および指導方法についての議論** 教科書のChapter 8にもとづいて、形容詞の性質と意味を確認します。	Chapter 8を読んでおいてください。	4時間
第10回	**従属節に関する文法　および指導方法についての議論** 教科書のChapter 10にもとづいて従属節（名詞節・補部）の文法を確認します。	教科書のChapter 10を読んでおいてください。	4時間
第11回	**従属節に関する文法　および指導方法についての議論** 教科書のChapter 11にもとづいて従属節（副詞節・付加節）の文法を確認します。	教科書のChapter 11を読んでおいてください。	4時間
第12回	**テンス・アスペクト・ムードと助動詞に関する文法　および指導方法についての議論** 教科書のChapter 2にもとづいてテンス・アスペクト・ムードと助動詞の性質と意味を確認します。	Chapter 2を読んでおいてください。	4時間
第13回	**法助動詞に関する文法　および指導方法についての議論** 教科書のChapter15にもとづいて法助動詞の性質と意味を確認します。	Chapter 15を読んでおいてください。	4時間
第14回	**法助動詞に関する文法　および指導方法についての議論、日本人英語学習者の特性** 教科書のChapter15にもとづいて法助動詞の性質と意味を確認します。	Chapter 15のつづきを読んでおいてください	4時間
第15回	**全体の総括、質疑応答** これまでの内容を総復習し、質疑応答を行い、内容を把握できていることを点検します。	これまでの学習範囲をもう一度読んでおいてください。	4時間
第16回	**筆記試験** 15時間分の集中講義で学んだ内容をどれくらい理解しているかを試験で判定します。鉛筆またはシャープペン(Bまたは2B)と消しゴムを持参してください。		4時間

授業科目名	**英米文学史Ⅰ**				
担当教員名	**片山美穂**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、イギリス文学やアイルランド文学、およびアメリカ文学について学びながら、英米文学・文化の歴史や特性について基礎的な知識を身につける。それにより、英米文学・文化における文化的特性や時代思潮についても理解を深め、さらには現代において英米文学・文化を学ぶ意味についても考えていく。具体的には、各時代の著名な作家の作品（詩・演劇・小説）の一部を原文で読解する一方、翻訳や映像作品なども活用をし、できる限り多くの原作に触れ、英米文学における基礎的教養を養っていくことを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	イギリスやアメリカ等の文学における作家や作品について知識を養う	イギリスやアメリカ等の文学作品について、その時代思潮等に基づきながら、全体像を理解することができる

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	それぞれの文学作品について、その文学史における位置づけを考慮しつつ、作品のもつ意味を考察することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行いません。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
プレゼンテーション 20%	： 作品や作家についての知識の正確性、およびそれらについての論点の明確さについて評定します。
レポート 30%	： 作品や作家についての知識の正確性と、作品のもつ意味合いについての理解度について評定します。
定期試験 50%	： 時代思潮を含めた、通史的な作品や作家に関する理解度について評定します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『イギリス文学史入門』、川崎寿彦(著)、研究社出版、1986
『アメリカ文学史入門』、大橋吉之輔(著)、研究社出版、1987

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜4時限
場所： 研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、イギリス文学（１） 概観（中世～小説の勃興）** 中世から小説の勃興までのイギリス文学を概観する。	テキストを読み、全体のイギリス文学の流れを理解する	4時間
第２回	**イギリス文学（２） 中世** 中世に書かれた作品について学修する。	テキストを読み、中世の作品の特徴について理解する	4時間
第３回	**イギリス文学（３） ルネサンス① シェイクスピア（映像）** シェイクスピアの作品を中心に、映像としての観点から見た特質に焦点を当てながら学修する。	テキストを読み、シェイクスピア等の作品の特徴について理解する	4時間
第４回	**イギリス文学（４） ルネサンス② シェイクスピア（劇）** シェイクスピアの作品を中心に、テクストとしての特質に焦点を当てながら学修する。	テキストを読み、シェイクスピア等の作品の特徴について理解する	4時間
第５回	**イギリス文学（５） 王政復古期** 王政復古期の作品について学修する。	テキストを読み、王政復古期の作品の特徴について理解する	4時間
第６回	**イギリス文学（６） 新古典主義** 新古典主義の作品について学修する。	テキストを読み、新古典主義の作品の特徴について理解する	4時間

第７回	**イギリス文学（７）　小説の勃興** 小説の勃興期の作品について学修する。	テキストを読み、小説の勃興期の作品の特徴について理解する	4時間
第８回	**イギリス文学（８）　アイルランド文学** マライア・エッジワスの作品を中心に学修する。	テキストを読み、マライア・エッジワス等の作品の特徴について理解する	4時間
第９回	**アメリカ文学（１）　概観（植民地時代～ロスト・ジェネレーション）** 植民地時代からロスト・ジェネレーションまでのアメリカ文学を概観する。	テキストを読み、全体のアメリカ文学史の流れを理解する	4時間
第１０回	**アメリカ文学（２）　植民地時代** 植民地時代の作品について学修する。	テキストを読み、植民地時代の作品の特徴について理解する	4時間
第１１回	**アメリカ文学（３）　アメリカン・ルネッサンス①　ヘンリー・デイヴィッド・ソロー** ヘンリー・デイヴィッド・ソローの作品を中心に学修する。	テキストを読み、ヘンリー・デイヴィッド・ソロー等の作品の特徴について理解する	4時間
第１２回	**アメリカ文学（４）　アメリカン・ルネッサンス②　エドガー・アラン・ポー** エドガー・アラン・ポーの作品を中心に学修する。	テキストを読み、エドガー・アラン・ポー等の作品の特徴について理解する	4時間
第１３回	**アメリカ文学（５）　ロスト・ジェネレーション①　アーネスト・ヘミングウェイ** アーネスト・ヘミングウェイの作品を中心に学修する。	テキストを読み、アーネスト・ヘミングウェイ等の作品の特徴について理解する	4時間
第１４回	**レポートの構想、および作成** これまでの履修内容に基づき、作品を1つ選んでプレゼンテーションの準備を行う。	プレゼンテーションの準備	4時間
第１５回	**レポートの発表** 第14回で取り上げた作品の内容と考察について、プレゼンテーションを行う。	テキストでこれまでの文学史の流れを復習する	4時間

授業科目名	**英米文学史Ⅱ**				
担当教員名	**片山美穂**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、英米文学史Ⅰで学修した知識に基づき、より焦点を当ててイギリスやアメリカの文学史を形成する特徴的な作品について学びを深め、各作家や作品のその文化史上の位置づけおよび、文化的特性や思潮について理解を深めていく。さらには、20世紀以降の現代的な作品についても検討を行っていく。それにより、社会問題や時代背景に基づく諸課題を巡って、各作品が英米文学史上でどのように展開されてきているかについても考察し、より深い作品鑑賞に向けての土台を養っていくことをも目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	イギリスやアメリカ等の文学における作家や作品について知識を養う	イギリスやアメリカ等の文学作品について、その時代思潮等に基づきながら全体像を考察することができる

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見		それぞれの文学作品について、その文学史における位置づけを考慮しつつ、作品のもつ意味を考察することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行いません。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション 20%	：	作品や作家についての知識の正確性、およびそれらについての論点の明確さについて評定します。
レポート 30%	：	作品や作家についての知識の正確性と、作品のもつ意味合いについての理解度を評定します。
試験 50%	：	時代思潮を含めた、通史的な作品と作家に関する理解度について評定します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『イギリス文学史入門』、川崎寿彦(著)、研究社出版、1986
『アメリカ文学史入門』、大橋吉之輔(著)、研究社出版、1987

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜4時限
場所： 研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション、イギリス文学（１） 概観（ロマン主義～第二次世界大戦後）** ロマン主義から第二次世界大戦後までのイギリス文学について概観する。	テキストを読み、全体のイギリス文学史の流れを理解する	4時間
第２回	**イギリス文学（２） ロマン主義① ウィリアム・ワーズワース** ウィリアム・ワーズワースの作品を中心に学修する。	テキストを読み、ワーズワース等の作品の特徴について理解する	4時間
第３回	**イギリス文学（３） ロマン主義② メアリ・シェリー** メアリ・シェリーの作品を中心に学修する。	テキストを読み、シェリー等の作品の特徴について理解する	4時間
第４回	**イギリス文学（４） ロマン主義③ ジェイン・オースティン** ジェイン・オースティンの作品を中心に学修する。	テキストを読み、オースティン等の作品の特徴について理解する	4時間
第５回	**イギリス文学（５） ヴィクトリア朝① シャーロット・ブロンテ** シャーロット・ブロンテの作品を中心に学修する。	テキストを読み、ブロンテ等の作品の特徴について理解する	4時間
第６回	**イギリス文学（６） ヴィクトリア朝② ロバート・ルイス・スティーヴンソン** ロバート・ルイス・スティーヴンソンの作品を中心に学修する。	テキストを読み、スティーヴンソン等の作品の特徴について理解する	4時間
第７回	**イギリス文学（７） モダニズム** モダニズムの作品について学修する。	テキストを読み、モダニズムの作品の特徴について理解する	4時間

第８回	**イギリス文学（８）　第二次世界大戦後** 第二次世界大戦後の作品について学修する。	テキストを読み、第二次世界大戦後の作品の特徴について理解する	4時間
第９回	**アメリカ文学（１）　概観（ロスト・ジェネレーション～第二次世界大戦後）** ロスト・ジェネレーションから第二次世界大戦後までのアメリカ文学について概観する。	テキストを読み、全体のアメリカ文学史の流れを理解する	4時間
第１０回	**アメリカ文学（２）　ロスト・ジェネレーション②　ウィリアム・フォークナー** ウィリアム・フォークナーの作品を中心に学修する。	テキストを読み、フォークナー等の作品の特徴について理解する	4時間
第１１回	**アメリカ文学（３）　1930年代** 1930年代の作品について学修する。	テキストを読み、1930年代の作品の特徴について理解する	4時間
第１２回	**アメリカ文学（４）　第二次世界大戦後①　Ｊ・Ｄ・サリンジャー** Ｊ・Ｄ・サリンジャーの作品を中心に学修する。	テキストを読み、サリンジャー等の作品の特徴について理解する	4時間
第１３回	**アメリカ文学（５）　第二次世界大戦後②　トニ・モリスン** トニ・モリスンの作品を中心に学修する。	テキストを読み、モリスン等の作品の特徴について理解する	4時間
第１４回	**レポートの構想、および作成** これまでの履修内容に基づき、作品を1つ選んでプレゼンテーションの準備を行う。	プレゼンテーションの準備	4時間
第１５回	**レポートの発表** 第14回で取り上げた作品の内容と考察について、プレゼンテーションを行う。	テキストでこれまでの文学史の流れを復習する	4時間

授業科目名	リーディングスキルズⅠ				
担当教員名	盛岡貴昭				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、①速読、②精読、③多読の３つに焦点を当てて授業を進めていく。①速読では毎回の授業で200wordの英文を、タイムを計りながら速読しその内容に関する問題を解き、解説を行う。②精読では、パラグラフレベルで書かれた様々なテーマの英文を読むためのスキルを身につけながら理解することを目指す。さらに、英文で使用されている単語や文法を用いて、自分の意見を伝えることができるよう授業を進めていきます。③多読は、授業外で興味がある内容かつ適したレベルの本をたくさん読むことで英語力を高めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	本文の概要や詳細を理解するために必要な語彙・語句、文の構造を学ぶだけでなく、リーディングに必要なスキルを身につけていく。	本文の概要を理解し、さらに必要な情報を探すことができる。

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践	テキストから得られた情報をベースに社会に出てから遭遇する問題を解決できるスキルを養う。
2 ．DP6.行動・実践	読んだ内容に関して、自分の意見を他者に伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
授業への参加度は、教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
多読	20%	： 語数等で評価する。
毎時の学習状況	30%	： 提出物、内容理解度、積極性、貢献度等を評価する。
期末テスト	50%	： 授業で学んだことが身についているかどうかをテストで確認する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Milada Broukal	Weaving It Together 2: Connecting Reading and Writing, Third Edition	HEINLE CENGAGE Learning	2016年
Paul Nation / Casey Malarcher	Timed Reading for Fluency 1	Seed Learning	2017年

参考文献等

授業内で、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業で指示する。
場所： 授業で指示する。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 授業の進め方や成績評価の方法についての説明を行う。また、英文読解問題を解く(解説も行う)ことで、現段階の学力を把握し、授業を効率的かつ効果的に進めていく。	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第2回	**チャプター 1 Right Brain, Left Brain (1) パラグラフの構成の理解** チャプター 1 Right Brain, Left Brain ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②パラグラフの構成の理解、速読練習①	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第3回	**チャプター1 Right Brain, Left Brain (2) メイントピックと主要な情報の読み取り** チャプター1 Right Brain, Left Brain ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②メイントピックと主要な情報の読み取り方法の理解、速読練習②	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間

第4回	**チャプター 2 Let’s Face it (1) キーワードとキーセンテンスの理解** チャプター 2 Let’s Face it ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②キーワードとキーセンテンスの理解、速読練習③	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第5回	**チャプター 2 Let’s Face it (2) キーワードを使った要約** チャプター 2 Let’s Face it ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②キーワードを使った要約、速読練習④	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第6回	**チャプター 3 Live a Little: Eat Potatoes! (1) スキミングとは** チャプター 3 Live a Little: Eat Potatoes! ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②スキミングの理解、速読練習⑤	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第7回	**チャプター 3 Live a Little: Eat Potatoes! (2) スキミングの演習** チャプター 3 Live a Little: Eat Potatoes! ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②スキミングの演習、速読練習⑥	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第8回	**チャプター4 Bugs, Rats, and Other Tasty Dishes (1) スキャンニングとは** チャプター4 Bugs, Rats, and Other Tasty Dishes ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②スキャンニングの理解、速読練習⑦	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第9回	**チャプター4 Bugs, Rats, and Other Tasty Dishes (2) スキャンニングの演習** チャプター4 Bugs, Rats, and Other Tasty Dishes ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、② スキャンニングの演習、速読練習⑧	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第10回	**チャプター 5 Tihar: Festival of Lights (1) 文脈からの語意の類推：効果と方法** チャプター 5 Tihar: Festival of Lights ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②文脈からの語意の類推の理解、速読練習⑨	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第11回	**チャプター 5 Tihar: Festival of Lights (2) 文脈からの語意の類推：演習** チャプター 5 Tihar: Festival of Lights ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②文脈からの語意の類推：演習、速読練習⑩	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第12回	**チャプター 6 Celebrating a Fifteenth Birthday (1) 接続詞：論理的つながり** チャプター 6 Celebrating a Fifteenth Birthday ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②接続詞：論理的つながりの理解、速読練習⑪	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第13回	**チャプター 6 Celebrating a Fifteenth Birthday (2) 接続詞に着目した読み方の演習** チャプター 6 Celebrating a Fifteenth Birthday ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②接続詞に着目した読み方の演習、速読練習⑫	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第14回	**チャプター 7 Barrington Irving’s Dream to Fly トッピックセンテンスの見つけ方** チャプター 7 Barrington Irving’s Dream to Fly ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②トッピックセンテンスの見つけ方、速読練習⑬	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第15回	**まとめ** チャプター 6 Celebrating a Fifteenth Birthday ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②スキャニングとは、速読練習⑭	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間

授業科目名	リーディングスキルズⅡ				
担当教員名	盛岡貴昭				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、①速読、②精読、③多読の３つに焦点を当てて授業を進めていく。①速読では毎回の授業で200wordの英文を、タイムを計りながら速読しその内容に関する問題を解く。②精読では、精読では、パラグラフレベルで書かれた様々なテーマの英文を読み、さらに読んだ内容に関して自分の意見を伝えることができるよう授業を進めていく。③多読は、授業外で興味がある内容かつ適したレベルの本をたくさん読むことで英語力を高めていく。リーディングスキルズⅡでは、リーディングスキルⅠよりも難易度の高い英文を読んでいく。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	本文の概要や詳細を理解するために必要な語彙・語句、文の構造を学ぶだけでなく、リーディングに必要なスキルを身につけていく。	本文の概要を理解し、さらに必要な情報を探すことができる。
汎用的な力		
1 ．DP6.行動・実践		テキストから得られた情報をベースに社会に出てから遭遇する問題を解決できるスキルを養う。
2 ．DP6.行動・実践		読んだ内容に関して、自分の意見を他者に伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
多読 20%	：	語数等で評価する
毎時の学習状況 30%	：	提出物、内容理解度、積極性、貢献度等を評価する
期末テスト 50%	：	授業で学んだことが身についているかどうかをテストで確認する

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Milada Broukal	Weaving It Together 2: Connecting Reading and Writing, Third Edition	HEINLE CENGAGE Learning	2016年
Paul Nation / Casey Malarcher	Timed Reading for Fluency 1	Seed learning	2017年

参考文献等

授業内で、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業で指示する。
場所： 授業で指示する。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 授業の進め方や成績評価の方法についての説明を行う。また、英文読解問題を解く(解説も行う)ことで、現段階の学力を把握し、授業を効率的かつ効果的に進めていく。	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第2回	**チャプター 1 Right Brain, Left Brain (1) パラグラフの構成の理解** チャプター 1 Right Brain, Left Brain (1) パラグラフの構成の理解後、チャプター8 The Fearless Fiennes ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②パラグラフの構成の理解、速読練習①	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第3回	**チャプター1 Right Brain, Left Brain (2) メイントピックと主要な情報の読み取り** チャプター1 Right Brain, Left Brain (2) メイントピックと主要な情報の読み取りを理解後、チャプター8 The Fearless Fiennes ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②メイントピックと主要な情報の読み取り、速読練習②	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間

第4回	**チャプター 2 Let’s Face it (1) キーワードとキーセンテンスの理解** チャプター 2 Let’s Face it (1) キーワードとキーセンテンスの理解後、チャプター9 Lightning ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②キーワードとキーセンテンスの理解、速読練習③	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第5回	**チャプター 2 Let’s Face it (2) キーワードを使った要約** チャプター 2 Let’s Face it (2) キーワードを使った要約を理解後、Chapter 9 Lightning ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②キーワードを使った要約を理解、速読練習④	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第6回	**チャプター 3 Live a Little: Eat Potatoes! (1) スキミングとは** チャプター 3 Live a Little: Eat Potatoes! (1) スキミングとはを理解後、チャプター10 Chasing Storms①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②スキミングとは、速読練習⑤	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第7回	**チャプター 3 Live a Little: Eat Potatoes! (2) スキミングの演習** チャプター 3 Live a Little: Eat Potatoes! (2) スキミングの演習の理解後、チャプター10 Chasing Storms ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②スキミングの演習、速読練習⑥	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第8回	**チャプター4 Bugs, Rats, and Other Tasty Dishes (1) スキャンニングとは** チャプター4 Bugs, Rats, and Other Tasty Dishes (1) スキャンニングとはの理解後、チャプター11 The GoPro Camera ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②スキャンニングとは、速読練習⑦	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第9回	**チャプター4 Bugs, Rats, and Other Tasty Dishes (2) スキャンニングの演習** チャプター4 Bugs, Rats, and Other Tasty Dishes (2) スキャンニングの演習の理解後、チャプター11 The GoPro Camer ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②スキャンニングの演習、速読練習⑧	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第10回	**チャプター 5 Tihar: Festival of Lights (1) 文脈からの語意の類推：効果と方法** チャプター 5 Tihar: Festival of Lights (1) 文脈からの語意の類推：効果と方法の理解後、チャプター12 Changing Living Things? ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②文脈からの語意の類推：効果と方法、速読練習⑨	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第11回	**チャプター 5 Tihar: Festival of Lights (2) 文脈からの語意の類推：演習** チャプター 5 Tihar: Festival of Lights (2) 文脈からの語意の類推：演習の理解後、チャプター12 Changing Living Things? ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②文脈からの語意の類推：演習、速読練習⑩	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第12回	**チャプター 6 Celebrating a Fifteenth Birthday (1) 接続詞：論理的つながり** チャプター 6 Celebrating a Fifteenth Birthday (1) 接続詞：論理的つながりの理化後、チャプター13 Flowers, Dishes, and Dresses ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②接続詞：論理的つながり、速読練習⑪	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第13回	**チャプター 6 Celebrating a Fifteenth Birthday (2) 接続詞に着目した読み方の演習** チャプター 6 Celebrating a Fifteenth Birthday (2) 接続詞に着目した読み方の演習の理解後、チャプター13 Flowers, Dishes, and Dresses ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②接続詞に着目した読み方の演習、速読練習⑫	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第14回	**チャプター 7 Barrington Irving’s Dream to Fly トッピックセンテンスの見つけ方** チャプター 7 Barrington Irving’s Dream to Fly トッピックセンテンスの見つけ方の理解後、チャプター14 What’s in a Name? ①内容理解(語彙、大意把握と詳細理解)、②トッピックセンテンスの見つけ方、速読練習⑬	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第15回	**まとめ** Chapter 14 What’s in a Name? ①接続詞に焦点を当てた読み方 ②チャプター8から14までの総復習、速読練習⑭	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間

授業科目名	パラグラフライティングⅠ				
担当教員名	盛岡貴昭				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、毎回身近なテーマを決め、パラグラフレベルで構成された文章を書く練習を行う。単に英文を書くことだけではなく、テーマに即した英文を読み、自分自身の意見を整理した上で書くことが求められる。したがって、リーディングに基づいたライティングの活動を展開していく。また、自分の意見を英語にできるように、語彙力を意図的に増やしていくための学習を行う。さらに、書いた文章を協同して編集する機会を取り入れ、優れた構成や文章を書く力を高めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：英作するために必要な基本的な語彙・語句、文法の理解し、要約や自分の意見を書く能力を身につけていく。

目標：基本的な語彙・語句の習得を習得し、要約や自分の意見を書くことができる。

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践

英文の内容に関して、自分の意見を論理的に伝えることができる能力を養う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
授業への参加度は、教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	50%	： 授業で学んだことが身についているかどうかをテストで確認する。
毎時の単語テスト	20%	： 必要な語彙を身につけているかを毎時の単語テストで確認する。
学習状況	30%	： 提出物、内容理解度、積極性、貢献度等を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
宮田　学	英語で自己表現しよう	三修社	2016年
Milada Broukal	Weaving It Together 2: Connecting Reading and Writing, Third Edition』	HEINLE CENGAGE Learning	2016年
成重　寿	TOEIC(R) L&R TEST 英単語　スピードマスター	Jリサーチ	2018年

参考文献等

授業内で、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業で指示する。
場所：　授業で指示する。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、ユニット1 Hello! (1) 語彙、人名、地名の英語綴り** 授業の進め方の説明、ユニット1 Hello! の語彙と文法理解(人名、地名の英語綴り)、The Paragraph, Capitalization, Rules, The Title(1)	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第2回	**ユニット1 Hello! (2) 語彙、英作** ユニット1 Hello! 語彙理解と内容に関する英作、The Paragraph, Capitalization, Rules, The Title(2)	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第3回	**ユニット2 Nice to Meet You (1) 語彙、人称代名詞** ユニット2 Nice to Meet Youの語彙と文法理解(人称代名詞)、Writing about yourself	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第4回	**ユニット2 Nice to Meet You (2) 語彙、英作**	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間

	ユニット2 Nice to Meet Youの語彙理解と内容に関する英作、Joining Compound Sentences (with, and, but, or)(1)		
第5回	**ユニット3 Let Me Introduce Myself (1) 語彙、パラグラフとインデント** ユニット3 Let Me Introduce Myselfの語彙と文法理解(パラグラフとインデント)、Joining Compound Sentences (with, and, but, or)(2)	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第6回	**ユニット3 Let Me Introduce Myself (2) 語彙、英作** ユニット3 Let Me Introduce Myselfの語彙理解と内容に関する英作、 Writing about another person	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第7回	**ユニット4 My Free Time (1) 語彙、自動詞と他動詞** ユニット4 My Free Timeの語彙と文法理解(自動詞と他動詞)、The Topic Sentence(1)	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第8回	**ユニット4 My Free Time (2) 語彙、英作** ユニット4 My Free Timeの語彙理解と内容に関する英作、The Topic Sentence(2)	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第9回	**ユニット5 My Hobbies (1) 語彙、現在・過去・未来** ユニット5 My Hobbiesの語彙と文法理解(現在・過去・未来)、Writing about food or drink	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第10回	**ユニット5 My Hobbies (2) 語彙、英作** ユニット5 My Hobbiesの語彙理解と内容に関する英作、Supporting Sentences And Concluding Sentences (1)	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第11回	**ユニット6 My Favorite Pastime (1) 語彙、ピア・エディティング** ユニット6 My Favorite Pastimeの語彙、内容理解、英作(ピア・エディティング)、Supporting Sentences And Concluding Sentences (2)	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第12回	**ユニット6 My Favorite Pastime (2) ピア・エディティング、リライト(1)** ユニット6 My Favorite Pastimeの語彙理解と内容理解(ピア・エディティング、リライト1)、Writing about a special food	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第13回	**ユニット6 My Favorite Pastime (3) ピア・エディティング、リライト(2)** ユニット6 My Favorite Pastimeの語彙理解と内容理解(ピア・エディティング、リライト2)	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第14回	**ユニット6 My Favorite Pastime (4) ピア・エディティング、リライト(3)** ユニット6 My Favorite Pastimeの語彙理解と内容理解(ピア・エディティング、リライト3)	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第15回	**授業の総括** ユニット1から6までの復習	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間

授業科目名	パラグラフライティングⅡ				
担当教員名	盛岡貴昭				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、パラグラフ・ライティングⅠを踏まえて、より精錬したパラグラフで構成された文章を書く練習を行う。パラグラフライティングⅠ同様に、テーマに即した英文を読み、自分自身の意見を整理した上で書くことが求められる。したがって、リーディングに基づいたライティングの活動を展開していく。また、自分の意見を英語にできるように、語彙力を意図的に増やしていくための学習を行う。さらに、書いた文章を協同して編集する機会を取り入れ、優れた構成や文章を書く力を高めていく。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	英作するために必要な基本的な語彙・語句、文法の理解し、要約や自分の意見を書く能力を身につけていく。	基本的な語彙・語句の習得を習得し、要約や自分の意見を書くことができる。
汎用的な力		
1．DP6.行動・実践		英文の内容に関して、自分の意見を論理的に伝えることができる能力を養う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
授業への参加度は、教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	50%	： 授業で学んだことが身についているかどうかをテストで確認する。
毎時の単語テスト	20%	： 必要な語彙を身につけているかを毎時の単語テストで確認する。
学習状況	30%	： 提出物、内容理解度、積極性、貢献度等を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
宮田　学	英語で自己表現しよう	三修社	2016年
Milada Broukal	Weaving It Together 2: Connecting Reading and Writing, Third Edition』	HEINLE CENGAGE Learning	2016年
成重　寿	TOEIC(R) L&R TEST 英単語　スピードマスター	Jリサーチ	2018年

参考文献等

授業内で、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業で指示する。
場所：　授業で指示する。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　授業の目標・方法および評価についてユニット7 My High School (1) 語彙、付加疑問文** 授業の進め方の説明、ユニット7 My High Schoo の語彙と文法理解(語彙、付加疑問文)、Describing a Process(1)	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第2回	**ユニット7 My High School (2) 語彙、英作** ユニット7 My High Schoolの語彙理解と内容に関する英作、Describing a Process(2)	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第3回	**ユニット8 High School Life (1) 語彙、名詞と冠詞** ユニット8 High School Lifeユニット2 Nice to Meet Youの語彙と文法理解(名詞と冠詞)、Writing about a special event	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第4回	**ユニット8 High School Life (2) 語彙、英作**	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間

	ユニット8 High School Lifeの語彙理解と内容に関する英作、Main and Dependent Clauses (1)		
第5回	**ユニット9 Memories of High School (1) 語彙、英語と日本語** ユニット9 Memories of High School の語彙と文法理解(英語と日本語の類似点・相違点)、Main and Dependent Clauses (2)	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第6回	**ユニット9 Memories of High School (2) 語彙、英作** ユニット9 Memories of High School の語彙理解と内容に関する英作、、Writing about a celebration	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第7回	**ユニット10 My Weekends (1) 語彙、進行形と完了形** ユニット10 My Weekends の語彙と文法理解(進行形と完了形)、語彙、進行形と完了形、Unity (1)	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第8回	**ユニット10 My Weekends (2) 語彙、英作** ユニット10 My Weekendsの語彙理解と内容に関する英作、)、Unity (2)	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第9回	**ユニット11 Part-time Jobs (1) 語彙、動詞の形** ユニット11 Part-time Jobs の語彙と文法理解(動詞の形)、Writing about the qualities of a person or a pet	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第10回	**ユニット11 Part-time Jobs (2) 語彙、英作** ユニット11 Part-time Jobsの語彙理解と内容に関する英作、Introducing Example (1)	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第11回	**ユニット12 My Typical Weekend (1) (1) 語彙、ピア・エディティング** ユニット12 My Typical Weekend の語彙と内容理解、英作 (ピア・エディティング)、、Introducing Example (2)	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第12回	**ユニット12 My Typical Weekend (2) ピア・エディティング、リライト(1)** ユニット12 My Typical Weekend の語彙理解と内容理解(ピア・エディティング、リライト1)、Writing about a person	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第13回	**ユニット12 My Typical Weekend (3) ピア・エディティング、リライト(2)** ユニット12 My Typical Weekendの語彙理解と内容理解(ピア・エディティング、リライト2)	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第14回	**ユニット12 My Typical Weekend (4) ピア・エディティング、リライト(3)** ユニット12 My Typical Weekendの語彙理解と内容理解(ピア・エディティング、リライト3)	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間
第15回	**授業の総括** ユニット7から12までの総括	授業外学修課題に関しては授業で指示を行う。	1時間

431

授業科目名	リスニングスキルズⅠ				
担当教員名	片岡晴美				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立・私立の中学校・高等学校で、通算17年間、また私立大学で、8年間、英語の授業を担当。（全15回）				

授業概要

日本語母語話者にとって、英語の聴解力を身につけるためには、ポーズの活用や概要から細部への理解、ならびに繰り返し聞くことなどが有効である。これらの方法を駆使しながら、受講生が聞いて興味をもてるような題材を用いて、リスニングやディクテーションを行いながら英文を把握する。そのあと、内容について受講生同士で意見交換を行う。英語のクイズやロールプレイングなどを用いてリスニング力だけではなく、他の3技能を含めて英語の総合力の向上を図る。課題作成や発表をとおして、自主的、自律的に英語を修得する。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	実際の英語を聞き取れるようになる。そのために、背景知識や英語文法力などを向上させて応用できるようになる。	英語の発音方法の動画や英語の音声などを聴いて理解できるようになる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	ディクテーション、シャドーイングといった活動を通じて、より相手に通じる英語表現へ近づく。	聴解力の向上を図る。
汎用的な力		
1 ．DP8.意思疎通		英語でコミュニケーションがとれるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

英語の会話文を単に聞き取れるようになることにとどまらず、その台詞を話す人物になりきって英語での会話を進める練習を行います。模倣からやがて通じる英語へと導くつもりですので、ペアやグループで行う発表のために練習してください。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

学生相互で評価し合い、コメントをし合う機会を設けます。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
語学の習得には、継続した学習が必要です。
授業では、ペアやグループでの取り組みや発表がありますので、楽しんで練習してのぞんでください。

下記『授業への参加度』の評価基準
授業中： Unitの問題への取り組みや、クラスでのペアやグループワークでの取り組み、発表などを、5段階で評価していきます。
授業外の宿題・課題： 授業の予習と復習、オンライン映像配信サービス「plus Media」や、 スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、リスニング能力の向上を目指して学習しているかについて、内容、分量等を評価します。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	40%	： 15回の授業で学んだ、学習事項の達成度を評価します。
小テスト	20%	： 小テストは、前回の授業で学習した範囲から出題します。学習した内容を理解しているか（＝採点結果）について、評価します。
授業への参加度	40%	： 上記注意事項欄に記載します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
米山明日香、Lindsay Wells	Listening Steps［英語の音を鍛えるリスニング・ステップ～1語からパッセージへ～］	金星堂	2017年

参考文献等

参考書等は、毎時間の授業の中で、受講生の必要に合わせて紹介する。また参考資料などは、受講生の英語力に合わせて、授業中に適時配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
授業時には、(a) 充電したスマートフォン、(b) イヤホン、(c) 辞書（英和・和英）の3点を必ず持参して下さい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の前後

備考・注意事項： 授業の前後以外での質問などは、メールで受け付けます。メールアドレスは、第1回目の授業時に、お知らせします。メールには必ず氏名と所属を明記して下さい。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション** 授業の受け方、小テスト、授業外学習活動のやり方などの説明 ※授業概要の説明を行います。履修希望者は必ず第1回目の授業に出席して下さい。	予習内容：教科書を購入済みの場合は、教科書の最初のページから最後のページまで目を通し、教科書全体の構成を把握しておく。復習内容：(1) 授業で出てきた語彙や文法を覚えておくこと。(2) 教科書の音声を、自分のスマートフォンの「ミュージック」に入れておく。そして第2回目～第15回目の授業時には、(a)充電したスマートフォン、(b)イヤホン、(c) 辞書（英和・和英）の3点を必ず持参する。(3) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 1の教科書の本文の「聴き読み」を1週間に3回行い、予習する。	1時間
第２回	**Unit 1：Travel?（旅行）の前半 Steps 1-3（発音：二重母音[e?]）** オンライン映像配信サービス「plus Media」で、学習範囲の動画を視聴しながら、英語の音声の特徴や発音方法を学ぶ。Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 1のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 1で学習した範囲を復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第３回	**Unit 1：Travel?（旅行）の後半 Steps 4-5, ロールプレイング（音声：音の連結）** 小テスト（語彙チェック）を行う。次に、Steps 4-5を学習した後、Steps 4-5やRole-playing Exerciseを、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 1のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 1で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第４回	**Unit 2：College Life（大学生活）?①の前半 Steps 1-3（発音：[r]）** 小テスト（Dictation）を行う。オンライン映像配信サービス「plus Media」で、学習範囲の動画を視聴しながら、英語の音声の特徴や発音方法を学ぶ。Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 2のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 2で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第５回	**Unit 2：College?Life（大学生活）?①の後半 Steps 4-5, ロールプレイング（音声：弱形）** 小テスト（語彙チェック）を行う。次に、Steps 4-5を学習した後、Steps 4-5やRole-playing Exerciseを、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 2のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 2で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第６回	**Unit 3：Shopping（買い物）の前半 Steps 1-3（発音：[l]）** 小テスト（Dictation）を行う。オンライン映像配信サービス「plus Media」で、学習範囲の動画を視聴しながら、英語の音声の特徴や発音方法を学ぶ。Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 3のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 3で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間

第７回	**Unit 3: Shopping（買い物）の後半 Steps 4-5, ロールプレイング（音声: 強形）** 小テスト（語彙チェック）を行う。次に、Steps 4-5を学習した後、Steps 4-5やRole-playing Exerciseを、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 3のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 3で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第８回	**Unit 4: College?Life（大学生活）?②の前半 Steps 1-3（発音: [?]）** 小テスト（Dictation）を行う。オンライン映像配信サービス「plus Media」で、学習範囲の動画を視聴しながら、英語の音声の特徴や発音方法を学ぶ。Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 4のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 4で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第９回	**Unit 4: College?Life?（大学生活）②の後半 Steps 4-5, ロールプレイング（音声: 弱化①）** 小テスト（語彙チェック）を行う。次に、Steps 4-5を学習した後、Steps 4-5やRole-playing Exerciseを、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 4のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 4で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第１０回	**Unit 5: Hotel（ホテル）の前半 Steps 1-3（発音: [a]）** 小テスト（Dictation）を行う。オンライン映像配信サービス「plus Media」で、学習範囲の動画を視聴しながら、英語の音声の特徴や発音方法を学ぶ。Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 5のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 5で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第１１回	**Unit 5: Hotel?（ホテル）の後半 Steps 4-5, ロールプレイング（音声: 弱化②—音の脱落—）** 小テスト（語彙チェック）を行う。次に、Steps 4-5を学習した後、Steps 4-5やRole-playing Exerciseを、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 5のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 5で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第１２回	**Unit?6: Train（電車）の前半 Steps?1-3（発音: [?]）** 小テスト（Dictation）を行う。オンライン映像配信サービス「plus Media」で、学習範囲の動画を視聴しながら、英語の音声の特徴や発音方法を学ぶ。Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 6のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 6で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間

第１３回	**Unit 6: Train（電車）の後半 Steps 4-5,（音声: r音化）** 小テスト（語彙チェック）を行う。次に、Steps 4-5を学習した後、Steps 4-5やRole-playing Exerciseを、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1)オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 6のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 5で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第１４回	**Unit 7: Restaurant（レストラン）?のSteps 1-5とロールプレイング（発音: [f] [v] / 音声: 同じ音の連続）** 小テスト（Dictation）を行う。オンライン映像配信サービス「plus Media」で、学習範囲の動画を視聴しながら、英語の音声の特徴や発音方法を学ぶ。Step 5まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら会話の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1)オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 7のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 7で学習した範囲を復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第１５回	**Units 1-7の総括と質疑応答、課題への総合評価** 小テスト(Dictation)を行う。Units 1-7の学習範囲を復習する。ペアやグループになって、音読しながら前期に学んだ範囲を総復習し、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：定期試験対策の勉強として、教科書のUnits 1-7に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Units 1-7で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間

431

授業科目名	リスニングスキルズⅡ				
担当教員名	片岡晴美				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立・私立の中学校・高等学校で、通算17年間、また私立大学で、8年間、英語の授業を担当。（全15回）				

授業概要

比較的まとまりのある長めの英文を聞き取る材料として、内容把握をしたり、ディクテーションを行う。題材から語彙や文法への知識を深めてゆき、それらを実践的に身につけることができる。それらを達成するために、課題作成を行い、自主的、自律的に英語を修得することを目指す。受講生がリスニング教材を提供することも可能とするので、自身が興味をもつ英文をつねに探しておくこと、授業にはそれらを準備して臨むことを課題とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	実際の英語を聞き取れるようになる。そのために、背景知識や英語文法力などを向上させて応用できるようになる。	英語の発音方法の動画や英語の音声などを聴いて理解できるようになる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	ディクテーション、シャードーイングといった活動を通じて、より相手に通じる英語表現へ近づく。	聴解力の向上を図る。

汎用的な力

1 ．DP8.意思疎通		英語でコミュニケーションがとれるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

英語の会話文の聞き取りに取り組むことで、英語を聞くことに慣れてもらいます。次に、それを役柄になりきってペアやグループで練習し、演じるなどの発表をしてもらいます。覚えた英語表現を使って、自分のことを発表できるようにしていきましょう。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

学生相互で評価し合い、コメントをし合う機会を設けます。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
語学の習得には、継続した学習が必要です。
授業では、ペアやグループでの取り組みや発表がありますので、楽しんで練習してのぞんでください。

下記『授業への参加度』の評価基準
授業中： Unitの問題への取り組みや、クラスでのペアやグループワークでの取り組み、発表などを、5段階で評価していきます。
授業外の宿題・課題： 授業の予習と復習、オンライン映像配信サービス「plus Media」や、 スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、リスニング能力の向上を目指して学習しているかについて、内容、分量等を評価します。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	40%	： 15回の授業で学んだ、学習事項の達成度を評価します。
小テスト	20%	： 小テストは、前回の授業で学習した範囲から出題します。学習した内容を理解しているか（＝採点結果）について、評価します。
授業への参加度	40%	： 上記注意事項欄に記載します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
米山明日香、Lindsay Wells	・ Listening?Steps［英語の音を鍛えるリスニング・ステップ～1語からパッセージへ～］	・ 金星堂	・ 2017年

参考文献等

参考書等は、毎時間の授業の中で、受講生の必要に合わせて紹介する。また参考資料などは、受講生の英語力に合わせて、授業中に適時配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
授業時には、(a) 充電したスマートフォン、(b) イヤホン、(c) 辞書（英和・和英）の3点を必ず持参して下さい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の前後

備考・注意事項： 授業の前後以外での質問などは、メールで受け付けます。メールアドレスは、第1回目の授業時に、お知らせします。メールには必ず氏名と所属を明記して下さい。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 授業の受け方、小テスト、授業外学習活動のやり方などの説明 ※授業概要の説明を行います。履修希望者は必ず第1回目の授業に出席して下さい。	予習内容：教科書を購入済みの場合は、教科書の最初のページから最後のページまで目を通し、教科書全体の構成を把握しておく。復習内容：(1) 授業で出てきた語彙や文法を覚えておくこと。(2) 教科書の音声を、自分のスマートフォンの「ミュージック」に入れておく。そして第2回目～第15回目の授業時には、(a)充電したスマートフォン、(b)イヤホン、(c) 辞書（英和・和英）の3点を必ず持参する。(3) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 8の教科書の本文の「聴き読み」を1週間に3回行い、予習する。	1時間
第2回	**Unit 8：College Life（大学生活）③の前半 Steps 1-3（発音：[?]）** オンライン映像配信サービス「plus Media」で、学習範囲の動画を視聴しながら、英語の音声の特徴や発音方法を学ぶ。Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 8のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 8で学習した範囲を復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第3回	**Unit 8：College Life（大学生活）③の後半 Steps 4-5, ロールプレイング（音声：port とsport）** 小テスト（語彙チェック）を行う。次に、Steps 4-5を学習した後、Steps 4-5やRole-playing Exerciseを、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 8のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 8で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第4回	**Unit 9：Leisure（レジャー）の前半 Steps 1-3（発音：[??/??]）** 小テスト（Dictation）を行う。オンライン映像配信サービス「plus Media」で、学習範囲の動画を視聴しながら、英語の音声の特徴や発音方法を学ぶ。Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 9のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 9で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第5回	**Unit?9：Leisure（レジャー）の後半 Steps?4-5, ロールプレイング（音声：強勢（ストレス））** 小テスト（語彙チェック）を行う。次に、Steps 4-5を学習した後、Steps 4-5やRole-playing Exerciseを、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 9のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 9で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第6回	**Unit?10：Traffic（交通）の前半 Steps?1-3（発音：[t?] [d?]）** 小テスト（Dictation）を行う。オンライン映像配信サービス「plus Media」で、学習範囲の動画を視聴しながら、英語の音声の特徴や発音方法を学ぶ。Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 10のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 10で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間

第7回	**Unit?10：Traffic（交通） の後半　Steps?4-5, ロールプレイング（音声: rain とtrain)** 小テスト（語彙チェック）を行う。次に、Steps 4-5を学習した後、Steps 4-5やRole-playing Exerciseを、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 3のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 3で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第8回	**Unit 11：Business?（ビジネス）①の前半　Steps?1-3（発音: [θ][d])** 小テスト（Dictation）を行う。オンライン映像配信サービス「plus Media」で、学習範囲の動画を視聴しながら、英語の音声の特徴や発音方法を学ぶ。Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 11のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 11で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第9回	**Unit 11：Business?（ビジネス）①の後半　Steps?4-5, ロールプレイング（音声: 語頭と語末の/b/ /d/ /g/）** 小テスト（語彙チェック）を行う。次に、Steps 4-5を学習した後、Steps 4-5やRole-playing Exerciseを、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 11のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 11で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第10回	**Unit?12：Clinic（クリニック）?の前半　Steps?1-3（発音: [?]）** 小テスト（Dictation）を行う。オンライン映像配信サービス「plus Media」で、学習範囲の動画を視聴しながら、英語の音声の特徴や発音方法を学ぶ。Step 3まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 12のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 12で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第11回	**Unit?12：Clinic（クリニック）?の後半　Steps?4-5, ロールプレイング（音声: 語末の子音脱落と母音の長さ ）** 小テスト（語彙チェック）を行う。次に、Steps 4-5を学習した後、Steps 4-5やRole-playing Exerciseを、ペアやグループになって、音読しながら発音の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 12のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 12で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第12回	**Unit?13：Business?（ビジネス）②のSteps?1-5, ロールプレイング（発音: [?|i|i?][?|u|u?]/ 音声: リズム）** 小テスト（Dictation）を行う。オンライン映像配信サービス「plus Media」で、学習範囲の動画を視聴しながら、英語の音声の特徴や発音方法を学ぶ。Step 5まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら会話の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 13のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、E68Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 13で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間

第13回	**Unit?14：News（ニュース）のSteps?1-5, ロールプレイング（発音: [o?][??]/ 音声: イントネーション①）** 小テスト（Dictation）を行う。オンライン映像配信サービス「plus Media」で、学習範囲の動画を視聴しながら、英語の音声の特徴や発音方法を学ぶ。Step 5まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら会話の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 14のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、E72Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 14で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第14回	**Unit?15：Business?（ビジネス）③のSteps?1-5とロールプレイング（発音: [??] [e?] [??] / 音声: イントネーション② ）** 小テスト（Dictation）を行う。オンライン映像配信サービス「plus Media」で、学習範囲の動画を視聴しながら、英語の音声の特徴や発音方法を学ぶ。Step 5まで学習した後、ペアやグループになって、音読しながら会話の練習を行い、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：小テストの勉強、および、教科書の学習範囲に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：(1) オンライン映像配信サービス「plus Media」にアクセスし、Unit 15のStep 1とStep2の内容を教科書も併用しながら、復習する。①「Video」を視聴し、E76Step 1のWordsをrepeatしながら復習する。次に、「Audio」をクリックし、Step 2の「Sound Change」の内容を復習する。(2) スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Unit 15で学習した範囲を復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間
第15回	**Units 8-15の総括と質疑応答、課題への総合評価** 小テスト(Dictation)を行う。Units 8-15の学習範囲を復習する。ペアやグループになって、音読しながら前期に学んだ範囲を総復習し、発表する。Self-evaluation Sheet（＝自己評価シート）に、振り返りなどを記入する。	予習内容：定期試験対策の勉強として、教科書のUnits 8-15に目を通し、分からない語彙や英文の意味を調べておく。復習内容：スマートフォンに入れた教科書の音声を活用して、Units 8-15で学習した範囲を見直して、語彙や文法も含め、学習した内容を理解しながら復習する。用紙に記入して自己採点して、次の授業時に提出する。	1時間

授業科目名	**英語コミュニケーションⅠ**				
担当教員名	**佐々木緑**				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、コミュニケーションとは何かを考え、コミュニケーションのモデルを学びながら、意思伝達に用いられる要素や手段について学びます。また、英語劇を用いて、実際のコミュニケーションの演習を行います。発話の意図によってどのように発音が変わるのか、ジェスチャーや表情などのノンバーバルな情報が発話の意味にどのような影響をあたえるのかなどを考えながら、演じます。英語劇を効果的に授業に取り入れる方法を学ぶことも、授業の目的です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

コミュニケーションとはなにかを、しっかりと理解し、文化的背景の異なる人たちと英語で良好なコミュニケーションを取れるようになるための演習を行う。

目標：

コミュニケーションとは何かを理解し、その知識を生かして、有効な意思伝達を英語で行うことができる。

汎用的な力

1 ．DP8.意思疎通

授業中のペアワークやグループワークを通して、他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えることができる。グループワークでは、チームの中の自分の役割を理解し、遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
授業への参加度は、課題発表に取り組む姿勢、発表後の議論において、他者からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業活動への積極的な参加 20%	：	ペアやグループワークで、積極的に発言し、自分の役割を遂行していることに対して、教員の観察、振り返りシート等での自己およびピアチェックによって、A,B,Cの３段階で評価し、最終評価の20%として算入する。
宿題等の課題 20%	：	授業の準備として出される課題を、期日までに提出できていること、また、内容について教員がA,B,Cの３段階で評価し、その累積を最終評価の20%として算入する。遅れて提出された課題は評価対象としない。
中間発表 30%	：	前半の授業（第７回目まで）の内容の理解度について、第８回目に中間発表を行う。ルーブリックを使用し30点満点の評価を行い、最終評価に算入する。
English drama project （発表とポートフォリオ） 30%	：	授業で示すルーブリックを用いて最終発表を20点で評価する。また、授業活動、自己課題、振り返りをポートフォリオにしっかりと記述していることを10点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、最低でも毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、授業外の学習課題のうち、指定されたものについては英語教育センターでの指導を受けながら行うこと。
授業の事前課題ができていない場合は、その課題に関する授業活動に参加できない。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日4限
場所： 個人研究室
備考・注意事項： メールでの質問等はsasaki-mi@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（授業目的、授業計画、課題、評価等の確認）**	リーディング課題と要約	1時間

	・シラバスの確認（授業目的、計画、評価） ・授業準備課題のやり方、必要なアプリケーションの設定 ・グループワーク１:Rules of the class! ・グループワーク２:What is communication?		
第2回	**コミュニケーションとは：定義とモデル** ・授業準備課題の確認（ペア、グループワーク） ・クラス全体での確認 ・まとめと理解度確認のための課題（ペア、グループワーク）	リーディング課題と要約	1時間
第3回	**バーバル、ノンバーバルメッセージ** ・授業準備課題の確認（ペア、グループワーク） ・クラス全体での確認 ・まとめと理解度確認のための課題（ペア、グループワーク）	リーディング課題と要約	1時間
第4回	**意図されたメッセージと意図されていないメッセージの伝達** ・授業準備課題の確認（ペア、グループワーク） ・クラス全体での確認 ・まとめと理解度確認のための課題（ペア、グループワーク）	リーディング課題と要約	1時間
第5回	**文脈におけるメッセージ** ・授業準備課題の確認（ペア、グループワーク） ・クラス全体での確認 ・まとめと理解度確認のための課題（ペア、グループワーク）	リーディング課題と要約	1時間
第6回	**コミュニケーションスタイルと文化** ・授業準備課題の確認（ペア、グループワーク） ・クラス全体での確認 ・まとめと理解度確認のための課題（ペア、グループワーク） ・中間発表の課題についての解説	リーディング課題と要約	1時間
第7回	**言語教育におけるコミュニケーション活動** ・授業準備課題の確認（ペア、グループワーク） ・クラス全体での確認 ・まとめと理解度確認のための課題（ペア、グループワーク）	中間発表の準備	1時間
第8回	**中間発表、まとめ** ・事前準備:発表グループの設定、実施方法、評価方法（ルーブリック）の確認 ・発表：ここまでの授業の内容をもとに、授業で与える課題から１つ選んで各自15分で発表する。課題は第６回の授業で指定し、発表方法についても解説する。発表は、少人数のグループ内で行い、発表者以外は与えられたルーブリックを用いてピアチェックを行う。 ・ふりかえり	リーディング課題（複数のスクリプトをスキミング）	1時間
第9回	**英語ドラマプロジェクト（1）：グループ設定とスクリプト選び** ・ドラマプロジェクトの解説 ・グループの設定 ・スクリプト（リーディング課題より）の選択	リーディング課題（選択したスクリプトの熟読）	1時間
第10回	**英語ドラマプロジェクト（2）：登場人物についての分析、理解** ・グループワーク１:授業準備課題として読んできたスクリプトをもとに、各グループで登場人物、場面、話の進行について確認（ワークシートでの作業） ・グループ発表：グループワークで確認した内容を発表 ・グループワーク２:グループでのセリフの読み合わせ、全体的な内容理解の確認	リーディング課題（選択したスクリプトの熟読と暗記）グループでの読み合わせ（英語教育支援センターでの発音指導を受けること）	1時間
第11回	**英語ドラマプロジェクト（3）：台詞の意味、込められたメッセージの理解** ・グループワーク１:スクリプトを熟読を内容理解を深める。場面やセリフに使われている表現から、暗に込められたメッセージも理解する。ワークシートでの作業） ・グループ発表：グループワークで確認した内容を発表 ・グループワーク２:グループでのセリフの読み合わせ、詳細な内容理解の確認	リーディング課題（選択したスクリプトの熟読と暗記）グループでの読み合わせ（英語教育支援センターでの発音指導を受けること）	1時間
第12回	**英語ドラマプロジェクト（4）：発音演習（ポーズ、強調、イントネーション）** ・講義：パラリングイスティックな要素が意味に与える影響の理解１：発音の仕方によって変わる意味 ・グループワーク１:話者の意図を効果的に伝えるための発音練習	発音練習（グループで録音して提出すること）グループでの練習（英語教育支援センターでの発音指導を受けること）	1時間
第13回	**英語ドラマプロジェクト（5）：ノンバーバルメッセージ** ・講義：パラリングイスティックな要素が意味に与える影響の理解２：ジェスチャー、視線によって変わる意味 ・グループワーク１:ノンバーバルな要素を取り入れた練習	グループでの実演練習（英語教育支援センターで指導を受けながら練習し、録画して提出すること）	1時間
第14回	**英語ドラマプロジェクト（6）：実演と振り返り** ・発表とピア評価の方法（ルーブリック）の解説 ・グループでの実演と他のグループの発表のピア評価とコメント	ポートフォリオのまとめ授業中に録画した発表のビデオを編集し指定された場所（授業受講者のみが観れる場所です）に投稿	1時間
第15回	**まとめ** ・授業活動の振り返りと今後の課題の確認 ・グループディスカッション：「コミュニケーション能力を養成するためはどのような授業が効果的か」	授業のまとめ、振り返りとポートフォリオの整理	0時間

授業科目名	**英語コミュニケーションⅡ**				
担当教員名	**佐々木緑**				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業では、与えられた様々なテーマについて、自分の考えを２分程度の短い英語のスピーチにまとめる演習を行います。内容と構成の仕方を中心に、スピーチプレゼンテーションの基礎を学びます。より効果的に自分の考えを相手に伝える表現方法やスピーチの内容を考えながら、英語での発信力を向上させることを目的としています。また、授業では、学習者同士が互いのスピーチを、ルーブリックを使って評価し合うことで、スピーチの評価方法も学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：
英語を用いて、自分の思いや考えを相手に伝え、また他者の思いや考えを理解するための演習を行う。

目標：
毎回の授業でのスピーチ課題で、自分の思いや考えを英語でしっかりと伝えることができる。また、他者のスピーチを聞いて、その内容に対して、質問したり、コメントしたりすることができる。

汎用的な力

1 ．DP8.意思疎通

授業中のペアワークやグループワークを通して、他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えることができる。グループワークでは、チームの中の自分の役割を理解し、遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
授業への参加度は、課題発表に取り組む姿勢、発表後の議論において、他者からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業活動への積極的な参加	10%	：ペアやグループワークで、積極的に発言し、自分の役割を遂行していることに対して、教員の観察、振り返りシート等での自己チェックによって、A,B,Cの３段階で評価し、最終評価の10%として算入する。
毎回のスピーチ課題	60%	：毎回の授業で提出するスピーチ課題を、A,B,Cの３段階で評価し、最終評価の60%として算入する。評価点は、教員評価、自己評価、ピア評価を総合したものとする。
宿題	10%	：授業事前準備として出された課題を全て提出している場合に１０点満点を与え、提出していないものがある場合は提出率に10点を掛けた点数を与える。遅れて提出された課題は受け付けられない。
最終発表	20%	：授業で示すルーブリックを用いて、20点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、最低でも毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
スピーチ課題については、英語教育支援センターで発音指導を受け、十分練習した後で、録音したものを提出すること。
授業の事前課題ができていない場合は、その課題に関する授業活動に参加できない。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日4限
場所：　個人研究室
備考・注意事項：　メールでの質問等はsasaki-mi@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（授業目的、授業計画、課題、音声教材等の配信方法の確認、評価方法等の確認、スピーチの目的、実際についての討論による授業への導入）**	複数のスピーチ例のリスニングと要約	1時間

	・シラバスの確認（授業目的、計画、評価） ・授業準備課題のやり方、必要なアプリケーションの設定 ・グループワーク１:Rules of the class! ・クラス討論：When and why do people make speeches?		
第2回	**スピーチの構成とポイント** ・スピーチの種類、構成についての解説 ・グループワーク：実際のスピーチ例の構成についての分析 ・スピーチ課題（選んだテーマでの自分のスピーチの構成、内容を考え、録音、提出する）	スピーチ課題（授業でのスピーチ課題の自己評価と、修正、練習を行い、録音したものを提出）	1時間
第3回	**自分や他の人について話す（１）：自分の紹介** ・前回のスピーチ課題のピアチェック ・スピーチ課題（与えられたテーマでの自分のスピーチの構成、内容を考え、録音、提出する）	スピーチ課題（授業でのスピーチ課題の自己評価と、修正、練習を行い、録音したものを提出）	1時間
第4回	**自分や他の人について話す（２）：将来の計画** ・前回のスピーチ課題のピアチェック ・スピーチ課題（与えられたテーマでの自分のスピーチの構成、内容を考え、録音、提出する）	スピーチ課題（授業でのスピーチ課題の自己評価と、修正、練習を行い、録音したものを提出）	1時間
第5回	**自分や他の人について話す（３）：過去の出来事** ・前回のスピーチ課題のピアチェック ・スピーチ課題（与えられたテーマでの自分のスピーチの構成、内容を考え、録音、提出する）	スピーチ課題（授業でのスピーチ課題の自己評価と、修正、練習を行い、録音したものを提出）	1時間
第6回	**自分や他の人について話す（４）：人物の紹介** ・前回のスピーチ課題のピアチェック ・スピーチ課題（与えられたテーマでの自分のスピーチの構成、内容を考え、録音、提出する）	スピーチ課題（授業でのスピーチ課題の自己評価と、修正、練習を行い、録音したものを提出）	1時間
第7回	**事物を説明する（１）：手順の説明** ・前回のスピーチ課題のピアチェック ・スピーチ課題（与えられたテーマでの自分のスピーチの構成、内容を考え、録音、提出する）	スピーチ課題（授業でのスピーチ課題の自己評価と、修正、練習を行い、録音したものを提出）	1時間
第8回	**事物を説明する（２）：都市の描写・紹介** ・前回のスピーチ課題のピアチェック ・スピーチ課題（与えられたテーマでの自分のスピーチの構成、内容を考え、録音、提出する）	スピーチ課題（授業でのスピーチ課題の自己評価と、修正、練習を行い、録音したものを提出）	1時間
第9回	**事物を説明する（３）：商品等の説明・紹介** ・前回のスピーチ課題のピアチェック ・スピーチ課題（与えられたテーマでの自分のスピーチの構成、内容を考え、録音、提出する）	スピーチ課題（授業でのスピーチ課題の自己評価と、修正、練習を行い、録音したものを提出）	1時間
第10回	**事物を説明する（４）：施設等の説明・紹介** ・前回のスピーチ課題のピアチェック ・スピーチ課題（与えられたテーマでの自分のスピーチの構成、内容を考え、録音、提出する）	スピーチ課題（授業でのスピーチ課題の自己評価と、修正、練習を行い、録音したものを提出）	1時間
第11回	**意見を述べる（１）：賛成意見を述べる** ・前回のスピーチ課題のピアチェック ・スピーチ課題（与えられたテーマでの自分のスピーチの構成、内容を考え、録音、提出する）	スピーチ課題（授業でのスピーチ課題の自己評価と、修正、練習を行い、録音したものを提出）	1時間
第12回	**意見を述べる（２）：反対意見を述べる** ・前回のスピーチ課題のピアチェック ・スピーチ課題（与えられたテーマでの自分のスピーチの構成、内容を考え、録音、提出する）	スピーチ課題（授業でのスピーチ課題の自己評価と、修正、練習を行い、録音したものを提出）	1時間
第13回	**意見を述べる（３）：意見を効果的に補強する** ・前回のスピーチ課題のピアチェック ・スピーチ課題（与えられたテーマでの自分のスピーチの構成、内容を考え、録音、提出する）	スピーチ課題（授業でのスピーチ課題の自己評価と、修正、練習を行い、録音したものを提出）	1時間
第14回	**意見を述べる（４）：説得する** ・前回のスピーチ課題のピアチェック ・スピーチ課題（与えられたテーマでの自分のスピーチの構成、内容を考え、録音、提出する）	スピーチ課題（授業でのスピーチ課題の自己評価と、修正、練習を行い、録音したものを提出）	1時間
第15回	**最終発表** ・発表の手順とピア評価の方法（ルーブリック）の解説 ・個人でのスピーチの実演（一人５分）と他者の発表のピア評価とコメント（発表は５－６人のグループで行う）	最終発表を修正、練習を行い、録音したものを提出：提出されたものを最終発表として評価する。	1時間

授業科目名	**英語プレゼンテーションⅠ**				
担当教員名	佐々木緑				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、スピーチとディベートを用いた、英語プレゼンテーション演習を行います。講義の前半は、有名なスピーチを暗唱し、その内容構成を分析することを通して、効果的なスピーチの仕方を学びます。その知識を用いて、５分程度のスピーチの実践ができるように指導します。後半では、ディベートの手法を学び実践することで、論旨を支える根拠を提示しながら、論旨をまとめ、聞き手を納得させられるスピーチができるようになることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	英語でのスピーチ、ディベートの演習を通して、英語プレゼンテーション力を向上させます。	英語でスピーチやディベートができる。

汎用的な力

1．DP8.意思疎通	授業中のペアワークやグループワークを通して、他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えることができる。グループワークでは、チームの中の自分の役割を理解し、遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
授業への参加度は、課題発表に取り組む姿勢、発表後の議論において、他者からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを評価する。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
宿題等の課題	20%	： 授業の準備として出される課題を、期日までに提出できていること、また、内容について教員がA,B,Cの３段階で評価し、その累積を最終評価の20%として算入します。遅れて提出された課題は評価対象としません。
スピーチ発表	40%	： 事前に提示するルーブリックを使用し40点満点の評価を行い、最終評価に算入します。
ディベート発表	40%	： 事前に提示するルーブリックを使用し40点満点の評価を行い、最終評価に算入します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
森秀夫	「英語で意見を言ってみる」	ベレ出版	2015年

参考文献等

授業内で、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、最低でも毎回1時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。
授業の事前課題ができていない場合は、その課題に関する授業活動に参加できません。
原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象となります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日4限
場所： 個人研究室
備考・注意事項： メールでの質問等はsasaki-mi@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（授業目的、授業計画、課題、評価等の確認）** シラバスの確認、授業準備課題のやり方、必要なアプリケーションの設定 （授業目的、授業計画、課題、音声教材等の配信方法の確認、評価方法等の確認、スピーチとディベートの概要の確認）	スピーチ原稿のリーディング	1時間
第2回	**優れたスピーチの分析**	スピーチ原稿のリーディング	1時間

	授業準備課題の内容確認（ペア、グループワーク） クラス全体での確認 グループディスカッション：What makes a good speech?		
第3回	**スピーチの構成：導入** テーマの設定 スピーチの導入部分作成	スピーチ導入部分作成	1時間
第4回	**スピーチの構成：展開（１）** 授業準備課題の確認（ペア、グループワーク） スピーチ展開部分１の構成 ペア・グループワーク（意見交換、ピアチェック）	スピーチ展開部分１の作成	1時間
第5回	**スピーチの構成：展開（２）** 授業準備課題の確認（ペア、グループワーク） スピーチ展開部分２の構成 ペア・グループワーク（意見交換、ピアチェック）	スピーチ展開部分２の作成	1時間
第6回	**スピーチの構成：まとめ** 授業準備課題の確認（ペア、グループワーク） スピーチまとめ部分の構成 ペア・グループワーク（意見交換、ピアチェック）	スピーチ発表の準備	1時間
第7回	**スピーチ発表** スピーチの発表 ピア評価	中間発表の準備	1時間
第8回	**ディベートとは** 授業準備課題の内容確認（ペア、グループワーク） クラス全体での確認 ディベートの構成、文化的背景についての確認 グループディスカッション：What are important to make a debate?	リーディング課題（複数のスクリプトをスキミング）	1時間
第9回	**ディベートの実践（１）：テーマ１（生活関連テーマ）準備** テーマの導入 賛否意見のまとめ ディベートの準備	リーディング課題（選択したスクリプトの熟読）	1時間
第10回	**ディベートの実践（１）：テーマ１（生活関連テーマ）　実践** グループでの実演 他のグループの発表のピア評価とコメント	リーディング課題（選択したスクリプトの熟読と暗記）グループでの読み合わせ（英語教育支援センターでの発音指導を受けること）	1時間
第11回	**ディベートの実践（２）：テーマ２（社会問題テーマ）準備** テーマの導入 賛否意見のまとめ ディベートの準備	リーディング課題（選択したスクリプトの熟読と暗記）グループでの読み合わせ（英語教育支援センターでの発音指導を受けること）	1時間
第12回	**ディベートの実践（２）：テーマ２（社会問題テーマ）実践** グループでの実演 他のグループの発表のピア評価とコメント	発音練習（グループで録音して提出すること）グループでの練習（英語教育支援センターでの発音指導を受けること）	1時間
第13回	**ディベートの実践（３）：テーマ３　（教育関連テーマ）準備** テーマの導入 賛否意見のまとめ ディベートの準備	グループでの実演練習（英語教育支援センターで指導を受けながら練習し、録画して提出すること）	1時間
第14回	**ディベートの実践（３）：テーマ3　（教育関連テーマ）実践** グループでの実演 他のグループの発表のピア評価とコメント	ポートフォリオのまとめ授業中に録画した発表のビデオを編集し指定された場所（授業受講者のみが観れる場所です）に投稿	1時間
第15回	**最終発表（ディベート）** ディーベートの発表とピア評価	最終発表のふりかえり	1時間

授業科目名	**英語プレゼンテーションⅡ**				
担当教員名	佐々木緑				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、リサーチプレゼンテーションの手法を学び、自らが設定したテーマについて調査、情報収集した内容を、ポスタープレゼンテーションとして発表する演習を行います。授業では、マインドマッピング手法を用いたテーマの設定方法、文献調査、アンケート調査などのデータ収集方法、図表、データ等の資料の効果的な利用法、レジュメの作成法を学び、聞き手にわかりやすいプレゼンテーションができるようになることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：
英語リサーチプレゼンテーションの演習を行います。

目標：
英語でリサーチプレゼンテーションができる。

汎用的な力

1 ．DP8.意思疎通

授業中のペアワークやグループワークを通して、他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えることができる。グループワークでは、チームの中の自分の役割を理解し、遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
授業への参加度は、課題発表に取り組む姿勢、発表後の議論において、他者からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを評価する。

成績評価の方法・評価の割合　　**評価の基準**

宿題等の課題　40%　：　授業の準備として出される課題を、期日までに提出できていること、また、内容について教員がA,B,Cの３段階で評価し、その累積を最終評価の40%として算入します。遅れて提出された課題は評価対象としません。

最終発表　40%　：　事前に提示するルーブリックを使用し40点満点の評価を行い、最終評価に算入します。

期末レポート　20%　：　事前に提示するルーブリックを使用し40点満点の評価を行い、最終評価に算入します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
森秀夫	「英語で意見を言ってみる」	ベレ出版	2015年

参考文献等

授業内で、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、最低でも毎回1時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。
授業の事前課題ができていない場合は、その課題に関する授業活動に参加できません。
原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象となります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日4限
場所：　個人研究室
備考・注意事項：　メールでの質問等はsasaki-mi@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（授業目的、授業計画、課題、評価等の確認）** オリエンテーション（授業目的、授業計画、課題、音声教材等の配信方法の確認、評価方法等の確認） テーマ設定のためのブレインストーミング	テーマ設定	1時間
第2回	**テーマ設定** リサーチテーマの設定	リサーチテーマと選んだ理由（ライティング課題）	1時間
第3回	**資料収集とまとめ（１）：インターネット利用**	資料のまとめ	1時間

	インターネットを利用した資料の収集とまとめ		
第4回	**資料収集とまとめ（２）：文献資料（図書等の利用）** 授業準備課題の発表と意見交換（ペア、グループワーク） 図書等の文献資料の収集とまとめ	資料のまとめ	1時間
第5回	**データ収集（１）：データ収集の方法の紹介** 授業準備課題の発表と意見交換（ペア、グループワーク） 図書等の文献資料の収集とまとめ	資料のまとめ	1時間
第6回	**データ収集（２）：データ収集計画** データの収集方法についての確認 データ収集計画立案	データ収集計画のまとめ	1時間
第7回	**データ収集（３）：データ収集** データ収集のための準備：アンケート、インタビューの項目作成	データ収集	1時間
第8回	**データ収集（４）：データの整理** データから読み取れることの整理 発表と意見交換	データのまとめ	1時間
第9回	**調査結果のまとめ** 調査結果の分析とまとめ 調査結果の発表と意見交換	調査結果のまとめ	1時間
第10回	**ポスターの作成（１）：全体の構成** ポスターの構成の確認とポスター作成	ポスターの構成の完成	1時間
第11回	**ポスターの作成（２）：図表の作成** データを基にした図表の作成 データから読み取れることのまとめ	リーディング課題（選択したスクリプトの熟読と暗記）グループでの読み合わせ（英語教育支援センターでの発音指導を受けること）	1時間
第12回	**ポスター完成** 発表のためのポスターの完成 発表の練習	ポスターの最終調整	1時間
第13回	**レジュメの作成と事前練習** 発表のレジュメの作成 発表の事前練習	発表の準備	1時間
第14回	**ポスタープレゼンテーション** ポスター発表 ピア評価とコメント	発表の自己評価	1時間
第15回	**振り返りとまとめ** グループディスカッション：発表のピア評価と自己評価結果について	最終レポート作成	1時間

授業科目名	**異文化理解Ⅰ**				
担当教員名	**伊勢芳夫**				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

われわれの社会とは違った言語、考え方、生活習慣、社会制度、宗教を持つ社会を漠然と「異文化」社会として感覚的にとらえています。しかしながらアカデミックなレベルにおいては、「文化」の構造や特性の概念化をとおして異文化理解が可能になります。そのため、本講義では、まず英語圏の「言語・文化」を最新の言語・文化理論を学ぶことを通して明確な概念として理解するとともに、英文教科書から文化、異文化理解の本質に迫るとともに、日常的な異文化理解、異文化コミュニケーションに応用できるようにします。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	大航海時代以降の世界の歴史や変容を、そして、グローバル化が進行するする一方で、多文化の併存する社会を英語の文章を通して理解する。	グローバル化と多文化並存の現代世界を英文を通して理解し、議論ができる。
2 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	英文を通して、現代の文化理論に触れることができる。	学問的に「文化」を理解できる。
汎用的な力		
1 ．DP6.行動・実践		英語の読解力を向上させることができる。
2 ．DP6.行動・実践		英語による思考力を向上させることができる。
3 ．DP7.完遂		英語を通して異文化が理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
筆記試験	50%	： 講義内容や教科書の英文の理解度を50点満点で評価します。
授業中の課題提出	10%	： 発表の出来を10点満点で評価します。
授業への参加度	40%	： 授業中のディスカッションでの積極的な発言、及び、授業内・外での積極的な質問により、参加度を40点満点で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
・ 栗原典子、Anthony Allan	・ Reading Trek!ー英語で読む世界の15の物語	・ 金星堂	・ 2019年

参考文献等

伊勢芳夫　『「反抗者」の肖像――イギリス・インド・日本の近代化言説形成＝編成――』　渓水社　2013

木村茂雄・杉浦清文・山田雄三編　『英語で読む現代世界の文化・社会・言語――植民地主義からグローバリゼーションへ――』　英宝社　2015

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業で扱う教科書の英文の内容を辞書をこまめに引いて理解に努めること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　初回授業で指示します

備考・注意事項：　質問等は、メールにより受け付けます。メールアドレス: ise@lang.osaka-u.ac.jp
教科書や講義に関する筆問は、他の受講生も聞けるように授業で回答します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**異文化理解と異文化コミュニケーションの課題、及び、「文化」について（1）カルチュラルスタディーズからの考察**	講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間

	オリエンテーション：授業の進め方について説明し、次回からの担当者を決める。担当者は、教科書「Reading Trek!ー英語で読む世界の15の物語」の担当個所を熟読し、授業で要旨を発表する。 異文化理解と異文化コミュニケーションの課題、及び、「文化」について（1）カルチュラルスタディーズからの考察」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。		
第2回	**「文化」について（2）ウンベルト・エーコを中心に記号論からの考察** この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!ー英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「「文化」について（2）ウンベルト・エーコを中心に記号論からの考察」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
第3回	**「文化」について（3）文化記号論からの考察** この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!ー英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「「文化」について（3）文化記号論からの考察」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
第4回	**「文化」について（4）言説分析とナラトロジー(物語論)からの考察** この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!ー英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「「文化」について（4）言説分析とナラトロジー(物語論)からの考察」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
第5回	**英領インドにおけるイギリス文化理解と受容（1）インドにおける英語教育** この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!ー英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「英領インドにおけるイギリス文化理解と受容（1）インドにおける英語教育」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
第6回	**英領インドにおけるイギリス文化理解と受容（2）新中産階層の出現と西欧思想の受容** この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!ー英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「英領インドにおけるイギリス文化理解と受容（2）新中産階層の出現と西欧思想の受容」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
第7回	**英領インドにおけるイギリス文化理解と受容（3）西欧思想の受容** この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!ー英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「英領インドにおけるイギリス文化理解と受容（3）西欧思想の受容」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
第8回	**英領インドにおけるイギリス文化理解と受容（4）文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題（クリティカルな視点から）**	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間

	この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「英領インドにおけるイギリス文化理解と受容（４）文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題（クリティカルな視点から）」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。		
第9回	**英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化（１）イギリス** この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化（１）イギリス」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
第10回	**英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化（２）北米** この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化（２）北米」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
第11回	**英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化（３）オセアニア** この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化（３）オセアニア」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
第12回	**英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化（４）アフリカ** この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化（４）アフリカ」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。	4時間
第13回	**英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化（５）アジア** この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化（５）アジア」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
第14回	**異文化理解と異文化コミュニケーションの実際：留学生との交流（異文化理解・文化の多様性についてのディスカッション）** この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「異文化理解と異文化コミュニケーションの実際：留学生との交流（異文化理解・文化の多様性」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
第15回	**まとめ** この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 まとめ、異文化理解の意義と問題点を理解した上で、異文化コミュニケーションにおける自らの課題を考えさせる。	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。ディスカッションで話し合ったことの理解が深まるように復習を行うこと。	4時間

第16回	**期末試験** 15回の授業で学習したことについて、筆記試験を行う。	これまでの授業で学習したことをしっかり復習すること。	4時間

授業科目名	**異文化理解Ⅱ**				
担当教員名	**伊勢芳夫**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

自然に持つ異文化観は「ムスリム」や「イスラム社会」を漠然と知っていても、それらを知りえた情報源について深く考えません。しかしながら、誰が、どのような意図をもってその情報を発したかによって、その情報が持つ意味は大きく変わってきます。本講義では「異文化理解I」で学んだ「文化」についての最新の言語・文化理論を応用し、イギリス人がインド、及び、日本をどのように理解し、どのように英語化したかについて歴史資料を分析します。また、英文教科書から身近な文化、異文化理解の実践を行います。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	大航海時代以降の世界の歴史や変容を、そして、グローバル化が進行するする一方で、多文化の併存する社会を英語の文章を通して理解する。	グローバル化と多文化並存の現代世界を英文を通して理解し、議論ができる。
2 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	英文を通して、現代の文化理論に触れることができる。	学問的に「文化」を理解できる。
汎用的な力		
1 ．DP6.行動・実践		英語の読解力を向上させることができる。
2 ．DP6.行動・実践		英語による思考力を向上させることができる。
3 ．DP7.完遂		英語を通して異文化が理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
筆記試験	50%	： 講義内容や教科書の英文の理解度を50点満点で評価します。
授業中の課題提出	10%	： 発表の出来を10点満点で評価します。
授業への参加度	40%	： 授業中のディスカッションでの積極的な発言、及び、授業内・外での積極的な質問により、参加度を40点満点で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
栗原典子、AnthonyAllan	Reading Trek!ー英語で読む世界の15の物語	金星堂	2019年

参考文献等

伊勢芳夫　『「反抗者」の肖像――イギリス・インド・日本の近代化言説形成＝編成――』　渓水社　2013

木村茂雄・杉浦清文・山田雄三編　『英語で読む現代世界の文化・社会・言語――植民地主義からグローバリゼーションへ――』　英宝社　2015

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業で扱う教科書の英文の内容を辞書をこまめに引いて理解に努めること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　初回授業で指示します

備考・注意事項：　質問等は、メールにより受け付けます。メールアドレス: ise@lang.osaka-u.ac.jp
教科書や講義に関する筆問は、他の受講生も聞けるように授業で回答します。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「文化」について（1）エドワード・サイードを中心にポストコロニアル研究からの考察** オリエンテーション：授業の進め方について説明し、次回からの担当者を決める。担当者は、教科書「Reading Trek!ー英語で読む世界の15の物語」の担当個所を熟読し、授業で要旨を発表する。 「「文化」について（1）エドワード・サイードを中心にポストコロニアル研究からの考察」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。	講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間

第2回	**「「文化」について（２）スチュアート・ホールを中心に表象論からの考察**	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
	この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「「文化」について（２）スチュアート・ホールを中心に表象論からの考察」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。		
第3回	**「文化」について（３）文化記号論からの考察**	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
	この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「「文化」について（３）文化記号論からの考察」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。		
第4回	**「文化」について（４）言説分析とナラトロジー(物語論)からの考察**	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
	この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「「文化」について（４）言説分析とナラトロジー(物語論)からの考察」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。		
第5回	**英語によるインド文化表象と理解（１）西欧とオリエンタリズム**	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
	この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「英語によるインド文化表象と理解（１）西欧とオリエンタリズム」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。		
第6回	**英語によるインド文化表象と理解（２）トーマス・マコーリーの「インド」**	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
	この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「英語によるインド文化表象と理解（２）トーマス・マコーリーの「インド」」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。		
第7回	**英語によるインド文化表象と理解（３）「インド大反乱」におけるインド表象**	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
	この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「英語によるインド文化表象と理解（３）「インド大反乱」におけるインド表象」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。		
第8回	**英語によるインド文化表象と理解（４）ラドヤード・キプリングの「インド」**	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
	この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「英語によるインド文化表象と理解（４）ラドヤード・キプリングの「インド」　」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。		

第9回	**英語による日本文化表象と理解（１）日本における「東と西」** この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「英語による日本文化表象と理解（１）日本における「東と西」」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
第10回	**英語による日本文化表象と理解（２）ラフカディオ・ハーンの「日本」** この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「英語による日本文化表象と理解（２）ラフカディオ・ハーンの「日本」」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
第11回	**英語による日本文化表象と理解（３）ラドヤード・キプリングの「日本」** この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「英語による日本文化表象と理解（３）ラドヤード・キプリングの「日本」」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
第12回	**英語による日本文化表象と理解（４）太平洋戦争と日本表象** この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「英語による日本文化表象と理解（４）太平洋戦争と日本表象」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
第13回	**インドと日本　それぞれの文化表象について** この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「インドと日本　それぞれの文化表象について」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
第14回	**英語による表象の功罪** この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 「英語による表象の功罪」についての講義を行う。 講義のテーマについて、全員で議論を行う。	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
第15回	**異文化表象と理解についてのディスカッション** この授業の担当者は、教科書「Reading Trek!一英語で読む世界の15の物語」の担当個所の要旨を発表する。もし不明な点、疑問点があれば質問する。担当者以外の受講生は、担当者の要旨についてコメントや質問を行う。同様に英文で不明な点があれば質問する。 異文化表象と理解についてのディスカッションを行う。	授業で扱った教科書の英文について、十分理解できるように復習すること。もし不明な点があれば、次の授業の最初に質問するように準備をする。講義内容に関して、理解が深まるように復習を行うこと。次回の授業で扱う教科書の英文について、辞書をこまめに引いて内容を理解しておくこと。	4時間
第16回	**期末試験** 15回の授業で学習したことについて、筆記試験を行う。	これまで学習したことをしっかりと復習すること。	4時間

授業科目名	**言語文化交流論**				
担当教員名	又吉弘那				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本講義では「ことば」とは何か、「ことば」を知っているとはどのようなことか（言語知識）、人間はどのように言語を習得するのか（言語習得）、そして、言語と社会との関わりと影響を及ぼすのかを分析し、社会・文化・人との関わりを客観的事実を観察、分析、考察、記述することの初歩を学ぶ。日本語を含め、言語と文化の身近な問題で考察する。文字の発達や人の交流による言語文化の多様性についても言及する。授業は、講義形式であるが、世界の人たちがどのように言語文化交流しの上で人類が私たちと絆を結んでいるかを学ぶ。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	言語文化論仮説と言語の役割を把握できる	言語学がどのように社会、心理、認知、歴史、政治、経済に影響することを学ぶ
汎用的な力		
1 ．DP6.行動・実践		言葉、人、文化の意味、役割と絆をアクティブラーニングを通して学ぶことができる
2 ．DP4.課題発見		日常生活と言語の関わりと問題点を発見と把握する。
3 ．DP7.完遂		課題プロジェクトを完成すること。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業参加度	30%	： 予習・宿題・課題において評価する。
定期試験	20%	： 定期試験において評価する。
リサーチ	10%	： レポートとスピーチの参考文献をしっかり提示していることを評価します。
プレゼンテーション・スピーチ	20%	： 発表等を主体的に積極的に取り組んでいて、コミュニケーションに貢献できているかを評価します。
ペーパー・レポート	20%	： レポートをしっかり基準に沿って書いているかを評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
飯野公一	・ 新世代の言語学　社会・文化・人をつなぐもの	・ くろしお出版	・ 2006年

参考文献等

南 雅彦　「言語と文化 – 言語学から読み解くことばのバリエーション」　くろしお出版 2009/11/16

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業課題」プロジェクトに取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・授業は予習を前提として行われます。
・毎週、宿題がだされますので、翌週の授業にはそれを終えたうえで参加してください。欠席した場合には、各自でその週の宿題内容をクラスメートや教員に確認してください。
・授業ではテキストと配布プリントを使用します。忘れずにかならず持ってきてください。

履修科目の終了認定を行うため、１５回の授業期間とは別に定めている定期試験期間中、最終的な到達度を評価する試験を実施する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日お昼
場所：　個人研究室01　（西館2階）

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**言語定義、知識、能力、語形変化、音、文字と人間の関係** 「ことば」と社会・文化・人の関わりを学ぶことより何が理解できるかを考察し、今後の授業の展望を行う。	レポートを書き始める　ブレーンストーミング	4時間
第2回	**言語と人と文化** 人間の「ことば」の特性とは何か、「言葉」を知っているとはどのようなことかについて学ぶ。言語の特性について理解するために、人類の言語学習ビデオを言語資料として通用する。	レポートを書き続ける　テーマを見つける	4時間
第3回	**サピア・ウォーフ仮説と文化** 言語の特性を理解し、サピア・ウォーフ仮説を検証し、科学的に分析することを学ぶ。	レポートを書き続ける　的を絞る	4時間

第4回	**言語コミュニケーション** 世界言語12語族を概観する。英語域、日本語系統、や言語文化歴史を学ぶ。	レポートを書き続ける　アウトラインをつくる	4時間
第5回	**アコモデーション理論　（社会心理学）** アコモデーション理論を解説後、言語（方言・コードスィッチング）・民族・国家の関係について、他民族国家の例（米国、中国、インド、ヨーロッパ、アジア、日本）や国境の言語の重複等を学ぶ。	レポートを書き続ける　書く時の心得	4時間
第6回	**言語接触・選択と文化への影響** 言語の多様性について、言語の形態と語順を類型論（パーソナリティ）心理学で分析する。	レポートを書き続ける　読者のための文章	4時間
第7回	**言語と民族と国家** 世界の文字を概観し、その多様性を理解し、アルファベット、漢字、手話（サイン・ランゲージ）の発達を学習する。	レポートを書き続ける　形式の整った文章	4時間
第8回	**ことば・政治・経済** 人間はどのように言語を習得するかをその習得過程で理解する。	レポートを書き続ける　文献を探す	4時間
第9回	**Empowermentとは？** 言い違いや失語症を学び、社会の中で、どのように個人や集団が自らの意識決定で社会に貢献し、格差をなくす道のりを学習する。	レポートを書き続ける　要約	4時間
第10回	**バイリンガル教育社会** 言語と社会の関係を、地域、社会、盤面で考察する。	レポートを書き続ける　目次	4時間
第11回	**言語とアイデンティティの複合化** サピア・ウォーフ仮説と取り上げ、言語文化関係をアイデンティティの一部と考察する。	レポートを書き続ける　表と図	4時間
第12回	**言語の力** 言語には、どのような文化への影響があるのかを考察する。	レポートを書き続ける　参考文献	4時間
第13回	**ミディアリテラシーとは？** 外来語・若者言葉・ミディアでの言語変化について考察する。	レポートを書き続ける　最終チェック	4時間
第14回	**言語とジェンダーと社会的役割分担** 言語文化特徴を理解する。	レポートを提出	4時間
第15回	**ポリティカリー・コレクト　（言語凶器？）言語と行政** 性別による言語と文化の違いについて考察し、社会の中でどう使われるべきかについて理解を深める。 １５回の授業期間とは別に定めている定期試験期間中、最終的な到達度を評価する試験を実施する。	スピーチを発表	4時間

授業科目名	**スポーツ測定と評価**				
担当教員名	臼井達矢				
学年・コース等	1年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

学校体育において体力測定は毎年恒例の行事となっており、部活動だけでなくアスリートにおいても体力・フィジカルテストは競技種目の評価として実施されている。体力測定は身体資源のコンディションを評価することであり、選手の身体を様々な角度から精細に観察することができ、その選手自身の長所・短所を見つけ出す材料になりうる。また、一般市民や高齢者の体力測定は、豊かな生活を営むための運動機能の把握・確認することが健康増進に効果的である。様々な視点から体力に関する測定と評価を実施することは、重要なことと言える。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	体力測定・評価の意義	各年齢層における体力測定に対する理解とその評価を学び、実践することができる。
2 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	測定内容を理解したうえで、実験に対する実施方法を学び、実践することができる。	
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		測定に対する評価を行うことで疑問が生まれ、その疑問に対して課題遂行ができる。
2 ．DP5.計画・立案力		実験方法の計画をグループで立案することで、計画・立案力を養うことができる。
3 ．DP6.行動・実践		実験課題や計画に責任感を持つことで行動・実践力につながる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	35%	： 指示した課題に対してグループでの取り組み姿勢、レポート作成、結果報告などを総合的に評価する。
振り返りシート	15%	： 授業内容を踏まえてワークシートを完成できていれば２点とし、さらに自己の考えや具体的事例などを示していれば１点とする。これを全１５回実施する。
受講状況	10%	： 振り返りシートを記入し、自己の考えや具体的事例などを示していれば１点とする。内容不足または未提出の場合は０点とする。これを１５回実施する。
研究テーマおよびプレゼンテーション	40%	： グループで分担、協力し、責任を持ってやり遂げたかを、次の観点から評価する。1. 実験プロトコルの内容と作成方法、2. 実験準備と手順、3. データ処理および発表資料の作成、4, 発表と質疑・応答の対応。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

１）フィットネスシリーズ, 健康・スポーツの測定, 青木高, 太田壽城, 建帛社, 2000
２）運動生理学実習, 大槻伸吾・中村富予, 建帛社, 2012
３）スポーツ医科学基礎講座　測定と評価, 山本利春, 2001

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業終了後にて質疑・応答を行う。
場所：　各授業の実施場所
備考・注意事項：　詳細に関しては、授業初回時に伝える。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第第1回	**授業の進め方と評価についてオリエンテーション　-スポーツ測定と評価の意義-** 学校体育や運動部では体力測定を行っているが、その体力が競技種目にどのように影響するかまで把握できていないのが現状である。さらに測定だけで終わり、個々に対して十分なフィードバック（評価）できておらず、パフォーマンスが伸び悩んだり、スポーツ障害を引き起こす原因になることもある。そこで、スポーツ測定と評価では運動やスポーツに重要である体力要素を理解し、測定でけでなく評価までを実施する。	振り返りシート作成：各年齢層においての体力の必要性について完成させること。	4時間

第第2回	**文部科学省による「新体力テスト」の理解と実践（理論編）** 交通機関の発達や労働の機械化進み、からだを動かす機会の減少にともない子どもから高齢者の体力低下が指摘されている。 この体力の低下が将来、様々な病気を引き起ことはすでにわかっており社会問題となっている。 そこで文部科学省は、まず自分自身の体力把握することが重要であり、学校教育現場や地方自治体などで体力測定が実施されている。 この授業では体力測定の方法とその測定に関する体力要素について理解する。	振り返りシートの作成：文部科学省が定めている体力測定の内容と意義について完成させること。	4時間
第第3回	**文部科学省による「新体力テスト」の理解と実践（実践編）** 実践編では測定の準備から方法までを実施する。 測定後はグループで測定結果をまとめ、データをもとに評価を行う。	振り返りシートの作成：新体力測定の内容と方法について完成させること。	4時間
第第4回	**競技力向上に役立つ測定・評価　Ⅰ-瞬発力・スピード・敏捷性-** 近年、競技者向けに新たな体力測定（フィジカルテスト）がスポーツ選手や部活動で行われている。 特に、Ｓｐeed（スピード）：重心移動の速さ・Agility（アジリティ）：運動時に身体をコントロールする能力・Quickness（クイックネス）：刺激に反応して素早く動き出す能力が競技力のパフォーマンス向上には欠かせないことから、SAQ能力に関するフィジカルテストが求められている。 この授業では競技者におけるフィジカル測定法と評価方法について学習する。	振り返りシートの作成：フィジカル（SAQ）テストの測定内容と方法、意義について完成させること。	4時間
第第5回	**競技力向上に役立つ測定・評価　Ⅱ　-筋力測定法・RM法を用いた最大筋力-** レジスタンストレーニングは筋に一定以上の抵抗力（レジスタンス）をかけ、筋活力を高める運動である。近年では幅広い年齢層において筋力トレーニングが健康維持や競技力の向上に有効的であると報告されており、トレーニングの方法について学ぶことは運動処方の基本である。 トレーニングの効果を得るためには、挙上重量・反復回数やセット数、休憩時間および頻度を目的と個人の能力に合わせて、処方できる人材が必要とされている。この授業では、個々の筋力に関係する測定と評価を行い、競技目的に応じた運動処方ができるよう学習する。	振り返りシートの作成：筋力測定法であるRM法の測定方法と意義について完成させること。	4時間
第第6回	**競技力向上に役立つ測定・評価 Ⅲ-全身持久力の測定方法・有酸素性能力の算出-** 全身持久力は長時間、一定の強度の運動を続けることができる能力のことをいい、有酸素性能力とも呼ばれている。 有酸素性能力は競技パフォーマンスには欠かせないことや将来、生活習慣病や心疾患の発症・死亡率に関係している。 そのため全身持久力を把握し、維持・向上させることは様々な観点からも重要である。 そこでこの授業では、現場で実施されている測定法を用いて有酸素性能力を算出する。	振り返りシートの作成：最大酸素摂取量の測定内容の算出方法、意義について完成させること。	4時間
第第7回	**競技力向上に役立つ測定・評価 Ⅳ-血中乳酸濃度の測定方法・LTおよびOBLAの算出-** 乳酸は、運動中のエネルギー源であるATP（アデノシン三リン酸）の合成時にエネルギーを得るために糖を分解する過程で生成される代謝産物のこと。 乳酸は疲労物質ではなく筋収縮のエネルギー源として利用されるため血中に放出され別の筋へ移動する。乳酸の研究において、全身持久力（最大酸素摂取量）や筋繊維が多い人は、高い運動強度から乳酸がたまってこないことが証明され、持久力の指標やパフォーマンス向上には欠かせない評価基準である。 この授業では、実際に運動中の乳酸濃度を測定し、体力について評価する。	振り返りシート作成：エネルギー代謝（ATP）の測定内容と方法と意義について完成させること。	4時間
第第8回	**競技力向上に役立つ測定・評価　Ⅴ　-柔軟性の測定法-** 柔軟性は、からだの柔らかさのことである。筋などが硬いと正常に伸び縮みせず、関節の動きが円滑でなくなり、競技力の低下・スポーツ外傷・障害だけでなく膝痛や腰痛などのリスクが高まると指摘されている。これらのスポーツ障害予防や競技力との関連からも柔軟性に関する測定と身体各部位の柔軟性が障害発生や競技成績とどのような関係があるのかを評価する必要がある	振り返りシートの作成：柔軟性の測定内容と方法・意義について完成させること。	4時間
第第9回	**競技力向上に役立つ測定・評価 Ⅵ　-平衡性の測定法-** 身体の平衡性（バランス能力）は姿勢安定に関係しておりス、ポーツや運動はもちろん日常生活の身体活動に重要な役割を果たしている。近年では高齢者だけでなく取り巻く環境の変化により子どもまでもがバランス能力を失い、転倒からケガの発生まで発展しており、社会的問題となっている。また姿勢を安定させることは競技パフォーマンスである速く走ることや強い力を出すことにも大切であることから、平衡性（動的・静的バランス）に関する測定と評価をすることは意義がある。	振り返りシートの作成：平衡性の測定内容と方法・意義について完成させること。	4時間
第第10回	**高齢者に必要な体力測定法-健康維持・介護予防の観点-** 高齢者において、自立できる生活を維持することや介護状態をできる限り防ぐ（遅らせる）ことを目的とした、健康増進や介護予防が医療現場だけでなく各市町村で盛んに行われている。特に、運動機能の維持が高齢者の健康・介護予防に有効であると言われており、これらに関する体力因子の維持や増進は必要である。そこで高齢者特有の体力因子の把握だけでなく、測定とフィードバックができることにより、地域の活性化（地域貢献）に役立てれると考える。	振り返りシート作成：高齢者特有の体力因子および測定内容と方法、意義について完成させること。	4時間
第第11回	**運動におけるエネルギー消費量の計算-メッツ(METs：運動強度)法を用いて-** 運動種目における消費エネルギー量を把握することは、健康増進・体重管理において重要なことである。 この授業では、推定エネルギー必要量の算出方法やメッツ（METｓ：運動強）からエネルギー消費量の算出について理解し、運動処方に役立てる。	振り返りシート作成：基礎代謝とエネルギー消費量の測定内容と方法、意義について完成させること。	4時間
第第12回	**運動指導中の測定と管理の実際-カルボーネン法とRPE（主観的運動強度）を用いて-** 近年ではオーバーワークによるケガや突然死が部活動だけでなくアスリート選手に多く発症している。 このことからも運動中の心拍数、主観的な運動強度を把握することで、ケガや突然死と言ったスポーツ障害を未然に防ぐことができる。 また個々によって「心臓の強さ」・「肺機能」・「筋量」が違うため、その選手の体力に目的に合った心拍数と運動強度を処方することができれば、安全管理だけでなく競技力のパフォーマンス向上にも有効的である。また、運動中の安全管理やスポーツ医学の知識を身に付けた人材が現場では必要とされている。 そこで、この授業では様々な運動種目を通じて、心拍数の確認と個人に合った心拍数の算出方法、運動強度の確認を行う。	振り返りシートの作成：カルボーネン法と主観的運動強度の測定内容と方法、意義について完成させること。	4時間
第第13回	**測定・評価の実施、データ加工、フィードバックの実際**	振り返りシート作成：データ処理における統計について完成させること。	4時間

	前回までは、測定内容の把握を実技を交えながら行った。この授業では今まで実施した、測定データを統計を利用して、処理とグラフを作成する。 またデータ結果を踏まえ、先行研究を引用しながら考察・まとめまでを作成する。		
第第14回	**測定と評価の実際　Ⅰ-測定と評価における実験プロトコルの作成と実験-** グループで測定と評価における実験プロトコルを作成し、その実験を実施する。 実験終了後はその実験で得た、データを統計で処理し、まとめまでの作業を行う。	発表に向けての資料を完成させること。	4時間
第第15回	**測定と評価の実際　Ⅱ-測定と評価における実験プロトコルと実験結果の発表-** 実験テーマについての発表と今後の発展について発表形式で実施する。 また、その発表に関する内容や疑問を討論しあう。	振り返りシート作成：実験における達成度と発展について完成させること。	4時間

授業科目名	**スポーツトレーニング理論演習**				
担当教員名	岸本恵一				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

スポーツパフォーマンス向上や運動・スポーツの技能向上を目的とした各種トレーニングについて学ぶ。またトレーニングをより深く理解するための機能解剖学や運動生理学、トレーニング科学などについても学びを深める。身体の構造や機能、発育発達に応じた、かつ学術的根拠が明確なスポーツトレーニングを学ぶことで、体育授業および課外活動での活用が可能となるような授業展開とする。また各種スポーツトレーニングの実践を通じて基礎体力の向上と運動・スポーツの楽しさを体験し、健康教育を実施していく上での礎とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	各種スポーツトレーニングにおける専門的な知識および技術の獲得	各種競技の特徴を理解した上で、パフォーマンス向上のためのトレーニング指導ができる

汎用的な力

1．DP6.行動・実践	各種トレーニングの理論を理解、実践・指導ができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回の出席を求める。また規定回数以上の出席がなければ授業放棄とみなし、成績評価は行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
積極的な授業参加と共同活動の遂行 50%	：	積極的参加および共同活動とは、得手不得手に関わらず能動的に実習へ参加することと、チーム間での協力関係を評価する
授業中の課題レポート 20%	：	出題内容に対して論理的に考察し、適切にまとめられているかを評価する
実技試験 30%	：	指定されたトレーニングについて実践・指導が可能なレベルに到達しているかを評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
授業外学修に取り組むことに加え、毎回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習することが必要となる。
なお、実技については原則指定のジャージとし、外傷予防の観点から眼鏡・ピアスを含めた服飾品は取り外しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 15：00-17：00
場所： 非常勤講師室
備考・注意事項： 急を要する場合はメールにて対応する。
lions_kishimoto@yahoo.co.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（授業評価方法と授業の目的について）** 本科目の目的と授業実施上の注意点、評価基準などについて説明する	トレーニングとはどのようなものかについて調べておく	4時間
第2回	**スポーツトレーニングを理解する上で重要な基礎科目について** 機能解剖学や運動生理学などの履修がどのようにスポーツトレーニングの実技に関係するのかを学習する	特に運動生理学について予習しておく	4時間
第3回	**筋肥大・筋力向上を目的としたスポーツトレーニング―上半身を中心に―** 上半身を中心としたレジスタンストレーニングを様々な負荷形態を用いて学習する	肩関節の機能解剖学について予習しておく	4時間
第4回	**筋肥大・筋力向上を目的としたスポーツトレーニング―下半身を中心に―** 下半身を中心としたレジスタンストレーニングを様々な負荷形態を用いて学習する	足関節および膝関節の機能解剖学について予習しておく	4時間
第5回	**筋肥大・筋力向上を目的としたスポーツトレーニング―体幹部を中心に―** 体幹部（特に腹・背筋）を中心としたレジスタンストレーニングを様々な負荷形態を用いて学習する	「腹筋」の構造について理解しておく	4時間
第6回	**パワー向上を目的としたスポーツトレーニング―オリンピックリフト―**	オリンピックリフトについて調べておく	4時間

	オリンピックリフトの適切なテクニックおよび実践について学習する		
第7回	**パワー向上を目的としたスポーツトレーニング―プライオメトリクス―** ジャンプ系のトレーニングを通じてパワーの向上を学ぶとともに、各年齢層に応じたトレーニング処方についても学習する	骨端線障害について調べておく	4時間
第8回	**スピード、走力向上のスポーツトレーニング** スピードおよび走力の向上を目的としたトレーニングについて、グループに分かれトレーニングメニューの考案をおこなう。	スピードの科学的基礎について予習しておく	4時間
第9回	**アジリティ、クイックネス向上のスポーツトレーニング** 各年代に実践可能なアジリティ、クイックネストレーニングをグループに分かれ考案する。	アジリティとはなにかを理解しておく	4時間
第10回	**バランス、コーディネーション向上のスポーツトレーニング** バランス向上に関する基礎を学ぶとともに、各種トレーニングを実践する	固有感覚受容器についてまとめておく	4時間
第11回	**持久力向上のためのスポーツトレーニング** 有酸素性持久力および無酸素性持久力に分けて、それぞれの特徴を理解した上でトレーニングを実践する	呼吸循環機能について理解しておく	4時間
第12回	**柔軟性向上のためのスポーツトレーニング** 各種ストレッチングの実施場面や効果について学ぶとともに、適切な指導ができるようになることを目標とする	柔軟性に関する国内の動向を調べておく	4時間
第13回	**競技種目別スポーツトレーニング―球技系―** 各グループに分かれ、競技スポーツの特徴を踏まえた上で実践的なトレーニングを指導する。 また指導内容についてはレポートにまとめる	各競技の特徴をしっかりと調べておく	4時間
第14回	**競技種目別スポーツトレーニング―格闘技・個人種目系―** 各グループに分かれ、競技スポーツの特徴を踏まえた上で実践的なトレーニングを指導する。 また指導内容についてはレポートにまとめる	各競技の特徴をしっかりと調べておく	4時間
第15回	**スポーツトレーニングの安全管理** スポーツトレーニングに伴う外傷・障害を明らかとし、安全管理を含めた予防対策について学習する	外傷と障害について調べておく	4時間

授業科目名	コンディショニング理論演習				
担当教員名	岸本恵一				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

各種コンディショニング技術による身体の構造および機能的変化について、現在のトレンドやを踏まえつつ、その学術的根拠を明確にするとともに、スポーツ現場のみならず教育現場においても発育発達段階に応じた応用が可能となる術について模索する。また実践を通じて基礎体力の向上と運動・スポーツの楽しさを自らが体験し、体育授業および健康教育を実施していく上での礎とする。またコンディショニングを学ぶ上で重要となる運動生理学や病理学などについても解説することで更なる学びの深化をはかる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	各種コンディショニングの専門的な知識および技術の獲得	身体の構造と機能を理解した上で、コンディショニング指導ができる

汎用的な力

1．DP6.行動・実践		各種コンディショニングの理論的根拠を示しながら、実践・指導ができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回の出席を求める。また規定回数以上の出席がなければ授業放棄とみなし、成績評価は行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
積極的な授業参加と共同活動の遂行 50%	：	積極的参加および共同活動とは、得手不得手に関わらず能動的に実習へ参加することと、チーム間での協力関係を評価する
授業中の課題レポート 20%	：	出題内容に対して論理的に考察し、適切にまとめられているかを評価する
実技試験 30%	：	指定されたコンディショニング技術について実践・指導が可能なレベルに到達しているかを評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
授業外学修に取り組むことに加え、毎回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習することが必要となる。
なお、実技については原則指定のジャージとする。なお、外傷予防の観点から眼鏡・ピアスを含めた服飾品は取り外しておくことが望ましい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 15：00-17：00

場所： 非常勤講師室

備考・注意事項： 急を要する場合はメールにて対応する。
lions_kishimoto@yahoo.co.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（授業評価方法と授業の目的について）** 本科目の目的と授業実施上の注意点、評価基準などについて説明する	コンディショニングとはどのようなものかについて調べておく	4時間
第2回	**トレーニング科学の理解** トレーニング科学におけるコンディショニングの位置づけと実際について学ぶとともに、運動生理学や病理学などとの相互関係についても理解する	運動生理学の基礎について予習しておく	4時間
第3回	**コンディショニングとしてのストレングストレーニング―筋力トレーニングの基礎と実践―** コンディショニングにおけるストレングストレーニングの重要性の理解と各手法について理解する	ストレングスの意味を理解しておく	4時間
第4回	**コンディショニングとしてのストレングストレーニング―体幹―** 体幹部のコンディションを維持する上で重要となるストレングスとは何かについて学習する	体幹部の機能解剖学を理解しておく	4時間
第5回	**コンディショニングとしてのストレングストレーニング―四肢―** 四肢のストレングストレーニングとコンディショニングの関係について学ぶ	上・下肢の機能解剖学を理解しておく	4時間
第6回	**ウォーミングアップの基礎**	パフォーマンスと何かについて理解しておく	4時間

	運動前の準備におけるコンディショニングの役割とその実践をおこなう		
第7回	**クーリングダウンの基礎** クーリングダウンが身体に及ぼす効果について実践を通じて学ぶ	柔軟性について予習復習をしておく	4時間
第8回	**コンディショニングとしてのストレッチング** ストレッチングの効果と限界について学ぶとともに、実践・指導ができることを目指す	ストレッチングの効果をまとめておく	4時間
第9回	**コンディショニングとしてのアイシング** アイシングの生理学的メカニズムについて学習する	アイシングとは何かを調べておく	4時間
第10回	**テーピングの実践ー足関節捻挫に対するテーピングー** コンディショニングとしてのテーピングの活用方法	足関節の解剖を理解しておく	4時間
第11回	**テーピングの実践ー様々な外傷に対するテーピングー** 外傷予防やパフォーマンス向上、症状の緩和を目的としたテーピング手法について	痛みのメカニズムについて調べておく	4時間
第12回	**コンディショニングの測定と評価** コンディショニングの評価とその活用方法	スポーツにおける測定評価をまとめておく	4時間
第13回	**年代別コンディショニングプログラムの作成（１）** 学童期を対象とした障害予防コンディショニングプログラムの立案	学童期の特徴を理解しておく	4時間
第14回	**年代別コンディショニングプログラムの作成（２）** 青少年を対象とした外傷・障害予防コンディショニングプログラムの立案	青少年の特徴を理解しておく	4時間
第15回	**コンディショニングと安全管理** 安全管理について学習する	外傷と障害について調べておく	4時間

432

授業科目名	**スポーツコーチング論**				
担当教員名	**中村泰介**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本授業は、スポーツ指導(コーチング)に関する専門的知識を習得し、指導(コーチング) を実践していく上で必要となる資質を理解し、各年代、各目的に応じた指導を展開できるスキルを習得する。また、昨今のスポーツ指導現場での様々な問題や課題に対して理解を深めると同時に、諸外国の優れたスポーツコーチングの事例を参照しながらスポーツコーチングの理念と実践方法を学んでいく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

指導(コーチング)の意義と役割を理解する

目標：

各年齢、目的に応じた指導(コーチング)を理解する

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見

近年、スポーツ指導現場における指導者の倫理的課題を理解し、学問としてのコーチング学が目指す理念と実践について学びを深めていく。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

授業の中で発表(スピーチ)を行います(受講人数によって変更する場合がある)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	50%	： スポーツ指導において、本授業で学んだスポーツコーチングの意義と役割を正しく理解しているか、また自らがスポーツ指導を実践する際に各年代、各目的に応じた計画、実行ができるか。
毎回の授業中の小レポート	30%	： 毎回授業の最後に確認テスト(2〜3問程度の論述式)を行います。
授業への取り組み	20%	： 授業への参加の様子及び授業中の質問(議論)や発表(受講人数によって変更します)の様子等を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『コーチング学への招待』，日本コーチング学会(編)，2017，大修館書店.
その他文献は授業で紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室
備考・注意事項： 初回の授業でアナウンスします

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**スポーツ・コーチング論ガイダンス(授業の進め方、評価方法、事前学習等)** 本講座「スポーツコーチング」について、授業のすすめかたを説明する。加えて、評価方法及び事前学習、参考文献等についても説明を行う。	スポーツコーチングを受講する前に、参考文献を熟読しスポーツ指導(コーチング)において重要なポイントを理解しておくこと。	4時間
第2回	**スポーツにおけるTeachingとCoaching** スポーツ指導におけるTeaching　・スポーツ指導におけるCoaching　・スポーツ実践における指導スタイルの文化的比較(諸外国との比較)	配布資料をもとに、スポーツ指導におけるTeachingとCoachingのそれぞれの特徴と役割に関して理解を深めておくこと。	4時間
第3回	**コーチング哲学とコーチング実践** ・コーチング哲学とは　・コーチング哲学と実践　・コーチング回路　・指導スタイルと指導者(コーチ)のパーソナリティ	配布資料をもとに、コーチング哲学及び指導スタイルと指導者(コーチ)のパーソナリティの関係に関して理解を深めておくこと。	4時間

第4回	**コーチングスキルとコミュにケーションスキル** ・コーチングに必要なスキル　・コーチングにおけるコミュニケーション　・選手(アスリート・生徒)とのコミュニケーション	配布資料をもとに最近のスポーツ指導現場における様々な事件等を調べておくこと。また、各事件に対する自らの意見もまとめておくこと。	4時間
第5回	**スポーツコーチングの倫理的理解** ・スポーツ指導における倫理(スポーツ倫理)　・スポーツ指導における体罰・暴力　・スポーツとドーピング問題　・スポーツに孕む諸問題	配布資料をもとに最近のスポーツ指導現場における様々な事件等を調べておくこと。また、各事件に対する自らの意見もまとめておくこと。	4時間
第6回	**テクノロジーとスポーツコーチング** ・近年のスポーツとテクノロジー　・スポーツ・インテリジェンス　・AI技術とスポーツ指導の協働	配布資料をもとに、近年のスポーツ現場におけるテクノロジーの利活用の事例を調べてまとめておくこと。また、コーチングにテクノロジー、AI技術が用いられている事例も調べておくこと。	4時間
第7回	**クロス・カルチャーの視点からみたスポーツコーチング①** ・クロス・カルチャーとは　・「文化的差異」から見るスポーツ指導とコミュニケーションのスタイル　・日本人指導者が海外で指導(コーチング)する事例	配布資料をもとに、「クロス・カルチャー」に関して理解を深め、文化的な違いから明らかになるスポーツ指導のスタイルについて自分の意見をまとめおくこと。	4時間
第8回	**クロス・カルチャーの視点からみたコーチング②** ・「文化的差異」からみたスポーツ指導(我が国の事例)　・「文化的差異」からみたスポーツ指導(コーチング)　・外国人指導者が日本において指導(コーチング)する事例	配布資料をもとに、前回に引き続き「クロス・カルチャー」に関して理解を深め、我が国(日本)に適したスポーツ指導のスタイルについて自分の意見をまとめおくこと。	4時間
第9回	**諸外国のコーチングスタイルとシステム** ・スポーツ育成指導における文化的比較(日本、フランス)　・国家主導による育成指導方法の事例(フランス)	配布資料をもとに、優れたスポーツコーチングの特徴について理解を深めておくこと。	4時間
第10回	**諸外国のコーチングスタイルとシステム** ・スポーツ育成指導における文化的比較(日本、スペイン、メキシコ)　・クラブ主導による育成指導方法の事例(スペイン)	配布資料をもとに、優れたスポーツコーチングの特徴について理解を深めておくこと。	4時間
第11回	**育成におけるコーチングの方法論** ・育成年代選手におけるコーチング　・年齢層、発達発育に応じたコーチング　・コーチングの計画・実践・振り返りと、コーチング哲学の意義	配布資料をもとに、育成年代選手におけるコーチング、発達発育(年齢層)に応じたコーチング、コーチングの計画・実践・振り返りと、コーチング哲学の意義について理解を深めておくこと。	4時間
第12回	**強化(アスリート)におけるコーチングの方法論** ・アスリートにおけるコーチング　・アスリートの心理面とコーチング　・コーチングの計画・実践・振り返りと、コーチング哲学の意義	配布資料と参考文献をもとに、・アスリートにおけるコーチング、コーチングの計画・実践・振り返りと、コーチング哲学の意義について理解を深めておくこと。	4時間
第13回	**アスリート・センタード・コーチングの理論と実践** ・アスリート・センタード・コーチングの理論　・アスリート・センタード・コーチングの実践例　・よりよいコーチング方法(選手にとってのスポーツ実践)の構築にむけた課題	配布資料、参考文献をもとに、・アスリート・センタード・コーチングの理論及び実践方法について理解を深めておくこと。	4時間
第14回	**日本におけるスポーツコーチングの実際と課題　発表(スピーチ)・討論** 日本におけるスポーツコーチングの実際と課題　・発表(スピーチ)　・討論(受講人数によって変更する場合がある)	配布資料、参考文献をもとに、日本におけるスポーツコーチングの歴史、及び現状と課題について理解を深め、発表に向けて意見をまとめておくこと。	4時間
第15回	**スポーツコーチング論のまとめ　発表(スピーチ)・討論** スポーツコーチング論のまとめ　・発表(スピーチ)　・討論(受講人数によって変更する場合がある)	配布資料、参考文献をもとに、日本におけるスポーツコーチングの歴史、及び現状と課題について理解を深め、発表に向けて意見をまとめておくこと。	4時間

授業科目名	**スポーツ栄養学**				
担当教員名	**藤井嵩子**				
学年・コース等	1年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

アスリートの競技力向上にはトレーニングだけでなく適切な栄養管理が重要である。この講義では、競技パフォーマンスやコンディション調整と関連した栄養素の機能・代謝などの基礎的な理論を解説し、アスリートの競技力向上を目指した栄養管理法などについて考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

栄養学の基礎的知識と競技生活やコンディショニングにおいて、栄養摂取の実践可能な専門知識や方法を修得することる。

目標：

・競技パフォーマンス、コンディションに関連する栄養素の機能や代謝を理解する。
・競技特性に応じた食事管理について理解する。・スポーツ栄養の現状と課題について理解する。

汎用的な力

1 ．DP5.計画・立案力

収集した資料から、アスリートの食生活における課題を検討できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合　　**評価の基準**

期末試験　70%　：　15回目の試験終了後に、授業の総合的評価として期末試験を実施する。

シャトルシート　10%　：　毎回の講義内容に対する、理解度や質問事項を提出させる。

振り返りシートおよびレポート　20%　：　毎回の講義内容に対する理解，関心度およびスポーツと栄養に関する知識を用い，指定の形式に沿って独自の意見を提示できているかという観点から評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：　授業後

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンスとスポーツ栄養に関する概説** 本授業概要を説明し、受講意識を確立する。知識レベルを確認するためのテストを行う。	生理学について予習しておいて下さい	4時間
第2回	**確認テストの返却と授業計画** 確認テストの返却。全体的にどの内容が苦手・得意を判断し、今後の授業計画を立てる。	生理学について予習をしてください。	4時間
第3回	**栄養・食事・健康・食品群** 基礎栄養学について理解する。栄養素、カテゴリー、食品群を確実に理解するとともに、なぜ運動をする必要があるのかを理解する。	栄養素とカテゴリーの復習をしておいて下さい。	4時間
第4回	**主要食品の栄養学的特徴** 主要食品の栄養学的特徴および消化吸収について	言葉の違いを理解しておいて下さい。	4時間
第5回	**ミネラル** アスリートにおける貧血の問題について理解し，貧血予防の食事について学ぶ。また、骨の健康問題および骨代謝について理解し，効果的なカルシウムの摂取について学ぶ.	本講義の意義を理解する。	4時間
第6回	**ビタミン** ビタミン・抗酸化物質と運動について理解する。	本講義の意義を理解しておいて下さい。	4時間
第7回	**身体作りのための食事**	本講義の意義を理解しておいて下さい。	4時間

	運動時におけるタンパク質代謝について理解し，身体づくりに必要なタンパク質摂取方法について学ぶ		
第8回	**競技選手における注目すべきビタミン** ビタミンの内、特に知っておくべき栄養素	本講義の意義を理解する。	4時間
第9回	**試合前の食事** 自分の食事調査を行う	本講義の意義を理解しておいて下さい。	4時間
第10回	**補食** 練習・試合時の食事	本講義の意義を理解しておいて下さい。	4時間
第11回	**エネルギー計算** 要因か算法を用いて1日の消費エネルギーを求める	メッツについて調べておいて下さい。	4時間
第12回	**サプリメント** アスリートとサプリメントの関係	自分が使用しているサプリメントを調べておく	4時間
第13回	**水分補給** 運動時の水分の役割，水分出納について理解し，環境に適した水分補給について学ぶ.	本講義の意義を理解しておいて下さい。	4時間
第14回	**グループワーク** 各グループにテーマを与えて、テーマに沿った食事を考える。	次回の授業で発表できるように纏めておいて下さい。	4時間
第15回	**グループワークの発表** 前回行ったグループワークをそれぞれ発表する	授業内容を整理	4時間

授業科目名	**機能解剖学**				
担当教員名	岸本恵一				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

人体の構造や機能を知ることは、運動やスポーツを学ぶ上で必須の基礎的学問である。運動機能の向上やハイパフォーマンスの発揮、無理のない動きや正確な動作を遂行・指導するためには、機能解剖学をより深く、かつ実践的観点から学ぶ必要がある。本講義では機能解剖学をより実践的な立場から捉え、体育授業および課外活動での活用が可能となるように授業展開していく。また機能解剖学的知識に基づいた各種の運動プログラムの作成が出来るようになる学習を深めていく。

養うべき力と到達目標

	具体的内容：	目標：
確かな専門性		
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	身体の構造と機能の基本的な知識を学び、実践応用について学ぶ	身体の構造と機能を理解し、様々な指導に応用できることを目指す
汎用的な力		
1 ．DP4.課題発見		それぞれの動きの成り立ちを機能解剖学的観点から考察し、応用をはかる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回の出席を求める。また規定回数以上の出席がなければ授業放棄とみなし、成績評価は行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
積極的な授業参加と共同活動の遂行 50%	：	積極的参加および共同活動とは、教員の質問などに対して積極的かつ適切に自身の考えをまとめ伝えることとし、共同作業とは課題に対しのチーム間での協力関係を評価する
授業中の課題レポートなど 20%	：	出題内容に対して論理的に考察し、適切にまとめられているかを評価する
筆記試験 30%	：	講義内容について十分な理解が得れていること及び応用可能なレベルに到達しているかで評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
授業外学修に取り組むことに加え、毎回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習することが必要となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 15：00-17：00
場所： 非常勤講師室
備考・注意事項： 急を要する場合はメールにて対応する。
lions_kishimoto@yahoo.co.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（授業評価方法と授業の目的について）** 本科目の目的と授業実施上の注意点、評価基準などについて説明する	機能解剖学的という用語を調べておく	4時間
第2回	**機能解剖学的の基礎知識（１）** 骨学・関節学・筋学について学ぶ	系統解剖学について調べておく	4時間
第3回	**機能解剖学的の基礎知識（２）** 動きの基本面や基本軸、用語について理解する	運動学について調べておく	4時間
第4回	**足関節の機能解剖学（１）** 足関節の構造と機能を理解する	足関節の局所解剖学について調べておく	4時間
第5回	**足関節の機能解剖学（２）** 各種動作における足関節機能解剖学的応用について知る	足関節の局所解剖学について予習復習しておく	4時間
第6回	**膝関節の機能解剖学（１）** 膝関節の構造と機能を理解する	膝関節の局所解剖学について調べておく	4時間
第7回	**膝関節の機能解剖学（２）** 膝関節の触診と機能検査および動作との関りを理解する	膝関節の局所解剖学について予習復習しておく	4時間
第8回	**股関節・大腿部の機能解剖学**	股関節および大腿部の局所解剖学について調べておく	4時間

	膝関節の構造と機能を理解し、肉離れ受傷における機能解剖学的考察をおこなう		
第9回	**体幹部（脊柱）の機能解剖学** 腰痛の機能解剖学について理解する	腰痛についてまとめておく	4時間
第10回	**肩関節の機能解剖学** 肩関節複合体の機能と構造、野球肩の機能解剖学	肩関節複合体をまとめておく	4時間
第11回	**肘・手関節の機能解剖学** 肘・手関節の構造と機能および肘関節の触診と機能検査および動作との関りを理解する	肘関節の局所解剖学を理解しておく	4時間
第12回	**機能解剖学に基づく運動プログラム処方** 機能解剖学的知識を用いたプログラムの作成と注意点	これまでの機能解剖学について予習復習をしておく	4時間
第13回	**上半身の運動における機能解剖学的運動プログラム** 各グループで与えられた課題について発表する	これまでの機能解剖学について予習復習をしておく	4時間
第14回	**下半身の運動における機能解剖学的運動プログラム** 各グループで与えられた課題について発表する	これまでの機能解剖学について予習復習をしておく	4時間
第15回	**機能解剖学と体育授業** これまでの知識を活かした安全で効果的な体育授業について考える	機能解剖学的知識を深めておく	4時間

1

授業科目名	**インテンシブ・リーディングⅠ**				
担当教員名	**長瀬慶來**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

パラグラフの内容を正確に理解し、それを口頭で表現できるようになる。
英語の論理的思考が、抽象から具体へと展開することを理解する。
トピックを理解することにより、パラグラフの論旨を大まかにつかみ取る能力を身につける。。
レトリックを読み解く技術を身につける。
意味が文脈によって産出されることを理解する
テクストを批判的に読み解く技術を学ぶ。
紙の辞書を引く意味を理解する。
紙の辞書が活用できるようになる。
最終的に、英語の論文を効果的に読み解くことができるようになる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	専門的文書の読解	専門的文書を正確に読み解くことができる

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見		自らの英語読解力の課題を発見し、それを解決することを学ぶ

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業の3分の2以上出席したものが評価の対象となる。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的参加	30%	： 授業に積極的に参加し、発表等を意欲的に行う
小課題の提出	30%	： 小課題を期限を守り提出し、内容的にも優れていること
最終課題	40%	： １５回の授業での学びをしっかりと身に着けて、質の高い最終課題が提出できること

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

紙の英和辞書を持参すること
例えば、旺文社『オーレックス英和辞典』

履修上の注意・備考・メッセージ

語学は演習科目です。毎時間遅刻しないで、全出席を目指しましょう。『継続は力なり』です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3時限目
場所： 研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**パラグラフとは？** パラグラフについて学ぶ	パラグラフリーディング	4時間
第２回	**トピックセンテンスとは？１** パラグラフの中心となる、トピックセンテンスについて学ぶ	トピックセンテンスについての学び１	4時間
第３回	**トピックセンテンスとは？２** トピックセンテンスの活用	トピックセンテンスについての学び２	4時間
第４回	**トピックセンテンスと論証部分** トピックセンテンスとそれを論証する部分について学ぶ	トピックセンテンスから論証へ	4時間
第５回	**パラグラフの統語構造１** パラグラフの統語構造について学ぶ１	パラグラフの統語構造分析１	4時間
第６回	**パラグラフの統語構造２** パラグラフの統語構造について学ぶ２	パラグラフの統語構造分析２	4時間
第７回	**パラグラフからディスコース構造へ１**	パラグラフからディスコース構造１	4時間

	パラグラフからディスコース構造へ　序論		
第８回	**パラグラフからディスコース構造２** パラグラフからディスコース構造へ　本論	パラグラフからディスコース構造３	4時間
第９回	**科学的論文の統語構造１** 科学的論文の統語構造について学ぶ１	科学的論文の統語構造分析１	4時間
第110回	**科学的論文の統語構造２** 科学的論文の統語構造について学ぶ２	科学的論文の統語構造２	4時間
第11回	**科学的論文の統語構造３** 科学的論文の統語構造について学ぶ３	科学的論文の統語構造３	4時間
第12回	**科学的論文の談話構造分析１** 科学的論文の談話構造について学ぶ１	科学的論文の談話構造分析１	4時間
第13回	**科学的論文の談話構造分析２** 科学的論文の談話構造について学ぶ２	科学的論文の談話構造分析２	4時間
第14回	**科学的論文の談話構造分析３** 科学的論文の談話構造について学ぶ３	科学的論文の談話構造分析３	4時間
第15回	**科学的論文の構造についてのまとめと振り返り** 授業のまとめと振り返りを行い、 最終課題の説明を行う。	最終課題の作成	4時間

1

授業科目名	**インテンシブ・リーディングⅡ**				
担当教員名	**長瀬慶來**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

パラグラフの内容を正確に理解し、それを口頭で表現できるようになる。
英語の論理的思考が、抽象から具体へと展開することを理解する。
トピックを理解することにより、パラグラフの論旨を大まかにつかみ取る能力を身につける。。
レトリックを読み解く技術を身につける。
意味が文脈によって産出されることを理解する
テクストを批判的に読み解く技術を学ぶ。
紙の辞書を引く意味を理解する。
紙の辞書が活用できるようになる。
最終的に、英語の論文を効果的に読み解くことができるようになる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	英語の専門的文献の読解	英語の専門的文献を正確に読み解くことができる

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見		自らの英語読解力の課題を発見し、それを解決することを学ぶ

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業の3分の2以上出席したものが評価の対象となる。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への積極的参加	30%	： 授業に積極的に参加し、発表等を意欲的に行う
小課題の提出	30%	： 小課題を期限を守り提出し、内容的にも優れていること
最終課題	40%	： １５回の授業での学びをしっかりと身に着け、最終課題を提出すること

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

紙の英和辞書を持参すること
例えば、旺文社『オーレックス英和辞典』

履修上の注意・備考・メッセージ

語学は演習科目です。毎時間遅刻しないで、全出席を目指しましょう。『継続は力なり』です。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3時限目
場所： 研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Intensive Reading 入門** Intensive Reading 入門	Intensive Reading の実例	4時間
第２回	**Topic Sentence, Paragraph, and Discourse** Topic Sentence, Paragraph, and Discourse	Topic Sentence, Paragraph, and Discourseの実例	4時間
第３回	**科学英語の統語構造１** 科学英語の統語構造の分析１	科学英語の統語構造１	4時間
第４回	**科学英語の統語構造２** 科学英語の統語構造の分析２	科学英語の統語構造２	4時間
第５回	**科学英語の統語構造３** 科学英語の統語構造の分析３	科学英語の統語構造３	4時間
第６回	**科学英語のディスコース分析１** The Role of Context in interpretation	科学英語のディスコース分析１	4時間

第７回	**科学英語のディスコース分析２** Topic and the representation of discourse content	科学英語のディスコース分析２	4時間
第８回	**科学英語のディスコース分析３** Staging and representation of discourse structure	科学英語のディスコース分析３	4時間
第９回	**科学英語のディスコース分析４** Information structure	科学英語のディスコース分析４	4時間
第110回	**科学英語のディスコース分析５** The nature of reference in text and in discourse	科学英語のディスコース分析５	4時間
第11回	**科学英語のディスコース分析６** Coherence in the interpretation of discourse	科学英語のディスコース分析６	4時間
第12回	**科学英語のディスコースを読む１** 科学英語のディスコースを読む１	科学英語のディスコース	4時間
第13回	**科学英語のディスコースを読む２** 科学英語のディスコースを読む２	科学英語のディスコース２	4時間
第14回	**科学英語のディスコースを読む３** 科学英語のディスコースを読む３	科学英語のディスコース３	4時間
第15回	**英語読解力のまとめとふりかえり　最終レポート課題** １５回の講義における英語読解力のまとめとふりかえりを行い、最終課題の制作のためのガイダンスを行う	最終課題の作成	4時間

1

授業科目名	**アカデミックライティングⅠ**				
担当教員名	**片山美穂**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、論文の構成方法やトピックの選び方等を学びながら、英語でのアカデミックなライティング力を身に付けることをに目的とする。実際にライティングを行いながら構成方法などを学び、同時に、順序や付加・敷衍、結論等の、よく論文で使用する言葉を、どのような英単語や表現を使用するのが適切かについて学ぶ。さらには、自分の書いたライティングを授業で発表することによって、自分の伝えたい内容をより正確に伝えることができるようになることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	英語でのライティング活動	論文でよく使用される語彙や表現を身に付けて、アカデミックな英語での発信力を高める

汎用的な力

1 ．DP8.意思疎通		英文でのライティングを通して、自分の意見や考えを伝える力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行いません。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題	30%	： 各ユニットで学習した、構成方法や、語彙や表現等について、適切に使用しているかについて評定します。
発表	20%	： 各ユニットで学習した、構成方法や、語彙や表現等について、適切に使用しているか、および正確に内容を伝えられているかについて評定します。
定期レポート	50%	： 授業で履修した、構成方法や、語彙や表現等の定着度について評定します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
一橋大学英語科	・ 英語アカデミック・ライティングの基礎	・ 研究社	・ 2015年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜4時限
場所： 研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション、1．0　アカデミック・ライティングの文化** リサーチ・ペーパーの作成の流れやトピックの選び方等について学修する	各自設定したトピックについて、ブレーン・ストーミングし、ノートにまとめる	4時間
第2回	**2．0　リサーチを始めるにあたって** 検索の仕方等について学修する	各自で設定したテーマについて実際に検索し、その結果をノートにまとめる	4時間
第3回	**3．0　リサーチ・ペーパーの構成** 主題文やアウトライン等について学修する	自分で設定したトピックについて、学修した主題文やアウトラインの書き方等を使用してライティングを行い、ノートにまとめる	4時間
第4回	**4．0　原稿を書く、4.1　本論を書く、 4.2　論旨の展開を分かりやすくするために　順序(1)** 本論の書き方等について学修する。また、論の順序を示す語彙や表現を使用して、ライティングを行う	論の書き方や、順序を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	4時間
第5回	**順序(2)** 第4回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	順序を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	4時間
第６回	**付加・敷衍(1)**	付加・敷衍を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	4時間

	付加・敷衍を示す語彙や表現を使用して、ライティングを行う		
第７回	**付加・敷衍(2)** 第6回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	付加・敷衍を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	4時間
第８回	**結論(1)** 結論を示す語彙や表現を使用して、ライティングを行う	結論を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	4時間
第９回	**結論(2)** 第8回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	結論を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	4時間
第１０回	**発表(1)** これまでに学修した、構成の仕方や、語彙や表現等を使用したライティングの発表を行う	発表の準備をする	4時間
第１１回	**因果関係(1)** 因果関係を示す語彙や表現を使用して、ライティングを行う	因果関係を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	4時間
第１２回	**因果関係(2)** 第11回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	因果関係を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	4時間
第１３回	**賛成・反対(1)** 賛成・反対を示す語彙や表現を使用して、ライティングを行う	賛成や反対を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	4時間
第１４回	**賛成・反対(2)** 第13回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	賛成や反対を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	4時間
第１５回	**発表(2)** これまでに学修した語彙や表現等を使用したライティングの発表を行う	発表の準備をする	4時間

1

授業科目名	**アカデミックライティングⅡ**				
担当教員名	**片山美穂**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、論文の体裁や引用の仕方等を学びながら、英語でのアカデミックなライティング力を身に付けることをに目的とする。実際にライティングを行いながら論文の体裁などを学び、同時に、逆説や対比、言い換え・補足等の、よく論文で使用する言葉を、どのような英単語や表現を使用するのが適切かについて学ぶ。さらには、自分の書いたライティングを授業で発表することによって、自分の伝えたい内容をより正確に伝えることができるようになることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	英語でのライティング活動	論文でよく使用される語彙や表現を身に付けて、アカデミックな英語での発信力を高める

汎用的な力

1 ．DP8.意思疎通		英文でのライティングを通して、自分の意見や考えを伝える力を身に付ける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行いません。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題	30%	： 各ユニットで学修した体裁や、語彙や表現等について、適切に使用しているかについて評定します。
発表	20%	： 各ユニットで学修した体裁や、語彙や表現等について、適切に使用しているか、および正確に内容を伝えられているかについて評定します。
定期レポート	50%	： 授業で履修した、体裁や、語彙や表現等の定着度について評定します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
・ 一橋大学英語科	・ 英語アカデミック・ライティングの基礎	・ 研究社	・ 2015年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜4時限
場所： 研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーション、逆説(1)** 逆説を示す語彙や表現を使用して、ライティングを行う	逆説を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	4時間
第２回	**逆説(2)** 第1回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	逆説を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	4時間
第３回	**対比(1)** 対比を示す語彙や表現を使用して、ライティングを行う	対比を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	4時間
第４回	**対比(2)** 第3回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	対比を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	4時間
第５回	**言い換え・補足(1)** 言い換え・補足を示す語彙や表現を使用して、ライティングを行う	言い換え・補足を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	4時間
第６回	**言い換え・補足(2)** 第5回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	言い換え・補足を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	4時間

第７回	**発表(2)** これまでに学修した、逆説や言い換え等の語彙や表現等を使用したライティングの発表を行う	発表の準備をする	4時間
第８回	**留保(1)** 留保を示す語彙や表現を使用して、ライティングを行う	留保を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	4時間
第９回	**留保(2)** 第8回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	留保を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	4時間
第１０回	**例示(1)** 例示を示す語彙や表現を使用して、ライティングを行う	例示を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	4時間
第１１回	**例示(2)** 第10回で書いたライティングの振り返りを行い、修正する	例示を表す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	4時間
第１２回	**4.3　序論・結論を書く、4.4　文章サンプル** 序論、結論の書き方等について学修する	序論と結論を示す語彙や表現を調べ、ノートにまとめる	4時間
第１３回	**5. 0　論文の体裁を整える** 論文のタイトルや書式等について学修する	タイトルや書式等について、ノートにまとめる	4時間
第１４回	**6. 0　さまざまな引用の仕方を学ぶ** 論文における引用等について学修する	自己の設定したトピックに関する書籍から、学修した引用方法でノートにまとめる	4時間
第１５回	**発表(2)** これまでに学修した、序論・結論の書き方や、語彙や表現等を使用したライティングの発表を行う	発表の準備をする	4時間

1

授業科目名	インタラクティブ・リスニングⅠ				
担当教員名	佐々木緑				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、リスニングスキルズⅠ，Ⅱで学んだストラテジーを統合的に利用し、一般的なトピックの英語の聞き取り演習を行います。授業では、リスニング教材で理解した内容を口頭や文書でまとめたり、その内容についての自分の意見を述べたりする演習も取り入れます。リスニング力とスピーキング、ライティング力を統合させた授業活動を行い、実際の言語使用の場面で役立つリスニング力の養成を目指す。同時に、将来リスニングの授業活動を計画する際に役立つ、授業法を学ぶ機会とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

毎回の授業でのリスニング課題で、英語を聞き取り、その内容に対して、質問したり、コメントしたりすることができる。

目標：

英語を聞き取り、その内容について自分の意見を述べることができる。

汎用的な力

1 ．DP8.意思疎通

授業中のペアワークやグループワークを通して、他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えることができる。グループワークでは、チームの中の自分の役割を理解し、遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
授業への参加度は、課題発表に取り組む姿勢、発表後の議論において、他者からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを評価する。
原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象となります。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業活動への積極的な参加	20%	：ペアやグループワークで、積極的に発言し、自分の役割を遂行していることに対して、教員の観察、振り返りシート等での自己チェックによって、A,B,Cの３段階で評価し、最終評価の20%として算入する。
宿題等の課題	20%	：毎回の授業で提出する課題を、A,B,Cの３段階で評価し、最終評価の40%として算入する。
中間課題	30%	：授業で示すルーブリックを用いて、各３0点満点で評価します。
期末レポート	30%	：授業で示すルーブリックを用いて、各３0点満点で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Richard R. Day 他	Impact Values	Longman	2005年

参考文献等

授業内で、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、最低でも毎回1時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。
授業の事前課題ができていない場合は、その課題に関する授業活動に参加できません。
原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象となります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜日4限
場所：　個人研究室
備考・注意事項：　メールでの質問等はsasaki-mi@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（**	Self choice listening 1	1時間

	・シラバスの確認（授業目的、計画、評価） ・授業準備課題のやり方、必要なアプリケーションの設定 ・Self choice listening課題 について		
第2回	**TOPIC 1: Values of peopl** Homework check (pair work) Listening Comprehension and summary	Self choice listening 2	1時間
第3回	**TOPIC 2: Values in relationship** Homework check (pair work) Discussion/speaking and writing	Self choice listening 3	1時間
第4回	**TOPIC 2: Values in relationship** Homework check (pair work) Listening Comprehension and summary	Self choice listening 4	1時間
第5回	**TOPIC 3: Values in the workplace** Homework check (pair work) Discussion/speaking and writing	スピーチ課題（授業でのスピーチ課題の自己評価と、修正、練習を行い、録音したものを提出）	1時間
第6回	**TOPIC 3: Values in the workplace** Homework check (pair work) Listening Comprehension and summary	Self choice listening 5	1時間
第7回	**TOPIC 4: Values in the family** Homework check (pair work) Discussion/speaking and writing	Self choice listening 6	1時間
第8回	**TOPIC 4: Values in the family** Homework check (pair work) Listening Comprehension and summary	Preparation for the mid-term presentation	1時間
第9回	**Mid-term presentation** Oral Presentation：Summary of the listeing material and personal opinion on the topic. Peer check	Self choice listening 7	1時間
第10回	**TOPIC 5: Values in the society** Homework check (pair work) Listening Comprehension and summary	Self choice listening 8	1時間
第11回	**TOPIC 5: Values in the society** Homework check (pair work) Discussion/speaking and writing	Self choice listening 9	1時間
第12回	**TOPIC 6: Additional topic 1** Homework check (pair work) Listening Comprehension and summary	Self choice listening 10	1時間
第13回	**TOPIC 6: Additional topic 1** Homework check (pair work) Discussion/speaking and writing	Preparation for the final presentation	1時間
第14回	**Final presentation** Oral Presentation：Summary of the listeing material and personal opinion on the topic. Peer check	Self choice listening 11	1時間
第15回	**Summary** Summary of the course Reflection	Reflection report	1時間

1

授業科目名	インタラクティブ・リスニングⅡ				
担当教員名	佐々木緑				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、インタラクティブ・リスニングIに引き続き、ニュースや大学の講義などより専門的な内容の教材を用いて、リスニング演習を行います。授業では、アカデミックリスニングに有効なスキル（授業内容の構成の理解、ノートテイキングなど）の演習も行います。また、 リスニング力とスピーキング、ライティング力を統合させた演習を行も取り入れ、よりアカデミックな場面での言語使用の場面で役立つリスニング力の養成を目指します。同時に、将来リスニングの授業活動を計画する際に役立つ、授業法を学ぶ機会とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	毎回の授業でのリスニング課題で、英語を聞き取り、その内容に対して、質問したり、コメントしたりすることができる。	英語を聞き取り、その内容について自分の意見を述べることができる。

汎用的な力

1 ．DP8.意思疎通	授業中のペアワークやグループワークを通して、他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えることができる。グループワークでは、チームの中の自分の役割を理解し、遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
授業への参加度は、課題発表に取り組む姿勢、発表後の議論において、他者からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを評価する。
原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象となります。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業活動への積極的な参加 20%	：	ペアやグループワークで、積極的に発言し、自分の役割を遂行していることに対して、教員の観察、振り返りシート等での自己チェックによって、A,B,Cの３段階で評価し、最終評価の20%として算入する。
宿題等の課題 20%	：	毎回の授業で提出する課題を、A,B,Cの３段階で評価し、最終評価の40%として算入する。
中間課題 30%	：	授業で示すルーブリックを用いて、各30点満点で評価します。
期末レポート 30%	：	授業で示すルーブリックを用いて、各30点満点で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で、適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、最低でも毎回1時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。
授業の事前課題ができていない場合は、その課題に関する授業活動に参加できません。
原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象となります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日4限
場所： 個人研究室
備考・注意事項： メールでの質問等はsasaki-mi@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** ・シラバスの確認（授業目的、計画、評価） ・授業準備課題のやり方、必要なアプリケーションの設定 ・Self choice listening課題 について	Self choice listening 1	1時間
第2回	**News 1**	Self choice listening 2	1時間

	Homework check (pair work) Note-taking, Listening Comprehension and summary		
第3回	**News 1** Homework check (pair work) Discussion/speaking and writing	Self choice listening 3	1時間
第4回	**News 2** Homework check (pair work) Note-taking, Listening Comprehension and summary	Self choice listening 4	1時間
第5回	**News 2** Homework check (pair work) Discussion/speaking and writing	スピーチ課題（授業でのスピーチ課題の自己評価と、修正、練習を行い、録音したものを提出）	1時間
第6回	**News 3** Homework check (pair work) Note-taking, Listening Comprehension and summary	Self choice listening 5	1時間
第7回	**News 3** Homework check (pair work) Discussion/speaking and writing	Preparation for the mid-term presentation	1時間
第8回	**Mid-term presentation** Oral Presentation：Summary of the listeing material and personal opinion on the topic. Peer check	Self choice listening 6	1時間
第9回	**New4** Homework check (pair work) Note-taking, Listening Comprehension and summary	Self choice listening 7	1時間
第10回	**New4** Homework check (pair work) Discussion/speaking and writing	Self choice listening 8	1時間
第11回	**Academic lecture 1** Homework check (pair work) Note-taking, Listening Comprehension and summary	Self choice listening 9	1時間
第12回	**Academic lecture 1** Homework check (pair work) Discussion/speaking and writing	Self choice listening 10	1時間
第13回	**Academic lecture 2** Homework check (pair work) Note-taking, Listening Comprehension and summary	Self choice listening 11	1時間
第14回	**Academic lecture 2** Homework check (pair work) Discussion/speaking and writing	Preparation for the final presentation	1時間
第15回	**Preparation for the final presentation** Oral Presentation：Summary of the listeing material and personal opinion on the topic. Peer check	Reflection report	1時間

1

授業科目名	**海外英語教育演習Ⅰ**				
担当教員名	**佐々木緑・長瀬慶來**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、１）海外での英語研修を経験し、日本の学校での英語教育との類似点・相違点について考え、英語教育についての知見を深めること、２）海外の学校（小学校・中学校・高等学校など）の視察を通して、日本とは異なる教育制度、教育法について知ること、３）視察先の学校の教員や児童・生徒、現地の大学生や留学生との交流を通して、グローバルコミュニケーション力の向上をはかることを、目標とする。事前事後の調査、ふりかえり、帰国後の発表を行うことで、海外研修での学びを深められるように指導する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	**目標**：
１．DP2.専門的知識・技能、職業理解	海外の英語教育、学校教育についての知見を深める。	海外と日本の英語教育、学校教育を比較し、それぞれの利点と問題について自分の意見を述べることができる。

汎用的な力

１．DP8.意思疎通	文化的背景の異なる人たちと効果的な意思疎通をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
事前学習課題	30%	： 研修前に行う、事前学習でのレポートについて、調査すべき内容がしっかりまとめられているか、研修中の学びの目標がしっかり定められているかで評価します。
研修中の日誌	20%	： 研修中の日誌について、その日の学びの記録、ふりかえり、次の日の学びの目標についてどの程度深く記述できているかを毎日A・B・Cの３段階で評価します。
研修後の発表	30%	： 研修での学びをPPTにまとめ発表したものを、事前に提示するルーブリックに基づき評価します。
期末レポート	20%	： 事前に提示するルーブリックに基づき評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて、授業中に紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

しっかりとした問題意識を持って、自ら学ぼうとする姿勢で、事前・事後学習および海外での研修に参加してください。
特に、海外研修中は、安全に研修を進められるように、必ず引率教員の指示に従い、勝手な行動を取らないようにしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日３限（佐々木）、水曜日３限（長瀬）
場所：　個人研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 研修参加のための手続き、スケジュール、研修の目的の確認	英語研修先についての調査	4時間
第２回	**英語研修先について** 現地での英語研修先についての調査内容の発表と確認	訪問先の学校についての調査(1)	4時間
第３回	**訪問先の学校について（１）** NIE(National Institute of Education)、シンガポールの日本人学校についての調査内容の発表と確認	訪問先の学校についての調査(2)	4時間
第４回	**訪問先の学校についての調査(2)** ジョホールバリの見学先の学校についての調査内容の発表と確認	異文化交流プログラムの準備	4時間
第５回	**現地での異文化交流プログラムについて** グループで準備してきた異文化交流プグラムを発表し意見交換をする。	危機管理講習資料の熟読	4時間
第６回	**研修参加のための危機管理講習（１）**	危機管理のためのケーススタディー課題	4時間

	海外旅行保険アプリの設定、現地での生活上の注意、緊急時の対応、連絡体制等についての講習		
第７回	**研修参加のための危機管理講習（2）** 様々な場面を想定し、どのように対応するべきかについてディスカッションを行う。	研修日誌の目標設定	4時間
第8-13回	**海外での研修** 海外での英語研修をとした英語教授法についての学習 海外の学校視察を通した教育システムについての学習 現地の児童、生徒、学生、留学生などとの異文化交流	日々の振り返り日誌	4時間
第14回	**事後学習（研修の振り返り）** 研修での学びについてのグループディスカッション	発表の準備	4時間
第15回	**事後学習（研修のまとめ発表）** 研修のまとめをPPTにまとめて発表する。	発表資料の校正と提出	4時間

1

授業科目名	**海外英語教育演習Ⅱ**				
担当教員名	**片山美穂・長瀬慶來**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	8
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

本科目では、長期（３－６ヶ月）の海外での研修を経験し、現地と日本の教育の類似点・相違点について考えます。現地での研修プログラムは教育学部で提供されているものから１つを選んで参加しますが、それぞれのプログラムでの現地研修を通して、外国語教育法についての知見を深めること、日本とは異なる教育制度、教育法について知ること、グローバルコミュニケーション力の向上をはかることを、目標とします。また、現地では科目担当者の指導の下、事前に計画したフィールド調査も実施します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	**目標**：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	海外の外国語教育・学校教育についての知見を深める。	海外と日本の英語教育、学校教育を比較し、それぞれの利点と問題について自分の意見を述べることができる。

汎用的な力

1 ．DP8.意思疎通	異なる文化的背景を持つ人たちと意思疎通ができ交流することができる。
2 ．DP4.課題発見	自らの研究課題を設定し、担当教員の指導のもと、現地でのフィールド調査を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		**評価の基準**
事前学習課題 20%	：	研修前に行う、事前学習でのレポートについて、調査すべき内容がしっかりまとめられているか、研修中の学びの目標がしっかり定められているかで評価します。
研修中のレポート 20%	：	研修中に、現地での学び・フィールド調査の記録、ふりかえり、次の学びの目標についてどの程度深く記述できているかについて定期的に提出してもらうレポートをA・B・Cの３段階で評価します。
研修後の発表 20%	：	研修での学びをPPTにまとめ発表したものを、事前に提示するルーブリックに基づき評価します。
期末レポート 40%	：	研修中に実施したフィールド調査および研修で学んだことをまとめたレポートを、事前に提示するルーブリックに基づき評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じて、授業中に紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

この科目は、英語力および１年次科目の履修状況の条件を満たし、教育学部で参加が認められた学生のみ履修することができます。
しっかりとした問題意識を持って、自ら学ぼうとする姿勢で、事前・事後学習および海外での研修に参加してください。
長期の研修になりますので、事前の危機管理講習をしっかりと理解し、自分の健康管理、安全管理は自己責任でしっかりと行ってください。現地滞在中は、常に法律（現地および日本の法律）を遵守した行動をとり、身に危険がおよぶ可能性のある行動は厳重に謹んでください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日４限（片山）、水曜日３限（長瀬）
場所： 個人研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 研修参加のための手続き、スケジュール、研修の目的の確認	滞在都市についての調査	4時間
第２回	**滞在都市について** 滞在都市についての調査内容の発表と確認	研修先のについての調査	4時間
第３回	**研修先について** 研修先の施設についての調査内容の発表と確認	研修プログラムについての調査	4時間
第４回	**研修プログラムについて** 研修プログラムについての調査内容の発表と確認	ホームステイ先についての調査	4時間

第５回	**ホームステイ先について** ホームステイについての調査内容の発表と確認	危機管理講習資料の熟読	4時間
第６回	**研修参加のための危機管理講習（１）** 外旅行保険アプリの設定、現地での生活上の注意、緊急時の対応、連絡体制等についての講習	危機管理のためのケーススタディー課題	4時間
第７回	**研修参加のための危機管理講習（２）** 様々な場面を想定し、どのように対応するべきかについてディスカッションを行う。	フィールド調査テーマの設定準備	4時間
第8回	**現地でのフィールド調査の準備（１）：テーマの設定** 現地で実施するフィールド調査のテーマの設定	フィールド調査のテーマに関する資料収集	4時間
第9回	**現地でのフィールド調査の準備（２）：関連資料の確認** 現地で実施するフィールド調査のテーマの背景知識の確認と指導	フィールド調査実施計画	4時間
第10回	**現地でのフィールド調査の準備（３）：フィールド調査の実施計画** 現地で実施するフィールド調査の実施計画の確認と指導	海外渡航準備	4時間
第11-58回	**海外での研修** 研修プログラムへの参加 現地でのフィールド調査の実施 定期的な（３ヶ月のプログラム：週１回、６ヶ月のプログラム：週２回）のミニレポート	事後学習（研修の振り返り）での報告の準備	4時間
第59回	**事後学習（研修の振り返り）** 研修で学んだことについての振り返りとディスカション	発表の準備	4時間
第60回	**事後学習（研修のまとめ発表）** 研修のまとめをPPTにまとめて発表する。	発表資料の校正と最終レポートまとめ	4時間

1

授業科目名	**教育インターンシップⅠ（中）**				
担当教員名	**田中譲・服部敬一・高橋昌由**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習。学校教育の意味や役割について、インターンシップ体験を個人で振り返ることやグループの話し合うことなどを通して学んでいきます。				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	田中譲　高等学校教諭・保健体育科（３１年），高等学校副校長（３年）（全１５回） 高橋昌由　高等学校教諭・外国語（英語）科（２６年），高等学校指導教諭（１年）・主幹教諭・首席（２年）（全１５回）				

授業概要

本科目は、実習の一環として位置づけられる。１年次に行った見学実習を受けて、長期にわたり教育現場での活動に継続的に取り組む中で、教員等の子どもにかかわる仕事に関する資質･能力を高めていく。毎回目的を持って活動し、子ども達とのかかわり方や専門教科を含む教科指導、その他の業務を体験するとともに、そこで得られるさまざまな気付き･学びを日誌に記録し、省察することで、業務内容と１日の流れを理解していく。さらに、記録に基づく交流を行い、自己の課題を明らかにした上で、教育インターンシップⅡの学びへとつなげる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	実際に教育現場に身を置くことによって、求められる専門的な知識や技能を理解し、また日常的な業務内容にも理解を深める。	教育者として求められる専門的知識・技能を的確に述べることができる。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	求められる専門的な知識や技能について、自身の課題を見出すことができる。
2 ．DP8.意思疎通	他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	20%	： ノート筆記、ワークシート等への取り組み、発言等の意欲的な受講態度をもとに評価する。
課題達成度	70%	： 日誌の記入内容（業務内容の理解度、課題発見及び課題克服への意欲や態度等）等をもとに評価する。
期末試験（レポート）	10%	： 自身の現場体験を真摯に振り返り、今後の学修への展望を持つことができているかをもとに評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業で連絡

場所： 初回授業で連絡

備考・注意事項： ＜授業外での質問の方法＞
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールおよびオフィスアワーでも対応する。
メールアドレスやオフィスアワーなどは初回の授業で周知する。
ただし、件名に「教育インターンシップⅠ：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価等について）** 本授業の目標・内容・課題・評価等を確認していきます。	授業で指示された課題に取り組むこと。	4時間
第2回	**インターンシップ活動の意義と目的および注意すべき事項について** インターンシップ活動の意義と目的および注意すべき事項を確認していきます。	インターンシップに臨むに当たって、必要な事項をまとめておく。	4時間

第3回	**インターンシップ先についての事前学習及び自らの目標課題設定** インターンシップ実習先についての事前学習内容を確認した上で、自らの目標課題を設定していきます。	インターンシップに臨むに当たって、実習先の園の概要について調べておく。	4時間
第4回	**インターンシップ報告書の記入と提出及び記録の記入について** インターンシップ先での事前訪問結果を明確化し、インターンシップ記録の記入法について学びます。	インターンシップ先の保育・教育方針及び内容、施設面等の特徴を詳しく調べ、まとめておく。	4時間
第5回	**インターンシップの省察（1）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第6回	**インターンシップの省察（2）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第7回	**インターンシップの省察（3）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第8回	**グループ討議　（1）** これまでのインターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第9回	**インターンシップの省察（4）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第10回	**インターンシップの省察（5）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第11回	**インターンシップの省察（6）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第12回	**インターンシップの省察（7）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第13回	**グループ討議　（2）** インターンシップでの学びをふりかえり、具体的な関わりのあり方を検討していきます。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第14回	**報告書作成と発表会について** インターンシップでの学びを明確化します。	これまでの現場体験を総括し、今後の課題を明確にする。	4時間
第15回	**まとめと質疑応答** インターンシップ全体を振り返ります。	他の受講生の振り返りを参考にし、今後の課題設定をさらに明確にする。	4時間

1

授業科目名	**教育インターンシップⅡ（中）**				
担当教員名	**田中譲・服部敬一・高橋昌由**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	田中譲　　高等学校教諭・保健体育科（３１年），高等学校副校長（３年）（１５回） 高橋昌由　　高等学校教諭・外国語（英語）科（２６年），高等学校指導教諭（１年）・主幹教諭・首席（２年）（全１５回）				

授業概要

本科目は、実習の一環として位置づけられる。教育インターンシップIを受けて、長期にわたり教育現場での活動に継続的に取り組む中で、教員等の子どもにかかわる仕事に関する資質･能力を高めていく。毎回目的を持って活動し、子ども達とのかかわり方や専門教科を含む教科指導、その他の業務を体験するとともに、そこで得られるさまざまな気付き･学びを日誌に記録し、省察することで、業務内容と１日の流れを理解していく。さらに、記録に基づく交流を行い、自己の課題を明らかにした上で、教育インターンシップⅡを完成する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	目標：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	実際に教育現場に身を置くことによって、求められる専門的な知識や技能を理解し、また日常的な業務内容にも理解を深める。	教育者として求められる専門的知識・技能を的確に述べることができる。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	求められる専門的な知識や技能について、自身の課題を見出すことができる。
2 ．DP8.意思疎通	他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	20%	： ノート筆記、ワークシート等への取り組み、発言等の意欲的な受講態度をもとに評価する。
課題達成度	70%	： 日誌の記入内容（業務内容の理解度、課題発見及び課題克服への意欲や態度等）等をもとに評価する。
期末試験（レポート）	10%	： 自身の現場体験を真摯に振り返り、今後の学修への展望を持つことができているかをもとに評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業で連絡

場所：　初回授業で連絡

備考・注意事項：　＜授業外での質問の方法＞
質問は授業の前後にも答えるが、Ｅメールおよびオフィスアワーでも対応する。
メールアドレスやオフィスアワーなどは初回の授業で周知する。
ただし、件名に「教育インターンシップⅠ：質問：○○○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、氏名を必ず明記すること。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価等について）** 本授業の目標・内容・課題・評価等を確認していきます。	授業で指示された課題に取り組むこと。	4時間
第2回	**インターンシップ活動の意義と目的および注意すべき事項について** インターンシップ活動の意義と目的および注意すべき事項を確認していきます。	インターンシップに臨むに当たって、必要な事項をまとめておく。	4時間

第3回	**インターンシップ先についての事前学習及び自らの目標課題設定** インターンシップ実習先についての事前学習内容を確認した上で、自らの目標課題を設定していきます。	インターンシップに臨むに当たって、実習先の園の概要について調べておく。	4時間
第4回	**インターンシップ報告書の記入と提出及び記録の記入について** インターンシップ先での事前訪問結果を明確化し、インターンシップ記録の記入法について学びます。	インターンシップ先の保育・教育方針及び内容、施設面等の特徴を詳しく調べ、まとめておく。	4時間
第5回	**インターンシップの省察（1）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第6回	**インターンシップの省察（2）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第7回	**インターンシップの省察（3）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第8回	**グループ討議　（1）** これまでのインターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第9回	**インターンシップの省察（4）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第10回	**インターンシップの省察（5）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第11回	**インターンシップの省察（6）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第12回	**インターンシップの省察（7）** インターンシップでの学びをふりかえります。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第13回	**グループ討議　（2）** インターンシップでの学びをふりかえり、具体的な関わりのあり方を検討していきます。	現場体験をもとに、自身の課題を明確にする。	4時間
第14回	**報告書作成と発表会について** インターンシップでの学びを明確化します。	これまでの現場体験を総括し、今後の課題を明確にする。	4時間
第15回	**まとめと質疑応答** インターンシップ全体を振り返ります。	他の受講生の振り返りを参考にし、今後の課題設定をさらに明確にする。	4時間

1

授業科目名	**基礎ゼミⅡ**				
担当教員名	**寶學淳郎・長瀬慶來・服部敬一**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	服部敬一　小学校教諭（２３年），小学校教頭（５年），教育委員会指導主事（２年），小学校長（７年）（全１５回）				

授業概要

教職・保育専門職を志す学生に求められる様々な研究法の基礎について学び、研究とは何かを理解することが本授業の目的である。教育・保育のプロセスや対象となる幼児・児童を理解する上で重要な問いの立て方、さまざま研究方法（質問紙調査法、フィールド調査法、インタビュー法、授業分析など）を学び、実際に研究を遂行するためのスキルを体得する。また、研究を行う上での基本的なルールを理解し、研究倫理についても把握し、教育・保育をめぐる問題を分析するために必要な知識を修得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	**目標**：
1 ．DP2.専門的知識・技能、職業理解	研究の目的と方法	教職・保育専門職を志す学生に求められる様々な研究方法の基礎について学び、その特徴を理解する。

汎用的な力

1 ．DP4.課題発見	研究論文や研究方法を自らの課題と関連づけながら理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		**評価の基準**
授業への積極的参加（3点×15回） 45%	：	３点：授業外学修を極めて丁寧に行い、演習に積極的に取り組み、構想や実践に大きく貢献している。 ２点：授業外学修を丁寧に行い、演習に積極的に取んでいる。 １点：授業外学修をもとに、演習に参加している。
発表 40%	：	積極性や発表回数を考慮して評価する。
期末レポート 15%	：	試験期間に実施。研究を理解し、論理性のある研究レポートであれば10～12点、加えて独自の視点があれば12～15点、分析方法法と論理性のある研究レポート作成がほぼできていれば8～9点、不足であれば７点以下。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の演習であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後
場所：　授業の教室
備考・注意事項：　オフィスアワー等でも積極的に質問してください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：研究とは** 授業の趣旨、計画、評価方法を確認します。研究とは何かについてその概略を学びます。	卒業論文とは何かを調べてくる。	4時間
第2回	**卒業論文とは** 卒業論文とは何か、なぜ卒業論文を書くのか、その意図を理解し、卒業論文作成までのスケジュールを確認する。	これまでの教育学部の学びと照らし合わせて、自分の気になるテーマを考えてくる。また、教育学部の教員の専門分野について調べてくる。	4時間
第3回	**卒業論文のテーマの決め方** 問いを持つとはどういうことなのか、テーマを選ぶためにはどのようなことに留意したらよいのかを学ぶ。	先行研究という言葉の意味を調べてまとめてくる。	4時間
第4回	**先行研究とは何か**	気になる論文を各自で調べてくる。	4時間

	さまざまな研究分野を知り、先行研究を調べることの意味や、その探し方を理解する。		
第5回	**研究方法（１）質問紙調査法** 質問紙調査法についてその目的と方法を理解する。	授業を振り返りまとめてくる。	4時間
第6回	**研究方法（２）フィールド調査** フィールド調査についてその目的と方法を理解する。特に行動観察を通して対象者・児を理解する方法を知る。	授業を振り返りまとめてくる。	4時間
第7回	**研究方法（３）インタビュー調査法** インタビュー調査についてその目的と方法を理解する。	授業を振り返りまとめてくる。	4時間
第8回	**研究方法（４）授業分析** 授業分析についてその目的と方法を理解する。	授業を振り返りまとめてくる。	4時間
第9回	**論文の構成と記載方法** 論文の基本的な構成について理解した上で、さまざまな研究方法による記載法の違いも理解する。	配布された論文を読んでまとめてくる。	4時間
第10回	**文献による理解（１）質問紙調査法** 質問紙調査法を用いた研究論文を読んで理解する。	配布された論文を読んでまとめてくる。	4時間
第11回	**文献による理解（２）フィールド調査法** フィールド調査法を用いた研究論文を読んで理解する。	配布された論文を読んでまとめてくる。	4時間
第12回	**文献による理解（３）フィールド調査法** フィールド調査法を用いた研究論文を読んで理解する。	配布された論文を読んでまとめてくる。	4時間
第13回	**文献による理解（４）授業分析** 授業分析を行った研究論文を読んで理解する。	研究倫理についての配布資料に目を通しまとめてくる。	4時間
第14回	**研究倫理** 研究者に必要な研究倫理とその内容を理解する。また卒業研究に必要な研究倫理審査の手続きについて理解する。	最終レポートの作成	4時間
第15回	**まとめ** これまでの授業内容を振り返り、卒業研究の問いの立て方、研究方法の様々について理解できたかどうかを確認する。	シャトルシートの完成	4時間

1

授業科目名	**基礎ゼミⅢ**				
担当教員名	**寶學淳郎・長瀬慶來・服部敬一**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	服部敬一　小学校教諭（２３年），小学校教頭（５年），教育委員会指導主事（２年），小学校長（７年）（全１５回）				

授業概要

教職・保育専門職を志す学生に求められる様々な研究方法について学び、その特徴を理解することが本授業の目的である。教育的事象を分析していく上で理解しておくべき様々な研究方法（事例研究、観察法、実験法、質問紙調査法、インタビュー法）を学び、実際に研究を遂行するためのスキル（質的および量的研究の分析法や論文の記載法等）を体得する。また、研究を行う上での基本的なルールを把握し、教育・保育をめぐる問題を分析するために必要な知識を修得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性　　**具体的内容**：　　**目標**：

1 ．DP2. 専門的知識・技能、職業理解　　研究方法　　教職・保育専門職を志す学生に求められる様々な研究方法について学び、その特徴を理解する。

汎用的な力

1 ．DP4. 課題発見　　研究論文や研究方法を自らの問題と関連づけながら理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合　　**評価の基準**

授業への積極的参加（3点×15点）　45%　：　３点：授業外学修を極めて丁寧に行い、演習に積極的に取り組み、構想や実践に大きく貢献している。
２点：授業外学修を丁寧に行い、演習に積極的に取んでいる。
１点：授業外学修をもとに、演習に参加している

発表　5%　：　積極性や発表回数を考慮して評価する。

文献研究（5点×4回）　20%　：　研究方法と内容理解ができていれば4点、加えて独自の視点からの考察があれば5点、研究方法と内容理解がほぼできていれば3点、いずれかがほぼできていれば2点、いずれかに不足があれば1点。

期末レポート　30%　：　試験期間に提出。方法を理解し論理性のある研究レポートであれば10～11点、独自の視点があれば12～15点、方法の理解と論理性のある研究レポート作成がほぼできていれば8～9点、不足があれば7点以下。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業時に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後
場所：　授業の教室
備考・注意事項：　オフィスアワー等でも積極的に質問してください。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：研究へのいざない** 科目の主旨、計画、評価方法を確認します。研究とは何かについての概要を学びます。	次回の論文を読んで論点をまとめる。	4時間
第2回	**研究分野と方法を知る（１）　教育学・保育学の文献研究** 教育学・保育学の研究内容と、文献研究の方法を学びます。	次回の論文を読んで論点をまとめる。	4時間
第3回	**研究分野と方法を知る（２）　教育・保育方法の事例研究** 教科教育・保育方法の研究内容と、事例研究の方法を学びます。	次回の論文を読んで論点をまとめる。	4時間
第4回	**研究分野と方法を知る（３）　教育心理学の実験研究** 教育心理学の研究内容と、実験研究法を学びます。	次回の論文を読んで論点をまとめる。	4時間

第5回	**研究分野と方法を知る（４）　教育社会学の観察（フィールドワーク）研究** 教育社会学の研究内容と、観察法（フィールドワーク）を学びます。	研究内容と方法について、自分の関心を見つめる。	4時間
第6回	**質問紙調査法（１）　質問紙の作成** 質問紙調査法の概要と、質問紙の作成方法を学びます。	質問紙調査で検討したいことを考える。	4時間
第7回	**質問紙調査法（２）　質問紙調査の分析方法** 分析の視点を検討し、データ分析の方法を学びます。	データ分析をやってみる。	4時間
第8回	**質問紙調査法（３）　データ分析と結果の整理** データ分析の結果を読み、考察します。	レポート作成に向けて、文献を探す。	4時間
第9回	**質問紙調査法（４）　量的研究レポートの作成方法** 図表の作成や、レポート作成の方法を学びます。	レポートを完成させる。	4時間
第10回	**質問紙調査法（５）　調査結果の発表** 調査結果レポートを交流し、議論します。	他の人の発表や意見を聞き、参考になったことをピックアップしておく。	4時間
第11回	**インタビュー法（１）　インタビュー項目の作成** インタビュー法の概要を学び、インタビュー項目を考えます。	インタビュイーを探し、アポイントをとる。	4時間
第12回	**インタビュー法（２）　インタビュー・データの分析方法** 質的データの分析方法を学びます。	インタビューをしてみる。	4時間
第13回	**インタビュー法（３）　インタビュー・データの分析** インタビュー・データを分析し、結果を整理し、考察します。	レポート作成に向けて、文献を探す。	4時間
第14回	**インタビュー法（４）　質的研究レポートの作成方法** 質的データに基づく研究レポートの作成方法を学びます。	レポートを完成させる。	4時間
第15回	**インタビュー法（５）　インタビュー結果の発表** インタビュー結果報告を交流し、議論します。	他の人の発表や意見を聞き、参考になったことをピックアップしする。	4時間

1

授業科目名	**キャリア基礎Ⅱ**				
担当教員名	**寶學淳郎・松田修**				
学年・コース等	2年	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	・小学校教諭、教育委員会、校長を務める。（1回～8回） ・教育現場で教育課題等についての計画・改善を推進する。また、教育委員会で教育行政についても経験を深める。				

授業概要

教職を志す学生に求められる基礎的知識を学習し、教育をめぐる諸問題にアプローチするための視座を獲得することが本授業の目的である。授業では演習を取り入れ、参加者が主体的に知識の習得につとめる。また、教育問題に関して、論述と議論を重ねることで、授業参加者の問題意識を深めてゆく。前半は教育課程、学修指導要領の変遷、新学習指導要領の内容と背景などを中心に学び、後半は教育とは何か、学校の成り立ち、日本の教育史を中心に学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

	具体的内容：	**目標**：
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	教職教養の基礎知識の獲得	学校教育に関する教職基礎を学び、教職についてのスタンダードな知識を身につけることができる。

汎用的な力

1 ．DP6.行動・実践		取得した知識を多様なエビデンスと結びつけ、的確に課題を発見するとともに、その課題に対して妥当な解決策を構想することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		**評価の基準**
シャトルシート 40%	：	授業毎にシャトルシートの提出を求め、評価の対象とする。シャトルシートは、授業の内容が的確に纏められているか、授業内容に対する自分の意見が記述されているかを評価する。
定期試験 20%	：	定期試験期間中に実施する。授業内容について的確に把握できているかを確認する筆記テスト（穴埋め及び記号選択、論述等）を実施する。
８回目テスト 20%	：	第２回～７回の基礎知識の定着を確認し、学修状況をふりかえる。
15回目テスト 20%	：	第９回～14回の基礎知識の定着を確認し、学修状況をふりかえる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

寶學：『やさしい教育原理』第３版　田島一他　有斐閣アルマ　2016年
松田：『中学校学習指導要領解説　総則編』　文部科学省　平成29年7月

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業時間の前後
場所：　授業教室
備考・注意事項：　その他、オフィスアワー等の連絡方法は、初回授業時に連絡します。。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講義の目的、概要，評価についてのオリエンテーション（担当：寶學淳郎・松田修）** 講義の目的、概要，評価について学習する。教職とは「何か」について、その意義や役割について考える。	講義の目的、概要，評価について理解を深める。	4時間
第2回	**教育課程と学習指導要領（担当：松田修）** 教育課程の意義や内容に関することを理解するとともに学習指導要領との関連について学ぶ。	学習内容を配布プリントを基に復習し、教育課程と学習指導要領についての意義と関連について理解を深める。	4時間
第3回	**学習指導要領の改訂と歴史的変遷　（担当：松田修）** 学習指導要領の歴史とその背景にある教育意識について学ぶ。	学習内容を配布プリントを基に復習し、学習指導要領の歴史的変遷とその背景についての理解を深める。	4時間
第4回	**「確かな学力」と学力低下論争（担当：松田修）** 学力低下論争についての議論をもとに、「確かな学力」が求められる背景や内容について学ぶ。	授業内容を配布したプリントを基に復習し、「確かな学力」に対する背景や内容についての理解を深める。	4時間

第5回	**新学習指導要領の基本的な考え方（１）「社会に開かれた教育課程」「資質・能力」　（担当：松田修）** 新学習指導要領のキーワードである「社会に開かれた教育課程」「資質・能力」を基に、新学習指導要領の基本的な考え方や学力観について学ぶ。	学習内容を配布プリントを基に復習し、学習指導要領の歴史的変遷とその背景についての理解を深める。	4時間
第6回	**新学習指導要領の基本的な考え方（２）「主体的・対話的で深い学び」「評価の観点」「カリキュラム・マネジメント」（担当：松田修）** 新学習指導要領のキーワードである「主体的・対話的で深い学び」「評価の観点」「カリキュラム・マネジメント」など、授業観、評価観をはじめカリキュラム・マネジメントについて学ぶ。	学習内容を配布プリントを基に復習し、新学習指導要領についての、授業観、評価観をはじめカリキュラム・マネジメントについての理解を深める。	4時間
第7回	**道徳教育・体験活動の充実と「豊かな心」（担当：松田修）** 道徳教育や体験活動が重視される背景や具体的な取り組みについて提言や答申を基に学ぶ。	学習内容を配布プリントを基に復習し、道徳教育・体験活動が重視される背景や取組について理解を深めることができる。	4時間
第8回	**前半（2～7回）のテストと振り返り　（担当：松田修）** 第2回～7回までの基礎知識の定着を確認し、学修状況をふりかえり、今後の計画を構想する。	授業内容及びテスト内容を復習し、知識の定着を目指す。	4時間
第9回	**教育とは何か（１）人間への問いと教育への問い、学ぶことと教えること（担当：寶學淳郎）** 人間への問いと教育への問い、学ぶことと教えることについて学ぶ。	授業内容を配付プリントを基に復習し、人間への問いと教育への問い、学ぶことと教えることについて理解を深める。	4時間
第10回	**教育とは何か（２）発達への助成的介入、教育と教化と形成（担当：寶學淳郎）** 発達への助成的介入、教育と教化と形成について学修する。	授業内容を配布プリントを基に復習し、発達への助成的介入、教育と教化と形成についての理解を深める。	4時間
第11回	**学校の成り立ち（担当：寶學淳郎）** 学校の成り立ちについて学修する。	授業内容を配布したプリントを基に復習し、学校の成り立ちについての理解を深める。	4時間
第12回	**日本の学校(1)近代以前の日本の学校（担当：寶學淳郎）** 近代以前の日本の学校について学修する。	授業内容を配布プリントを基に復習し、近代以前の日本の学校についての理解を深めることができる。	4時間
第13回	**日本の学校（2）日本の近代化と学校教育（担当：寶學淳郎）** 日本の近代化と学校教育について学修する。	授業内容を配布プリントを基に復習し、近代日本における学校教育についての理解を深める。	4時間
第14回	**日本の学校（３）戦後の新たな出発、その後の展開（担当：寶學淳郎）** 戦後の新たな出発、その後の展開について学修する。	授業内容を配布プリントを基に復習し、戦後の新たな出発、その後の展開について理解を深めることができる。	4時間
第15回	**後半（9～14回）のテストとふりかえり（担当：寶學淳郎）** 第9回～14回までの基礎知識の定着を確認し、学修状況を振り返り、今後の計画を構想する。	授業内容及びテスト内容を復習し、知識の定着を目指す。	4時間

1

授業科目名	**キャリア基礎Ⅲ**				
担当教員名	**寶學淳郎・松田修**				
学年・コース等	2年	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	・小学校教諭、教育委員会、校長を務める。（9回～15回） ・教育現場で教育課題等についての計画・改善を推進する。また、教育委員会で教育行政についても経験を深める。				

授業概要

教職を志す学生に求められる応用的知識を学習し、教育をめぐる諸問題を深く洞察するための視座を獲得することが本授業の目的である。授業では演習を取り入れ、参加者が主体的に知識の習得に努める。また、教育問題に関して、論述と議論を重ねることで、授業参加者の問題意識を深めていく。前半では西洋教育史を古典古代の教育、近代以前の共同体における子育て、子どもの発見と近代家族などを中心に学び、後半では教育制度と憲法・法律のかかわり、教員養成の歴史、教員の職務内容や義務などを中心に学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 ．DP1.幅広い教養やスキル	西洋教育史、教育制度など教職教養の基礎知識の獲得	西洋教育史、教育制度などに関する教職基礎を学び、教職についてのスタンダードな知識を身につけることができる。
汎用的な力		
1 ．DP6.行動・実践		取得した知識を多様なエビデンスと結びつけ、的確に課題を発見するとともに、その課題に対して妥当な解決策を構想することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
シャトルシート 40%	：	授業毎にシャトルシートの提出を求め、評価の対象とする。シャトルシートは、授業の内容が的確に纏められているか、授業内容に対する自分の意見が記述されているかを評価する。
定期試験 20%	：	定期試験期間中に実施する。授業内容について的確に把握できているかを確認する筆記テスト（穴埋め及び記号選択の形式）を実施する。
第８回目テスト 20%	：	第２回～第７回までの基礎知識の定着を確認し、知識の定着を目指す。
第15回目テスト 20%	：	第９回～第14回までの基礎知識の定着を確認し、知識の定着を目指す。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

寶學：『教育史入門』　森川輝紀・小玉重夫　放送大学教育振興会　2016年
松田：適宜、授業の中で紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業時間の前後
場所：　授業教室
備考・注意事項：　その他、オフィスアワー等でも質問を受け付けます。連絡方法は最初の授業で知らせます。

授業計画

			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講義の目的，概要，評価についてのオリエンテーション（担当：寶學淳郎・松田修）** 講義の目的，概要，評価について学習する。教育活動を実施するにあたり、様々な教育法規とのつながりがあることを学ぶ。	講義の目的，概要，評価について理解を深める。	4時間
第2回	**古典古代の教育（担当：寶學淳郎）** 古典古代の教育について学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し，古典古代の教育について理解を深める。	4時間
第3回	**近代以前の西洋の共同体における子育て（担当：寶學淳郎）** 近代以前の西洋の共同体における子育てについて学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し，近代以前の西洋の共同体における子育てについて理解を深める。	4時間
第4回	**近代市民革命と国民国家の形成（担当：寶學淳郎）** 近代市民革命と国民国家の形成について学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し，近代市民革命と国民国家の形成について理解を深める。	4時間
第5回	**子どもの発見と近代家族（担当：寶學淳郎）**	講義の内容を配付資料を用いて復習し，子供の発見と近代家族について理解を深める。	4時間

	子どもの発見と近代家族について学習する。		
第6回	**西洋の近代学校と義務教育（担当：寶學淳郎）** 西洋の近代学校と義務教育について学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し，西洋の近代学校と義務教育について理解を深める。	4時間
第7回	**子どもの世紀（担当：寶學淳郎）** 子どもの世紀について学習する。	講義の内容を配付資料を用いて復習し，子どもの世紀について理解を深める。	4時間
第8回	**前半（2～7回）のテストと振り返り** 第2回～7回までの基礎知識の定着を確認し、学修状況をふりかえり、今後の計画を構想する。 キーワードは、第2～7回にあげたもの全て。	授業内容やテスト内容を復習し、知識の定着を目指す。	4時間
第9回	**教育制度と学校制度（担当：松田修）** 日本国憲法や教育基本法をもとに、教育制度と憲法、法律との関わりについて学ぶ。	授業内容を配布プリントを基に復習し、憲法や法律と教育制度との関係を理解する。	4時間
第10回	**教員養成と免許制度（担当：松田修）** 戦後の教員養成の歴史について学ぶとともに、主として教員免許更新制度について学ぶ。	授業内容を配布プリントを基に復習し、戦後の教員養成の歴史や教員免許更新制度についての理解を深める。	4時間
第11回	**教員の任用と服務（担当：松田修）** 教員の職務内容や義務について学ぶ。	授業内容を配布プリントを基に復習し、教員の職務内容や義務のについての理解を深める。	4時間
第12回	**教員の資質能力の向上と研修（担当：松田修）** 教員の力量形成としての研修や制度等について学ぶ。	授業内容を配布プリントを基に復習し、教員の力量形成としての研修や制度等についての理解を深める。、	4時間
第13回	**教育活動に関する制度（担当：松田修）** 教科書制度の果たす役割や懲戒と体罰についての考え方について学ぶ。	授業内容を配布プリントを基に復習し、教科書制度における目的や意義、懲戒や体罰についての理解を深める。	4時間
第14回	**学校運営に関する制度（担当：松田修）** 学校事故における教員の責任やいじめ防止対策推進法について学ぶ。	授業内容を配布プリントを基に復習し、学校事故における教員の責任やいじめ防止対策推法についての背景や目的について理解を深める。	4時間
第15回	**後半（9～14回）のテストとふりかえり（担当：松田修）** 第9回～14回までの基礎知識の定着を確認し、学修状況を振り返り、今後の計画を構想する。	授業内容やテスト内容を復習し、知識の定着を目指す。	4時間